

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書12

—木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡—
(本文編)

平成23年3月

国 土 交 通 省

財団法人 千葉県教育振興財団

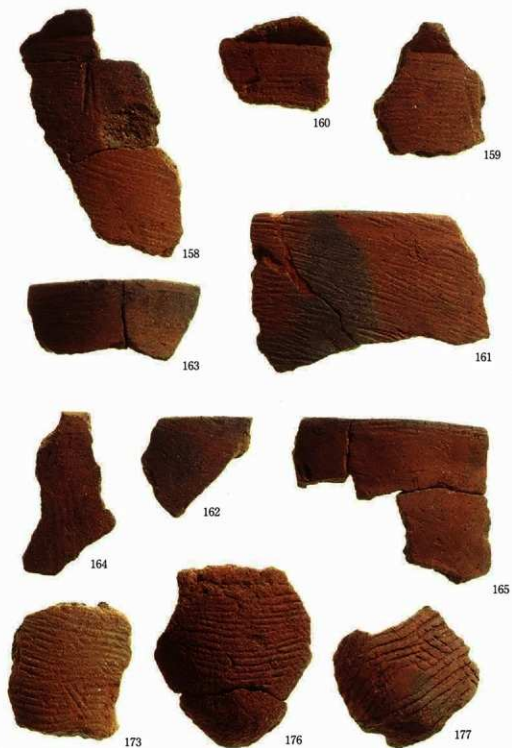
首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書12

きさらづ　ねぎし　ねぎしこづま　じゅうさんだい
—木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡—

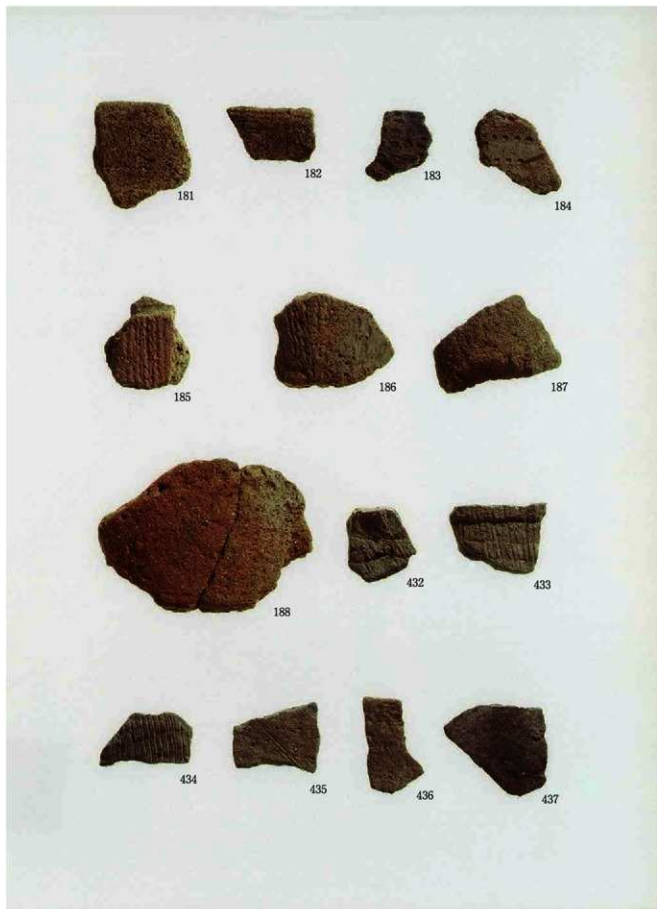
(本文編)







根岸古墳群・根岸小妻遺跡縄文時代出土土器 (1)



根岸古墳群・根岸小妻遺跡縄文時代出土土器 (2)





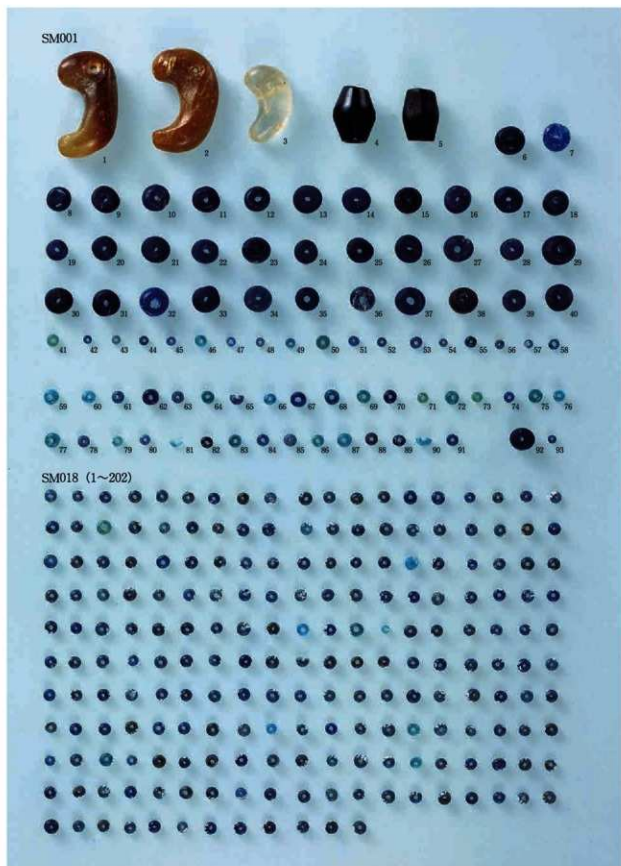
根岸古墳群・根岸小妻遺跡空撮



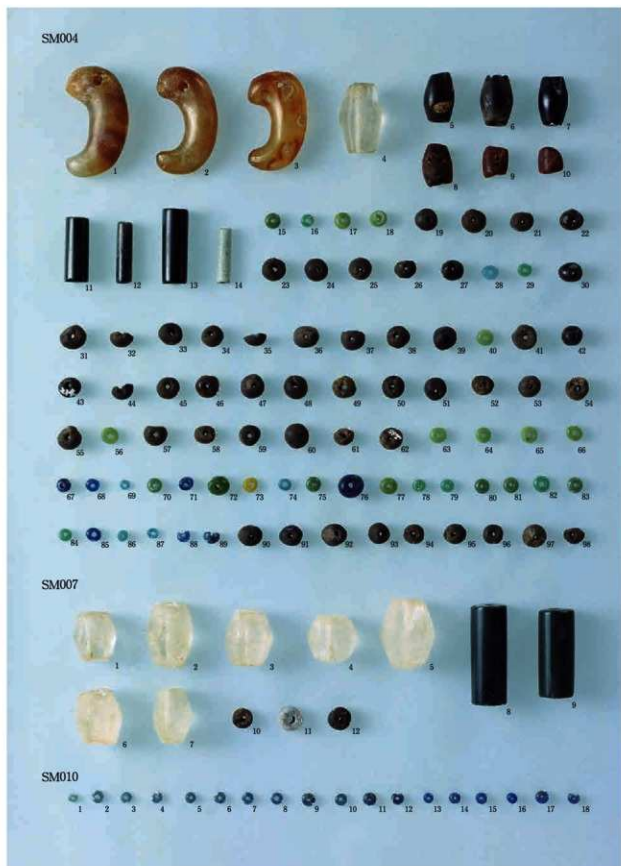
根岸古墳群・根岸小妻遺跡空撮



円墳SM015埋葬施設



根岸古墳群出土玉類 (1)



根岸古墳群出土玉類 (2)

序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第655集として、国土交通省の首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴って実施した木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、弥生時代から古墳時代にかけての墓域が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また文化財の保護、普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘調査から整理まで御苦労をおかけした補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成23年3月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長 赤羽良明

凡 例

- 1 本書は、国土交通省による首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

根岸古墳群	木更津市根岸字小妻台211-2ほか	(遺跡コード206-029-02)
根岸小妻遺跡	木更津市根岸字小妻台211-2ほか	(遺跡コード206-029-04)
重三台遺跡	木更津市根岸字上根方217-1ほか	(遺跡コード206-029-01)
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記した。
- 5 本書の執筆は、第1章、第2章第1節・3節1項・2項(5)・3項、第4節1項・2項(2)・(4)・(5)、第4章第1節2項を上席研究員 加納 実が、第2章第2節、第4章第1節1項を上席研究員 新田浩三が、第2章第3節2項(1)~(4)を南部調査事務所長 西川博孝及び上席研究員 半澤幹雄・加納 実が、第2章第4節2項(1)・(3)・第5節、第3章、第4章第1節3項・4項、第2節を上席研究員 小林信一が担当した。なお、第2章第3節2項(5)については西川博孝及び加納 実・半澤幹雄が分担した。全体の編集は小林が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の機関・個人の御指導、御協力を得た。
千葉県教育庁教育振興部文化財課、国土交通省、木更津市教育委員会
伊丹 徹、菊池健一、倉田義広、谷口 肇(50音順、敬称略)
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図	木更津市発行	1/2,500地形図 IX-LE34-4	図58	平成元年測量
	木更津市発行	1/2,500地形図 IX-LE44-2	図63	平成元年測量
第2図	国土地理院発行	1/25,000地形図(上総横田)		平成4年修正測量
	国土地理院発行	1/25,000地形図(久留里)		平成3年修正測量
第3図	木更津市発行	1/2,500地形図 IX-LE34-4	図58	平成元年測量
	木更津市発行	1/2,500地形図 IX-LE44-2	図63	平成元年測量
	袖ヶ浦市発行	1/2,500地形図 IX-ME34-4	No.46	平成11年修正
- 8 本書で使用した調査地周辺の航空写真は、下記のとおりである。

図版1	在日極東アメリカ軍撮影(昭和22年)
図版2	京葉測量株式会社撮影(昭和45年)
- 9 本書で使用した図面の方位は全て座標北である。測量値については日本測地系を使用した。
- 10 遺物の色調は、農林水産省・(財)日本色彩研究所監修「新版標準土色帖 2002年版」(日本色研事業株式会社発行)を参考にした。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘調査及び整理作業の組織と担当	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	3
1 遺跡の位置	3
2 歴史的環境	3
第3節 発掘調査と整理作業の方法	9
1 発掘調査の方法	9
(1) 発掘調査の経過	9
(2) 発掘調査の方法	9
2 整理作業の方法	11
第2章 根岸古墳群・根岸小妻遺跡	15
第1節 概要	15
第2節 旧石器時代	16
1 概要	16
2 基本層序	19
3 第1文化層	20
(1) 概要	20
(2) 第1ブロック	22
(3) 第2ブロック	30
(4) 第3ブロック	39
4 第2文化層	43
(1) 概要	43
(2) 第4ブロック	45
(3) 第5ブロック	48
(4) 第6ブロック	53
(5) 第7ブロック	64
(6) 第8ブロック	79
5 単独出土石器	87
6 石器属性計測基準	88
第3節 縄文時代	101
1 概要	101
2 遺構と出土遺物	102

(1) 竪穴住居跡	102
(2) 炉跡	104
(3) 集石土坑	109
(4) 陥穴	112
(5) 土坑	117
3 遺構外出土遺物	146
(1) 土器	146
(2) 土製品	174
(3) 石器	175
第4節 弥生時代中期～古墳時代中期	201
1 概要	201
2 遺構と出土遺物	201
(1) 方形周溝墓	201
(2) 竪穴住居跡	280
(3) 土坑	305
(4) 古墳内出土の弥生土器	310
(5) グリッド等出土土器	314
第5節 古墳時代後期～歴史時代	316
1 概要	316
2 遺構と出土遺物	316
(1) 古墳	316
(2) 土坑・溝跡	402
(3) グリッド等出土遺物	405
第3章 重三台遺跡	409
第1節 概要	409
第2節 遺構と出土遺物	409
1 掘立柱建物跡	409
2 井戸跡	409
3 溝跡	411
4 トレンチ出土遺物	411
第4章 まとめ	420
第1節 根岸古墳群・根岸小妻遺跡	420
1 旧石器時代	420
(1) 第1文化層	420
(2) 第2文化層	423
2 縄文時代	428
3 弥生時代～古墳時代中期	431

(1) 方形周溝墓	431
(2) 弥生時代後期～古墳時代中期の集落の変遷	435
4 古墳時代後期～歴史時代	435
(1) 古墳の変遷	435
(2) 横穴式木室について	440
第2節 重三台遺跡	440

挿 図 目 次

第1図 上根岸館跡・根岸小妻遺跡、 重三台遺跡調査範囲図	2	第18図 第1文化層第2ブロック東側遺物分布図	32
第2図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡と 周辺の主な遺跡	4	第19図 第1文化層第2ブロック出土石器(1)	33
第3図 根岸小妻遺跡、重三台遺跡地形図	6	第20図 第1文化層第2ブロック出土石器(2)	34
根岸古墳群・根岸小妻遺跡		第21図 第1文化層第2ブロック出土石器(3)	36
第4図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡、 重三台遺跡グリッド配置図	10	第22図 第1文化層第2ブロック出土石器(4)	37
第5図 上根岸館跡・根岸小妻遺跡上層確認 トレンチ配置図	13	第23図 第1文化層第2ブロック出土石器(5)	38
第6図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡全測図	14	第24図 第1文化層第3ブロック遺物分布図	40
第7図 旧石器時代調査範囲とブロック分布	17	第25図 第1文化層第3ブロック出土石器(1)	41
第8図 基本土層	19	第26図 第1文化層第3ブロック出土石器(2)	42
第9図 第1文化層の遺物分布図	21	第27図 第2文化層の遺物分布図	44
第10図 第1文化層第1ブロック遺物分布図	23	第28図 第2文化層第4ブロック遺物分布図	46
第11図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)	24	第29図 第2文化層第4ブロック出土石器	47
第12図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)	25	第30図 第2文化層第5ブロック遺物分布図	49
第13図 第1文化層第1ブロック出土石器(3)	26	第31図 第2文化層第5ブロック出土石器(1)	50
第14図 第1文化層第1ブロック出土石器(4)	27	第32図 第2文化層第5ブロック出土石器(2)	51
第15図 第1文化層第1ブロック出土石器(5)	28	第33図 第2文化層第5ブロック出土石器(3)	52
第16図 第1文化層第1ブロック出土石器(6)	29	第34図 第2文化層第6ブロック遺物分布図	54
第17図 第1文化層第2ブロック西側遺物分布図	31	第35図 第2文化層第6ブロック出土石器(1)	57

第36図	第2文化層第6ブロック出土石器(2)	84
第37図	第2文化層第6ブロック出土石器(3)	58
第38図	第2文化層第6ブロック出土石器(4)	59
第39図	第2文化層第6ブロック出土石器(5)	60
第40図	第2文化層第6ブロック出土石器(6)	61
第41図	第2文化層第6ブロック出土石器(7)	62
第42図	第2文化層第7ブロック遺物分布図	63
第43図	第2文化層第7ブロック出土石器(1)	65
第44図	第2文化層第7ブロック出土石器(2)	69
第45図	第2文化層第7ブロック出土石器(3)	70
第46図	第2文化層第7ブロック出土石器(4)	71
第47図	第2文化層第7ブロック出土石器(5)	72
第48図	第2文化層第7ブロック出土石器(6)	73
第49図	第2文化層第7ブロック出土石器(7)	74
第50図	第2文化層第7ブロック出土石器(8)	75
第51図	第2文化層第7ブロック出土石器(9)	76
第52図	第2文化層第7ブロック出土石器(10)	77
第53図	第2文化層第8ブロック器種別分布図	78
第54図	第2文化層第8ブロック母岩別分布図	81
第55図	第2文化層第8ブロック出土石器(1)	82
第56図	第2文化層第8ブロック出土石器(2)	84
第57図	第2文化層第8ブロック出土石器(3)	85
第58図	第2文化層第8ブロック出土石器(4)	86
第59図	旧石器時代単独出土石器	87
第60図	石器属性計測基準	88
第61図	縄文時代遺構全体図	100
第62図	SI001	103
第63図	SI001出土遺物	104
第64図	SI022	105
第65図	SI022出土石器	106
第66図	炉跡	107
第67図	炉跡出土石器	108
第68図	集石土坑(1)	110
第69図	集石土坑(2)、集石土坑出土石器	111
第70図	陥穴(1)	113
第71図	陥穴(2)	114
第72図	陥穴(3)、陥穴出土石器	116
第73図	陥穴出土石器	117
第74図	土坑(SK008)	118
第75図	土坑(SK008)出土石器	119
第76図	土坑(SK051・SK085)、土坑(SK051・SK085)出土石器	120
第77図	縄文土器出土土坑(1)	121
第78図	縄文土器出土土坑(2)	123
第79図	縄文土器出土土坑(3)	125
第80図	縄文土器出土土坑(4)	127
第81図	縄文土器出土土坑(5)	129
第82図	縄文土器出土土坑(6)	131
第83図	縄文時代礫等出土土坑(1)	133
第84図	縄文時代礫等出土土坑(2)	135
第85図	縄文時代礫等出土土坑(3)	136
第86図	土坑-その他-(1)	137
第87図	土坑-その他-(2)	139
第88図	土坑-その他-(3)	140
第89図	土坑-その他-(4)	141

第90図	土坑—その他—(5)	143	第128図	グリッド出土石器(13)	196
第91図	土坑—その他—(6)	145	第129図	グリッド出土石器(14)	197
第92図	グリッド出土石器(1)	149	第130図	グリッド出土石器(15)	198
第93図	グリッド出土石器(2)	151	第131図	グリッド出土石器(16)	199
第94図	グリッド出土石器(3)	153	第132図	方形周溝墓配置図	200
第95図	グリッド出土石器(4)	155	第133図	SS001	202
第96図	グリッド出土石器(5)	157	第134図	SS002	203
第97図	グリッド出土石器(6)	159	第135図	SS003	204
第98図	グリッド出土石器(7)	160	第136図	SS004	205
第99図	グリッド出土石器(8)	161	第137図	SS005	206
第100図	グリッド出土石器(9)	163	第138図	SS006	207
第101図	グリッド出土石器(10)	165	第139図	SS007	208
第102図	グリッド出土石器(11)	167	第140図	SS007埋葬施設(SK006)	209
第103図	グリッド出土石器(12)	169	第141図	SS008	210
第104図	グリッド出土石器(13)	170	第142図	SS008埋葬施設(SK005)	211
第105図	グリッド出土石器(14)	171	第143図	SS009	212
第106図	グリッド出土石器(15)	173	第144図	SS010	213
第107図	グリッド出土石器(16)	174	第145図	SS011	214
第108図	グリッド出土石器製品	175	第146図	SS012・SS012埋葬施設(SK023)	215
第109図	縄文土器型式別分布状況(1)	176	第147図	SS013	216
第110図	縄文土器型式別分布状況(2)	177	第148図	SS014	217
第111図	縄文時代石器器種別分布状況(1)	178	第149図	SS015・SS015埋葬施設	218
第112図	縄文時代石器器種別分布状況(2)	179	第150図	SS016	220
第113図	縄文時代石器石材別分布状況(1)	180	第151図	SS017・SS017埋葬施設(SK043)	221
第114図	縄文時代石器石材別分布状況(2)	181	第152図	SS018	222
第115図	縄文時代出土石器のユニット区分図	182	第153図	SS019	224
第116図	グリッド出土石器(1)	183	第154図	SS020	225
第117図	グリッド出土石器(2)	184	第155図	SS021	226
第118図	グリッド出土石器(3)	185	第156図	SS022	227
第119図	グリッド出土石器(4)	186	第157図	SS022埋葬施設(SK047)	228
第120図	グリッド出土石器(5)	187	第158図	SS023	229
第121図	グリッド出土石器(6)	189	第159図	SS024	230
第122図	グリッド出土石器(7)	190	第160図	SS024埋葬施設(SK048)	231
第123図	グリッド出土石器(8)	191	第161図	SS025	232
第124図	グリッド出土石器(9)	192	第162図	SS026	233
第125図	グリッド出土石器(10)	193	第163図	SS027・SS027埋葬施設(SK052)	234
第126図	グリッド出土石器(11)	194	第164図	SS028	236
第127図	グリッド出土石器(12)	195	第165図	SS029	237
			第166図	SS030	238

第167図	SS030埋葬施設	240	SI004出土土器 (1)	286	
第168図	SS031	241	第205図	SI004出土土器 (2)	287
第169図	SS032・SS033	242	第206図	SI004出土土器 (3)	288
第170図	SS034	243	第207図	SI005、SI005出土土器	289
第171図	SS035	244	第208図	SI007、SI007出土土器	290
第172図	SS036	246	第209図	SI008、SI008出土土器	291
第173図	SS037	247	第210図	SI009、SI009出土土器 (1)	292
第174図	SS038	248	第211図	SI009出土土器 (2)	293
第175図	SS038埋葬施設	249	第212図	SI010、SI010出土土器	294
第176図	SS039	250	第213図	SI011、SI011出土土器	295
第177図	SS040	251	第214図	SI012・SI013、SI013出土土器	296
第178図	SS041	253	第215図	SI014、SI014出土土器	297
第179図	SS042	254	第216図	SI015、SI015出土土器	298
第180図	SS043	255	第217図	SI016、SI016出土土器	299
第181図	SS043埋葬施設	256	第218図	SI017、SI017出土土器	300
第182図	SS044	257	第219図	SI018、SI018出土土器 (1)	301
第183図	SS045	258	第220図	SI018出土土器 (2)	302
第184図	SS046	259	第221図	SI019、SI019出土土器	303
第185図	SS047	260	第222図	SI020、SI020出土土器	304
第186図	SS048 (1)	262	第223図	SI021	305
第187図	SS048 (2)・SS048埋葬施設	263	第224図	SI023、SI023出土土器	306
第188図	SS049	264	第225図	SK007・SK012・SK014・ SK015出土土器	307
第189図	SS050	265	第226図	SK019・SK025・SK026・SK038	309
第190図	SS051	266	第227図	SK039・SK089	310
第191図	SS051埋葬施設	268	第228図	古墳内出土の弥生土器 (1)	311
第192図	SS052	270	第229図	古墳内出土の弥生土器 (2)	313
第193図	SS053 (1)	271	第230図	グリッド出土土器	314
第194図	SS053 (2)・SS053埋葬施設	272	第231図	古墳時代後期以降の遺構配置図	315
第195図	SS054	273	第232図	古墳墳丘現況測量図	315
第196図	方形周溝墓出土土器 (1)	274	第233図	SM001現況測量図・方形周溝墓重複図	317
第197図	方形周溝墓出土土器 (2)	276	第234図	SM001等高線図・東西断面図	318
第198図	方形周溝墓出土土器 (3)	278	第235図	SM001墳丘断面・墳丘構築工程概念図	319
第199図	方形周溝墓出土土器 (4)	279	第236図	SM001第1・第2埋葬施設・出土土器	321
第200図	弥生時代後期～古墳時代中期住居跡・ 土坑配置図	281	第237図	SM001第3・第4埋葬施設・出土土器	323
第201図	SI002、SI002出土土器	282			
第202図	SI003、SI003出土土器	283			
第203図	SI004・SI006 (1)	285			
第204図	SI004・SI006 (2)、				

第238図	SM001第5埋葬施設	324	第270図	SM007第2埋葬施設遺物出土状況図	
第239図	SM001出土金属製品	325			359
第240図	SM001出土玉類(1)	326	第271図	SM007出土金属製品(1)	360
第241図	SM001出土玉類(2)	327	第272図	SM007出土金属製品(2)	361
第242図	SM003現況測量図	328	第273図	SM007出土玉類	361
第243図	SM003等高線・墳丘構築工程概念図		第274図	SM009現況測量図	362
		329	第275図	SM009全体図	363
第244図	SM003全体・墳丘断面図・出土土器		第276図	SM009墳丘断面図・埋葬施設・出土土器	
		330			364
第245図	SM003第1・第2埋葬施設	331	第277図	SM010現況測量図	365
第246図	SM003第3埋葬施設	332	第278図	SM010全体図	366
第247図	SM003出土金属製品	333	第279図	SM010墳丘断面図	367
第248図	SM004現況測量図	335	第280図	SM010テラス状遺構	370
第249図	SM004全体・遺物出土状況・ 方形周溝墓重複図	336	第281図	SM010第1・第2埋葬施設	371
第250図	SM004墳丘断面図	337	第282図	SM010第2埋葬施設遺物出土状況図	
第251図	SM004第1・第2埋葬施設	338			372
第252図	SM004第1・第2埋葬施設 遺物出土状況図	339	第283図	SM010出土金属製品(1)	373
第253図	SM004第1・第2埋葬施設掘り方	340	第284図	SM010出土金属製品(2)	374
第254図	SM004出土土器	341	第285図	SM010出土金属製品(3)	375
第255図	SM004出土金属製品	342	第286図	SM010出土玉類	375
第256図	SM004出土玉類(1)	343	第287図	SM011現況測量図	376
第257図	SM004出土玉類(2)	344	第288図	SM011全体図・埋葬施設・出土土器	
第258図	SM005全体図	345			377
第259図	SM006現況測量図	346	第289図	SM011墳丘断面図	378
第260図	SM006等高線図	347	第290図	SM012全体図・出土土器	379
第261図	SM006全体・墳丘断面図	348	第291図	SM013全体図	381
第262図	SM006第1・第2埋葬施設	349	第292図	SM013出土土器	382
第263図	SM006第3埋葬施設	350	第293図	SM014全体図・出土土器	383
第264図	SM006出土遺物	350	第294図	SM015全体図	384
第265図	SM007現況測量図	352	第295図	SM015埋葬施設上面	385
第266図	SM007等高線・墳丘計画線想定図・ 出土土器	353	第296図	SM015埋葬施設下面	386
第267図	SM007墳丘断面・墳丘構築工程概念図		第297図	SM015埋葬施設掘り方	387
		355	第298図	SM015出土遺物	388
第268図	SM007第1埋葬施設	357	第299図	SM016全体図	390
第269図	SM007第2・第3埋葬施設・出土土器		第300図	SM017全体図・出土土器	391
		358	第301図	SM018全体図	393
			第302図	SM018埋葬施設	394
			第303図	SM018埋葬施設遺物出土状況図	395
			第304図	SM018埋葬施設掘り方	396

第305図	SM018出土金属製品	397
第306図	SM018出土玉類	398
第307図	SM019・SM020全体図	399
第308図	SM021全体図・埋葬施設	400
第309図	SM022全体図	401
第310図	SM023全体図	402
第311図	SK053・SK068・SD006	403
第312図	SK055・SK058	404
第313図	グリッド等出土土器・砥石	405
第314図	グリッド等出土金属製品・銭貨	406

重三台遺跡

第315図	重三台遺跡周辺地形及び トレンチ配置図	407
第316図	遺構配置図及びSD001実測図	408
第317図	SB001・SB002	410
第318図	SE001・SE002	412
第319図	トレンチ出土遺物(1)	414
第320図	トレンチ出土遺物(2)	415

第321図	トレンチ出土遺物(3)	417
第322図	トレンチ出土遺物(4)	418

根岸古墳群・根岸小麦遺跡

第323図	第1文化層主要器種組成図(1)	421
第324図	第1文化層主要器種組成図(2)	422
第325図	第2文化層主要器種組成図(1)	424
第326図	第2文化層主要器種組成図(2)	425
第327図	第2文化層主要器種組成図(3)	426
第328図	第2文化層主要器種組成図(4)	428
第329図	上総地方における縄文時代早期の 土坑の規模	430
第330図	方形周溝墓・遺物分布図	432
第331図	弥生時代後期後葉～古墳時代中期の 竪穴住居跡変遷図	434
第332図	古墳出土土器変遷図	436
第333図	古墳出土金属製品・玉類変遷図	437
第334図	古墳変遷図	439

表 目 次

根岸古墳群・根岸小麦遺跡

第1表	文化層・ブロック別器種組成表	18
第2表	文化層・ブロック別石材組成表	18
第3表	第1文化層器種石材組成表	20
第4表	第1文化層 第1ブロック石器組成表	22
第5表	第1文化層 第2ブロック石器組成表	35
第6表	第1文化層 第3ブロック石器組成表	39
第7表	第2文化層器種石材組成表	43
第8表	第2文化層 第4ブロック石器組成表	47
第9表	第2文化層 第5ブロック石器組成表	48

第10表	第2文化層 第6ブロック石器組成表	56
第11表	第2文化層 第7ブロック石器組成表	66
第12表	第2文化層 第8ブロック石器組成表	80
第13表	旧石器属性表(1)	89
第14表	旧石器属性表(2)	90
第15表	旧石器属性表(3)	91
第16表	旧石器属性表(4)	92
第17表	旧石器属性表(5)	93
第18表	旧石器属性表(6)	94
第19表	旧石器属性表(7)	95
第20表	旧石器属性表(8)	96
第21表	旧石器属性表(9)	97
第22表	旧石器属性表(10)	98

第23表	旧石器属性表(11)	99
第24表	縄文時代石器 時期別組成表	443
第25表	縄文時代石器 器種組成表	444
第26表	縄文時代石器 石材組成表	445
第27表	縄文時代石器 器種石材組成表	446
第28表	竪穴住居跡(弥生時代後期~古墳時代) 柱穴深度一覧表	447
第29表	遺構一覧表	448
第30表	方形岡溝墓周溝計測表	451
第31表	方形岡溝墓埋葬施設計測表	454
第32表	古墳計測表	455
第33表	土器観察表	456
第34表	鉄鏃計測表	466
第35表	耳環計測表	467
第36表	鉄剣計測表	467
第37表	鉄釘計測表	467
第38表	大刀・小刀計測表	468

第39表	刀子計測表	468
第40表	帯金具計測表	468
第41表	その他の鉄製品計測表	468
第42表	鉄滓観察表	469
第43表	煙管計測表	469
第44表	銭貨計測表	469
第45表	玉類計測表	470

重三台遺跡

第46表	重三台遺跡遺構一覧表	480
第47表	重三台遺跡掘立柱建物跡計測表	480
第48表	重三台遺跡土器観察表	480
第49表	重三台遺跡瓦観察表	482
第50表	重三台遺跡鉄製品計測表	483
第51表	重三台遺跡鉄滓観察表	483
第52表	重三台遺跡五輪塔計測表	483
第53表	重三台遺跡砥石計測表	483

図 版 目 次

本文編

巻頭図版1	根岸小妻遺跡旧石器時代出土石器
巻頭図版2	根岸古墳群・根岸小妻遺跡縄文時代 出土土器(1)
巻頭図版3	根岸古墳群・根岸小妻遺跡縄文時代 出土土器(2)
巻頭図版4	根岸古墳群・根岸小妻遺跡縄文時代 出土石器
巻頭図版5	根岸古墳群・根岸小妻遺跡空撮
巻頭図版6	根岸古墳群・根岸小妻遺跡空撮 円墳SM015埋葬施設
巻頭図版7	根岸古墳群古墳出土玉類(1)
巻頭図版8	根岸古墳群古墳出土玉類(2)

写真図版編

図版1	遺跡周辺空中写真(1947年 約1/30,000)
図版2	遺跡周辺空中写真(1970年 約1/10,000)
根岸古墳群・根岸小妻遺跡	
図版3	調査前風景・調査区全景

図版4	旧石器時代遺物出土状況(1)
図版5	旧石器時代遺物出土状況(2)
図版6	旧石器時代遺物出土状況(3)
図版7	第1文化層 第1ブロック出土石器
図版8	第1文化層 第2・第3ブロック出土石器
図版9	第2文化層 第4・第5ブロック出土石器
図版10	第2文化層 第6ブロック出土石器(1)
図版11	第2文化層 第6ブロック出土石器(2)
図版12	第2文化層 第7ブロック出土石器(1)
図版13	第2文化層 第7ブロック出土石器(2)
図版14	第2文化層 第7ブロック出土石器(3)
図版15	第2文化層 第8ブロック出土石器
図版16	SI001・SI022
図版17	炉跡(1)
図版18	炉跡(2)・集石土坑(1)
図版19	集石土坑(2)
図版20	集石土坑(3)
図版21	集石土坑(4)・陥穴(1)
図版22	陥穴(2)

- 図版23 陥穴 (3)
- 図版24 陥穴 (4)・土坑 (1)
- 図版25 土坑 (2)・縄文土器出土土坑 (1)
- 図版26 縄文土器出土土坑 (2)
- 図版27 縄文土器出土土坑 (3)
- 図版28 縄文土器出土土坑 (4)
- 図版29 縄文土器出土土坑 (5)
- 図版30 縄文土器出土土坑 (6)
- 図版31 縄文土器出土土坑 (7)
- 図版32 縄文土器出土土坑 (8)
・縄文時代礫等出土土坑 (1)
- 図版33 縄文時代礫等出土土坑 (2)
- 図版34 縄文時代礫等出土土坑 (3)
・土坑-その他- (1)
- 図版35 土坑-その他- (2)
- 図版36 土坑-その他- (3)
- 図版37 土坑-その他- (4)
- 図版38 土坑-その他- (5)
- 図版39 土坑-その他- (6)
- 図版40 土坑-その他- (7)・風景写真
- 図版41 縄文時代遺構出土土器
- 図版42 グリッド出土土器 (1)
- 図版43 グリッド出土土器 (2)
- 図版44 グリッド出土土器 (3)
- 図版45 グリッド出土土器 (4)
- 図版46 グリッド出土土器 (5)
- 図版47 グリッド出土土器 (6)
- 図版48 グリッド出土土器 (7)
- 図版49 グリッド出土土器 (8)
- 図版50 グリッド出土土器 (9)
・グリッド出土土器製品
- 図版51 グリッド出土縄文土器接写
・縄文時代遺構出土土器
- 図版52 グリッド出土土器 (1)
- 図版53 グリッド出土土器 (2)
- 図版54 グリッド出土土器 (3)
- 図版55 グリッド出土土器 (4)
- 図版56 グリッド出土土器 (5)
- 図版57 グリッド出土土器 (6)
- 図版58 グリッド出土土器 (7)
- 図版59 グリッド出土土器 (8)
- 図版60 SS001・SS002
- 図版61 SS002・SS003・SS004
- 図版62 SS004・SS005・SS006
- 図版63 SS006・SS007・SS008・SS009・SS010
- 図版64 SS011・SS012・SS013
- 図版65 SS014・SS015
- 図版66 SS016・SS017・SS018
- 図版67 SS017・SS018・SS019
- 図版68 SS019・SS020・SS021
- 図版69 SS021・SS022
- 図版70 SS022・SS023・SS024
- 図版71 SS018・SS025・SS026
- 図版72 SS022・SS027・SS028・SS029
- 図版73 SS028・SS029
- 図版74 SS030
- 図版75 SS031・SS032
- 図版76 SS033・SS034
- 図版77 SS035・SS036
- 図版78 SS036・SS037・SS038
- 図版79 SS037・SS038
- 図版80 SS038
- 図版81 SS039・SS040・SS041・SS045・SS046
- 図版82 SS040・SS041
- 図版83 SS042・SS043・SS044・SS049
- 図版84 SS043・SS044
- 図版85 SS045・SS046
- 図版86 SS047・SS048
- 図版87 SS048
- 図版88 SS048・SS049
- 図版89 SS050・SS051
- 図版90 SS051
- 図版91 SS052
- 図版92 SS052・SS053
- 図版93 SS053
- 図版94 SS053・SS054
- 図版95 SI002・SI003
- 図版96 SI003・SI004・SI006

- 図版97 SI005・SI007・SI008
- 図版98 SI009・SI010
- 図版99 SI011・SI012・SI013
- 図版100 SI014・SI016
- 図版101 SI017・SI018
- 図版102 SI019・SI020
- 図版103 SI021・SI023
- 図版104 SK007・SK012・SK013・SK015
・SK019・SK025・SK026・SK038
・SK039・SK053、SD006
- 図版105 SM001
- 図版106 SM001
- 図版107 SM001
- 図版108 SM001
- 図版109 SM001
- 図版110 SM003
- 図版111 SM003
- 図版112 SM003
- 図版113 SM003
- 図版114 SM004
- 図版115 SM004
- 図版116 SM004
- 図版117 SM004
- 図版118 SM005
- 図版119 SM006
- 図版120 SM006
- 図版121 SM006
- 図版122 SM007
- 図版123 SM007
- 図版124 SM007
- 図版125 SM007
- 図版126 SM009
- 図版127 SM010
- 図版128 SM010
- 図版129 SM010
- 図版130 SM010
- 図版131 SM011
- 図版132 SM011
- 図版133 SM012
- 図版134 SM013・SM014
- 図版135 SM015
- 図版136 SM015
- 図版137 SM016・SM017・SM018
- 図版138 SM017・SM018
- 図版139 SM018
- 図版140 SM018
- 図版141 SM019・SM020・SM021・SM022
・SM023
- 図版142 方形周溝墓出土土器（1）
- 図版143 方形周溝墓出土土器（2）
- 図版144 方形周溝墓出土土器（3）・弥生時代～
古墳時代整穴住居跡出土土器（1）
- 図版145 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（2）
- 図版146 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（3）
- 図版147 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（4）
- 図版148 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（5）
- 図版149 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（6）
- 図版150 弥生時代～古墳時代整穴住居跡
出土土器（7）
弥生時代～古墳時代土坑出土土器
・古墳出土土器（1）
- 図版151 古墳出土土器（2）
- 図版152 古墳出土土器（3）
・古墳出土の弥生土器（1）
- 図版153 古墳出土の弥生土器（2）
- 図版154 古墳出土の弥生土器（3）
・グリッド等出土土器・砥石
- 図版155 古墳出土金属製品（1）
- 図版156 古墳出土金属製品（2）
- 図版157 古墳出土金属製品（3）
- 図版158 古墳出土金属製品（4）

図版159 古墳出土金属製品（5）

図版160 古墳出土及びグリッド等出土金属製品

重三台遺跡

図版161 重三台遺跡調査前風景・SE001・SE002

図版162 調査区全景・グリッド遺物出土状況

図版163 グリッド遺物出土状況

図版164 出土遺物（1）

図版165 出土遺物（2）

図版166 出土遺物（3）

図版167 出土遺物（4）

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査に至る経緯

国土交通省と東日本高速道路株式会社は首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の建設にあたり、予定地内に所在する多数の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて千葉県教育委員会と協議を行った。その結果、現状保存が困難な部分については記録保存の措置を講じるようになった。

木更津JCTから約2.3kmの袖ヶ浦市境までの区間は東日本高速道路株式会社が事業主体になり、財団法人君津都市文化財センターが発掘調査を実施した。それより東側の区間については国土交通省が事業主体になり、財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することになった。

今回報告する根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡は、平成14年度から15年度に発掘調査を実施し、平成17年度から整理作業を開始し、平成22年度に報告書を刊行した。

発掘調査開始当初の平成14年度における確認調査対象面積は38,900㎡である。この範囲内には周知の遺跡として根岸古墳群・上根岸館跡、重三台遺跡が存在していた。根岸古墳群は遺跡分布地図等では円墳16基を数える古墳群で、これらの古墳のみを指す遺跡名称である。重三台遺跡は縄文、古墳、奈良・平安時代の包蔵地である。これらに加え、中・近世の館跡として、根岸古墳群・重三台遺跡の範囲を含む広域が上根岸館跡として捉えられてきた。さらに、根岸古墳群の墳丘下を主とする台地平坦面に展開する縄文、弥生、奈良・平安時代の包蔵地についても名称を付す必要があったことから、当該範囲の地名である大字根岸字小妻から、根岸小妻遺跡との名称を付した。

これにより、確認調査対象範囲38,900㎡については、

上根岸館跡	38,900㎡
根岸古墳群	上根岸館跡範囲内の古墳
根岸小妻遺跡	上根岸館跡範囲内の17,400㎡
重三台遺跡	上根岸館跡範囲内の2,500㎡

となった（第1図）。

しかし、平成14年度の確認調査において館跡を構成すると考えられる明確な遺構が検出されなかったことから、以後、上根岸館跡との名称を用いた発掘調査は実施していない。なお、これらの発掘調査の経過については、第3節発掘調査と整理作業の方法 1 発掘調査の方法に記載する。

2 発掘調査及び整理作業の組織と担当

発掘調査及び整理作業に関わる各年度の作業内容及び担当職員は以下のとおりである。

発掘調査

平成14年度

根岸古墳群・根岸小妻遺跡・上根岸館跡

期 間 平成14年11月8日～平成15年3月28日



- 組 織 調査部長 齋木 勝 南部調査事務所長 鈴木定明
 主席研究員 土屋治雄・宮 重行・高橋博文 上席研究員 安川正行
- 内 容 確認調査 上層455㎡ 本調査 上層1,200㎡ 古墳2基
- 重三台遺跡
- 期 間 平成14年10月1日～平成14年11月29日
- 組 織 調査部長 齋木 勝 南部調査事務所長 鈴木定明
 主席研究員 雨宮龍太郎 上席研究員 鶴岡 健
- 内 容 確認調査 上層264㎡ 本調査 上層2,500㎡
- 平成15年度
- 根岸古墳群・根岸小妻遺跡
- 期 間 平成15年4月3日～平成16年3月19日
- 組 織 調査部長 齋木 勝 南部調査事務所長 鈴木定明
 副所長兼主席研究員 土屋治雄 上席研究員 稲生一夫・谷鹿栄一・安川正行・神野 信
- 内 容 確認調査 下層696㎡ 本調査 下層634㎡ 上層16,200㎡ 古墳16基
- 整理作業
- 平成17年度
- 組 織 調査部長 矢戸三男 南部調査事務所長 高田 博
 副所長 相京邦彦 主席研究員 宮 重行 上席研究員 麻生正信・今泉 潔・小高春雄・
 石川 誠・沖松信隆
- 内 容 水洗・注記～実測・拓本の一部
- 平成18年度
- 組 織 調査研究部長 矢戸三男 南部調査事務所長 高田 博
 主席研究員 加藤正信 上席研究員 麻生正信・今泉 潔・小高春雄・柴田龍司・鈴木弘幸
 ・新田浩三・半澤幹雄・高梨友子

内 容 実測・拓本の一部、トレースの一部から挿図・図版作成の一部
平成19年度

組 織 調査研究部長 矢戸三男 南部調査事務所長 西川博孝
副所長 白井久美子 上席研究員 麻生正信・新田浩三

内 容 写真撮影の一部、挿図・図版作成の一部、原稿執筆の一部
平成21年度

組 織 調査研究部長 及川淳一 中央調査事務所長 折原 繁
副所長 白井久美子

内 容 トレースから挿図・図版作成の一部、原稿執筆の一部
平成22年度

組 織 調査研究部長 及川淳一 中央調査事務所長 白井久美子
上席研究員 小林信一・加納 実

内 容 写真撮影の一部、挿図・図版作成の一部から報告書印刷・刊行

第2節 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置

根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡の所在する木更津市は、東京湾を望む房総半島西岸の、南北のなかほどに位置する。

遺跡の立地する台地は、房総丘陵南部の清澄山系に源を発し幾多の蛇行を重ねながら西流もしくは北流する小櫃川によって開析された沖積平野を望む。

この沖積平野は君津市久留里地域まで至るが、遺跡は小櫃川河口からの直線距離約6.8kmの中流域南西岸の標高65m～70mの台地先端部に位置する。また、台地縁辺部は中小の河川によって開析された小支谷が樹枝状に入り組む（第2図）。

調査区は、台地北側と東側は小櫃川に開析された沖積低地に面し、南側と西側は小支谷に開析された台地上に位置し、調査区の規模は台地上の平坦面を横断するように、南北幅が最大で約100m、東西長約450mである。標高は60m前後の緩斜面から、63m～66mほどの平坦面を主体にし、調査区の最高標高は古墳封土頂部付近で約70mである。なお、重三台遺跡として調査をしている標高約40m付近の緩斜面には立川ローム層は堆積していない（第3図）。

2 歴史的環境

小櫃川に開析された沖積平野縁辺の微高地や、沖積平野および樹枝状の小支谷を望む台地上には多くの遺跡が所在する。これら周辺の遺跡の内容については、これまでに当財団が刊行した首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書¹⁻⁸⁾、及び財団法人君津都市文化財センターによる同事業の調査報告書⁹⁻¹⁰⁾に詳細が記されている。したがってここでは、根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡での土地利用の主体的な時期である弥生時代・古墳時代の既調査遺跡の成果を中心に示しておきたい¹¹⁾（第2図）。

弥生時代中期の居住域としては、本遺跡と小支谷を隔てた対岸に位置する大竹遺跡群の各遺跡（①筑田遺跡¹²⁾・②二又堀遺跡¹³⁾・③内出原遺跡¹⁴⁾・④尾畑台遺跡¹⁵⁾）から堅穴住居跡が散発的に検出されている。



第2図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡と周辺の主な遺跡

木更津市

君津市

西原

西原

重三台

遺跡

概ね宮ノ台式期以前の設営と考えられる。一方、⑤滝ノ口向台遺跡¹⁶⁾では宮ノ台式期の竪穴住居跡が7軒確認され、中・後期の2条の環濠も確認されている。

弥生時代中期の墓域としても、大竹遺跡群の各遺跡(①筑田遺跡¹²⁾・②二又堀遺跡¹³⁾・③内出原遺跡¹⁴⁾・④尾畑台遺跡¹⁴⁾・⑥向神納里遺跡¹⁵⁾)がある。特に向神納里遺跡では100基以上の方形周溝墓が確認され、うち47基の本調査を実施し、単独の壺棺1点も確認されている。なお、向神納里遺跡では墓域と同時期の居住施設は確認されていない。このほか、⑦山王台遺跡¹⁷⁾では中期の方形周溝墓14基が、⑧西ノ根谷遺跡¹⁸⁾では9基の方形周溝墓が確認されている。

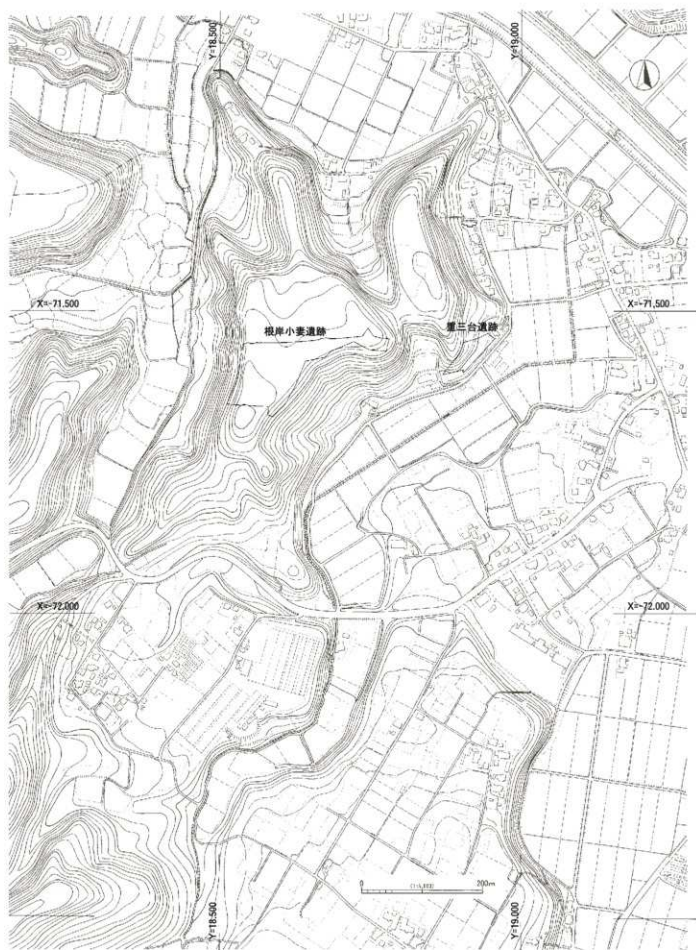
弥生時代後期の居住域としては、大竹遺跡群の各遺跡(②二又堀遺跡¹³⁾・④尾畑台遺跡¹⁴⁾・⑨三ツ田台遺跡¹²⁾)で竪穴住居跡が散発的に認められるほか、鉄斧・環状石斧が出土した⑤滝ノ口向台遺跡¹⁶⁾では27軒の竪穴住居跡が確認されている。また、小櫃川を挟んだ対岸の⑩内屋敷遺跡⁴⁾では、竪穴住居跡14軒が確認されている。このほか、弥生時代終末から古墳時代前期の耕作痕が⑪沢間1遺跡²⁾で確認されているが、同遺跡では1972(昭和47)年の河川改修工事の際に古墳時代前・後期、及び奈良時代の土師器片が大量に出土しており、当該期の居住域であった可能性がある。小櫃川を挟んだ対岸の沖積平野から台地裾部に位置する⑫丹邊遺跡⁹⁻¹⁹⁾では、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落が確認されており、環濠4条(弥生時代中期)、竪穴住居跡36軒、掘立柱建物跡7棟、大溝(古墳時代前期)等を確認している。

弥生時代後期の墓域としてはまとまった例が少なく、⑩内屋敷遺跡⁴⁾では方形周溝墓1基が確認されている。

古墳時代前期の居住域としては、大竹遺跡群の②二又堀遺跡¹³⁾において90軒の竪穴住居跡が確認され、そのうちの1軒から重圓文鏡が出土している。また、大竹遺跡群の①筑田遺跡¹²⁾において密度の濃い竪穴住居跡群が予想されるほか、⑬嘉登遺跡²⁰⁾では竪穴住居跡50軒を確認した。また、⑭林遺跡²¹⁾では前期を中心とする時期の住居跡が22軒検出されており、小櫃川を挟んだ対岸の⑯内屋敷遺跡⁴⁾では前期を中心とする竪穴住居跡56軒が確認されている。このほか大竹遺跡群の⑮狐谷遺跡¹⁵⁾では弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡9軒が、⑯猪尻遺跡³⁾では前期の竪穴住居跡2軒が確認されている。

古墳時代前期の墓域としては、⑤滝ノ口向台遺跡大作古墳群¹⁶⁾がある。大型の前方後方(円)墳や東海起源の中型の方墳等の出現期の古墳が確認されている。滝ノ口向台遺跡大作古墳群の北西約2kmに位置する椿古墳群²²⁾でも前期の方墳が確認され、墳丘裾部から東海地方東部からの搬入品と考えられる大席式土器が出土している。大竹古墳群は、大竹遺跡群にある古墳群の総称で、①筑田¹²⁾・②二又堀¹³⁾・③内出原¹⁴⁾・④尾畑台¹⁴⁾・⑥向神納里¹⁵⁾・⑨三ツ田台¹²⁾・⑭狐谷¹⁵⁾・⑯下根岸¹⁴⁾の支群からなる。前期では、②二又堀¹³⁾(方墳8基)・④尾畑台¹⁴⁾(方墳1基)・⑥向神納里¹⁵⁾(方墳2基)・⑨三ツ田台¹²⁾(方墳1基・円墳1基)支群があり、周溝に陸橋部を有するものが多い。このほか、⑭林遺跡²¹⁾では前期の方形周溝墓12基が検出されている。

古墳時代中期以降になると集落域は減少し、多くの古墳群が出現する。前述の椿古墳群²²⁾では後期の前方後円墳1基と円墳9基が調査されている。大竹古墳群では、④尾畑台第5号墳¹⁴⁾(円墳)、⑥向神納里第3号墳¹⁵⁾(円墳)で埴輪が確認されており、向神納里第3号墳の周溝内から円筒埴輪転用棺が出土している。このほか、⑨大竹古墳群三ツ田台地区の13号墳¹²⁾(円墳)周溝内の土坑から小形仿製鏡である珠文鏡が出土している。⑰鬼塚古墳²³⁾では4基の円墳のうち3基の調査が実施されている。



第3図 根岸小麥遺跡、三重台遺跡地形図

⑦山王台遺跡¹⁷⁾では古墳時代後期から奈良時代前半の堅穴住居跡が5軒確認されている。⑨根岸根遺跡²¹⁾では古墳時代後期を中心とする時期の堅穴住居跡7軒を確認している。⑩上宮田台遺跡²⁷⁾からは、おおむね古墳時代後期と考えられる時期の堅穴住居跡が17軒確認されている。⑬猪尻遺跡²⁹⁾では後期の堅穴住居跡5軒が確認されている。

このほか、本遺跡から直線距離にして約5kmの小櫃川下流北岸の自然堤防上の芝野遺跡²⁵⁾では、弥生時代後期の大溝で区画された居住域と水田域、古墳時代後期では居住域と祭祀・葬送域が確認されている。なお、芝野遺跡から約2km下流には古墳時代後期の大溝、弥生時代中期から古墳時代後期の住居跡、弥生時代後期から古墳時代前期の水田跡等を検出した菅生遺跡²⁰⁾がある。

重三台遺跡に関連して中世に目を転じると、根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡の立地する台地上は里見氏の支城であったとの伝承が残されており、上根岸館跡との遺跡名称も用いられているが、今回の発掘調査ではこれを明確に裏付けするような遺構・遺物等は確認できなかった。

⑩上宮田台遺跡²⁷⁾では、東区において12世紀代に居館を構成すると考えられる建物跡がつくられていた可能性が指摘され、15世紀の堀と土塁が確認されている。西区でも戦国期から近世の屋敷跡が確認されている。

ひろく小櫃川流域を鳥瞰すれば、真里谷武田氏の居城として有名な真里谷城跡²⁷⁾や、同じく真里谷武田氏関連の城館跡と考えられる笹子城跡²⁸⁾がある。砦跡としては⑭大竹砦や⑮打越砦があり、うち大竹砦は真里谷武田氏の支城であるとの伝承が残されている。また、鎌倉街道に面した宿と想定されている15世紀代の荒久遺跡²⁹⁾、同じく鎌倉街道に面した15世紀代の街村などと考えられる山谷遺跡³⁰⁾もある。根岸古墳群・根岸小妻遺跡とは小櫃川を挟んだ対岸の台地裾部に位置する⑯丹過遺跡⁵⁻¹⁹⁾では通常の民家の構造とは異なる大型の建物跡(16世紀代)が確認されている。このほか芝野遺跡²⁵⁾では、13世紀から14世紀前半の、中小名主層や作人層などを居住者と想定し得る屋敷地が確認されている。

注

- 1 財団法人千葉県文化財センター 2004『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書1－袖ヶ浦市南祝作遺跡(吉野田遺跡)・西御折袴谷古墳群・新開1遺跡、木更津市新開2遺跡－』
- 2 財団法人千葉県文化財センター 2005『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書2－木更津市沢間1・2遺跡－』
- 3 財団法人千葉県教育振興財団 2005『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書3－袖ヶ浦市猪尻遺跡－』
- 4 財団法人千葉県教育振興財団 2006『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書4－木更津市内屋敷遺跡(1)・(2)－』
- 5 財団法人千葉県教育振興財団 2006『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書5－木更津市丹過遺跡－』
- 6 財団法人千葉県教育振興財団 2007『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書6－袖ヶ浦市下谷遺跡－』
- 7 財団法人千葉県教育振興財団 2008『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書8－袖ヶ浦市上宮田台遺跡1(弥生時代以降)－』
- 8 財団法人千葉県教育振興財団 2010『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書10－袖ヶ浦市上宮田台遺跡2(旧石器・縄文時代)－』
- 9 財団法人君津郡市文化財センター 2004『首都圏中央連絡自動車道(木更津－東金)埋蔵文化財調査報告書1－千葉県木更津市 玉ノ谷遺跡－』
- 10 財団法人君津郡市文化財センター 2005『首都圏中央連絡自動車道(木更津－東金)埋蔵文化財調査報告書

- 2 千葉県木更津市 巡礼街道遺跡1 巡礼街道遺跡2 下野洞遺跡 野洞遺跡]
- 11 各遺跡の概要については各埋蔵文化財調査報告書のほかに、下記の文献を参考にした。
 袖ヶ浦市史編さん委員会 1999『袖ヶ浦市史 資料編1 原始・古代・中世』袖ヶ浦市
 財団法人千葉県文化財センター 2000『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)－君津・夷隅・安房地区(改訂版
 一)』
 財団法人千葉県史料研究財団 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』千葉県
- 12 財団法人君津郡市文化財センター 1991『君津郡袖ヶ浦町筑田遺跡・三ツ台遺跡・大竹古墳群(1)－大
 竹遺跡群埋蔵文化財調査報告書1－』
- 13 財団法人君津郡市文化財センター 1993『袖ヶ浦市大竹遺跡群埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－藤田観光ゴルフ場
 建設工事に伴う埋蔵文化財調査－二又堀遺跡 大竹古墳群』
- 14 財団法人君津郡市文化財センター 1994『千葉県袖ヶ浦市大竹遺跡群埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－藤田観光ゴ
 ルフ場建設工事に伴う埋蔵文化財調査－尾畑台遺跡 内出原遺跡 大竹古墳群 下根岸古墳群』
- 15 財団法人君津郡市文化財センター 1995『千葉県袖ヶ浦市大竹遺跡群埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－藤田観光ゴ
 ルフ場建設工事に伴う埋蔵文化財調査－向神納里遺跡 上南原遺跡 狐谷遺跡 大竹古墳群』
- 16 財団法人千葉県文化財センター 1993『袖ヶ浦市滝ノ口向台遺跡 大竹古墳群』
- 17 財団法人君津郡市文化財センター 2000『山王台遺跡・内屋敷遺跡－市道145号線改良工事に伴う埋蔵文化
 財調査－』
- 18 財団法人君津郡市文化財センター 1986『西ノ根谷遺跡』『富津火力線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査
 報告書』
- 19 木更津市教育委員会 1988『丹過遺跡確認調査報告書』
 木更津市教育委員会 1990『丹過遺跡確認調査報告書Ⅱ』
- 20 財団法人君津郡市文化財センター 1994『嘉登遺跡・大竹長作古墳群 市道0128号線建設工事に伴う埋蔵文
 化財調査報告書』
- 21 財団法人君津郡市文化財センター 1987『千葉県木更津市林遺跡－市道建設工事に伴う埋蔵文化財調査－』
 財団法人君津郡市文化財センター 1994『千葉県木更津市林遺跡Ⅱ－道路改良工事(市道145号線)に伴う埋
 蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
 財団法人君津郡市文化財センター 1999『千葉県木更津市林遺跡Ⅲ－社会福祉法人みづき会施設建設に伴う
 埋蔵文化財発掘調査報告書－』
 財団法人千葉県文化財センター 2005『千葉県文化財センター年報No.30－平成16年度－』
- 22 財団法人千葉県文化財センター 2001『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書8－袖ヶ浦
 市棒古墳群－』
- 23 鬼塚古墳発掘調査会 1980『鬼塚古墳』
- 24 財団法人千葉県文化財センター 2000『袖ヶ浦市根岸根遺跡』
- 25 財団法人千葉県文化財センター 2001『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書7－木更津
 市芝野遺跡－』
- 26 菅生遺跡調査会 1978『木更津市菅生第2遺跡』
 木更津市教育委員会・菅生遺跡調査団 1980『上総菅生遺跡』
 財団法人千葉県文化財センター 1998『一級国道409号(木更津工区)埋蔵文化財発掘調査報告書－木更津
 市菅生遺跡・祝崎古墳群－』
 木更津市教育委員会 2002『菅生遺跡の発掘調査』『木更津市文化財調査集報』7
- 27 木更津市教育委員会 1984『真里谷城跡』
 財団法人君津郡市文化財センター 1985『真里谷城跡』
- 28 財団法人千葉県文化財センター 2004『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書14－木更津
 市笹子城跡－』
- 29 財団法人千葉県文化財センター 1998『袖ヶ浦市荒久(2)遺跡－主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報
 告書2－』
- 30 財団法人千葉県文化財センター 2001『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書9－袖ヶ浦
 市山谷遺跡－』

第3節 発掘調査と整理事業の方法

1 発掘調査の方法

(1) 発掘調査の経過

第1節でふれたとおり、発掘調査開始当初の平成14年度における確認調査対象面積は38,900㎡である。確認調査対象範囲内での各遺跡の範囲については、

- ①上根岸館跡 38,900㎡ (遺跡コード206-029-03)
- ②根岸古墳群 上根岸館跡範囲内の古墳群 (遺跡コード206-029-02)
- ③根岸小妻遺跡 上根岸館跡範囲内の17,400㎡ (遺跡コード206-029-04)
- ④三重三台遺跡 上根岸館跡範囲内の2,500㎡ (遺跡コード206-029-01)

である。

発掘調査は、根岸小妻遺跡の上層の確認調査(17,400㎡のうちマウンドを現認できる古墳部分を除く調査区西半域を中心に実施)から開始した。この結果、台地平坦面上に、弥生時代の方形周溝墓、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡を多数確認し、台地平坦面上にひろくこれらの遺構が展開することが判明し、併せてマウンドを現認できなかった古墳の周溝も複数確認されたことから、根岸小妻遺跡については全面が上層の本調査対象範囲になった(第5図)。

根岸小妻遺跡の上層の確認調査、すなわち台地平坦面の確認調査において上根岸館跡を構成すると考えられる明確な遺構は確認できなかった。したがって斜面部19,000㎡についても上根岸館跡を構成する明確な遺構は存在しないものと判断し、この斜面部19,000㎡については確認調査のトレンチを設定せずに調査を完了した。しかしながらこの経過は上根岸館跡の存在を否定するものではなく、あくまで今回の事業範囲内には上根岸館跡を構成する遺構を確認し得なかったということを示しているに過ぎない。

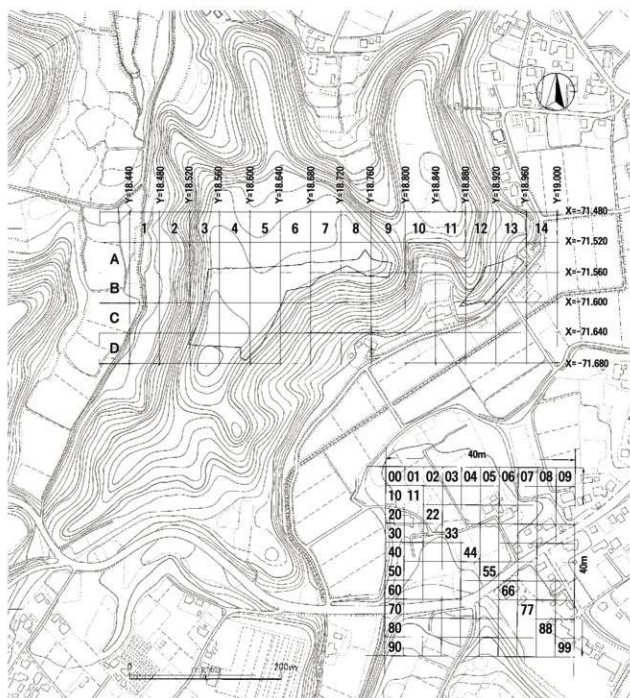
根岸小妻遺跡の下層については、上層本調査の終了後に確認調査対象範囲17,400㎡に2m四方のトレンチ174か所(696㎡)を対象範囲にほぼ均等に設定し、石器等の出土状況から634㎡について下層本調査を実施した。

三重三台遺跡については、確認調査対象範囲2,500㎡についてトレンチを設定し、上層の確認調査を実施した。その結果、調査区北東域において中世末を中心とする時期の溝状遺構・ピット群・井戸等を確認したことから、当該地点のトレンチを拡張した。これにより遺構の時期やひろがり把握することができたことから、確認調査の範囲内で調査を完了した。なお、下層についてはローム層が堆積していなかったことから調査を実施しなかった。

(2) 発掘調査の方法

調査区は公共座標に沿って方眼網を設定した。X=-71.480、Y=18.460を起点として全体を40m四方の大グリッドに分け、北から南へA・B・C…、西から東へ1・2・3…というかたちで表記している。大グリッド内には4m四方ごとに100区画に分けた小グリッドを設定し、北から南へ00・10・20…、西から東へ00・01・02…というかたちで表記した。各小グリッドの名称は、大グリッドと小グリッドの表記を組み合わせ、例えば、B3-68のように表記した(第4図)。

上層の遺構の表記については略号を設定し、それぞれ通し番号を付した。略号の用例は以下のとおりである。



第4図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡グリッド配置図

根岸古墳群・根岸小妻遺跡

- SD 溝跡
- SI 竪穴住居跡
- SK 土坑 陥穴 炉跡
- SM 古墳
- SS 方形周溝墓
- SX 集石・集石土坑

重三台遺跡
SD 溝跡
SB 掘立柱建物跡
SE 井戸跡

2 整理作業の方法

整理作業での遺構番号の用例については、先述の発掘調査時の遺構の略号、及び番号を基本的に踏襲している。なお、例外があればその都度記すことにする。

遺物の注記にあたっては、遺跡コードが、

- ①上根岸館跡 206-029-03
- ②根岸古墳群 206-029-02
- ③根岸小妻遺跡 206-029-04
- ④重三台遺跡 206-029-01

となっているが、①上根岸館跡については、先述のとおり、館跡としての名称を用いた発掘調査を実施していないことから、枝番03については用いていない。しかし、確認調査終了段階において上根岸館跡としての発掘調査を中止するまでの期間（確認調査実施期間）の遺物注記や記録類の用例の一部について、枝番03を使用している例も希に存在する。

また、各遺跡の枝番号01・02・04については、1・(1)等の注記がなされている場合がある。このほか、例えば縄文時代の遺物であっても、古墳盛土出土のものについては、例えば、206-029-02 SM001などと、根岸古墳群の古墳から出土したという調査時の状況をそのまま注記（枝番02使用）している。

報告書の刊行にむけて、複数年度にまたがり数多くの調査員が整理作業に従事している。このことから、挿図の縮尺や遺構の図示方法等について、本書全編をとおしての統一は図っていない。

以下、挿図の縮尺についてその原則を示しておく。

遺構

旧石器時代ブロック 1/80
竪穴住居跡 1/60
掘立柱建物跡 1/80
炉跡 1/40
集石土坑 1/30
陥穴 1/40
土坑 1/40
方形周溝墓 1/100・1/200
方形周溝墓埋葬施設 1/40
古墳 1/100・1/200
古墳埋葬施設 1/10・1/20・1/40
溝跡 1/40・1/80
井戸跡 1/40

遺物

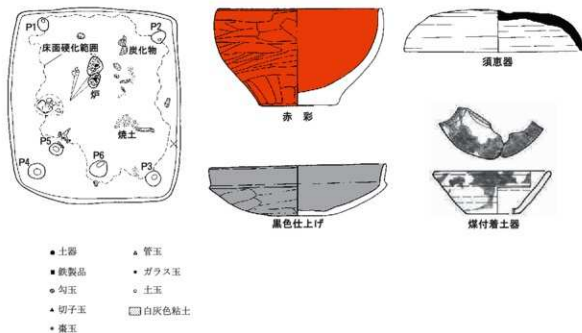
- 剥片石器 2/3
- 礫石器 1/2・2/5
- 土器拓影図 1/3
- 完形土器実測図 1/3
- 土製品 1/2
- 石製品 1/2・1/4
- 金属製品 2/3・1/3
- 玉類 1/1

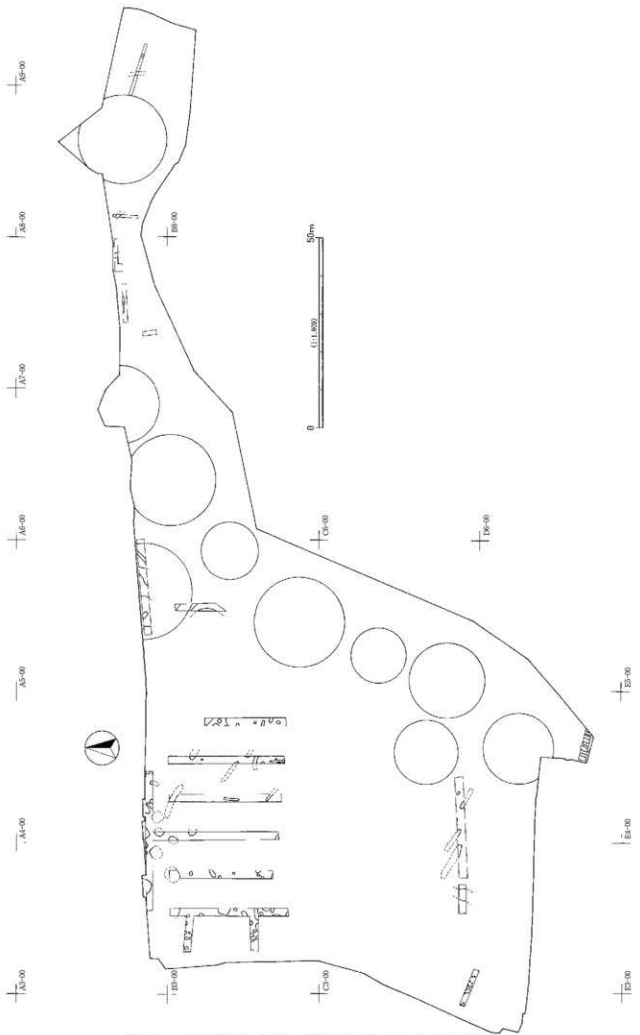
各遺構の土層注記の表記については、原則として調査段階の表現を踏襲しているが、数多くの調査員が発掘調査に携わっていることから、表現方法の一部について整理作業の段階で統一を図ったものがある。このほか、ルームブロックについては整理作業の段階でLBと変更している。また攪乱については、略号Kを用いている。

事実記載及び挿図等の作成にあたっては、各遺構ごとに番号順に記載・掲載しているが、レイアウトの都合上、順番が前後している場合がある。

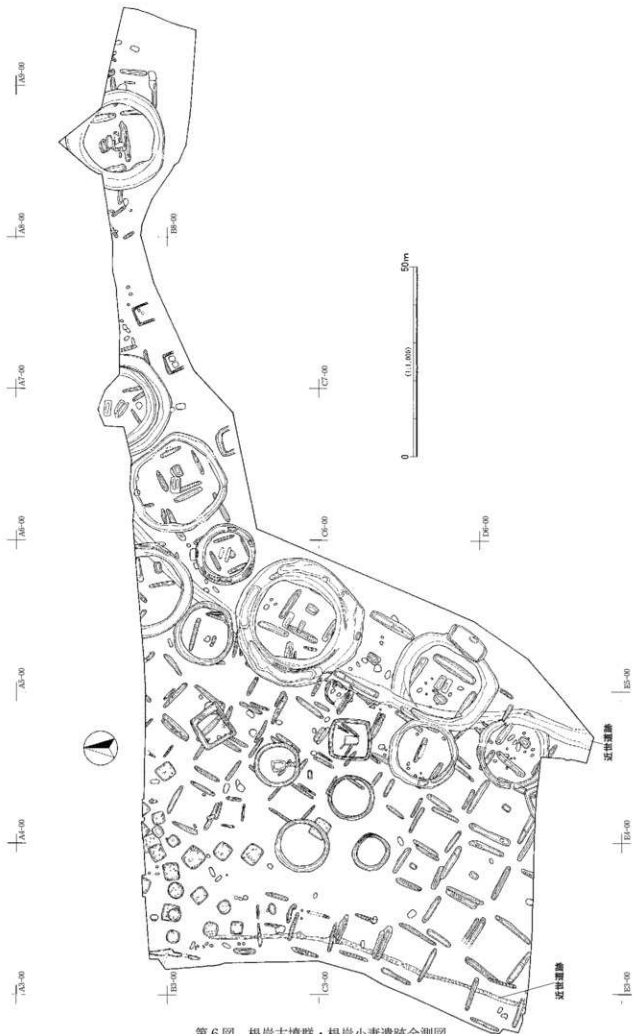
スクリーントーン等の用例は以下のとおりである。

用 例





第5図 上根岸館跡・根岸小妻遺跡上層確認トレンチ配置図



第6図 根岸古墳群・根岸小妻遺跡全測図

第2章 根岸古墳群・根岸小妻遺跡

第1節 概要

旧石器時代では、調査対象範囲17,400㎡の4%にあたる696㎡の確認調査を実施し、634㎡の本調査を行った（第7図）。遺物分布は第1文化層と第2文化層の2文化層に分離される。

第1文化層はIX c層に生活面をもち、総計137点の石器類が出土した。調査区東側に分布し、第1～3ブロックの3か所のブロックで構成され、出土層位は、X a層（X層上部）～VII層にかけて分布しており、IX c層に集中する。定型的な石器は少なく、二次加工のある剥片の占める割合が高い。

第2文化層はV層～IV層下部に生活面をもち、総計683点の石器類が出土した。調査区南西側に分布し、第4～8ブロックの5か所のブロックで構成され、出土層位は、VI層～IV層にかけて分布しており、V層～IV層下部に集中する。第1文化層同様に、接合資料はみられないが、出土層位がV層～IV層下部に集中する。角錐状石器・ナイフ形石器・搔器・敲石が文化層を特徴付ける器種となっており、石材では黒曜石と嶺岡産珪質頁岩が主体を占める。

上層の調査としては、主に縄文時代、弥生時代から古墳時代の成果があった（第6図）。

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡2軒、炉跡8基、集石土坑9基、陥穴15基、土坑3基を検出した。また、調査区のほぼ全域から土器及び礫が出土しており、このほか石器類も出土している。竪穴住居跡のうち1軒は、諸磯a式期に属するものと判断した。また、炉跡のうち1基は早期末から前期初頭の設営であると判断した。さらに土坑については、客観的かつ確実に縄文時代に設営されたと考えられる3基のうち2基を黒浜式期と諸磯b式期の設営であると判断した。このほか縄文時代に属する可能性のある106基の土坑がある。炉跡については限られた範囲に分布していることから、概ね同時期の設営であった可能性を指摘できる。集石土坑9基のうち7基についても限られた範囲に並んで検出されていることから、概ね同時期の設営であると判断されるが、設営時期を積極的に示すような土器片は出土していない。

弥生時代から古墳時代中期の遺構は、方形周溝墓54基、竪穴住居跡21軒、土坑11基を検出した。方形周溝墓の分布は調査区の北西部を除いた全域に及んでおり、軸を揃えてみられる箇所が多く、いくつかの群を形成していたことが判明した。墳丘が残存している遺構も存在し、古墳の墳丘に方形周溝墓の墳丘の一部が取り込まれていた遺構も認められた。時期は弥生時代中期の宮ノ台式期である。遺物の出土は僅かである。竪穴住居跡は北西部に集中し、弥生時代後期後半～古墳時代中期までの遺構がみられるが、主体は弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺構である。竪穴住居跡の周辺には土坑が分布しており、土坑墓と考えられる遺構も検出した。

古墳時代後期を主体とする遺構は、円墳15基、方墳6基、溝跡1条、土坑2基を検出した。古墳群は小櫃川を望む台地東縁部の南斜面際に連続してみられ、調査によって西側の台地平坦面にも墳丘が削平された古墳を検出した。二重周溝を有する古墳や周溝が他の古墳と重複する例が存在する。埋葬施設は、墳丘が残存していた古墳からは1基～5基を検出したが、いずれも人骨の遺存は認められなかった。副葬品については土器類は少ないものの、鉄製品の武器類や玉類がまとめて出土した遺構もみられた。

第2節 旧石器時代

1 概要 (第7図、第1・2表)

調査対象範囲17,400㎡の4%にあたる696㎡の確認調査を実施した結果、634㎡の本調査を行った。調査範囲とブロック分布状況は、第7図のとおりである。確認調査は2m×2mの確認グリッドを設定し、石器の出土した地点については、周囲の拡張調査やグリッドの設定を追加し、遺物集中の存否と広がりを確認したうえで、本調査を要する範囲を確定し調査を実施した。遺物分布状況は、ドットで図示した。第1文化層と第2文化層の2文化層に分離される。旧石器時代出土石器の文化層・ブロック別の器種組成・石材組成は、第1・2表のとおりである。本項においては、文化層の概要・石器群の観察基準・石材の識別方法・ブロックの記載方法について触れることにする。

第1文化層：IX c層に生活面をもつ。総計137点出土した。調査区東側に分布し、第1～3ブロックの3か所のブロックで構成される。ブロック間の接合資料はみられなかった。出土層位は、X a層 (X層上部)～VII層にかけて分布しており、IX c層に集中する。接合資料はみられないが、同一段階の石器群ととらえて、第1文化層の石器群として識別した。第1ブロックと第2ブロックの出土点数が多く、第3ブロックの出土点数は少ない。定型的な石器は少なく、二次加工のある剥片の占める割合が高い。

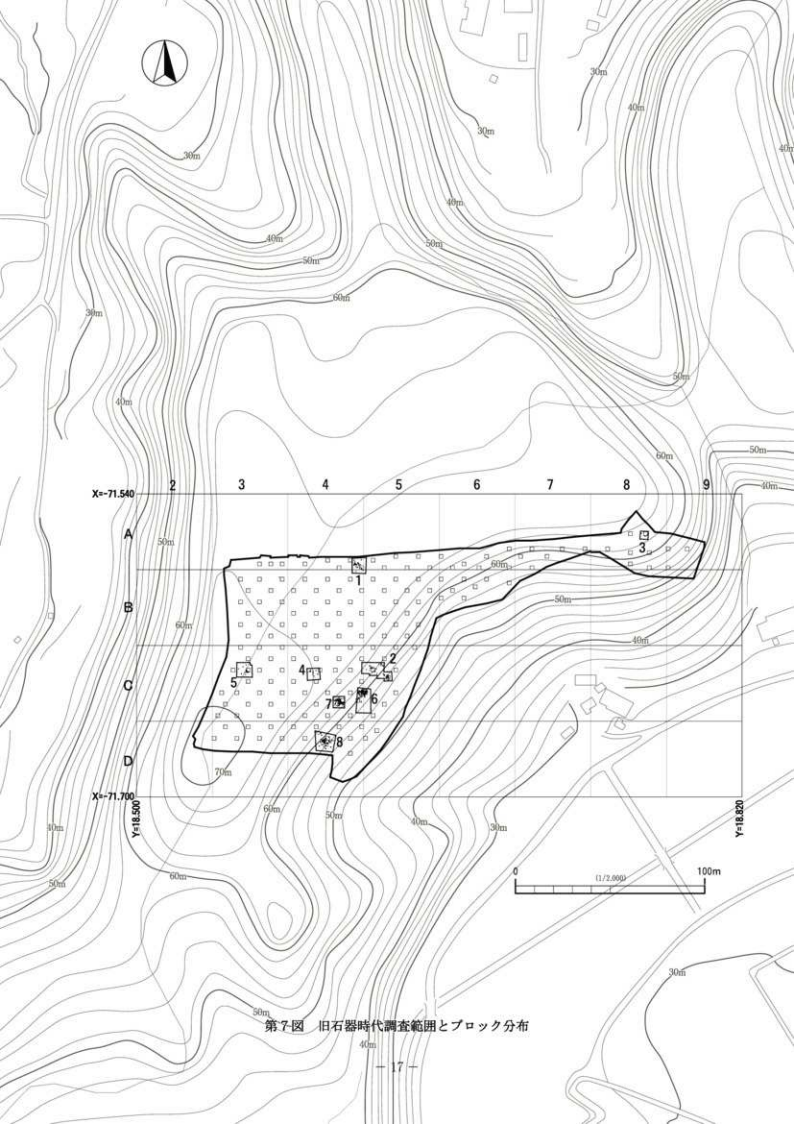
第2文化層：V層～IV層下部に生活面を持つ。総計683点出土した。調査区南西側に分布し、第4～8ブロックの5か所のブロックで構成される。ブロック間の接合資料はみられなかった。出土層位は、VI層～IV層にかけて分布しており、V層～IV層下部に集中する。第1文化層同様に、接合資料はみられないが、出土層位がV層～IV層下部に集中し、調査区の南西側にまとまって分布することから、同一段階の石器群ととらえて、第2文化層の石器群として識別した。角錐状石器・ナイフ形石器・搔器・敲石が文化層を特徴付ける器種となっており、石材では黒曜石と嶺岡産珪質頁岩が主体を占める。

単独出土石器：集中地点を持たず単独で出土したものを単独出土石器として取り扱った。

石器群の観察基準：石器属性計測基準は、第60図のとおりである。各属性の内容については、6 石器属性計測基準に記載した。全点の属性については、第13～23表に記載した。また、図示した実測図には、遺物番号・器種・石材・母岩番号・接合番号を右下に記載した。

石材の識別方法：石材名については、房総半島南部地方の地域性が表現されるようにした。嶺岡産珪質頁岩は、自然面が明橙褐色、内部は灰緑色の地に白色・灰色の斑が混じる珪質頁岩のことを示した。肉眼観察のため、明確に嶺岡産とはいえないが特徴的な石質で本地域周辺で集中して出土していることから、この石材名を記した。いわゆる「白滝頁岩」と同じものを示す。トロトロ石は、表面が著しく風化し明灰色で内部が黒色をした黒色緻密質安山岩のことを示す。

ブロックの記載方法：母岩別器種組成表を作成し、母岩の搬入・消費方法や器種・石材組成の特徴が現れるように記載した。分布図については、器種別分布図と母岩別分布図を図示し、接合関係のある母岩については、母岩別分布図において接合線で図示した。ブロックの文章による記載は、これらの表・挿図があるので、表現されにくい点やブロックの特徴を記載することにした。



第7図 旧石器時代調査範囲とブロック分布

第1表 文化層・ブロック別器種組成表

文 化 層	ブ ロ ッ ク	第 1 区	第 2 区	第 3 区	第 4 区	第 5 区	第 6 区	第 7 区	第 8 区	第 9 区	第 10 区	第 11 区	第 12 区	第 13 区	第 14 区	第 15 区	計	組 成 比 (%)															
1	1														44	90	0.03																
															874.58	177.89	1152.27	7.25															
	2	1														1	53	63	7.60														
		2	3.23	285.9												18.79	338.99	19.58	8.01	375.83	1046.14	6.59											
		3														4	1	5	8	8.97													
	第1文化層B層合計														95.42	23.38	343.25	83.7	475.81	2.88													
															1	81	1	25	1	3	47	107	16.85										
	2	4														15.78	1098.99	23.26	197.01	8.03	243.32	839.33	2658.24	16.54									
1																2	2	1	4	1	15	1.94											
5		1														9	7	1	66.13	19.44	257.58	1.71											
		2														13	17	1	214.38	35	659.74	4.89											
		3														99.84	250.9	8.24	1	2	678.24	4.59											
6		1														781	1	1	10.78	1.463.98	29.2	36.81											
		2	230.0														1	1	1	30	32	263.97	22.85										
		3	249.97	1357.54												123.86	98.49	70.37	142.02	522.52	151.76	178.95	7.42										
7	1														70	3	16	83	1	141	17.13												
	2	11.38	2496.14	40.63												8.42	1,424.65	81.1	23.12	111.63	277.57	1,284.36	9.28	7983	86.50								
	3														13	1	12	7	1	141	17.13												
第2文化層A層合計														354	33	6	1	1	130	2	27	3	17	26	2	43	7	2	183	82.99			
														354.81	4395.68	46.63	54.68	8.42	1,775.74	149.50	322.53	121.03	647.94	1,301.31	85.96	1,497.94	211.89	115.14	13261.87	82.11			
集計													3														1	1	7.63	0.05			
集計以上													3.33														3.33	1.18	7.63	0.05			
全体の点数合計																	358	38	6	1	3	211	3	50	4	19	80	2	43	7	2	183	180.90
全体の重量合計																	358.58	4451.58	46.43	54.68	28.73	3,184.73	172.95	519.58	117.06	604.41	1,480.53	85.96	1,497.94	211.89	115.14	13,864.51	100.00
点群組成比 (%)																	40.79	7.03	0.41	0.12	0.58	25.84	0.36	6.08	0.49	2.31	9.72	0.24	0.22	0.85	0.24	100.00	
重量組成比 (%)																	2.29	28.06	0.28	0.34	0.18	20.07	1.09	5.27	0.74	4.39	11.55	0.54	23.20	1.34	0.73	100.00	

【1区：高野、2区：黒龍宮】

第2表 文化層・ブロック別石材組成表

文 化 層	ブ ロ ッ ク	第 1 区	第 2 区	第 3 区	第 4 区	第 5 区	第 6 区	第 7 区	第 8 区	第 9 区	第 10 区	第 11 区	第 12 区	第 13 区	第 14 区	第 15 区	計	組 成 比 (%)																
1	1														44	90	0.03																	
															874.58	177.89	1152.27	7.25																
	2	3.23	285.9												18.79	338.99	19.58	8.01	375.83	1046.14	6.59													
第1文化層B層合計														4	1	5	8	8.97																
														95.42	23.38	343.25	83.7	475.81	2.88															
2	4														15.78	1098.99	23.26	197.01	8.03	243.32	839.33	2658.24	16.54											
		1														2	2	1	4	1	15	1.94												
	5	1														9	7	1	66.13	19.44	257.58	1.71												
		2														13	17	1	214.38	35	659.74	4.89												
		3														99.84	250.9	8.24	1	2	678.24	4.59												
	6	1														781	1	1	10.78	1.463.98	29.2	36.81												
		2	230.0														1	1	1	30	32	263.97	22.85											
		3	249.97	1357.54												123.86	98.49	70.37	142.02	522.52	151.76	178.95	7.42											
7	1														70	3	16	83	1	141	17.13													
	2	11.38	2496.14	40.63												8.42	1,424.65	81.1	23.12	111.63	277.57	1,284.36	9.28	7983	86.50									
	3														13	1	12	7	1	141	17.13													
第2文化層A層合計														354	33	6	1	1	130	2	27	3	17	26	2	43	7	2	183	82.99				
														354.81	4395.68	46.63	54.68	8.42	1,775.74	149.50	322.53	121.03	647.94	1,301.31	85.96	1,497.94	211.89	115.14	13,261.87	82.11				
集計																	3														1	1	7.63	0.05
集計以上																	3.33														3.33	1.18	7.63	0.05
全体の点数合計																	358	38	6	1	3	211	3	50	4	19	80	2	43	7	2	183	180.90	
全体の重量合計																	358.58	4451.58	46.43	54.68	28.73	3,184.73	172.95	519.58	117.06	604.41	1,480.53	85.96	1,497.94	211.89	115.14	13,864.51	100.00	
点群組成比 (%)																	40.79	7.03	0.41	0.12	0.58	25.84	0.36	6.08	0.49	2.31	9.72	0.24	0.22	0.85	0.24	100.00		
重量組成比 (%)																	2.29	28.06	0.28	0.34	0.18	20.07	1.09	5.27	0.74	4.39	11.55	0.54	23.20	1.34	0.73	100.00		

【1区：高野、2区：黒龍宮】

2 基本層序

基本層序は第8図のとおりである。

Ⅲ a 層 (明黄褐色土) 立川ローム最上層に相当する。Ⅲ a 層～Ⅲ c 層までが、いわゆる「ソフトローム層」である。

色調は均質ではない。下部に向かってソフト化が進行しているが、本遺跡では堆積状況が良好で、ほとんどの地点でⅢ a 層～Ⅲ c 層までの三層に区分できたが、調査区南東斜面部に位置する第6ブロックでは細分できなかった地点もあった。赤色スコリアの含有量により細分を行った。Ⅲ a 層には赤色スコリアがほとんど含まれていない。

Ⅲ b 層 (明黄褐色土) 1mm大の赤色スコリアが微量に含まれる。

Ⅲ c 層 (黄褐色土) 2mm～3mm大の赤色スコリアが含まれる。

Ⅳ 層 (明褐色土) 硬質のローム層でいわゆる「ハードローム層」である。2mm～3mm大の赤色スコリアを多く含み、全体に赤みを帯びて明色。第2文化層の石器出土層位は、Ⅳ層下部からⅤ層にかけて集中する。

Ⅴ 層 (黄褐色土) 第1黒色帯に相当する。Ⅳ層に比べて赤色スコリアの量が少なく、全体に黒ずんでいる。1mm大の赤色スコリアが微量に含まれる。

Ⅵ 層 (明黄褐色土) AT (始丹沢火山灰) がブロック状に含まれる。1mm大の赤色スコリアが微量に含まれる。

Ⅶ 層 (褐色土) 第2黒色帯上部に相当する。全体に黒ずんでいる。1mm～2mm大の黄色スコリアと1mm大の赤色スコリアが少量含まれる。台地の平坦面に立地する第1ブロックでは、第2黒色帯を細分することができなかったが、他のブロックは細分することができた。

Ⅷ a 層 (暗褐色土) 第2黒色帯下部の上半である。Ⅶ層よりも黒ずんでいる。2mm～3mm大の赤色スコリアが多く含まれる。1mm大の黄色スコリアが少量含まれる。

Ⅷ b 層 (暗褐色土) 第2黒色帯下部の間層である。Ⅷ a 層より若干褐色分が強く赤みがある。3mm～5mm大の黄色スコリア、2mm～4mm大の赤色スコリア、3mm大の灰青色スコリアがそれぞれ多量に含まれる。

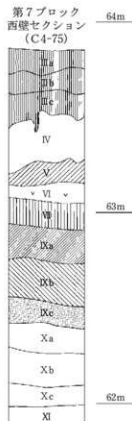
Ⅷ c 層 (暗黄褐色土) 第2黒色帯下部の下半である。2mm大の赤色スコリアが微量に含まれる。第1文化層の石器出土層位は、Ⅷ c 層に集中する。

Ⅷ a 層 (暗黄褐色土) スコリア粒がほとんど含まれない。

Ⅷ b 層 (黄褐色土) Ⅷ a 層よりも若干暗く、上下の層に比べてスコリアの量が少なくなる。黒色スコリアが微量に含まれる。

Ⅷ c 層 (暗黄褐色土) スコリア粒がほとんど含まれない。

Ⅷ I 層 (灰褐色土) 武蔵野ローム最上層である。粘性を帯びた灰褐色ロームである。



第8図 基本土層

3 第1文化層

(1) 概要 (第7・9図, 第1～3表)

第1文化層の石器群は総計137点出土し、構成ブロックが第1～3ブロックの3か所識別できた。調査区の中央部北側に第1ブロック、中央部南東斜面側に第2ブロック、北東部に第3ブロックが分布する。第1文化層の石器群は、ブロック間に接合資料がみられないので、厳密な意味では同一時期の所産のものとはいえない。しかしながら、これらの石器群は出土層位がⅨc層に集中し、調査区の中央部から東側にかけて分布することから、同一段階の石器群と考えられ、第1文化層の石器群としてとらえた。

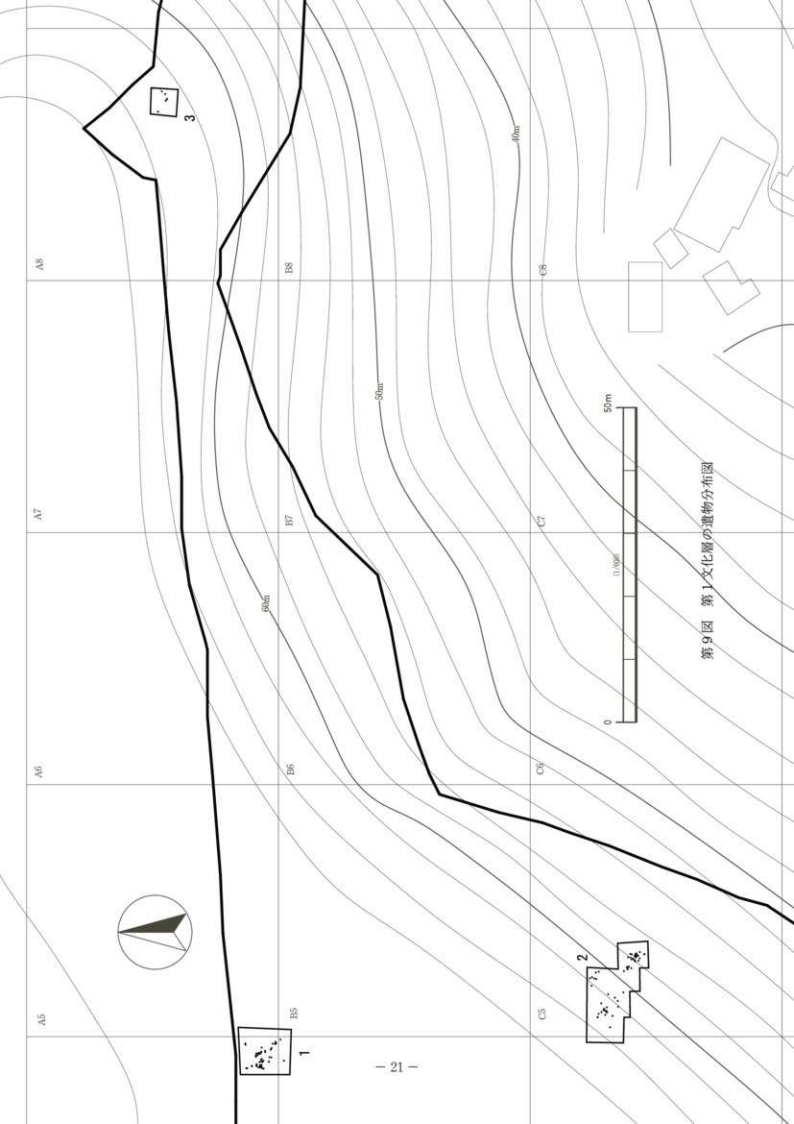
出土層位は、3か所のブロックにおいて、ほぼ同じ層位から出土している。Ⅹa層(Ⅹ層上部)～Ⅶ層にかけて出土しており、Ⅸc層に集中することから、Ⅸc層に生活面を持つ石器群と推定される。

器種石材組成は第3表のとおりである。器種組成においては、定型的な石器はみられず、二次加工のある剥片が12点(8.76%)で割合が高い。二次加工のある剥片は、縦長剥片を素材とし、器体の中央部を折断した後に、折断に調整加工が施される石器(第2ブロック2b・5・7・12)が特徴としてあげられる。また、使用痕のある剥片や剥片の中には、石刃としてとらえられる縦長剥片(第2ブロック2a・10～14、第3ブロック3)が多くみられ、これらの打面は幅が狭く、打面調整が行われているものもみられるが、頭部調整が行われているものはほとんどみられない。また、背面構成では、主要剥離面方向とは反対方向の剥離面で構成されるものが多い。石核は、これらの縦長剥片の特徴と符合する剥離方法である両設打面石核(第2ブロック1c・1g・9、第3ブロック2)が多くみられる。石材組成においては、嶺岡産珪質頁岩が81点(59.12%)でもっとも多く、流紋岩25点(18.25%)、ガラス質黒色安山岩23点(16.79%)、チャート3点(2.19%)で、これ以外の石材である黒曜石・珪質頁岩・ホルンフェルス・トロトロ石は、単体で持ち込まれており、縦長剥片(石刃)を素材とした製品や石核であることが特徴といえよう。

第3表 第1文化層器種石材組成表

器種 石目	二次加工のある剥片	使用痕のある剥片	剥片	砕片	石核	塊	片	総計	組成比(%)
出 産 地	3, 25							3, 23	0.73
流 紋 岩			22	1	2			25	6.25
安 山 岩			122, 85	6, 31	163			286, 9	71.88
安 山 岩	23, 26		20	2				23, 28	5.82
ガラス質黒色安山岩			157, 97	0, 95	39, 65			197, 57	49.19
珪質頁岩		16, 78						16, 78	4.19
嶺岡産珪質頁岩	10	81	2	5				91	22.71
ホルンフェルス	215, 23	15, 21	649, 73	1, 99	353, 95	172, 98		1,628, 99	40.73
チャート							243, 35	243, 35	6.12
トロトロ石						376, 83	63, 7	439, 53	11.12
ト ロ ト ロ 石			1					1	0.25
点 数	12	3	6, 03	5	9	2		6, 33	1.61
重 量	241, 57	31, 89	935, 47	3, 15	799, 33	548, 81		2, 634, 24	66.52
点 数 組 成 比 (%)	8.76	2.19	76.91	3.63	6.37	1.46		100.00	
重 量 組 成 比 (%)	9.21	1.22	35.55	0.12	30.46	20.91		100.00	

【上段: 点数, 下段: 重量(g)】



第9図 第1文化層の遺物分布図

(2) 第1ブロック (第10~16図、第4・13表、図版4・7)

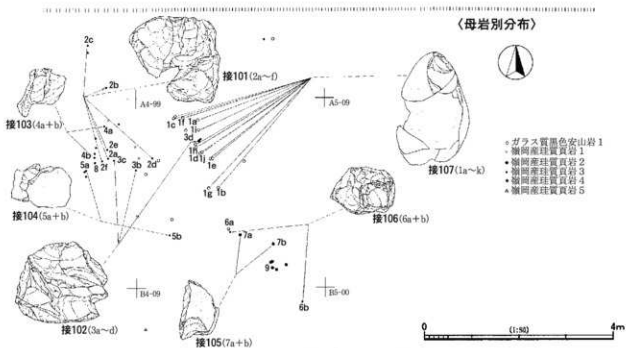
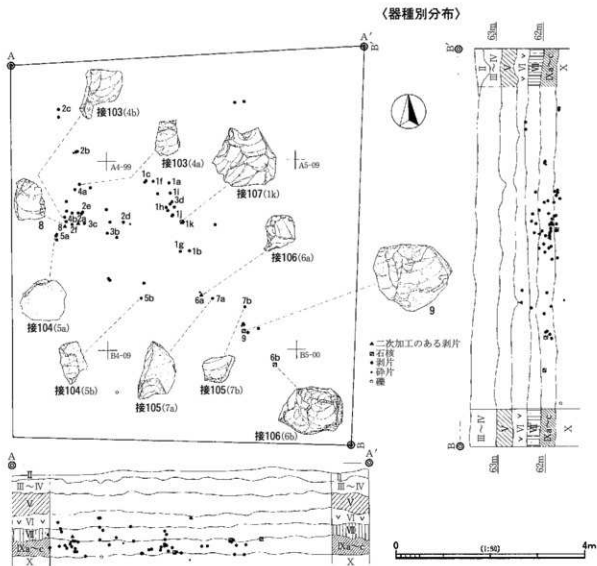
出土状況 約7m×6mの楕円形の範囲に分布している。集中地点は、西部・中央部・南東部の3か所に分けることができる。X層上部～VI層下部にかけて出土しており、IXa～IXc層下部に集中する。西部では、嶺岡産珪質頁岩1が集中して分布し、接合資料101～104の接合資料が分布している。中央部では、ガラス質黒色安山岩1が集中して分布し、接合資料107が分布する。南東部では、嶺岡産珪質頁岩2・3が集中して分布し、接合資料105・106が分布する。

出土遺物 二次加工のある剥片(2a・6a・8)3点、石核(1k・6b・9)3点を含む66点が出土した。1a～kはガラス質黒色安山岩1の接合資料107である。ブロック中央部に分布する。長軸約10cmの楕円形の円礫を持ち込み、本ブロックで大半の母岩が消費されている。剥離順序は、右側縁上方から1a～eを剥離、次に打面を下部に転移して下部から左側縁に順次打面を移動して、1f～jを剥離している。この結果、残核である1kは裏面に大きく自然面を残し、周縁から剥離された円盤状の形状を呈する。剥離されたものはすべて剥片で、不定形形状のもので構成される。2a～f(接合資料101)、3a～d(接合資料102)、4a+b(接合資料103)、5a+b(接合資料104)は、いずれも嶺岡産珪質頁岩1で、おそらく20cm位の大型の楕円形の円礫を持ち込み、分割後不定形な剥片を剥離したものと思われる。6a+b(接合資料106)は嶺岡産珪質頁岩3が用いられている。この母岩は、南東部に分布し資料数も3点と少なく、石核1点、二次加工のある剥片1点、剥片1点で構成される。6bの石核の形状は、サイコロ状を呈し、打面転移が頻繁に行われたことがうかがわれる。初期の剥離は、他の地点(遺跡)で行われ、本ブロックで最終剥離が行われたものと思われる。7a+b(接合資料105)は、嶺岡産珪質頁岩2の接合資料である。8は縦長剥片を素材とし、右側縁と末端部に調整加工が施された二次加工のある剥片である。9は石核である。上部の分割面を打面とし、上部から数枚の剥片を剥離している。本ブロックは、嶺岡産珪質頁岩とガラス質黒色安山岩を楕円形の円礫、あるいは分割礫を素材として持ち込み、不定形な剥片を剥離していることが特徴といえよう。このうち、比較的良質のガラス質黒色安山岩1(接合資料107)と嶺岡産珪質頁岩3(接合資料106)は、円盤状の石核とサイコロ状の石核が残されるまで剥離が行われている。

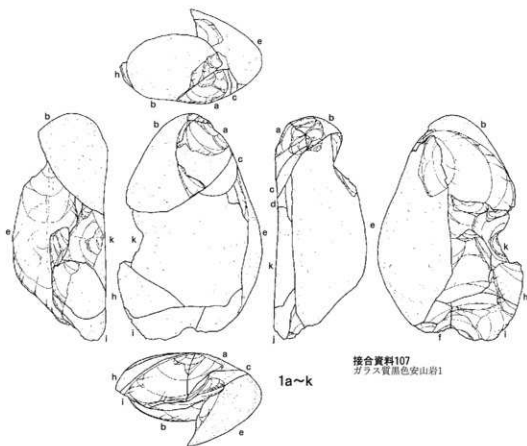
第4表 第1文化層 第1ブロック石器組成表

器種 石材	母 岩 番 号	一 次 加 工 の 有 る 剥 片	剥 片		石 核	種 計	組 成 比 (%)
			片	片			
嶺岡産珪質頁岩	1	2	28	2		30	48.48
	2	51.39	422.52	1.89		424.41	66.87
	3		22.23		136.23	158.46	24.42
	4	5.91	0		1	1	0.15
	5		3.59		92.95	96.54	15.00
			70.17			70.17	10.95
嶺岡産珪質頁岩合計			466	2		468	71.58
ガラス質黒色安山岩	1	3	36	2	2	40	6.12
			529.61	1.89	228.26	759.76	116.30
			19	2	1	22	3.39
			127.69	0.95	29.08	157.72	24.19
			65	4	3	72	11.06
全 体 組 成 の 計			661.3	2.84	267.3	931.44	143.13
全 体 組 成 比 (%)			4.35	0.03	28.26	32.64	5.00
数 量 組 成 比 (%)			4.19	0.02	28.26	32.47	5.00

[上段:点数、下段:重量(g)]

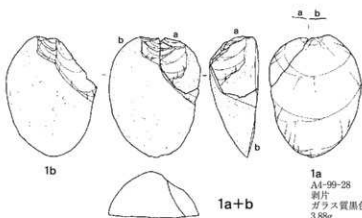


第10図 第1文化層第1ブロック遺物分布図



接合資料107
ガラス質黒色安山岩1

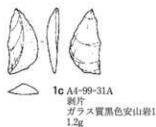
1a~k



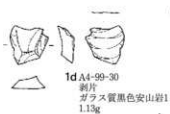
1a
A4-99-28
剥片
ガラス質黒色安山岩1
3.88g

1b
A4-99-22
剥片
ガラス質黒色安山岩1
30.42g

1a+b



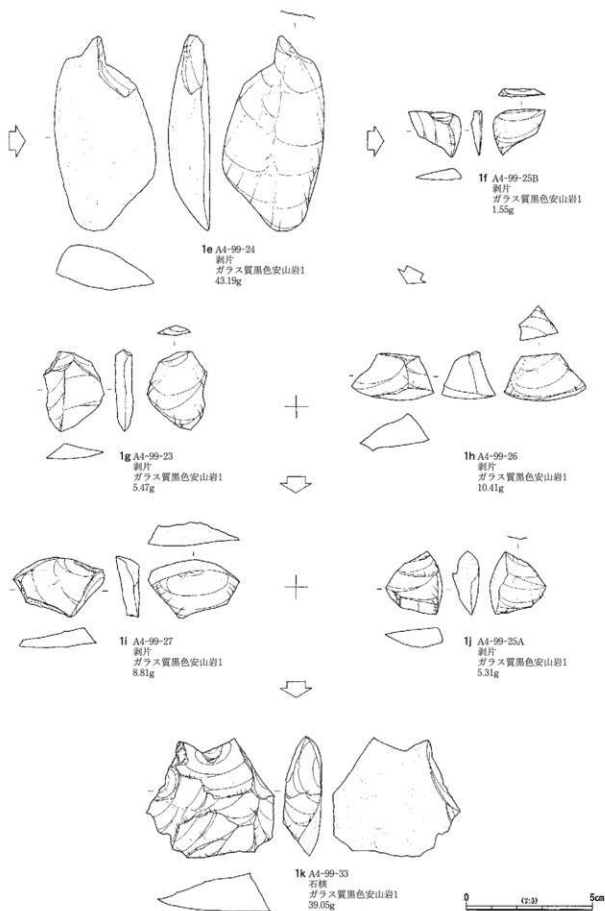
1c A4-99-31A
剥片
ガラス質黒色安山岩1
1.2g



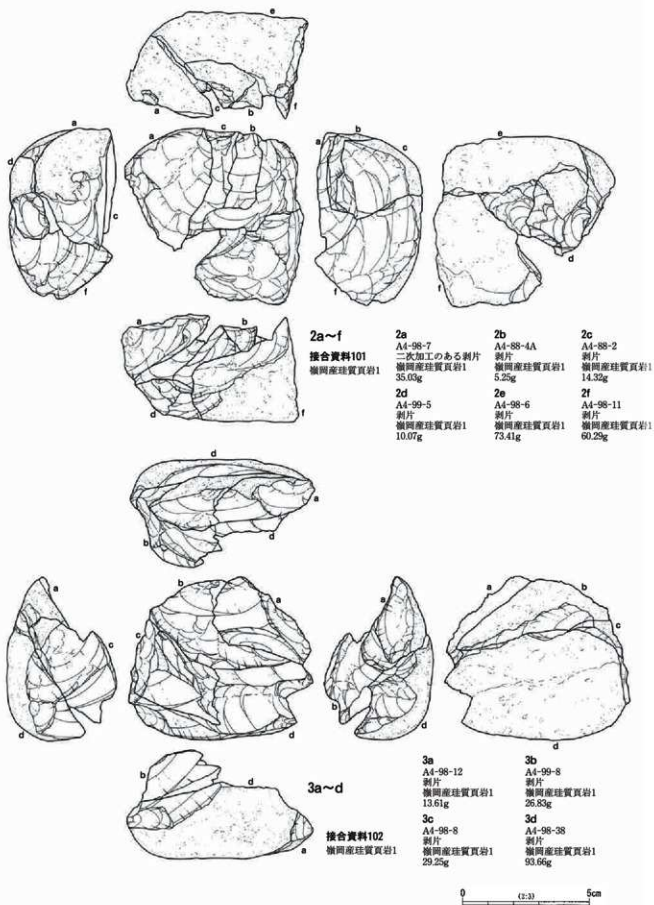
1d A4-99-30
剥片
ガラス質黒色安山岩1
1.13g

0 (2:3) 5cm

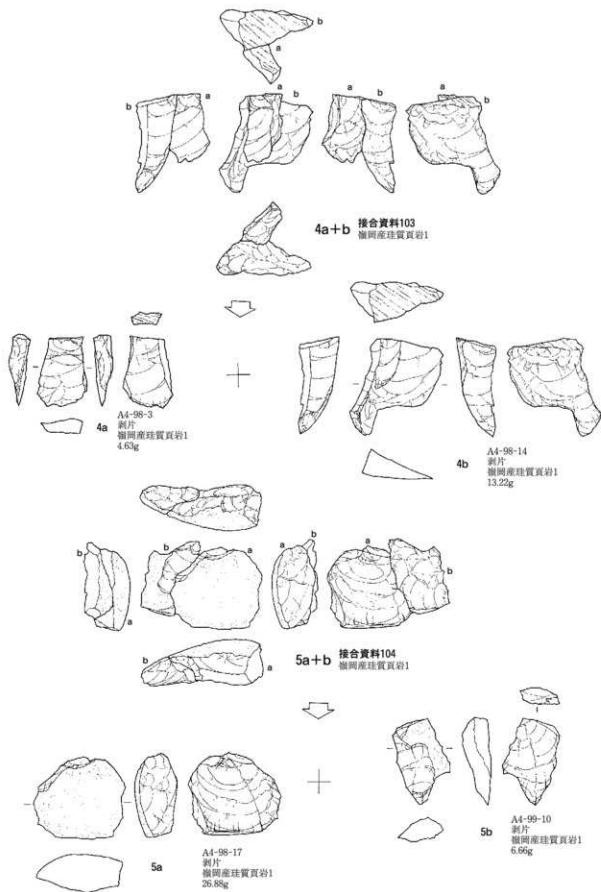
第11図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)



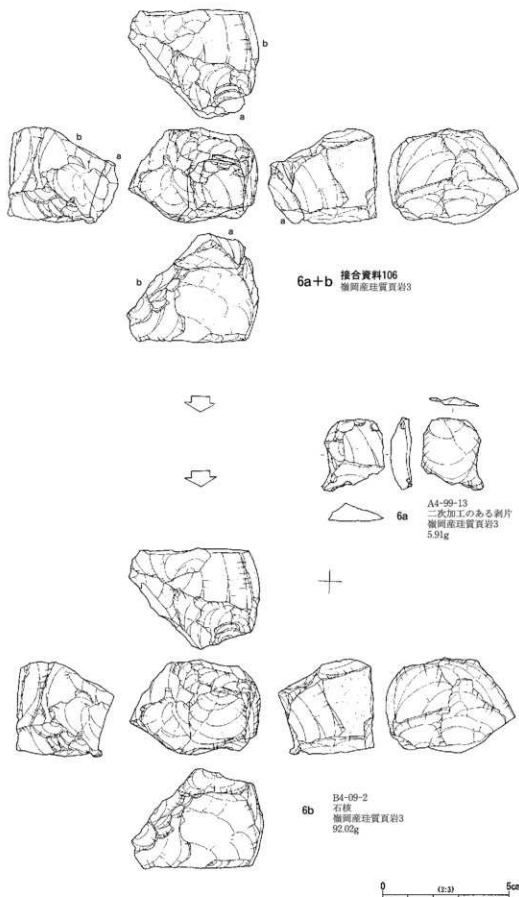
第12図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)



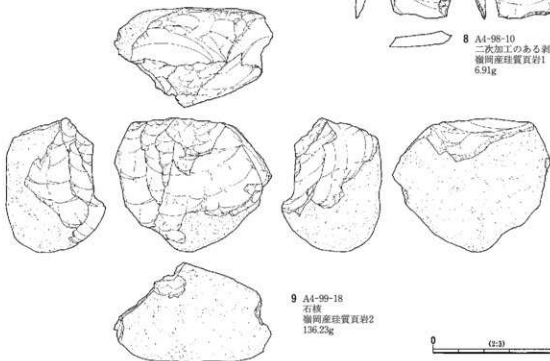
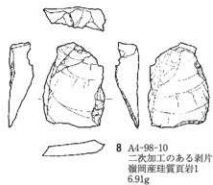
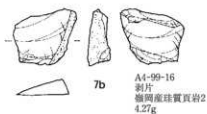
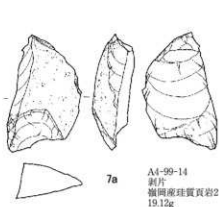
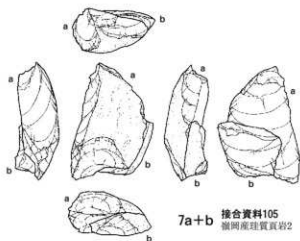
第13図 第1文化層第1ブロック出土石器(3)



第14図 第1文化層第1ブロック出土石器(4)



第15図 第1文化層第1ブロック出土石器(5)



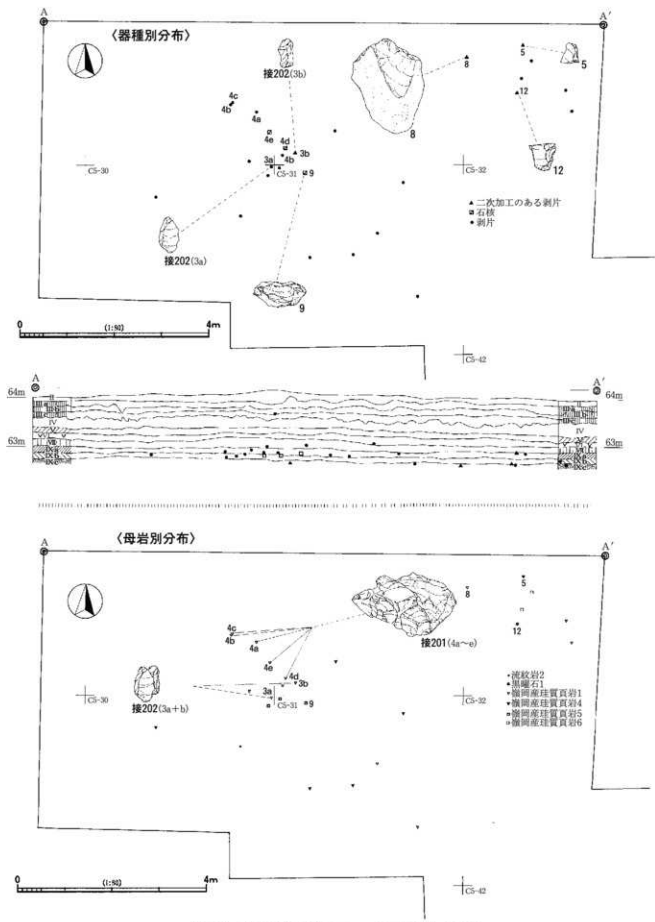
第16図 第1文化層第1ブロック出土石器(6)

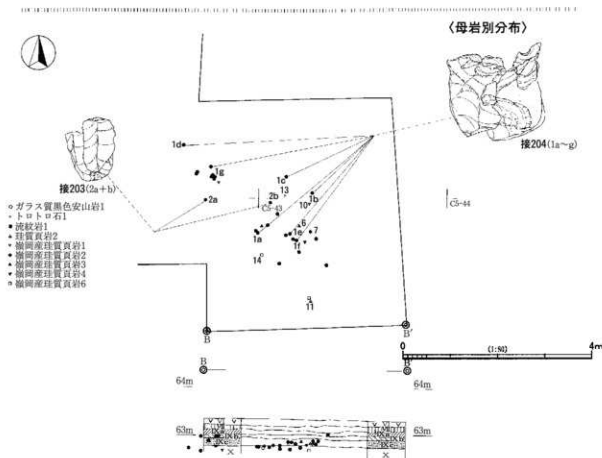
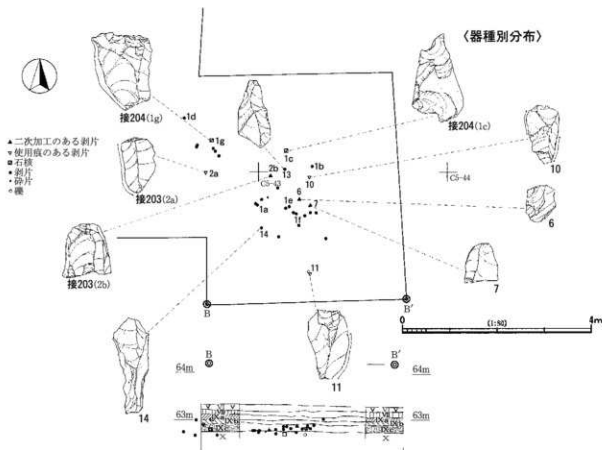
(3) 第2ブロック (第17～23図、第5・13・14表、巻頭図版1、図版4・8)

出土状況 約14m×8mの楕円形の範囲に分布している。集中地点は、西部・中央部・南東部の3か所に分けることができる。C5-31を中心とする西部では、嶺岡産珪質頁岩1の接合資料201・202が集中して分布する。C5-22を中心とする中央部では、総点数は少ないが、二次加工のある剥片(5・8・12)が3点出土している。接合資料はみられない。C5-43を中心とする南東部では、接合資料204を含む流紋岩1が集中して分布し、良質な石材である嶺岡産珪質頁岩2の接合資料203が分布する。分布図は、西側(第17図)と東側(第18図)のとおりである。出土層位は、西側ではIXc層～VII層にかけて散漫に分布し、IXc層上部～IXb層下部に集中する。東側ではX層上部～IXa層にかけて分布し、IXc層に集中する。第1文化層の生活面をIXc層と判断した根拠は、この第2ブロックの東側の分布図において、セクション図と遺物分布とが近接し、出土遺物が多いことによる。

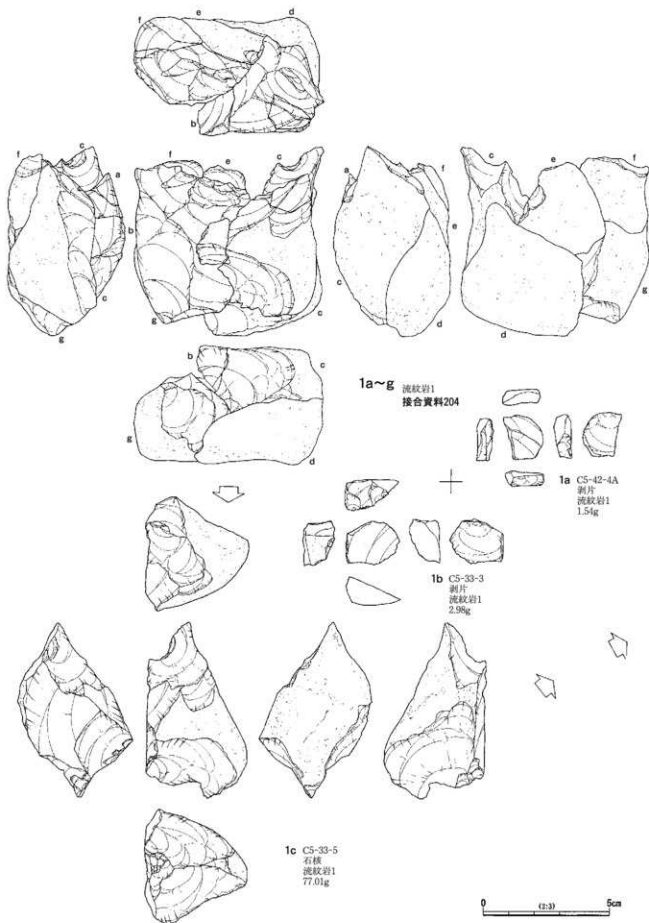
出土遺物 二次加工のある剥片(2b・3b・5～8・12)7点、使用痕のある剥片(2a・10・11)3点、石核(1c・1g・4e・9等)5点を含む63点が出土した。1a～gは流紋岩1の接合資料204である。約10cm大の円礫を持ち込み、数個体に分割して剥離を行っていることがうかがえる。接合資料204は、1a～cと1d～gの二つの個別別資料が接合した資料である。一つ目の個別別資料1a～cは、分割後(分割面は左側面図の左側剥離面)に、上部から1a、左下端から1bを剥離した後も、上部と下部から剥離を行った結果、1cの石核が残されている。二つ目の個別別資料1d～gは、分割後(分割面は右側面図の中央剥離面)に、下部から1dを剥離後、上部から1e・fを剥離した後に、さらに数枚の剥離を行っている。最終的な残核である1gは両設打面石核の形状を呈するが、剥離された剥片は、いずれも不定形な剥片である。2a+b(接合資料203)は良質な嶺岡産珪質頁岩2を用いており、本ブロックにおいてはこの2点のみの資料である。背面構成や接合状況から、両設打面の石核から連続的に縦長剥片(石刃と識別することも可能)が剥離されたことがうかがえる。2aの上部は、打面調整として識別したが、2bの剥離面の末端部の形状から、2aの打面は上部にあったことが推察され、二次加工の可能性はある。2bは、2aとは対向方向から剥離された自然面打面の縦長剥片を素材としている。器体の末端部付近で折断後に、折面を打面として表面方向に調整加工後、表面を打面として折れ面方向に調整加工が行われている。3a+b(接合資料202)は、同一打面から細長の縦長剥片を剥離している。3bは末端部に微細な調整加工が施されている。4a～e(接合資料201)は、いずれも下部から剥離されている。3a+b(接合資料202)と4a～e(接合資料201)は、やや粗悪な石材である嶺岡産珪質頁岩1を用いており、節理面に沿って同時割れた可能性のある資料である。5～8は二次加工のある剥片である。5は幅広の剥片を素材とし、上部と右側縁を折断し、左側縁上部に調整加工が施されている。6は幅広の厚みのない剥片を素材とし、左側縁から末端部にかけて調整加工が施されている。7は2a+b(接合資料203)と同一母岩の良質の嶺岡産珪質頁岩2を用いている。2bの資料と同様に、器体の末端部付近を折断後に、腹面側から調整加工が施されている。素材である縦長剥片は、背面構成から両設打面の石核から剥離されたことがうかがえる。嶺岡産珪質頁岩2は、2a+b(接合資料203)と7の3点のみの資料ではあるが、良質な石材に対しては、両設打面の縦長剥片(石刃と識別可能)を連続的に剥離する剥片剥離技術がうかがえ、また、素材剥片の末端部付近を折断後に折断面に調整加工が施されるということが観察され、本文化層の石器製作技術を特徴付ける資料といえよう。

8はやや大型の幅広の剥片を素材とし、左側縁上部に調整加工が施されている。9は打面転移が頻繁に

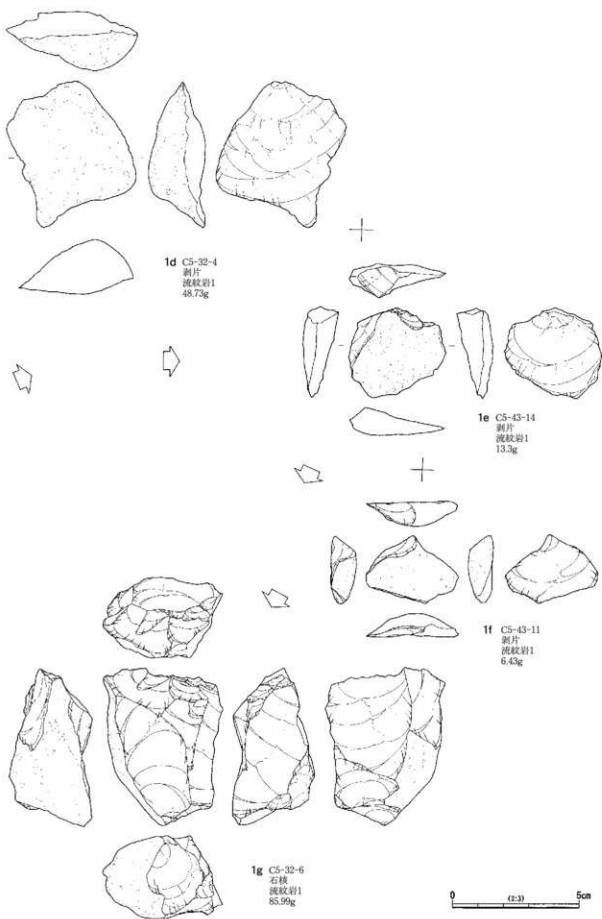




第18図 第1文化層第2ブロック東側遺物分布図



第19図 第1文化層第2ブロック出土石器(1)



第20図 第1文化層第2ブロック出土石器(2)

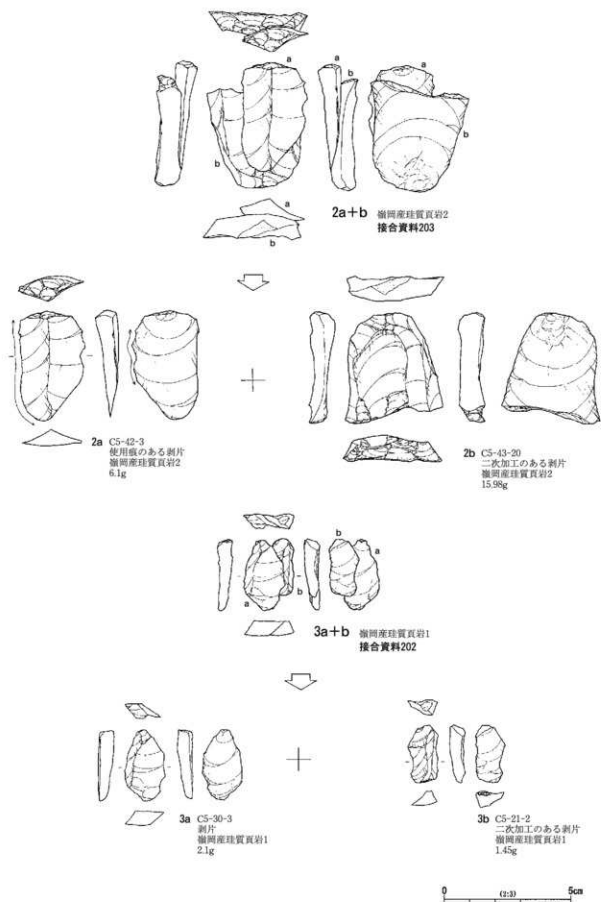
行われたサイコロ状の石核である。分割した厚みのある剥片を素材とし、小型の貝殻状の剥片を剥離している。10・11は使用痕のある剥片である。いずれも、石刃として識別可能な縦長剥片を素材とし、側縁の鋭利な刃部に連続する微細な剥離がみられ、背面構成も主要剥離面とは対向方向の剥離面で構成されており、両設打面石核から剥離された資料である可能性がある。12は二次加工のある剥片である。単体で搬入された黒曜石1が用いられており、幅広の剥片を素材とし、中間部付近と右側縁が折断され、末端部から右側縁にかけて、粗い調整が施されている。13・14は縦長剥片（石刃と識別可能）である。いずれも単体で搬入された資料であり、打面幅が狭く、末端部はねじれた形状を呈する。15は剥片である。発掘時に折れた資料であるが、接合線を太く示した。

本ブロックの特徴は、剥片剥離技術において、二つの様相がみられた点である。一つ目は、良質の石材の嶺岡産珪質頁岩2を用いた接合資料203があげられる。両設打面の石核から、縦長剥片（石刃と識別可能）を連続的に剥離する資料の一群である。製品としては、2bや7でみられたように、縦長剥片の末端部付近を折断した後に調整加工が施されるものである。この一群のものとしては、単品として搬入された11～14の資料があげられる。二つ目は、やや粗悪な石材である流紋岩1を用いて、不定形な剥片を剥離する資料の一群である。この一群のものとしては、接合資料201を含む嶺岡産珪質頁岩1の資料があげられる。ただし、この一群も流紋岩1の接合資料204の最終的な残核である1gの形状が両設打面の形状を呈し、石刃状の形態を呈する嶺岡産珪質頁岩1である10の資料がみられる。これらのことから、上記の二つの様相は、基本的には同一のものであり、縦長の石刃状の剥片を剥離しようとした意図がうかがえ、両者の違いは、石質による違いであると思われる。

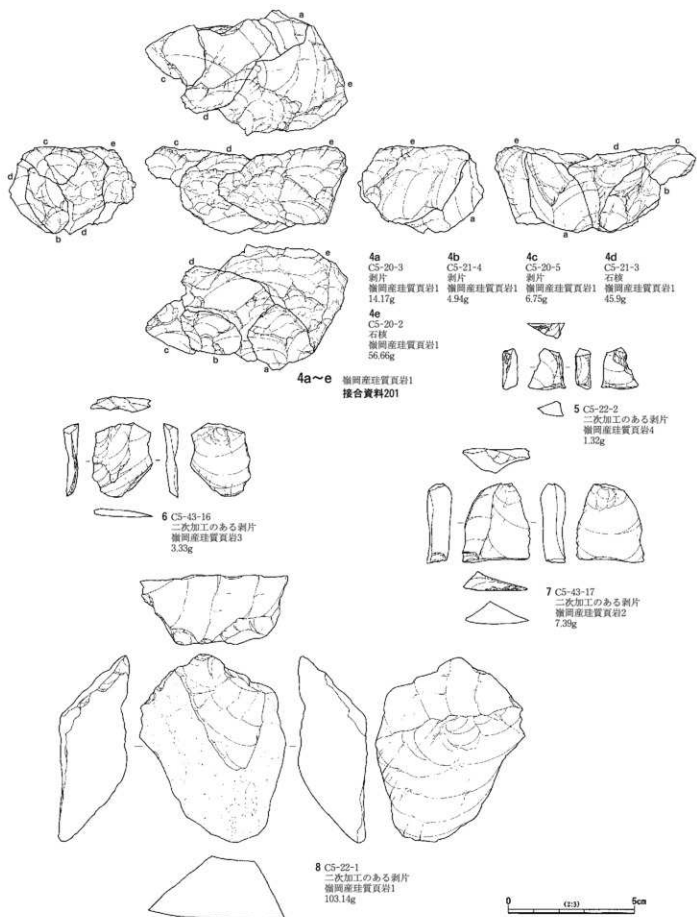
第5表 第1文化層 第2ブロック石器組成表

器種 石材	母 岩 番 号	一 次 加 工 の あ る 剥 片	使 用 痕 の あ る 剥 片	剥 片	砕 片	石 核	總 計	組 成 比 (%)
黒 曜 石	1	3, 23					3, 23	1.89 0.31
珪 質 頁 岩	1		16, 78				16, 78	1.59 2.50
嶺 岡 産 珪 質 頁 岩	2	104, 59	9, 11	40, 8		102, 56	257, 05	24.57 4.76
	2	22, 98	6, 1				29, 03	2.78
	3			1			2	3.17
	4	3, 37		1, 01			4, 34	0.41
	5	1, 37		13, 01			14, 33	1.37
	6			7, 27		23, 14	30, 46	4.76
嶺 岡 産 珪 質 頁 岩 接 合 材	8		2	3, 28		5	33	0.28
嶺 岡 産 珪 質 頁 岩 接 合 材	2	132, 22	15, 21	65, 56		125, 7	338, 99	32.40 1.59
ザ ャ ト							375, 83	35.82
ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	1			19, 28			19, 28	1.89 1.86
ト ロ ト ロ 石	1			6, 03			6, 03	0.58
流 紋 岩	1			102, 91	0.31	163	266, 21	25.10 25.45
	2			10, 68			10, 68	1.00 1.59
流 紋 岩 接 合 材				29	1	2	32	0.28
流 紋 岩 接 合 材				122, 59	0.31	163	285, 9	27.43
全 体 の 資 料 合 計		135, 45	31, 99	213, 26	0.31	288, 7	375, 83	104.6
片 数 組 成 比 (%)		11.11	4.76	78.02	1.59	7.94	100.00	
重 量 組 成 比 (%)		12.98	3.06	29.44	0.03	27.50	100.00	

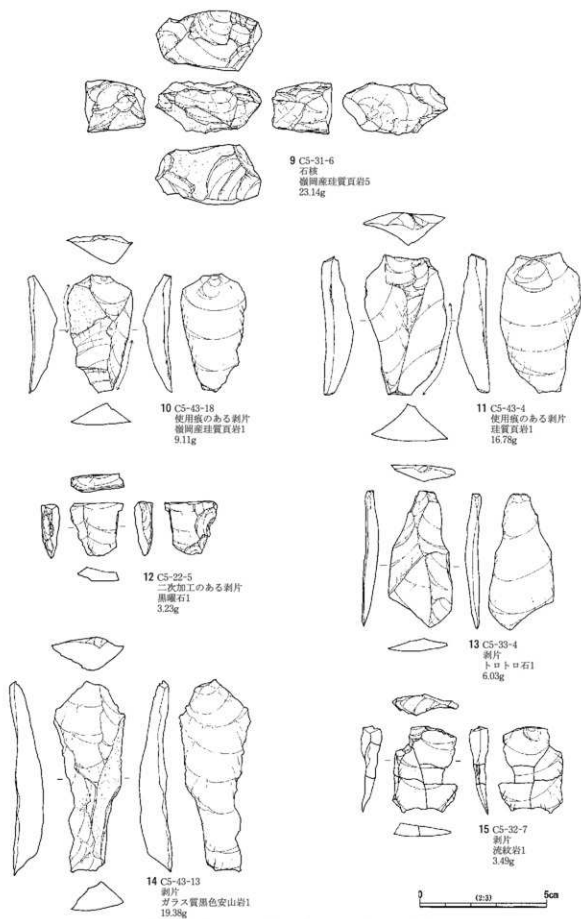
【上段：点数、 下段：重量(g)】



第21図 第1文化層第2ブロック出土石器(3)



第22図 第1文化層第2ブロック出土石器(4)



第23図 第1文化層第2ブロック出土石器(5)

(4) 第3ブロック (第24～26図、第6・14表、図版4・8)

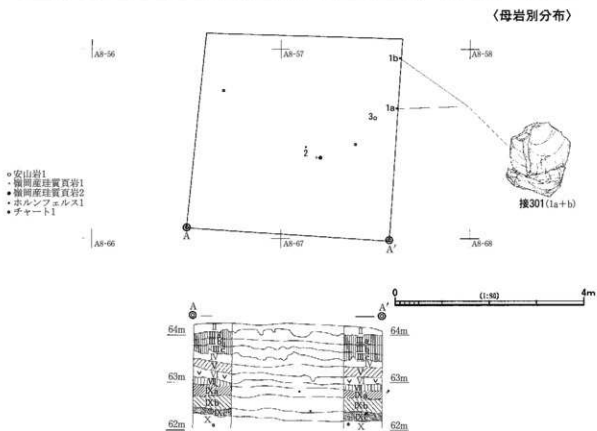
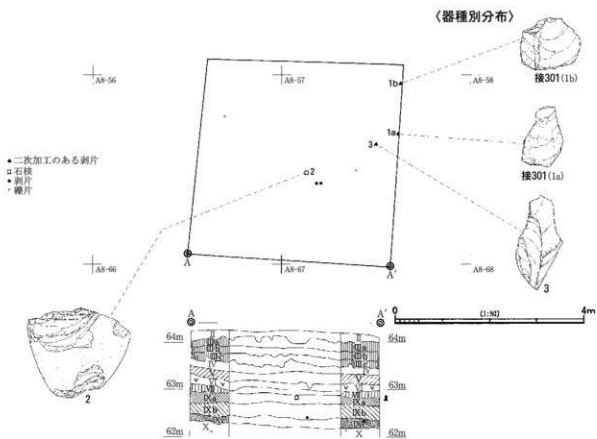
出土状況 調査区北東側のA8-57を中心として、約4m×3mの楕円形の範囲に散漫に分布している。同じ文化層と識別した第1・2ブロックや第2文化層である第4～8ブロックとは離れた位置に立地する。X層上部～IX a層にかけて幅広く出土しており、出土点数が少ないことから、生活面を特定することは困難である。しかしながら、出土層位が第1・2ブロックと近似していることと、剥片剥離技術に第1文化層を特徴付ける両設打面から剥離された資料がみられることから、本ブロックを第1文化層の資料として取り扱うこととし、生活面をIX c層と推定した。

出土遺物 二次加工のある剥片(1b・3)2点、石核(2)1点を含む8点が出土した。1a+b(接合資料301)は、やや粗悪な石材である嶺岡産珪質頁岩1を用いている。剥離順序を1a+bの実測図で記載する。左側縁下部を打面として、厚みのある不定形な剥片1aを剥離後、打面を上部に転移して、1bを剥離している。1bは厚みのある幅広剥片を素材とし、左側縁上部に粗い調整加工が施されている。二次加工のある剥片として識別したが、表面左側に2面の剥離面があり、主要剥離面もネガティブ面である可能性もあることから、石核として識別することも可能である。2は扁平な楕円形礫を素材とした両設打面の石核である。下端部からの剥離は打面が線状になっていることから、楕円形礫から剥離した初期の剥離技術は、両極剥離によるものである可能性が高い。主に剥離された剥片は、上端部から剥離されている。まず、表面側を打面として、裏面上部側に4枚以上の剥片を剥離した後に、打面を裏面に転移して、表面側に4枚以上の剥片を剥離している。いずれの剥片も幅広の不定形な剥片が剥離されている。上端部の打面形状は波状を呈しており、細かい剥離がみられる。本資料は、単品で搬入されており、剥離された剥片は本ブロックには残存していない。石核として識別したが、大型の楔形石器、あるいは、礫器として識別可能な資料である。3は二次加工のある剥片である。単品で搬入された資料である。おそらく両設打面の石核から剥離された剥片を素材としたものと思われる。左半部は左下端部から器体中央部まで達する調整加工が施され、上部は粗い調整加工が施されている。右側縁中央部には、連続する細かい剥離がみられる。

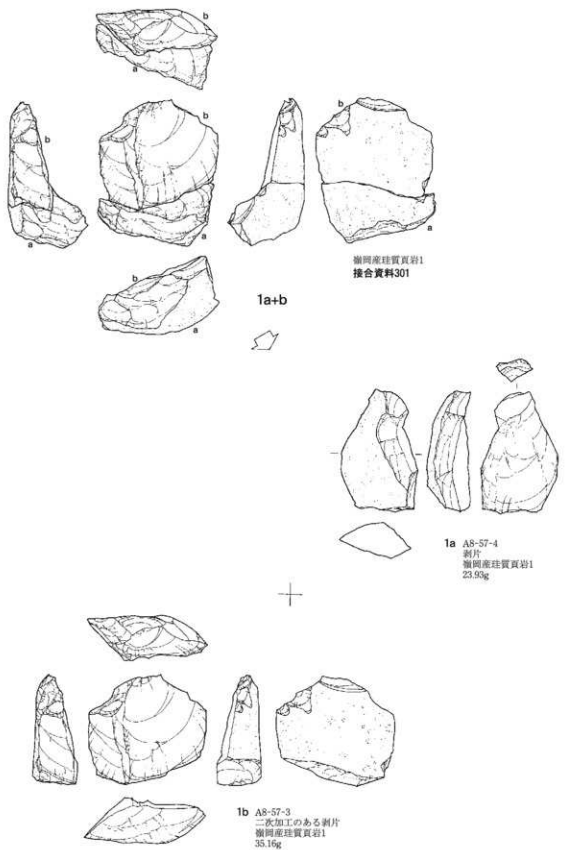
第6表 第1文化層 第3ブロック石器組成表

器種 石材	剥 離 番 号	二次加工のある剥片		石核		礫 片 計	組 成 比 (%)
		片	片	片	片		
嶺岡産珪質頁岩	1	1	2			3	37.50
	2	35.16	52.44			87.6	20.57
深田産珪質頁岩 徳田産珪質頁岩 家島産珪質頁岩	1		1			1	12.50
			7.82			7.82	1.84
ナキ	1	35.16	60.25			95.41	23.41
						2	5.00
安山岩	1					63.7	14.98
						2	5.00
ホルンフェルス	1	23.26				23.26	5.79
					243.35	243.35	57.15
全体の石器合計		58.57	60.26		243.35	63.7	426.82
		9.50	37.50		12.50	25.00	100.00
点検 数 組 成 比 (%)		13.74	14.15		57.15	14.98	100.00

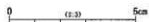
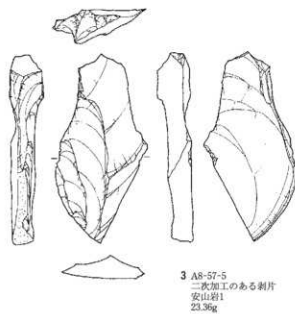
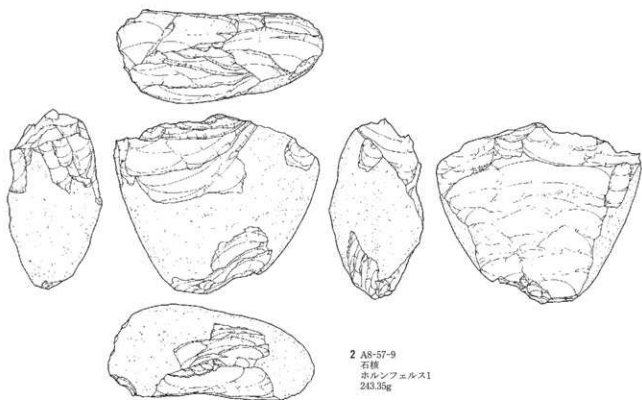
【上段：点数、下段：重量(g)】



第24図 第1文化層第3ブロック遺物分布図



第25図 第1文化層第3ブロック出土石器(1)



第26図 第1文化層第3ブロック出土石器(2)

4 第2文化層

(1) 概要 (第7・27図, 第1・2・7表)

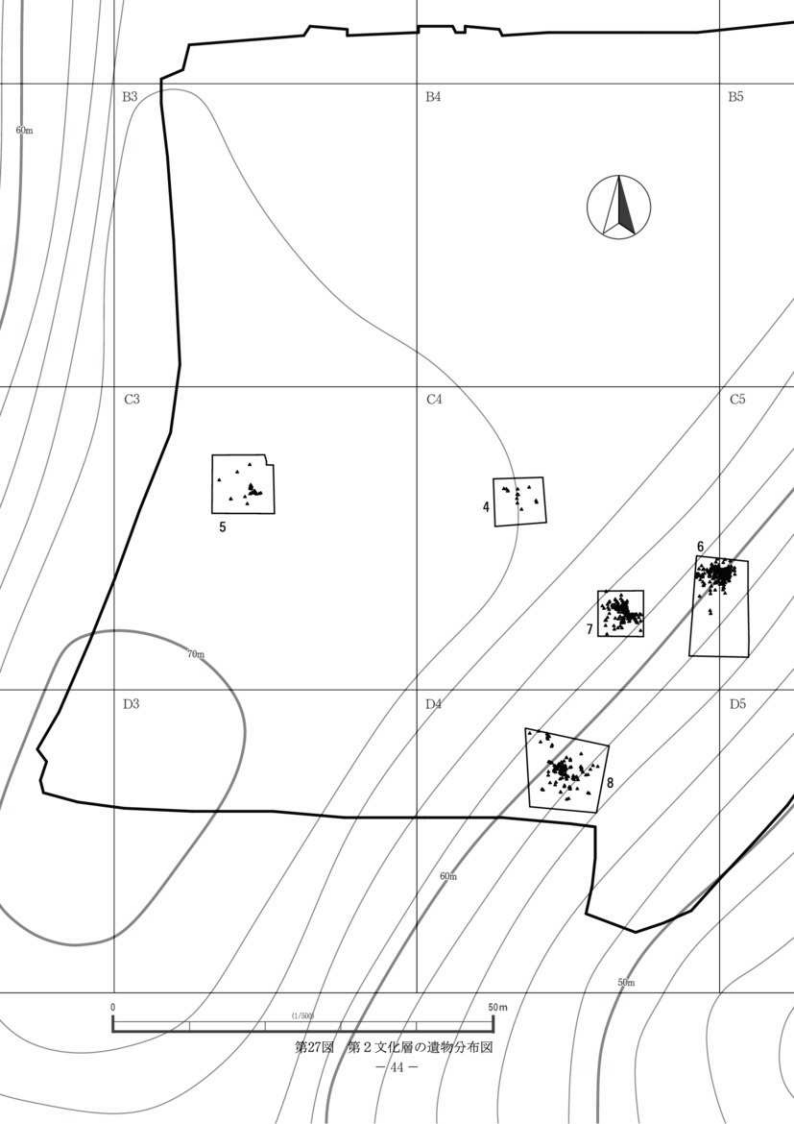
第2文化層の石器群は、総計683点出土し、第4～8ブロックの5か所にブロックが識別できた。生活面は、V層～IV層下部と考えられる。調査区の南西側に分布し、第4ブロックは平坦部、第5ブロックは西側斜面部、第6～8ブロックは南東斜面部にそれぞれ立地する。

これらの石器群は、ブロック間に接合資料がみられないので、厳密な意味では、同一時期のものとはいえない。しかしながら、出土層位がV層～IV層下部に集中し、調査区の南西部にまとまって分布することから、同一段階の石器群としてとらえた。第6～8ブロックの出土点数が多いが、第4・5ブロックの出土点数は少ない。各ブロックごとに、異なる器種・石材組成を示すが、角錐状石器・ナイフ形石器・搔器・敲石が文化層を特徴付ける器種となっており、石材では黒曜石と嶺岡産珪質頁岩が主体を占める。

第7表 第2文化層器種石材組成表

器種 石材	角 錐 状 石 器		ナ イ フ 形 石 器		搔 器		敲 石		角 錐 状 石 器		ナ イ フ 形 石 器		搔 器		敲 石		点 数 合 計	重 量 合 計	点 数 組 成 比 (%)	重 量 組 成 比 (%)
	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量	点 数	重 量				
黒曜石	3	2	1	3.0	20	19.4	31	3									34	48.90		
成良頁岩	2.49	10.12	1.4	428.90	33.22	143.12	6.59	28.54										264.85	2.98	
安山岩																				
ガラス質黒成安山岩																				
頁岩																				
珪質頁岩																				
嶺岡産珪質頁岩	23.29																			
成良頁岩																				
ホルシフェルス																				
チャート																				
黒曜(モノクミン)																				
成良頁岩																				
成良頁岩																				
成良頁岩																				
トピトキ石																				
点 数 合 計	2	9	4	4	55	30	208	85	19	10	2	1	20	116	180	190	190			
重 量 合 計	23.29	3.76	71.92	27.37	283.84	138.92	1,137.23	7.77	2,463.49	2,111.38	158.86	278.5	1,276.41	6,214.64	13,258.97	190.00	190.00			
点 数 組 成 比 (%)	0.14	0.59	0.59	0.59	8.05	4.29	49.49	12.45	2.79	1.46	0.29	0.13	2.45	17.28	106.09					
重 量 組 成 比 (%)	0.18	0.05	0.56	0.21	2.67	1.03	11.83	0.08	15.23	15.90	1.29	2.04	8.67	29.65	100.00					

【上記: 点數, 下段: 重量(%)】



第27図 第2文化層の遺物分布図

器種石材組成表は第7表のとおりである。器種組成においては、角錐状石器3点、ナイフ形石器4点、搔器4点、楔形石器4点、二次加工のある剥片55点、使用痕のある剥片30点、石核19点・敲石10点が主要器種である。角錐状石器・ナイフ形石器・搔器・敲石が本文化層を特徴付ける器種となっている。

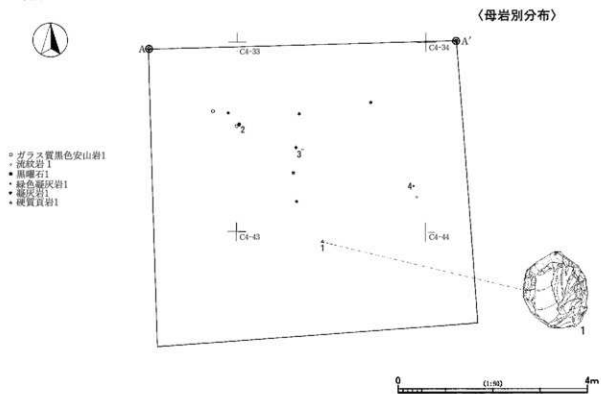
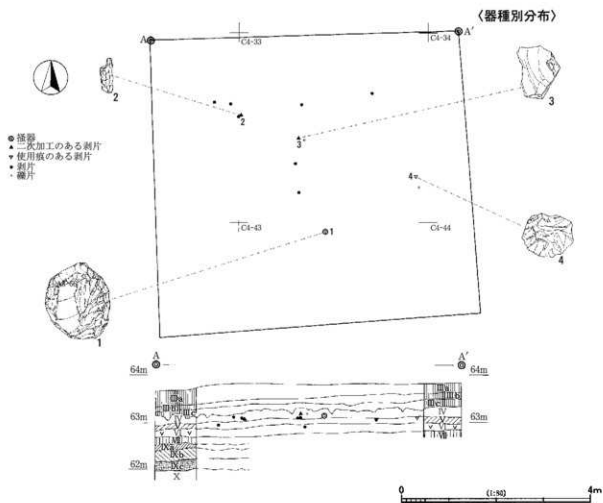
石材組成においては、黒曜石が334点(48.9%)でもっとも多く、嶺岡産珪質頁岩130点(19.03%)、チャート76点(11.13%)、砂岩45点(6.59%)が主体を占める。角錐状石器・ナイフ形石器・搔器などの製品は、主に黒曜石と嶺岡産珪質頁岩が用いられている。礫・礫片は、主に流紋岩・チャート・砂岩が用いられている。礫・礫片は散漫に分布しており、礫群と識別できるような分布状況ではないものの、128点出土していることから、礫群を伴う石器群としてとらえることが可能である。

器種と石材の関連については、嶺岡産珪質頁岩と黒曜石の用いられ方が、各ブロックにおいて差異がある。第7ブロックにおいて、嶺岡産珪質頁岩を用いて角錐状石器が製作された痕跡がみられる。それに対して第6・8ブロックにおいては、黒曜石が多く用いられ、ナイフ形石器が製作された痕跡がみられる。

(2) 第4ブロック(第28・29図、第8・14表、巻頭図版1、図版4・9)

出土状況 南西部の斜面の縁辺付近に分布する。約5m×4mの楕円形の範囲に散漫に分布している。北東部にやや集中しており、二次加工のある剥片(2・3)が分布する。集中部からやや離れた南部に搔器(1)、東部に使用痕のある剥片(4)がそれぞれ分布している。出土層位は、VI層～IV層にかけて分布し、V層～IV層下部に集中する。

出土遺物 搔器(1)1点、二次加工のある剥片(2・3)2点、使用痕のある剥片(4)1点を含む13点が出土した。1はチョコレート色の硬質頁岩の搔器である。肉眼観察ではあるが、この石材は磐越高地から持ち込まれた石材であると思われる。この石器は、本ブロック・本文化層を特徴付ける資料であるので、詳細に石器製作過程を記載する。数段階の調整加工の痕跡がみられ、再生加工が行われた結果、円形の搔器となった可能性がある。素材は幅広打面で、石核の底面を取り込んだ厚みのある剥片が用いられている。製作過程を段階別に順次観察してみよう。第1段階は、素材の器体右下部の厚みを除去する成形加工が、右側縁から器体中央部まで及ぶ階段状の剥離が施されている。本来は、器体右下部の厚みを除去する目的で剥離が行われたが、器体中央部で剥離面が階段状になったため、右側縁からの成形加工を断念したものと思われる。その後、右側縁下部に背面側から急角度の調整加工を施して、器体右下部の厚みを除去する加工が施されている。第2段階は、左側縁上部にやや急角度の調整加工が施されている。なお、左側縁中央部付近には素材剥離面が残されている。第3段階は、右側縁にやや急角度の調整加工が施されている。右側縁上端部の調整加工は、左側縁の調整加工面まで及んでおり、桶状の剥離が施されている。なお、この剥離面の上部には、素材剥片の打面が幅広に残存しており、幅広の厚みのある剥片を素材としたことがうかがえる。第4段階は、末端部の下部に急角度のブランディングが入念に施されている。2・3は二次加工のある剥片である。2は単品で搬入された良質な黒曜石1が用いられている。背面は主要剥離面と同一方向から連続的に剥離されており、石刃と識別可能な縦長剥片を素材として上下上端を折断した後に、折断面に微細な剥離が施されている。3は厚みのある不定形な剥片を素材とし、上下両端を折断した後に、上部に腹面側から粗い調整加工が施されている。4は幅広の打面から剥離された剥片を素材とし、末端部の鋭利な縁辺に微細な剥離が連続的にみられる。

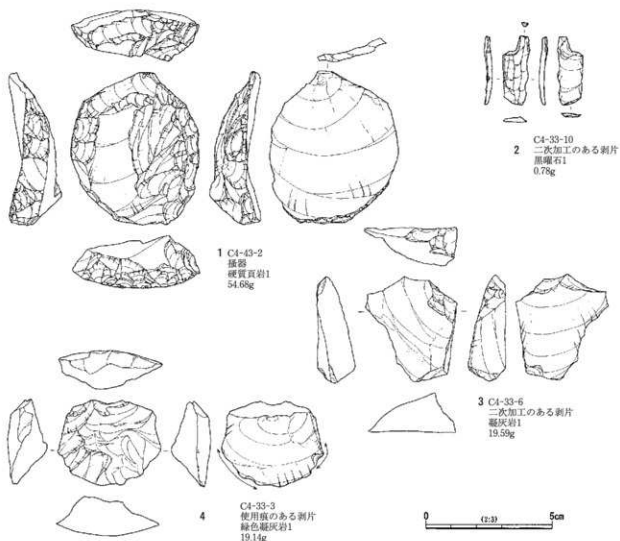


第28図 第2文化層第4ブロック遺物分布図

第8表 第2文化層 第4ブロック石器組成表

器種 石材	母 形 番 号	種 類	二 次 加 工 の あ る 割 片	使 用 痕 の あ る 割 片	割 片	種 片	総 計	組 成 比 (%)
黒曜石	1		6.78				1	7.69
硬質頁岩	1	54.68					1	0.38
ガラス質黒色安山岩	1				9.7		1	7.69
緑色凝灰岩	1		19.59		40.34		6	26.33
流紋岩	1			19.11			1	18.38
全 体 の 割 片 の 数			2	1	7	2	12	100.00
全 体 の 重 量		54.68	20.37	19.11	50.94	63.75	207.85	100.00
組 成 比 (%)		7.69	15.38	7.65	24.19	30.45	100.00	
組 成 比 (%)		26.33	9.81	9.22	24.19	30.45	100.00	

[上段：点数、下段：重量(g)]



第29図 第2文化層第4ブロック出土石器

(3) 第5ブロック (第30～33図、第9・15表、巻頭図版1、図版5・9)

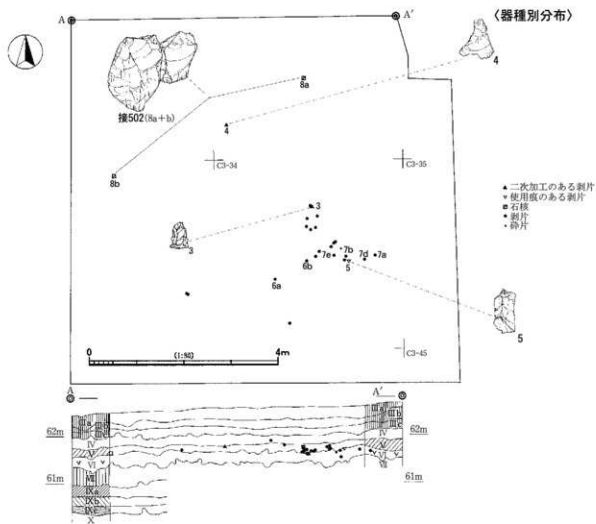
出土状況 第2文化層でもっとも西側に位置し、やや平坦な面に立地する。約5m×5mの円形の範囲に分布する。南東部では、接合資料501を含むガラス質黒色安山岩1と接合資料503を含むガラス質黒色安山岩3が集中して分布している。北西部ではわずか3点の出土であるが、石核の接合資料502であるガラス質黒色安山岩2と二次加工のある剥片(4)が分布している。南東部では製品の割合が低く、剥片が多く分布している。出土層位は、VI層～IV層にかけて分布し、V層に集中する。

出土遺物 二次加工のある剥片(1～4)4点、使用痕のある剥片(5)1点、石核(8a+b)2点を含む32点が出土した。1～4は二次加工のある剥片である。1は自然面打面で幅広の剥片を斜用に用いて、左側縁中央部にノッチ状の調整加工が施され、左側縁下部と右側縁に微細な連続する剥離面がみられる。2は節理面で剥離された不定形な剥片を素材とし、上部から右側縁上部にかけて背面側から粗い調整加工が施されている。3は嶺岡産珪質頁岩を用いて両側縁に鋸歯状の粗い調整加工が施されている。器体の中央部付近は背面から折断(あるいは破損)されている。第7ブロックなど他のブロックにおいて、嶺岡産珪質頁岩を用いて、角錐状石器が製作されていることから、角錐状石器の未製品である可能性がある。4は末端部が幅広の剥片を素材とし、末端部に粗い調整加工が施されている。5は使用痕のある剥片である。左側縁に微細な剥離面が連続的にみられる。6a+b(接合資料503)は幅広の剥片である。6aと6bとの剥離は、6a+bの剥片の剥離時の同時割れによるものと思われる。7a～e(接合資料501)は上部の大きな分割面を打面として、連続的に剥片を剥離した接合資料である。初期の剥離で背面に自然面が大きく残る7aには頭部調整が行われていないが、7b～eはわずかではあるが頭部調整が行われている。8a+b(接合資料502)は、石核が2点接合した資料である。分割した2個体の個別別資料であるが、それぞれの石核から剥離された剥片は本ブロックでは残存していない。9は細長の楕円形礫の上下両端に敲打痕がみられる敲打石である。下端部の敲打痕が顕著である。

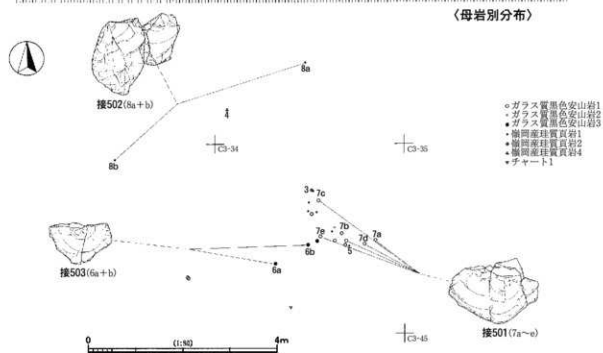
第9表 第2文化層 第5ブロック石器組成表

器種	番号	二次加工のある剥片	使用痕のある剥片	剥片	砕片	石核	礫	総計	組成比(%)
嶺岡産珪質頁岩	1	2	1	6				9	28.13
	2	30.82	6.18	25.41				62.42	19.37
	3	1		11.07				11.07	3.42
	4	10.82						10.82	3.33
		6.33						6.33	1.94
嶺岡産珪質頁岩		71.25	1	8				79.54	24.32
ガラス質黒色安山岩		46.98	6.18	46.05				99.54	30.30
ナヤト	1			4.34				4.34	1.33
ガラス質黒色安山岩	1			11	0.17			11.17	3.42
	2			94.83				94.83	29.00
	3			3		137.19		140.19	42.83
				18.61				18.61	5.72
ガラス質黒色安山岩				14	1			15	4.63
ガラス質黒色安山岩	1			113.35	0.17	137.19		250.71	76.35
全体の産出量		4	1	23				28	8.63
全体の組成比(%)		46.98	6.18	164.36	0.17	137.19		354.88	100.00
産出量組成比(%)		12.50	3.13	71.88	0.15	6.25		93.91	27.88
産出量組成比(%)		8.25	1.07	28.87	0.03	24.10		52.32	15.62

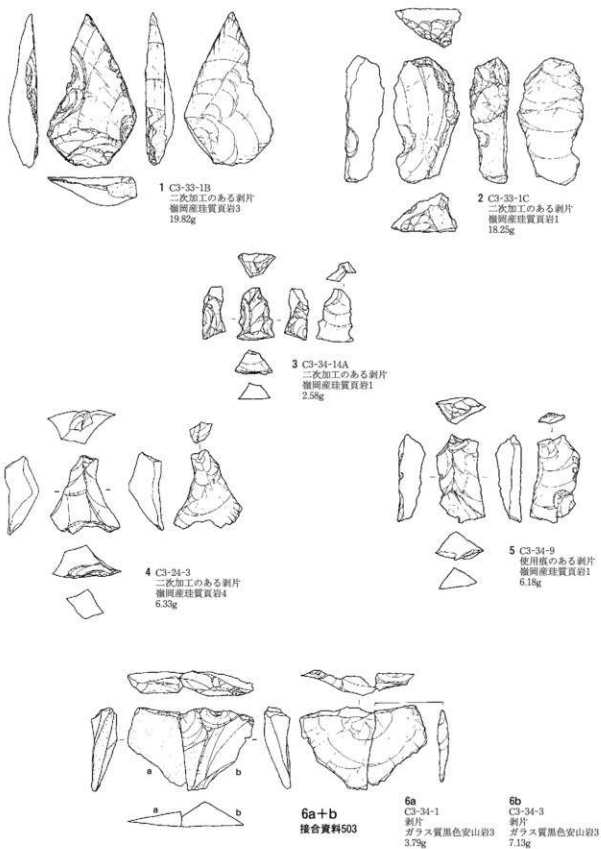
[上段: 点数, 下段: 重量(g)]



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

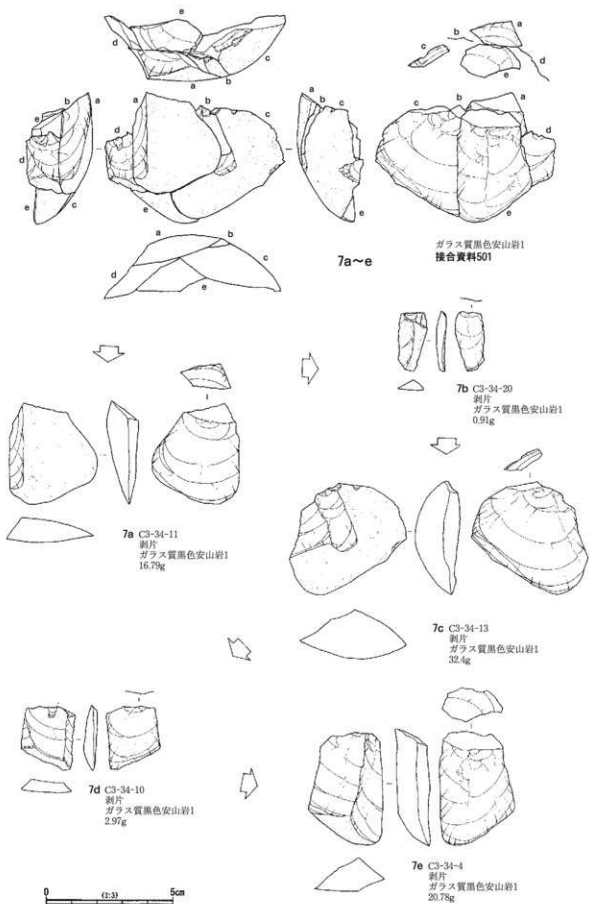


第30図 第2文化層第5ブロック遺物分布図

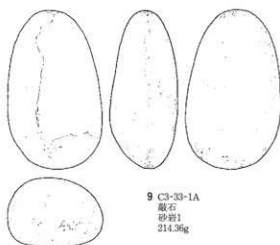
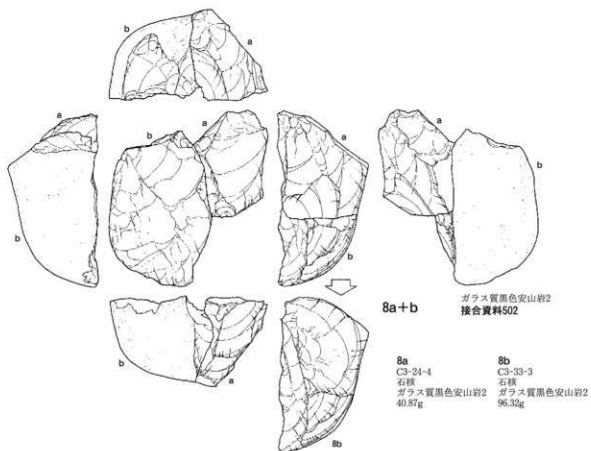


0 (c.3) 5cm

第31図 第2文化層第5ブロック出土石器(1)



第32図 第2文化層第5ブロック出土石器(2)



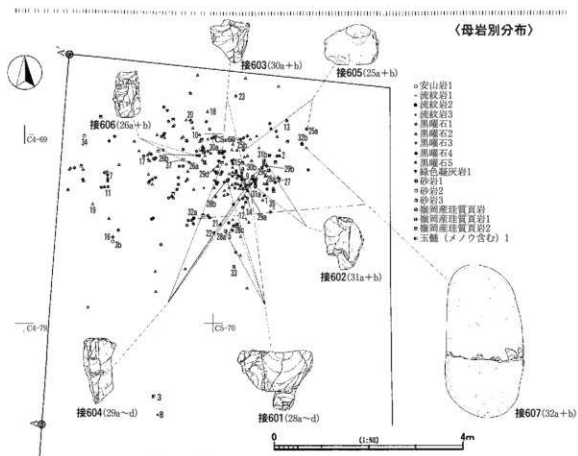
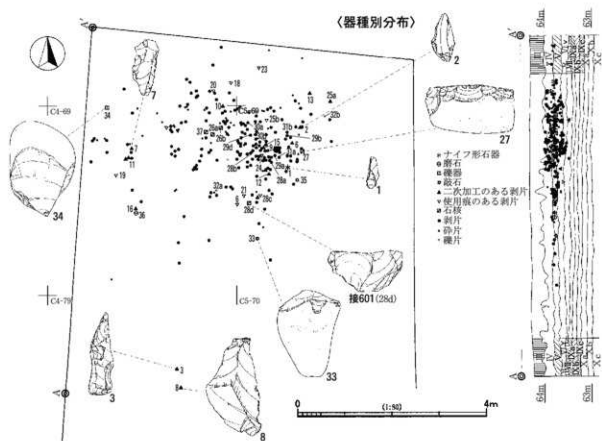
第33図 第2文化層第5ブロック出土石器(3)

(4) 第6ブロック(第34~41図、第10・15~19表、巻頭図版1・、図版5・10・11)

出土状況 第2文化層のもっとも東側に位置し、南西斜面に分布する。C4-69・C5-60グリッドを中心に、約7m×5mの楕円形の範囲に分布している。集中地点は、北東部と北西部と南部の3か所に分けることができる。なかでも、北東部はC5-60グリッドを中心とした約3m×3mの円形の範囲に密集し、この集中区なかで接合資料が多くみられた。北東部の集中地点はC4-69グリッド西側に位置し、散漫に分布し、接合資料がみられない。南部の集中地点はC4-79グリッドに位置し、2点のみの出土であるが、いずれも二次加工のある剥片(3・8)であり、単品で搬入された石器である。出土層位は、VI層~IV層にかけて分布し、V層~IV層下部に集中する。

出土遺物 ナイフ形石器(1)1点、二次加工のある剥片(2~16・25a)16点、使用痕のある剥片(17~24・25b・28c)10点、石核(26a+b・27・28d・37)5点、敲石(33・35)2点、磨石(36)1点、礫石(34)1点を含む275点が出土した。石材組成は、黒曜石が230点(83.64%)できわめて高い割合を示している。第2文化層のなかでも、黒曜石の出土点数がもっとも多い。特に、黒曜石1・2は出土点数が多く、ナイフ形石器や二次加工のある剥片が本ブロックで製作されたことがうかがえる。次に、嶺岡産珪質頁岩が34点(12.36%)である。他の安山岩・玉髓(メノウ含む)・砂岩・緑色凝灰岩・流紋岩はほとんど単独の母岩で搬入されている。

1はナイフ形石器である。やや厚みのある縦長剥片を素材としており、打面部を上部に用いて調整加工が施されている。まず、打面部の左側縁上部を背面方向から折断した後に、さらに急角度のブランティング加工が施されている。次に、左側縁下部は腹面方向から急角度のブランティング加工が施されている。右側縁下部はやや粗い調整加工が施されている。先端部は破損しているが、破損面に微細な剥離面がみられる。2~16は二次加工のある剥片である。2は幅広い剥片を素材とし、素材を斜位に用いている。左下部だけにやや粗い調整加工が施されている。右側縁上部には、微細な剥離痕が連続的にみられる。形態的には、ナイフ形石器として識別可能であるかもしれないが、ブランティング加工が施されていないことから、二次加工のある剥片として識別した。3は節理面に沿って剥離された厚みのある剥片を素材としている。下部に素材の打面部である自然面が残っている。調整加工は、左側縁から行われており、左側縁を背面方向から折断後に、左側縁上部を腹面側から粗い調整加工で成形している。さらに、左側縁中央部の折断面に背面方向から調整加工が施されている。次に、右側縁上半部を背面側から折断した後に、右側縁上部と下部を腹面側から粗い調整加工で成形している。良質な玉髓(メノウ含む)1が用いられており、単品で搬入されている。形態的には、角錐状石器として識別可能であるが、調整加工が粗く、細かい調整加工がみられないことから二次加工のある剥片として識別した。4は背面に大きく自然面を残した横長剥片を横位に用いて、打面部を折断後に折断面に微細な剥離痕が連続的にみられる。左側縁下部は背面方向からやや粗い調整加工が施されている。右側縁の剥離痕をブランティング加工としてとらえることも可能なので、ナイフ形石器として識別することも可能である。5は透明度のない黒曜石4を用いている。右側面に自然面を残し、背面構成は主要剥離面と同一方向から数枚の剥離がみられる。末端部を折断後に、折断面を打面として、背腹両面に調整加工と連続する微細な剥離痕がみられる。第2文化層の他のブロックから搔器が出土していることから、搔器として識別することも可能である。6・7は縦長で厚みのない剥片を素材とし、側縁に細かい調整加工が施されている。8は打面幅が狭く、頭部調整が顕著に行われた縦長の剥片を素材としている。器体中央部がもっとも幅が広く、末端部は右側にねじれている。左側縁上部は



第34図 第2文化層第6ブロック遺物分布図

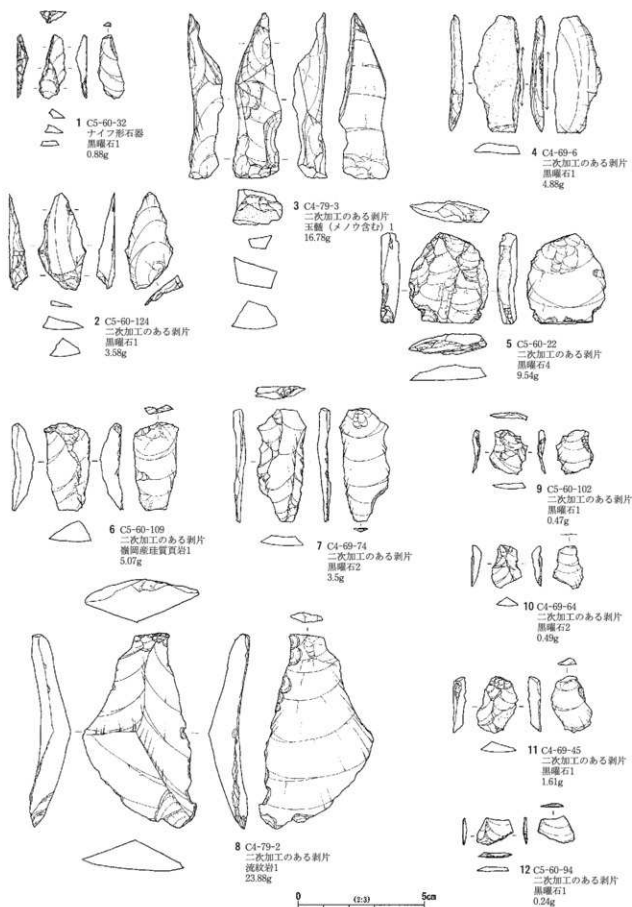
背面側から、左側縁下部は腹面側から、それぞれ細かい調整加工が施されている。9～12は小型の剥片を素材とし、鋭利な縁辺に細かい調整加工が施されている。13・14は厚みのある剥片を素材とし、鋭利な縁辺に調整加工が施されている。15は幅広で頭部調整が顕著に行われた幅広の剥片を素材とし、末端部を腹面方向から折断後に、左右両下端部に急角度の調整加工が施されている。5と類似した剥離方法であることから、揺器として識別可能である。16は線状の打面から剥離された剥片を素材とし、腹面方向に末端部から器体の中央部付近まで達する調整加工が施されている。打面と下端部が線状であることから、両極剥離によるものである可能性があり、楔形石器として識別可能である。17～24は使用痕のある剥片である。17・19・20は細長の小型の剥片を素材とし、側縁に連続する微細な剥離がみられる。17は背面上部に稜上調整がみられることから、17・19・20は石刃技法によるものである可能性がある。18・21～24は、打面の幅が狭く、末端部がねじれた形状を呈する不定形な剥片を素材とし、側面や末端部の鋭利な刃部に微細剥離がみられる。25a + b（接合資料605）は、打面幅の広い厚みのある幅広の剥片である。25a + bを剥離後、25bを剥離した後に、25aの右側縁に背腹両面から交互剥離が行われている。25aは二次加工のある剥片としたが、厚みのある剥片を素材とした石核である可能性もある。25bは末端部に微細な剥離がみられる使用痕のある剥片である。26a + b（接合資料606）は、良質な黒曜石3が用いられた両設打面の石核である。厚みのある剥片を素材としたものと思われ、下端部に素材の打面がわずかに残っている。素材末端部を折断した後に折断面を打面として、上端部から縦長で細長い縦長剥片を数枚剥離している。左下端部は背面側から稜上調整をした後に、下端部からも数枚の縦長剥片が剥離されている。27はチョッピングツール状の石核である。やや粒子の粗い緑色凝灰岩1が用いられており、本ブロックに単品で搬入されている。楕円形の円礫を素材とし、左側縁は上部から、右側縁は下部から分割して石核の成形が行われている。表面上部を打面として、裏面側に幅広の貝殻状の幅広剥片を数枚剥離後、裏面上部を打面として、同じく幅広の貝殻状の幅広剥片を数枚剥離している。上端部の打面形状は波状を呈し、敲打により潰れている。単品で搬入された石核を礫器として使用した可能性もある。28a～d（接合資料601）は節理の強い石質である嶺岡産珪質頁岩1を用いている。上面や裏面を打面として剥離した剥片には、節理に沿って同時割れた資料が多くみられた。素材は上面の節理面に沿って分割された厚みのある剥片である。剥離順序は、上面の分割面を打面として28aを剥離、この際に節理面に沿って28bも同時割れたものと思われる。次に、表面左下部から28cを含む数枚の剥片を剥離している。裏面右下部には石核成形の痕跡がみられるが、その後に剥片は剥離されていない。残核である28dは、多方向からの剥離面で構成されており不定形な形状を呈する。29a～d（接合資料604）は、頭部調整の顕著な縦長剥片を連続的に剥離した接合資料である。29aは細長で29a～d（接合資料604）の下端部付近まで達するまでの長さのものである。29aの下端部の剥離面から、おそらく剥離時に器体上部付近で割れてしまった資料と考えられる。これと同様に、29bと29cも、29b + cの状態では剥離した時に、器体中央部付近で同時割れた資料と考えられる。29a + bの剥離時の前に、頭部調整・打面調整と下端部左側縁からの稜上調整がみられ、入念な石核成形の後に、縦長剥片が剥離されたことが観察される。次に29dの縦長剥片が剥離されている。29a～d（接合資料604）は、背面に残されている同一方向の連続する剥離と頭部調整・打面調整・稜上調整などの特徴から、石刃技法によるものである可能性がある。30a + b（接合資料603）は、頭部調整が顕著に行われた縦長剥片が数枚連続的に剥離された接合資料である。打面幅が狭く、厚みのない剥片が剥離されている。31a + b（接合資料602）は、背面に自然面を残す初期段階の剥離の接合資料である。31

bは頭部調整が顕著に行われ、打面幅が狭い不定形剥片が剥離されている。32 a + b (接合資料607)は、大型の楕円形礫を素材とし、器体中央部付近を表面から分割している。礫片の接合資料として識別したが、32bの下端部には敲打痕がみられ、32bは分割面の縁辺に敲打によるものと思われる剥離面が連続的にみられることから、敲石と識別するほうが妥当かもしれない。33は厚みのある楕円形礫を中央部付近で分割した礫を素材とし、下端部に顕著な敲打痕がみられる。分割面の縁辺にも連続する剥離面がみられ、この剥離も敲打によるものと思われる。この特徴は、31 a + b (接合資料602)と類似している。34は礫器である。扁平な円礫を素材とし、下部から2回の器体中央部まで及ぶ剥離を行い、下端部に鋭利な縁辺を作出し、この鋭利な縁辺に背腹両面に細かい連続する微細な剥離痕がみられる。35は楕円形礫を素材とし、下端部に敲打痕がみられる敲石である。36は多孔質の安山岩を用いた小型で不定形な磨石である。両面の器体中央部の平坦面に研磨痕がみられる。37は大型で厚みのある楕円形礫を素材とし、上端部から4枚以上の幅広の剥片、表面から上面に1枚の剥片が剥離された石核である。石核として識別したが単独母岩であり、縁辺に敲打と思われる潰れ痕がみられることから、礫器である可能性がある。

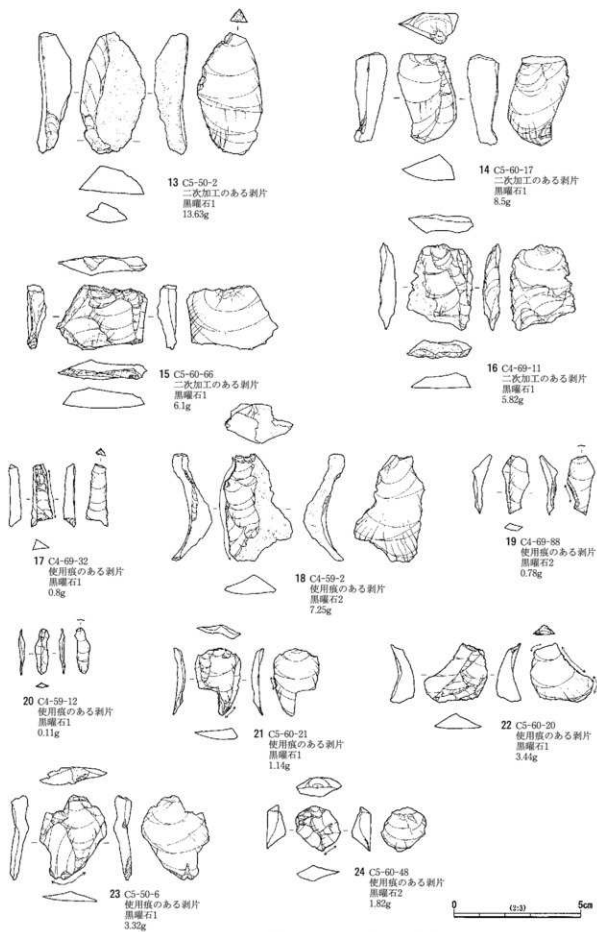
第10表 第2文化層 第6ブロック石器組成表

器種 石材	器 番 号	ナイフ 形 石 核	二 次 加工 のある 剥片	使用 痕 のある 剥片	剥 片	礫 片	石 核	敲 石	磨 石	礫 器	礫 片	総 計	組 成 比 (%)
黒 曜 石	1	1	10	6	71	23						111	40.36
	2	0.88	7.18	11.35	81.39	2.04						170.97	4.71
	3		3.99	9.85	31.53	2.1						47.77	41.45
	4						16.31					16.31	0.45
	5		9.81									9.81	0.26
黒曜石 五箇合 計	1	0.88	13	9	148	57	16.31					230	83.64
黒曜石 五箇合 計	1	0.88	89.21	21.2	118.03	4.54	16.31					242.07	6.88
安 山 岩	1		5.07	10.69	39.85	11						106.44	3.20
	2				43.22	0.51						43.73	1.19
安 山 岩	1		5.07	10.69	84.88	0.51	52.86					154.98	4.26
二 割 (メノウ 含む)	1				1.81	29	2					1.81	0.05
	2											29	0.76
砂	1							376.55				376.55	10.41
	2									270.5		270.5	7.36
砂 岩 片 岩 片 岩 片	1						814.81					814.81	22.62
	2						814.81	376.55		270.5		1,461.86	40.40
緑 色 凝 灰 岩	1						96.3					96.3	2.66
	2												0.29
成 政 研	1											23.88	0.65
	2											1,898.32	51.71
	3											1.53	0.04
	4											1.53	0.04
凝 灰 岩 片 岩 片 岩 片	1							467.81				467.81	12.83
	2											1,629.86	44.88
全 体 の 集 計	1		29.88	10	177	59	5	2				275	100.00
	2	0.88	133.34	31.56	202.71	4.76	260.28	814.86	376.55	270.5	1,629.86	3,618.92	100.00
全 体 の 集 計	1	0.35	5.82	3.64	84.36	21.45	1.82	0.73	0.36	0.36	1.09	100.00	100.00
	2	0.02	3.70	0.88	5.61	0.14	27.09	23.24	2.45	7.48	29.29	100.00	100.00

[上段:点数, 下段:重量(g)]



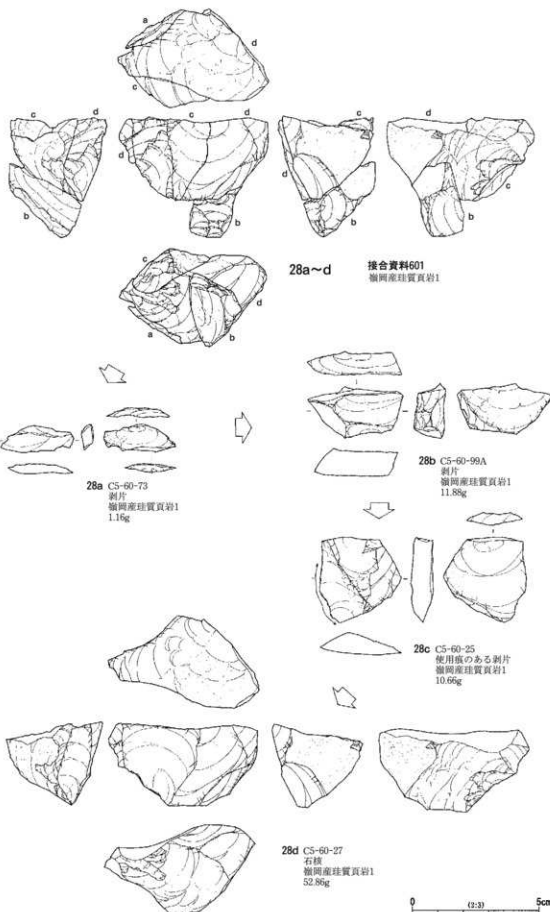
第35図 第2文化層第6ブロック出土石器(1)



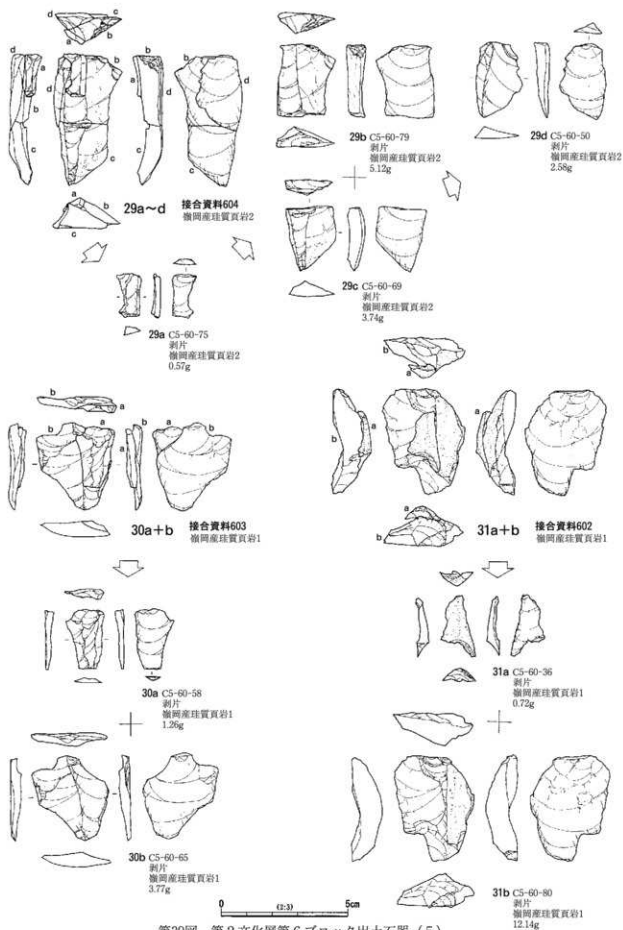
第36図 第2文化層第6ブロック出土石器(2)



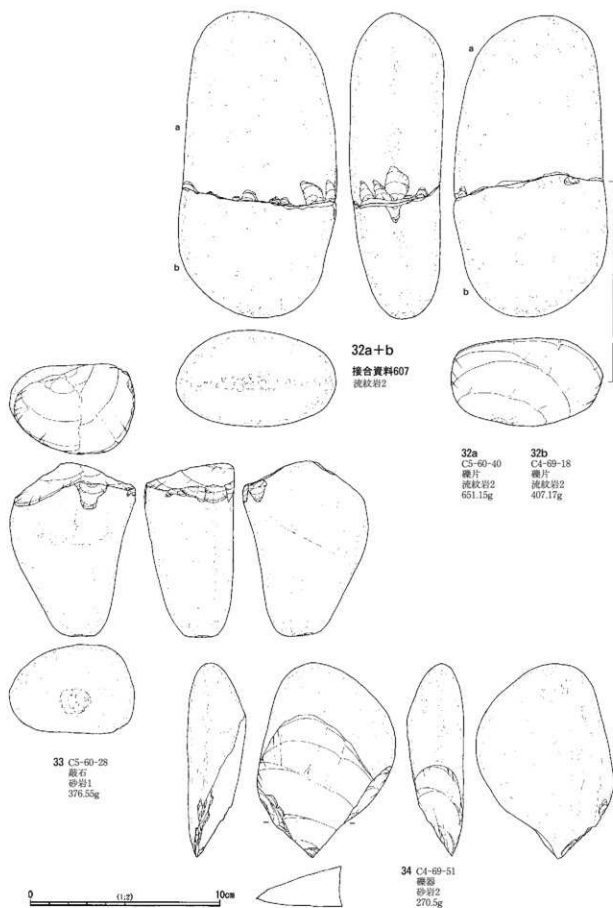
第37図 第2文化層第6ブロック出土石器(3)



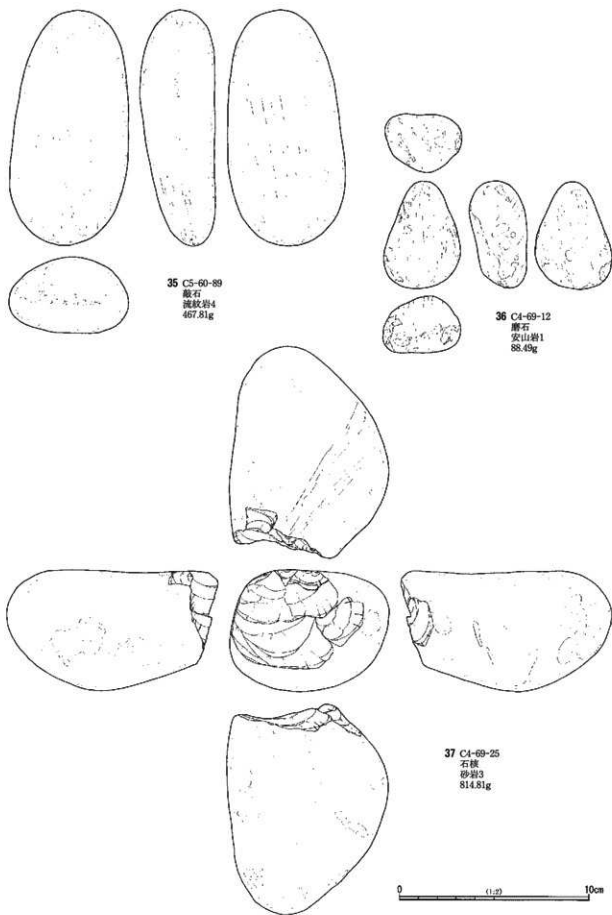
第38図 第2文化層第6ブロック出土石器(4)



第39図 第2文化層第6ブロック出土石器(5)



第40図 第2文化層第6ブロック出土石器(6)



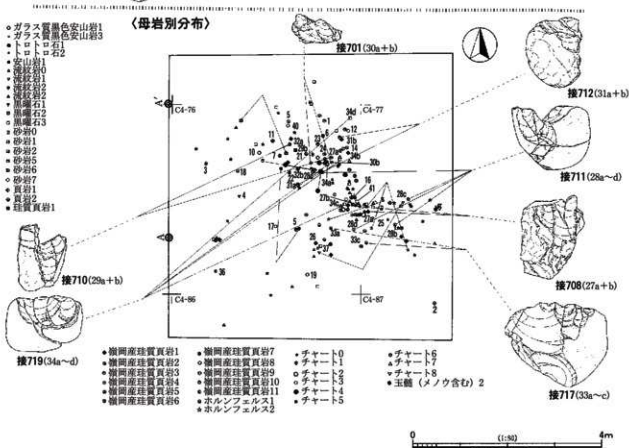
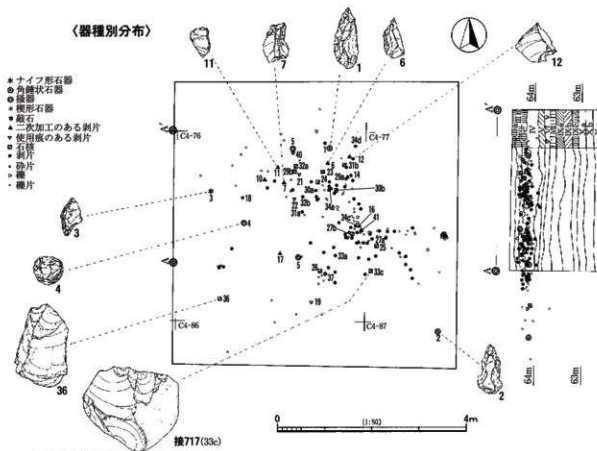
第41図 第2文化層第6ブロック出土石器(7)

(5) 第7ブロック (第42~52図、第11・19~22表、巻頭図版1・、図版5・6・12~14)

出土状況 第6ブロックの南西側に隣接し、南西斜面に分布する。約6m×5mの楕円形の範囲に密集する。分布状況を細かくみると、北部・南東部・南西部の3か所の集中地点がみられる。北部と南東部の集中地点は遺物が密集し、北部と南東部間で接合資料がみられる。集中地点の外縁部付近からは、製品である角錐状石器(1・2)、ナイフ形石器(3)、搔器(4・5)、二次加工のある剥片(6・7)と石核(31b・33c)が出土する傾向がみられる。礫・礫片は、各集中地点のさらに外縁部に分布する。それに対して、剥片は北部と南東部の集中地点の中央部に集中し接合する割合が高い。出土層位はV層~III b層にかけて出土しており、セクション断面図にはIV層上部に集中していることが観察されるが、第7ブロックはやや急な斜面に分布し、セクション断面図が遺物集中地点から離れていることから、本来の出土層位は、やや下位にあったことが推察され、隣接する第6・8ブロックと同様に、V層~IV層下部に石器が集中していたと思われる。

出土遺物 角錐状石器(1・2)2点、ナイフ形石器(3)1点、搔器(4・5)2点、楔形石器(18)1点、二次加工のある剥片(6~17等)14点、石核(23~26・27b・29b・30b・31b・33c等)11点を含む222点が出土した。石材組成は、嶺岡産珪質頁岩が70点(31.53%)でもっとも高い割合を示し、次にチャートが63点(28.38%)であるのに対して、黒曜石は3点(1.35%)ときわめて低い割合を示す。北東に隣接する第6ブロックにおいて、黒曜石の占める割合が83.64%ときわめて高い割合だったのに対して対照的な石材組成を示す。ただし、第7ブロック出土の黒曜石は、搔器(4)、楔形石器(18)、二次加工のある剥片(17)で、すべて製品であり、単独母岩として搬入されていることが、際立った特徴となっている。また、石材の主体を占める嶺岡産珪質頁岩は、角錐状石器(1・2)2点と角錐状石器未製品と推察される石器(6・7)2点で構成されており、本ブロックにおいて、角錐状石器の製作が行われた可能性が高い。礫・礫片は106点出土しており、第2文化層のなかでは、もっとも多いことが本ブロックのもうひとつの特徴となっている。礫・礫片の石材は、チャートが56点でもっとも多く、次に流紋岩24点、砂岩23点であり、この3種類の石材でほぼ占められる。

1・2は角錐状石器である。1は厚みのある幅広剥片を素材とし、素材を横位に用いている。素材末端部にあたる右側縁は、折断により成形加工された後に、左側縁上部と下部に細かい調整加工が施されている。左側縁は鋸歯状の調整加工が施され、左上部の先端部の調整加工は入念に施されている。2は厚みのある剥片を縦位に用いて、打面側を基部として設置している。右側縁は、やや粗い調整加工が鋸歯状に施されている。左側縁は、粗い成形加工を数回行った後に、上部に細かい調整加工が入念に施されている。左側縁下部には夾雑物が混入しており、調整加工は行われていない。先端部は両側縁からの入念な調整加工により鋭く尖っていることから、製品としてとらえた。3はナイフ形石器である。良質のチャート1を用いており、同一母岩として24の石核や30a+b(接合資料701)の剥片と石核があり、本ブロックにおいて製品が製作された可能性がある。厚みのある剥片を素材とし、右側縁に急角度のブランディング加工が施されている。右側縁上部に鋭利な素材剥離面が残されている。右側縁下部は、素材断面を除去する際に節理面に沿って大きく剥離されている。左側縁下部は、使用時もしくは製作時に、破損したものである可能性もある。4・5は搔器である。4は厚みのある剥片を縦位に用いており、打面が上部にわずかに残っている。腹面側から全周に急角度の調整加工が施され、全体形状は円形を呈する。夾雑物がわずかに含まれた不透明で黒色の黒曜石1が、単独母岩として搬入されている。

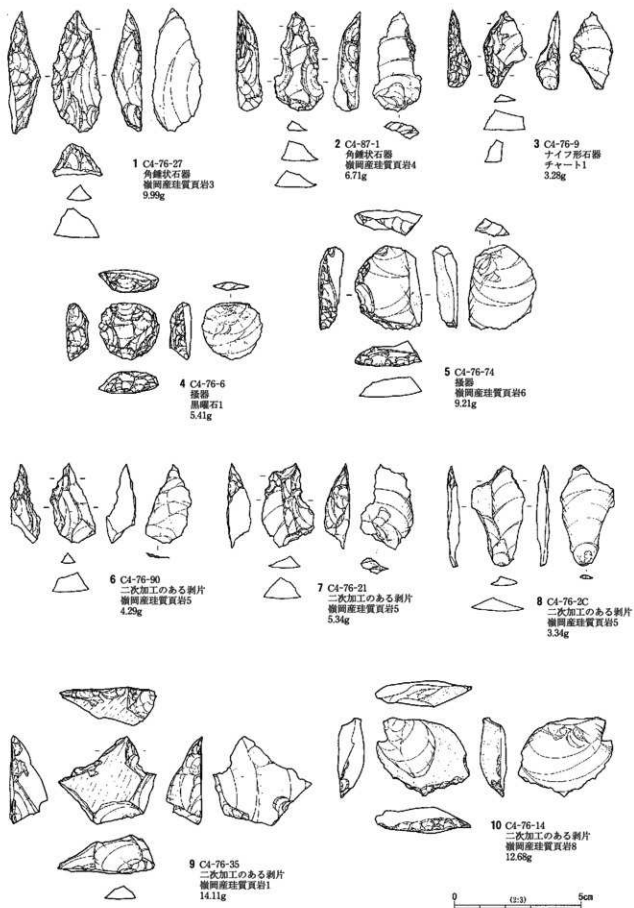


第42図 第2文化層第7ブロック遺物分布図

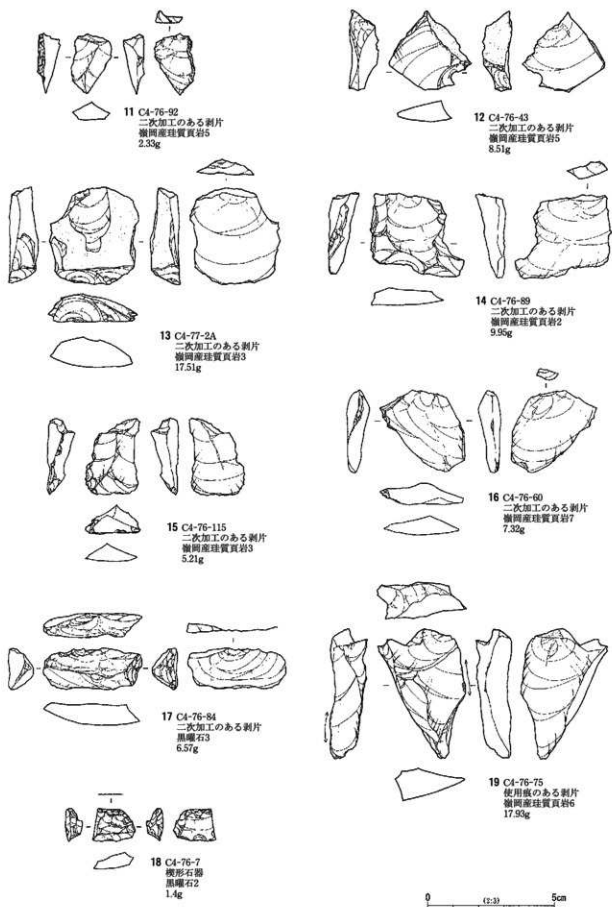
5は良質の嶺岡産珪質頁岩6が用いられている。縦長剥片を縦位に用いて、左側縁と下部に急角度の調整加工が施されている。素材の打面は上部に残っている。右側縁には調整加工は施されていないが、素材を縦位に用いて、打面が残っている点で、4の搔器と製作技術で類似する点がみられる。6～17は二次加工のある剥片である。6・7は先端部に鋸歯状の加工が施され尖っていることから、角錐状石器の未製品と考えられる。6は線状の打面から剥離された厚みのある縦長剥片を縦位に用いて、左側縁に急角度の鋸歯状の調整加工が施されているが、右側縁には調整加工が施されていない。7は縦長剥片を斜位に用いて、右側縁と左側縁に粗い鋸歯状の調整加工が施されている。8は打面幅の狭い縦長剥片を素材とし、素材末端部の左上部に急角度の調整加工が施されている。右側縁上部には、微細な剥離痕が連続的にみられる。ナイフ形石器としても識別可能である。9は節理面に沿って剥離された剥片を素材とし、左側縁下部と右側縁下部を腹面側から折断して成形している。右側縁上部に急角度の調整が施され、上部が尖っており、左側縁上部に微細な連続する剥離がみられる。石錐と識別することも可能である。10は打面幅の広い幅広の剥片を素材とし、素材末端部にあたる下部に鋸歯状の加工が施されている。この加工により、下部中央と右側縁下部が尖っており、9と同様に石錐としても識別可能である。あるいは下部の調整加工全体をとらえて、5と同様に搔器とも識別可能である。11は縦長剥片を素材とし、左側縁にプランティング加工と識別できるような調整加工が施されている。12は節理面に沿って剥離された剥片を素材とし、左側縁下部に抉るような粗い調整加工をした後に、その剥離面の上部に細かい調整加工が施されている。この加工により、右側縁下部が尖っている。9・10と同様に石錐として識別可能である。13は背面に大きく自然面を残した縦長剥片を素材とし、左側縁下部を折断して成形している。その後、下部に粗い急角度の調整加工を施し、右側縁に急角度の調整加工が施されている。5と同様に搔器としても識別可能である。14は末端部が右側にねじれた剥片を素材とし、左側縁に調整加工が施されている。15・16は不定形な剥片を素材とし、末端部の鋭利な縁辺に調整加工が施されている。17は打面幅の広い横長剥片を素材とし、右側縁に急角度の調整加工が施されている。右側縁を刃部としてとらえて、搔器としても識別可能である。18は上下・左右両端から両極剥離が行われた楔形石器である。19～22は使用痕のある剥片である。いずれも不定形な剥片を素材とし、複数の微細剥離痕が尖った縁辺部にみられる。23～26は石核である。23は分割した剥片を素材とし、打面転移が頻繁に行われた石核である。剥離された剥片の形状は、幅広で小型である。表面上部に石核の頭部調整と思われる加工が施されている。比較的中厚みのある中型の縦長剥片を素材とした5(搔器)や19(使用痕のある剥片)と同一母岩であり、初期段階の縦長剥片剥離から最終段階の小型の幅広剥片を剥離した過程が観察される資料である。24は節理面に沿って剥離された厚みのある剥片を素材とし、右側縁下部から剥離後に、打面を上部に転移して小型の幅広剥片を剥離している。25は小型の円礫を素材とし、上部から2枚の縦長剥片を剥離後、上面を裏面側から剥離している。26は分割礫を素材とし、上部背面から腹面方向に剥離後、背面から腹面方向に幅広の剥片を剥離している。チョッピングツール状の形態を呈する。27 a + b(接合資料708)は、約8 cmの楕円形礫を節理面に沿って剥離された分割礫を素材としている。最初に、分割面を打面として右側縁から剥離し、次に、左側縁に打面を転移して、最後に上部から27 aを含む縦長剥片が剥離されている。両側縁は不定形な剥片が剥離されているが、上部からは縦長剥片が剥離されている。母岩が大きいにもかかわらず、剥離された剥片の数は少なかったと推察される。28 a～d(接合資料711)は、分割面を打面として、28 aと28 bを剥離している。その後、上下両端からの両極剥離によって剥離を行った痕跡が、28 dの下端部にみられる。28 c + dが同時に剥

離され、その際に節理面に沿って28cと28dが分割されたものと思われる。29a + b（接合資料710）は、節理面（裏面左下部）に沿って分割された厚みのある剥片を素材としている。次に、上部から29a + bを分割（分割面は29a + bの左側面）したものをさらに上部から29aと29bに分割している。29aはその後、剥離は行われておらず、29bを素材として剥離が行われている。右上部から表面上部にかけて、面から4枚以上の縦長剥片が剥離されており、残核である29bの上端部には頭部調整の痕跡が残されている。30a + b（接合資料701）は、節理面に沿って剥離された厚みのある剥片を素材とし、表面右側から縦長の剥片30aを剥離後、打面を上部に転移して幅広の剥片を剥離している。残核である30bの形状は不定形である。31a + b（接合資料712）は、分割礫を素材とし、右上部から剥離し、次に、打面を素材末端部の分割面を打面として、31aなど3枚ほどの剥片を剥離後、再度右上部に打面を転移して剥片を剥離している。32a + b（接合資料709）は、背面に大きく自然面を残す厚みのある剥片である。32aと32bは、32a + b（接合資料709）の剥離時に同時割れしたものと思われる。33a ~ c（接合資料717）は、扁平で厚みのある円礫を裏面右上部から大きく剥離した分割礫を素材としている。腹面を打面とし、表面左下部から幅広の剥片を剥離後、この剥離面を打面として、裏面方向に幅広の剥片を剥離している。打面を上部中央部に転移して、33aを含む縦長剥片が数枚剥離されている。さらに、表面左上部を打面とし、幅広剥片の33bが剥離されている。34a ~ d（接合資料719）は、大きな分割面を上部に設置し、連続的に幅広の剥片が剥離された接合資料である。頭部調整を行いながら剥離されたことがうかがえる。背面には、すべて自然面が残っている。34a + bは剥離時に中央部から同時割れている。34cと34dは末端部付近が幅広で厚みのある剥片である。35a ~ g（接合資料718）は、節理面に沿って剥離されたもので、剥離の順序が明確には観察できなかった。楕円形礫を素材とし、両側縁端部には敲打痕がみられ、当初は敲石として機能していたものが、破損したと思われる。また35d・f・gは赤化しており、火熱を受けた可能性もあり、礫群の礫片の接合である可能性もある。36は10cm以上の大型の楕円形礫を素材とし、表面上部を打面として剥離し、その剥離面を打面として表面上部から縦長の剥片が剥離された石核である。37~41は敲石である。いずれも、粒子の細かい砂岩が用いられているが、大きさや形態は多様である。おそらく、大型の円礫を分割する際には、37・39のような大型の敲石が用いられ、成形加工や細部の調整加工には、小型の38・40・41が用いられたものと推察される。37・38は楕円形の楕円形礫の上下両端部に敲打痕がみられるが、下端部の敲打痕が顕著である。39は当初、大型の礫を素材とし37・38と同様に上下両端部から敲打が行われ、中間部から大きく破損したものと思われる。破損面と思われる上部左側と下端部に敲打痕がみられる。40は厚みある不定形な楕円形礫を素材とし、器体の各所に敲打痕がみられる。41は不定形で扁平な円礫を素材とし、上下両端部に敲打痕がみられる。表面左側の平坦面には、左上部から右下部にかけて線状の敲打痕が複数みられ、鋭利な刃物の対象物を敲打したと思われる痕跡がみられる。

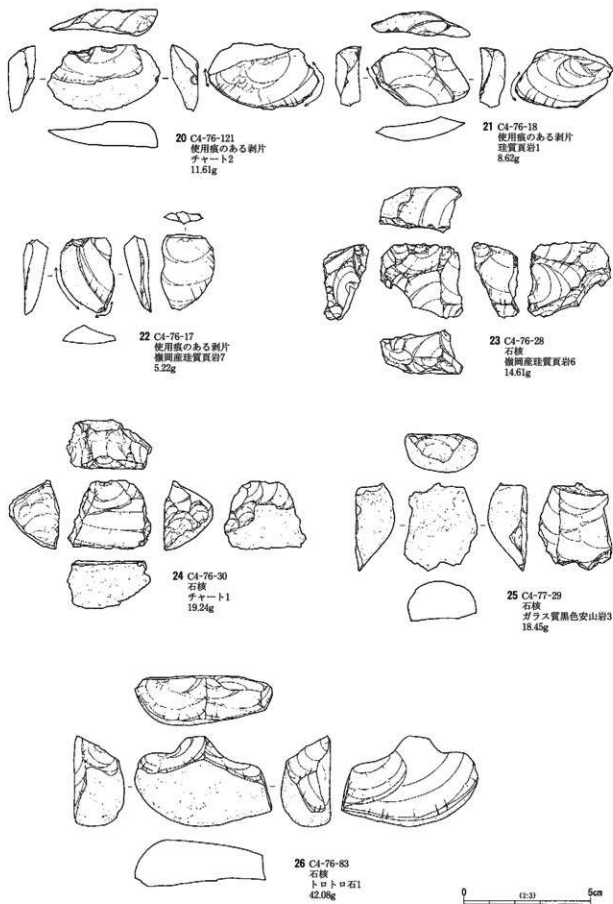
上記のように、嶺岡産珪質頁岩は、27a + b（接合資料708）・28a ~ d（接合資料711）・29a + b（接合資料710）・31a + b（接合資料712）のように、大型の楕円形礫を持ち込み、37~41の敲石を用いて分割を繰り返し、自然面を除去した後に内部の良質な石材を石核として用い、目的剥片を剥離して、1・2のような角錐状石器や5のような搔器を製作しようとした痕跡がうかがえる。



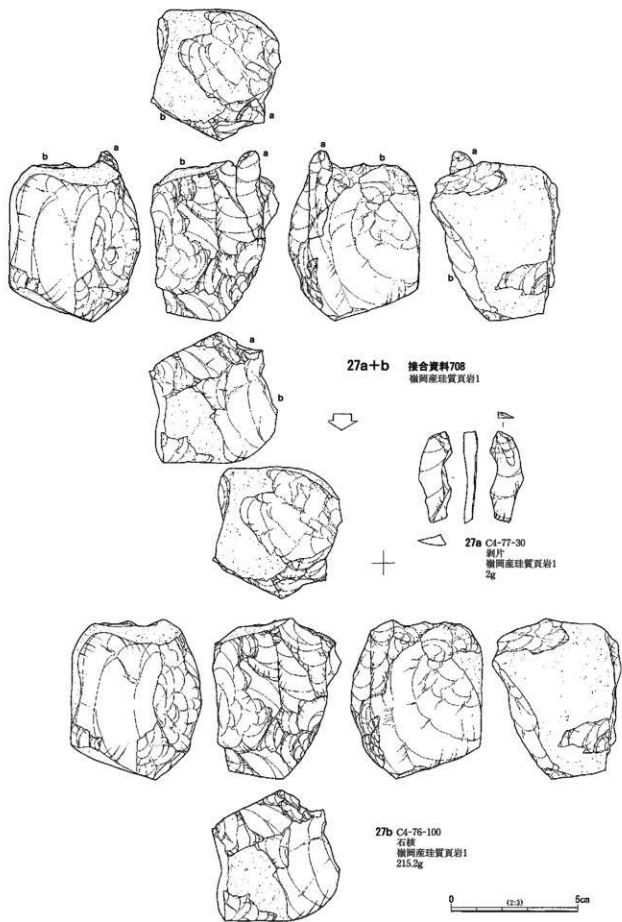
第43図 第2文化層第7ブロック出土石器(1)



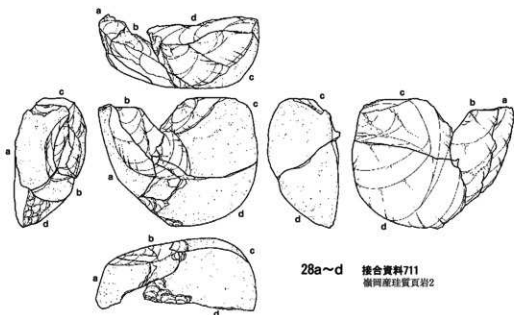
第44図 第2文化層第7ブロック出土石器(2)



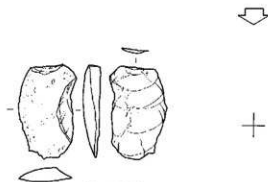
第45図 第2文化層第7ブロック出土石器(3)



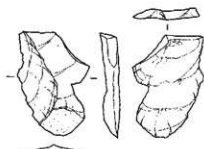
第46図 第2文化層第7ブロック出土石器(4)



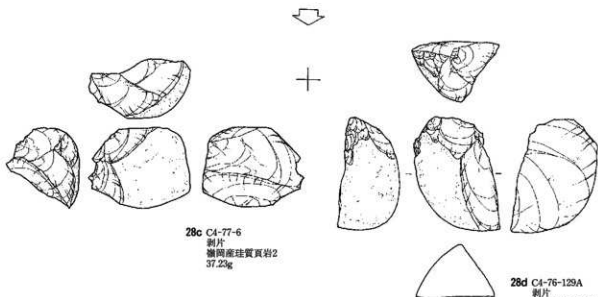
28a~d 接合資料711
備前産珪質頁岩2



28a C4-76-70
剥片
備前産珪質頁岩2
5.24g

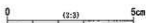


28b C4-77-16
剥片
備前産珪質頁岩2
6.97g

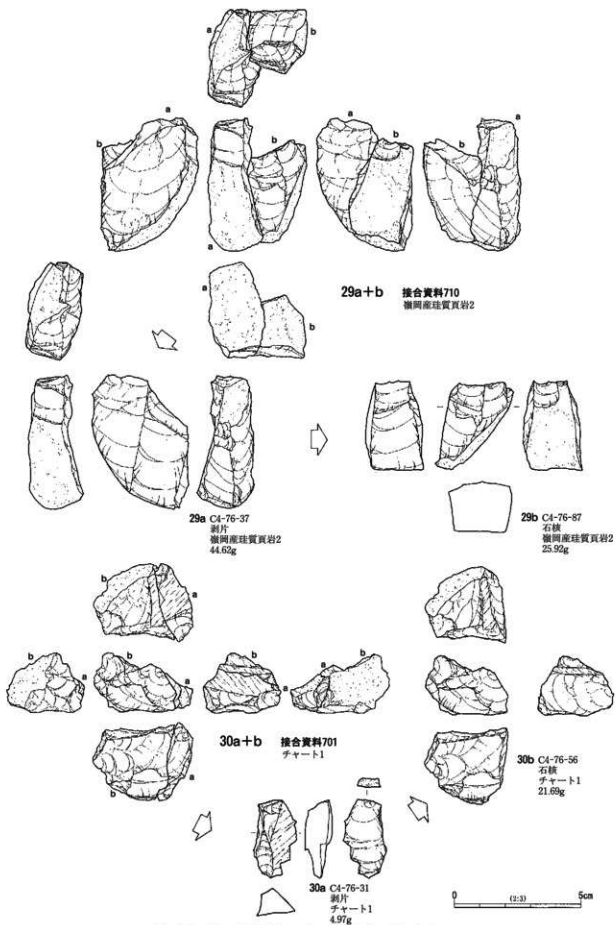


28c C4-77-6
剥片
備前産珪質頁岩2
37.23g

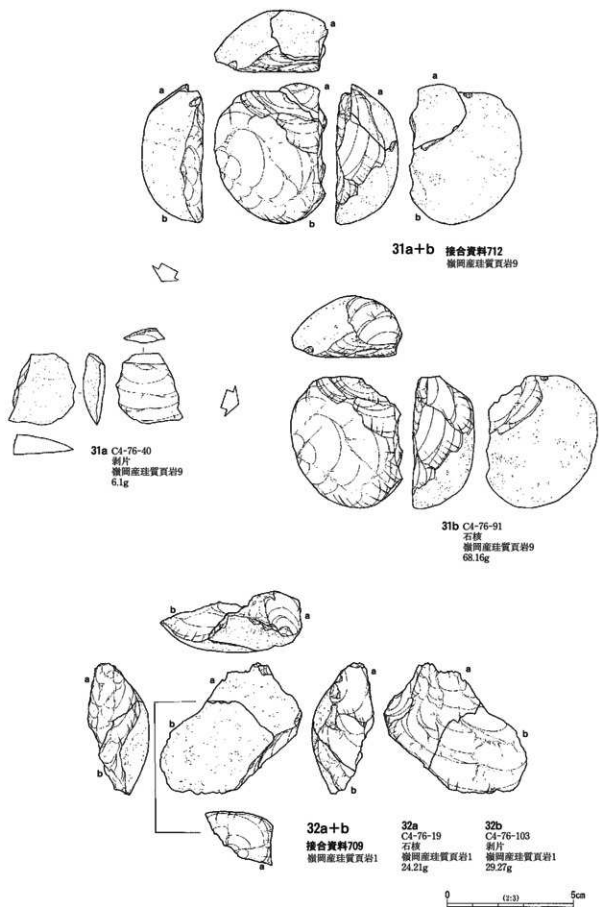
28d C4-76-129A
剥片
備前産珪質頁岩2
39.38g



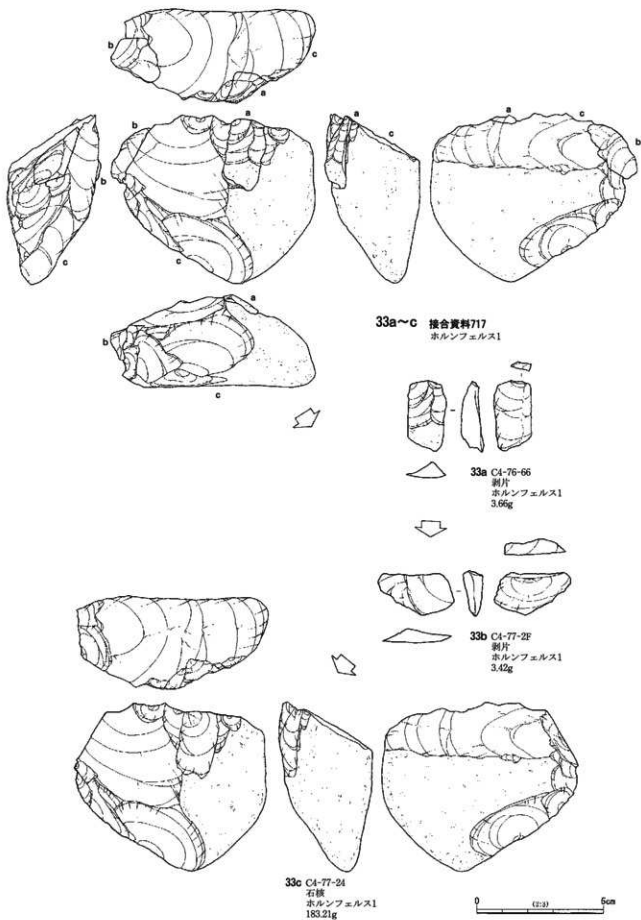
第47図 第2文化層第7ブロック出土石器(5)



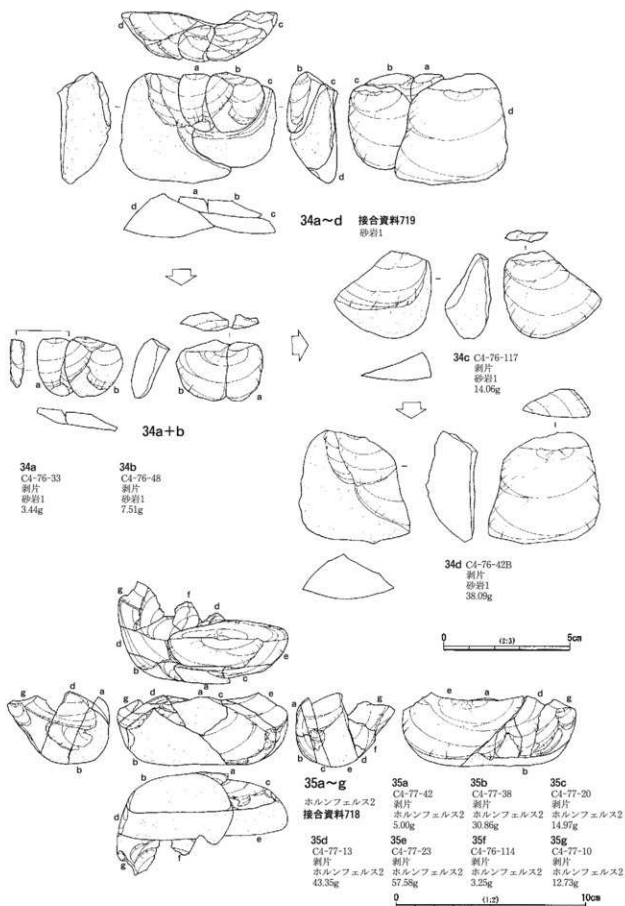
第48図 第2文化層第7ブロック出土石器(6)



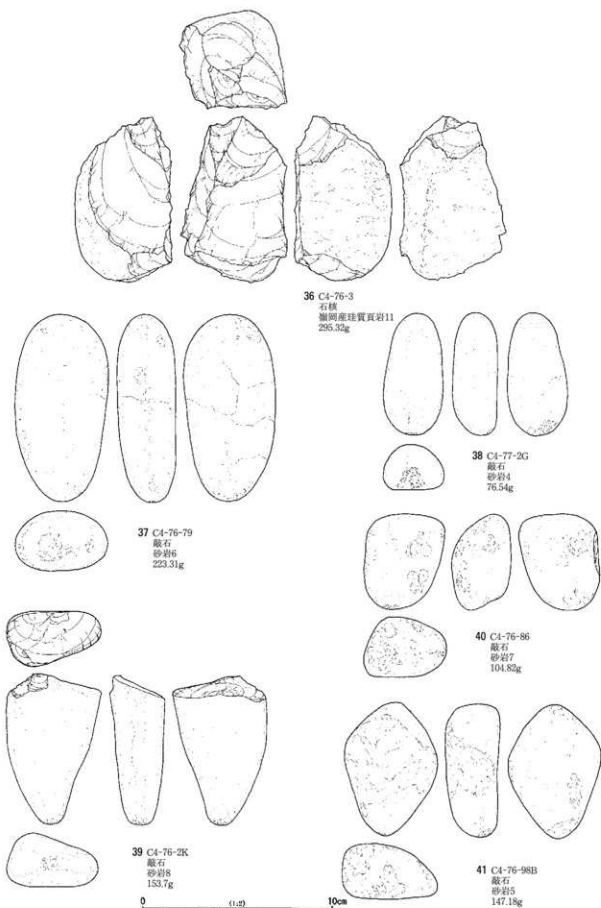
第49図 第2文化層第7ブロック出土石器(7)



第50図 第2文化層第7ブロック出土石器(8)



第51図 第2文化層第7ブロック出土土石器(9)



第52図 第2文化層第7ブロック出土石器 (10)

(6) 第8ブロック (第53～58図、第12・22・23表、巻頭図版1、図版6・15)

出土状況 調査区南端の南西斜面に分布する。D4-24グリッドを中心に、約10m×7mの楕円形の範囲に密集する。分布状況を細かくみると、北西部・中央部・西部・南東部の4か所に集中地点がみられる。このうち、中央部がもっとも密集し他の集中地点は散漫に分布する。接合資料はみられなかった。北西部では、本ブロック唯一の出土である角錐状石器が、北西側の集中地点からやや離れた地点から出土している。中央部では、D4-24グリッド南西部に密集するが、黒曜石の剥片・碎片の割合が高く、製品の占める割合が低いことが特徴となっている。西部では、D4-25グリッドに散漫に分布するが、北東部側の集中地点からやや離れた地点から蔽石(43)が出土しているほか、ナイフ形石器(3)・二次加工のある剥片(5・21)・楔形石器(32)などの製品の占める割合が高い。南部では、D4-34・35グリッドに散漫に分布し、出土点数は少ないものの製品の割合がもっとも高いことが特徴としてあげられる。本ブロック唯一の石核(14)が南西側の集中地点からやや離れた地点から出土しているほか、ナイフ形石器(2)・二次加工のある剥片(6)・使用痕のある剥片(26・33・35・36・42)・磨石(45)など多種の製品が出土している。出土層位は、Ⅶ層～Ⅳ層にかけて出土しており、Ⅴ層～Ⅳ層下部に集中する。

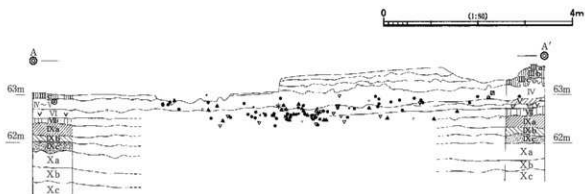
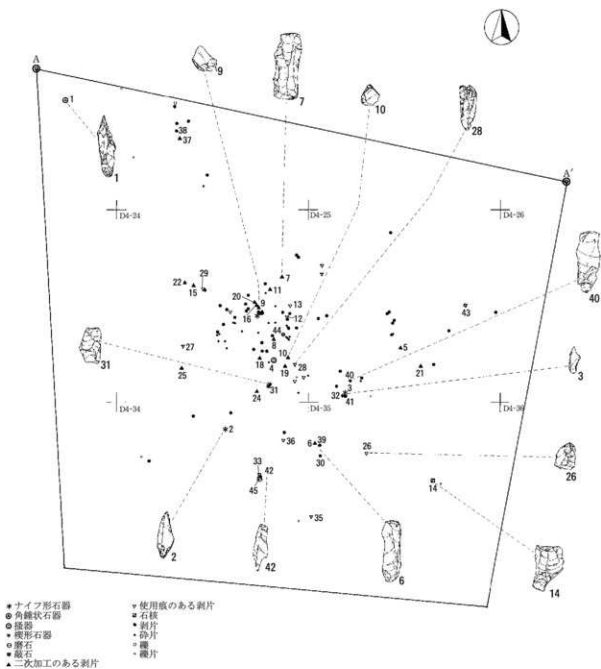
出土遺物 角錐状石器(1)1点、ナイフ形石器(2・3)2点、搔器(4)1点、楔形石器(31・32・34)3点、石核(14)、磨石(45)1点を含む141点が出土した。礫・礫片は17点出土しているが、礫群と識別されるような分布状況ではない。石材組成は、第6ブロックと同様に黒曜石が100点(70.92%)でかなり高い割合を示すことが特徴といえる。黒曜石は、石刃ともいえるような縦長剥片を多く剥離し、ナイフ形石器(2・3)や搔器(4)の製作を行った痕跡がみられる。これに対して、嶺岡産珪質頁岩は13点(9.22%)で低い割合であるものの、角錐状石器(1)を製作した痕跡がうかがえる。礫・礫片はチャート9点、砂岩5点、流紋岩2点で構成されており、第6ブロック出土の礫・礫片の石材構成と類似する。

1は良質な嶺岡産珪質頁岩2で製作された角錐状石器である。厚みのある幅広の剥片を斜位に用いて、素材打面部を折断により成形後に、左側縁と下部と右側縁上半部に急角度の鋸歯状の調整加工が施されている。特に、先端部は細かい調整加工が施され、尖った形状を呈する。同一母岩の嶺岡産珪質頁岩2は、使用痕のある剥片(35・36)や縦長剥片(39～42)で構成されており、本ブロックにおいて点数は少ないものの、主要な器種構成を占める。2～30は、夾雑物がほとんど含まれない良質な黒曜石が用いられている。2・3はナイフ形石器である。両者はサイズや形態は異なるが、素材が縦長剥片(石刃と識別可能)で、基部を打面部側に設置している点で共通点がみられる。2は腹面側の打面部を除去するような平坦な成形加工をした後に、右側縁下部にブランティング加工が施され、左側縁に細かい調整加工が連続的に施されている。右側縁に素材の鋭利な縁辺が残っているが、縁辺のほぼ全面に微細剥離痕がみられ、使用頻度の高かったことが推察される。黒曜石の剥片において、このような微細剥離痕は高い割合でみられた。3は左側縁と右側縁下部にブランティング加工が施されている。右側縁上半部に素材の縁辺が残る。4は縦長剥片を素材とし、素材の末端部と打面部に腹面から急角度の調整加工が施された搔器である。5は打面が線状で末端部が幅広の剥片を素材とし、末端部に急角度の調整が施されている。搔器として識別可能である。6・7は石刃と識別可能な縦長剥片を素材とし、素材末端部に調整加工が施されており、4と形態的に類似する。8～10は不定形な剥片を素材とし、ブランティング加工が施されており、ナイフ形石器の未製品、あるいは切出形のナイフ形石器である可能性がある。8は左側縁上部にブランティング加工が

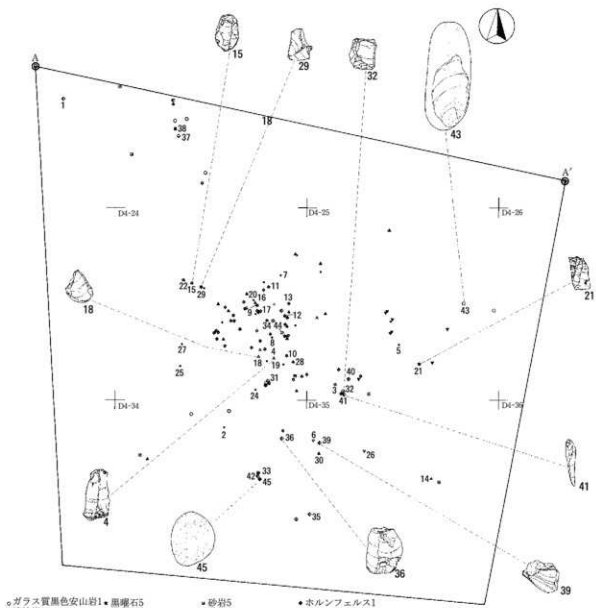
第12表 第2文化層 第8ブロック石器組成表

区域 石材	品 類 番 号	角 形 状 番 号	ナ イ フ 形 番 号	器 種	用 形 番 号	二 次 加 工 の 有 無 判	流 用 品 の 有 無 判	割 片 判	砕 片 判	石 核	副 産 物	備 考	計 量 単 位	計 量 数	組 成 比 (%)
東 塚 石	1		2			7	2	6	1					18	12.77
	2		1.6			12.92	1.63	1.41	0.89					17.23	2.18
	3					7.23	1.27	8.28	1.78					18.56	1.04
	4			4.71		2.24		3.61		16.33				20.99	1.78
	5					4.73	1.87							6.0	9.56
	6					2.97	1	1	1					3	2.13
	7					2	3	10	5					20	14.18
東塚石点数合計			2	1		18	11	43	24					100	79.92
			1.6	4.71		32.42	14.92	25.09	9.45	16.33				91.62	9.78
西田家土安石	1					1								3	2.13
	2		1					2	5					8	3.67
	3		6.59					17.33	13.07					37.67	3.19
	4							15.29						15.29	1.29
西田家土安石														1	0.71
									17.09					17.09	1.45
西田家土安石						1	1	2	8					13	9.22
			6.59			14.29	15.29	37.31	33.09					87.67	7.43
ザマート	1					1								1	0.71
	2					7.04								7.04	0.59
	3												54.77	54.77	4.45
	4												51.87	51.87	4.41
	5												2	1.42	
	6												16.3	16.3	1.25
	7					4.14							4.17	8.71	0.74
	8												1	0.71	
	9								4.93					4.93	0.42
ザマート						2	1						9	12	8.31
						11.28	4.93						127.11	143.62	12.29
砂	1													38.79	3.29
	2												290.45	240.45	19.41
	3												52.96	43.96	3.74
	4												1	0.71	
	5												56.56	56.56	4.81
	6												1	0.71	
	7												1	0.71	
砂													127.37	127.37	10.64
													347.01	347.01	29.29
砂	1												127.37	127.37	10.64
	2												1	0.71	
砂													351.76	351.76	29.29
													1	0.71	
砂	1												70.37	70.37	5.98
	2												1	0.71	
砂													12.61	12.61	1.02
													1	0.71	
砂													58.76	58.76	4.94
													2	1.42	
砂													60.77	60.77	5.16
													11	141	100.00
砂													114.36	100.00	
													11.36	100.00	
砂													33.78	190.00	
													33.78	190.00	

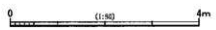
上段：黒線、下段：赤線(4)



第53図 第2文化層第8ブロック器種別分布図



- ガラス質黒色安山岩1
- 流紋岩1
- 流紋岩2
- 黒曜石1
- 黒曜石2
- 黒曜石3
- 黒曜石4
- 黒曜石5
- 黒曜石6
- 黒曜石7
- 凝灰岩1
- 砂岩1
- 砂岩2
- 砂岩3
- 砂岩4
- 砂岩5
- 砂岩6
- 砂岩7
- 彌生産珪質頁岩1
- 彌生産珪質頁岩2
- 彌生産珪質頁岩3
- 彌生産珪質頁岩4
- ホルンフェルス1
- チャート1
- チャート2
- チャート3
- チャート4
- チャート5
- チャート6

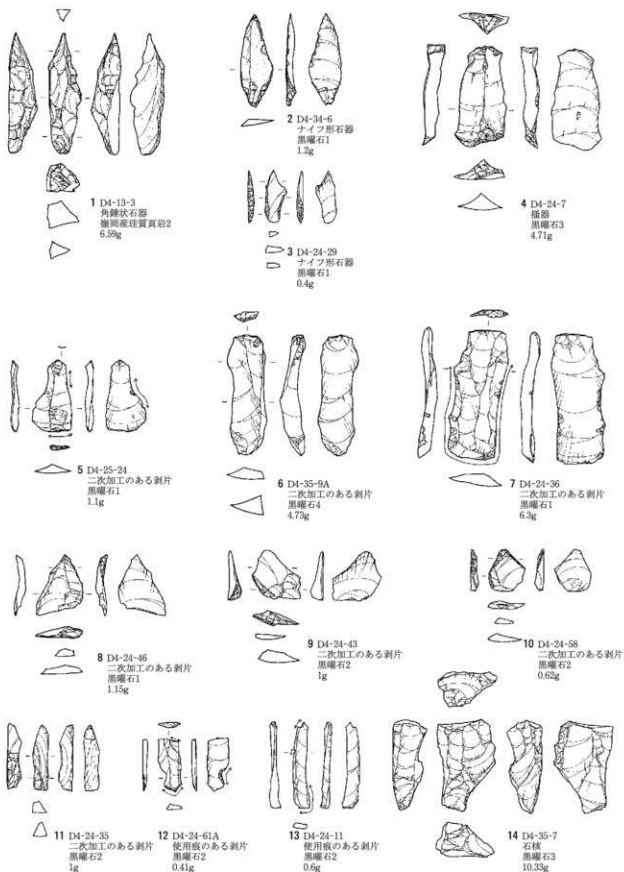


第54図 第2文化層第8ブロック母岩別分布図

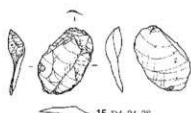
施され、下部は器体の中央部付近から折れている。9は素材打面部にあたる下部から左側線下半部にかけてブランディング加工が施されている。10は小型の貝殻状の剥片を縦位に用いて、左側線と右側線上半部にブランディング加工が施されており、右側線下部に素材の縁辺が残っている。また、素材の打面はわずかに残っている。11～13は細長の剥片を素材としている。いずれも、良質な黒曜石2を用いている。11は節理面に沿って剥離された剥片を素材とし、右側線を背面から折断した後、左側線下部に急角度の調整加工が施されている。12・13は細長の石刃状の剥片を素材とし、打面部を折断し、末端部に連続する微細な剥離痕がみられる。14は本ブロックから唯一出土した石核である。素材は厚みのある剥片が用いられたものと思われ、上部を折断し平坦面を作出し、この折断面を打面として上部から縦長剥片が剥離されている。下端部からの石核調整の剥離面もみられる。素材面は、裏面下半部にわずかに残っており、究極まで剥片を剥離したことが推察される。また、裏面左上部には粗い調整加工が最終剥離として残されていることから、石核を転用した石器である可能性がある。15～25は二次加工のある剥片である。15・18・21・23・24は素材の末端部に調整加工が施されている。16・17・19・20・25は、打面部が折断されており、側線や末端部に調整加工が施されている。26～29は、打面形状が線状、あるいは幅の狭い縦長剥片を素材とし、鋭利な縁辺に微細剥離痕がみられる。図示していないが、この他にも同様に微細な剥離痕がある資料が多くみられた。30は打面部と末端部が折断された剥片である。このような折断剥片も、図示していないが本ブロックで多数出土することが特徴としてあげられる。

31～45までは、黒曜石以外の石材を用いた石器を図示した。31・32・34は楔形石器である。いずれも、チャートと嶺岡産珪質頁岩が用いられている。多数を占める黒曜石には、両極剥離が行われた痕跡は明確には観察できなかった。あるいは、黒曜石が14の石核においてみられたように究極まで剥離が行われていることが観察された。黒曜石は楔形石器として識別できるような大きな形状を残さなかったか、19～22が楔形石器である可能性もある。33・35・36は末端部が折断され、両側縁に微細な剥離痕がみられる使用痕のある剥片である。37は裏面左側線中央部と右側線下部に調整加工がみられる。38・39は末端部が折断された剥片である。黒曜石と同様に、図示していないが、このような折断剥片が多数出土している。40～42は石刃と識別可能な縦長剥片である。打面幅が狭く、40・41は打面調整が行われている。いずれも、良質な石材である嶺岡産珪質頁岩2が用いられている。43・44は敲石である。第5～7ブロックの敲石と類似する粒子の細かい砂岩が用いられている。43は細長い楕円形礫を素材とし、上下両端に敲打痕がみられる。表面下部の剥離面は、下端部からの強い敲打により剥離されたものと思われる。44はこのような強い敲打により剥離された敲石の破片である。素材の形状から、43と同様の形状のものが素材であったと考えられる。なお、43と石質が類似する同一母岩ではない。45は多孔質のホルンフェルスを用いた磨石である。扁平な円礫を素材とし、両面の平坦面に研磨痕がみられる。第6ブロックの36の磨石と同様の形状である。

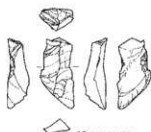
本ブロックにおいて、出土点数が多いにもかかわらず、石核はわずかに1点のみの出土であった。この要因としては、14の石核でみられたように母岩を究極まで剥離して、残骸までも石器として製作しているために石核が残存していないことが考えられる。また、折断剥片或使用痕のある剥片の割合も高く、折断を頻繁に行い、小型の剥片までも使用したことがうかがえる。また敲石は、第5～7ブロックと同様の細粒の砂岩が用いられており、この石材の用い方は本文化層の特徴の一つとしてあげられる。



第55図 第2文化層第8ブロック出土石器(1)



15 D4-24-38
二次加工のある剥片
黒曜石2
2.56g



16 D4-24-30
二次加工のある剥片
黒曜石6
2.3g



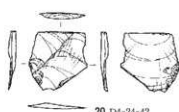
17 D4-24-54A
二次加工のある剥片
黒曜石2
1.18g



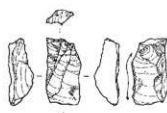
18 D4-24-18
二次加工のある剥片
黒曜石3
2.34g



19 D4-24-64
二次加工のある剥片
黒曜石1
1.33g



20 D4-24-42
二次加工のある剥片
黒曜石1
1.53g



21 D4-25-7
二次加工のある剥片
黒曜石5
2.97g



22 D4-24-39
二次加工のある剥片
黒曜石2
0.87g



23 D4-25-20
二次加工のある剥片
黒曜石6
1.33g



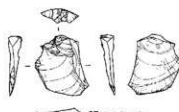
24 D4-24-3
二次加工のある剥片
黒曜石1
0.66g



25 D4-24-59
二次加工のある剥片
黒曜石1
0.41g



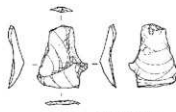
26 D4-35-6
使用痕のある剥片
黒曜石4
1.87g



27 D4-24-63
使用痕のある剥片
黒曜石1
1.45g



28 D4-24-6
使用痕のある剥片
黒曜石6
2.56g



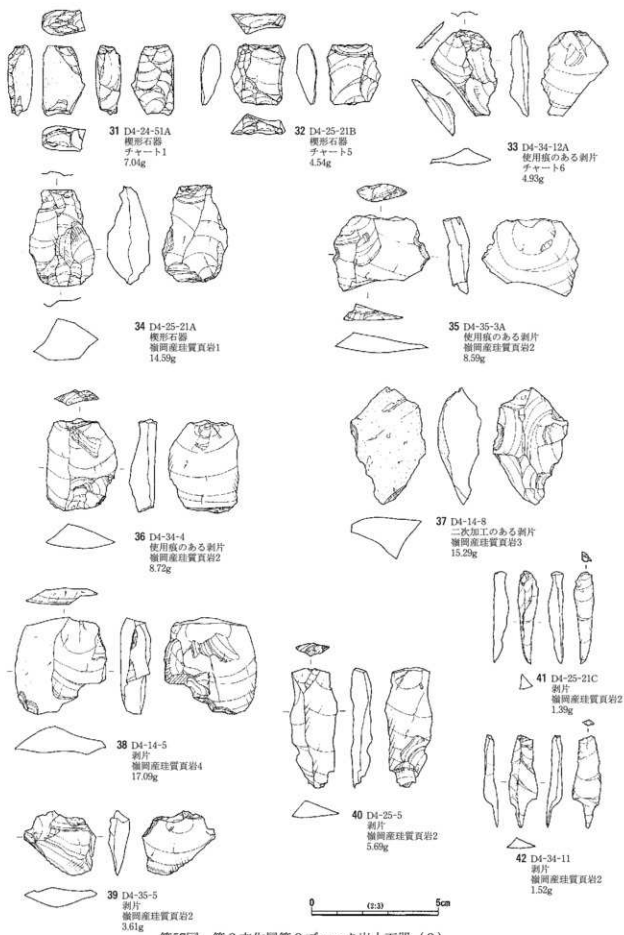
29 D4-24-37A
使用痕のある剥片
黒曜石5
1.69g



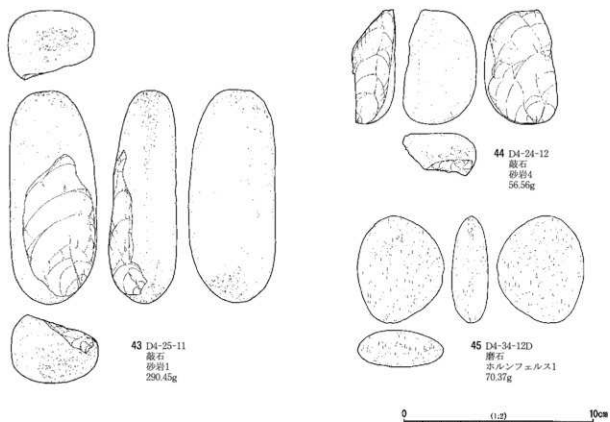
30 D4-35-4
剥片
黒曜石6
1.19g



第56図 第2文化層第8ブロック出土石器(2)



第57図 第2文化層第8ブロック出土石器(3)

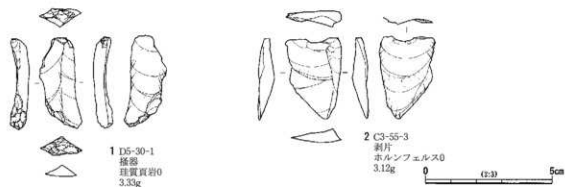


第58図 第2文化層第8ブロック出土石器(4)

5 単独出土石器(第59図、第23表)

出土状況 集中地点を持たず単独出土したものを単独出土石器として取り扱う。1は第6ブロックの南側の南西斜面の急斜面のD5-30グリッドから出土した。2は第2ブロックの北東部の南西斜面のC3-55グリッドから出土した。出土層位が不明ではあるが、調査区南西側に第2文化層が広がり、出土石器の形態や石材などから、第2文化層と同一段階の石器である可能性が高い。

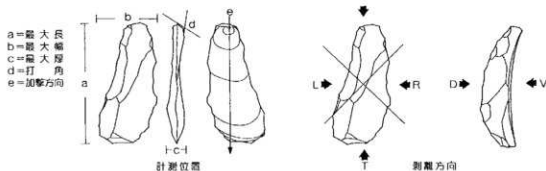
出土遺物 1は縦長剥片を素材とし、上下両端部に腹面側から急角度の調整加工が施された搔器である。2は打面が線状を呈する幅広の剥片である。



第59図 旧石器時代単独出土石器

6 石器属性計測基準

- (1) **挿図番号** 実測図を掲載した遺物の通し番号。接合資料は、番号の後ろにアルファベットを剥離順序が初期のものから a・b・c・・・の順に記載した。ただし、剥離順序の不明なものも含まれている。
- (2) **接合番号** 接合資料に3桁の通し番号を記載した。3桁目の数字がブロック番号を示す。下2桁が各ブロックの接合資料の通し番号を示す。
- (3) **最大長・最大幅・最大厚** 計測方法は第60図左に示した。
- (4) **打面形状** 数字：打面上に残る剥離面数。P=点状打面、L=線状打面、C=自然面打面、J=節理面（節理面は剥離面数に含めない）。
- (5) **打角・剥離角** 打角：剥片の打面とポジティブバルブがつくる角度（第60図左加撃方向のとおり）
剥離角：石核の打面とネガティブバルブがつくる角度。
- (6) **打面調整・頭部調整** 観察されるものについて「○」で示した。
- (7) **背面構成** 主要剥離面の剥離方向を基準とし、背面を構成する剥離面の加撃方向について、以下のとおり分類し、背面構成の分類を有する資料については「○」で示した。
H=頭部側、T=尾部側、R=背面を正面にして右側、L=左側、D=背面側、V=腹面側からの加撃方向を示す。C=自然面、J=節理面。
ただし、変形度の高いもの（楔形石器等）は記さなかった。砕片はわかる範囲で記した（第60図右のとおり）。
- (8) **ポジ面** 背面にポジティブ面を有する資料については「○」で示した。
- (9) **末端形状** F=直線状、H=蝶番状、S=階段状、O=逆反りまたは石核底面に連するものを示す。
- (10) **調整角** 搔器・削器の刃部、ナイフ形石器の刃潰し、彫刻刀面の形成などにおける調整剥離角。両面調整石器の場合は剥離角を示さない。
- (11) **刃部角** ナイフ形石器などの刃部において、腹面と背面との角度を計測した。
- (12) **使用痕** N=刃こぼれ、C=いわゆるコーングロス。植物との接触面に生じるポリッシュ、S=敲打、G=すりつぶし、P=磨り、H=被熱痕。
- (13) **遺存部位** 記号は折れによって遺存している部位を示す。
H=頭部、VM=上下方向の中間部、B=尾部、R=背面からみて右側、HM=左右方向の中間部、L=背面からみて左側、RB=右尾部、LB=左尾部。
- (14) **欠損** ナイフ形石器などの製品のうち、欠損を有するものは「+」で示した。



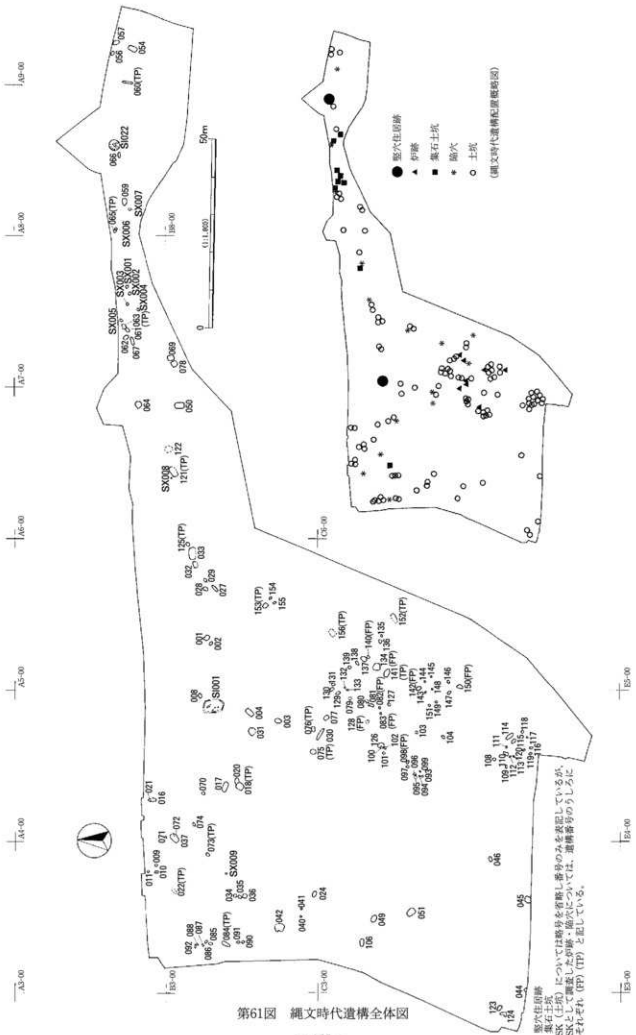
第60図 石器属性計測基準

第13表 旧石器属性表(1)

Y	X	番号	種別	種名	出所	層位	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	形状	特徴	備考
1	1	JA-56	石	石片	JA-56	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-56
1	1	JA-57	石	石片	JA-57	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-57
1	1	JA-58	石	石片	JA-58	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-58
1	1	JA-59	石	石片	JA-59	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-59
1	1	JA-60	石	石片	JA-60	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-60
1	1	JA-61	石	石片	JA-61	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-61
1	1	JA-62	石	石片	JA-62	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-62
1	1	JA-63	石	石片	JA-63	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-63
1	1	JA-64	石	石片	JA-64	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-64
1	1	JA-65	石	石片	JA-65	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-65
1	1	JA-66	石	石片	JA-66	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-66
1	1	JA-67	石	石片	JA-67	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-67
1	1	JA-68	石	石片	JA-68	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-68
1	1	JA-69	石	石片	JA-69	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-69
1	1	JA-70	石	石片	JA-70	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-70
1	1	JA-71	石	石片	JA-71	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-71
1	1	JA-72	石	石片	JA-72	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-72
1	1	JA-73	石	石片	JA-73	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-73
1	1	JA-74	石	石片	JA-74	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-74
1	1	JA-75	石	石片	JA-75	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-75
1	1	JA-76	石	石片	JA-76	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-76
1	1	JA-77	石	石片	JA-77	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-77
1	1	JA-78	石	石片	JA-78	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-78
1	1	JA-79	石	石片	JA-79	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-79
1	1	JA-80	石	石片	JA-80	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-80
1	1	JA-81	石	石片	JA-81	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-81
1	1	JA-82	石	石片	JA-82	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-82
1	1	JA-83	石	石片	JA-83	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-83
1	1	JA-84	石	石片	JA-84	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-84
1	1	JA-85	石	石片	JA-85	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-85
1	1	JA-86	石	石片	JA-86	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-86
1	1	JA-87	石	石片	JA-87	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-87
1	1	JA-88	石	石片	JA-88	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-88
1	1	JA-89	石	石片	JA-89	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-89
1	1	JA-90	石	石片	JA-90	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-90
1	1	JA-91	石	石片	JA-91	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-91
1	1	JA-92	石	石片	JA-92	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-92
1	1	JA-93	石	石片	JA-93	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-93
1	1	JA-94	石	石片	JA-94	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-94
1	1	JA-95	石	石片	JA-95	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-95
1	1	JA-96	石	石片	JA-96	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-96
1	1	JA-97	石	石片	JA-97	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-97
1	1	JA-98	石	石片	JA-98	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-98
1	1	JA-99	石	石片	JA-99	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-99
1	1	JA-100	石	石片	JA-100	1	2.1	3.4	0.2	0.2	0.2	0.2	JA-100

第20表 旧石器属性表(8)

種別	品名	数量	重量	長さ	幅	厚さ	形状	特徴	出所	備考
1	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
2	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
3	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
4	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
5	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
6	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
7	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
8	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
9	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
10	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
11	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
12	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
13	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
14	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
15	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
16	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
17	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
18	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
19	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
20	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
21	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
22	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
23	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
24	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
25	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
26	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
27	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
28	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
29	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
30	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
31	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
32	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
33	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
34	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
35	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
36	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
37	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
38	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
39	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
40	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
41	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
42	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
43	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
44	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
45	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
46	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
47	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
48	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
49	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
50	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
51	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
52	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
53	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
54	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
55	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
56	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
57	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
58	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
59	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
60	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
61	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
62	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
63	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
64	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
65	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
66	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
67	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
68	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
69	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
70	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
71	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
72	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
73	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
74	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
75	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
76	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
77	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
78	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
79	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
80	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
81	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
82	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
83	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
84	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
85	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
86	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
87	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
88	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
89	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
90	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
91	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
92	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
93	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
94	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
95	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
96	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
97	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
98	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
99	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			
100	石	1	1.00	10.0	5.0	0.5	片			



第61図 縄文時代遺構全体図

● 聖穴住居跡
 ▲ 砂線
 ■ 集石坑
 * 陥穴
 ○ 土坑
 (縄文時代遺構配置概略図)

SI 聖穴住居跡
 SX 集石坑
 ※ 土坑
 TP 陥穴
 ○ 土坑
 (注) 聖穴住居跡は、本図には表示されていないが、本図の北側にあり、その位置は、遺構番号のうしろにそれぞれ (FP) (TP) と記している。

第3節 縄文時代

1 概要

縄文時代の遺構としては、堅穴住居跡2軒、炉跡8基、集石土坑9基、陥穴15基、土坑3基を検出した。これら3基の土坑とは別に、発掘調査の段階で概ね縄文時代に属すると判断された106基の土坑がある。これらについても本節で扱うことにする。なお、縄文時代の設営と考えられる遺構の全体図（第61図）中には遺構配置概略図を示しておいた。

縄文時代の遺物としては、調査区のほぼ全域から土器及び礫が出土しており、このほか石器類も出土している。

さて、各遺構からは、その設営時期を明確に示すような遺物が出土している例は多くはないが、堅穴住居跡のうちの1軒（SI022）は、炉・ピット内より諸磯a式期の大形の土器片が出土していることから、諸磯a式期に属するものと判断した。また、炉跡のうちの1基（SK134）からは早期末から前期初頭の土器片がまとまって出土していることから、当該時期の設営であると判断した。さらに土坑については、客観的かつ確実に縄文時代に設営されたと考えられる3基のうちSK051については黒浜式期、SK085については諸磯b式期の設営であると判断した。この他の遺構の設営時期については、遺跡全体から出土した縄文土器の量的主体が、早期撫糸文期後半、条痕文期、早期末から前期初頭、前期後半のものであることから、概ねその時期における設営と判断できる。

炉跡については限られた範囲に分布していることから、概ね同時期（早期末から前期初頭）の設営である可能性を指摘できる。集石土坑9基のうち7基についても限られた範囲に並んで検出されていることから、概ね同時期の設営であると判断されるが、各集石土坑から撫糸文土器・条痕文土器・早期末から前期初頭の土器の小片が混在して出土しているものの、設営時期を積極的に示すような土器片は出土していない。最後に、挿図中の土器の断面にドット●が記されているものは、胎土中に植物繊維が含まれていることを示している。

最後に、縄文時代の遺構全般についての基礎的な情報に関しては、他の時期の遺構と同様に遺構一覧表（第29表）にまとめている。併せて、縄文時代のなかでの時期等が類推できるものについては一覧表「時期」中に明記しておいた。ここでの時期については、各遺構から出土した最新の遺物に準拠することを基本とし、事実記載中での設営時期の判断よりも踏み込んで示している。

一覧表「遺構種別」中の土坑の後に付された i・ii・iii・iv はそれぞれ、後述のとおり

- i 客観的かつ確実に縄文時代に設営されたと考えられる土坑
（第74図～第76図）
- ii 縄文土器が出土している土坑
（縄文土器出土土坑 第77図～第82図）
- iii 縄文時代の所産であると考えられる石器・礫のみが出土している土坑
（縄文時代礫等出土土坑 第83図～第85図）
- iv 遺物が出土していない土坑
（土坑—その他— 第86図～第91図）

をさしている。

2 遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

SI001 (第62・63図、図版16・41・51)

B4-28・29、38・39グリッドで検出した不整形長方形を呈する竪穴住居跡である。北北東から南南西へと延びる台地平坦面の中央に位置している。長軸の長さは5.1m、短軸の長さは3.4m程度である。SM013、SS002によって大部分が壊されている。掘り込みの深さ25cm程度で床面は中央に向かってわずかに深くなっている。SM013とSS002に挟まれた中央付近には浅い掘り込みがある。炉は長軸の北に偏して構築されている。70cm×70cmの不整形円形で掘り込みは10cm程度である。床面からは7基のピットが検出された。床面からの深さはP 1-21cm、P 2-18cm、P 3-19cm、P 4-11cm、P 5-18cm、P 6-14cm、P 7-8cmである。いずれも浅く、配置も不規則であり柱穴かどうか断定できない。

覆土中から床面にかけて黒曜石製の石鏃2点、同未製品2点、使用痕のある剥片1点のほか剥片・碎片91点が出土した。また、礫石斧1点、礫10点もともに出土している。平面分布、深度分布から判断すると南側から投棄されたものと思われる。なお、本竪穴住居跡の北東1.6mにあるSK008土坑からも黒曜石製の剥片類が多量に出土しており、同時期に機能したものと考えられる。

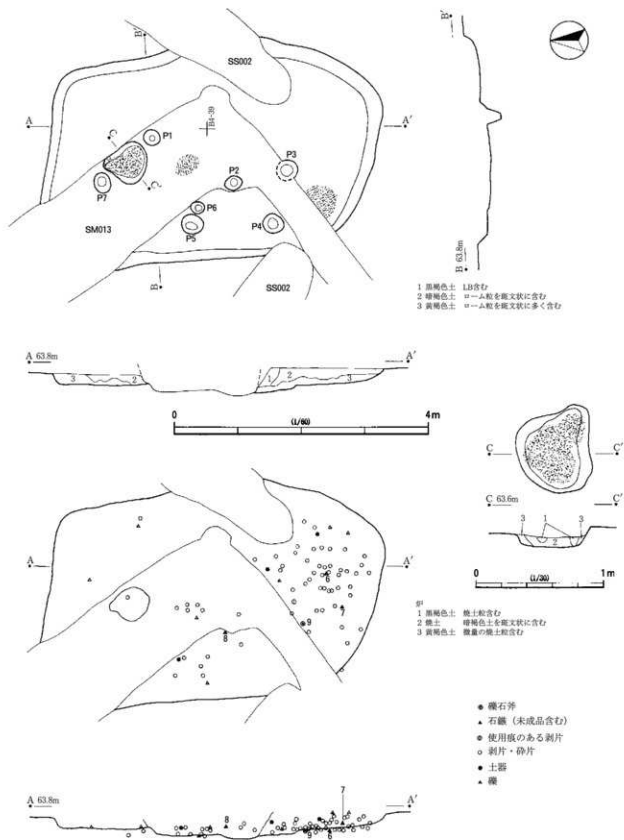
これらに混在して出土した土器は摺糸文土器1点、茅山式系5点、早期終末から前期初頭1点とわずかでしかも小片であり、時期を確定することはためらわれる。

図示した1は摺糸Rが施されたもので、稲荷台式と思われる。2は表面無文、裏面擦痕の土器で、繊維の混入はほとんどない。子母口式であろう。3は表面条痕、裏面不明の土器で、茅山式系と思われる。4は表面は口縁部直下に横に浅く条痕を施した後、斜位の細い条痕を加える。裏面は太めの条痕を横位に浅く施す。繊維の混入はわずかで、裏面にアバタ状剥離がみられる特徴から早期終末から前期初頭の時期のものであろう。5は黒曜石製の石鏃完形品、6は先端が欠損する。加工が粗く厚みもあるため未製品かもしれない。7・8は製作途中で欠損した石鏃の未製品である。9は丸い扁平礫の先端を表裏両面からわずかに剥離を行って刃部を作出した礫石斧である。

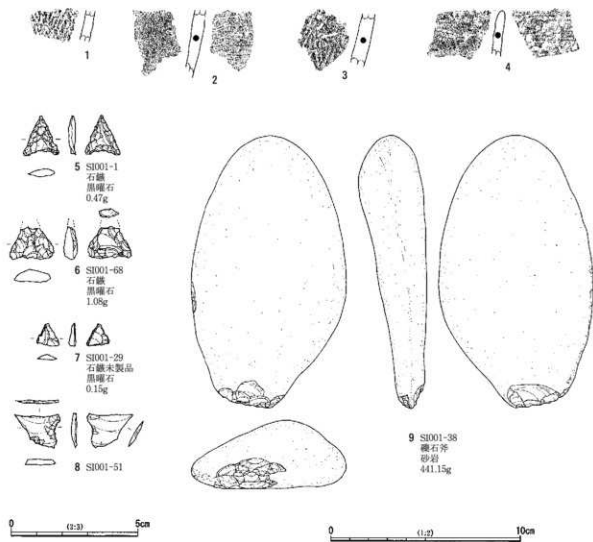
SI022 (第64・65図、図版16・41)

調査区の東端部、遺跡の乗る台地が東に突出した部分の最高部にあたりA8-55・56、65・66グリッドに位置する。南北に長軸をもち、長軸3.00m、短軸2.80m、深さ20cmのほぼ円形を呈する竪穴住居跡である。中心からやや北に炉があるが、焼土の堆積は少なく底の被熱も弱い。平面プランでは大小のピットが床面から検出されたが、深さはいずれも浅く柱穴とは判定しがたい。床面からの深さはP 1-24.5cm、P 2-19cm、P 3-14cm、P 4-22cm、P 5-10cm、P 6-9cm、P 7-15cm、P 8-17.5cm、P 9-22cmである。

出土遺物は土器のほか黒曜石製剥片2点、チャート製剥片1点、蔽石1点、礫25点である。諸磯a式の大形破片が炉内及びピット内から出土しており、本竪穴住居跡はこの時期に属すると考えられる。1は2単位の大形で山形の波状口縁をもつ深鉢で体部下半が欠失する。文様は刻み付きの隆帯と半載竹管による連続爪形文によって構成される。主要な文様帯区画は隆帯でなされる。口縁に平行する区画は隆帯3条で、体括れ部の区画は2条で、口縁波底部には逆U字状に垂下され、さらに山形波頂部を正面にして上部で連結した2条の対向弧線の区画が配置される。半載竹管による連続爪形文は隆帯に沿って使用され、また文様帯内では三角文や木葉文、隆帯間の連結文を描出する。2は推定口径19.5cm、残存高19cmを測る深鉢で、



第62図 SI001



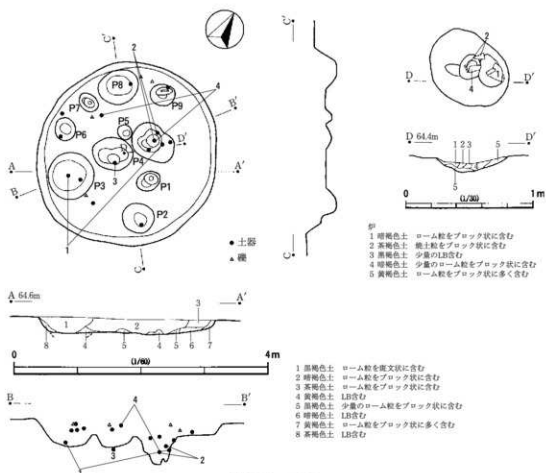
第63図 SI001出土遺物

横走る平行沈線による幅の狭い口縁部文様帯をもつ。文様帯は所々に半截竹管刺突列が垂下する。器表面のほぼ全体に炭化物が付着する。3は推定口径16.4cm、残存高20.5cmを計る細身の深鉢で、平行沈線文による口縁部文様帯をもつ。平行沈線による施文順序は①文様帯上下区画②縦位分帯③充填斜線文の順である。器表面のほぼ全体に炭化物が付着する。5～7、9～11は混在したもので、5は稲荷台式、6は子母口式、7は下吉井式、9・10は興津式、11は前期末から中期初頭の土器である。8は間隔の狭い連続爪形文で蒔炭a式である。

(2) 炉跡

炉跡について、発掘調査の段階では土坑と同じ略号SKを用いており、整理事業の段階で、覆土中の焼土のあり方や、坑底面の受熱から炉跡と判断し、土坑とは別に報告するに至った。

C5-50付近を中心として東西約50m、南北約50mの範囲で合計8基を検出した。限定された範囲からの検出であり、同時期の設営である可能性が高い。各炉跡からの遺物の出土量は概して少ないが、SK134から早期終末から前期初頭の土器がまとめて出土しており、当該期に設営された炉跡群と考えられる。



第64図 SI022

SK082 (第66図、図版17)

C4-38・48グリッドで検出した不整形の炉跡である。長さ1.28m、幅1.23m、深さ23cmを測る。掘り込みの中心部に径約60cm、厚さ約10cmの範囲で焼土が堆積する。周辺は木の根による攪乱が著しい。遺物は出土していない。

SK083 (第66図、図版17)

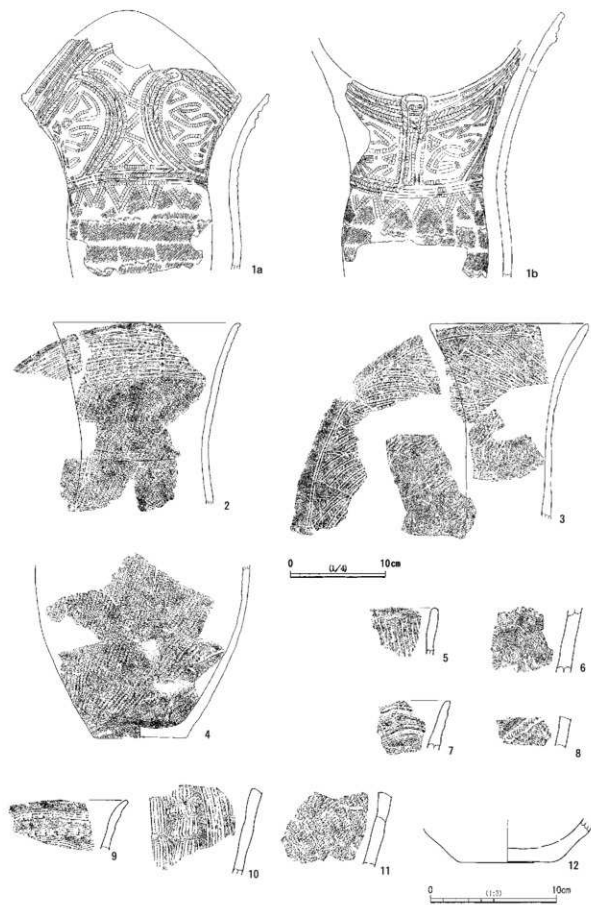
C4-38・48グリッドでSK082に隣接して検出した不整形の炉跡である。長さ1.31m、幅0.56m、深さ26cmを測る。掘り込みの中心部に径30cm～50cm、厚さ18cmの範囲で焼土が堆積する。やはり周辺は木の根による攪乱が著しい。遺物は時期不明の土器小片2点、黒曜石製の剥片1点、礫8点が出土した。

SK098 (第66図、図版17)

C4-55グリッドで検出した不整形の炉跡で東側が攪乱を受けている。長さ1.12m、幅0.62m、深さ6cm、東側が深く36cmを測る。焼土の堆積はわずかで、西側床面が被熱により酸化している。遺物は出土していない。

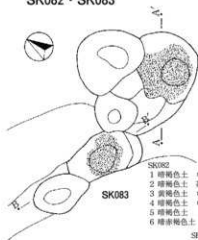
SK128 (第66図、図版17)

C4-27・28グリッドで検出した不整形の炉跡で、方墳SM018の周溝下から検出された。SK082・



第65图 SI022出土土器

SK082・SK083



SK082

- 1 暗褐色土 ローム粒をブロック状に含む 焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 茶褐色土を斑文状に含む
- 3 黄褐色土 ローム粒をブロック状に含む
- 4 暗褐色土 ローム粒の小ブロックを含む
- 5 暗褐色土
- 6 暗赤褐色土 焼土粒を斑文状に含む

SK083

SK083

- 1 暗褐色土 茶褐色土を斑文状に含む 焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 少量の焼土粒を含む
- 3 暗赤褐色土 焼土粒を斑文状に含む 炭化粒を含む

64.0m



SK098



- 1 暗褐色土 ローム粒をブロック状に含む
- 2 黄褐色土 ローム粒の小ブロックを含む
- 3 暗褐色土 焼土粒を含む

SK140



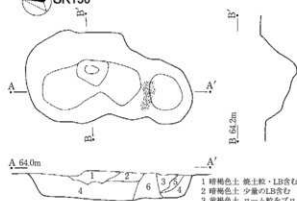
SS048主体部

- 1 黒褐色土 少量のローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を斑文状に含む
- 3 暗褐色土 微量の焼土粒を含む
- 4 暗褐色土 少量のローム粒を斑文状に含む
- 5 暗褐色土 焼土粒の小ブロックを含む
- 6 黒褐色土
- 7 黄褐色土 LBを多く含む

64.3m

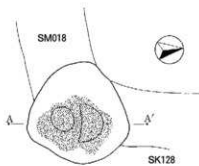


SK150



- 1 暗褐色土 焼土粒・LBを含む
- 2 暗褐色土 少量のLBを含む
- 3 黄褐色土 ローム粒をブロック状に多く含む

SK128

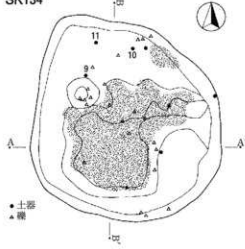


64.0m



- 1 焼土 炭化材料を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒の小ブロック・炭化材料を多く含む
- 3 黄褐色土 炭化材料を含む

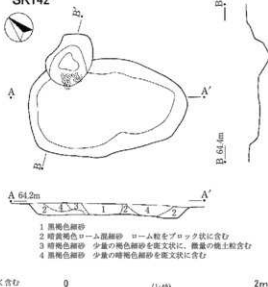
SK134



64.3m



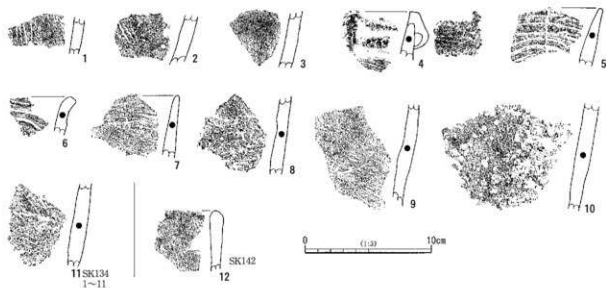
SK142



- 1 黒褐色細砂
- 2 暗黄褐色 ローム細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 少量の褐色細砂を斑文状に、微量の焼土粒を含む
- 4 黒褐色細砂 少量の暗褐色細砂を斑文状に含む

0 (1:40) 2m

第66図 炉跡



第67図 炉跡出土土器

SK083の北西8mに位置する。長さ1.08m、幅1.07m、深さ15cmを測る。東半部を中心に80cm～60cm、厚さ8cmの範囲で焼土が堆積する。遺物は出土していない。

SK134 (第66・67図、図版17・41)

C5-31・41グリッドで検出した不整形の炉跡である。長さ2.13m、幅2.08m、深さ29cmを測り、他の炉跡より大形である。掘り込みの中央部が周辺より高く、ここに焼土の分布が認められた。焼土の堆積はわずかである。

遺物は土器が小片を含め67点、礫261点重量約8kgが出土した。土器は燃糸文土器と早期終末から前期初頭のものに2分されるが後者が圧倒的に多い。図示した1～3は稲荷台式である。4は口縁に平行する隆帯に口端上突起から垂下する隆帯が連結した文様をもつ。隆帯上には刻みが付き、表裏面には浅い条痕がみられる。早期終末の神之木台式である。5・6はともに波状口縁で半截竹管による多条の平行沈線が施文されるもので、下吉井式である。8は両型式に伴う波状口縁で表面条痕の土器、9～11は同じく無文の土器である。いずれも繊維の混入は少ないが、10のように表裏面ないしは片面にアバタ状剥離が顕著にみられるのが特徴である。

SK140 (第66図、図版17)

C5-32グリッド、方形周溝墓SS048の主体部に切られて検出した不整形の炉跡である。SK134の北東4mに位置する。残存長1.36m、幅1.00m、深さ23cmを測る。1.1m×0.8mの範囲で底面に被熱による酸化が認められる。遺物は時期不明の縄文土器細片1点と礫46点重量約1kgが出土した。

SK142 (第66・67図、図版17・41)

C5-60グリッド、SM010の墳丘下で検出した炉跡である。調査段階での所見は「焼土部分付近に一段下がった土坑が付属している」というものである。隅丸長方形を呈し、長さ1.69m、幅1.04m、深さ11cmである。付属する土坑は卵形を呈し、長さ63cm、幅50cm、深さ23cmを測る。焼土の堆積はわずかである。遺物は燃糸文土器1点及び早期終末から前期初頭の無文土器小片3点、礫16点重量約0.5kgが出土した。図示した土器12は稲荷台式である。

SK150 (第66図、図版18)

C5-90グリッド、SM010の墳丘下で検出した長楕円形の炉跡である。調査段階での所見は「SK142と同じく焼土と中央付近に土坑が付属している」というものである。長さ1.8m、幅0.97m、深さ28cmで焼土の堆積はわずかである。遺物は出土していない。

(3) 集石土坑

集石土坑は合計9基を検出した。いずれの集石も表面の大半が焼けた礫が集積したものである。A7グリッドの南向き台地肩部に沿ってSX001～SX007の7基が並ぶ。SX009の1基のみがB3グリッドの西向き斜面に位置する。

なお、発掘調査段階では集石のみが検出され、掘り込みを確認できなかったものとしてSX008がある。これについては、厳密には集石土坑ではないが便宜的にここでとりあげることにする。

SX001 (第68・69図、図版18・41)

A7-66・76グリッドにまたがって検出した。直径85cm～90cmの略円形で深さ10cmの皿状土坑である。集石は検出面から坑底まで密集した状況であった。出土した礫は計307点、総重量約27kgを量る。

土器は6点が出土した。図示した3点はいずれも遺構検出面から出土した。燃系文土器である。1・2とも口端直下が浅くくびれる無文土器で、3は尖底の破片である。

SX002 (第68・69図、図版18・19・41)

A7-76グリッドで検出した。SX001の南西1mに位置する。直径75cm～80cmの不整形円で深さ15cmの皿状土坑である。集石は南半に密集した状況であったが、北に向かって次第に散漫となっていた。坑底からはやや浮いている。出土した礫は計225点、総重量約34.5kgを量る。

土器2点、黒曜石の剥片1点が出土した。図示した1点は燃系Rが疎らに施された燃系文土器、他の1点は小片で時期不明である。

SX003 (第68・69図、図版18・19・41)

A7-65・75グリッドにまたがって検出した。SX002の西2mに位置する。直径70cm～80cmの円形に近い形状で深さ15cmの皿状土坑である。集石は検出面から坑底まで密集した状況であった。出土した礫は計114点、総重量約15kgを量る。

土器5点が出土した。内訳は燃系文土器4点、早期終末から前期初頭の土器1点である。1はごく浅くRの燃系が施された稲荷台式、2は繊維を微量混入した表裏無文の土器で早期終末から前期初頭に属すると思われる。

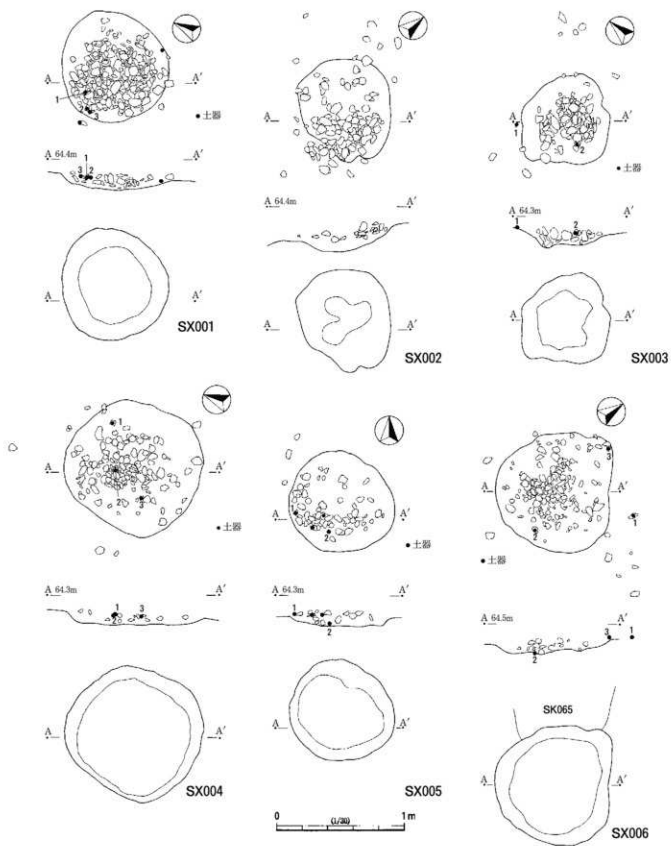
SX004 (第68・69図、図版19・20・41)

A7-74・75グリッドにまたがって検出した。SX003の南西2.5mに位置する。直径105cm～100cmの略円形で深さ5cm～8cmの浅い皿状土坑である。集石は比較的密集した状況で出土したが、坑底からはわずかに浮いていた。出土した礫は計213点、総重量約10kgを量る。

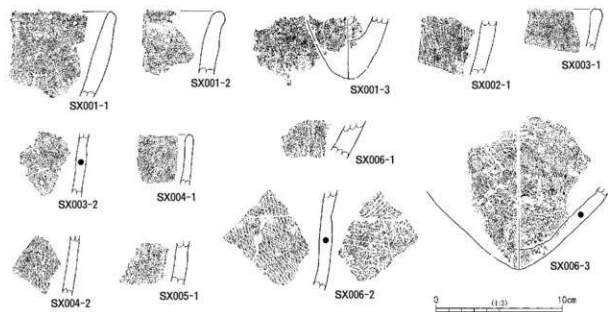
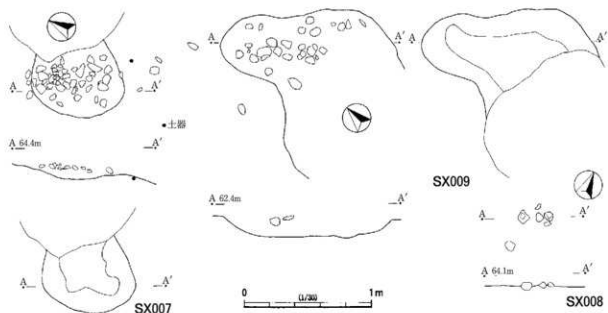
土器3点が出土した。いずれも遺構検出面より若干上から出土したものである。1・2は燃系文土器で、1は表面に擦痕が残る。2点とも稲荷台式であり、このほか図示し得ない表裏条痕の茅山式系土器がある。

SX005 (第68・69図、図版20・41)

A7-62・63グリッドにまたがって検出した。SX004の北西8.5mに位置する。直径80cm～85cmの略円形で深さ5cm程度の皿状土坑である。集石は特に南半は坑底まで密集した状況であったが、中央にはあたかも



第68图 集石土坑 (1)



第69図 集石土坑（2）、集石土坑出土土器

抜き取られたような空隙が認められた。出土した礫は計71点、総重量約8kgを量る。

土器4点が出土した。2は図示しなかったが、覆土下層からの出土で早期終末から前期初頭と思われる小片である。図示した1をはじめとする他の3点は遺構検出面ないし若干上から出土したもので、いずれも燃系土器である。

SX006（第68・69図、図版20・21・41）

A8-60グリッドで検出した。陥穴SX065と切り合っているが、新旧は不明である。直径95cm～100cmの略円形で深さ10cm程度の皿状土坑である。集石は土坑中心付近で特に密集した状況であった。出土した礫は計279点、総重量約11kgを量る。

土器3点が出土した。1・3は遺構検出面より若干上から出土したもので、2は覆土下層からの出土である。1は撫糸文土器、2は繊維を含む表裏条痕の茅山式系の土器、3は無文で裏面にアバタ状剥離が顕著な早期終末から前期初頭の尖底である。

SX007 (第69図、図版21)

A8-71グリッドで検出した。SX006の南東5.5mに位置する。直径70cm～80cm程度の略円形を呈すると思われるが、北東側が後世の攪乱を受けている。深さは5cm～10cm程度で浅い皿状断面をなし、集石は坑底から浮いた状態であった。出土した礫は計76点、総重量約5kgを量る。

出土した土器は1点で、遺構検出面より上から出土した。撫糸文土器の小片である。

SX008 (第69図、図版21)

B6-04グリッドで検出した。SX001～SX007のまともりからは離れた地点での設営であり、掘り込みも確認できなかった。集石は散漫な状態で、礫は計6点である。土器は出土していない。

SX009 (第69図、図版21)

B3-73グリッドで検出した。SX001～SX007のまともりからは離れた地点での設営であり、楕円形の形状も他と異なる。長軸140cm、短軸80cm程度の大きさであったと思われるが、南側が攪乱を受けている。深さは15cm程度、皿状断面をなす。集石は散漫な状態で、坑底から浮いた状態であった。出土した礫は計31点、総重量約5.5kgを量る。土器は出土していない。

(4) 陥穴

陥穴について、発掘調査の段階では土坑と同じ略号SKを用いており、整理事業の段階で、形態から陥穴と判断し、土坑とは別に報告するに至った。

合計15基の陥穴を検出した。C3・4、D5以南を除く各大グリッドから散漫な状態で検出された。平面プランが隅丸方形、隅丸長方形、円形、溝状の各種があり、大きさや坑底の小ピットの有無にも相違がある。

SK018 (第70・72図、図版21・22・41)

B4-43・53グリッドで検出した。隅丸方形の平面プランを呈する。長さ1.99m、幅1.83m、深さ252cmを測る。坑底から約1mの堆積は黒褐色土と黄褐色土の互層をなす。

遺物は覆土中位から上部から図示した表裏条痕の茅山式系土器及び礫が3点出土した。

SK022 (第70図、図版22)

B3-06グリッド、弥生時代竪穴住居跡SI003の床面下から検出した。長方形の平面プランを呈する。長さ1.95m、幅0.85m、深さ78cmを測る。遺物は出土していない。

SK060 (第70図、図版22)

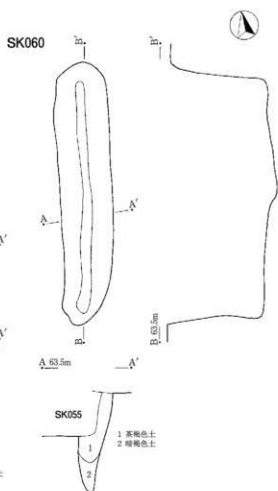
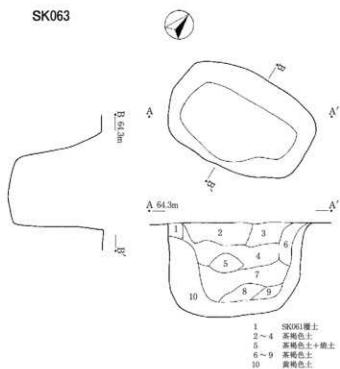
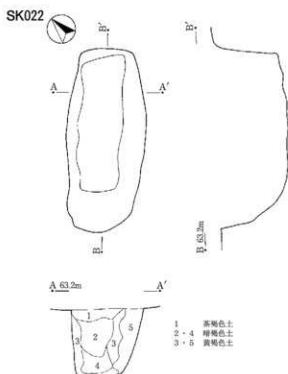
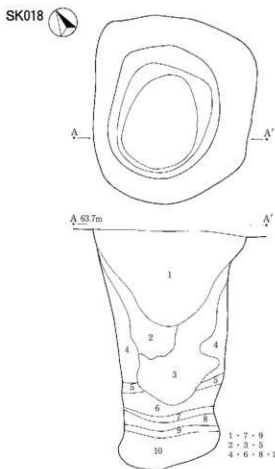
A8-69・79、A9-60・70グリッドで検出した。長楕円形の平面プランを呈する。SK055に西壁の大半が切られている。長さ2.79m、幅0.53m、深さ118cmを測る。遺物は出土していない。

SK063 (第70図、図版22)

A7-63・64グリッドで検出した。隅丸長方形を呈する小形の陥穴である。長さ1.55m、幅1.06m、深さ101cmを測る。遺物は出土していない。

SK065 (第71図)

A8-50・60グリッドで検出した。方形周溝墓SS034の北溝に北半を切られる。南半は集石土坑SX006と切り合っているが新旧関係は把握できなかった。隅丸方形を呈する小形の陥穴である。長さ0.81m、幅



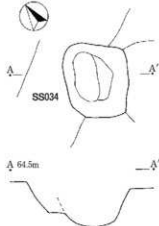
SK055

1 黑褐色土
2 暗褐色土

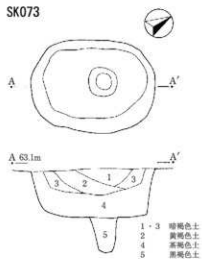
0 (1:40) 2m

第70图 随穴(1)

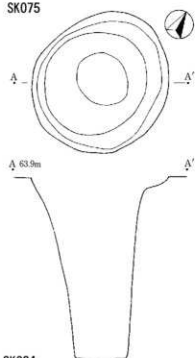
SK065



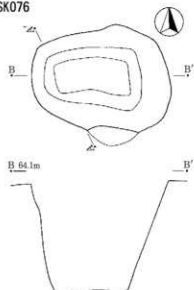
SK073



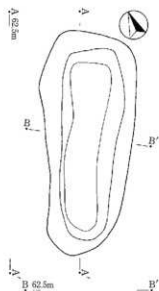
SK075



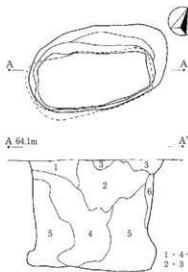
SK076



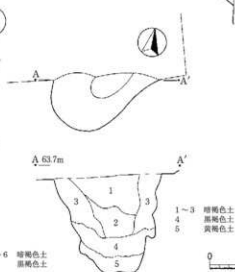
SK084



SK121



SK125



0 (1:40) 2m

第71图 陷穴(2)

0.67m、深さ50cmを測る。覆土は黄褐色土である。

遺物は黒曜石製の剥片が1点出土した。

SK073 (第71図、図版22)

B3-29グリッドで検出した。楕円形の平面プランを呈する。長さ1.31m、幅1.00m、深さ53cmを測る。底面中央に径31cm、深さ37cmのピットがある。ピット覆土は黒褐色で、逆茂木が腐食し土壌化したものと考えられる。遺物は出土していない。

SK075 (第71図、図版22・23)

B4-95・96グリッドで検出した。円形の平面プランを呈する。長さ1.56m、幅1.40m、深さ194cmを測る。遺物は出土していない。

SK076 (第71図、図版23)

B4-97グリッドで検出した。隅丸長方形の平面プランを呈する。長さ1.48m、幅1.28m、深さ120cmを測る。遺物は出土していない。

SK084 (第71図、図版23)

B3-33・43グリッドで検出した。隅丸長方形の平面プランを呈する。長さ2.38m、幅1.05m、深さ57cmを測る。遺物は出土していない。

SK121 (第71・72・73図、図版23・51)

A6-94、B6-06グリッド、円墳SM004墳丘下で検出した。隅丸長方形の平面プランを呈する。長さ1.51m、幅0.90m、深さ120cmを測る。床面付近の壁は挟れて全体的にオーバーハングし、北西辺の北東半にはテラス状の平場がみられる。平場の検出面からの深さは44cmである。

遺物は土器が小片を含め20点、黒曜石製の剥片1点、礫石斧1点、礫13点が出土した。時期の明らかな土器は本跡の設営時期を示す可能性が低いことから遺構外出土として扱った稲荷台式1点(第92図37)、茅山系10点である。第72図に示した土器1は口端直下に幅広の隆帯を貼り付け、口端と隆帯上に木端のささくれた木口様の工具を押捺している。繊維を微量混入する。2は表面条痕で裏面擦痕、3は表面条痕で裏面無文である。4は表面擦痕、裏面無文である。いずれも繊維の混入は多くない。1の類例は知らないが、他は子母口式であり、1も同時期のものであろう。第73図の礫石斧はやや厚みのある小形の礫の先端をわずかに加工しただけのものである。

SK125 (第71図、図版23)

B5-19グリッドで検出した。楕円形の平面プランを呈するものと思われる。下層確認調査のグリッドにより北半部を欠く。残存長1.12m、残存幅0.68m、深さ111cmを測る。遺物は出土していない。

SK141 (第72図、図版24・41)

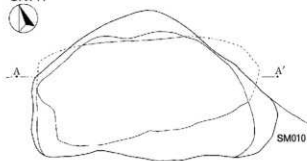
C5-40・41グリッドで検出した。SM010の周溝に南半上部を切られる。長さ2.64m、幅1.59m、深さ120cmを測る。坑底が袋状に広がる。

遺物は土器3点、礫96点が出土している。図示した土器2点のうち1は稲荷台式、2は表面条痕、裏面無文の茅山系土器である。

SK152 (第72図、図版24)

C5-35・45グリッドで検出した。隅丸長方形の平面プランを呈する。西南隅をSS048の東溝に切られている。残存長2.64m、幅1.43m、深さ56cmを測る。東南壁寄りに2基のピットがみられ、北東のピットは

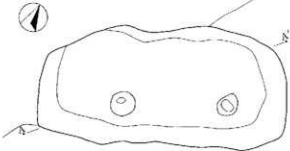
SK141



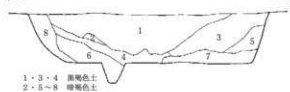
A 64.2m



SK152

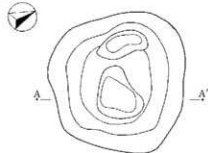


A 63.8m



1・3・4 黄褐色土
2・5~8 暗褐色土

SK153

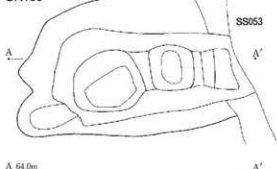


A 63.8m

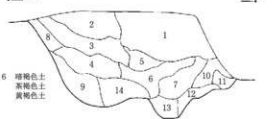


SK153

SK156

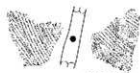


A 64.0m

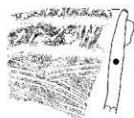


1~3・5・6 暗褐色土
7・8・14 黄褐色土
9・10・12 黄褐色土

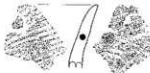
0 (1:40) 2m



SK018-1



SK121-1



SK121-2



SK121-3



SK121-4



SK141-1



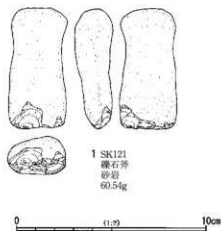
SK141-2



SK156-1

0 (1:3) 10cm

第72图 随穴(3)、随穴出土土器



第73図 陥穴出土石器

径0.22m、底面からの深さ49cm、南西のピットは径26cm、底面からの深さ18cmを測る。2基のピットは逆茂木の痕跡であろうか。遺物は出土していない。

SK153 (第72図、図版24)

B5-65グリッド、SM007の墳丘下で検出した。隅丸方形の平面プランを呈する。長さ1.50m、幅1.48m、深さ113cm、底面に2か所の不整形な窪みがあり、深さは117cmである。遺物は出土していない。

SK156 (第72図、図版24・41)

C5-03・04・13グリッド、SM007の墳丘下で検出した。北東半を方形周溝墓SS053の南西溝に切られており、残存長2.53m、幅1.57m、深さ122cmを測る。底面にはハシゴ状の凹凸がみられる。

南西隅には小規模な土坑状のテラスがみられ、深さ92cmである。

遺物は土器1点と礫111点が出土した。図示した土器1は繊維を微量混入する無文の土器で早期終末から前期初頭に属するものと思われる。

(5) 土坑

発掘調査の段階では、広義の土坑について略号SKを用いて、SK001～SK156の156基の土坑の調査を実施している。整理作業の段階で、これら156基の土坑から、縄文時代においては、炉跡や陥穴と判断できるものについて分離した。また、弥生時代や古墳時代の単独の土坑、さらには奈良・平安時代以降の設営と判断できるものを分離した。この分離した結果の残りの109基の土坑について、ここでの記載の対象とする。

109基の土坑の内訳は、土器・石器等の出土状況等から、

- i 客観的かつ確実に縄文時代に設営されたと考えられる土坑 3基
 - ii 縄文土器が出土している土坑 42基
(土器と共に石器や礫が出土している土坑を含む)
 - iii 縄文時代の所産であると考えられる石器・礫のみが出土している土坑 20基
(土器は出土せず、石器や礫のみが出土している土坑)
 - iv 遺物が出土していない土坑 44基
- となる。

これら4種類の土坑のうち「i」の3基を除いた106基の土坑については、客観的かつ確実に縄文時代の設営であると断言できないものの、発掘調査段階の所見では縄文時代の設営であるものと判断され、財団の年報等を含めた一連の刊行物にその旨を記してきた。これらの経緯を踏まえ、報告の方法として縄文時代の範囲でとりあげることにする。なお、本件に関する問題点については第4章中にまとめとして検討し、そのなかで縄文時代に属する可能性を示しておいた。

なお、土坑の提示については、事実記載については上記「ii・iii・iv」ごとに番号順に示したが、図についてはレイアウトの都合上、一部については番号順にはなっていない。

また上記の土坑の分類の「ii」から出土した土器・石器類、「iii」から出土した石器については、レイ

アウトの都合上、一括して後述の「3 遺構外出土遺物」中に示している。

i 客観的かつ確実に縄文時代に設営されたと考えられる土坑

合計3基を検出した。いずれも土器ないし石器類が廃棄された土坑である。

SK008 (第74・75図、図版24・51)

B4-29グリッドで検出した平面プラン卵形、断面形状が鍋底形を呈する土坑である。長さ1.32m、幅1.03m、深さ29cmを測る。

石鏃1点、石鏃未製品5点、楔形石器3点、二次加工のある剥片5点、石核1点、剥片及び破片110点・90gが覆土中層を中心に出土した。すべて黒曜石製である。平面分布、深度分布から判断すると東側から投棄されたものと思われる。なお、本土坑の南西1.6mにあるSI001からも黒曜石製の剥片類が多量に出土しており、同時期に機能したものと考えられる。土器片1点、破砕礫1点がともに出土している。土器は小片で図示できなかった。繊維を混入する表裏無文のもので、早期終末から前期初頭に属すると思われるが、これをもって投棄された石器類

の時期を確定するのは難しい。

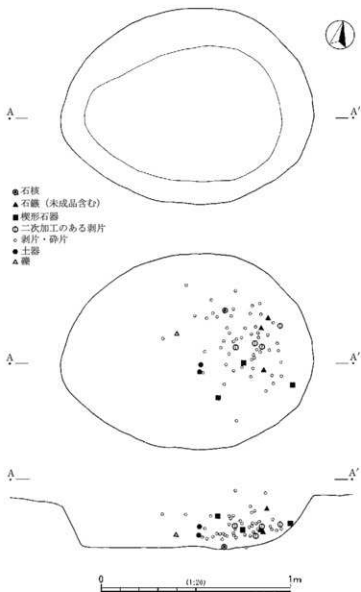
1は石鏃で先端と脚部片側を欠損する。2～5は石鏃未製品で、細部加工の初期段階のものもある。6～8は楔形石器である。9～13は二次加工のある剥片で、このうち10は先端部に執拗な細部加工を繰り返しており、石鏃未製品の可能性もある。14は石核である。

SK051 (第76図、図版24・25・41)

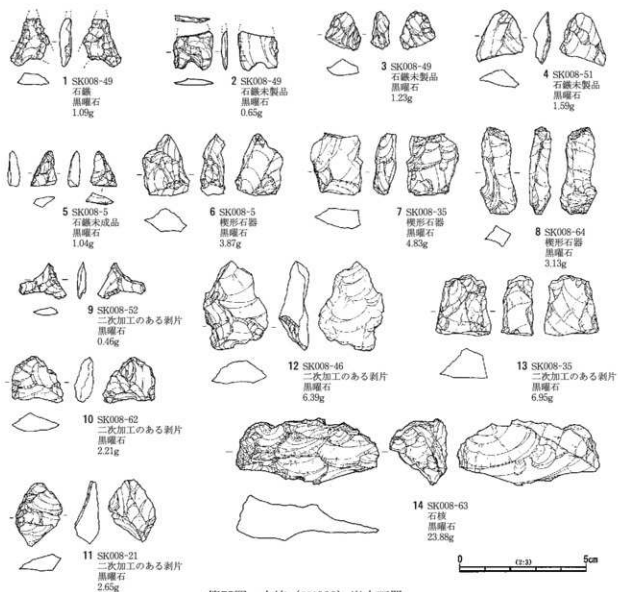
C3-55・65グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長さ2.41m、幅1.75m、深さ44cmを測る。覆土中から黒浜式土器の同一個体片と破砕礫2点が出土した。土器は羽状縄文の地文上に口端直下と頭部にコンパス文を施文したものである。縄文はLRの軸縄にR1条を付加した附加条縄文とRLの軸縄にL1条を付加した附加条縄文である。

SK085 (第76図、図版25・41)

B3-23・33グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.25m、幅1.02m、深さ38cmを測る。覆土中層から諸礫b式の大形破片が出土した。推定口径19.8cmの深鉢で、左端口縁部付近に2か所補修孔がみられる。文様は半載竹管に



第74図 土坑 (SK008)



第75図 土坑 (SK008) 出土石器

よる横線と弧線をやや乱雑に施文したものであるが、地文が粗い撚糸文である点に注意される。

ii 縄文土器が出土している土坑 (縄文土器出土土坑)

SK003 (第77図、図版25)

B4-77・78グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.89m、幅1.28m、深さ18cmを測る。突端部と東側縁に径28cm～38cm、底面からの深さ10cmのピットを有するが、突端部のピットは断面から土坑の埋没後に掘られた可能性が高く、両ピットとも本遺構に伴わない可能性が高い。

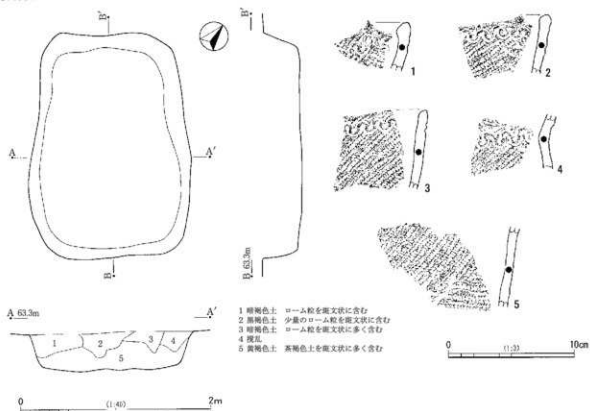
遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片が出土している。

SK029 (第77図、図版25)

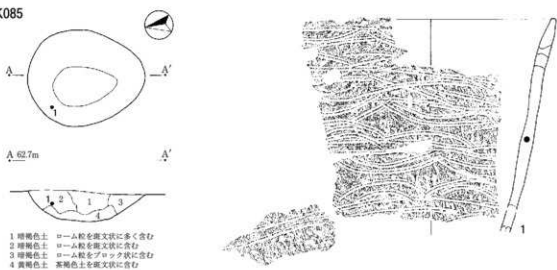
B5-17グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.12m、幅0.94m、深さ21cmを測る。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK051

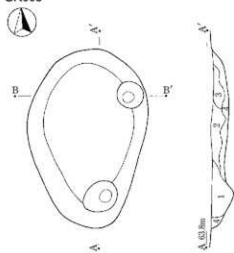


SK085



第76図 土坑 (SK051・SK085)、土坑 (SK051・SK085) 出土土器

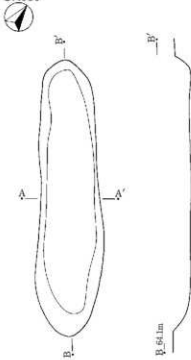
SK003



B 63.8m

- 1 黒褐色細砂 少量の褐色ローム質細砂をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 褐色ローム質細砂をブロック状に含む
- 3 褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 4 明褐色ローム質細砂 LB厚0.5~1.0cmを含む

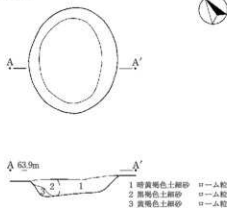
SK030



A 64.1m

- 1 暗褐色土 粘土粒を含む
- 2 暗黄褐色土 褐色土を含む
- 3 黄褐色土 暗褐色土を含む

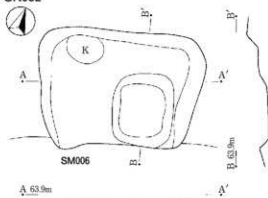
SK029



A 63.9m

- 1 暗黄褐色土細砂 ローム粒を含む しまり中
- 2 黒褐色土細砂 ローム粒を含む しまり中
- 3 黄褐色土細砂 ローム粒主体

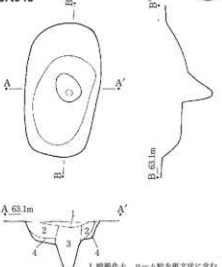
SK032



A 63.9m

- 1 暗褐色土 ローム粒を縦文状に含む しまり弱
- 2 暗黄褐色土 ローム粒を多く含む しまり弱
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む しまり弱
- 4 暗褐色土 ローム粒を縦文状に含む しまり弱
- 5 暗黄褐色土 ローム粒を含む しまり中
- 6 黄褐色土 LB含む しまり強

SK046



A 63.1m

- 1 暗褐色土 ローム粒を縦文状に含む 粘性弱
- 2 褐色土 1に比べローム粒の混入が多い 粘性弱
- 3 暗褐色土 1に比べローム粒の混入が少ない 粘性弱
- 4 明褐色土 ローム粒主体に暗褐色土を含む 粘性弱

0 (1:40) 2m

第77図 縄文土器出土土坑 (1)

SK030 (第77図、図版25)

B4-97グリッドで検出した長楕円形を呈する土坑である。長さ2.92m、幅0.74m、深さ26cmを測る。

遺物は稲荷台式土器を含む燃系文系土器(第92図15)、図示不可能な条痕文系土器の小片、礫が出土している。

SK032 (第77図、図版25)

B5-18グリッドで検出した隅丸方形を呈する土坑である。SM016古墳の周溝により南東部を切られ、長さ1.78m、残存幅1.34m、深さ16cmを測る。東半部に隅丸方形の土坑がみられ、土坑の規模は長さ0.78m、幅0.65m、深さ10cmを測る。

遺物は野島式土器を含む条痕文系土器(第99図295・311)や礫が出土している。

SK033 (第78図、図版25・26)

B5-18・19グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。SK032土坑の東に位置し、SK032同様、SM016の周溝により南東部を切られる。長さ3.15m、残存幅1.84m、深さ37cmを測る。底面には径約20cm～30cm、深さ4cm～32cmのピットが4基検出された。

遺物は図示不可能な燃系文系土器・条痕文系土器の小片や、礫石斧(第123図130)が出土している。

SK045 (第78図、図版26)

D3-36・46グリッド、調査区南東端で検出した土坑である。卵形もしくは楕円形を呈しているものと思われ、検出した長さ1.57m、幅1.76m、深さ20cmを測る。覆土は床面付近が暗黄褐色細砂であるほかは暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器の小片が出土している。

SK046 (第77図、図版26)

D3-18・19グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.43m、幅0.79m、深さ26cmを測る。床面に径30cm～25cm、深さ26cmのピットがみられる。覆土は検出面付近とピットが暗褐色土、周囲が褐色土、床面付近が明褐色土であり、ピットと土坑は時期が異なる可能性が高い。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器を含む燃系文系土器と条痕文系土器の小片、礫が出土している。

SK050 (第80図、図版32)

B6-08グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長さ2.59m、幅1.68m、深さ18cmを測る。西側長辺に径73cm、深さ15cmのピットがみられる。覆土は暗褐色細砂と褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片が出土している。

SK056 (第78図、図版26)

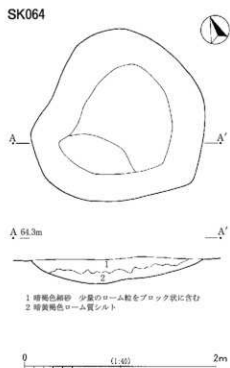
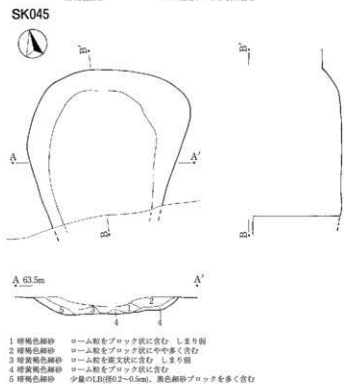
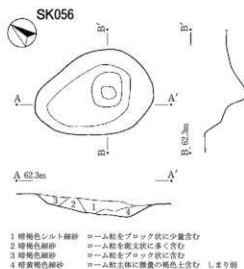
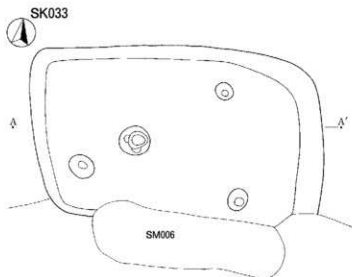
A9-51・52・61・62グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.26m、幅0.90m、深さ37cmを測る。底面に径32cm～39cm、深さ8cmのピットを有する。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面付近が暗黄褐色細砂である。

遺物は図示不可能な浮島式土器・興津式土器の小片、礫が出土している。

SK059 (第79図、図版26・32)

A8-61・62・72グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ2.01m、幅1.45m、深さ59cmを測る。覆土は底面から壁面が黄褐色細砂、褐色細砂、暗褐色細砂、中央部が黒褐色細砂である。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器の小片、礫石斧(第125図171)が出土している。



第78図 縄文土器出土土坑(2)

SK061 (第79図、図版27)

A7-63・73グリッドで検出した長楕円形を呈する土坑である。長軸側の北東端をSK063土坑により切られており、残存長1.70m、幅1.00m、深さ19cmを測る。覆土は下半が褐色細砂、上半が暗褐色細砂である。

遺物は稲荷台式土器を含む燃糸文系土器(第92図45)、条痕文系土器(第100図348、第102図417)、礫が出土している。

SK062 (第78図、図版27)

A7-62・63・73グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.60m、幅1.14m、深さ17cmを測る。覆土は北西半が暗褐色細砂、南東半が褐色細砂である。

遺物は稲荷台式土器(第94図126)と図示不可能な条痕文系土器の小片、礫が出土している。

SK064 (第78図、図版27)

A6-78・88グリッドで検出した不整形な土坑である。SS042の北東隅、SM003の墳丘南端に位置する。長さ1.88m、幅1.86m、深さ25cmを測る。覆土は上半が暗褐色細砂、下半が暗黄褐色ローム質シルトである。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器の小片、礫が出土している。

SK066 (第79図、図版27)

A8-65グリッドで検出した楕円形の土坑である。SS030の南西隅、SI022の南西に位置する。長さ1.54m、幅0.67m、深さ26cmを測る。中央部に径28cm～41cm、深さ9cmのピットを有する。覆土は壁際に黒褐色細砂、中央部に暗褐色細砂、底部付近が褐色細砂である。

遺物は縄文時代中期の土器(第107図583)と礫が出土している。

SK069 (第79図、図版28)

A7-91・92、B7-01・02グリッドで検出した隅丸方形の土坑である。SM020古墳墳丘西側より検出され、SK078土坑の東に位置する。長さ1.84m、幅1.52m、深さ80cmを測る底面の南北にピット状の落ち込みがあり、北側ピットは径36cm～46cm、深さ22cm、南側のピットは径42cm～50cm、深さ5cmである。覆土は床面から壁面にかけて褐色細砂、ほかには暗褐色細砂で中位に褐色細砂層と黒褐色細砂層を挟む。

遺物は図示不可能な燃糸文系土器の小片と礫が出土している。

SK074 (第79図、図版28)

B4-11グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.15m、幅0.58m、底面は北東側がわずかに低く、深さ23cmを測る。

遺物は図示不可能な燃糸文系土器の少片が出土している。

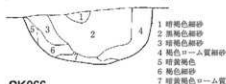
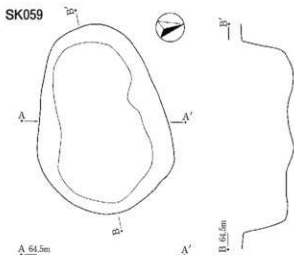
SK077 (第79図、図版28)

C4-08グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。SS014方形周溝墓の南隅、SK076土坑の南東に位置する。長さ1.66m、幅1.15m、深さ39cm、底面中央に長さ54cm、幅36cm、深さ8cmの楕円形のピットがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、北西半に黒褐色細砂がみられる。

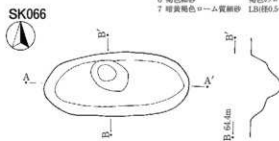
遺物は図示不可能な縄文土器の少片と礫が出土している。

SK079 (第81図、図版28)

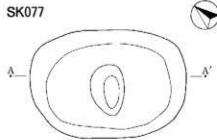
C4-19・29グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。北半はSM022の周溝に切られており残存長1.15m、幅1.02m、深さ34cmを測る。覆土は床面付近が暗黄褐色細砂と褐色細砂、その上に暗褐色細砂、



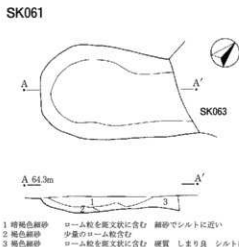
褐色のローム粒をブロック状に含む
 褐色のローム粒を塊状に含む
 褐色ローム粒をブロック状に含む
 ローム粒をブロック状に多く含む
 LBを局所的に多く含む
 褐色のローム粒をブロック状に多く含む
 LB(径0.5~1.0cm)を多く含む



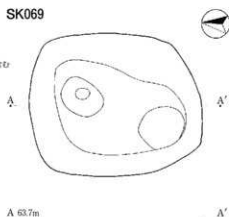
ローム粒をブロック状にやや多く含む
 ローム粒をブロック状に含む
 LB主体
 LB(径0.5~1.0cm)を含む
 LB(径0.5~1.0cm)を多く含む



ローム粒をブロック状に含む
 ローム粒をブロック状に多く含む 炭化材を含む
 ローム粒をブロック状に含む
 褐色土主体 ローム粒・LB(径1.0cm)を含む

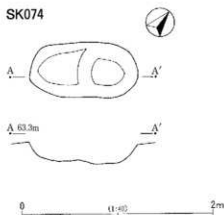


1 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む 細砂でシルトに近い
 2 暗褐色細砂 少量のローム粒を含む
 3 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む 硬質 しまり良 シルトに近い



- 1 暗褐色細砂
- 2 暗褐色細砂
- 3 暗褐色細砂
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色細砂
- 6 暗褐色細砂
- 7 暗褐色細砂
- 8 暗褐色細砂
- 9 暗褐色細砂

LB(径1.0cm)を少量、褐色土を塊状に多く含む
 LB(径0.5cm)を少量含む しまり弱
 LB(径0.5~1.0cm)を多く含む
 ローム粒主体
 LB(径0.5cm)を少量含む
 褐色土を塊状に含む
 色調等 少量のLBを少量含む
 LB(径1.0cm)を多く含む
 多量の褐色土、LB(径0.5cm)を含む



0 2m

第79図 縄文土器出土土坑(3)

黒褐色細砂の順に堆積している。

遺物は図示不可能な条痕文系土器・稲荷台式土器の小片、礫が出土している。

SK081 (第81図、図版28)

C4-38・39グリッドで検出した不整形を呈する土坑である。長さ1.47m、幅0.72m、深さ44cmを測る。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器の小片と礫が出土している。

SK086 (第81図、図版25)

B3-23グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.27m、幅0.69m、深さ34cmを測る。覆土は上層が暗褐色細砂、下層が暗黄褐色細砂である。

遺物は図示不可能な縄文土器の少片が出土している。

SK096 (第81図、図版28・29)

C4-64グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.99m、幅0.72m、深さ21cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、中央に暗黄褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な縄文土器の少片、石鏝(第117図29)が出土している。

SK097 (第81図、図版29)

C4-54・55グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.98m、幅0.82m、深さ22cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、南側底面から壁面にかけて暗黄褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK099 (第81図、図版28・29)

C4-64グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.74m、幅0.36m、深さ17cm、東側が深く20cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK103 (第81図、図版29)

C4-67グリッドで検出した偶丸方形を呈する土坑である。長さ0.90m、幅0.78m、深さ14cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片が出土している。

SK108 (第82図、図版29)

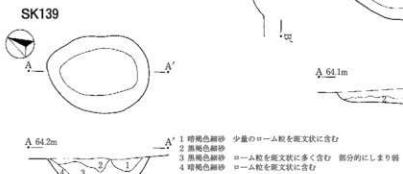
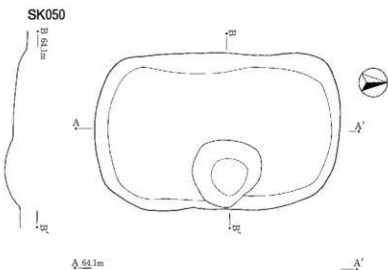
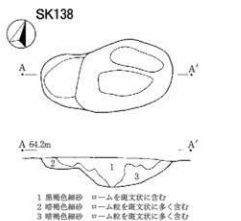
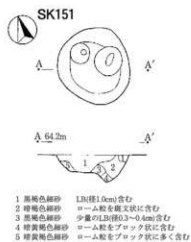
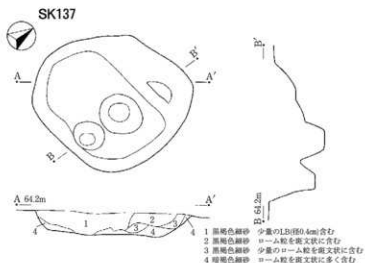
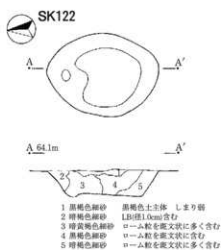
D4-15グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.18m、幅0.81m、深さ11cm、南西端に径16cm～26cm、深さ15cmのピットがみられる。覆土は暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器の小片、礫が出土している。

SK110 (第81図、図版29)

D4-25・26グリッド、SM011の墳丘下で検出した北東から南西方向に長い楕円形を呈する土坑である。長さ1.67m、幅0.94m、深さ27cm、南東部に径26cm～40cm、深さ31cmのピットがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、上面に黒褐色細砂、底面に暗黄褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。



第80図 縄文土器出土土坑(4)

SK111 (第81図、図版29)

D4-26グリッド、SM011の墳丘下で検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.97m、幅0.68m、深さ21cm、北西端に径19cm×27cm、深さ31cmのビットがみられる。覆土は暗褐色土を主体として、中央上層に黒褐色土がみられる。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK114 (第82図、図版30)

D4-26・27グリッド、SM011の墳丘下で検出した長楕円形を呈する土坑である。長さ2.59m、幅1.04m、深さ24cmを測る。南西壁の中央やや北寄りに径45cm、深さ32cmのビットがみられる。覆土は底面から壁にかけて暗黄褐色細砂、北西半上層が暗褐色細砂、南東半上層が黒褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器などの小片と礫石斧(第131図258)が出土している。

SK115 (第82図、図版30)

D4-26・36グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.53m、幅0.83m、深さ23cmを測る。覆土は、北西半が暗褐色細砂、南東半上層が黒褐色細砂、下層が暗黄褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK116 (第82図、図版30)

D4-36・46グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.01m、幅0.63m、中央部がビット状に深く49cm、南半に一段高いテラス状の平場があり深さ19cmを測る。覆土は中央部が底面まで黒褐色細砂、周辺は暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な浮島式土器の小片ほか、礫が出土している。

SK118 (第82図、図版30)

D4-37グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.93m、幅0.81m、深さ24cm、北東端に径17cm、深さ23cmのビットがみられる。覆土は、壁際から上層にかけて黒褐色細砂、中央部から底面にかけて暗褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器と礫が出土している。

SK119 (第82図、図版30)

D4-35・36・45・46グリッド、SM011古墳の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.90m、幅0.64m、深さ28cmである。覆土は褐色細砂を主体とし、北西端上層に暗褐色細砂、底面と南東壁下半に暗黄褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器などの小片と礫が出土している。

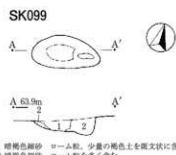
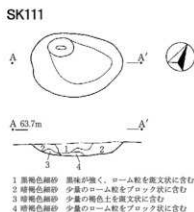
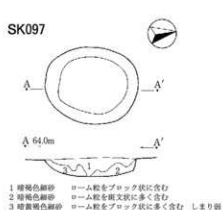
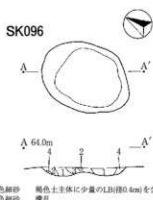
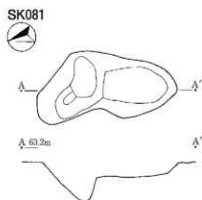
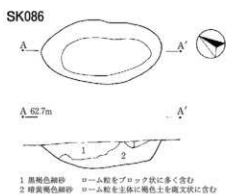
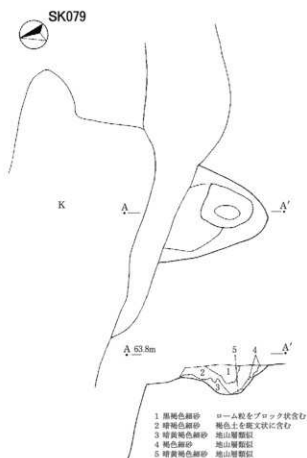
SK122 (第80図、図版30)

A6-95、B6-05グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.18m、幅0.88m、深さ27cm、北端がビット状に深く、深さ61cmを測る。覆土は上層から南半に黒褐色細砂、壁際と北半に暗褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な条痕文系土器などの少片と礫が出土している。

SK126 (第82図、図版30)

C4-36・46グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.47m、幅1.13m、深さ32cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、上面に黒褐色細砂がみられる。



第81図 縄文土器出土土坑 (5)

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK130 (第80図、図版30)

C4-09グリッド、SM022の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.42m、幅0.86m、深さ16cm、西半に2基のピット状の落ち込みがみられ、西壁側が径38cm、深さ34cm、中央寄りが径26cm、深さ35cmを測る。覆土は東壁側から暗黄褐色細砂、暗褐色細砂、ピット側の上層が黒褐色細砂、下層が明褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK132 (第82図、図版30)

C5-10グリッド、SM022の墳丘下で検出した円形を呈する土坑である。長さ0.53m、幅0.53m、深さ18cmを測る。覆土は黒褐色細砂を主体とし、西壁際に暗褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な条痕文系土器の小片と礫が出土している。

SK135 (第82図、図版31)

C5-33・43グリッド、SS048内で検出した不整形を呈する土坑である。長さ0.96m、幅0.87m、深さ41cmを計る。覆土は南半上部が黒褐色細砂、北半部から底部にかけて暗褐色細砂、壁面付近は暗黄褐色細砂である。

遺物は図示不可能な条痕文系土器ほかの少片と、礫が出土している。

SK136 (第80図、図版31)

C5-33・43グリッド、SS048内で検出した不整形の土坑である。長さ1.35m、幅1.10m、深さ23cmを計る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面付近に褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器の小片、条痕文系土器(第103図427)などのほか礫が出土している。

SK137 (第80図、図版31)

C5-21・22・31・32グリッド、SS048内で検出した不整形を呈する土坑である。長さ1.56m、幅1.50m、深さ35cmを測る。北壁が緩やかに立ち上がり、底面は東西に長い長方形を呈している。2基のピット状の落ち込みが短軸方向に並んでみられ、北壁側が径47cm、深さ61cm、南壁側が径34cm、深さ50cmを測る。覆土は黒褐色細砂を主体とし、底面付近から壁際にかけて暗褐色細砂がみられる。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器などの小片と二次加工のある剥片(第119図83)・礫が出土している。

SK138 (第80図、図版32)

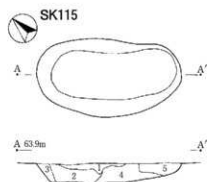
C5-21グリッド、SS048内で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.33m、幅0.81m、底面は西半がテラス状に高く深さ12cm、東半も南北で深さが異なり、北側が28cm、南側が31cmである。覆土は黒褐色細砂を主体とし、底面から壁際にかけて暗褐色細砂が見られる。

遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器の小片、礫が出土している。

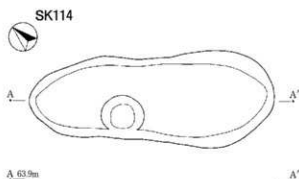
SK139 (第80図、図版31)

C5-11・21グリッド、SS048内で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.09m、幅0.82m、深さ26cmを測る。覆土は黒褐色細砂を主体とし、南端部上層と北側壁際に暗褐色細砂がみられる。

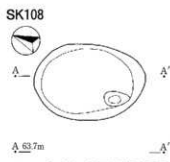
遺物は図示不可能な稲荷台式土器・条痕文系土器の小片、礫が出土している。



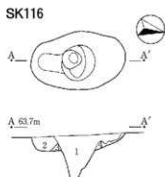
- 1 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 LB径0.3cmを少量含む
- 3 暗褐色細砂 LB径0.3cmを含む しまり貝
- 4 暗褐色細砂 LB径0.5~1.0cmを含む
- 5 黒褐色細砂 ローム粒を塊文状に含む



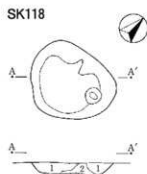
- 1 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む しまり貝
- 2 暗褐色細砂 褐色土を塊文状に含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 4 暗褐色細砂 LB径0.4cmを含む
- 5 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 6 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む



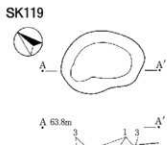
- 1 暗褐色細砂 少量のLB径0.4cmを含む
- 2 暗褐色細砂 褐色のLB径0.3~0.4cmを含む
- 3 暗褐色細砂 褐色土主体



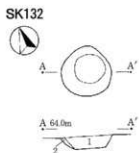
- 1 暗褐色細砂 ローム粒を塊文状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む しまり貝
- 3 暗褐色細砂 LB主体
- 4 暗褐色細砂 LB含む シルト状



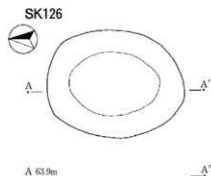
- 1 黒褐色細砂 ローム粒を塊文状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む しまり貝



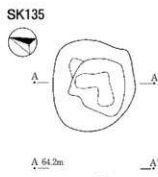
- 1 暗褐色細砂 暗褐色土主体 きめ細かいシルト状
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む シルト状
- 3 暗褐色細砂 LB径1.0~1.5cmを含む



- 1 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 LB径1cm、褐色土含む



- 1 黒褐色細砂 少量のローム粒を塊文状に含む
- 2 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒を含む
- 4 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む



- 1 黒褐色細砂 ローム粒を塊文状に含む
- 2 暗褐色細砂 LB径1.0cmを含む
- 3 暗褐色細砂 LB径0.5~1.0cmを多く含む
- 4 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む

0 (1:45) 2m

第82図 縄文土器出土土坑(6)

SK151 (第80図、図版32)

C4-79グリッド、SM010の墳丘下で検出した円形を呈する土坑である。長さ0.79m、幅0.78m、深さ23cm、北側に2基のピットがみられ、西のピットは径30cm、深さ25cm、東のピットは径0.22m、深さ35cmを測る。覆土は黒褐色細砂と暗褐色細砂が互層を為し、底面付近には暗黄褐色細砂がみられる。

遺物は稲荷台式土器(第94図153)と礫が出土している。

iii 縄文時代の所産であると考えられる石器・礫のみが出土している土坑(縄文時代礫等出土土坑)

SK001 (第83図、図版32)

B5-23グリッドで検出した不整形を呈する土坑である。長さ2.4m、幅1.9m、深さ49cmを測る。坑底面にピット3基(平面形:円形2・長楕円形1)が認められる。楕円形を基本とする2〜3基の土坑の重複した結果とも考えられるが、土層断面図からはそのような状況を読みとることはできない。北側のピットが本跡に伴うか否かは不明である。

SK002 (第83図、図版32)

B5-23グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.06m、幅0.82m、深さ61cmを測る。坑底面にピット1基が認められる。楕円形を基本とする2基の土坑の重複した結果とも考えられるが、土層断面図からはそのような状況を読みとることはできない。

SK024 (第83図、図版32)

B3-96グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長さ1.69m、幅1.18m、深さ41cmを測る。

SK054 (第83図、図版32)

A9-62・72グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長さ2.30m、幅1.43m、深さ56cmを測る。覆土は壁際に暗褐色細砂、中央部が黒褐色細砂で一部焼土も検出した。

SK057 (第84図、図版33)

A9-52・62グリッドで検出した土坑である。調査区東端で検出されており、北東側は調査区外に延びているが北西壁から卵形の土坑と判断される。長さ1.68m、幅1.16m、深さ34cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、北壁側が黒褐色細砂である。

SK080 (第84図、図版33)

C4-29・39グリッドで検出した不整形を呈する土坑である。長さ2.56m、幅1.67m、深さ17cmを測る。覆土は北東側が黒褐色細砂、南西側が暗褐色細砂を主体とし、時期差のある2つ以上の土坑が切り合っている可能性も考えられる。

SK093 (第84図、図版28・33)

C4-64グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.12m、幅0.81m、深さ15cm、北西端がピット状に深く21cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面にわずかに暗黄褐色細砂がみられる。

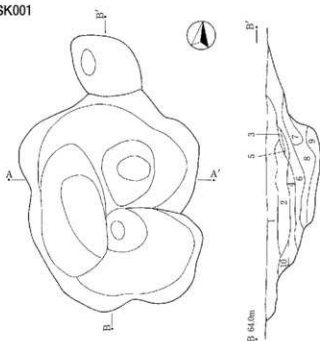
SK094 (第84図、図版28・33)

C4-64グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.76m、幅0.49m、深さ17cmを測る。覆土は上部が暗褐色細砂、下部が暗黄褐色細砂である。

SK095 (第84図、図版28・33)

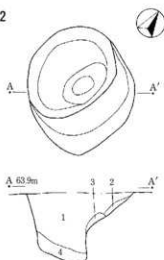
C4-64グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.89m、幅0.74m、深さ18cm、南西端が深く25cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

SK001



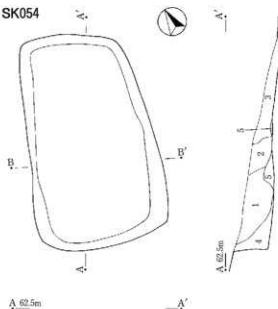
- 1 黒褐色土 しまり弱
- 2 褐色土 ローム粒含む
- 3 茶褐色土 LB含む しまり弱
- 4 褐色土 ローム粒を多く含む
- 5 褐色土
- 6 暗茶褐色土 LBを多量に含む
- 7 茶褐色土 LB主体 硬質
- 8 褐色土 少量のローム粒含む しまり弱
- 9 明茶褐色土 ローム粒含む しまり弱
- 10 明茶褐色土 LB含む 硬質

SK002



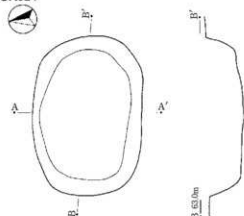
- 1 褐色土 多量のLB含む 塵埃層もしくは埋戻し層
- 2 茶褐色土 少量のローム粒含む しまり弱
- 3 茶褐色土 ローム粒含む しまり弱 埋込層類似
- 4 明茶褐色土 ローム粒・LB含む しまり弱

SK054



- 1 黒褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 2 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 黒褐色細砂 少量のLB(0.5cm)含む
- 4 暗褐色細砂 LB(径任意)を塊文状に含む しまり良
- 5 暗黄褐色 LB主体に少量の褐色土を塊文状に含む

SK024



- 1 暗褐色土 ローム粒含む
- 2 黒褐色土 暗褐色土含む
- 3 暗黄褐色土 ローム粒を多く、少量の黒褐色土含む

0 (1:40) 2m

第83図 縄文時代礫等出土土坑(1)

SK100 (第84図、図版34)

C4-56グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.93m、幅0.68m、深さ17cm、西側が浅く9cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

SK101 (第84図、図版34)

C4-55グリッドで検出した円形を呈する土坑である。長さ0.66m、幅0.58m、深さ9cm、南側に径22cm～28cm、深さ12cm～15cmの2基のビットがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、西半部床面に暗黄褐色細砂がみられる。

SK102 (第84図、図版34)

C4-56グリッドで検出した円形を呈する土坑である。長さ0.78m、幅0.71m、深さ13cmを計る。南側のビットが本跡に伴うか否かは判然としない。覆土へのローム粒やローム塊の含有が目立つ。玉髄(メノウ)製の垂飾品(第120図102)が出土している。

SK109 (第84図、図版34)

D4-24・25グリッド、SM011の墳丘下で検出した東西方向に長い楕円形を呈する土坑である。長さ1.04m、幅0.48m、西端がビット状、東側は楕円形の底面を有し、それぞれの深さは13cm、14cmを測る。覆土は黒褐色細砂を主体とし、一部に暗褐色細砂、東西壁際に暗黄褐色細砂である。

SK112 (第84図、図版29)

D4-25グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.89m、幅0.50m、深さ9cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、南東半に黒褐色細砂がみられる。

SK113 (第85図、図版29)

D4-25グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.71m、幅0.44m、深さ12cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

SK117 (第85図、図版30)

D4-37グリッド、SM011の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.53m、幅0.44m、深さ17cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、北東半が暗黄褐色細砂である。

SK120 (第85図、図版30)

D4-36グリッド、SM011古墳の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.93m、幅0.54m、深さ22cm、南東端に径17cm、深さ18cmのビット状の窪みがみられる。覆土は北西半上層が黒褐色細砂、南東半上層と中位に暗褐色細砂、底面付近に暗黄褐色細砂がみられる。

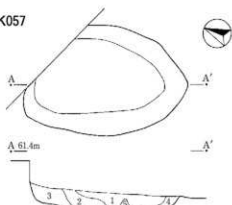
SK129 (第85図、図版30・34)

C4-19グリッド、SM022の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.47m、幅0.79m、深さは北東半が浅く18cm、南東半が深く32cmを測る。覆土は深い南東側から暗茶褐色細砂、暗褐色細砂、黒褐色細砂の順に堆積している。

SK131 (第85図、図版30)

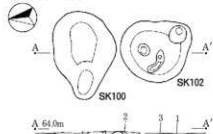
C5-00グリッド、SM022の墳丘下で検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.12m、幅0.91m、深さ24cmを測る。南西側、広端部に径37cm、深さ55cm、径24cm、深さ77cmの2基のビットがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面付近に暗茶褐色細砂がみられる。

SK057



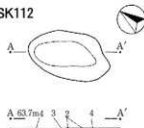
- 1 暗褐色シルト細砂 比較的径の細かい砂質層 しまり弱
- 2 暗褐色シルト細砂 ローム粒をブロック状に含む シルト状
- 3 黒褐色細砂 少量の褐色土を塊状に含む
- 4 暗黄褐色細砂 地山層類似
- 5 黄褐色細砂 LB, 少量の褐色土を塊状に含む

SK100・102



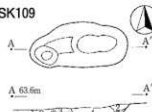
- 1 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む
- 3 暗黄褐色細砂 LB含む
- 4 暗褐色細砂 褐色土+ローム粒状砂質土

SK112



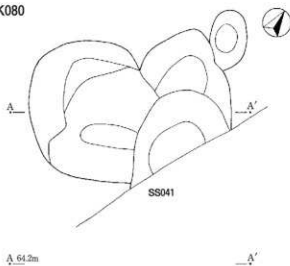
- 1 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 1・2より明 少量のローム粒をブロック状に含む
- 4 暗褐色細砂 1より明 少量のLB(径0.3~0.6m)含む

SK109



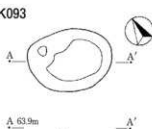
- 1 暗黄褐色細砂 地山層類似 少量のLB(径0.5m)含む
- 2 黒褐色細砂 礫丸
- 3 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 4 黒褐色細砂 LB(径0.4m)含む しまり弱

SK080



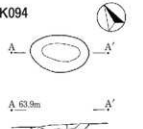
- 1 暗褐色細砂 少量のLB(径0.2m)含む
- 2 暗褐色細砂 LB(径0.4m)含む
- 3 暗黄褐色細砂 ローム粒主体に褐色土を塊状に含む しまり良
- 4 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 5 黄褐色ローム塊 LB主体
- 6 暗褐色ローム塊 LB主体
- 7 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む

SK093



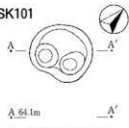
- 1 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む
- 2 暗褐色細砂 少量ローム粒をブロック状に含む
- 3 暗黄褐色細砂 地山層類似 しまり良
- 4 暗褐色細砂 ローム粒・褐色土を塊状に含む

SK094



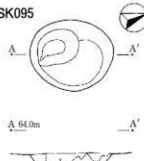
- 1 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 暗黄褐色細砂 少量のLB(径0.5m)含む

SK101



- 1 暗褐色細砂 褐色土を塊状に含む しまり弱
- 2 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 3 暗黄褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む

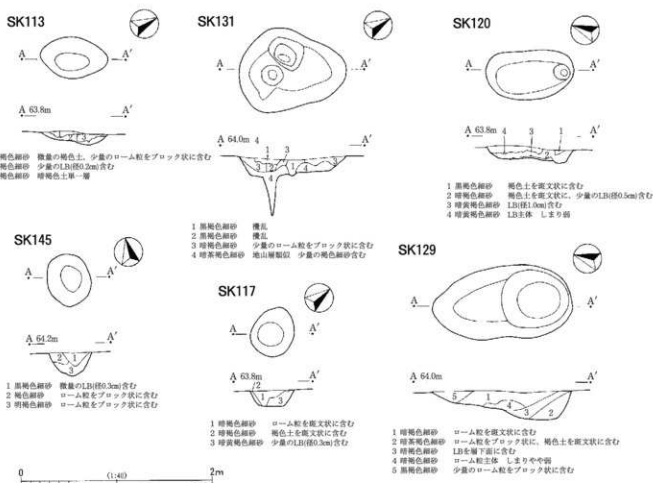
SK095



- 1 暗褐色細砂 ロームを塊状に含む
- 2 暗黄褐色細砂 ロームをブロック状に含む しまり良弱

0 0.40 2m

第84図 縄文時代礫等出土土坑(2)



第85図 縄文時代礫等出土土坑（3）

SK145（第85図、図版34）

C5-70・71グリッド、SM010の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.56m、幅0.46m、深さ26cmを測る。覆土は上層から黒褐色細砂、褐色細砂、明褐色細砂である。

iv 遺物が出土していない土坑（土坑—その他）

SK004（第86図、図版34）

B4-58グリッドで検出した長方形を呈する土坑である。長さ2.61m、幅1.32m、深さ51cmを測る。SS005の南東溝に接している。

SK009（第86図、図版35）

A3-98グリッドで検出した円形を呈する土坑である。長さ0.77m、幅0.75m、深さ25cmを計る。

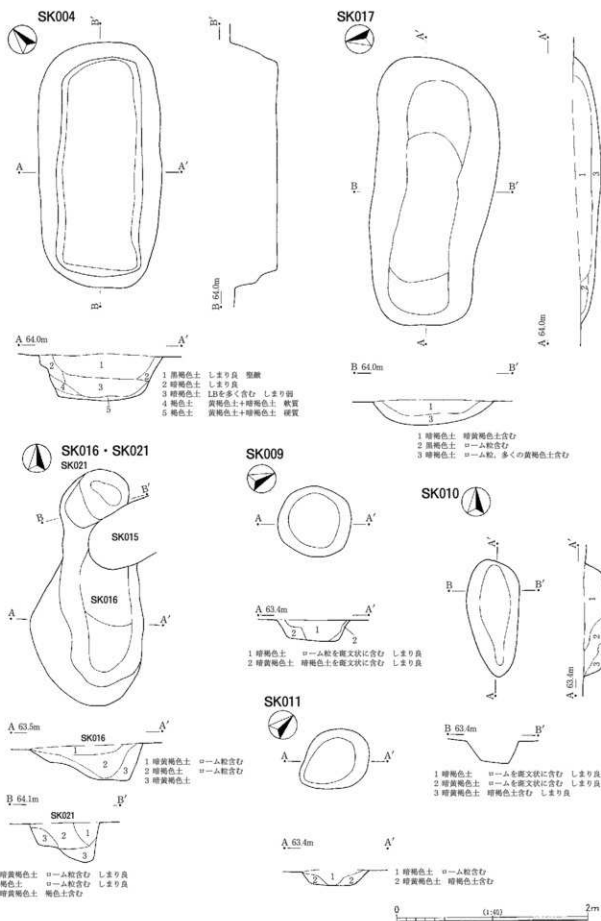
SK010（第86図、図版35）

A3-97・98グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.25m、幅0.57m、深さ33cmを測る。

SK011（第86図、図版35）

A3-87・88グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.80m、幅0.64m、深さ19cmを測る。

SK016（第86図、図版35）



第86図 土坑-その他-(1)

A4-82・92グリッドで検出した長楕円形を呈する土坑である。長さ2.50m、幅1.21m、深さ42cmを測る。遺物は出土していないが、SK021を切り、SK015に切られる。両者の間の時期の遺構である。

SK017 (第86図、図版35)

B4-33・34・43グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長さ2.84m、幅1.36m、深さ28cmを測る。

SK020 (第87図、図版30)

B4-43・44グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ2.35m、幅0.92m、深さ44cmを測る。遺物は出土していないが、陥穴であるSK018を切っている。

SK021 (第86図、図版35)

A4-82グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.79m、幅0.53m、深さ47cmを測る。遺物は出土していないが、SK015、SK016に切られており、それ以前の時期のものである。

SK027 (第87図、図版35)

B5-27・28グリッドで検出した長楕円形を呈する土坑である。長さ2.06m、幅0.77m、深さ12cmを測る。

SK028 (第87図、図版35)

B5-27グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.46m、幅0.94m、深さ32cmを測る。

SK031 (第87図、図版35)

B4-56・57グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ2.11m、幅2.07m、深さ61cmを測る。調査時の所見では木根痕としており、遺構ではない可能性もある。

SK034 (第87図、図版36)

B3-46グリッドで検出した円形を呈する土坑である。長さ1.00m、幅0.89m、深さ27cmを測る。

SK035 (第87図、図版36)

B3-46グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.19m、幅0.79m、深さ25cmを測る。

SK036 (第88図、図版36)

B3-46・56グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ1.18m、幅1.05m、深さ29cmを測る。

SK037 (第88図、図版36)

B3-09、B4-00グリッドで検出した隅丸長方形を呈する土坑である。SI015堅穴住居跡南東半の床面下に重なるように検出された。長さ2.89m、幅1.75m、深さ41cmを測る。

SK040 (第88図、図版36)

B3-85グリッドで検出した円形を呈する土坑である。径0.72m～0.68m、深さ38cmを測る。覆土は上層が黒褐色土及び暗褐色土、下層が褐色土である。

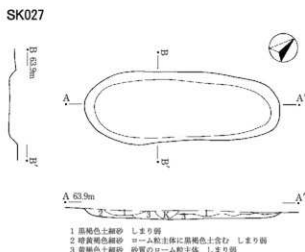
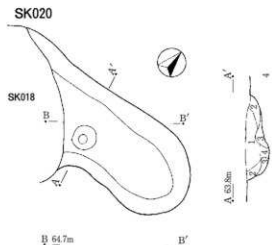
SK041 (第88図、図版36)

B3-85グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.71m、幅0.67m、深さ42cmを測る。覆土は上層が黒褐色土及び暗褐色土、下層が褐色土である。

SK042 (第88図、図版36)

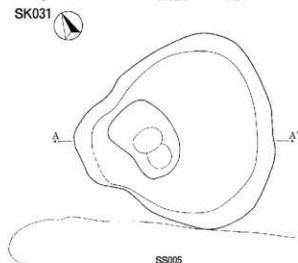
B3-74グリッドで検出した不整形長方形を呈する土坑である。長さ2.54m、幅2.13m、深さ44cmを測る。覆土は上層が黒褐色土、暗褐色土、下層が黄褐色土を主体とする。SS012に切られる。

SK044 (第89図、図版36)

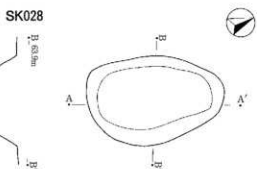
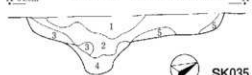


- 1 黒褐色土細砂 しまり面
- 2 暗黄褐色土細砂 ローム粒主体に黒褐色土を含む しまり面
- 3 黄褐色土細砂 砂質のローム粒主体 しまり面

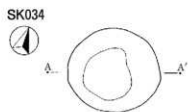
- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
- 2 褐色土 ローム粒・黒土粒を含む
- 3 暗黄褐色土 ローム粒を含む
- 4 黒褐色土 ローム粒を含む



- 1 暗褐色土細砂 LB(径0.5~1.0mm)を含む
- 2 黒褐色土細砂 黒色細砂ブロック(径0.5cm)多く含む しまり面
- 3 褐色ローム土細砂 LB(径0.5~1.0mm)多く含む
- 4 暗褐色土細砂 LB(径0.5cm)を含む
- 5 暗褐色土細砂 ローム粒をブロック状に含む



- 1 黒褐色土細砂 ローム粒を含む しまり中
- 2 黒褐色土 礫乱
- 3 暗褐色土細砂 LB・ローム粒を塊状に含む
- 4 黄褐色土 LB・ローム粒を多く含む しまり中



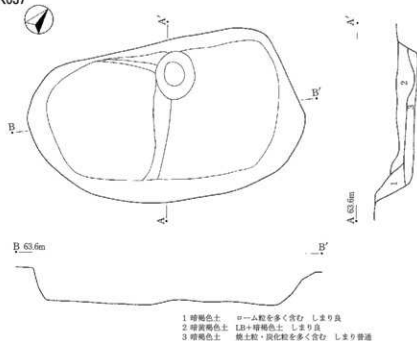
- 1 暗褐色土細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 褐色土細砂 ローム粒をブロック状に多く含む
- 3 暗褐色土細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 4 暗黄褐色ローム土細砂

- 1 暗褐色土細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 暗黄褐色ローム土細砂

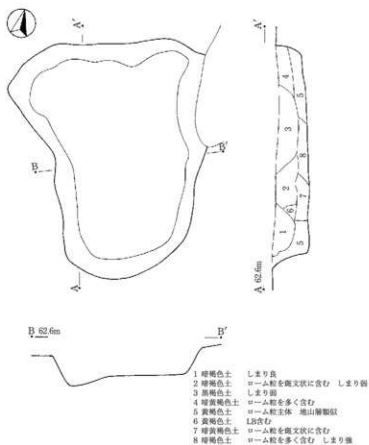


第87図 土坑—その他—(2)

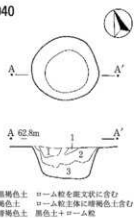
SK037



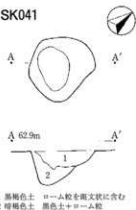
SK042



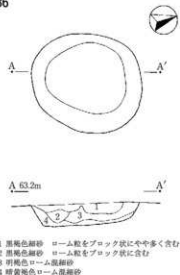
SK040



SK041

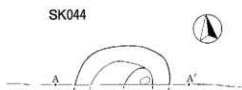


SK036

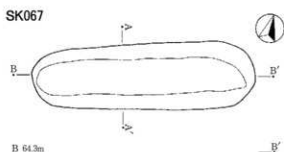


0 (1:40) 2m

第88図 土坑-その他-(3)



- 表土
 1 暗褐色細砂 ローム粒を散在状に含む しまり弱
 2 暗褐色細砂 少量のローム粒を散在状に含む
 3 黒褐色細砂 LBi(径0.5cm)含む
 4 暗褐色細砂 地山層類似 しまり弱
 5 暗黄褐色細砂 LBi(径1.0cm以上)含む
 6 暗褐色細砂



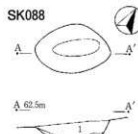
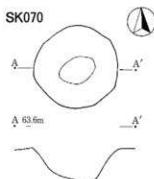
- 1 黒褐色細砂 ローム粒を散在状に含む 壁面崩壊弱
 2 暗黄褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
 3 黒褐色細砂 ローム粒を散在状に含む
 4 暗褐色細砂 ローム粒を散在状に多く含む
 5 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
 6 暗褐色細砂 ローム粒含む しまり弱
 7 暗褐色細砂 ローム粒を散在状に多く含む
 8 暗褐色細砂



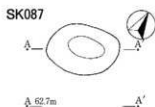
- 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む 粘性強弱
 2 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む 粘性強弱
 3 暗褐色土 2+少量のLBi(径0.5~1.0cm) 粘性強弱
 4 褐色土 ローム粒を多く含む 粘性強弱
 5 褐色土 LBi(径1.0~3.0cm)を多く含む 粘性強弱



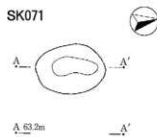
- 1 暗褐色シルト質細砂 ローム粒をブロック状に含む
 2 暗褐色ロームシルト細砂
 3 暗褐色シルト質細砂 LBi(径0.5cm)をやや多く含む
 4 褐色ローム質シルト LBi(径0.5cm)含む



- 1 暗褐色細砂 ローム粒を散在状に含む
 2 暗褐色細砂 ローム粒を散在状に多く含む



- 1 暗褐色細砂 LBiを少量含む
 2 暗褐色細砂 LBi(径0.5cm)を少量含む
 3 暗黄褐色細砂 地山層類似 褐色土(径任意)を散在状に含む



- 1 暗褐色シルト質細砂 ローム粒をブロック状に含む
 2 明褐色ローム質シルト 暗褐色シルトをブロック状に含む



- 1 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
 2 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
 3 暗黄褐色細砂 LBi土体
 4 暗褐色細砂 LBi(径0.5cm)を少量含む
 5 暗黄褐色細砂 3層類似 土調弱



第89図 土坑—その他—(4)

D3-30グリッド、調査区南東端で検出した土坑である。大半は調査区外へ延びるものと判断され、形態及び規模は不明である。調査区内での長さ1.0m、幅0.42m、深さは49cmを測る。覆土は黒褐色細砂と暗褐色細砂である。

SK049 (第89図、図版37)

C3-34・35グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。SS025方形周溝墓の東周溝に切られる。長さ1.97m、幅1.42m、深さ47cmを測る。覆土は大半が暗褐色土で、床面付近のみが褐色土である。

SK067 (第89図、図版37)

A7-72・73グリッドで検出した長楕円形の土坑である。西端は底面を除きSS039方形周溝墓の東溝により切られている。長さ2.36m、幅0.73m、深さ36cmを測る。覆土は上半が黒褐色細砂、下半が暗褐色細砂、壁際の上には暗黄褐色細砂、黄褐色細砂がみられる。

SK070 (第89図、図版37)

B4-23グリッドで検出した円形の土坑である。SS010方形周溝墓東溝に隣接して検出された。長さ0.90m、幅0.86m、深さ35cmを測る。覆土は褐色ローム質シルトを主体とする。

SK071 (第89図、図版37)

A4-90、B4-00グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.74m、幅0.54m、深さ11cmを測る。覆土は中央が暗褐色シルト質細砂、両側が明褐色ローム質シルトである。

SK072 (第89図、図版37)

B4-00・10グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.94m、幅0.43m、深さ16cmを測る。覆土は北から暗褐色細砂と褐色ローム質シルトの互層となっており、半分程度の規模の土坑が数回掘られた可能性が考えられる。

SK078 (第89図、図版37)

A7-91、B7-01グリッドで検出した隅丸方形を呈する土坑である。長さ1.61m、幅1.54m、深さ75cmを測る。覆土は南半が木根による攪乱を受け、北半の状況は黒褐色細砂を主体として、壁面及び底面に暗褐色細砂、暗黄褐色細砂が堆積する。覆土の様相から中世の設営の可能性がある。

SK087 (第89図、図版25)

B3-23グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.78m、幅0.54m、深さ18cmを測る。覆土は北東半が暗褐色細砂、南西半が暗黄褐色細砂である。

SK088 (第89図、図版38)

B3-13・23グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.81m、幅0.52m、深さ33cmを測る。覆土は暗褐色細砂である。

SK090 (第90図、図版38)

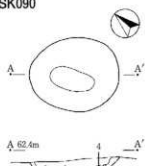
B3-43・53グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.95m、幅0.79m、深さ33cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、下部に黒褐色細砂、壁際に暗茶褐色細砂がみられる。

SK091 (第90図、図版38)

B3-43グリッドで検出した卵形を呈する土坑である。長さ0.87m、幅0.71m、深さ19cm、北端が深く27cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面から壁際にかけて暗茶褐色細砂がみられる。

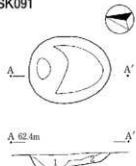
SK092 (第90図、図版38)

SK090



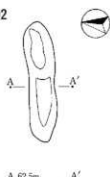
- 1 暗褐色細砂 褐色土を縦文状に含む
- 2 黒褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 暗茶褐色細砂 ローム状の砂+褐色土
- 4 暗黄褐色細砂 LB主体 しまり弱

SK091



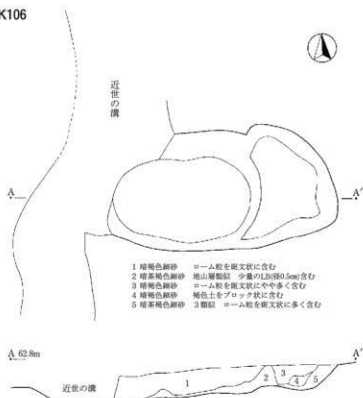
- 1 暗褐色細砂 褐色土を縦文状に含む
- 2 暗茶褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む

SK092



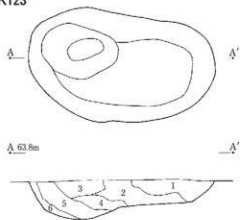
- 1 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 2 暗黄褐色細砂 ローム粒+褐色土 しまり弱

SK106



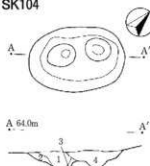
- 1 暗褐色細砂 ローム粒を縦文状に含む
- 2 暗茶褐色細砂 地山層類似 少量のLB(厚0.5cm)含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒を縦文状にやや多く含む
- 4 暗褐色細砂 褐色土をブロック状に含む
- 5 暗茶褐色細砂 3層区 ローム粒を縦文状に多く含む

SK123



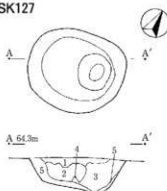
- 1 暗褐色細砂 ローム粒を縦文状に含む
- 2 暗黄褐色細砂 LB(厚0.5cm)を多く含む
- 3 暗褐色細砂 LB(厚0.5cm)含む
- 4 暗褐色細砂 少量のローム粒を縦文状に含む
- 5 暗褐色細砂 褐色土+ローム粒
- 6 暗褐色細砂 地山層類似

SK104



- 1 黒褐色細砂 褐色土を縦文状に含む
- 2 暗黄褐色細砂 LB主体 地山層類似
- 3 暗茶褐色細砂 LB主体 地山層類似
- 4 暗褐色細砂 少量のLB(厚0.5~1.0cm)含む

SK127



- 1 黒褐色細砂 ローム粒を縦文状に含む
- 2 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 4 暗黄褐色細砂 LB主体 ローム粒を多く含む しまり弱
- 5 暗黄褐色細砂 少量の暗褐色土含む

0 (1:40) 2m

第90図 土坑-その他-(5)

B3-12・13グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.28m、幅0.30m、西半がやや浅く27cm、東半が深く34cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面から北壁にかけて暗黄褐色細砂がみられる。

SK104 (第90図、図版38)

C4-86・87グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.02m、幅0.69m、深さ21cmを測る。両端に径24cm～30cm、深さ5cm～6cmのビットがみられる。北東半が暗褐色細砂、南西半が黒褐色細砂を主体とし、北西半の堆積が新しく、時期の異なる複数の土坑であった可能性が考えられる。

SK106 (第90図、図版38)

C3-23・33グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。調査区の西端、SS025方形周溝内に位置し、近世道路により西端を切られており、残存長2.44m、幅1.37m、深さ39cm、東端が一段高く深さ34cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、底面から東壁を中心に暗茶褐色細砂がみられる。

SK123 (第90図、図版38・39)

D2-18・19グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.98m、幅1.19m、深さ39cm、北西端に長さ81cm、幅54cm、深さ46cmの楕円形の落ち込みがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、中央に間層とし暗黄褐色細砂がみられる。

SK124 (第91図、図版39)

D2-28グリッドで検出した不整形の土坑である。長さ1.80m、幅0.77m、深さ35cmの南北に長い楕円形の土坑と長さ1.00m以上、幅0.74m、深さ43cmの東西に長い楕円形の土坑が重なっている可能性が考えられる。覆土は前者が黒褐色細砂と暗褐色細砂、後者が暗褐色細砂と暗黄褐色細砂であり、後者が新しい。

SK127 (第90図)

C4-48・49グリッドで検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.03m、幅0.89m、深さ31cm、底面東半部に径38cm、深さ37cmのビットがみられる。覆土は暗褐色細砂を主体とし、上面が黒褐色細砂、底部から壁面にかけて暗黄褐色細砂である。

SK133 (第91図、図版30)

C5-10グリッド、SM022の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.55m、幅0.39m、深さ16cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、北東側上層に黒褐色細砂がみられる。

SK143 (第91図、図版30)

C4-69・79グリッド、SM010の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.59m、幅0.47m、深さ20cmを測る。覆土は上層から黒褐色細砂、暗褐色細砂、褐色ローム混じり細砂の順に堆積している。

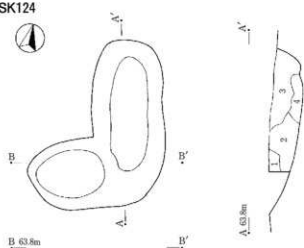
SK144 (第91図、図版30)

C5-60グリッド、SM010の墳丘下で検出した円形を呈する土坑である。長さ0.62m、幅0.57m、深さ18cmを測る。覆土は上層が黒褐色細砂、下層が暗褐色細砂で中間に暗黄褐色ロームブロックを挟み、壁際には暗黄褐色ローム質シルトがみられる。

SK146 (第91図、図版30)

C5-80グリッド、SM010の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.00m、幅0.78m、深さ33cm、南側がテラス状に一段高く、深さ21cmを測る。覆土は上層が黒褐色細砂、下層が褐色細砂、中間にわずかに暗褐色細砂がみられる。

SK124



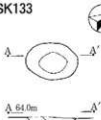
[A-A']

- 1 暗褐色細砂 少量のローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に多く含む
- 3 黒褐色細砂 ローム粒を塊状に含む
- 4 暗褐色細砂 褐色土をブロック状に、ローム粒を塊状に含む

[B-B']

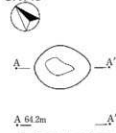
- 1 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む
- 3 暗褐色細砂 少量のローム粒を含む

SK133



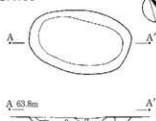
- 1 暗褐色細砂 褐色土を塊状に含む
- 2 暗褐色細砂 1層+褐色土を多く含む、ローム粒を塊状に含む

SK143



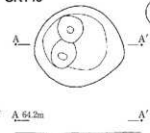
- 1 黒褐色細砂 微量の褐色シルトをブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 褐色ローム混細砂 ローム粒を塊状に多く含む

SK155



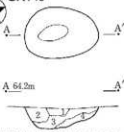
- 1 暗褐色細砂 微量のローム粒を塊状に含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒を塊状に含む、しまり貝
- 4 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 5 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む

SK148



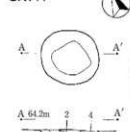
- 1 黒褐色細砂 微量の褐色ロームシルトをブロック状に含む
- 2 暗褐色細砂 微量のローム粒をブロック状に含む
- 3 明褐色ローム混細砂 ローム粒をブロック状に含む

SK149



- 1 黒褐色細砂 微量の褐色細砂をブロック状に含む
- 2 黒褐色細砂 微量のローム粒をブロック状に含む
- 3 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 4 暗褐色ローム質シルト

SK144



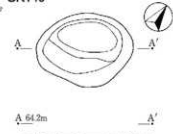
- 1 黒褐色細砂 微量のローム粒を塊状に含む
- 2 暗褐色細砂 LB土状
- 3 暗褐色細砂 微量のローム粒を塊状に含む
- 4 暗褐色ローム質シルト ローム粒をブロック状に含む

SK147



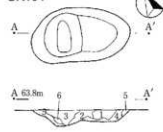
- | | |
|--------------|------------------|
| 1 暗褐色細砂 | 微量のローム粒をブロック状に含む |
| 2 暗褐色細砂 | 微量のローム粒をブロック状に含む |
| 3 褐色ローム質細砂 | LB(径0.3m)含む |
| 4 暗褐色ローム混シルト | ローム粒をブロック状に含む |
| 5 暗褐色細砂 | 微量のローム粒をブロック状に含む |
| 6 褐色細砂 | LB(径0.5m)含む |

SK146



- 1 黒褐色細砂 微量のLB(径0.2m)含む
- 2 暗褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む
- 3 褐色細砂 ローム粒をブロック状に含む

SK154



- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 暗褐色細砂 | ローム粒をブロック状に含む |
| 2 暗褐色細砂 | ローム粒を塊状に含む |
| 3 暗褐色細砂 | ローム粒をブロック状に含む |
| 4 暗褐色ローム混細砂 | 少量のLB(径1.0m)含む |
| 5 暗褐色シルト質細砂 | 褐色土を塊状のローム粒 |
| 6 暗褐色ローム混細砂 | LB(径1.5~2.0m)含む |

0 (1:60) 2m

第91図 土坑—その他—(6)

SK147 (第91図、図版39)

C4-89、C5-80グリッド、SM010の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.21m、幅0.71m、深さ17cm、南東端がピット状に窪み、深さ19cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、北西壁側上部に褐色ローム質細砂を挟み、北西側床面付近から壁面にかけ褐色細砂、中央床面付近に暗黄褐色ローム混じりシルトがみられる。

SK148 (第91図、図版40)

C5-70グリッド、SM010の墳丘下で検出した円形を呈する土坑である。長さ0.95m、幅0.86m、深さ16cm、西側に2基のピットがみられ、北のピットは径27cm、深さ25cm、南のピットは径30cm、深さ28cmを測る。覆土は上層中央が黒褐色細砂、その他は暗褐色細砂である。

SK149 (第91図、図版40)

C4-79グリッド、SM010の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ0.79m、幅0.55m、深さ23cmを測る。覆土は上層北西側が黒褐色細砂、中間に暗褐色細砂、下層南東側が暗黄褐色ローム質シルトである。

SK154 (第91図、図版40)

B5-65・66グリッド、SM007の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.05m、幅0.58m、深さ21cm、東南側がテラス状に高く、深さ17cmを測る。覆土は北西側上部が黒褐色細砂、南東側が暗褐色細砂、底面から壁際は暗黄褐色細砂である。

SK155 (第91図、図版40)

B5-65・75グリッド、SM007の墳丘下で検出した楕円形を呈する土坑である。長さ1.08m、幅0.67m、深さ17cmを測る。覆土は暗褐色細砂を主体とし、南西側底面に暗黄褐色細砂がみられる。

3 遺構外出土遺物

縄文時代の遺物のうち、ここでは遺構外から出土した土器・土製品・石器（石製品含む）について報告する。併せて弥生時代以降の遺構から出土した縄文時代の遺物についても便宜的にここで報告する。なお、弥生時代以降の遺構から出土した遺物のうち図示したものについては、出土した遺構名を記載している。集計のために一覧表（第24～27表）で処理した遺物は、当該遺構が所属するグリッド出土のものとしてカウントしている。

土器類・石器類の分布状況等については基礎資料として第109～114図に提示している。この場合、古墳から出土した遺物については、一覧表（第24～27表）においては古墳の所属する大グリッド出土のものとしてカウントしているが、分布図（第109～114図）では古墳の範囲（輪郭）を図示し、そこで示した。

(1) 土器

土器については、早期の井草式期から中期の加曾利E式期にかけてのもので、破片資料が大半である。量的に主体となるのは、早期の稲荷台式土器、早期末から前期初頭にかけての土器群、前期の竹管文系土器群である。

なお、以下の細かな分類を包括するかたちで時期ごとの土器群の分布状況を第109・110図に示しておいた。各時期ごとに分布が偏在する傾向がうかがえる。土器の分類段階で把握できた事項としては、燃糸文末期のため燃糸を施す土器群はB6にやや集中する。子母口式土器はA5～A8、B4～B6に集中する。早期終

末の土器群はC5・D4に集中する。浮島・興津式土器はA8に集中する。前期末の土器群はA8に集中するほか、B3・B4にもまとまる。中期初頭の土器群はC4に集中し、五領ヶ台Ⅱ式土器はほぼB3・C3に限られる。阿玉台式土器はA8にほとんど集中する。すなわち台地先端にかたまる。勝坂式土器はA5～A7、B6に集中する。すなわち台地中央にかたまる。

土器群の事実記載に際して、以下のような6群の大別と、各群のなかで類別を行った。あくまで事実記載をすすめるうえでの便宜的な分類である。

I群 早期 撫糸文系土器

- 1類 井草1・2式土器口縁部
- 2類 夏島式土器口縁部
- 3類 夏島式土器体部
- 4類 稲荷台式土器体部（3類より撫糸文がまばら）
- 5類 稲荷台式土器口縁部（撫糸文施文 8類の口縁部）
- 6類 稲荷台式土器直後の口縁部（稲荷原式土器主体 口縁端部に撫糸文）
- 7類 稲荷台式土器体部（4類より撫糸文がまばら 無文部明確）
- 8類 稲荷台式土器体部（7類より撫糸文がまばら 無文部広い 5類の体部）
- 9類 稲荷台式土器体部（撫糸文がまばらであるが無文部がないもの）
- 10類 稲荷台式土器（絡条体条痕）
- 11類 稲荷台式土器（縄文施文）
- 12類 稲荷原式土器口縁部
- 13類 稲荷台式土器直後の体部（太い撫糸文）
- 14類 大浦山式土器
- 15類 胎土が「けいしょう」な土器
- 16類 無文の土器
- 17類 撫糸文系土器の底部
- 18類 撫糸文期の小形の個体

II群 早期 沈線文系土器

III群 早期 条痕文系土器

- 1類 子母口式土器のうち有文
- 2類 子母口式土器のうち無文の口縁
- 3類 子母口式土器のうち無文の体部
- 4類 子母口式土器のうち、器表面は無文で内面に条痕が施される
- 5類 子母口式土器のうち、器表面に条痕が施され、内面は擦痕が施されるか無文
- 6類 条痕文系土器の底部破片
- 7類 野島式土器のうち、微隆起線文が施文される
- 8類 野島式土器のうち、細隆起線文が施文される
- 9類 野島式土器のうち、細隆起線文と沈線文が施文される
- 10類 野島式土器のうち、条痕が施文される

11類 茅山式系土器で、表裏に条痕が施される

IV群 早期終末から前期初頭の土器

1類 隆帯文

2類 隆帯文+沈線文

3類 沈線文

4類 無文口縁

5類 無文もしくは浅い条痕の体部

6類 東海系の薄手土器

V群 前期の土器

1類 黒浜式土器

2類 前期後半の土器

(諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式、浮島式、興津式土器)

VI群 前期末から中期の土器

1類 前期末の土器

2類 五領ヶ台式土器

3類 阿玉台式土器

4類 勝坂式土器・加曾利E式土器

I群 早期 燃糸文系土器

1類 井草1・2式土器口縁部 (第92図、図版42)

1～6は井草式土器である。1は井草1式土器で頸部は無文である。2は井草1式土器である。3は井草2式土器で口唇部施文域と内面の境界部位は調整により稜が作出される。4は井草2式土器である。5は井草2式土器で口唇部と内面の境界部位は調整により稜が作出される。

2類 夏島式土器口縁部 (第92図、図版42)

7～11は夏島式土器の口縁部の破片である。7は外反する口縁端部下には指頭圧痕が残存する。

3類 夏島式土器体部 (第92図、図版42)

12～18は夏島式土器を主体とする体部の破片である。いずれも燃糸文が密に施文される。

4類 稲荷台式土器体部 (3類より燃糸文がまばら) (第92図、図版42)

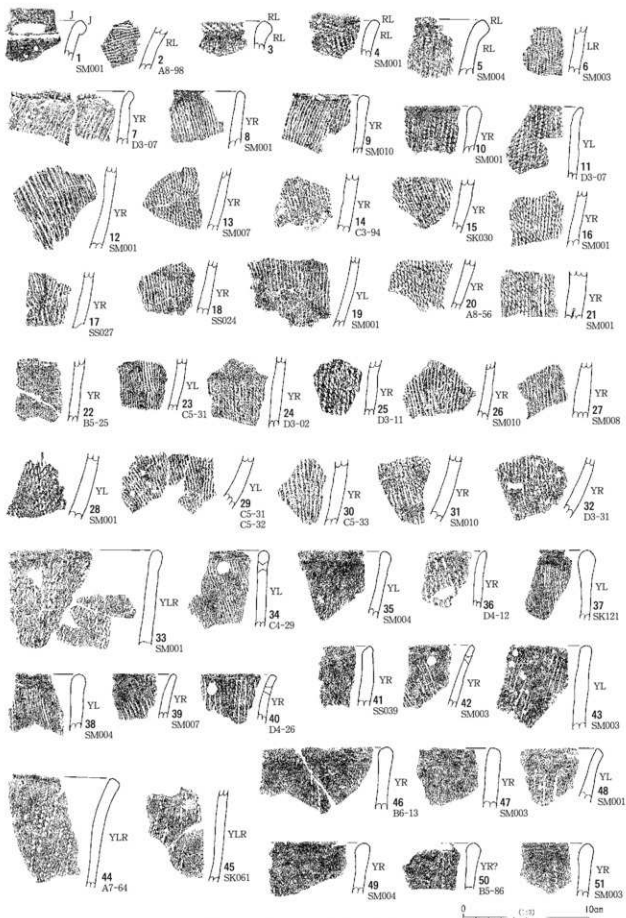
19～32は稲荷台式土器の体部の破片である。12～18に比べ燃糸文がまばらに施される。

19は底部に近い部位の破片である。21は器厚が厚く、破片下部の断面には成形時の痕跡(輪積みもしくは刻み)が残る。23は条の燃りが緩い。25は原体の押捺が浅い。26は条が細い。27は条が細く燃りが緩い。28は条の燃りが緩い。29は底部付近の破片である。

5類 稲荷台式土器口縁部 (燃糸文施文 8類の口縁部) (第92・93図、図版42)

33～65は稲荷台式土器の口縁部等の破片である。稲荷台式土器のなかでも新しい部分に属するものである。

33は軽いナデ調整の後に燃糸文が施文される。破片下端は輪積底部位で破損している。34は焼成後に内外面からの補修孔を有し軽いナデ調整の後に燃糸文が施文される。35は燃糸文の施文後に口唇部から頸部



第92図 グリッド出土土器 (1)

にかけてナデ調整される。条の撚りは緩い。36は燃糸文の施文後にナデ調整される。37は燃糸文の一部（拓影図中央部）は絡糸体条痕になる。燃糸文の施文後に、口唇部および口端内外面共にナデ調整される。38は条の撚りが緩くナデ調整後に施文される。39は施文後に軽いナデ調整がなされ、口縁部全体は磨り消されるような効果を有している。40は焼成後の外面のみからの補修孔を有しナデ調整は認められない。41は軽いナデ調整後に細い条による施文がなされる。42は焼成後の内外面からの補修孔を有しナデ調整後に施文される。43は軽いナデ調整がなされる。44・45は同一個体で軽いナデ調整後に施文される。46は口唇部はヨコナデ、内面はタテナデ調整される。47は軽いナデ調整後に細い条による施文がなされる。48は器面調整後に太く撚りの緩い条により施文される。49は施文後にナデ調整される。50は軽いナデ調整後に施文される。拓影図中央やや右寄りに燃糸文が認められる。51は撚りの緩い条で、器面調整後に施文される。52は軽いナデ調整後に太い条による施文がなされる。口端部外面のナデ調整により口唇部が角張る。54は49と同一個体である。内面は、口端部の入念な横方向のナデ調整と頸部以下の粗いナデ調整により、口端部が角張る。56は全体的に弱いナデ調整である。58は口縁部内面から器表面にかけては入念なナデ調整で、内面の頸部以下は粗いナデ調整である。拓影図下端には横方向の傷がある。59は拓影図左半に燃糸文が認められる。60は器面調整後に施文される。条の撚りは緩い。61は太めの緩い条で、ナデ調整後に施文される。62は口唇部の内面側と外面側の入念なナデ調整が工程上は明瞭に区別されることにより角張る。条の撚りは緩い。63は拓影図左下半に燃糸文が認められる。施文後に軽いナデ調整される。64は粗い器面調整後に施文される。65はナデ調整後に細い条による施文がなされる。口端部は明瞭なナデ調整により面取りがされやや角張る。内面は口端部のナデ調整と頸部以下のケズリ調整が明瞭に区別される。稲荷原式土器であろう。

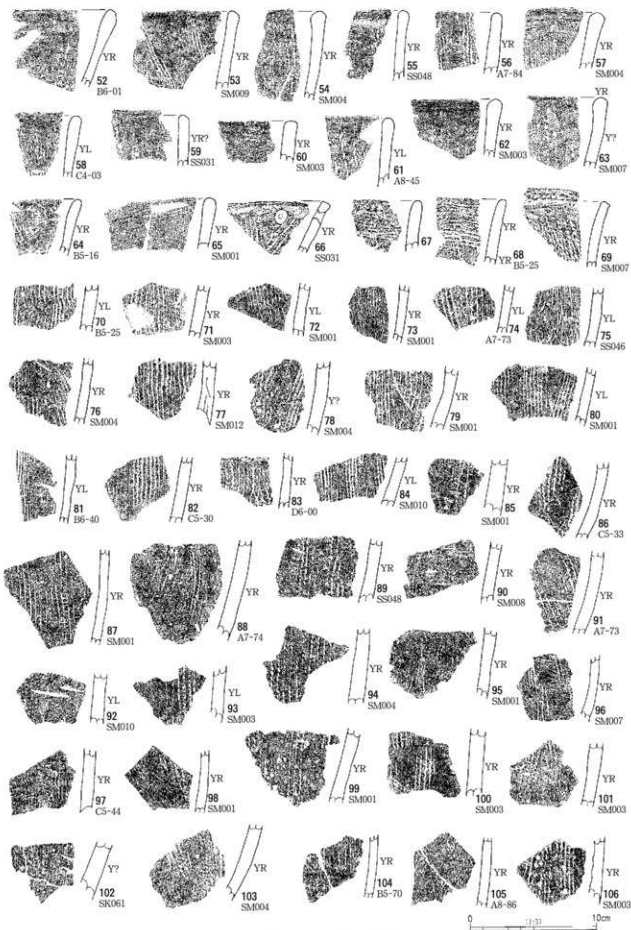
6類 稲荷台式土器直後の口縁部（稲荷原式土器主体 口縁端部に燃糸文）（第93図、図版42）

66～69は稲荷原式土器を主体とする口縁部の破片である。

66は口唇部が粗いながらも入念にナデ調整により明瞭な面を出し、角頭状の断面形態になる。口端部直下は指頭による粗い調整により凹線風の効果を有する。焼成後に内外面からの補修孔を有する。内面からの補修孔は2か所が認められ、うち1か所については外面まで貫通していない。破片下端は輪積痕部位で破損している。67は口縁部に横走する燃糸文が認められる。破片下端での燃糸文の縦走は認められない。内外面共に風化による脆弱化が著しく詳細は不明である。68は口縁部に横走する燃糸文、以下は縦走する燃糸文が認められる。67同様、内外面共に風化による脆弱化が著しく詳細は不明であるが、口唇部は調整により明瞭な平坦面が作出されているようである。拓影図右下端はナデ調整により縦走する燃糸文が消えている可能性もあり、拓影図下半全体に燃糸文が縦走しているか否かは判断できない。また、67と同一個体であるか否かは判断できない。69は器表面はナデ調整であり、裏面の上半は粗いナデ調整、下半はケズリ調整である。口唇部には燃糸文が施され、絡糸体の圧によりはみでた粘土が口端部に出っ張り、結果として角頭状の断面形態を醸し出している。

7類 稲荷台式土器体部（4類より燃糸文がまばら 無文部明瞭）（第93図、図版42）

70～83は稲荷台式土器の体部の破片である。12～18や19～32に比べ、燃糸文がよりまばらに施文される。72の条は細く撚りは緩い。73の条は細い。75の条は細く撚りは緩い。77は断面に成形時の輪積痕が認められる。また、破片下端は輪積痕部位で破損している。79は底部に近い部位の破片である。80の条の撚りは緩い。81の条は細く撚りは緩い。83の条の撚りは緩い。拓影図上端に認められる異方向風の施文は燃糸文



第93図 グリッド出土土器(2)

や縄文ではない。

8類 稲荷台式土器体部（7類より燃糸文がまばら 無文部広い 5類の体部）

（第93・94図、図版42・43）

84～111は稲荷台式土器を主体とする体部の破片である。燃糸文をよりまばらに施し、原体による施文部位間の無文部が目立つこととなる。

87の燃糸文の施文は浅い。88は底部付近の破片である。90の条は細い。93の条の撚りは緩い。95の燃糸文の施文は浅い。拓影図右上端にも燃糸文が認められる。98は燃糸文の施文が浅い。99は条の撚りが緩い。101の燃糸文の施文が浅い。102は拓影図右端にごく浅い燃糸文が認められる。104は燃糸文の施文が浅い。105の条は細く、多方向の施文が認められる。106は条の撚りが緩い部分ときつい部分がある。109は条の撚りが緩く細い。110は施文後にミガキ調整される。111は底部に近い部位の破片で、拓影図下端に同心円状の擦痕が認められる。

9類 稲荷台式土器体部（燃糸文がまばらであるが無文部がないもの）（第94図、図版43）

112～117は稲荷台式土器の体部の破片である。84～111と同様に燃糸文をまばらに施すが、無文部が認められないものである。

112は太い条の燃糸文がまばらに施される。113はまばらな条の燃糸文が2方向に施される。114の条の撚りはきつい。115～117は条のまばらな燃糸文が施される。

10類 稲荷台式土器（終条体条痕）（第94図、図版43）

118～120は稲荷台式土器で、終条体条痕を施すものである。

118は終条体条痕だが、一部、回転も認められる。

11類 稲荷台式土器（縄文施文）（第94図、図版43）

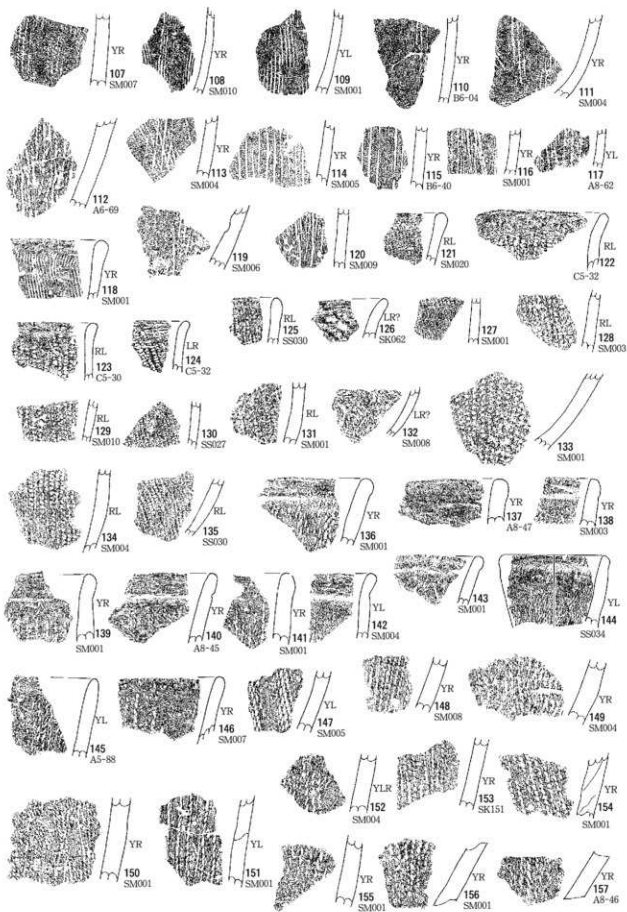
121～135は稲荷台式土器で、縄文が施される。

121の縄文の節は細かく撚りはきつい。122の口縁端部は無文であるが、部分的に縄文が口端部まで施される。126は節が粗大な縄文が施される。127の縄文の撚りは不明である。縄文施文後にナデ調整されるが、軽易な調整ではなく、磨消風の調整である。130の縄文の撚りは不明である。132は底部に近い部位の破片のため縄文施文が多方向になっている。133は底部に近い部位の破片で、縄文の撚りは不明である。135は底部に近い部位の破片である。

12類 稲荷原式土器口縁部（第94図、図版43）

136～144は稲荷台式期直後の土器で、稲荷原式土器を主体とするものである。

136の条の撚りは緩い。口縁部の断面形態は若干肥厚・外反するもので、肥厚下に沈線もしくは凹線は認められない。137の口縁部肥厚下に沈線もしくは凹線は認められない。138は口縁部肥厚下に凹線が認められる。内面の口端部は横方向の調整で、以下は縦方向の調整である。拓影図左端に燃糸文が認められる。139は肥厚・外反する口縁部下に沈線もしくは凹線は認められない。条の撚りは緩い。140は口縁部に凹線がめぐり、凹線の施文後に燃糸文が施される。142は明瞭に外反する口縁部で、屈曲部に沈線もしくは凹線は認められない。143の破片下半には燃糸文が認められるが、撚りは不明である。口縁端部は肥厚するが、肥厚下に沈線もしくは凹線は認められない。144は推定口径約8cmの小形の個体である。口縁下には幅8mm程度の浅い凹線がめぐり、凹線以下に燃糸文が施される。口縁端部は横方向のナデ調整であり、凹線も横方向のナデ調整により作出されているようである。凹線下は縦方向のやや粗いナデ調整のようである。



第94図 グリッド出土土器 (3)

ある。内面は、口縁端部では粗い横方向のナデ調整で、以下は縦方向の粗いナデ調整である。

13類 稲荷台式土器直後の体部（太い燃糸文）（第94図、図版43）

145～157は136～144と同様の稲荷台式期直後の土器で、稲荷原式土器を主体とするものである。太い燃糸文が施される体部の破片である。

145の拓影図右下端のみ絡糸条痕である。146の条は太い。147も条は太い。148の条の撚りは緩い。149は太く撚りの緩い条である。150の拓影図右半の一部は絡糸条痕になっている。151の条は太く撚りは緩い。152の条の撚りは緩い。153の条は太い。154の条は太く、輪積痕が認められる。155の条は太く撚りは緩い。156は太い条である。破片上下共に輪積痕部位で破損している。157は太く撚りの緩い条である。破片上下共に輪積痕部位で破損している

14類 大浦山式土器（第95図、図版43・44、巻頭図版2）

158～180は大浦山式土器の破片である。158～160は外反する口縁部の破片、161～165は直行する口縁部の破片、166～172は体部の破片、173～178は底部に近い部位の破片、179・180は底部の破片である。

158は器表面の屈曲部に、幅3mm程度の凹線風の効果が認められる。指頭によるものではなく工具によるものである。159は内面の口縁部（屈曲・外反部）は入念なナデ調整がなされ、以下は粗い調整であり、明確に視認できる。160の器表面は屈曲部には、幅3mm程度の凹線風の効果が認められる。指頭によるものではなく工具によるものである。内面の口縁部と以下の部分は、159とは異なり共に入念にナデ調整される。161は口唇部に明確な平坦面が作出される。口端下には施文後の指頭による横方向のナデ調整により、幅8mm程度の無文帯が作出されている部分がある。162の条の撚りは不明である。163は推定口径13.4cmの小形の個体で、口唇部には明瞭な平坦面が作出される。施文後のナデ調整が顕著である。164は破片内は無文で、破片上半では横方向の粗いナデ調整、下半では縦方向の粗いナデ調整が認められる。165は推定口径14.6cmの小形の個体で、口縁端部直下に横走する燃糸文が認められるが条の撚りは不明である。施文後に比較丁寧なナデ調整の反復、もしくはミガキ調整がなされているようである。口唇部は明瞭な平坦面が作出される。破片左端には木貫通の補修孔が認められる。168は破片中央部の輪積痕部位での破損から、時計回り方向の粘土紐の巻き上げが示唆される。169の破片上端は輪積痕部位での破損である。171の条の撚りは不明である。

15類 胎土が「けいしょう」な土器（第95図、図版44、巻頭図版3）

181～188はいわゆる「けいしょう」な胎土の破片である。

181は体部に比べ口縁部が肥厚する個体である。拓影図下端には縄文が施されている可能性がある。182は口唇部と口縁端部に燃糸文が施されている。以下の部分での施文の有無は不明である。183は浅い刺突文が施される。押型文の可能性も捨てきれない。184は浅い刺突文が施される。押型文の可能性も捨てきれない。内面は明瞭に屈曲しているが、内面の屈曲の度合いは器表面では観察できない。186は底部付近の破片で条の撚りは緩い。188は無文である。

16類 無文の土器（第96図、図版44）

189～203は無文の土器の破片である。稲荷台式土器を主体とするが、他の時期の土器も含まれている可能性がある。

189は推定口径約16cm、推定器高約13cmの個体で、輪積痕がよく観察できる。口縁部の内外面は共に横方向の調整で、以下は内外面共に縦方向の調整である。概して内面の調整の方が粗い。口唇部は調整によ

り平坦面が作出されるが、全周にわたり認められるわけではない。190は口縁部に隆帯を貼り付け、隆帯下には浅い沈線が施されているようである。口唇部には右下がりの浅い沈線が施されているようである。191は胎土・焼成・調整・断面形態共に190に類似する。192は口縁部に横方向の調整がなされるが、以下の部分のナデ調整に比べ粗い調整である。193は内外面共にミガキ調整される。195の内面は口唇端部と口縁部の調整により稜が作出される。197は輪積痕の部分で破損している。199は器表面のみ入念にミガキ調整される。200は内外面共に縦方向にケズリ調整される。202は口唇面の内外面側端部に調整により稜が作出される。203は堅緻な焼成で雑なミガキ調整のみで、内外面共に凹凸が目立つ。口唇部は調整により平坦面が作出されるが、全周にわたり認められるわけではない。

204～212はおそらく無文の土器の体部の破片であり、概ね稲荷台式土器であろう。

204～209は縦方向の調整痕が認められる。206の破片上半部は頸部の緩やかな括れ部分であろう。207は調整が粗く擦痕風である。208の破片上下端は輪積痕で破損している。210は内外面共に縦方向の調整痕を有する。211は小形の個体であろう。212の表面はナデ調整される。破片上端は輪積痕で破損する。

17類 撫糸文系土器の底部 (第96図、図版44)

213～218は底部の破片である。時期の特定は困難である。

213は縦方向の擦痕風の調整が認められる。214は使用痕(器表面の摩滅)が認められる。215は施文後の放射状の擦痕が認められる。使用痕の可能性が高い。216は縦方向の擦痕風の調整痕が顕著である。217・218は器表面の風化が著しい。

18類 撫糸文期の小形の個体 (第96図、図版44)

219～223は無文で小形の個体である。

219は推定口径11.6cmの個体で、口唇面に指頭による浅い窪みが連続的に認められる。器表面は丁寧なナデ調整がなされるが、内面の調整は粗い。220は推定口径9.2cmの個体で、器表面は粗い縦方向の調整のみで凹凸が残る。内面は口縁部は横方向、以下は縦方向の調整である。221は推定口径約9cmの個体で、内外面共に粗い調整で、凹凸が残る。222は内外面共に擦痕風の縦方向の調整痕が残る。

Ⅱ群 早期 沈線文系土器 (第97図、図版44)

224～232は沈線文土器で、ほとんどが田戸下層式土器である。

225は器表面の風化が進行しているが、浅い凹線文が認められる。拓影図左下端には局線文が施される。226は口縁直下は隆帯風の凸部が作出され、凸部上にも凹線が施される。口唇面には刻みが施される。228・229は同一個体である。

Ⅲ群 早期 条痕文系土器

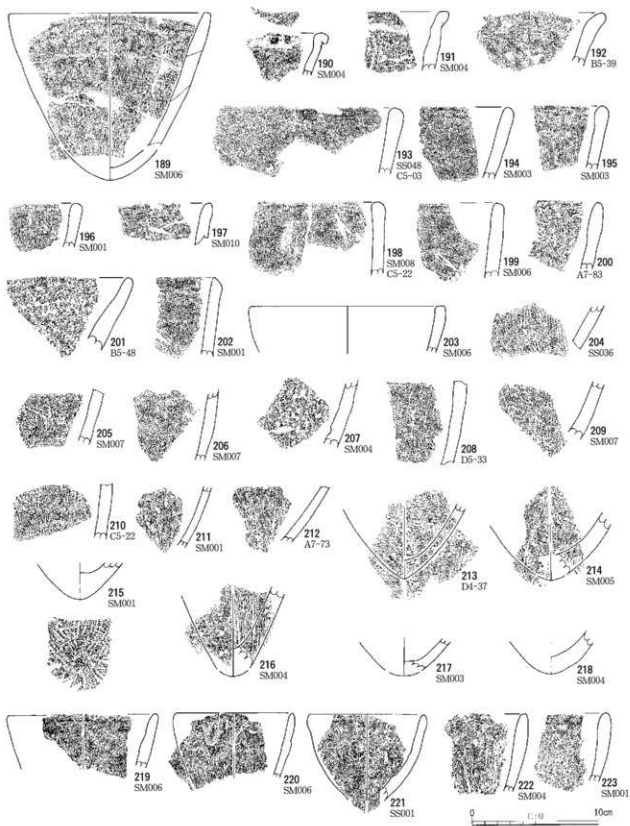
1類 子母口式土器のうち有文 (第97図、図版44)

233～236は子母口式土器のうち、有文の破片である。

233は波状口縁で口唇部は無文である。多載竹管による連続刺突文が施される。234は多載竹管による連続刺突文が横方向に平行に施され、破片上端では斜めに施される。235は多載竹管による連続刺突文が3段施される。236は底部近くの破片で、小形のハイガイの青圧痕が認められ、破片下端では条痕になっている。

2類 子母口式土器のうち無文の口縁 (第97図、図版44・45)

237～248は子母口式土器のうち、無文の口縁の破片である。



第96図 グリッド出土土器 (5)

237は波状口縁で口唇面に絡糸体圧痕が施される。拓影図左下に右下がりの隆帯の剝落痕が認められる。238はおそらく平縁で、口唇面に半截竹管による刺突がめぐる。239は緩い波状口縁で、口唇面に多載竹管による刺突がめぐる。内外面共に擦痕が認められる。240はおそらく平縁で、口唇面に竹管による刺突がめぐる。破片下端には深い刺突が施され、その部分の内面の粘土が突出する。241は口唇面に多載竹管による刺突がめぐる。242はおそらく平縁で、口唇面にはへら状の工具によると思われる刻みがめぐる。243～245は平縁である。246は平縁で内外面共に擦痕が認められる。247・248は平縁である。

3類 子母口式土器のうち無文の体部（第97・98図、図版45）

249～274は子母口式土器のうち、無文の体部の破片である。

251の内面は多方向の擦痕が認められる。252・255は器表面は無文で内面に擦痕が認められる。257は底部に近い部位の破片で、器表面は無文で内面に擦痕が認められる。258・259は内外面共に無文である。260は内外面共に軽易な擦痕である。261は器表面は軽易な擦痕で、内面は無文である。262・263は内外面共に無文である。264は内外面共に軽易な擦痕である。265は器表面は軽易な擦痕で内面は無文である。266～269は内外面共に無文である。270～273は内外面共に軽易な擦痕である。274は器表面は軽易な擦痕で内面は無文である。

4類 子母口式土器のうち、器表面は無文で内面に条痕が施される（第98図、図版45）

275～287は子母口式土器のうち、器表面は無文で内面に条痕が施される破片である。

275は器表面に乱雑な調整痕が認められる。277は波状口縁である。278は波状口縁で口唇面には右下がりの刻みが施される。摩擦が進行しており原体は不明である。器表面には擦痕が認められる。279～281は器表面に擦痕が認められる。283は底部に近い部位の破片である。284は器表面左端には条痕が、右半には擦痕が認められる。285内面には炭化物の付着が認められる。

5類 子母口式土器のうち、器表面に条痕が施され、内面は擦痕が施されるか無文（第98・99図、図版45）

288～304は子母口式土器のうち、器表面に条痕が施され、内面は擦痕が施されるか無文の破片である。

288・289は同一個体であろう。291は波状口縁で、口唇面に刻みが施される。刻みは、波頂部左側では右下がりに、右側では左下がりに施される。297は波状口縁で、口唇面に左下がりの刻みが施される。298は同一個体であり、291と同一個体の可能性もある。299は厚手で輪積痕の部位で破損している。

なお、子母口式土器のうち、表裏無文（擦痕含む）の重量は20.42kg、表裏条痕は4.24kg、表条痕・裏無文は3.74kg、表無文・裏条痕は1.54kgで、それぞれの比率は、5 : 1 : 1 : 1/2以下、となる。

6類 条痕文系土器の底部破片（第99図、図版45）

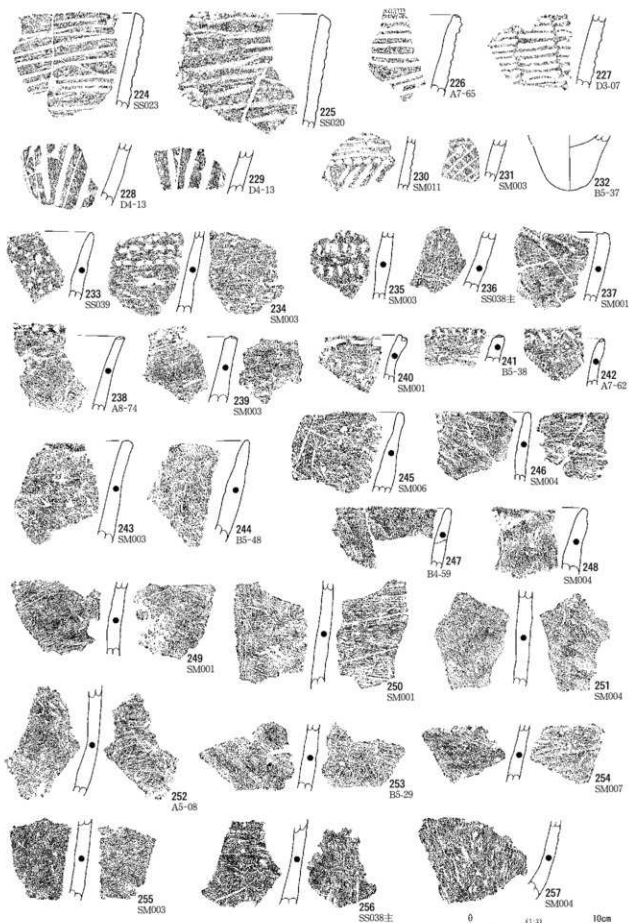
305～307は条痕文系土器の底部破片である。

305は子母口式土器であろう。306は器表面に縦方向の調整痕が認められる。307は拓影図左上端に浅い条痕が認められる。

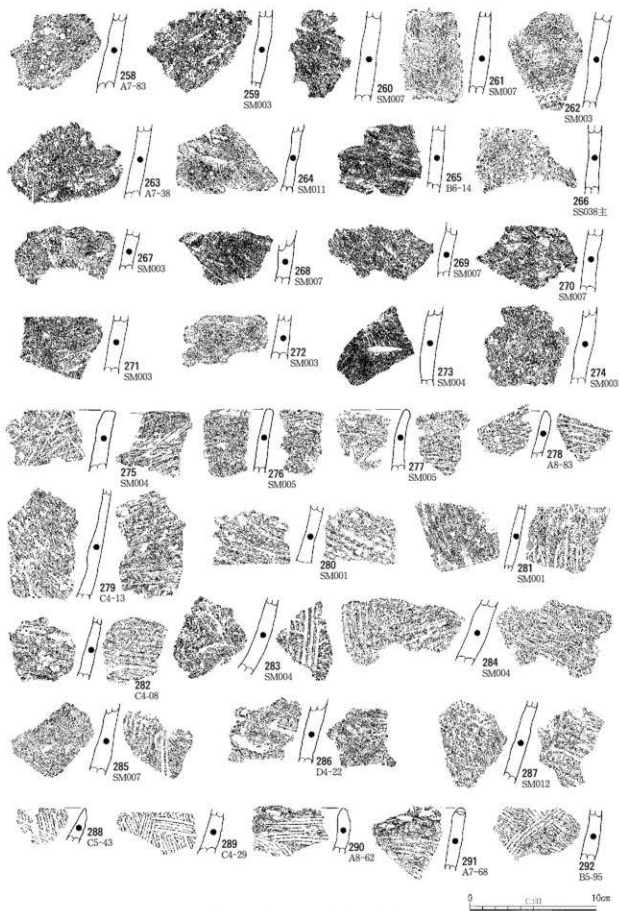
7類 野島式土器のうち、微隆起線文が施文される（第99図、図版46）

308～316は野島式土器のうち、微隆起線文により施文される破片である。

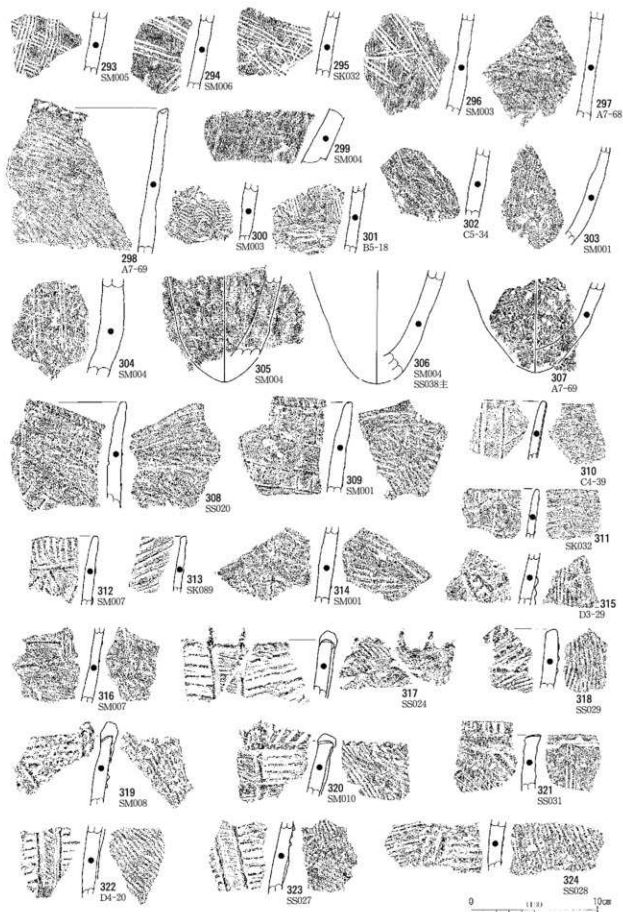
308は波状口縁で口唇面に右下がりの刻みが施されるが、波頂部付近には施されない。309は波状口縁で口唇面に刻みが施される。308・309は同一個体ではない。312は口縁に小突起を有する部位の破片であろうか。口縁部はフネガイ科の貝殻腹縁の圧痕である。内面は無文である。313の内面は無文である。314の微隆起線の一部は剝落している。315は梯子状の意匠が施される。



第97図 グリッド出土土器 (6)



第98図 グリッド出土土器(7)



第99図 グリッド出土土器(8)

8類 野島式土器のうち、細隆起線文が施文される (第99図、図版46)

317~324は野島式土器のうち、細隆起線文により施文される破片である。

317は二個一對の耳状の突起を有し、口唇面には刻みが施される。刻みは二個の突起間にも施される。

318は波状口縁で、口唇面に刻みを有する。319は耳状の突起を有し、口唇面には刻みが施される。胎土に大粒の石英・長石粒、その他小粒の鉱物粒を多く含む。320は垂下する隆起部の口唇面には突起が貼付されるが、上半が欠損しているので形状は不明である。口唇面には刻みが施される。324は区画文は細隆起線文、充填文は微隆起線文による。

9類 野島式土器のうち、細隆起線文と沈線文が施文される (第100図、図版46)

325~335は野島式土器のうち、細隆起線文と沈線文により施文される破片である。

325・326は隆帯上に刻みが施される。327の隆帯は微隆起線文である。隆帯上に刻みが施される部分とそうでない部分がある。328は波状口縁で拓影図左端の隆帯が剥落している。329は左側の垂下する隆帯上には押捺文が認められる。拓影図右半は太い沈線が充填される。330は左側の垂下する隆帯の一部が剥落している。331は隆帯による区画文内に沈線が充填される。332は垂下する隆帯間には条痕が充填され、拓影図両端は沈線が充填される。333は拓影図中央下部では隆帯が交錯する。334は器表面の風化が進行しているが、細隆起線による区画と太い沈線の充填が認められる。拓影図下端には横方向にめぐる隆帯が認められる。335の内面は剥落している。

10類 野島式土器のうち、条痕が施文される (第100図、図版46)

336~341は野島式土器のうち、条痕が施文される破片である。

337は内外面共に条痕というよりも擦痕風の調整痕である。338は器表面の条痕をナデ等により磨り消している可能性がある。内面は無文である。341は浅い条痕で、拓影図中央は右下がりの沈線の可能性もある。

11類 茅山式系土器で、表裏に条痕が施される (第100図、図版46)

342~350は茅山式系土器で、表裏に条痕が施される破片である。

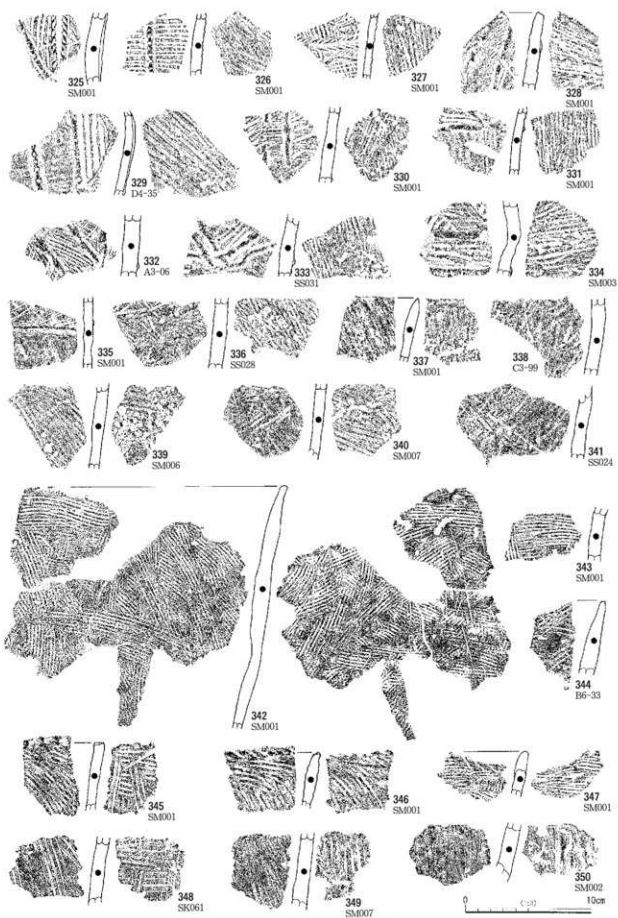
342は平縁の可能性が高く、口唇部にも条痕が施される。344は波状口縁で口唇面は無文である。345は平縁で口唇面には指頭圧による凹文がめぐる。346は平縁で、口唇面には右下がりの刻みがめぐる。347は波状口縁で、口唇面には右下がりの刻みがめぐる。波頂部は欠損している。350は内外面共に細い条痕が施される。

IV群 早期終末から前期初頭の土器

1類~5類は神ノ木台式土器及び下吉井式土器と考えられ、6類は木島式土器と考えられる。

1類 隆帯文 (第101図、図版46)

351は繊維の含有は微量で、内面は無文である。内面にアバタ状剥離が認められる。352は繊維は含まれない。351と同一個体の可能性がある。内外面共にアバタ状剥離が顕著である。353は繊維の含有は微量で、十字状の隆帯が貼り付けられている。拓影図下端には横方向の隆帯が剥落しているように思われる。アバタ状剥離は認められない。354は繊維の含有は微量である。内面にわずかにアバタ状剥離が認められる。355は繊維の含有は少量で、横方向の隆帯のみが認められる。356は繊維の含有は少量で隆帯上には刻みが認められる。内面は擦痕もしくは浅い条痕が認められる。アバタ状剥離は認められない。357は繊維の含有は多く、横方向の隆帯のみが認められる。内面にアバタ状剥離が認められる。359は繊維は含まれ



第100図 グリッド出土土器 (9)

ず、内外面共にアバタ状剥離が顕著である。拓影図上端の隆帯は波状を呈するものであろう。360は繊維は含まれず、拓影図上端の隆帯は波状を呈するものであろう。361は拓影図左上端に口縁部が残る破片である。口端部に隆帯がめぐり、口唇部及び隆帯上に条痕が施される。繊維の含有は少量で、波状口縁である。362は平縁で、隆帯上に刻みが施される。繊維の含有は少量である。363は繊維は含まれず、隆帯上には胄圧痕の可能性がある刻みが施される。364は幅広の隆帯上に2段の多載竹管による押し文が施される。繊維の含有は多い。365は隆帯上に2段の多載竹管による刻みを有する。繊維の含有は多い。367は隆帯上に2段の多載竹管による押し文が施される。繊維の含有は多い。357は356と類似した施文で、繊維の含有は少ない。367は隆帯上に多載竹管による刺突が施される。アバタ状剥離が顕著で、内面の一部には条痕が認められる。繊維の含有は微量である。367は隆帯上に2段の多載竹管による刻みを有する。繊維の含有は微量で、アバタ状剥離が顕著である。拓影図下半に浅い条痕が認められる。369は隆帯上に刺突文が施されるが、原体は不明である。繊維は含まれない。370は条痕を施し、隆帯上に2段の多載竹管による刻みを有する。繊維の含有は多い。371~373は同一個体である。口端直下に太い沈線を施し、以下に間隔をあけて調整を施すことにより、口縁端部に擬似的な2本の隆帯状の効果を有する個体である。隆帯状の部分には絡条体圧痕が施される部分がある。371の拓影図下端には左下がりの隆帯が認められる。繊維の含有は微量である。

2類 隆帯文+沈線文 (第101図、図版47)

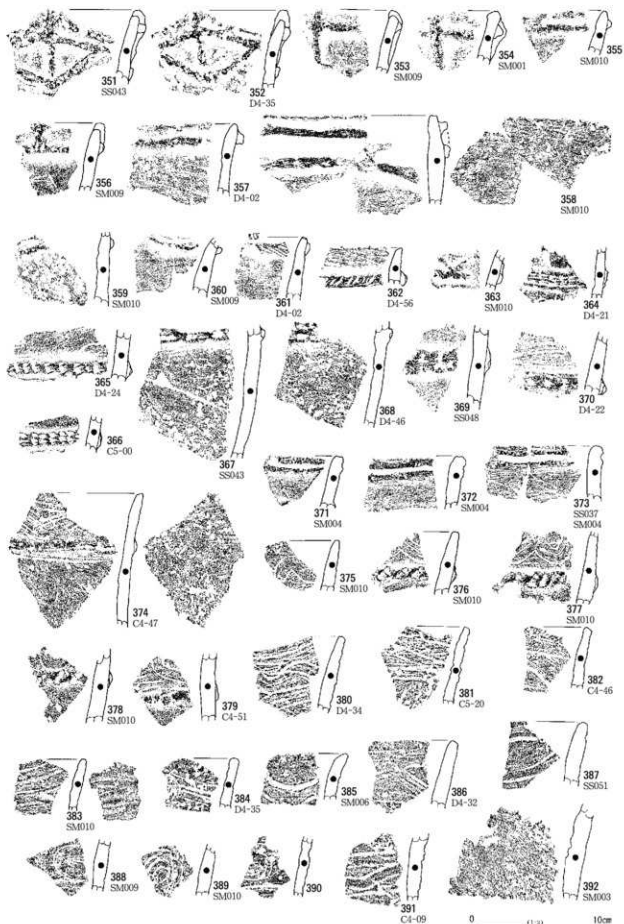
374は波状口縁で、口縁部の隆帯以上の部位に、半載竹管による斜方向の意匠が施される。繊維の含有は多く、内面の一部に浅い条痕が認められる。375は幅広の竹管によるコンパス文が施される。口唇部には絡条体圧痕が認められ、繊維の含有は微量である。376~378は375と同一個体であり、隆帯上にはササクレ竹管による2段の刺突が施される。

3類 沈線文 (第101図、図版47)

380は波状口縁で、口縁に沿った平行と波状の竹管による平行沈線が施される。繊維の含有は多い。381は波状口縁でアバタ状剥離が顕著である。382は波状口縁で、口唇部に浅い刻みが施されるが原体は不明である。383は波状口縁で内面に浅い条痕が認められる。384は波状口縁の頂部で、2段の竹管による平行沈線が施される。繊維の含有は少量でアバタ状剥離が顕著である。385は波状口縁で、竹管の背による沈線が施される。繊維の含有は微量で内面にアバタ状剥離が認められる。387は幅広の竹管が用いられる。389は楕円形の意匠が施され、繊維の含有は少量である。390は拓影図上端に横方向の沈線が認められる。繊維の含有は少量で内外面共にアバタ状剥離が認められる。391は竹管による平行沈線が施され、繊維の含有は多い。392は拓影図上端に幅広の凹線が認められる。おそらく大径の多載竹管による施文であらう。繊維の含有は多くアバタ状剥離が進行している。

4類 無文口縁 (第102図、図版47)

393は波状口縁の頂部で器表面には浅い条痕が施される。繊維の含有は少量で、アバタ状剥離が顕著である。394は繊維の含有は微量である。395は緩い波状口縁である。396は繊維の含有は微量で、器表面に調整痕が認められる。398は波状口縁で、内面に浅い条痕が認められる。繊維の含有は微量である。399は緩い波状口縁の可能性がある。内面にアバタ状剥離が認められる。400は繊維の含有が多く、内外面共にアバタ状剥離が顕著である。401は繊維を含まず、内外面共にアバタ状剥離が顕著である。402は繊維の含有が多く、内外面共にアバタ状剥離が顕著である。403は内外面共にアバタ状剥離が認められる。



第101図 グリッド出土土器 (10)

5類 無文もしくは浅い条痕の体部 (第102・103図、図版47・48)

本類は、Ⅲ群とは以下の2点の特徴から峻別することができる。

1. Ⅲ群の器面には認められないアバタ状剥離が本類には認められる。
2. 本類の条痕はⅢ群に比べ浅く幅広である。

404は内外面共に浅い条痕が認められ、繊維の含有は微量である。405は繊維は含まれない。406は繊維の含有は多く、内外面共にアバタ状剥離が認められる。407・408は内面に浅い条痕が認められ、繊維は含まれない。409は器表面に2方向の条痕が認められ、内面にアバタ状剥離が認められる。410は器表面にわずかに条痕が認められる。繊維の含有は微量で、内外面共にアバタ状剥離が認められる。411は器表面に浅い条痕が認められる。412は繊維の含有が多く、内外面共にアバタ状剥離が認められる。413は内面に浅い条痕が認められる。繊維は含まれず、内外面共にアバタ状剥離が認められる。414の器表面の条痕は細く、内面の条痕とは異なる。繊維の含有は多く、器表面のみにアバタ状剥離が認められる。415は内外面共に細い条痕で、内面のアバタ状剥離が認められる。416は繊維は含まれず、内面は全面にアバタ状剥離が認められる。拓影図右下に調整痕が認められる。417は繊維の含有は微量で、内面は全面にアバタ状剥離が認められる。418は底部付近の破片である。419は繊維の含有が多く、内面にアバタ状剥離が多い。420は繊維の含有が少量で、器表面には炭化物の付着が認められる。421はアバタ状剥離が認められない。422は繊維の含有は少なく、内面のアバタ状剥離が顕著である。423は内外面共にアバタ状剥離が認められる。424の内面はアバタ状剥離は認められない。425は内外面のアバタ状剥離が少ない。426は繊維の含有が少なく、内面のアバタ状剥離は外面に比べ少ない。429は繊維の含有が多く、内外面共にアバタ状剥離が認められる。430は繊維は含まれず、内外面の全面にアバタ状剥離が認められる。431は内外面共にアバタ状剥離が顕著である。

6類 東海系の薄手土器 (第103図、図版48・51、巻頭図版3)

432は口唇面に指頭によると思われる凹部が認められる。破片中央には低隆帯が横方向にめぐり、隆帯上及び隆帯以下には条痕が認められる。繊維の含有は微量である。433は口縁端部に低隆帯がめぐり、隆帯上及び隆帯以下には条線が施される。繊維の含有は微量である。434は拓影図の上下に横方向の低隆帯がめぐり、条線が施される。繊維の含有は微量である。435は斜方向の条線が施される。繊維の含有は極微量である。436は繊維の含有が、他に比べ多い。437は繊維の含有が微量である。

432は木島Ⅰ式土器、433・434は木島Ⅱ式土器に相当すると考えられる。

V群 前期の土器

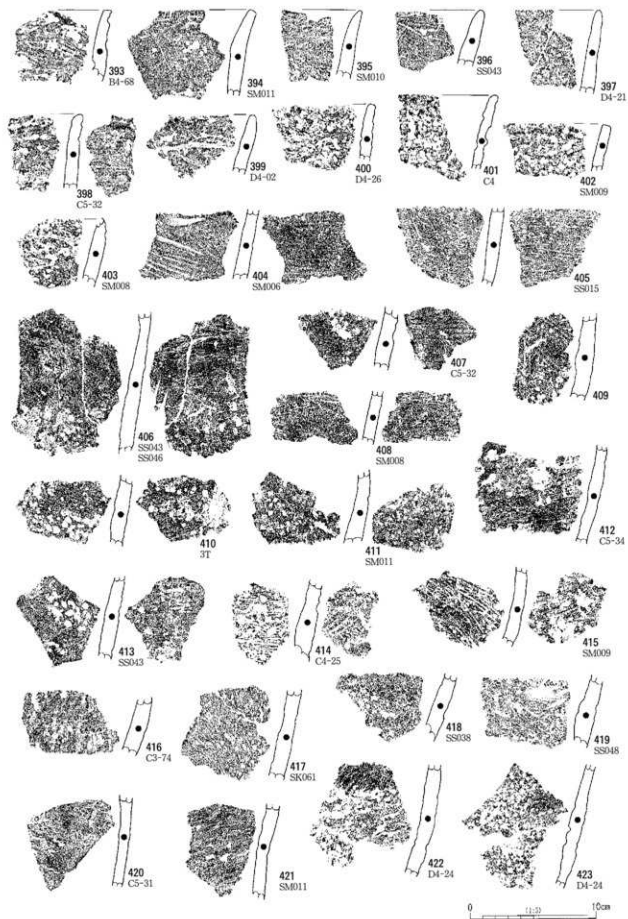
1類 黒浜式土器 (第103図、図版48)

438は半截竹管による沈線により意匠が施され、口唇面に刻みを有する。波状口縁の可能性もあろう。439は集合沈線が認められ、器表面からの未貫通の補修孔は焼成前の可能性がある。440は集合沈線である。441・442は同一個体で、原体はL R + R附加条第2種である。443の原体は、L + R附加条第2種で、拓影図右半はR Lが施される。444はおそらく付加の縄Lで、軸縄は見えない。445の原体はL Rである。446・447は同一個体で、原体は無節Lである。

2類 前期後半の土器 (第103・104・105図、図版48・49)

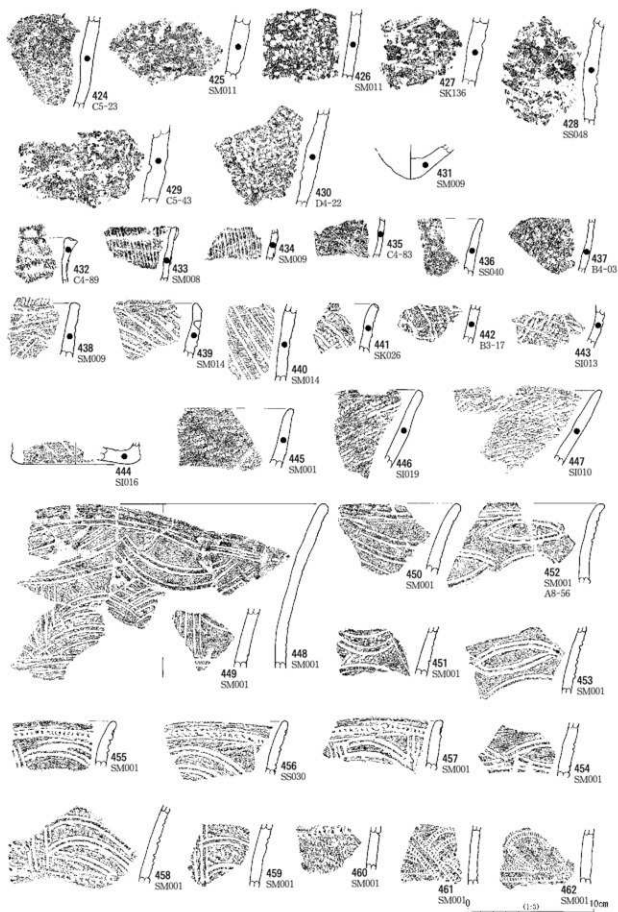
本類は諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式、浮島式、興津式土器に相当する。

448～451は同一個体である。推定口径26.0cmの個体で、地文の縄文がわずかに残る。451には右下がり

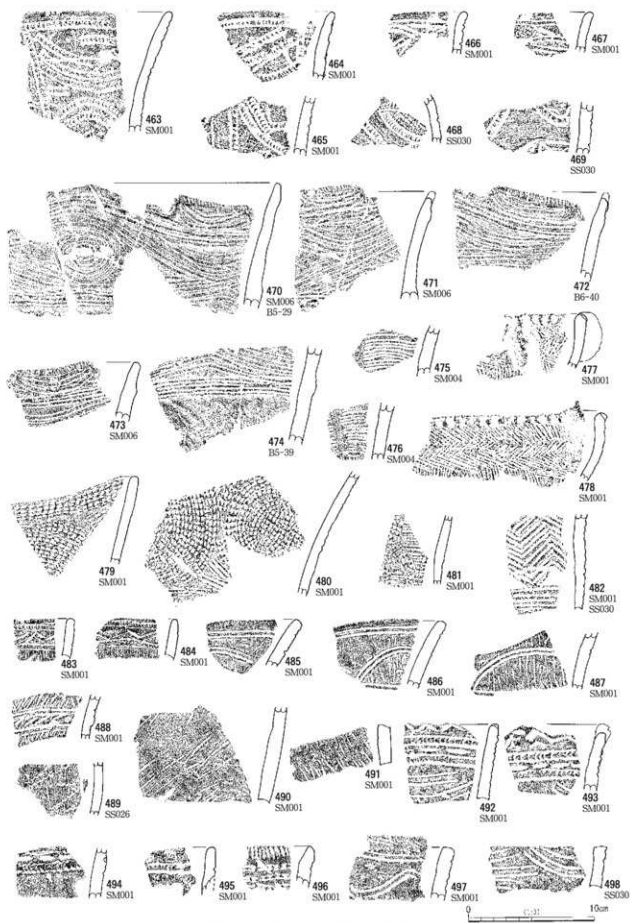


第102図 グリッド出土土器 (11)

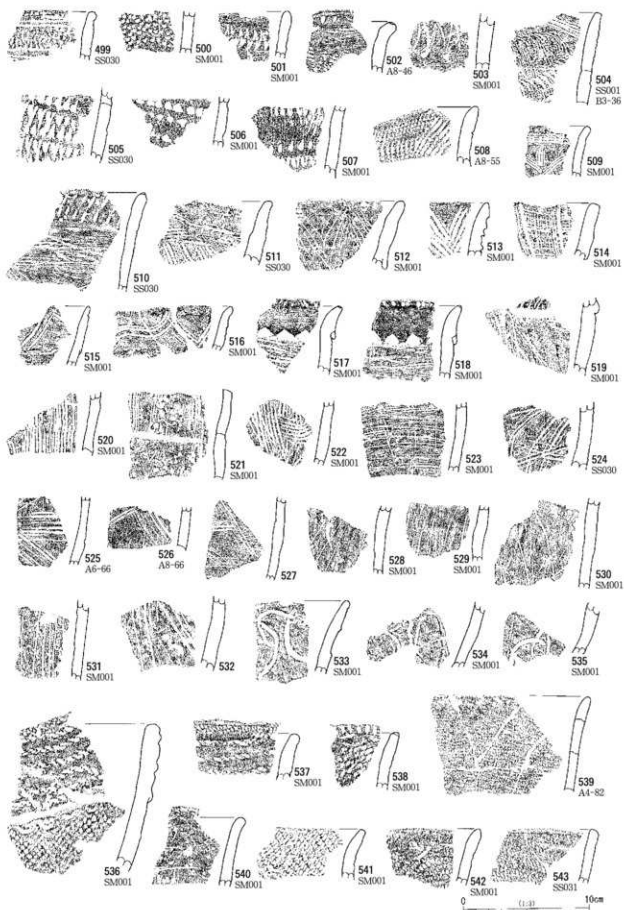
の沈線と結節文が認められる。452～454は同一個体で、地文は認められない。455～460は同一個体である。口縁部文様帯の上下にC字爪形文が施され、地文の縄文が体部下半と上半の一部に残る。粗いRLである。461・462は同一個体で、幅狭の爪形文が施される。463～465は同一個体である。C字爪形文が施され、地文は認められない。466は半載竹管により意匠が施され、地文は認められない。467の地文はRLである。468は内湾する部位の破片で、意匠内にRLが認められる。469は粗い爪形文である470～474は同一個体で、波頂部(単位部)に山形突起を有し、波頂部両脇に横長の長方形の副突起を有する。胴部上半の上下に低い隆帯がめぐり、隆帯間に半載竹管により意匠が施される。体部下半は無文となる。口唇面には刻みが施される。諸磯b式期終末段階の所産である。475・476は同一個体で、集合沈線と無文部が認められる。477・478は同一個体である。耳状突起を有する個体で、諸磯c式土器である。479・480は同一個体で、半載竹管による連続押引文が施される。480の拓影図下端には横方向の区画線が認められる。諸磯c式土器である。481は半載竹管による平行沈線と連続押引文が施される。482は平行沈線帯と鋸歯状沈線間に三角刻印が認められる。この三角刻印と向かい合う上部にも、同様の三角刻印が施されているものと思われる。483・484は同一個体で、地文は撚りの緩いLRである。諸磯b式土器である。485～487は同一個体で、地文は撚糸である。浮島Ia式土器である。488は隆帯上に刻みを有する。地文は条線である。489は波状貝殻文で拓影図右端に垂下する沈線が認められる。おそらく半載竹管による平行沈線であろう。490・491の地文は撚糸で、490は撚りのきついRであろう。破片下端は輪積痕の部位で破損している。491の破片上下端は輪積痕の部位で破損している。492・493・494はおそらく同一個体で、瘤状の突起を有し、口縁端部にハ字状の刻みを有する。2段の横方向の変形爪形文間に長い列点を組み合わせて、これにより文様帯の上下を区画して、区画間を弧状沈線でうめる個体である。浮島Ib式土器である。495は波状口縁の可能性のある破片で、変形爪形文が施される。浮島式土器であろうか。496は口縁端部に半載竹管による条線帯を有し、以下に半載竹管による押引文が施される。左から右方向への施文が3段認められる。497は口唇部に右下がりの沈線がめぐり、498は幅広の半載竹管による施文である。破片上下端は輪積痕の部位で破損している。499は口縁端部に刺突が施され、以下、爪形文・刺突文・爪形文の順に施される。500の竹管による刺突は、拓影図上端では右横方向から施され、拓影図下半では下方向から施される。501は波状貝殻文が2段施される。502は口唇面に凹状の刺突がめぐり、口縁下にはフネガイ科による波状貝殻文が施される。503は波状貝殻文が施される。504は波状口縁を呈し、口縁端部付近では口縁に平行するように条痕が施され、以下、フネガイ科の波状貝殻文が2段施される。拓影図左端にも右下がりの条痕が認められる。505・507は三角文で、505は右下がりの輪積痕が観察できる。508は波状口縁の頂部で、フネガイ科の貝殻文が施される。509は3条1単位の櫛歯状工具により、口縁直下では右から左方向への押引文が施され、以下は沈線となる。510は薄手の折返し口縁である。口唇面は指頭により凹凸が作出される。511は波状口縁の頂部である。512は折返し口縁で、単沈線による鋸歯文が施される。513は単沈線による鋸歯文が施される。514は波状口縁と思われ、折返し口縁である。515は拓影図上端のみ口縁が残存する。折返し口縁である。516は折返し口縁の可能性がある。517・518は同一個体で、口唇部に刻みを有し、折返し口縁下部に三角形の彫刻が施される。519の拓影図上端は折返し口縁の下部である。520は櫛歯状工具が用いられ、破片下端は輪積痕部位で破損している。521は櫛歯状工具が用いられ、破片上下端は輪積痕部位で破損している。拓影図中央部に横走る回線は輪積痕の部位であり、意図的な意匠であるか否かは不明である。522は櫛歯状工具が用いられる。523・524は半載竹管もしくは多載竹管による施文である。525・



第103図 グリッド出土土器 (12)



第104図 グリッド出土土器 (13)



第105図 グリッド出土土器 (14)

526は同一個体の可能性があり、半載竹管が用いられる。527は櫛歯状工具が用いられる。528～530は同一個体である533～535は同一個体で、竹管の背で乱雑な沈線を施す。

VI群 前期末から中期の土器

1類 前期末の土器（第105・106図、図版49・50）

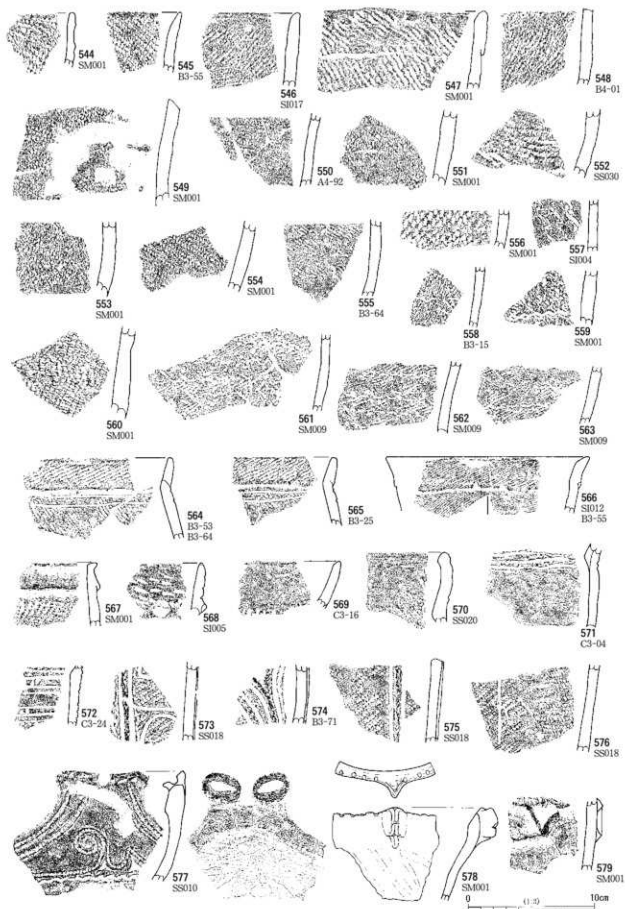
536は波状口縁で、口唇面に単節縄文の回転もしくは押捺が認められる。以下、LRの押捺が4段認められ、隆帯もしくは折返し口縁による凸部と、凸部下にはLRの回転による地文施文後のナデが認められる。ナデ直下には結節が認められる。537は口唇部にLRの回転が認められ、以下、LRの押捺が施される。拓影図右上端にはRLの押捺が認められる。538は口唇面に半載竹管による刻みが施される。地文は撚りの緩いLRである。539はRLの斜方向施文で、破片下端は輪積痕の部位で破損している。540の口唇面に縄文が施されるが、撚りは不明である。口縁部には平行沈線が2段施される。541はRLと結節である。542は口縁端部ではLRの斜め施文、以下ではLRの横位施文である。543はRLRである。544・545はRLである。546は無節Lの縦回転である。547は推定口径28.6cmの個体で、折返し口縁である。地文は無節Rである。548はLRで、破片上端は輪積痕の部位で破損している。549は551と同一個体と思われ、Rである。550は539と同一個体かも知れない。552はLRの斜め施文である。553・554はRLである。555は無節Lの縦施文である。556は粗いLRである。557は結節である。558はRLR+結節である。559は無節R+結節である。560はLRで、拓影図左端にはLRの押捺が認められる。561～563は同一個体で、胎土に長石・石英を多く含む。粗いLRで、拓影図上下端は末端結節で、中央部は結節である。

2類 五領ヶ台式土器（第106図、図版50）

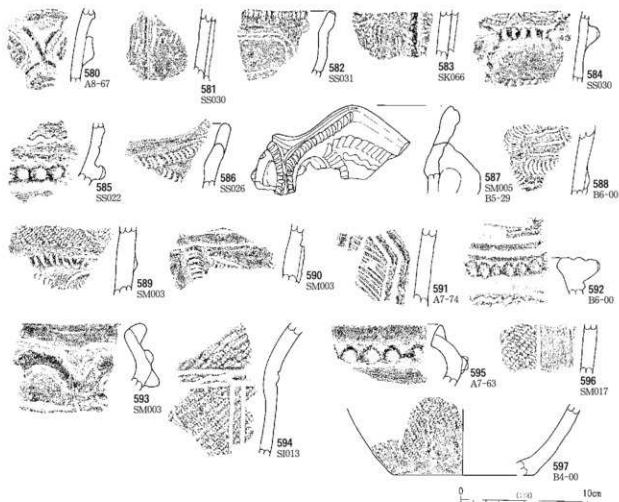
564・565は同一個体で、折返し口縁部では無節Rの横施文、体部では縦施文である。565の拓影図下端では結節が認められる。566は推定口径16.0cmの個体で、折返し口縁下端には二個一対三角形の刻みが施される。無節Lの横施文である。567はLRの横施文である。568は口唇部には浅い刻みが施され、口縁部には3段の右方向からの刺突列が施される。以下、指頭圧痕のある隆帯がめぐる。569は折返し口縁部は無文で、折返し部下端に刻みがめぐる。胎土中の石英が目立つ。570は無文で、胎土中の石英が目立つ。571は頭部に3条の単沈線がめくり、沈線間に下方向からの刺突列が施される。572は平行沈線が施され、拓影図上下端では連続刺突、その上下では交互刺突が施される。573はRLの縦開店後に垂下隆帯と沈線が施される。574は縄文地にY字状の隆帯と沈線が施される。575・576はRLの縦施文である。

3類 阿玉台式土器（第106・107図、図版50）

577は波状口縁頂部に内向きの眼鏡状突起を有する。ノ字状隆帯は剥落している。578は口唇部に刻みを有し、突起部中央には刻みを有する。胎土に金雲母を含む。579は左下がり隆帯の付け根に角押文が認められる。胎土に金雲母を含む。580はX字状の貼付けを有し、棒状の沈線が左右に施される。胎土に金雲母を含む。581は断面形態が三角形の隆帯が垂下し、浅い斜方向の刻みが認められる。胎土に金雲母を含む。582は口唇面に刻みが施され、口縁部にはペン先状工具による2列の押引文が施される。胎土に少量の金雲母を含む。583は垂下する隆帯とペン先状工具による刺突が施される。584は拓影図中央の突起部分には縦方向の刻みが施され、低い隆帯部分には浅い凹部が認められる。拓影図上半の隆帯に沿うように連続角押文が施され、拓影図下端には凹凸文が認められる。585は拓影図上端と以下に波状の沈線が施される。指頭による凹部が認められる隆帯の上部の付け根には幅広の角押文が施される。586は波状口縁で連続押引文が施される。



第106図 グリッド出土土器 (15)



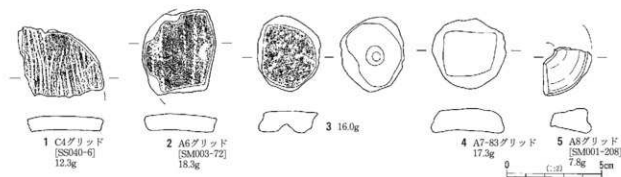
第107図 グリッド出土土器 (16)

4類 勝坂式土器・加曾利E式土器 (第107図、図版50)

587は波状口縁部に盲孔の環状把手を有する。把手の縁辺から波頂部にかけて三日月形の刻みを施す。波頂部下にはキャタピラ文と波状沈線が施される。波状部右側の口唇面には沈線が施され、環状突起の付け根に連なる。勝坂Ⅱ式土器である。588は窓枠状の隆帯に沿って連続爪形文が施される。勝坂式土器である。589はR Lの横回転で、隆帯上や破片下端には半截竹管による連続爪形文が施される。勝坂式土器である。590は隆帯上などに連続爪形文が施される。591は区画内に集合沈線が認められる。勝坂式土器である。592は拓影図下端に斜方向の押し文が認められる。593は浅鉢で、波状の隆帯が施される。594はR Lの縦回転で、平行する沈線間はナデ風の調整により若干磨り消されているようでもある。595は浅鉢で、隆帯上に指頭圧がめぐる。596はR Lの縦施文である。597は推定底径11.0cmの個体で、R Lの横施文であり、拓影図左上部の左脇に結節が認められる。

(2) 土製品 (第108図、図版50)

1は早期燃糸文期の稲荷台式土器の土器片を加工したもので、Rの燃糸文が施される。全体の1/4程度の残存である。拓影図上部から右半部分の弧状を呈する側縁には再調整が認められる。拓影図上端部分に



第108図 グリッド出土土製品

は刻みが認められるが、積極的に刻みであると認めることはできない。土器片製円板であろう。2は早期燃糸文期の稲荷台式土器の土器片を加工したもので、Rの燃糸文が施される。拓影図左半部分の弧状を呈する側縁には再調整が認められる。拓影図上端部分には浅い刻みが認められるが、積極的に刻みであると認めることはできない。土器片製円板であろう。3は早期燃糸文期末期の土器片を加工したもので、太いRの燃糸文が施される。個体内面からの未貫通の孔が施される。土器片製円板である。完存である。4は早期燃糸文期末期の無文部位の土器片を加工したもので、土器片製円板である。完存である。5は土製塊状耳飾で、全体の1/4程度の残存である。側縁部が厚く、中央部に向かって薄くなる。側縁部は凹線状に括れている。

(3) 石器 (第116～131図、図版52～59、巻頭図版4)

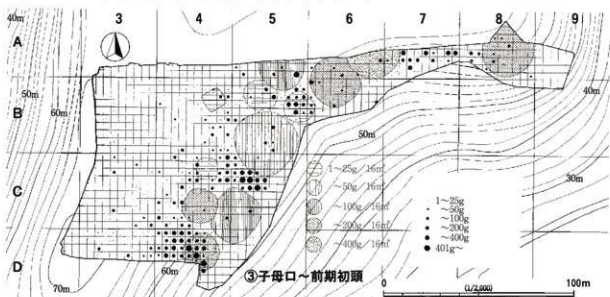
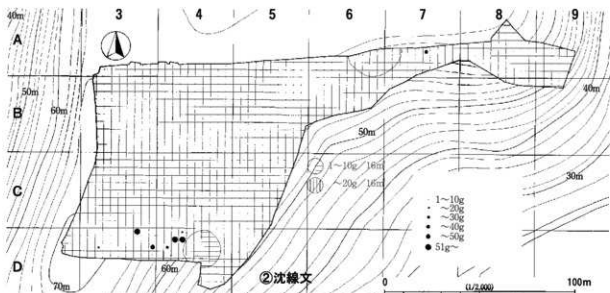
ここでは、縄文時代に属すると考えられる剥片石器・礫石器のほか、垂飾品等の石製品についても扱うことにする。石器の質感を示すために主要な石器類について巻頭図版4に示しておいた。

ここで扱う石器類については弥生時代後期から古墳時代中期にかけての集落に伴う石器類が含まれている可能性もあるが、石器類自体の観察から縄文時代の所産と弥生時代以降の所産のものを区別することは困難であることから、ここでは一括して取りあげることにする。

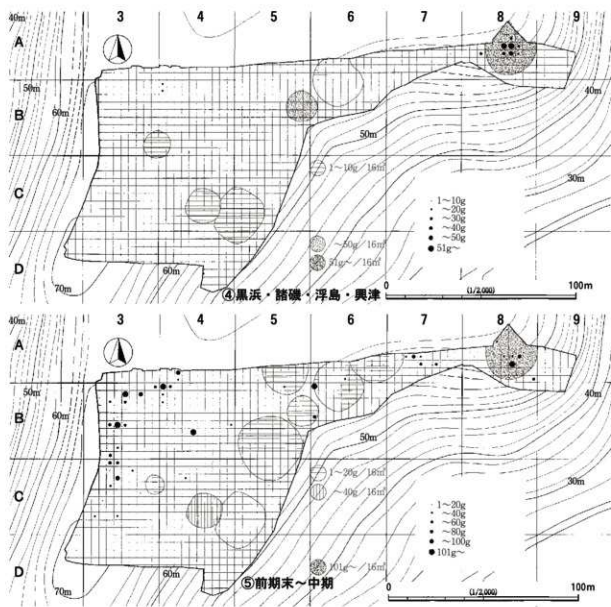
包含層から出土した石器類の器種組成と石材組成は、第25～27表のとおりである。出土総点数は、70,301点で、総重量は4,125,571gであった。分布状況は、器種別分布状況(第111・112図)と石材別分布状況(第113・114図)のとおりである。

器種組成の特徴は、礫・礫片は、礫が13,331点(1,338,116g)・礫片が55,294点(2,756,098g)で、包含層出土土器の97.62%を占める。礫・礫片は、肉眼観察ではあるが、ほとんどのものに、火熱を受けた痕跡がみられる。拳大の大きさの円礫が素材として用いられている。礫片の割合が高いことから、分割した礫を用いたか、火熱により分割されたものであると推察される。剥片石器では、石鏃76点、石鏃未製品20点で石鏃と石鏃製作に関連した資料が多くみられた。

なお、石器類の分布状況と土器の分布状況からA・B・Cの3ユニットの設定を試みた(第115図)。あくまで石器の分布状況と土器の分布状況を見据え、今後の分析に有効であろうという見通しのもとに設定した。例えば、Bユニットにおける沈線文系土器群の優位と剥片石器の優位などである。なお礫石斧については全3ユニットに偏りなく分布していることから、3ユニットごとに資料を提示し、今後の分析へ



第109図 縄文土器型式別分布状況(1)



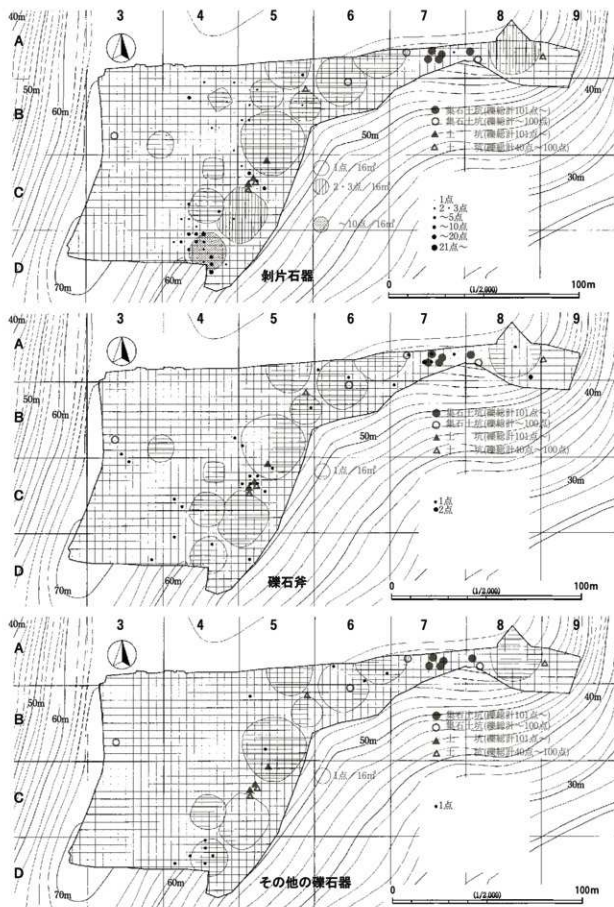
第110図 縄文土器型式別分布状況 (2)

の便宜を図った(第123~131図)。

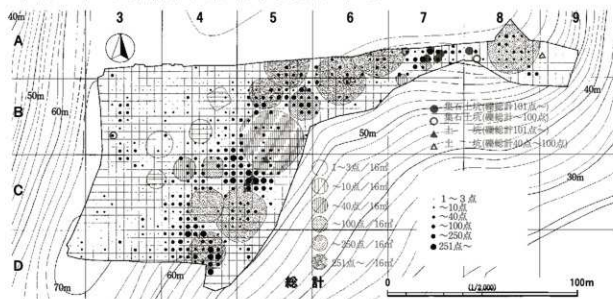
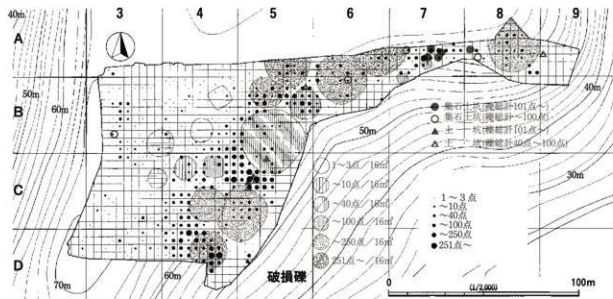
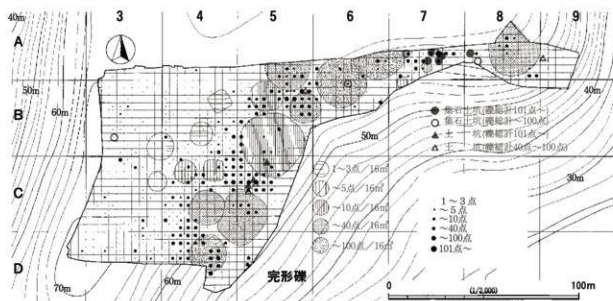
以下、石器類の事実記載に際しては、器種・石材・重量等の基礎情報は挿図中に記していることから、これらについては省略する。また、欠損部位等についても図中に示していることからこれらについての記述も省略する。なお、石材については本章第2節 旧石器時代での石材の識別方法(P16)に準拠している。

1は安山岩製の有舌尖頭器で、表面の風化が進行している。草創期に属するものであろうが、当該期の土器片等は出土していない。

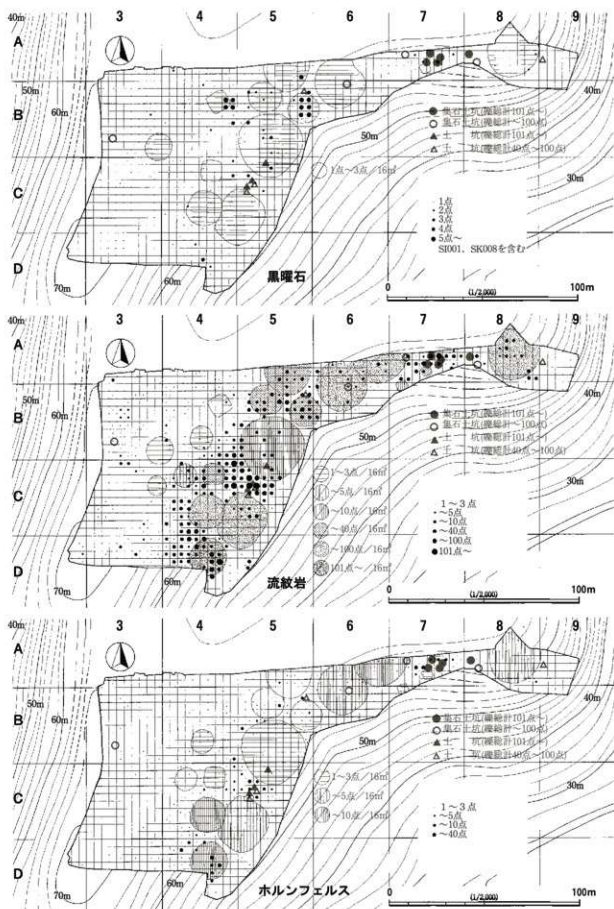
2~48は石鏃である。5はトトロ石製で剥離の回数は抑えられている。同様に安山岩製の22・23・24・41についても剥離の回数が抑えられている。45・46は未製品の可能性もあろう。



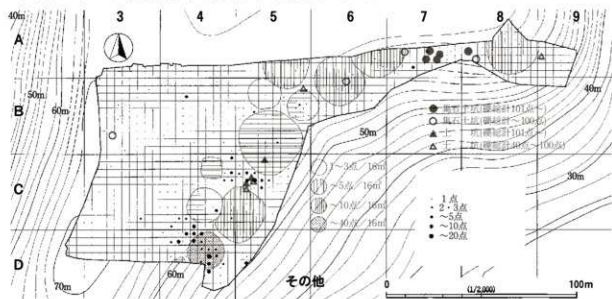
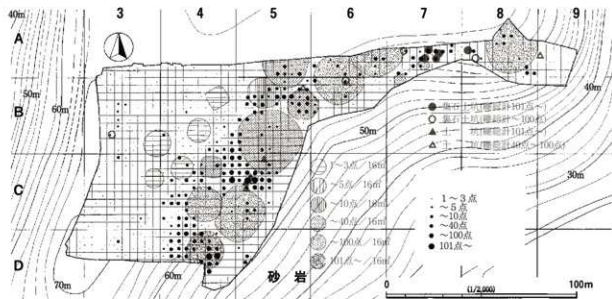
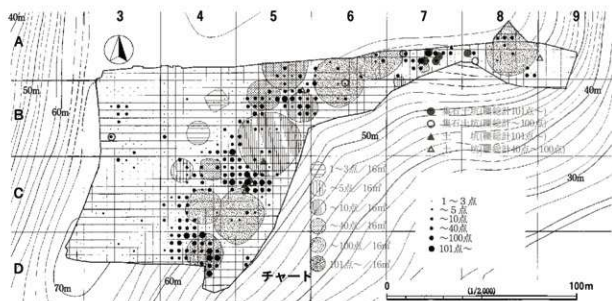
第111図 縄文時代石器器種別分布状況(1)



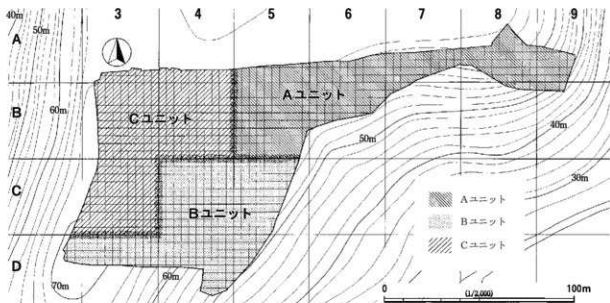
第112図 縄文時代石器器種別分布状況(2)



第113図 縄文時代石器石材別分布状況(1)



第114図 縄文時代石器石材別分布状況 (2)



第115図 縄文時代出土石器のユニット区分図

49～57は石織の未製品である。基部の最終調整がなされていないものが主体を占める。57は石錐の未製品の可能性もあろう。

58は石錐である。安山岩製で風化が進行しているが、基部縁辺部の剥離からは未製品である可能性もあろう。

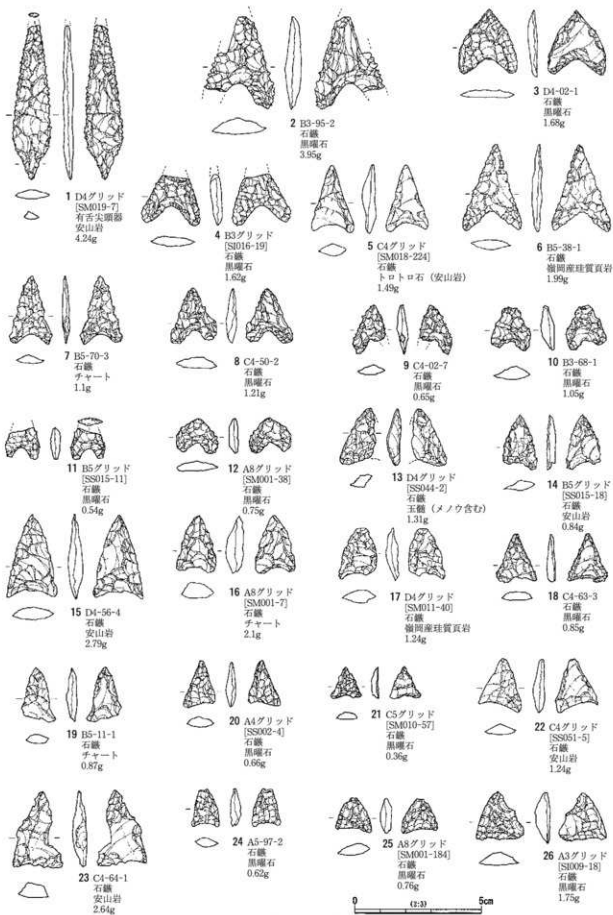
59は削器である。縁辺全局に剥離が認められ、頂部が鋭利になっている。裏面に細部の調整は認められない。

60～76は楔形石器である。65は剥離の様相から楔形石器に含めるには躊躇を覚えるが、便宜的にここに掲載した。71は裏面の両端に調整が密になる。

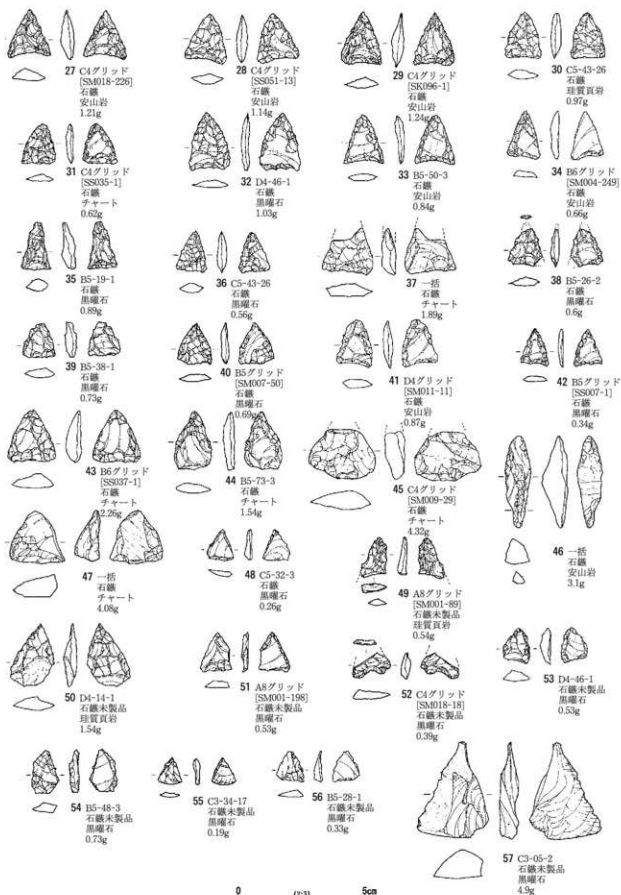
77～94は二次加工のある剥片である。82は石錐の未製品の可能性もあろう。94は楔形石器の未製品の可能性もあろう。

95は水晶の剥片である。表面左縁辺部のみに不純物が認められるが、全体としては透明感のある良質な石材である。

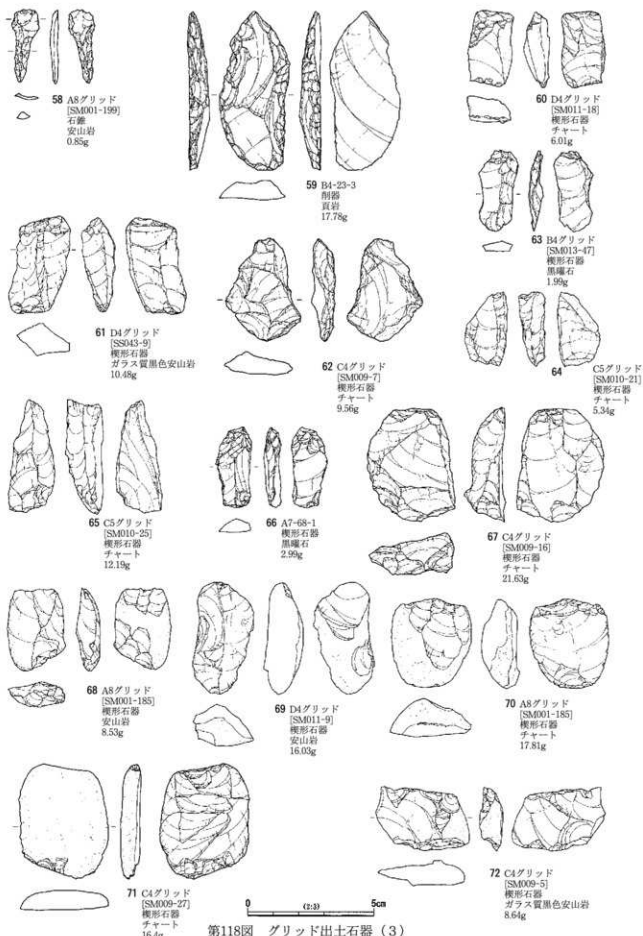
96～103は石製品で、縄文時代に属すると判断したものである。96は楕円形を呈し、断面は上部（穿孔部）でやや薄くなる形状の垂飾品である。主に裏面からの穿孔が卓越する。穿孔より上部は溝状にくぼんでいるが、これは使用に伴う摩擦によるものではなく、当初より溝状に研磨されていた可能性がある。頂部面を除く全面に線刻が認められるが、表面部の梯子状の線刻が卓越する。穿孔から下方にむかう線刻が太さ・深さともに卓越する。97は穿孔部の欠損により再び孔を穿ったものであろう。穿孔は表面側からが主体であり、表面・裏面は研磨等により光沢を帯びているが、両側面はあまり光沢を帯びていない。玉斧の範疇にはいるものであろうか。98は左上から右下方向への穿孔が失敗したと考えられる垂飾品である表裏面や側面の調整が甘いことから未製品である可能性が高い。99は側面外側からの穿孔が貫通し、側面内側からの穿孔が未貫通である。両端が欠損しているため詳細は不明であるが、扶状耳飾りの再利用の可能性も捨てきれない。100は白玉である。101は丸玉であろう。102は内外面両面から穿たれたふたつの孔の



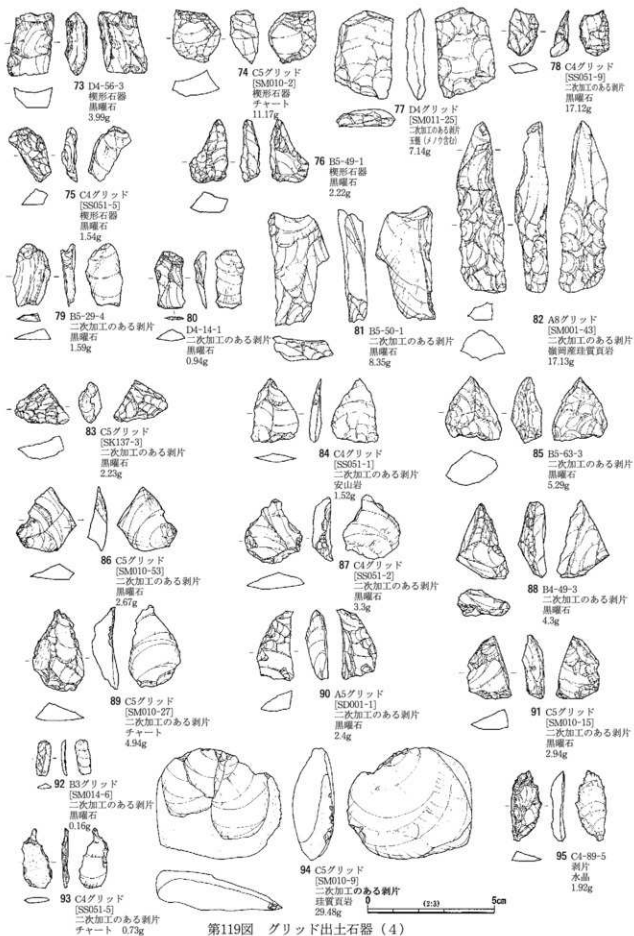
第116図 グリッド出土石器(1)



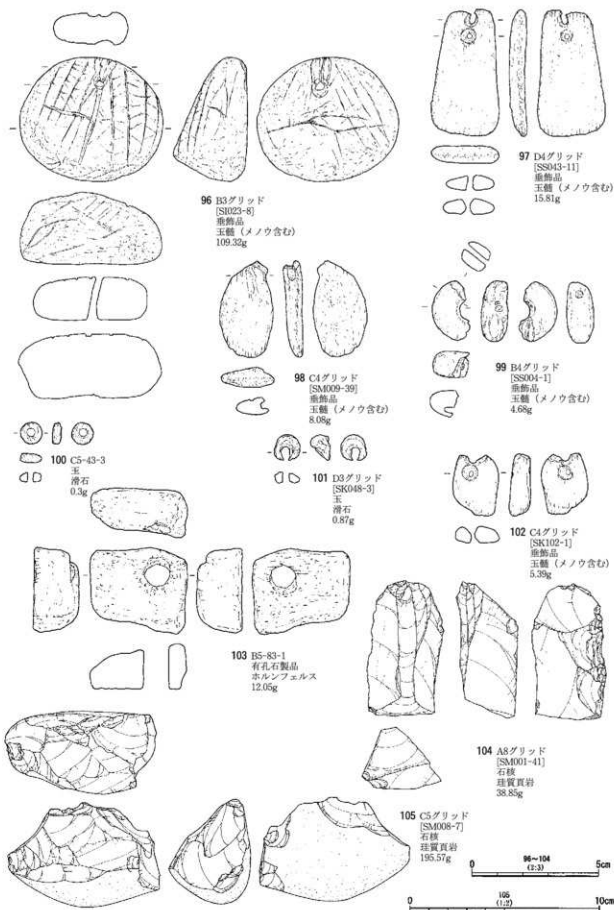
第117図 グリッド出土石器(2)



第118図 グリッド出土石器 (3)



第119図 グリッド出土石器(4)



第120図 グリッド出土石器 (5)

うち上側が欠損している左下側面部は欠損したと考えられるが、再研磨されており、他の面同様の光沢を放っている。102は縄文時代の設営の可能性があるSK102（第84図 図版34）からの出土である。103は表面の風化が著しく進行しており石材の詳細は不明である。肉眼ではホルンフェルスと判断したが、軽石の可能性も捨てきれない。欠損部位や使用時の面が残存しているか否かも不明であるので、有孔石製品としておきたい。

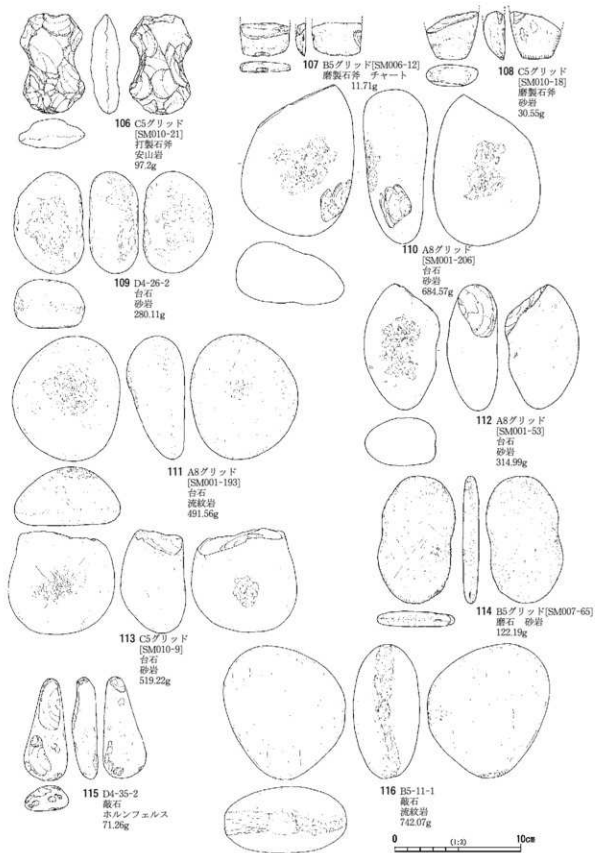
104・105は石核である。石材は嶺岡産とは断定できないものの県内産の可能性が高く、ともに石材としての質は良好である。106は打製石斧、107・108は磨製石斧である。107・108は弥生時代の所産である可能性が高く、本遺跡の弥生時代後期の集落に伴うものであった可能性が高い。107の刃部の剥離は後世の欠損かもしれない。

109～113は台石、114は磨石、115・116は敲石、117～119は凹石と捉えた。109は右側面にも弱いタタキが認められる。110は表裏面に強いタタキが認められるほか、側面に打痕が認められる。112は上部に剥離が加えられおり、極めて弱いタタキが認められるようでもあるが図示できるほどではない。114は表裏面ともによく研磨されている。縁辺部もミガキ風の使用が認められる。115は軽易な打痕が多く認められる。116は縁辺部に弱いタタキが認められる。117の表裏面には強いタタキが認められる。下方側面には人為的な線状の痕跡が認められるが、その形成要因は不明である。118は被熱により赤化した礫を用いている。端部は打ち欠かされているが、使用された形跡は認められない。裏面には極めて強い打痕が認められる。

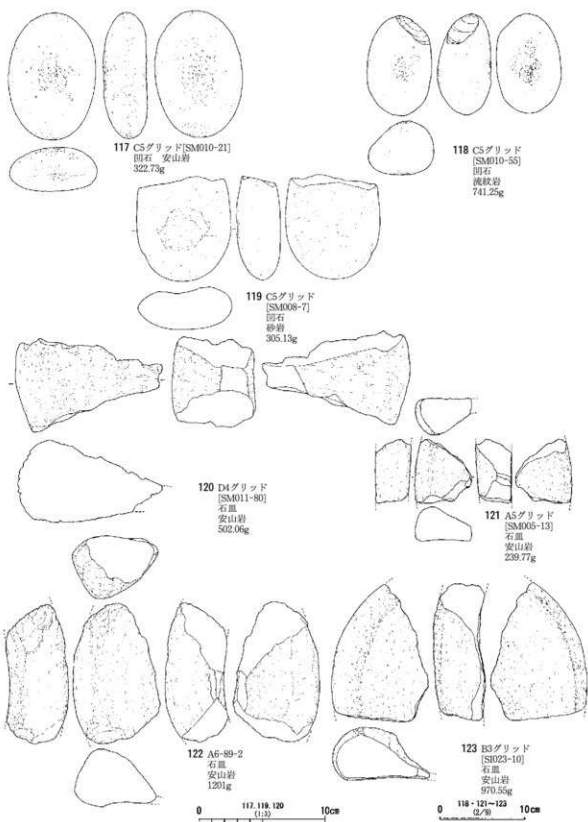
120～123は石皿で、120は石材に気泡が多いことから利用の状況は判然としにくい。121・123は磨り風の利用が顕著であるが、122はタタキ風の利用が顕著である。

124～266は礫石斧である。冒頭で述べたとおり、124～219はAユニット出土のもの、220～261はBユニット出土のもの、262～266はCユニット出土のものである。ユニット相互の礫石斧には量的な差異はあるものの、質的な差異を捉えるには至っていない。109～119に示した礫石器に認められるような複数回の利用は、礫石斧では顕著ではない。拳大前後の自然礫に複雑ではない敲打や剥離を加えたものが主体である。

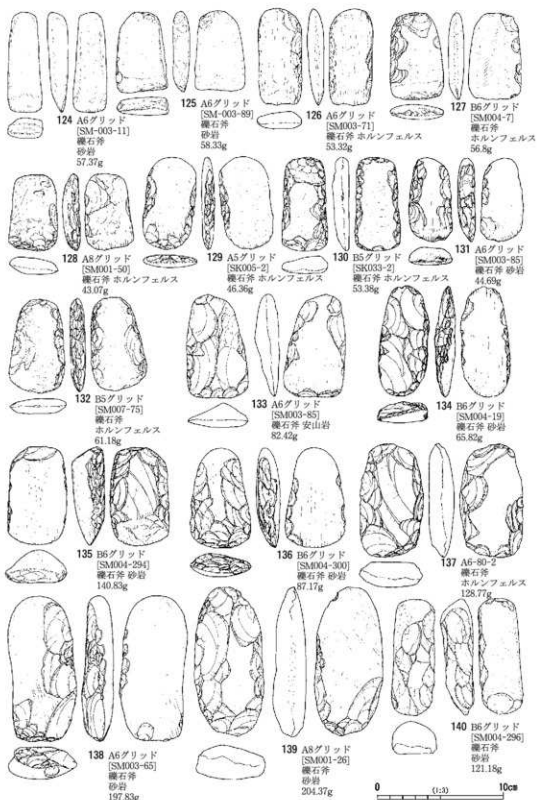
124～127は磨製石斧もしくは磨製石斧の再利用がなされた例外的なものであり、便宜的にここで扱うことにした。135の両側面は剥離が施されると同時に使用によるタタキも認められる。155は側面全面に剥離が加えられている。170・233のような上下両端に軽易な打撃が加えられたものについては石錘の可能性も捨てきれない。191は1回の打撃で端部を大きく打ち欠いているが、これが礫石器の製作に伴うものであるか否かは不明である。192・193・197・198は磨製石斧の再利用の可能性があろう。203～205のような小形で縁辺に剥離が認められるものについては礫石斧としての利用を想定しがたいが、便宜的にここに含めることにした。



第121図 グリッド出土石器(6)

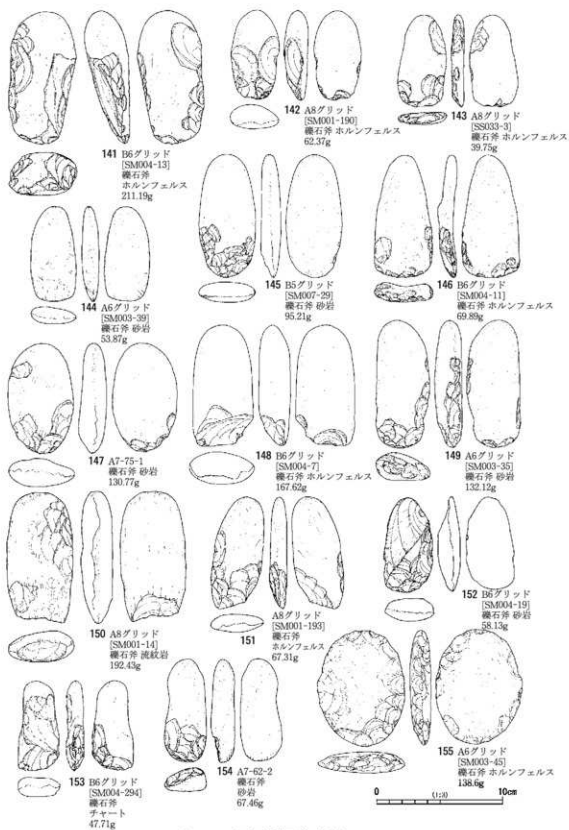


第122図 グリッド出土石器(7)



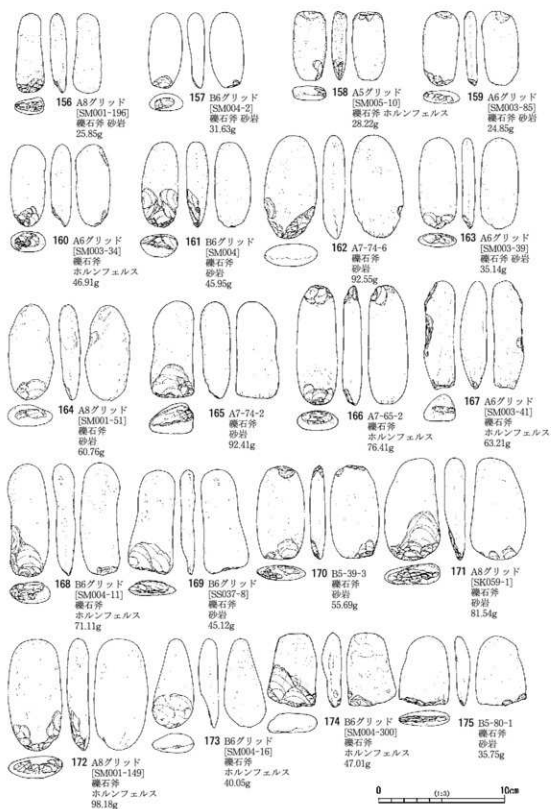
Aユニット出土礫石斧(1)

第123図 グリッド出土石器(8)



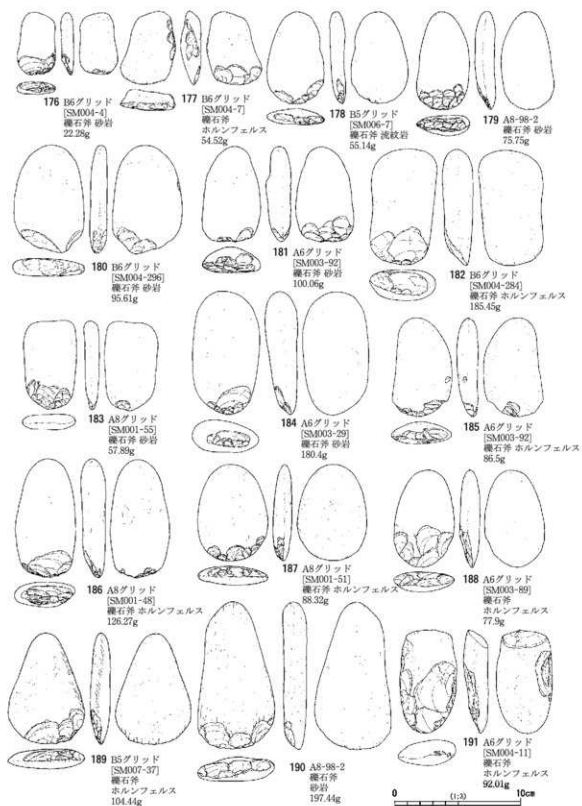
Aユニット出土礫石斧 (2)

第124図 グリッド出土石器 (9)



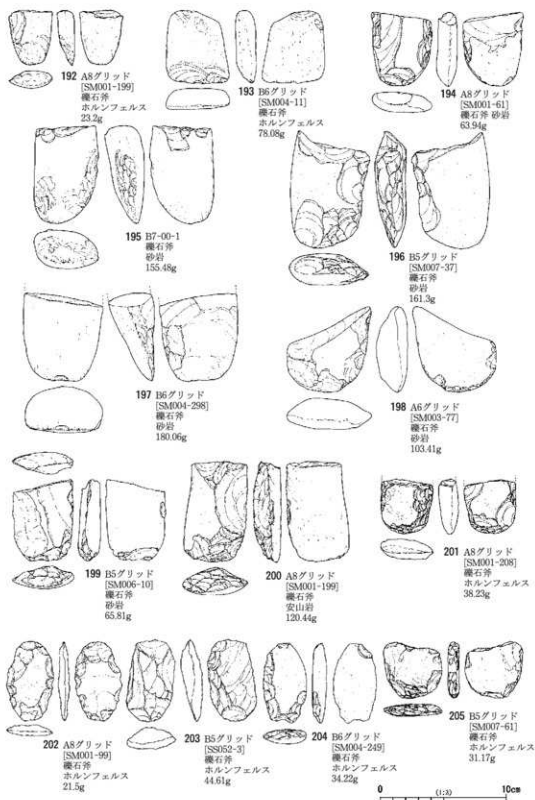
Aユニット出土礫石斧（3）

第125図 グリッド出土石器（10）



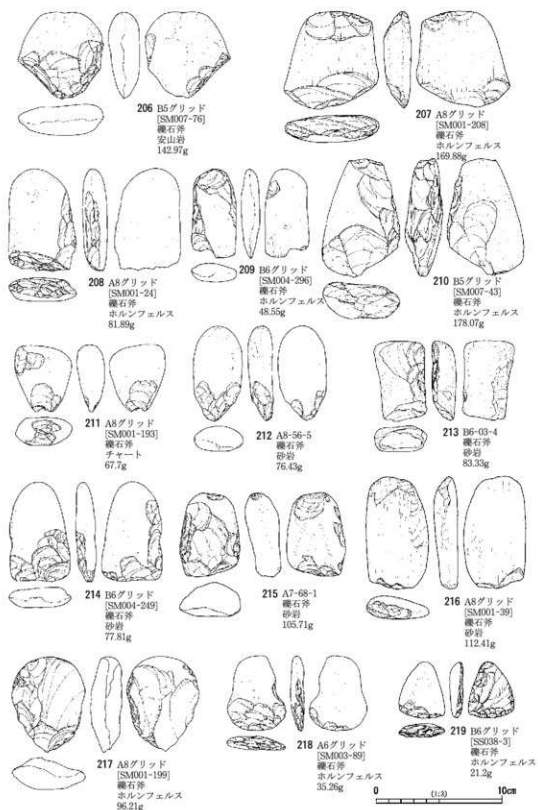
Aユニット出土礫石斧（4）

第126図 グリッド出土石器（11）



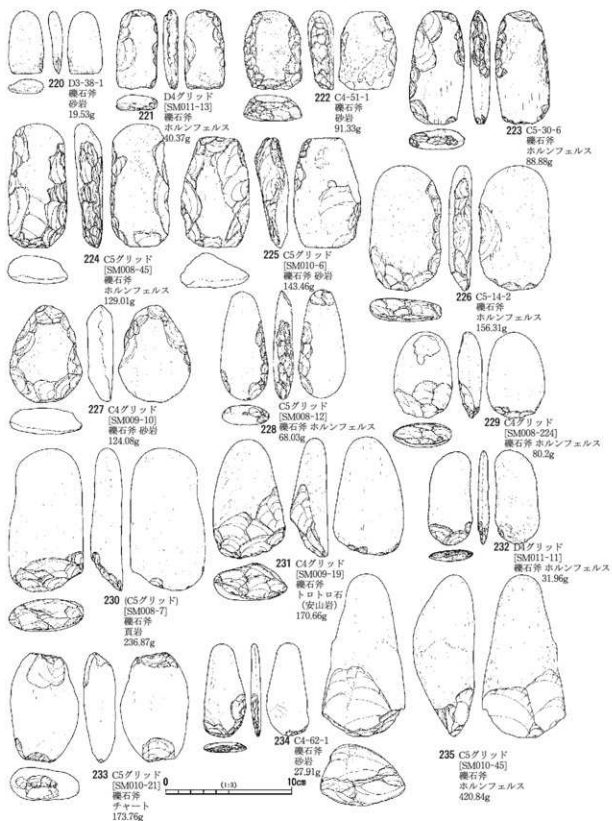
Aユニット出土礫石斧（5）

第127図 グリッド出土石器（12）



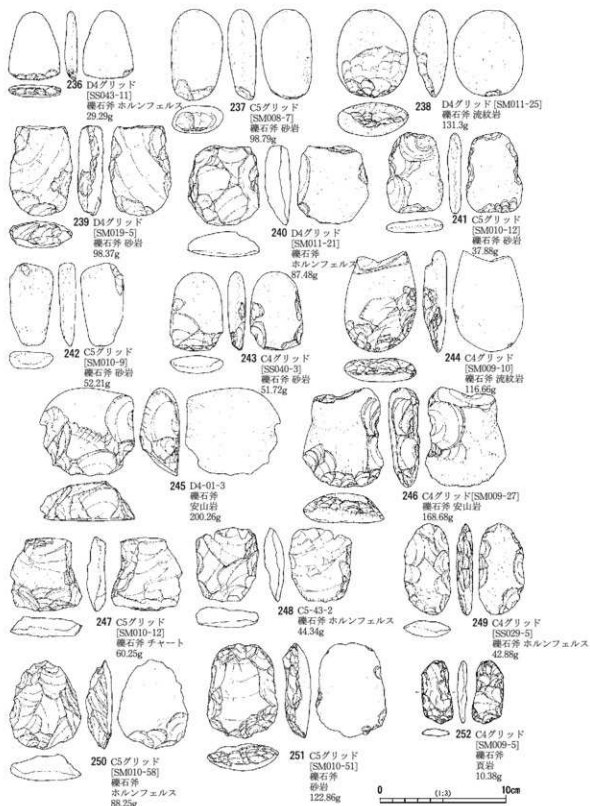
Aユニット出土礫石斧（6）

第128図 グリッド出土石器（13）



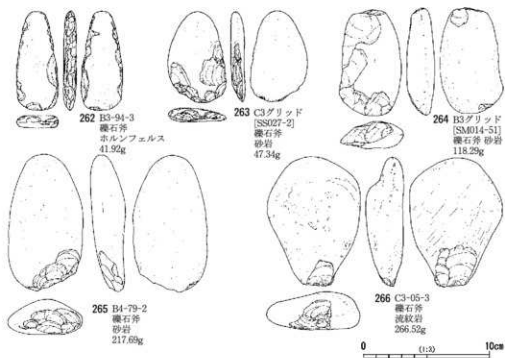
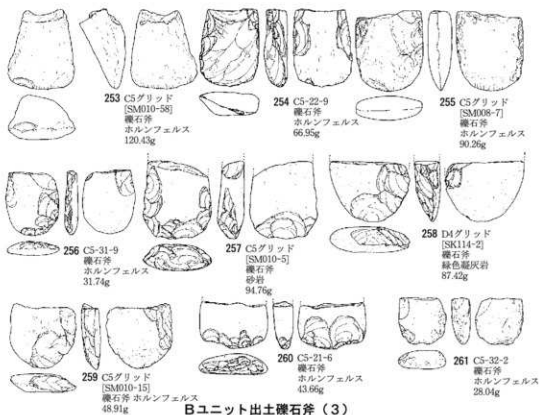
Bユニット出土礫石斧(1)

第129図 グリッド出土石器(14)



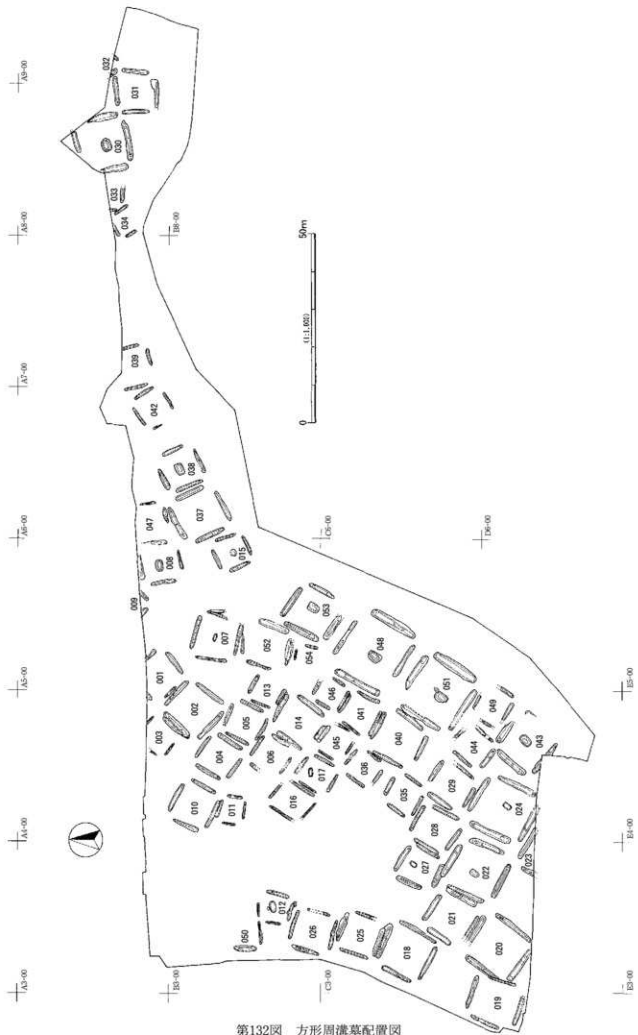
Bユニット出土礫石斧 (2)

第130図 グリッド出土石器 (15)



Cユニット出土燧石斧

第131図 グリッド出土石器 (16)



第132图 方形周溝墓配置図

第4節 弥生時代中期～古墳時代中期

1 概要

当該期の遺構には方形周溝墓、竪穴住居跡、土坑があるが、竪穴住居跡については弥生時代と古墳時代にまたがる時期の遺構も多く、分別することが不可能なので、この節でまとめて報告する。

2 遺構と出土遺物

(1) 方形周溝墓（第132図～199図、図版60～94・142～144）

本遺跡からは54基の方形周溝墓が検出された。いずれも四隅の周溝が切れた遺構であり、弥生時代中期の遺構の特徴を示している。遺物の出土は極端に少ないが、周溝内から転落した状態で土器が出土しており、それらの時期から周溝墓群が造営されたのは弥生時代中期後半（宮ノ台式期）と考えられる。

調査範囲の北西端を除いて広範囲に分布し、古墳群の分布とほぼ重なる。このうち5基は、古墳の墳丘盛土に覆われる形で方形周溝墓の盛土が部分的に遺存していた。

以下、遺構番号順に記載する。なお、現状の計測値は第30表に示したので参照されたい。

SS001（第133図、図版60）

調査区北端部のA5-91グリッドを中心としてみられる。墳丘全体と周溝の上部は削平され、周溝は四隅が大きく途切れている。北溝（a）と東溝（b）は調査区外に延びる。西溝（d）はSS002の北溝と近接する。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北10.2m、東西10.1mである。周溝の断面形状は逆台形である。東溝（b）には周溝内に17.5cmほど一段低い掘り込みがみられる。埋葬施設及び遺物は出土しなかった。

SS002（第134図、図版60・61）

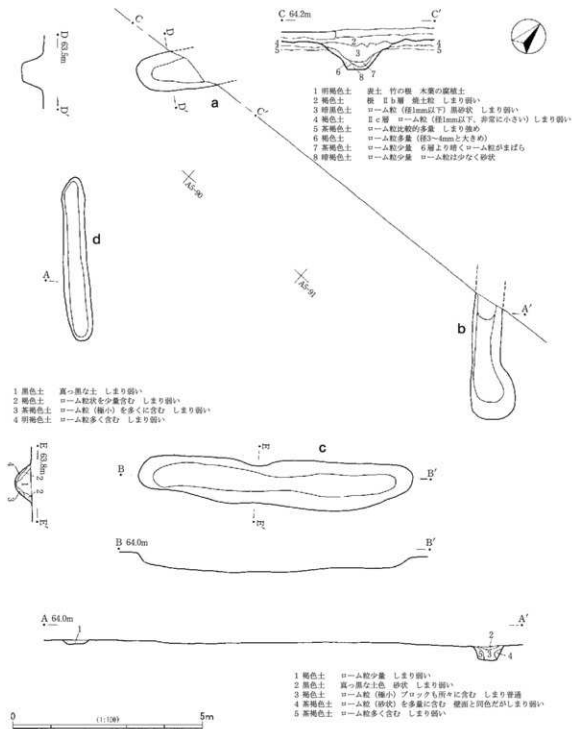
SS001の西溝に近接する。方墳SM013に切られ、SS003と縄文時代の竪穴住居跡SI001と土坑SK008を切る。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北12.22m、東西11.31mである。周溝の断面形状は鍋底状で端部が緩やかに上がるものが多い。底面はハードルーム直上でしっかりした層である。西溝はSS003の東周溝を切っている。北溝（a）には一段低い掘り込みが東西の2か所にみられ、さらに南・西溝（c・d）にも1か所があるが、いずれも4cm～6cmの浅いものである。西溝には直径0.4mのピットが2基みられる。深さは22cmと48cmである。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS003（第135図、図版61）

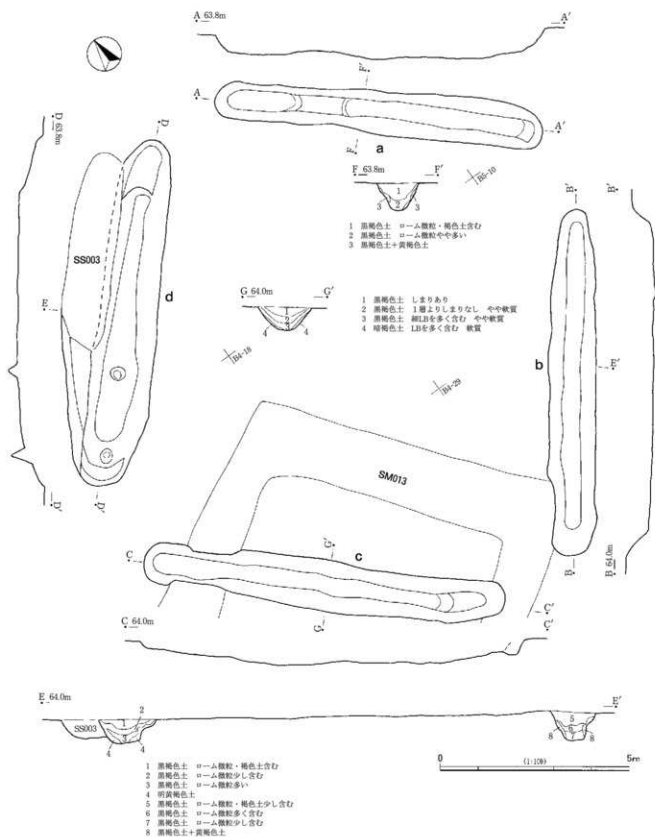
SS002の北西に所在し、東溝（b）はSS002の西周溝に切られる。北溝（a）と西溝（d）は北側調査区外に延びる。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北8.48m、東西8.32mである。西溝には攪乱が入る。南溝（c）と西溝は確認面からの深さが15cm前後で浅いが、北溝は32.5cm、東溝は63cmの深さを有する。東溝は中央部分に長さ3.28mの一段の掘り込みが存在する。上総地域の例ではこのような掘り込みに埋葬が行われており、本例もこの可能性が考えられる。遺物は検出できなかった。

SS004（第136図、図版61・62）

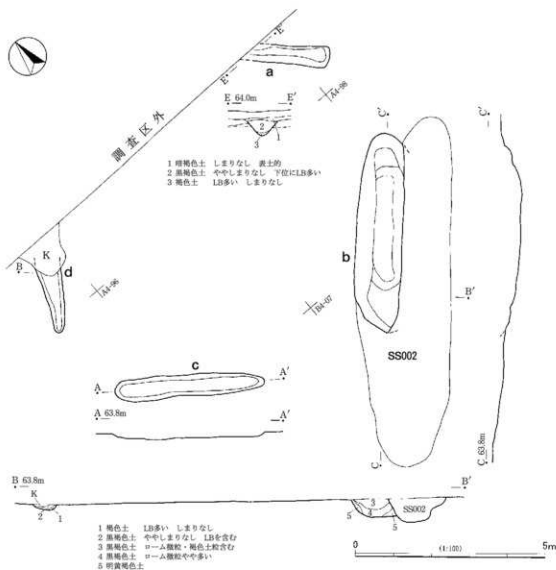
B4-25グリッドを中心存在し、SS002の南溝に近接してみられる。方墳SM013に切られる。底面はハードルームの直上でわかりやすかった。周溝の並びはやや菱形に近い方形である。墳丘規模（周溝内側



第133図 SS001



第134図 SS002

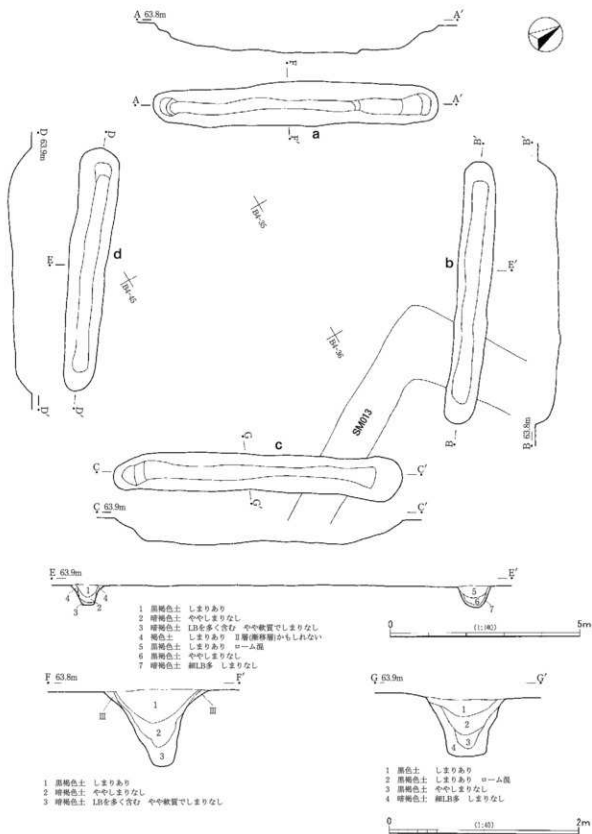


第135図 SS003

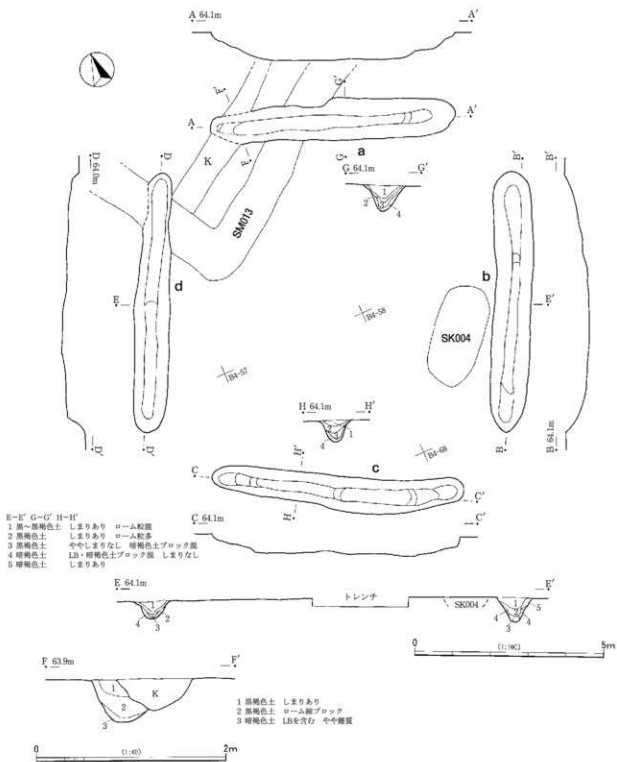
下端間)は南北9.40m、東西9.82mである。北溝(a)には東西に段差があり、南溝(c)には西側に段差がある。掘り込みはしっかりしており、断面形は逆台形を基本とし、V字形の部分もみられる。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS005 (第137図、図版62)

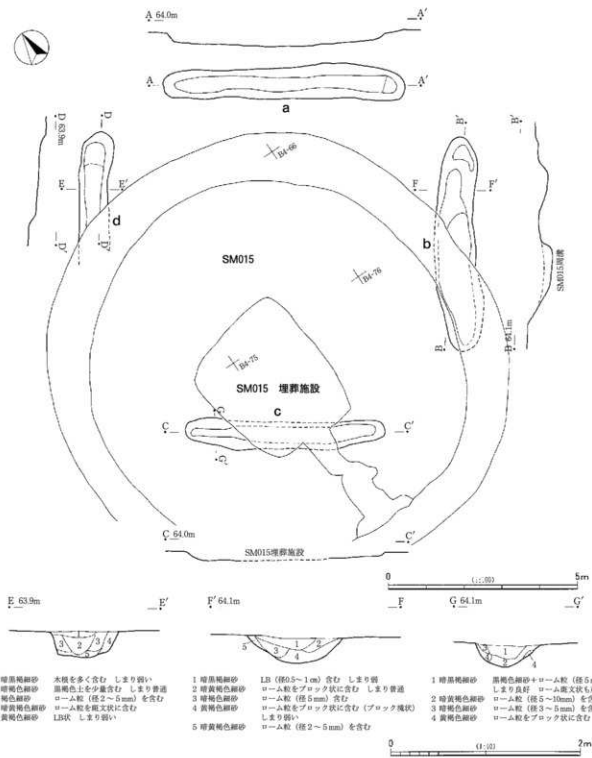
SS004の東周溝と近接してみられ、方墳SM013と時期不明の溝に切られ、縄文時代の土坑SK004・SK031を切る。墳丘規模は南北が9.49m、東西が9.32mである。北溝(a)と東溝(b)には段差がある。南溝(c)には一段低い掘り込みがある。掘り込みの長さは2.20m、深さは9cmである。窪み状であるため、埋葬施設の可能性は低いと考えられる。周溝の断面はU字状である。遺物は検出できなかった。



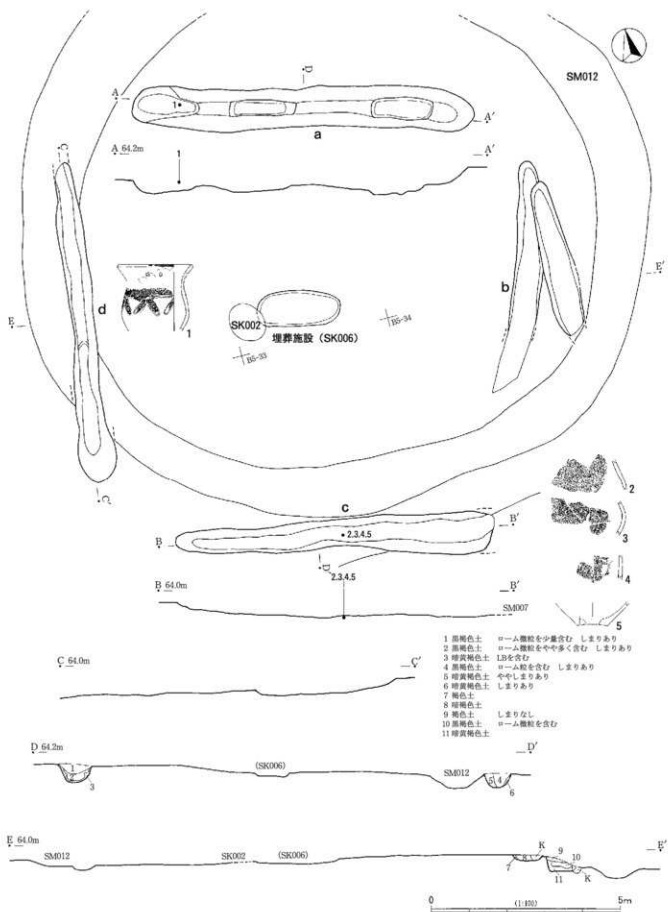
第136図 SS004



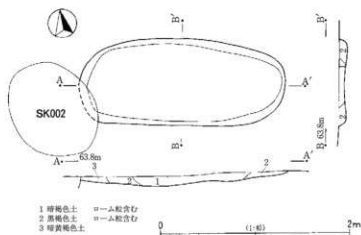
第137図 SS005



第138図 SS006



第139図 SS007



第140図 SS007埋葬施設 (SK006)

SS006 (第138図、図版62・63)

SS005の南溝に近接して存在する。円墳SM015の墳丘にかかっており、南溝(c)はSM015の埋葬施設に切られ、東溝(b)と西溝(d)は古墳の周溝によって過半が破壊されており、西溝については全体の姿の把握はできなかった。

墳丘規模は南北が8.70m、東西が9.10mである。周溝の断面は逆台形と皿状の部分があった。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS007 (第139・140・196図、図版63・142)

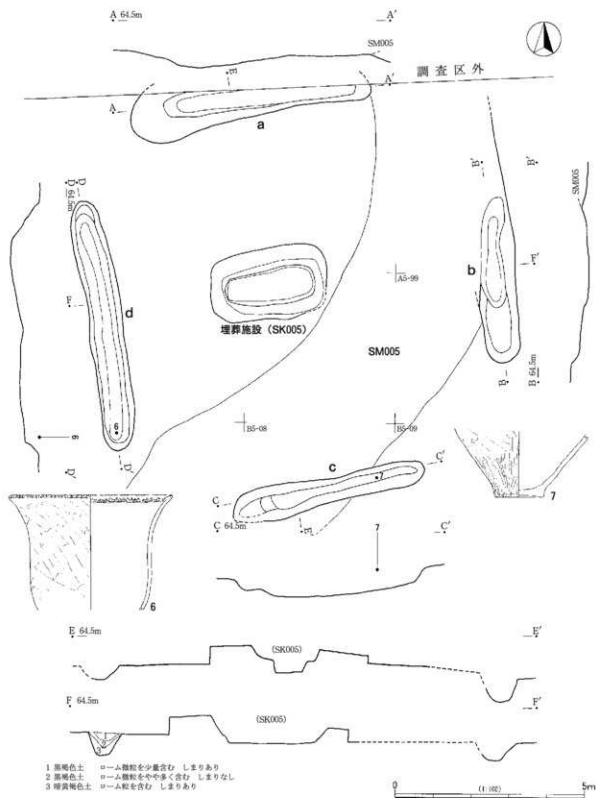
B5-23グリッドを中心とする区域にあり、東溝(b)・西溝(d)は円墳SM012の周溝によって切られ、南溝(c)は円墳SM007の周溝によって切られる。墳丘規模は南北が10.95m、東西が11.3mである。東溝を検出中に東溝の右にさらに周溝を検出した。やや広がり気味であるが、この溝は調査所見によると、東溝と覆土が同様であり、一連の周溝として捉えられている。北溝内には、3か所に一段低い掘り込みがある。長さは西側の掘り込みが1.65mで、中央が1.77m、東側が1.62mであり、深さはそれぞれ15.5cm、16cm、13cmである。溝の断面形は鍋底状であり、東周溝の東に寄り添ってみられる溝の断面形は逆台形である。西側の掘り込みの覆土中から弥生土器の広口壺(第196図1)が出土した。西溝には中央付近に段差が存在する。南溝の中央付近の底面からは甕等(第196図2～5)がまとまって出土した。遺物の記載については、方形周溝墓の大半が削平されており、遺物の出土が少量のため、後でまとめて記載する。

方形周溝墓の中央に埋葬施設(SK006)がみられる(第140図)。SM012の旧表土を除去後に検出しており、西壁の一部は縄文時代の土坑SK002と重複する。平面形状は楕円形であり、規模は主長軸2.21m、幅0.92mであり、確認面からの深さは8cm～9cmである。底面は若干の凹凸がある。主軸方位はN-79°-Wである。遺物は検出できなかった。

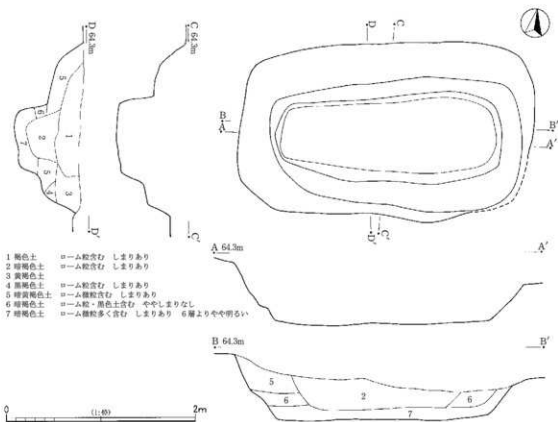
SS008 (第141・142・196図、図版63・142)

調査区中央の北壁沿いのA5-98グリッドを中心とする区域に所在する。円墳SM005の周溝により、北溝(a)・東溝(b)・南溝(c)と埋葬施設(SK005)が切られる。北溝は調査区外に延びる。墳丘規模は南北が10.2m、東西が10.0mである。南溝・西溝はSM005の調査後に検出し、北溝・東溝は古墳墳丘下の旧表土除去後に検出した。なお、埋葬施設は旧表土除去後に検出したため、南・西周溝よりも検出レベルが高くなっている。

東溝の中央付近に1段の掘り込みがみられ、規模は長軸2.92mで、幅については削平されているので0.6m以上と認識される。溝の土層断面の形状は鍋底状を呈し、土層はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。南溝と西溝の覆土層から甍片(第196図6・7)が出土している。



第141図 SS008



第142図 SS008埋葬施設 (SK005)

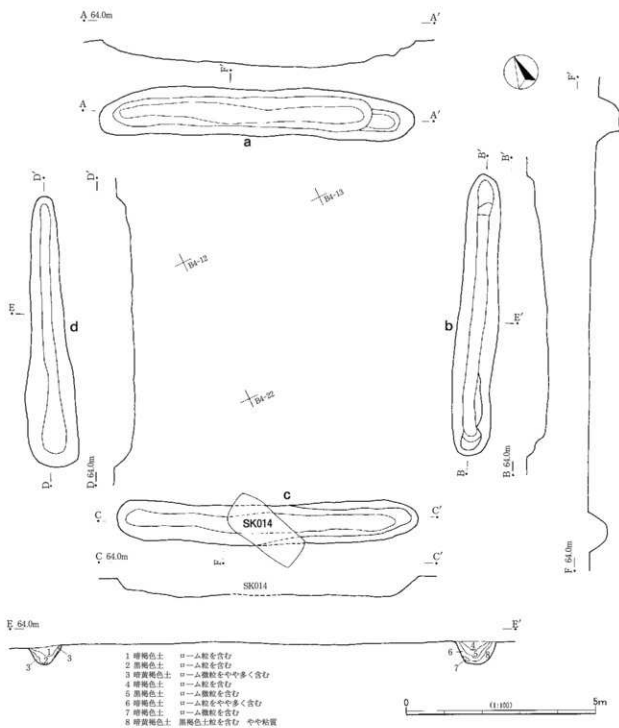
方形周溝墓のほぼ中央に埋葬施設 (SK005) がある (第142図)。2段掘りとなっており、木棺直葬と考えられる。掘り方は長軸3.10m、幅1.96m、深さ36cmの隅丸長方形である。棺痕跡は長軸2.40m、幅0.92mの長方形で、掘り方底面からの深さは最深部で36cmである。いずれも底面はほぼ平坦である。軸方位はN-81°-Eである。覆土は大部分がしまりのある層となっていたが、これについては上に古墳の墳丘があったためと考えられる。遺物は検出できなかった。

SS009 (第143図、図版63)

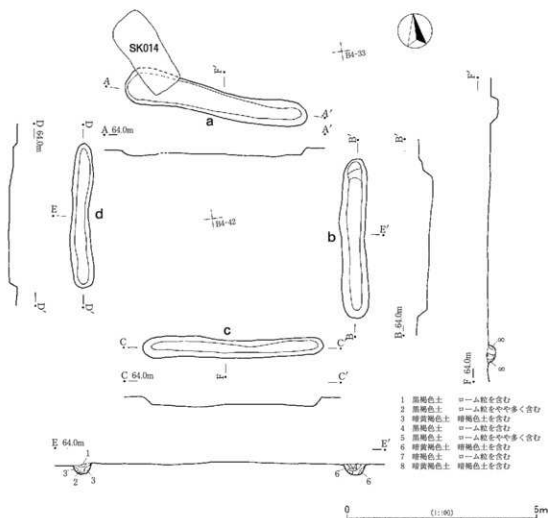
SS008の3m西に位置し、大部分が調査区外の北側に延びる。南溝と西溝の1/3程度が検出され、南溝は段差を有する。周溝の断面形状は逆台形であり、覆土は自然堆積であった。南溝の深さは、表土下115cmである。遺物は認められなかった。

SS010 (第144図、図版63)

調査区北西端のB4-12グリッド周辺にあり、南溝 (c) は、SS011の北溝と接する。墳丘規模は南北が10.4m、東西が11.7mで、平面形は整った方形を呈する。北溝 (a) と東溝 (b) に段差を有する。南溝は弥生時代後期の土坑SK014に切られる。断面形は逆台形の部分と鍋底状の部分があり、覆土は自然堆積の様相を示している。埋葬施設と遺物は検出できなかった。



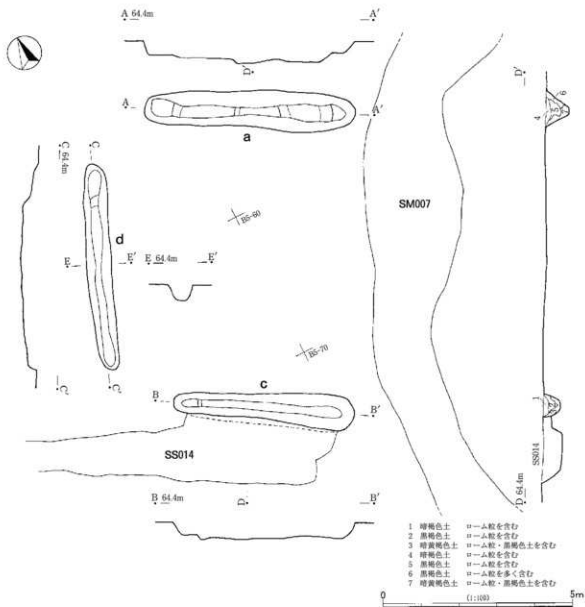
第144図 SS010



第145図 SS011

SS014 (第148・196図、図版65・142)

SS013の南溝に北溝（a）が切れ、南溝（c）はSS045の北溝に切られる。さらに西溝（d）は円墳SM015の周溝に切られる。墳丘域内には縄文時代の土坑SK030がみられる。平面形は北溝のみやや開いた形状であり、SS012と同様な形状である。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北11.7m、東西10.2mである。北・東・西溝はほぼ同一であるが、南溝のみ残存の周溝の長さが4.04mと短い。ほかの溝の形状は、東溝はほぼ同様な幅の溝であるが、北溝と西溝は先端の幅が一方が広くなっており、北溝の東部にはさらに北に延びる張り出しがみられる。張り出し部は確認面からの深さが23cmであり、覆土はSS014と同一である。この溝には段差が3か所あり、さらに西部には長軸の規模が1.98mの浅い掘り込みがある。なお、東部の底面には焼土が散布していた。東溝（b）には南北の階沿いに1か所ずつの段差があり、底面はほぼ平坦である。南溝には西側の段差部に焼土がみられ、中央部に長軸1.55mで深さ20cm前後の掘り込みがある。西溝には掘り込みが北側と南側の2か所に存在する。溝の断面形状は丸味を帯びた逆台形及びU字形である。遺物は東溝の北側段差部から壺（第196図9）が出土した。

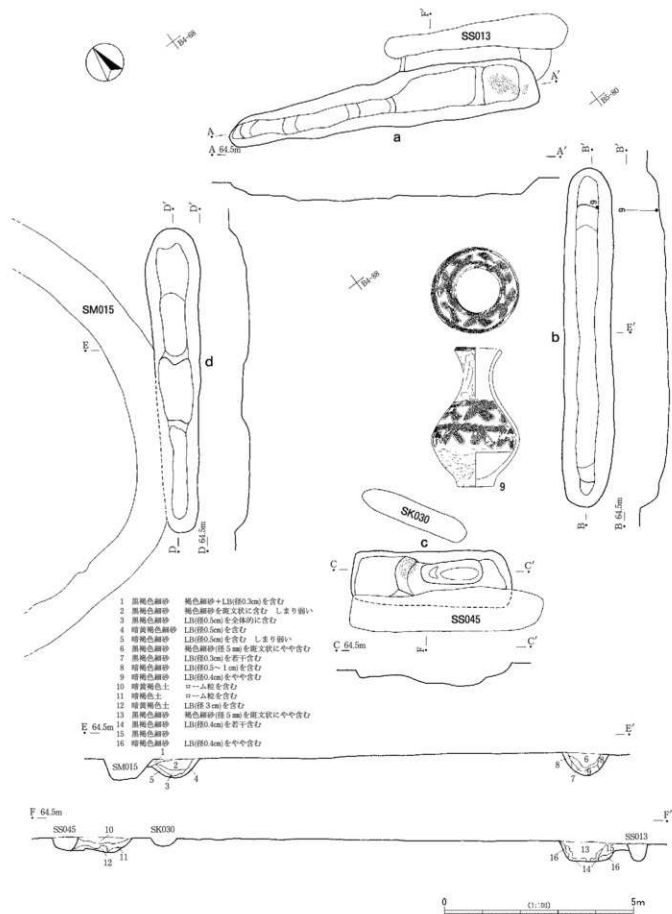


第147図 SS013

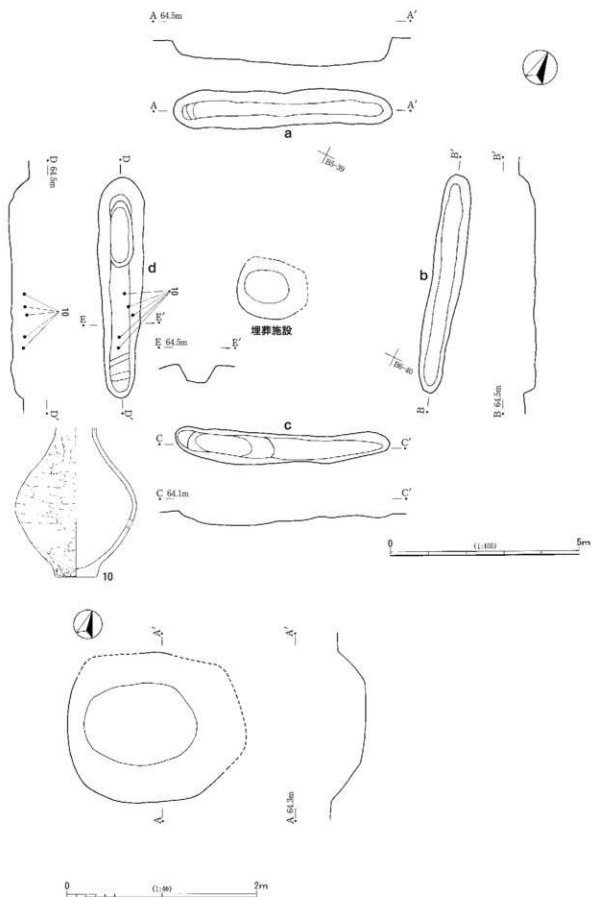
SS015 (第149・197図, 図版65・142)

調査区の中央北側にあり、B5-38グリッドが中心グリッドである。遺構は円墳SM006の直下にあった。墳丘下には旧表土が残存し、さらにその上に方形周溝墓の墳丘と考えられるものが残存していた。本遺構の盛土及び周溝の土層断面については、SM006の平面・土層断面図(第261図)を参照されたい。方形周溝墓の墳丘はSM006の土層断面の第4・9・11層であり、最も厚い部分で50cmの盛土が存在する。これらの層は褐色若しくは暗褐色の細粒で、5mm程度のロームブロックが含まれる土であった。

周溝については、旧表土面を掘り込んで構築されており、非常に良好な遺存状態であると判断できる。古墳の土層断面でみられる周溝の深さは80cmに達している。これは本遺跡における方形周溝墓群の周溝の本来の深さを示しているものとして認識される。周溝の土層は、3層に区分できる部分や、一度に埋め戻されたと考えられる1層のみの部分がある。周溝の断面形態は丸味を帯びた逆台形及びU字形である。



第148図 SS014



第149图 SS015・SS015埋葬施設

平面形は東溝（b）のみやや開いた形状であり、周溝の形状はほぼ同様である。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北8.58m、東西8.10mである。北溝（a）には西側に一段の段があり、南溝（c）には西側に長軸2.28mの掘り込みがある。西溝（d）には南側に溝状の掘り込みがみられ、北側に長軸1.75mの掘り込みがある。西溝の覆土上層部分で壺（第197図10）を検出した。

埋葬施設は方形周溝墓のほぼ中央から1基を検出した。形状は隅丸方形であり、東側の点線で表した部分は、SM006の土層断面の調査箇所にあたり、不明となった部分である。覆土はローム質の褐色細砂をブロック状を含む単一層であり、周溝墓盛土を構成すると考えられる層と同質である。規模は長軸が推定で1.85m、幅1.57m、深さは41cmである。埋葬施設からは遺物は出土しなかった。

SS016（第150図、図版66）

B4-72を中心とするグリッドに所在する。円墳SM014の周溝に南溝（c）・西溝（d）を切られ、円墳SM015の周溝に北溝（a）・東溝（b）が切られる。平面形はやや方形が崩れている。溝の形状についてはほぼ同様である。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北9.70m、東西8.12mである。東溝に段差がみられるほかは平坦である。周溝の断面形状は舟底状である。覆土は自然堆積と考えられる。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

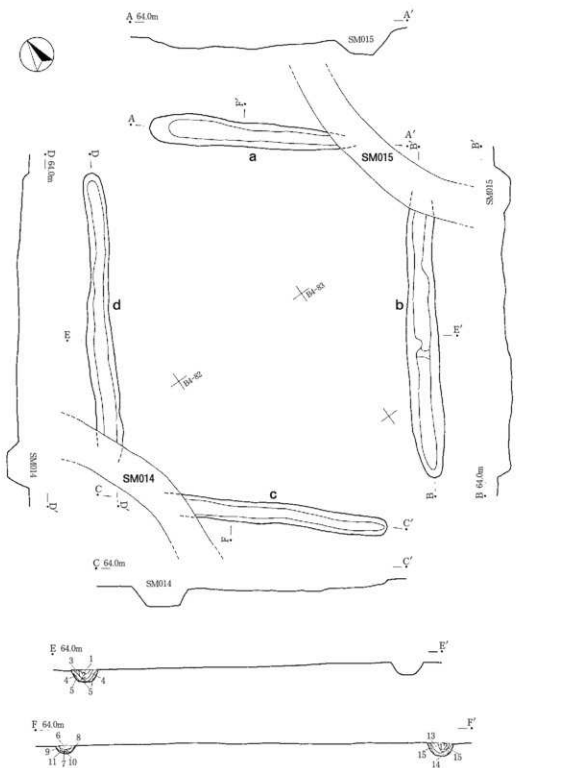
SS017（第151図、図版66・67）

B4-94を中心とするグリッドに所在し、SS016の東溝と本遺構の西溝がほぼ同様な角度で近接してみられる。北溝（a）は円墳SM015の周溝によって切られ、東溝（b）は縄文時代陪穴のSK075を切る。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北9.0m、東西8.1mである。周溝はほぼ方形に並び、西溝（d）の平面形はやや細身の形状である。北溝を除く溝には掘り込みがあり、それらの長軸の長さは東溝が4.67m、南溝（c）3.90m、西溝4.50mであり、深さは10cm～15cmである。周溝の覆土は自然堆積と考えられ、周溝の断面は丸味を帯びた逆台形及び舟底状、U字形である。

埋葬施設（SK043）は中央のやや北寄りにある。周溝と軸方位が異なり、主軸方位はN-87°-Eで、周溝の方位と54°の開きがある。平面形は隅丸の長方形であり、規模は長軸が2.36m、幅が1.10mである。確認面から底面までの深さは20cmであり、底面には凹凸がみられ、1基のピットがある。ピットは長軸0.44mで、深さは49cmである。埋葬施設の覆土は上層が黒褐色土で、1mm程度のローム粒が混入する層である。遺物は出土しなかった。

SS018（第152図、図版66・67）

調査区の西際にあり、斜面部に一部かかって存在する。中心となるグリッドはC3-32である。近世の道跡に北溝（a）と南溝（c）が切られ、北溝がSS025に切られる。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北12.1m、東西12.32mで、比較的大型である。周溝はほぼ方形に並び、北溝のみ周溝の幅が広い。北溝には西側と東側の2か所に掘り込みが認められ、西側の掘り込みは長軸2.4m、深さは15cm前後で、しっかりと掘り込みである。東側は長軸3.0mであり、深さは10cm程度である。西溝には段差と掘り込みがあり、掘り込みは長軸1.30mで深さは20cm～25cmである。南溝は東西に段差を有する。東溝には2段の段差がみられる。周溝の断面形はU字形及び緩やかな逆台形で上端が逆「ハ」の字形に開く形状である。周溝

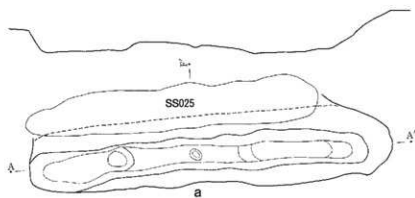


- 1 黒褐色土 根を多く含む しまり強い
- 2 黒褐色土 根を多く含む しまり強い 1層より暗い色調
- 3 暗褐色土 ロームがシルト状になっている しまり普通
- 4 暗褐色土 ローム粒が塊状 しまり普通
- 5 黄褐色土 ローム粒・褐色土を含む
- 6 黒褐色土 根を多く含む しまり強い
- 7 暗褐色土 ローム粒径1mm以下を含む しまり普通
- 8 暗褐色土 ローム粒が塊状 しまり普通
- 9 暗褐色土 7層よりローム粒を多く含む しまりあり 3層に類似
- 10 暗褐色土 ローム粒を含む しまり普通 5層と類似
- 11 黄褐色土 LBを含む しまり普通
- 12 黒褐色土 根を多く含む しまり強い
- 13 暗褐色土 根を多く含む しまり普通 12層より明るい色調
- 14 暗褐色土 ローム粒が塊状 しまり普通
- 15 黄褐色土 LB状 しまり普通

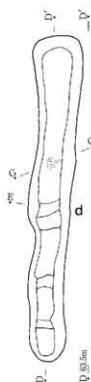
第150図 SS016

A 63.5m

A'



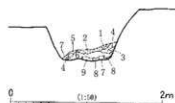
a



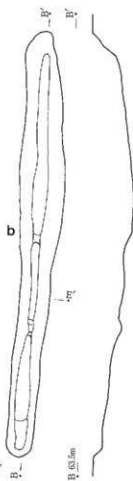
Q 63.5m

d

G 63.5m



- 1 瓦片
- 2 暗褐色細砂 雜土 木炭片を少量に含む
- 3 暗褐色細砂 LB(径0.2~0.3mm)を含む
- 4 暗褐色細砂 LB(径0.2mm)を少量含む
- 5 暗褐色細砂 雜土(フック径0.5cm)を含む
- 6 暗褐色細砂 LB(径0.5~1mm)を含む
- 7 暗褐色細砂 LB(径1mm)を中量 雜土粒(径2mm)を少量含む
- 8 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)を含む
- 9 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)を含む



P 63.5m

b

F 63.5m

F 63.5m

- 1 暗褐色細砂 〓ムを縦文状に含む
- 2 暗褐色細砂 LB(径0.2~0.4mm)を若干含む
- 3 暗褐色細砂 〓ムを縦文状に含む しまり細い
- 4 暗褐色細砂 LB(径0.5~1mm)を含む
- 5 暗褐色細砂 暗褐色土を縦文状に含む
- 6 暗褐色土 〓ム粒(径1mm)を少量含む
- 7 暗褐色土 〓ム粒(径1mm)を縦文状に含む
- 8 暗褐色土 〓ム粒(径1~5mm)を少量含む
- 9 暗褐色土 LBを多く含む
- 10 暗褐色土 〓ム粒(径1~5mm)を少量含む
- 11 暗褐色土 〓ム粒を含む

0 5m

第152図 SS018

の覆土は自然堆積を示す部分もあるが、西溝中央部の土層断面のように焼土やロームブロックが混入するなど、人為的な堆積の部分が認められる。遺物は検出されなかった。

SS019 (第153図、図版67・68)

調査区の南西隅の斜面際に所在する。中心となるグリッドはD2-19である。近世の道跡に切られ、東溝(b)はSS020の西溝を切って存在する。墳丘域内には縄文時代の土坑SK123・SK124がみられる。なお、この遺構は調査の都合上2回に分けて調査を実施したため、全体写真については西溝(d)が写っていない。

周溝は方形に並ぶが、南溝(c)の位置が南側に間延びしており、墳丘規模(周溝内側下端間)は南北12.9m、東西11.48mである。周溝は東溝のみやや細身の形状であり、北溝(a)には東西の2か所に掘り込みがあり、西側は端部からならだかに掘り込まれ、長軸は2.98mであり、深さは13cm前後である。東側は長軸2.50mで、深さは15cm前後である。東溝と西溝の底面は凹凸があり、南溝の底面は段差があり、東から南に向かって緩やかに下がる。

なお、本遺構の各周溝の底面の標高はかなり異なっている。とくにSS019の西溝と東溝の底面の標高差は1.0mに達する。これについては西溝が斜面部にあり、地形に合わせて西溝自体を低い標高で造っていることに起因しているものと考えられる。周溝の断面形態はU字形や緩やかな逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS020 (第154図、図版68)

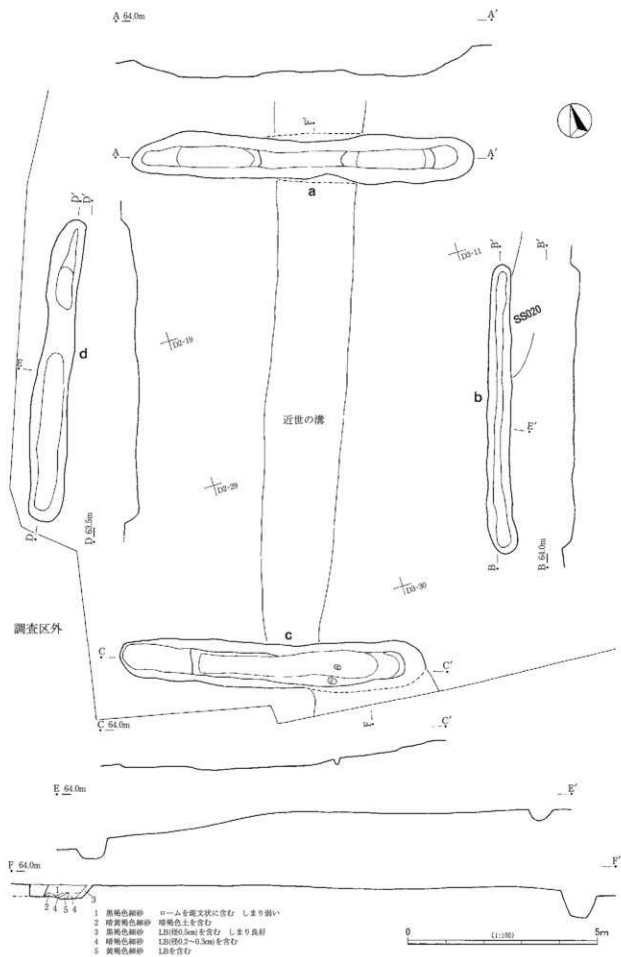
SS019の東に位置し、西溝(d)がSS019の東溝によって切られる。北溝(a)の西側部分には攪乱が入る。周溝は方形に配列され、墳丘規模(周溝内側下端間)は南北12.9m、東西13.90mで、大型の方形周溝墓である。北溝と東溝(b)には段差があり、南溝(c)には段差と窪みがある。西溝には北側に長軸5.18mの掘り込みがあり、深さは18cmである。軸方位はN-37°-Eである。周溝の断面形は整った逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS021 (第155図、図版68・69)

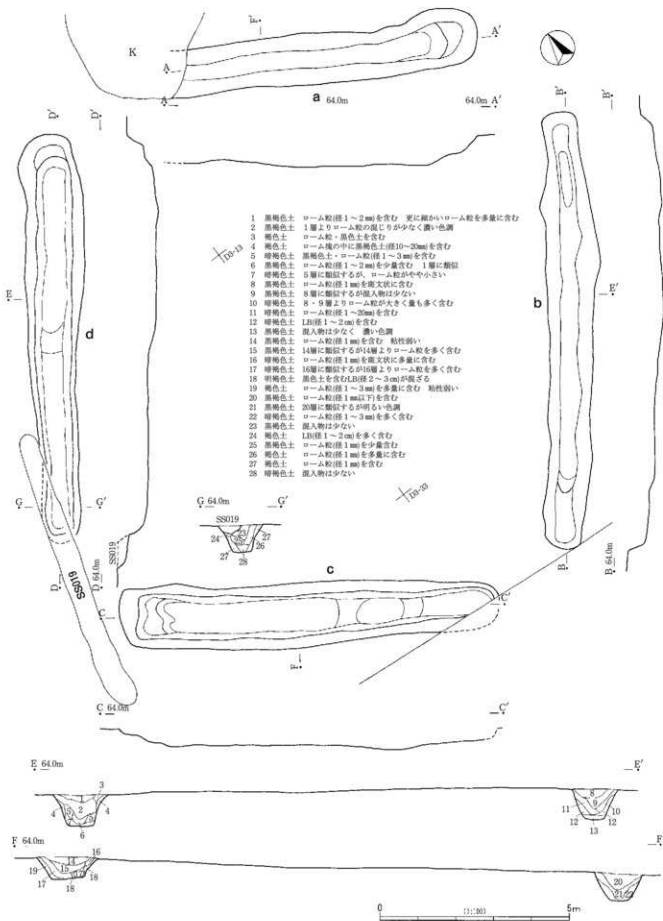
SS020の北溝と本遺構の南溝(c)が近接の位置に並行してみられ、東溝(b)はSS022の西溝に切られる。南溝(c)の西側部分に攪乱が入る。周溝は方形に配置され、南溝のみ形状がやや細めである。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北11.03m、東西11.05mであり、軸方位はN-32°-Eである。北溝(a)には東西に段差がある。東溝はSS022と重複していたため、北側部分を若干掘りすぎており、点線で表した部分が遺構の範囲と推定される。北側に掘り込みがあり、長軸長は2.98mで、深さは11cmである。南溝・西溝の底面は平坦である。周溝の断面形は緩やかな逆台形である。埋葬施設及び遺物は出土しなかった。

SS022 (第156・157図、図版69・70・142)

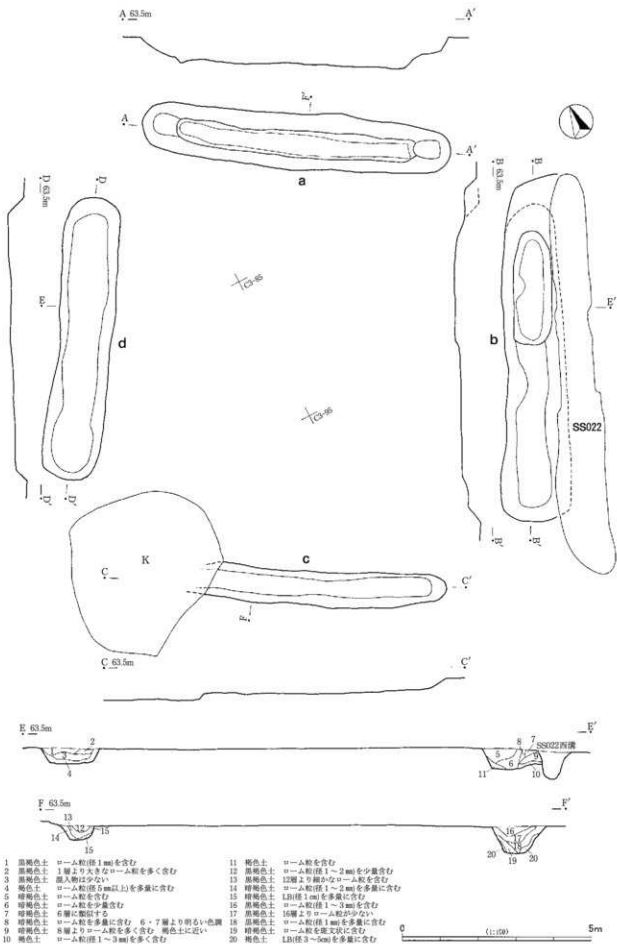
SS021の東溝を本遺構の西溝(d)が切り、SS027の南溝を本遺構の北溝(a)が切っている。周溝は方形に配置され、ほぼ同様な平面形態である。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北13.37m、東西13.3mで



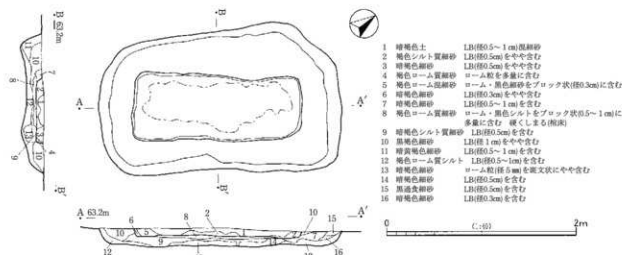
第153図 SS019



第154図 SS020



第155図 SS021



第157図 SS022埋葬施設 (SK047)

あり、大型の方形周溝墓である。軸方位は $N-27^{\circ}-E$ である。墳丘域内に縄文時代の土坑SK046がある。北溝(a)は東西端に段差があり、中央部には深さが10cm前後の浅い掘り込みがみられる。規模は長軸5.33mであり、底面からは甕(第197図11)の破片がまとまって出土しており、埋葬施設である可能性も考えられる。東溝(b)には段差があり、北側に長軸2.20mで、深さ10cm前後の浅い掘り込みがある。南溝には両端に段差がみられる。周溝の断面形は丸味を有する逆台形の形状の部分が多いが、西溝のようにU字形の部分もみられた。

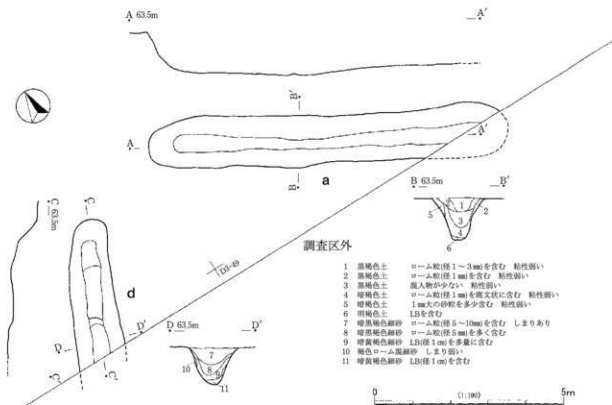
方台部から埋葬施設1基が検出された。素掘りの土坑(SK047)で、木棺直葬と考えられる。遺構確認時から掘り方と木棺痕跡の境が明瞭に識別でき、黒褐色シルト質細砂で囲まれた中央部に暗褐色でロームブロックが含まれる土が長方形にみられた。掘り方の平面形態は隅丸方形で北西部のみやや突出する形状であり、長軸は2.57m、幅1.45mで、確認面からの深さは20cm前後である。棺痕跡は長軸1.78mで、幅は0.7mであり、掘り方底面よりも底面は10cm前後上にある。棺痕跡の底面は硬くしまっていた。なお、埋葬施設の主軸方位は $N-35^{\circ}-E$ であり、周溝と軸が 8° ほど異なる。遺物は検出できなかった。

SS023 (第158図、図版70)

調査区の際際にあり、D3-38・39グリッド、D4-30グリッドにかけてみられる。遺構の大半が調査範囲外に延びており、北溝(a)と西溝(d)の一部を検出したのみである。北溝の底面は中央部に凸面がある以外は平坦であり、西溝には段差がみられる。軸方位は $N-28^{\circ}-E$ である。周溝の断面形はU字形である。埋葬施設及び遺物は検出されなかった。

SS024 (第159・160図、図版70)

SS023の北溝と並行して本遺構の南溝(c)がみられる。円墳SM011に東溝(b)が切られ、方墳SM019に東溝及び南溝が切られる。南溝の東側は調査範囲外に延びる。周溝は方形に配置され、ほぼ同様な平面形態である。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北14.60m、東西13.32mであり、大型の方形周溝墓である。軸方位は $N-27^{\circ}-E$ である。東溝と南溝には段差がみられ、西溝(d)には北端に段差があり、



第158図 SS023

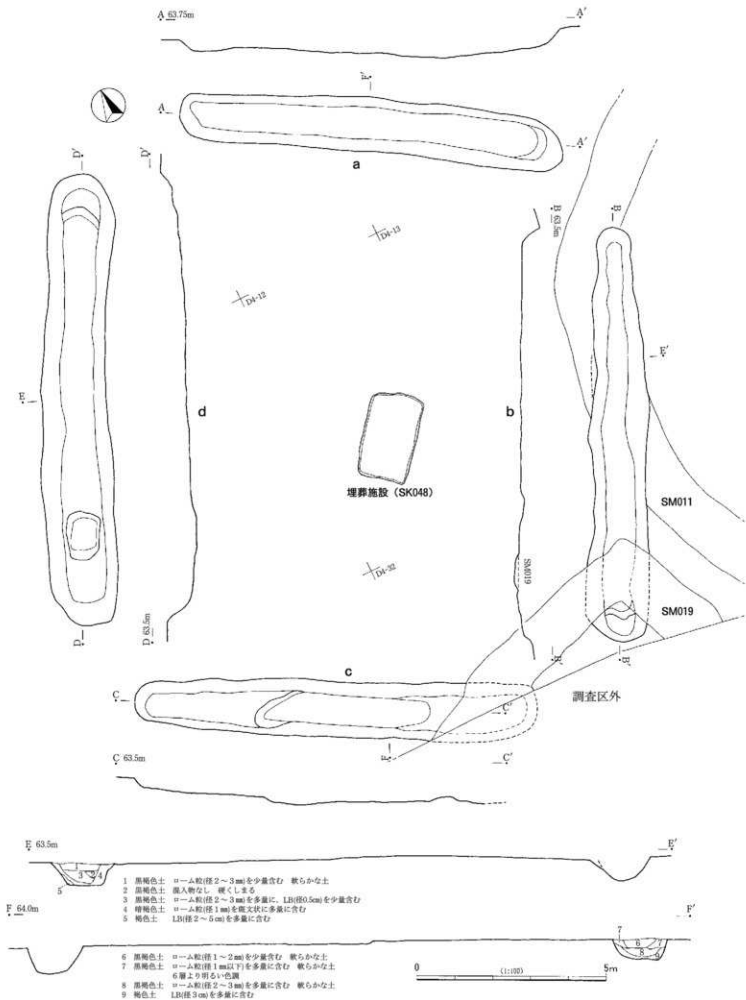
南側には方形で規模が長軸1.15m、幅0.90mの掘り込みがみられる。ただし掘り込みの深さは9cmであり、積極的に周溝埋葬施設とする根拠は見出せなかった。周溝の断面形態は丸味を有する逆台形と舟底状であり、覆土の上層は黒褐色土で柔らかかな土の箇所が多いが、一部に硬くしまっている部分があった。

方台部から埋葬施設(SK048)1基を検出した(第160図)。ほぼ中央にあり、規模は長軸2.30m、幅1.38mで、隅丸長方形の形状である。深さは7cm前後であり、ほとんど基底部のみの残存である。主軸方位はN-35°-Eであり、周溝と8°の差がある。埋葬施設の中央部には擾乱が入るが、それ以外の底面は平坦であり、黒褐色シルトブロックによる硬化面が存在した。覆土は黒褐色シルトを中心とした層である。遺物は検出されなかった。

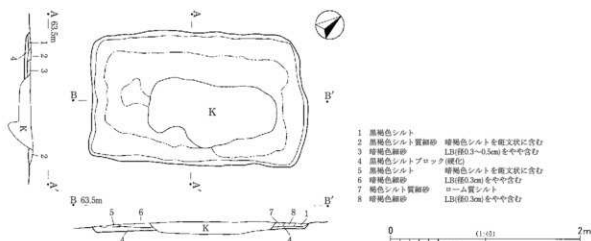
SS025 (第161・197図、図版71・142)

調査区の西端の斜面際に位置し、C3-23グリッドを中心とする区域に所在する。近世の道跡に切れ、東溝(b)は土坑SK049と重複する。SS018の北溝を本遺構の南溝(c)が切っている。方台部に縄文時代の土坑SK106がある。

周溝は方形に配置され、形状は東溝・西溝(d)が細身であり、北溝(a)・南溝は上端の幅が広い。なお、南溝はSS018との重複により、南側の上端が不明となっている。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北10.0m、東西10.2mである。軸方位はN-21°-Eである。東溝には中央部に掘り込みがみられ、長軸1.81mで深さは最深部で22cmである。なお、周溝は北溝・南溝の最深部が標高61.8m程度、西溝が61.6mなのに対し、東溝は62.3mであり、東溝が高い。西溝は周溝自体の規模もやや短く貧弱である。周溝の断



第159図 SS024



第160図 SS024埋葬施設 (SK048)

面形状は北溝・南溝の下半部は逆台形及び舟底状で上半部が逆「ハ」の字状に開く形態である。東溝・西溝はU字形に近い形状である。遺物は南溝の覆土上層から鉢(第197図12)の口縁部が出土した。埋葬施設は検出できなかった。

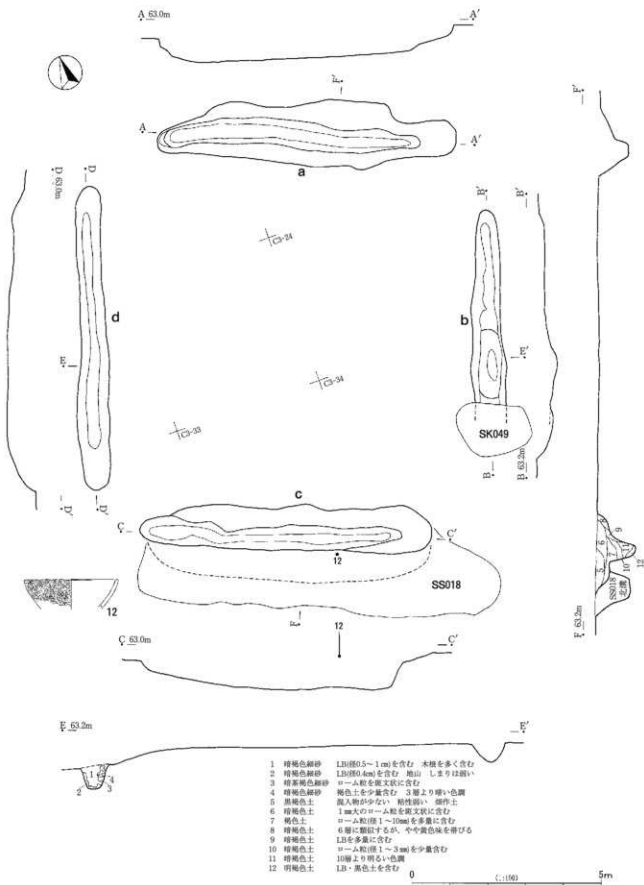
SS026 (第162図、図版71)

調査区の西端の斜面際に位置し、SS025の北溝と本遺構の南溝(c)が並行してみられる。近世の道跡に切れ、方台部内に縄文時代の土坑SK040がある。西溝(d)は斜面部にかかる。周溝は方形に配置されるが、南溝(c)の平面形はやや蛇行した形状である。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北10.13m、東西10.14mである。軸方位はN-20°-Eである。東溝(b)の中央部には擾乱が入る。北溝(a)は段差を有しながら底面が西側に傾斜し、西側はほぼ平坦となっている。南溝は底面が緩やかに西に傾斜する。西溝には掘り込みがみられる。傾斜する地形の上に構築されたためか、東溝と南溝は浅く、北溝と西溝が深く掘り込まれている。東溝の最深部は標高62.47mで、西溝の最深部は61.11mであり、1.36mも深さの差異がある。周溝の断面形は東溝が皿状であり、ほかは丸味を有する逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

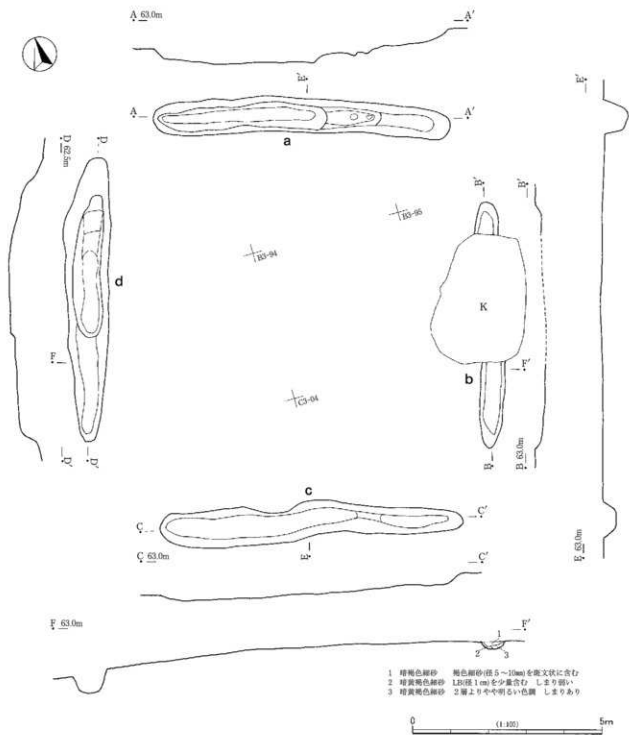
SS027 (第163図、図版72)

調査区西部のC3-68を中心とするグリッドにあり、東溝(b)はSS028の西溝を切り、南溝(c)はSS022の北溝に切られる。周溝は方形に配置される。周溝の平面形は、南溝がやや幅が広い。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北9.73m、東西9.23mである。軸方位はN-30°-Eである。北溝(a)には両端に段差があり、東溝にも段差がみられ、北側~中央部が深くなっている。南溝は長軸の断面形が舟底状であり、西溝には北側に段差がみられる。断面形は丸味を持つ逆台形の形状や、「V」字形に近い部分、舟底状の部分があり、一定した掘り方ではない。周溝の覆土の上層部分は暗褐色土で混入の少ない層であり、硬くしまっていた。下層はローム粒が含まれる土であった。

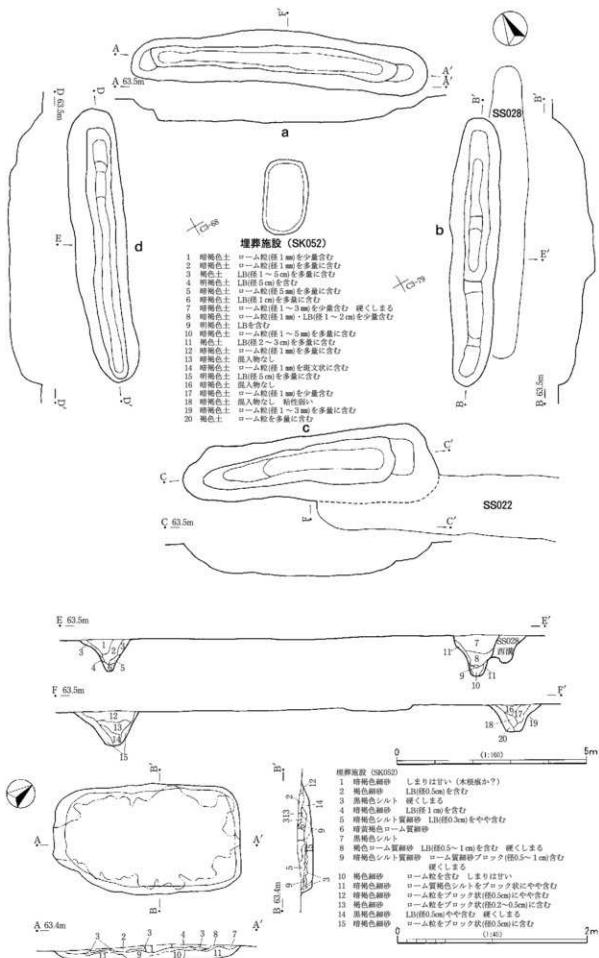
方台部の中央北寄りに埋葬施設(SK052)を検出した。素掘りの施設であり、長軸2.10mで、幅は1.18



第161図 SS025



第162図 SS026



第163図 SS027・SS022埋葬施設 (SK052)

m、深さ16cmである。底面は平坦であり、覆土中層の幅広い範囲に硬い面がみられた。主軸方位はN-31°-Eである。なお、遺構検出時には、西側に沿って長さ1.6mで、幅0.5m~0.6mのやや不整な長方形のプランがみられた。この部分が棺痕跡の可能性が高いと判断して調査を行い精査したが、確証は得られなかった。遺物は検出できなかった。

SS028 (第164図、図版72・73)

SS027の東溝に本遺構の西溝(d)が切られる。なだらかな緩斜面に立地する。周溝は南溝(c)がやや開いてみられる。周溝の平面形状はほぼ同様である。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北10.70m、東西9.55mである。軸方位はN-31°-Eであり、SS027とほぼ同様である。北溝(a)には東側に段差があり、西側に長軸3.27mで深さ12cmの掘り込みがある。東溝(b)には中央部に段差がある。南溝(c)にも段差があり、西溝には南側に長軸3.20mで、深さ23cmの掘り込みがある。断面の形状は丸味を有する逆台形やU字形である。土層は北・東・南溝は上層が黒褐色土でしまりの弱い層であり、自然堆積の層と考えられる。西溝は暗褐色でロームを多く含む層があり、SS027の築造時に埋め戻された土と判断される。埋葬施設及び遺物は検出されなかった。

SS029 (第165図、図版72・73)

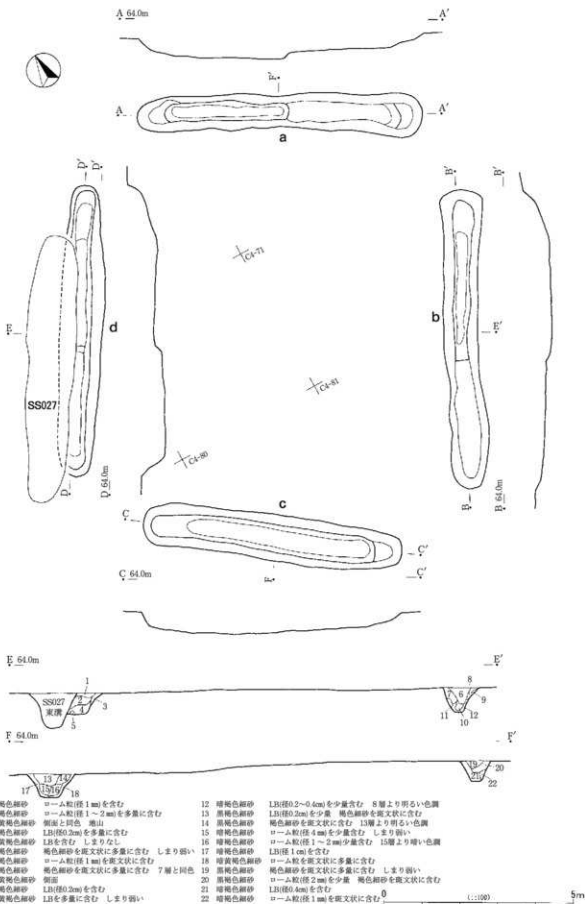
SS028の東溝と本遺構の西溝(d)が近接してみられ、なだらかな緩斜面に立地する。北溝(a)の西端と東溝(b)の北端を円墳SM019の周溝によって切られる。周溝はほぼ方形に並び、平面形は東溝がほかの溝と比較して細身である。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北10.60m、東西9.64mである。軸方位はN-35°-Eである。北溝には東側になだらかな掘り込みがある。東溝には南側に段差があり、南溝には緩やかな段差がある。断面の形状は皿状や鍋底状であり、覆土上層はロームの混入が少ないが、下層はローム粒・ロームブロックが多く含まれている。埋葬施設及び遺物は検出されなかった。

SS030 (第166・167・197図、図版74・142)

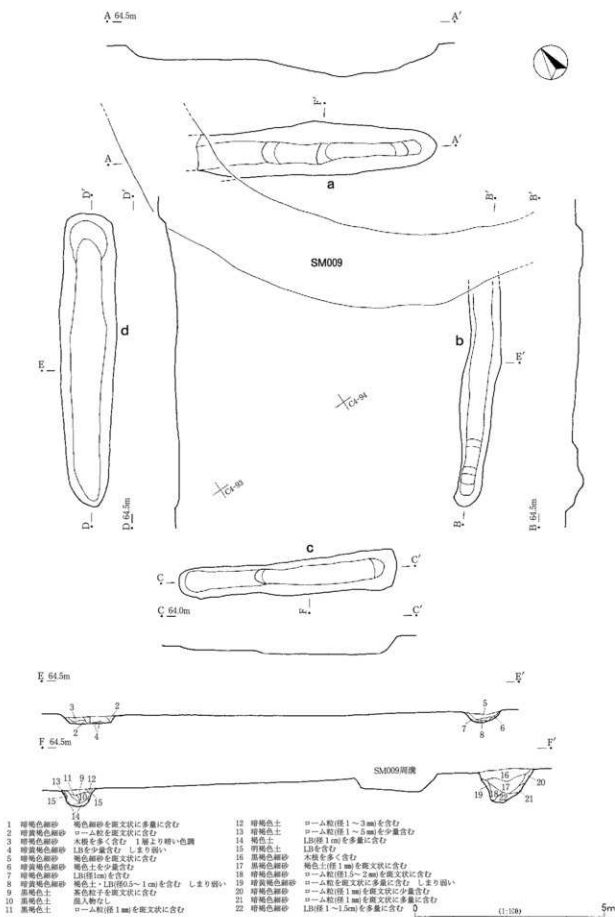
調査区の東部の先端部に立地し、中心となるグリッドはA8-55である。円墳SM001の墳丘に方台部の大半の範囲が含まれており、墳丘高3.0mを有する墳丘に覆われていたため、SS030の墳丘の盛土が一部残存していた。

本遺構の盛土の土層断面については、SM001の平面・土層断面図(第235図)を参照されたい。方形周溝墓の墳丘はSM001の土層断面の斜線を引いた層であり、最も厚い部分で50cmの盛土が存在する。主体となる層は2層に分かれ、上層が黒褐色細砂でロームブロック(5mm)をやや含む層であり、下層が黄褐色ローム質細砂でロームブロック(1cm~2cm)を多く含む層であった。なお、方形周溝墓の墳丘の土は土層断面では識別できたが、平面的には難しかった。南東部の比較的良好な形で検出した部分では、周溝の上場から1m前後離れて墳丘が形成されていた。この層の下には弥生時代の整地層がみられた。厚さ50cm~60cmでほぼ水平に整地されており、部分的に鋤溝が残る部分も存在した。

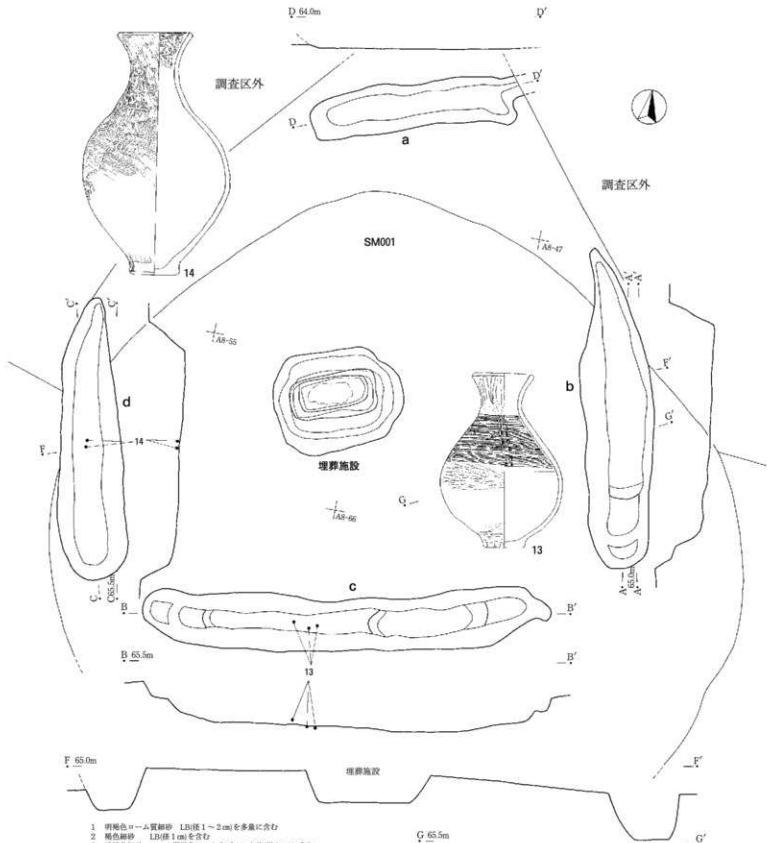
周溝については、整地層を掘り込んで構築され、非常に良好の遺存状態であると判断できる。古墳の土層断面でみられる周溝の深さは80cmである。周溝の土層は、第116図の下段にみられるように11層に細かく層序が分かれる部分もあるが、3層に区分できる部分や、一度に埋め戻されたと考えられる1層のみの



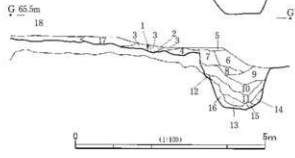
第164図 SS028



第165図 SS029



- 1 明褐色ローム質細砂 LB(径1~2cm)を多数を含む
- 2 褐色細砂 LB(径1cm)を含む
- 3 暗褐色細砂 ローム質褐色シルトをブロック状(径1cm)を含む
- 4 暗褐色細砂 ローム質褐色シルトブロック状(径1cm)にやや含む
- 5 暗褐色細砂 LB(径1cm)を含む SM001底土
- 6 黒褐色細砂 褐色細砂を斑文状にやや含む
- 7 暗褐色細砂 ローム質褐色シルトをブロック状(径1cm)を含む
- 8 暗褐色細砂 LB(径0.3cm)をやや含む
- 9 暗褐色細砂 LB(径0.3cm)をやや含む
- 10 暗褐色細砂 LB(径0.3cm)・ローム質褐色シルト(径0.5~1cm)を含む
- 11 黒褐色細砂 LB(径0.3cm)をやや含む
- 12 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)を含む
- 13 暗褐色細砂 LB(径0.3cm)・褐色ローム質細砂をやや含む
- 14 暗褐色細砂 LB(径1cm)を含む
- 15 黒褐色細砂 LB(径0.3cm)をやや含む
- 16 暗褐色細砂 LB(径0.3~0.5cm)を含む
- 17 明褐色ローム質細砂 1層に層状する
- 18 褐色細砂 LB(径0.5~2cm)を含む



第166図 SS030

部分がある。周溝の断面形態は丸味を帯びた逆台形及びU字形である。

北溝（a）の東側は調査区外に伸びており、東溝（b）と西溝（d）の北側は古墳の周溝によって壊されている。方台部内には古墳の埋葬施設及び縄文時代の竪穴住居跡S1022と縄文時代の土坑SK066がある。北溝はほかの溝よりも外側に開いている。

墳丘規模（周溝内側下端間）は大型であり、南北12.98m、東西13.35mである。軸方位はN-14°-Wである。北溝は南溝と比較すると短く、東端部は幅が狭くなっている。ただし、SM001の周溝による削平のため、底面付近のみの残存であるので当初よりも長さが短くなっていると考えられる。底面は平坦である。東溝は南端に段差がみられる。南溝は若干形状が内反りであり、東端部は幅が狭い形態である。西側に段差があり、東側には長軸3.14mの規模で、深さが5cm～8cmの浅い掘り込みがみられる。西溝は底面はほぼ平坦である。

遺物は南溝の中央部と西溝の中央部の底面から出土しており、いずれも壺（第197図13・14）である。

埋葬施設（第167図）は方台部の中央南寄りに存在し、大型の掘り方を有する。段掘りの土坑で木棺直葬と考えられる。前述のように墳丘盛土の下から検出しており、遺存度は良好である。掘り方の断面形は上部が逆「ハ」の字状に開き、下部は平坦で立ち上がり丸味を有する。

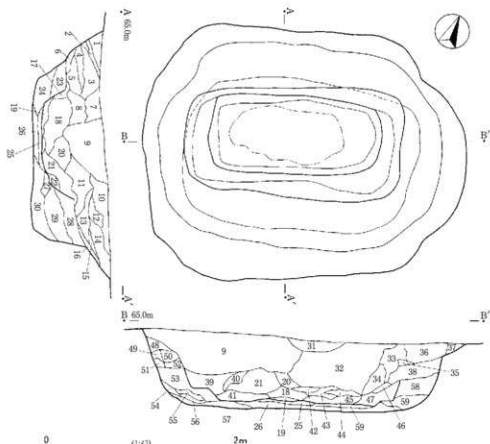
平面形は隅丸方形で東西の両端が突出する。規模は長軸3.42m、幅2.62m、深さは79cmである。棺痕跡も段掘りとなっており、平面形は長方形で上段の規模は、長軸2.29m、幅1.15mである。下段の規模は長軸1.83m、幅0.83mであり、棺痕跡底面から掘り方底面までの深さは10cm前後である。主軸方位はN-66°-Eである。棺痕跡底面には硬化面があり、掘り方の底面付近の層は硬くしまっていた。埋葬施設からは遺物は検出できなかった。

SS031（第168・197図、図版75）

SS030の南東にあり、調査区の東端に位置し、一部が斜面部にかかる。SM001の周溝によって北溝（a）・南溝（c）・西溝（d）が部分的に壊されている。方台部の中央付近に焼土土坑SK055と縄文時代の陥穴SK060がある。周溝は北溝の角度がやや開いてみられる。ほぼ同様な規模で細身の周溝であるが、南溝のみ東側先端部の上場が北側に膨らんでいる。墳丘規模（周溝内側下端間）は南北10.24m、東西9.98mである。軸方位はN-1°-Eである。北溝には段差がみられ、底面には凹凸がある。南溝と西溝にも段差がみられる。周溝の底面の深さは緩斜面に立地するためか、斜面側の南溝の底面は西溝より標高で80cm低い位置にある。周溝の断面形は丸味を持った逆台形である。遺物（第197図15・16）は、南溝中央の底面付近からと西溝一括でそれぞれ壺の底部片が出土している。

SS032（第169・198図、図版75・142・143）

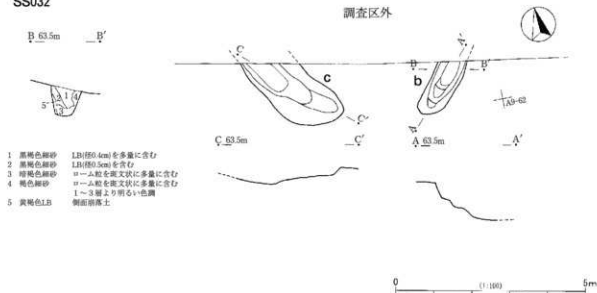
調査区の東端に所在し、SS031の北溝東端と本遺構の南溝が接してみられる。大部分が調査範囲よりも北側にあるため、調査を実施した部分は東溝（b）・南溝（c）の一部である。全体の規模は不明であり、軸方位はN-45°-Eである。東溝・南溝ともに段差がみられ、南溝は2段の段差で底面の高さは東溝よりも90cmほど低い。周溝の断面形は逆台形及びU字形である。遺物は南溝から壺（第198図17・18）が出土した。



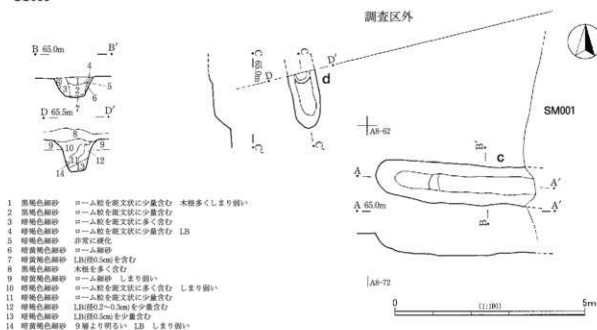
- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 黄褐色LB | 31 明褐色細砂 LB(径0.5m)を含む |
| 2 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)をやや含む | 32 褐色細砂 LB(径0.5m)を含む |
| 3 暗褐色LB | 33 暗褐色ローム質細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む |
| 4 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む | 34 褐色細砂 ローム粒・LB(径0.2m)を含む |
| 5 暗褐色LB | 35 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)を含む |
| 6 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)散る | 36 黄褐色ローム |
| 7 褐色細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む | 37 暗褐色細砂 LB(径0.3m)をやや含む |
| 8 明褐色細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む | 38 黒褐色細砂 LB(径0.3m)を含む |
| 9 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む | 39 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む |
| 10 褐色細砂 LB(径0.5~1.5cm)を含む | 40 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)をやや含む |
| 11 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む | 41 黒褐色細砂 LB(径0.3cm)をやや散る |
| 12 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)をやや含む | 42 暗褐色細砂 ローム粒・LB(径0.5~1m)を多量に含む やや硬くしまる |
| 13 褐色細砂 LB(径0.5~1.5cm)を含む | 43 褐色細砂 LB(径0.5cm)散る |
| 14 黒褐色細砂 LB(径0.5~1m)をやや含む | 44 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む |
| 15 暗褐色細砂 | 45 明褐色ローム質細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む |
| 16 黒褐色細砂 | 46 黒褐色細砂 LB(径0.5cm)散る |
| 17 暗褐色細砂 | 47 暗褐色細砂 LB(径0.2~0.5m)をやや含む |
| 18 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む | 48 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む |
| 19 暗褐色細砂 LB・黒色シルトブロック(径0.3~0.5cm)を含む | 49 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む |
| 20 暗褐色細砂 LB(径0.2~0.5cm)を含む | 50 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)を含む |
| 21 褐色細砂 LB(径0.5~2cm)をやや多く含む | 51 暗褐色細砂 LB(径0.3m)をやや含む |
| 22 暗褐色細砂 | 52 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)をやや含む |
| 23 暗褐色細砂 LB(径0.5~1m)含む やや硬くしまる | 53 黒褐色細砂 LB(径0.5~2cm)をやや含む やや硬くしまる |
| 24 暗褐色細砂 LB(径0.5cm)散る | 54 黒褐色細砂 |
| 25 暗褐色ローム質細砂 LB(径0.5~1m)を含む 硬くしまる | 55 褐色細砂 LB(径0.5~1m)を多量に含む |
| 26 褐色ローム質細砂 LB(径0.5~1m)を含む やや硬くしまる | 56 暗褐色細砂 |
| 27 暗褐色細砂 LB(径1~2cm)を含む | 57 暗褐色細砂 LB(径0.5cm~1m)を含む 硬くしまる |
| 28 暗褐色細砂 | 58 暗褐色細砂 LB(径1cm)を含む |
| 29 暗褐色細砂 LB(径1~2cm)をやや含む | 59 暗褐色シルト質細砂 LB(径1cm)をやや含む |
| 30 暗褐色細砂 LB(径0.5~1.5cm)をやや含む やや硬くしまる | |

第167図 SS030埋葬施設

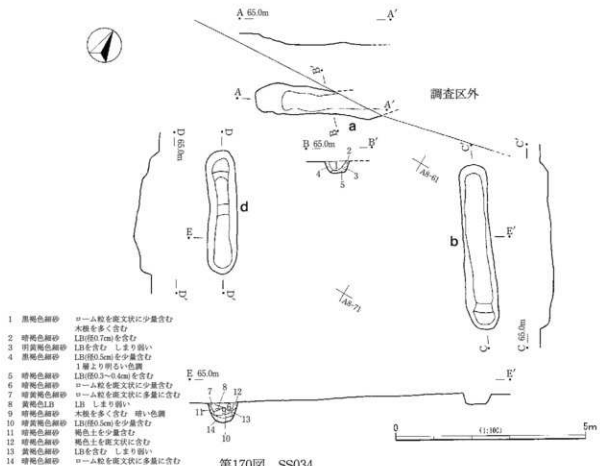
SS032



SS033



第169図 SS032・SS033

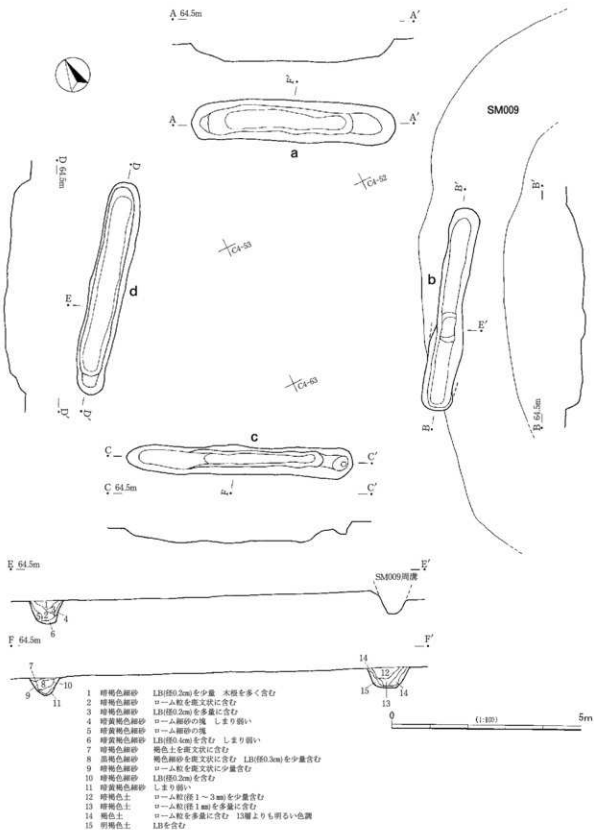


SS033 (第169・198図、図版76・143)

調査区東部のA8-52グリッドを中心として存在し、遺構の過半が調査区外の北に延びる。南溝(c)の東端は円墳SM001の周溝によって削平され、東溝については周溝によって消滅している。西溝(d)は南側の一部のみを検出である。小型の方形周溝墓と考えられる。周溝の並びは開き気味であり、軸方位は不明瞭であるが、東脇にみられるSS030の軸方位と近い $N-10^{\circ}-W$ を想定しておきたい。南溝・西溝ともに段差がみられ、断面形は逆台形である。埋葬施設は検出できなかった。遺物は、西溝の覆土から甕の底部片(第198図19)が出土した。

SS034 (第170図、図版76)

SS033の西隣にあり、緩斜面に立地しており、南溝は崩落のためか消滅している。北溝(a)は調査区域外に延びる。縄文の陥穴SK065と土坑SK059を切る。残存する周溝の並びは軸の振れが少なく、軸方位は $N-35^{\circ}-W$ である。方台部の東西の幅は6.28mであり、小型の方形周溝墓である。周溝の幅はほぼ同様であり、長さは西溝が短い。ただし、傾斜面のため西溝の南端部の検出面は東溝(b)の底面よりも15cm前後低くなっており、西溝(d)については東溝と同程度の規模であった可能性が認められる。東溝は南端に段差があり、西溝は2段の段差がある。周溝の断面形は丸味を持った逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出することができなかった。



第171図 SS035

SS035 (第171図、図版77)

調査区の南西部のC4-53グリッドを中心に所在し、東溝 (b) は円墳SM009の周溝に切られる。平面形は菱形に歪んだ方形であり、墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北8.50m、東西8.58mである。軸方位はN-33°-Eである。周溝の平面形はほぼ同様であり、北溝 (a)・西溝 (d) には浅い掘り込みがみられる。東溝の中央部には長軸0.78mで深さ15cmの浅い掘り込みがある。南溝 (c) には東端に長軸0.38mのピット状の窪みがあり、その西側には段差がみられる。周溝の断面形は丸味を持つ逆台形及びU字形であり、覆土は自然堆積と考えられる。埋葬施設及び遺物は検出することができなかった。

SS036 (第172図、図版77)

SS035の北東にあり、円墳SM017の周溝に南溝 (c) と西溝 (d) が切れ、方墳SM018の周溝に北溝 (a) と東溝 (b) を切られる。東溝はSS040の西溝と接する。切り合い関係は不明である。周溝の並びは縦長の方形であり、やや北溝が間延びして配列されている。墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北8.46m、東西7.60mである。軸方位はN-37°-Eである。周溝は東溝の長さが4.6mとほかのものよりもやや短い。北溝は東端に段差を有し、中央に長軸1.91mで深さ15cmの掘り込みがみられる。ほかの周溝には段差がある。東・西溝は底面の凹凸が顕著である。断面形は丸味を持つ逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出することができなかった。

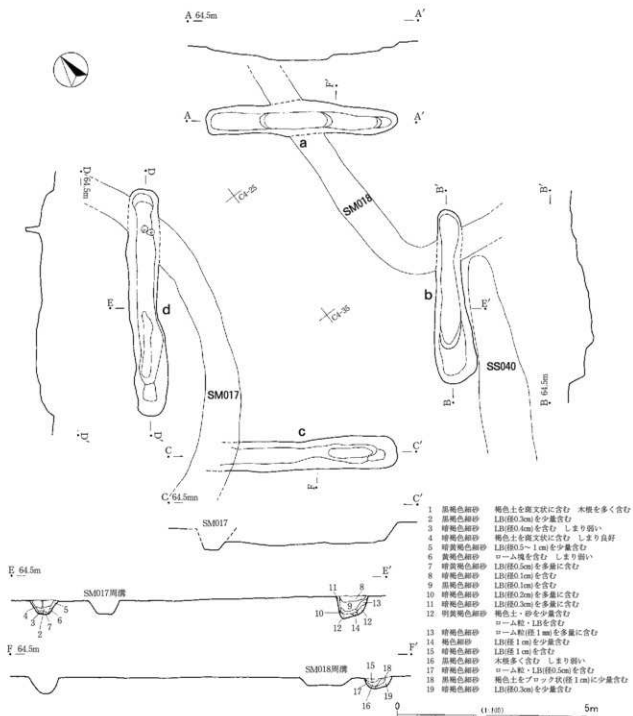
SS037 (第173・198図、図版78・79・143)

調査区中央のB6-11を中心とするグリッドに所在する。円墳SM004の周溝に北溝 (a) と南溝 (c) が切れ、東溝 (b) はSM004の墳丘下から検出された。西溝は円墳SM006の周溝に切られる。周溝は縦長の方形の並びで、墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北12.62m、東西11.68mである。軸方位はN-27°-Wである。北溝の平面形はやや弧状であり、ほかの周溝は直線的な形状である。北溝には両端及び中央に段差があり、西溝には段差及び凹凸がみられる。断面形は丸味を持つ逆台形の形状と鍋底状の形状の部分がある。

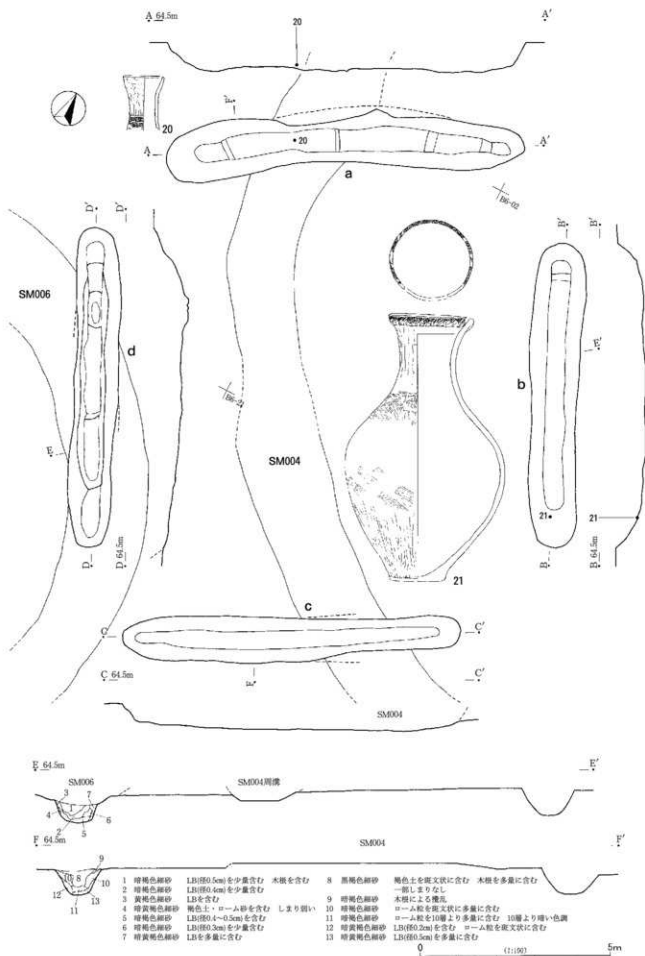
遺物 (第198図20~22) は北溝の中央西寄りの底面付近から壺の頸部片が出土し、東溝の南端の底面からは壺が検出されている。また、西溝の覆土からも壺の底部が出土しており、本遺跡の方形周溝墓のなかでは比較的遺物量が豊富である。埋葬施設は検出されなかった。

SS038 (第174・175・198図、図版78~80・143)

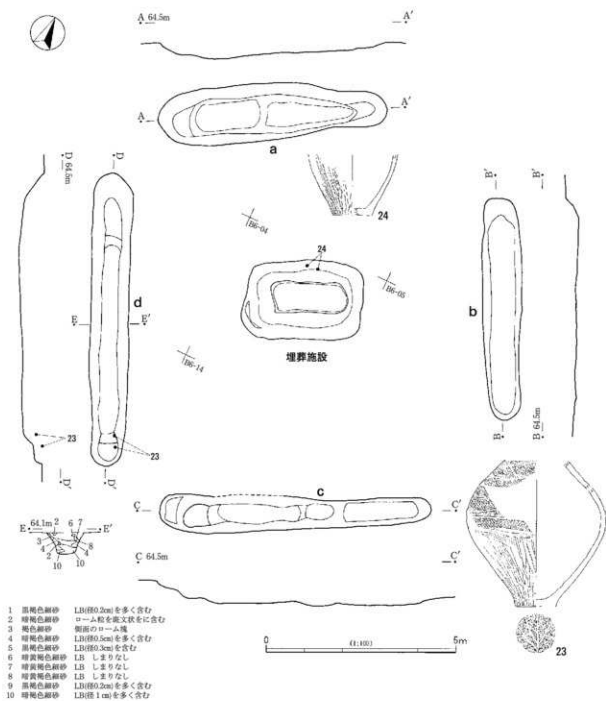
調査区のほぼ中央に位置し、B6-05を中心とするグリッドにみられる。本遺構の全域が円墳SM004の墳丘下にあるため、遺存度が良好な遺構である。古墳墳丘下には旧表土が残存し、さらにその上に方形周溝墓の墳丘の土と考えられるものが残存していた。本遺構の盛土墳及び周溝の土層断面は、SM004の土層断面図 (第250図) を参照されたい。方形周溝墓の墳丘はSM004における土層断面の中の斜線で表した部分であり、30cm前後の盛土が残存していた。盛土は方形周溝墓の周溝の際までみられ、古墳の土層断面にかかる残存盛土の長さは8.0mである。盛土は7層に分層できたが、基底面に近い層が最も厚い層であり、明褐色ローム質細砂で、ロームをブロック状に多く含む層がみられた。



第172図 SS036

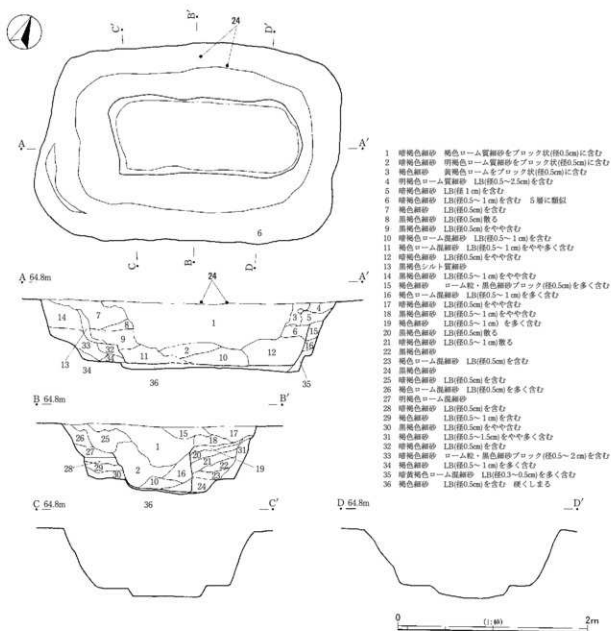


第173図 SS037



第174図 SS038

周溝の配置は方形で、填丘規模（周溝内側下端間）は南北9.85m、東西9.90mである。軸方位はN-26°-Wである。周溝については、旧表土面を掘り込んで構築されており、非常に良好な遺存状態であり、古墳の土層断面でみられる周溝の深さは最深部で108cmに達している。周溝の長さは北溝（a）と東溝（b）がやや短い。北溝はほかの溝よりも幅広であり、両端に段差がみられる。南溝には西端と中央に段差があり、中央部がやや窪んでいる。西溝は南端に段差がある。周溝の土層は2層に区分できる部分や、10層に分かれる部分もあるが、硬化した面はみられなかった。なお、北溝には部分的に焼土がみられる層があった。周溝の断面形態は丸味を帯びた逆台形及びU字形である。西溝南端の覆土から壺（第198図



第175図 SS038埋葬施設

23) が出土している。

方台部中央から埋葬施設を検出した(第175図)。縄文時代の陥穴SK121を切って存在する。掘り方と棺痕跡の部分は当初の検出時は隅丸の長方形の範囲に土が混在して見分けられなかったが、15cmほど精査しながら掘り下げたところ、明確に掘り方と棺痕跡の範囲が確認できた。掘り方は段掘りであり、断面形が逆台形に近い形状であり、旧表土を掘って造られていた。平面形は隅丸の長方形で、長軸3.43m、幅2.17m、最深部の深さは66cmである。土層は暗褐色細砂や黒褐色細砂、褐色細砂のなかに多量のロームブロックが混入する層である。棺痕跡は掘り方の中央にあり、平面形は隅丸の長方形である。長軸2.12m、幅0.79mで、掘り方よりも棺痕跡底面のほうが12cm前後低くなっており、底面は硬くしまっていた。棺痕跡の覆土上層は暗褐色細砂で、ロームブロックを含む層であった。主軸方位はN-65°-Eであり、南北の

SS040 (第177図、図版81・82)

調査区南西部のC4-46グリッドを中心とする区域に存在する。北溝 (a) は方墳SM018の周溝に切られ、SS041の南溝と重複するが、新旧関係は不明である。東溝 (b) は円墳SM009と円墳SM010の周溝に切られ、SS051の西溝と接する。西溝 (d) は円墳SM009の周溝に切られ、SS036の東溝と重複しており、重複が著しい。周溝はやや縦長の方形の並びで、墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北12.20m、東西11.72mである。軸方位はN-30°-Eである。周溝は南溝が短い。北溝には中央に長軸3.58mで深さ25cmの掘り込みがあり、その東側にも長軸2.04mで深さ12cmの浅い掘り込みがある。ほかの周溝には1段の段差がみられ、西溝は底面の凹凸が顕著である。東溝と西溝の底面の標高差は50cmであり、西溝がほかの溝の底面よりも低い。周溝の断面は逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS041 (第178図、図版81・82)

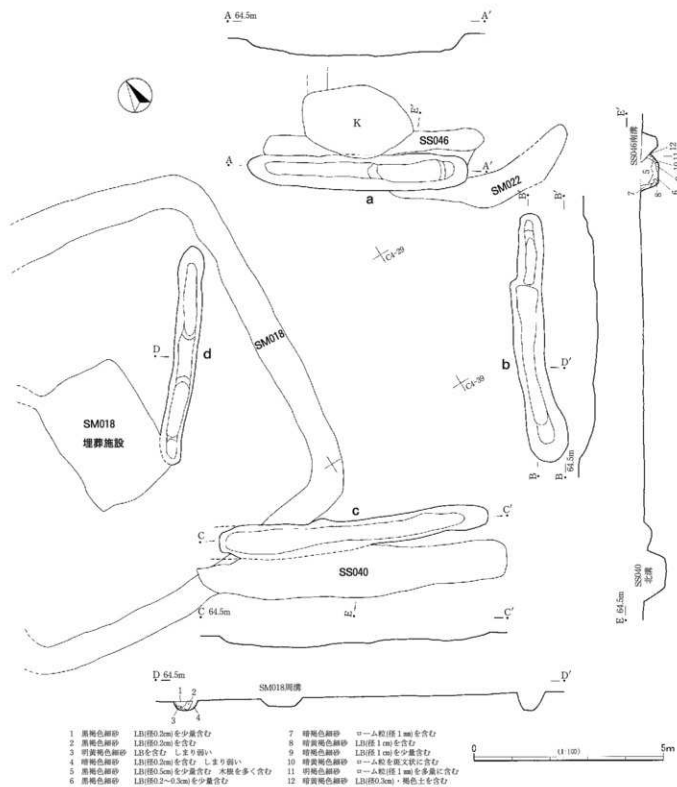
SS040の北溝と本遺構の南溝 (c) が接してみられる。北溝 (a) はSS046の南溝に切られ、さらに円墳SM022に切られる。また、中央部には攪乱がかかる。東溝 (b) は近世の道跡に切られ、南溝は方墳SM018の周溝に切られる。西溝 (d) はSM018の墳丘域内にみられ、古墳の埋葬施設に南端部が切られる。周溝の平面形は東・西・南溝が開き気味であり、やや崩れた方形である。墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北9.20m、東西8.73mである。軸方位はN-31°-Eであり、隣接するSS040の方位とほぼ同一である。北溝の東側には長軸2.60mで深さ15cmの浅い掘り込みがある。東溝には段差があり、底面には凹凸がみられる。西溝には浅い段差がある。周溝の断面は丸味を持つ逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS042 (第179図、図版81・83)

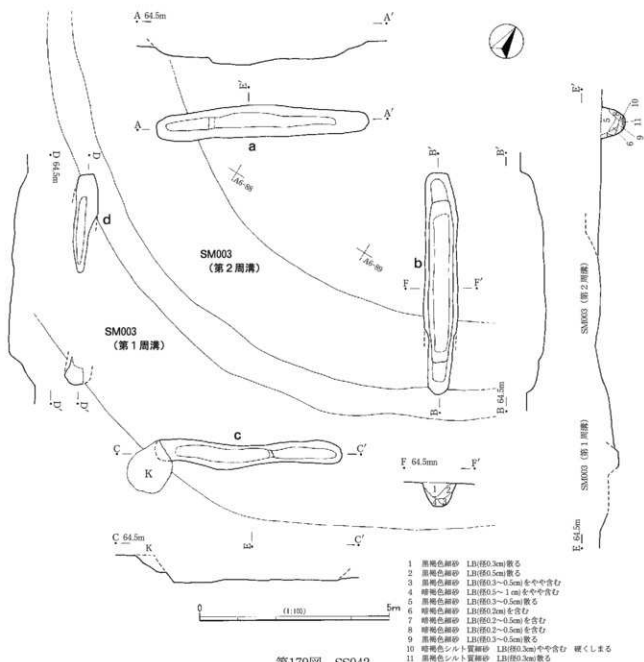
調査区中央東寄りA 6-88を中心とするグリッドにあり、二重周溝の円墳SM003に切られる。方台部には縄文時代の土坑SK064がある。北溝 (a) 及び東溝 (b) はSM003の第2 (内側) 周溝によって切られ、南溝 (c) 及び西溝 (d) は第1 (外側) 周溝によって切られており、とくに西溝の遺存度は悪く、中央部は不明となっている。南溝の西端には攪乱が入る。周溝はほぼ方形に配列されており、細身の周溝である。墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北8.50m、東西9.10mである。軸方位はN-32°-Wである。北溝と南溝には1段の段差があり、東溝には両端に段差が存在する。周溝の断面はU字形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS043 (第180・181・199図、図版83・84・143)

調査区南端のD4-36を中心とするグリッドにみられる。円墳SM011に切られており、東溝 (b) は宝永テフラが混入する層がある近世の道跡によって削平され、僅かに先端部が残存する。西溝 (d) の全域と北溝 (a) の大半及び南溝 (c) の一部は古墳墳丘下であり、方形周溝墓の墳丘も古墳の墳丘の下に部分的に残存していた。南溝の中央部は調査区外にかかる。墳丘規模 (周溝内側下端間) は東西が12.08m、南北はおおよそ11.7m程度と考えられる。軸方位はN-39°-Eである。北溝には西端に段差があり、南溝には長軸3.00mで深さ9cmの浅い掘り込みがある。西溝には両端と中央の2か所に段差がみられる。周溝の断面形は逆台形の形状である。方形周溝墓の墳丘は平面的には不整形の形状で、北西に若干偏つて



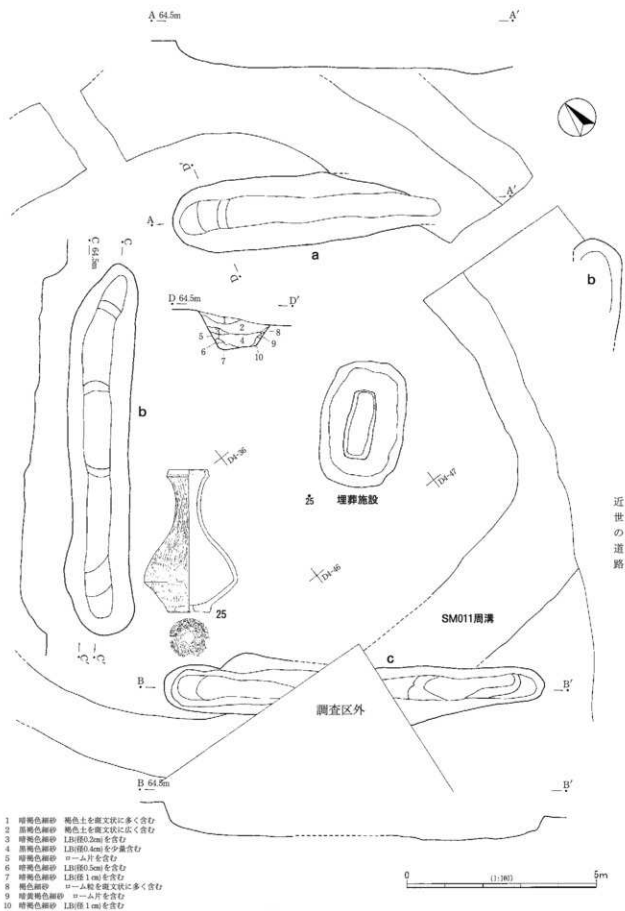
第178図 SS041



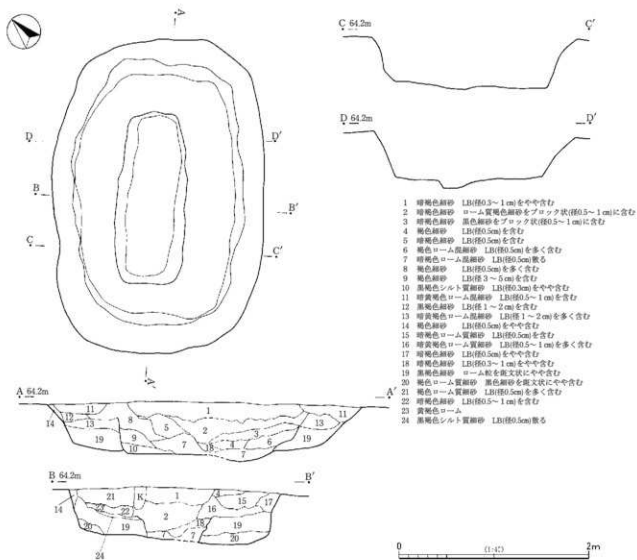
第179図 SS042

残存していた。北溝に接し、西溝からは0.33m、南溝からは1.43mほど離れた範囲にみられる。断面の状態はSM011の土層断面図(第289図)で図示している。填丘土は15cm前後の厚さでみられ、填丘土層内からは弥生土器の底部穿孔壺(第199図25)が出土した。

填丘盛土を取り除いたところ方台部のほぼ中央から埋葬施設を検出した(第181図)。二段掘りの土坑で、掘り方は長軸3.32m、幅2.23mで深さ50.0cmの隅丸長方形で、上半部が逆「ハ」の字状に開いている。棺痕跡は掘り方の中央にあり、長方形で、長軸1.82m、幅0.73m、掘り方底面からの深さは12cmである。棺痕跡部分の土層は木棺の腐朽に伴う崩落堆積の様相がうかがえる。埋葬施設からは遺物は検出されなかった。



第180図 SS043

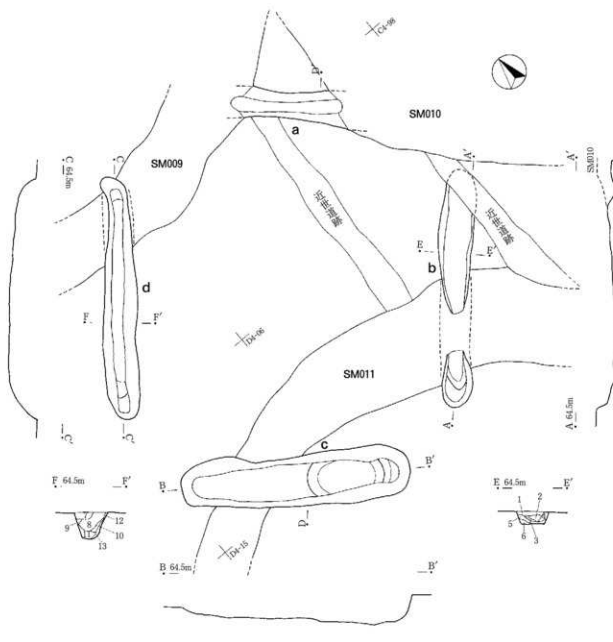


第181図 SS043埋葬施設

SS044 (第182図, 図版83・84)

SS043の北西にあり、C4-96を中心とするグリッドに存在する。北溝 (a) は円墳SM010とSM009の周溝に切れ、東溝 (b) はSM011及び近世の道跡に切られる。南溝 (c) はSM011、西溝 (d) はSM009の周溝に切られるが、北溝を除いて部分的な削平にとどまっているため、遺構の規模はほぼ確認できる。周溝の幅は南溝のみやや幅広く、角度もやや開き気味である。北溝は両端が削平されており、不明な点が多い。東溝には南端に段差があり、南溝には東側に長軸2.02m、深さ16cmの浅い掘り込みがある。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北8.44m、東西9.28mである。軸方位はN-39°-Eである。周溝の断面は逆台形が主体であるが、北溝部分はU字形に近い形状である。

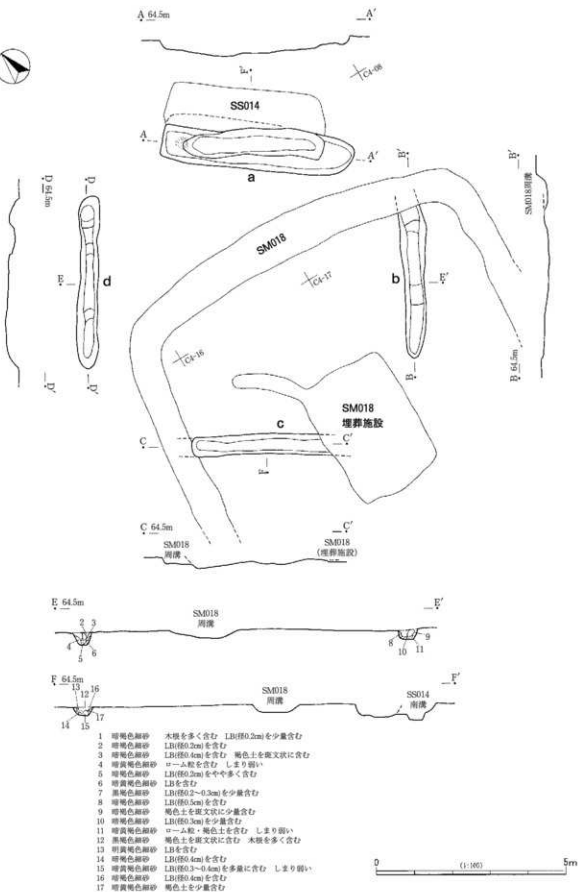
埋葬施設及び遺物は検出できなかった。



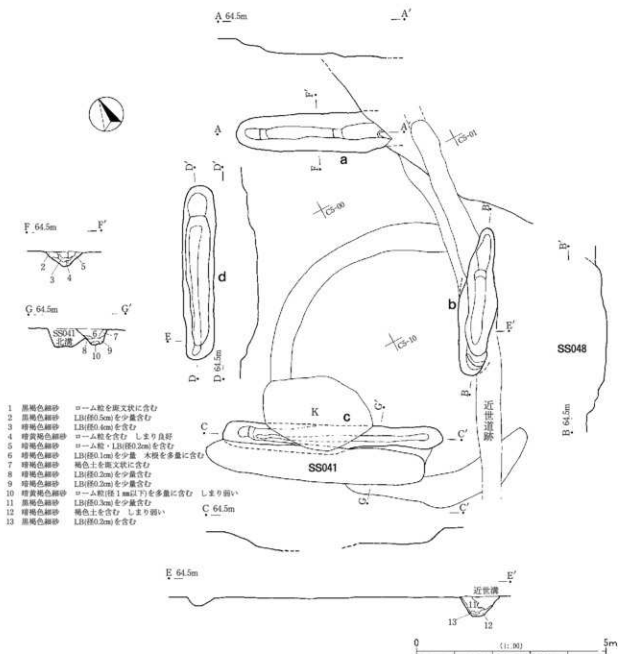
- | | | | |
|------------|--------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色細砂 | ローム粒を縦文状に含む | 15 黒褐色細砂 | LB(H0.2m)を少量含む |
| 2 暗褐色細砂 | LB(H0.3m)を全々含む | 16 暗褐色細砂 | LB(H0.4m)を多量に含む |
| 3 黒褐色細砂 | LB(H0.5cm)を全々含む | 17 暗褐色細砂 | ローム粒・LB(H0.2m)・褐色土を含む |
| 4 黒褐色細砂 | LB(H0.3cm)散在 | 18 暗褐色細砂 | LB(H1.0m)を含む |
| 5 暗褐色細砂 | LB(H0.5~1cm)を全々含む | 19 暗褐色細砂 | LB(H1.5cm)を含む。しまり弱い |
| 6 褐色ローム混細砂 | LB(H1~1.5m)を含む | 20 褐色細砂 | LB(H0.5m)を多量に含む |
| 7 黒褐色細砂 | 褐色土を縦文状に多量に含む | 21 褐色細砂 | LB(H1.0m)含む。木屑による塊状。しまり弱い |
| 8 黒褐色細砂 | 褐色土を縦文状に多量に含む | 22 暗褐色細砂 | LB(H0.5m)を含む。しまり弱い |
| 9 黒褐色細砂 | ローム粒を縦文状に多量に含む | 23 暗褐色細砂 | LB(H1.0m)を含む。しまり弱い |
| 10 暗褐色細砂 | 褐色土を縦文状に多量に含む | 24 暗褐色細砂 | ローム粒を縦文状に含む |
| 11 黒褐色細砂 | LB(H0.5~1cm)を多量に含む | 25 暗褐色細砂 | LB(H0.5cm)を多量に含む |
| 12 暗褐色細砂 | ローム粒を含む | 26 暗褐色細砂 | LB(H0.5cm)を少量含む |
| 13 暗褐色細砂 | ローム粒を縦文状に多量に含む | 27 暗褐色細砂 | ローム粒を含む。しまり弱い |
| 14 暗褐色細砂 | 褐色土を縦文状に含む | 28 暗褐色細砂 | LB(H1.0m)を含む |



第182図 SS044



第183図 SS045



第184図 SS046

SS045 (第183図、図版81・85)

調査区の西側の中央にあり、C4-06を中心とするグリッドに所在する。方形周溝墓の南半分が方墳SM018と重複しており、東溝(b)は方墳周溝に、南溝(c)は周溝及び古墳埋葬施設に切られる。北溝(a)はSS014の南周溝を切っている。周溝の並びは北溝の角度がやや開き気味であり、やや横長の方形である。北溝はほかの溝よりも幅が広く、周溝のなかに長軸3.80mの掘り込みがみられる。北溝の底面は東から西に向かって下がっており、西端で上がり気味となる。東溝の北側には段差があり、西溝は北端が窪み、さらに東に段差がみられる。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北7.26m、東西8.38mである。軸方位はN-31°-Eである。周溝の断面は丸味を有する逆台形である。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

のと考えられ、検出することはできなかった。残存の周溝は遺存度が悪く、本来の長さは不明である。東溝と南溝の角度は 100° と聞いており、軸方位の想定は難しいが東溝の軸を主軸方位とし、 $N-8^\circ-W$ と想定しておきたい。南溝には長軸2.67m、深さ13cmの浅い掘り込みがあり、東溝の底面は凹凸がみられる。周溝の断面形は丸味を持つ逆台形の部分と舟底状の部分がある。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS048 (第186・187・199図、図版86～88・143)

調査区中央の南際であり、C5-32グリッドを中心とするグリッドに所在する。墳丘が残存していたので当初は古墳として調査を行ったが、4本の周溝と弥生土器の出土から方形周溝墓であることが判明した遺構である。なお、SS048は非常に大型のため、平面図は1/200で掲載している。

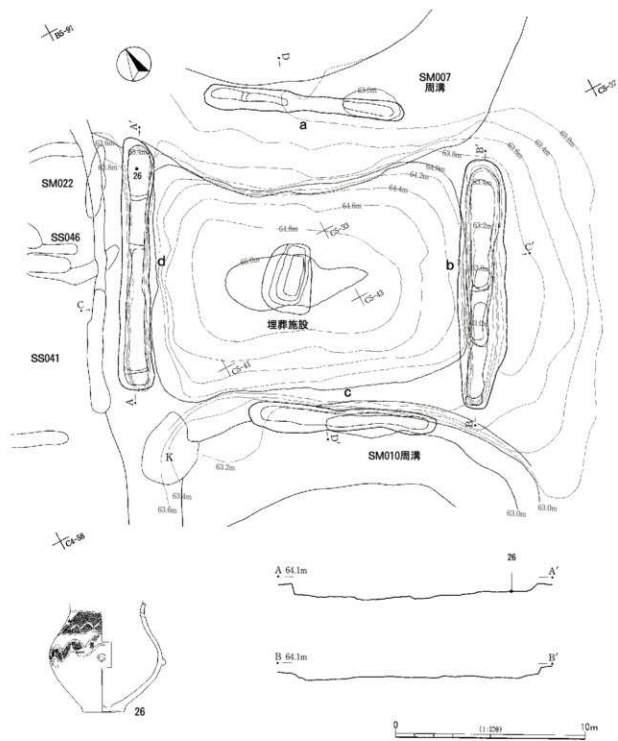
円墳SM007と円墳SM010に挟まれて墳丘が残存しており、墳丘は北側がSM007の周溝によって挟られており、かなり変形し、南側についてもSM010の周溝により僅かに変形している。

調査前の見かけの墳丘については南北11.7m、東西が16.5mであり、高さは1.0mである。南北方向の当初の墳丘規模は周溝から類推すると15m前後と考えられる。東西方向に長い方形の墳丘であった可能性が高い。墳丘は22cm～40cmの表土に覆われており、基本的にその下には褐色でロームブロックが混入する細砂が入り、さらにその下には暗褐色でロームが混入する細砂の層を墳丘土として入れている(第187図)。盛土としては30cm程度の残存であるが、裾部の地山を傾斜をつけて削り、墳頂部を高くみせている。周溝上端から墳頂部の盛土上端までの高さは70cmであり、実際には1m前後の高さがあった可能性が認められる。

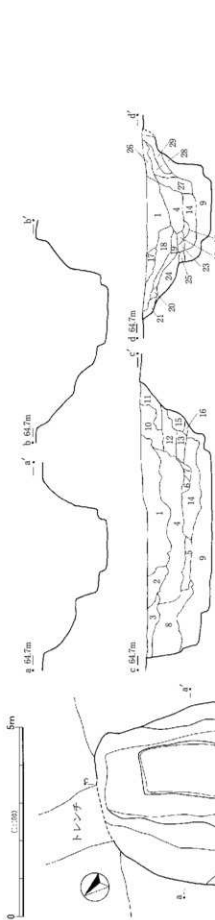
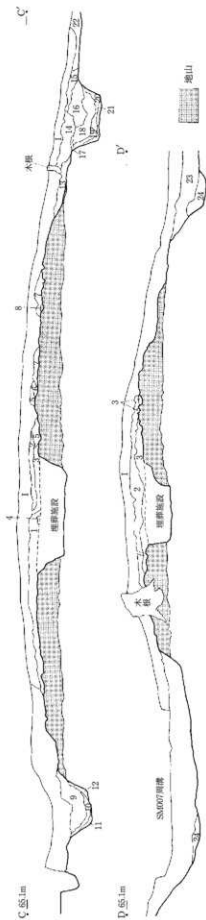
周溝の並びは横長の方形である。北溝(a)はSM007の周溝に削られ、南溝(c)はSM010の周溝、西溝(d)はSM022と近世の道跡によって部分的に削平されており、3基の周溝については上部の遺存状況は不良であるが、東溝(b)は本来の形状を保っていると考えられる。東溝は周溝上半部が逆「ハ」の字状に開いており、おそらくほかの周溝も同様な形状であった可能性が高い。北溝には西側に段差があり、東溝は中央に二段の段差がみられる。南溝の底面は比較的平坦であり、西溝は南端と中央部に段差があり、北端には長軸2.74mで、深さ10cm前後の掘り込みがある。

周溝の断面は逆台形であり、上端が逆「ハ」の字状に開く箇所がみられる。周溝内側下端間は南北16.0m、東西17.3mであり、本遺跡の方形周溝墓のなかでは最も規模が大きい。軸方位は $N-30^\circ-E$ である。

埋葬施設は方台部の中央で検出し、黒褐色細砂の地山を掘り込んで構築されていた(第187図)。掘り方は三段の段差を有し、平面形は隅丸の長方形で、東側がやや狭くなる形状である。規模は長軸で2.92m、短軸の最大幅2.14m、深さ60cmである。棺痕跡は掘り方のほぼ中央にあり、平面形は長方形で、規模は長軸1.75m、短軸0.61mで、掘り方底面からの深さは9cmである。棺痕跡の底面の層は、黒褐色細砂でロームブロックをやや含み、やや硬くしまる層であったが、掘り方の層と同一で区別がつきにくかった。棺痕跡の上層については、棺が腐食し陥没したような状態の層である。主軸方位は $N-42^\circ-E$ である。遺物は埋葬施設からは検出できなかったが、西溝の北部の底面から壺(第199図26)が出土した。

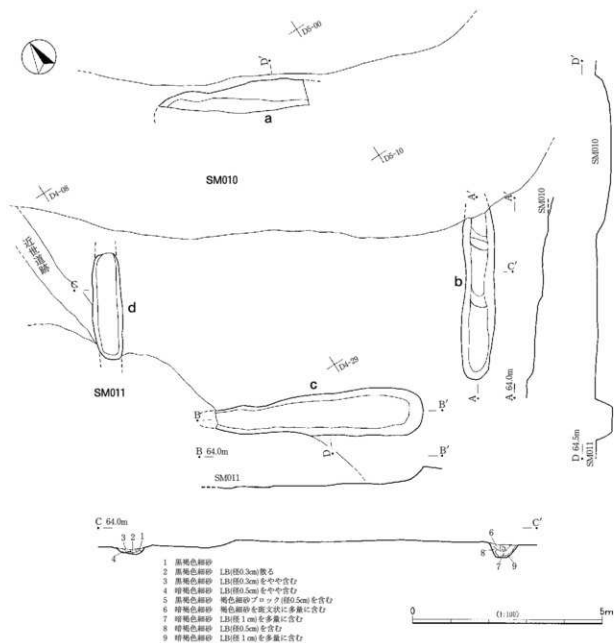


第186図 SS048 (1)



- C-C', D-D'**
- 1 暗褐色ローム層砂
 - 2 暗褐色砂
 - 3 暗褐色ローム層砂
 - 4 暗褐色ローム層砂
 - 5 暗褐色ローム層砂
 - 6 暗褐色ローム層砂
 - 7 暗褐色ローム層砂
 - 8 暗褐色ローム層砂
 - 9 暗褐色ローム層砂
 - 10 暗褐色ローム層砂
 - 11 暗褐色ローム層砂
 - 12 暗褐色ローム層砂
 - 13 暗褐色ローム層砂
 - 14 暗褐色ローム層砂
 - 15 暗褐色ローム層砂
 - 16 暗褐色ローム層砂
 - 17 暗褐色ローム層砂
 - 18 暗褐色ローム層砂
 - 19 暗褐色ローム層砂
 - 20 暗褐色ローム層砂
 - 21 暗褐色ローム層砂
- e-e', d-d'**
- 1 暗褐色ローム層砂
 - 2 暗褐色砂
 - 3 暗褐色ローム層砂
 - 4 暗褐色ローム層砂
 - 5 暗褐色ローム層砂
 - 6 暗褐色ローム層砂
 - 7 暗褐色ローム層砂
 - 8 暗褐色ローム層砂
 - 9 暗褐色ローム層砂
 - 10 暗褐色ローム層砂
 - 11 暗褐色ローム層砂
 - 12 暗褐色ローム層砂
 - 13 暗褐色ローム層砂
 - 14 暗褐色ローム層砂
 - 15 暗褐色ローム層砂
 - 16 暗褐色ローム層砂
 - 17 暗褐色ローム層砂
 - 18 暗褐色ローム層砂
 - 19 暗褐色ローム層砂
 - 20 暗褐色ローム層砂
 - 21 暗褐色ローム層砂
 - 22 暗褐色ローム層砂
 - 23 暗褐色ローム層砂
 - 24 暗褐色ローム層砂
 - 25 暗褐色ローム層砂
 - 26 暗褐色ローム層砂
 - 27 暗褐色ローム層砂
 - 28 暗褐色ローム層砂
 - 29 暗褐色ローム層砂
 - 30 暗褐色ローム層砂
- C-C'**
- 1 暗褐色ローム層砂
 - 2 暗褐色砂
 - 3 暗褐色ローム層砂
 - 4 暗褐色ローム層砂
 - 5 暗褐色ローム層砂
 - 6 暗褐色ローム層砂
 - 7 暗褐色ローム層砂
 - 8 暗褐色ローム層砂
 - 9 暗褐色ローム層砂
 - 10 暗褐色ローム層砂
 - 11 暗褐色ローム層砂
 - 12 暗褐色ローム層砂
 - 13 暗褐色ローム層砂
 - 14 暗褐色ローム層砂
 - 15 暗褐色ローム層砂
 - 16 暗褐色ローム層砂
 - 17 暗褐色ローム層砂
 - 18 暗褐色ローム層砂
 - 19 暗褐色ローム層砂
 - 20 暗褐色ローム層砂
 - 21 暗褐色ローム層砂
 - 22 暗褐色ローム層砂
 - 23 暗褐色ローム層砂
 - 24 暗褐色ローム層砂
 - 25 暗褐色ローム層砂
 - 26 暗褐色ローム層砂
 - 27 暗褐色ローム層砂
 - 28 暗褐色ローム層砂
 - 29 暗褐色ローム層砂
 - 30 暗褐色ローム層砂

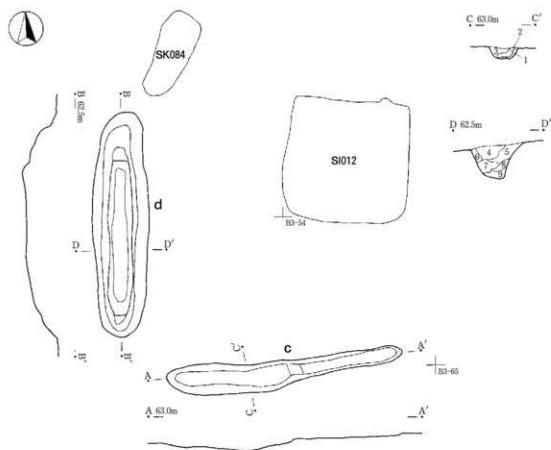
第187図 SS048 (2)・SS048埋葬施設



第188図 SS049

SS049 (第188図、図版83・88)

D4-19グリッドを中心地に所在し、調査区の南端部の斜面際に立地する。北溝は円墳SM010の周溝のため削平されて僅かに北端部が残存し、東溝 (b) も北部を周溝に切られる。南溝 (c) は円墳SM011の周溝により西端が切れ、西溝 (d) はSM010とSM011の周溝により切られており、遺存状態が悪い遺構である。なお、南溝・西溝は近世の道跡にも切られる。東溝には段差がみられるが、ほかの周溝の底面は平坦である。墳丘規模 (周溝内側下端間) は南北は推定で7.4m、東西は9.40mであり、周溝の配置は横長の方形である。軸方位はN-30°-Eである。周溝の断面は丸味を有する逆台形の部分と舟底状の部分が有る。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。



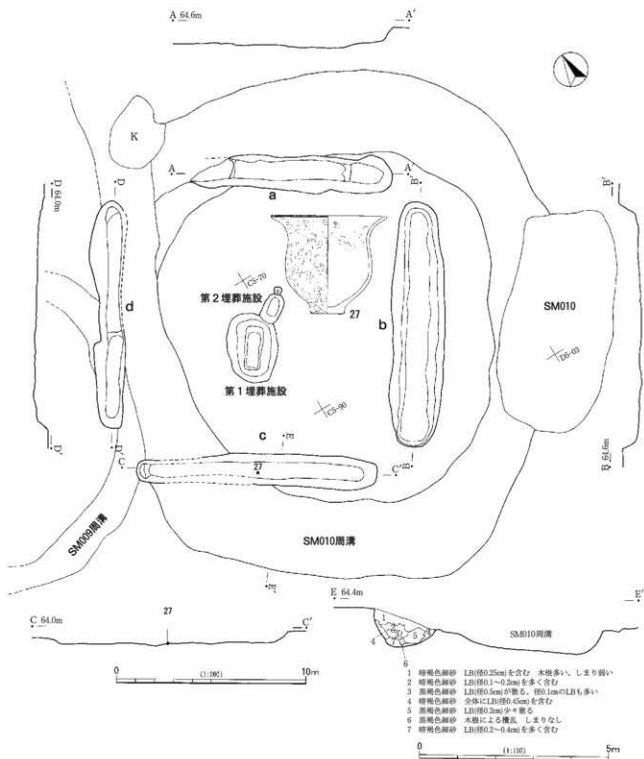
- | | | | |
|---|-------|------------------|----------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム層(厚1m)・木炭を含む | しまり悪い |
| 2 | 暗褐色土 | ローム層を底状に含む | しまりあり |
| | | | 1層より暗い色調 |
| 3 | 暗褐色土 | LBを含む | しまりあり |
| 4 | 暗褐色細砂 | LB(厚1cm)・木炭を多く含む | |
| 5 | 暗褐色細砂 | LB(厚0.2m)散る | |
| 6 | 暗褐色細砂 | LB(厚0.2m)を含む | |
| 7 | 暗褐色細砂 | LB(厚0.5m)を多量に含む | |
| 8 | 暗褐色細砂 | LB(厚1cm)を多量に含む | 7層より暗い色調 |
| 9 | 暗褐色細砂 | LB(厚0.2m)散る | しまり良好 8層より暗い色調 |

第189図 SS050

SS050 (第189図、図版89)

調査区の西端で斜面部に一部かかって存在し、B3-43グリッドを中心とする区域にみられる。南溝(c)と西溝(d)のみの検出であり、南溝は中央部を近世の溝によって切られる。西溝は両端に段差を有し、確認面からの深さは76cmであり、周溝の幅も1.53mあり、遺存状況が良い。南溝は中央部に段差がある。深さは24cmであり、幅は0.88mであるが東部は非常に浅い周溝となっている。両溝の底面を標高差でみると、西溝の底面は南溝の底面から91cm低い位置にある。このように片方だけの周溝が極端に深い現象は、本遺構だけではなく斜面にかかる周溝で多く見受けられ、とくに問題とする点はないので、北溝・東溝についてはさらに南溝よりも掘り込みが浅い周溝であり、削平により消滅したと考えるのが妥当である。

なお、方台部の区域には竪穴住居跡SI012が存在する。本遺跡のなかで弥生時代～古墳時代の竪穴住居



第190図 SS051

跡と方形周溝墓が重複する遺構はSS050のみである。この点から考えると、北溝及び東溝が存在したかどうかは若干怪しくなるが、上記の周溝の深さの観点を考慮し、B3-43グリッドを中心として遺構が存在すると判断しておきたい。周溝の断面は丸味を持った逆台形である。主軸方位は $N-1^{\circ}-E$ である。方台部域には竪穴住居跡のほか縄文時代の陥穴SK084、土坑SK090・SK091がある。埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

SS051 (第190・191・199図, 図版89・90・143)

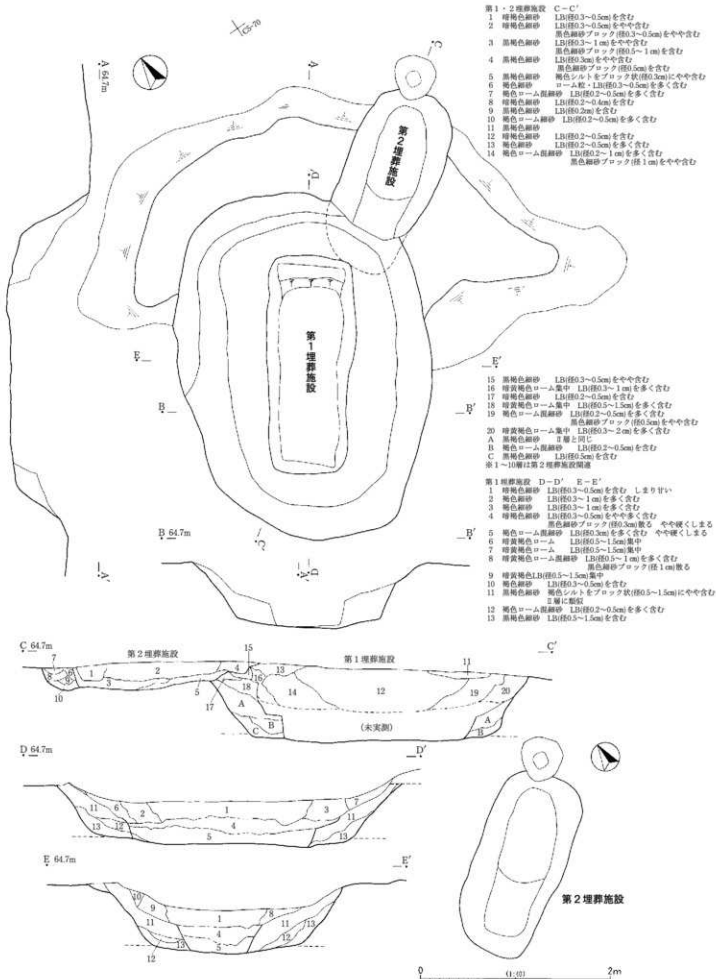
調査区の南部のC5-70を中心とするグリッドにあり、大半が円墳SM010の墳丘及び周溝と重なっている。SS051は非常に大型のため、平面図は1/200で掲載している。なお、本遺構の北には大型のSS048がほぼ同軸で並んでみられ、この2基が本遺跡の方形周溝墓のなかでは双壁の大きさである。

周溝はきれいな方形に配置されているが、北溝(a)の西端部はSM010の周溝によって破壊されているため不明であり、南溝(c)もSM010の周溝により西側の一部が切られている。西溝(d)は円墳SM009とSM010の周溝に切れ、さらに近世の道跡によって切られており、遺存状態が悪い。逆に東溝(b)はSM010の墳丘内にあるため遺存度が良好であり、上半部に段を有する。北溝の平面形は若干不整であり、底面には両端に段差がみられる。東溝は幅が広く、整った形状である。南溝は直線的であり、西溝は削平により形状が不明瞭となっている。墳丘規模(周溝内側下端間)は南北は14.90m、東西は14.95mであり、重複しているSM010と遜色がない規模である。軸方位は $N-35^{\circ}-E$ である。周溝の断面はU字形及び逆台形である。本遺構についても古墳墳丘下に方形周溝墓の墳丘の一部が残存していた。本遺構の盛土及び周溝の土層断面は、SM010の平面・土層断面図(第279図)を参照されたい。古墳墳丘下には古墳時代の旧表土が残存し、さらにその下に方形周溝墓の墳丘の土と考えられるものがみられた。最大の堆積の厚さは47cmであり、盛土は北側は北溝沿いにまでみられ、南側は南溝から2m以上離れて存在していた。遺物は南溝の中央部底面から甕(第199図27)が出土している。

埋葬施設は方台部中央のやや南西寄りから2基を検出した。重複しており、大型の第1埋葬施設を小型の第2埋葬施設が切っていた。第2埋葬施設は方形周溝墓の残存盛土上から掘り込まれているが、その上の層(表土化した層)を切っていないことからSS051の埋葬施設として認識した。

第2埋葬施設は、平面形が隅丸の長方形であり、素掘りの土坑である。規模は長軸1.95mで、幅は0.94m、深さは最深部で30cmである。底面は南西から北東に向かって傾斜しており、北東の先端部には略円形で規模は0.43m×0.47m、深さ23cmのピットがある。主軸方位は $N-55^{\circ}-E$ である。覆土は上層が暗褐色細砂でロームブロックを含む層であり、下層は黒褐色細砂でロームブロックを含む層である。遺物は検出することができなかった。

第1埋葬施設は大型の掘り方を持ち、掘り方の北縁を取り囲むように高まりがみられた。その部分の堆積層は黒褐色細砂を主体とする層であり、地山の層と類似しており、第1埋葬施設造営時の排土である可能性が考えられる。厚さは5cm前後である。掘り方の平面形は隅丸の長方形で、側面部がやや膨れた形状である。規模は長軸3.69m、幅は2.69m、深さは最深部で73cmである。断面形は丸味を有する逆台形である。覆土の上層は黒褐色細砂で、地山の層と類似する。中層は褐色ローム混細砂でロームブロックを含む層であり、下層は黒褐色細砂でロームブロックを含む層であった。棺痕跡については、掘り方の確認時にある程度の形状が確認できた。掘り方の中心にあり、平面形は隅丸の長方形である。規模は長軸2.30m、



- 第1・2埋葬施設 C-C'
- 1 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を含む
 - 2 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を中々含む
 - 3 暗褐色細砂 LB(F0.3~1m)を中々含む
 - 4 暗褐色細砂 LB(F0.3m)を中々含む
 - 5 暗褐色細砂 暗色細砂ブロック(F0.5~1m)を含む
 - 6 暗褐色細砂 ローム粒・LB(F0.3~0.5m)を多く含む
 - 7 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~0.5m)を多く含む
 - 8 暗褐色細砂 暗色シルトをブロック状(F0.3m)に中々含む
 - 9 暗褐色細砂 LB(F0.2m)を含む
 - 10 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~0.5m)を多く含む
 - 11 暗褐色細砂 LB(F0.2~0.5m)を含む
 - 12 暗褐色細砂 LB(F0.2~0.5m)を含む
 - 13 暗褐色細砂 LB(F0.2~0.5m)を多く含む
 - 14 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~1m)を多く含む
- 暗色細砂ブロック(厚1cm)を中々含む

- 15 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を中々含む
 - 16 暗褐色ローム混中 LB(F0.3~1m)を多く含む
 - 17 暗褐色細砂 LB(F0.2~0.5m)を含む
 - 18 暗褐色ローム混中 LB(F0.5~1.5m)を多く含む
 - 19 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~0.5m)を多く含む
 - 20 暗褐色ローム混中 暗色細砂ブロック(F0.3m)を中々含む
- A 暗褐色細砂 2層と同じ
 B 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~0.5m)を含む
 C 暗褐色細砂 LB(F0.5m)を含む

- ※1~10層は第2埋葬施設関係
- 第1埋葬施設 D-D' E-E'
- 1 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を含む しまりがない
 - 2 暗褐色細砂 LB(F0.3~1m)を多く含む
 - 3 暗褐色細砂 LB(F0.3~1m)を多く含む
 - 4 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を中々含む
 - 5 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.3m)散る 中々硬くしまる
 - 6 暗褐色ローム LB(F0.5~1.5m)混中 中々硬くしまる
 - 7 暗褐色ローム LB(F0.5~1.5m)混中
 - 8 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.5~1m)を多く含む
 - 9 暗褐色ローム混中 LB(F0.5~1.5m)混中 暗色細砂ブロック(厚1cm)散る
 - 10 暗褐色細砂 LB(F0.3~0.5m)を含む
 - 11 暗褐色細砂 暗色シルトをブロック状(F0.5~1.5m)に中々含む
 - 12 暗褐色ローム混細砂 LB(F0.2~0.5m)を多く含む
 - 13 暗褐色細砂 LB(F0.5~1.5m)を含む

第191図 SS051埋葬施設

幅0.94mで、深さは掘り方の底面よりも3cmほど低くなっている。北端部に段差を有する。主軸方位はN-34°-Eであり、ほぼ周溝と同様な方位である。断面形は逆「ハ」の字形であり、棺痕跡の上面は大きく開いている。上面部分を大きく掘り込んで棺が入りやすいようにしていることがうかがえる。棺痕跡上面の層は暗褐色細粒の層であり、ロームブロックを含み、しまりが弱い層であった。中層は暗褐色細粒でロームブロックをやや多く含み、黒色細砂ブロックが散り、やや硬くしまった層である。下層は褐色ローム混細砂であり、ロームブロックを含み、やや硬くしまった層である。遺物は検出することができなかった。

SS052 (第192・199図、図版91・92・143)

調査区の中央にあり、B5-53を中心とするグリッドに所在する。円墳SM007及び近世の道跡と重複する。周溝の配置は方形が崩れ、菱形に近い形状を示している。北溝(a)は東側を古墳周溝に切られ、全体の形状は不明となっている。東溝(b)は古墳の墳丘内にあったため、遺存が良好であり、整った形状で幅も広い。南端に段差が存在する。南溝(c)は西側を周溝と近世の道跡に切られるが、東側は比較的良好であり、東端に段差がある。西側にも段差がみられるが、削平のため不明な点が多く、掘り込みの可能性も残る。西溝(d)も古墳周溝に切られ、遺存が良くないが、両端に段差がみられる。

墳丘規模(周溝内側下端間)は南北9.67m、東西9.84mであり、軸方位はN-16°-Eである。周溝の断面はU字形に近い形状である。

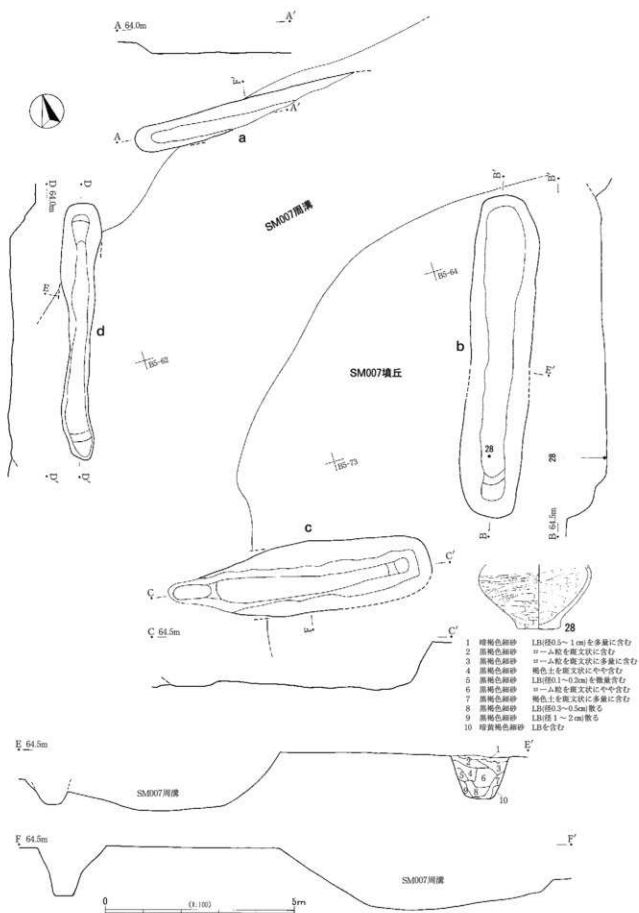
遺物は東溝の南側の底面付近から壺(第199図28)が出土した。埋葬施設は検出されなかった。

SS053 (第193・194・199図、図版92~94)

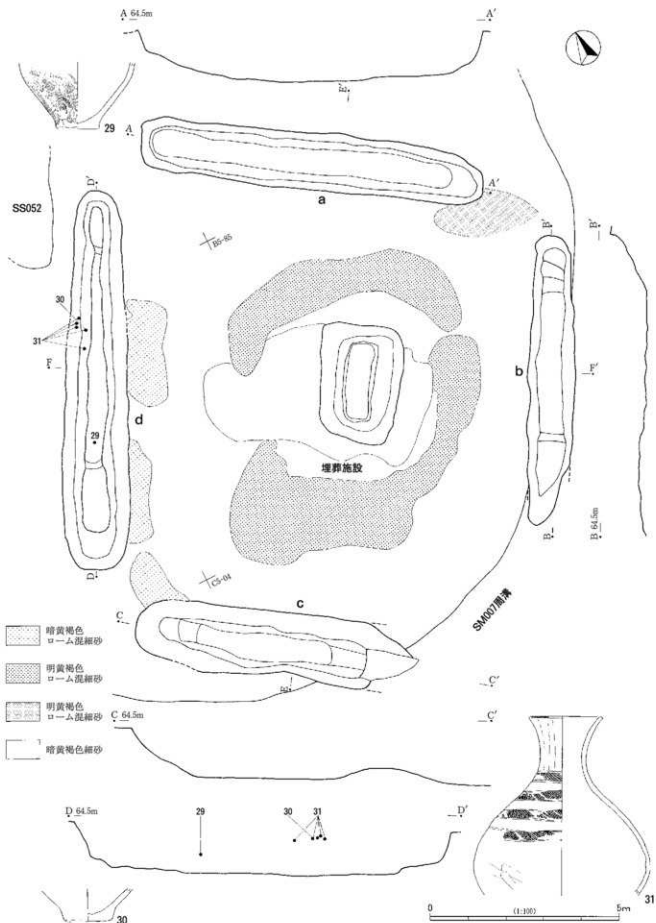
調査区の中央にあり、B5-95を中心とするグリッドに所在し、SS052の南東に位置する。円墳SM007の墳丘下に本遺構の大半が入り、東溝(b)の一部と南溝(c)の東側が古墳周溝によって削平されている以外は、古墳墳丘に覆われていたため遺存度が良い。周溝の並びは方形がやや崩れ菱形に近い形状であり、東溝以外の周溝には中場がある。東溝は北端に二段の段差があり、南部にも段差がみられ、底面は凹凸が著しい。南溝には緩やかな段差があり、底面は平坦である。西溝は南北に段差がある。方台部の区域は古墳墳丘に全面が覆われていたため、旧表土と部分的に方形周溝墓の墳土と考えられるものが僅かに残存していた。ただし、ほかの古墳は方形周溝墓の墳土を利用しているが、SM007の場合は平坦に整地してから古墳の墳丘を構築しており、周溝墓の墳土の残存は非常に薄かった。方台部中央には暗黄褐色砂があり、それを取り巻くように明黄褐色ローム混細砂がみられた。また、南溝西端際と西溝際には暗黄褐色ローム混細砂があり、北溝と東溝の間には明黄褐色ローム混細砂がみられたが、この部分については、周溝墓の墳土が崩れ流れたものと解釈できる。

墳丘規模(周溝内側下端間)は南12.20m、東西11.33mであり、比較的大型である。軸方位はN-30°-Eである。周溝の断面はU字形に近い形状若しくは逆台形の形状であり、上段が逆「ハ」の字状に開く箇所がある。周溝は東溝が最も深く、確認面からの深さは152.5cmである。

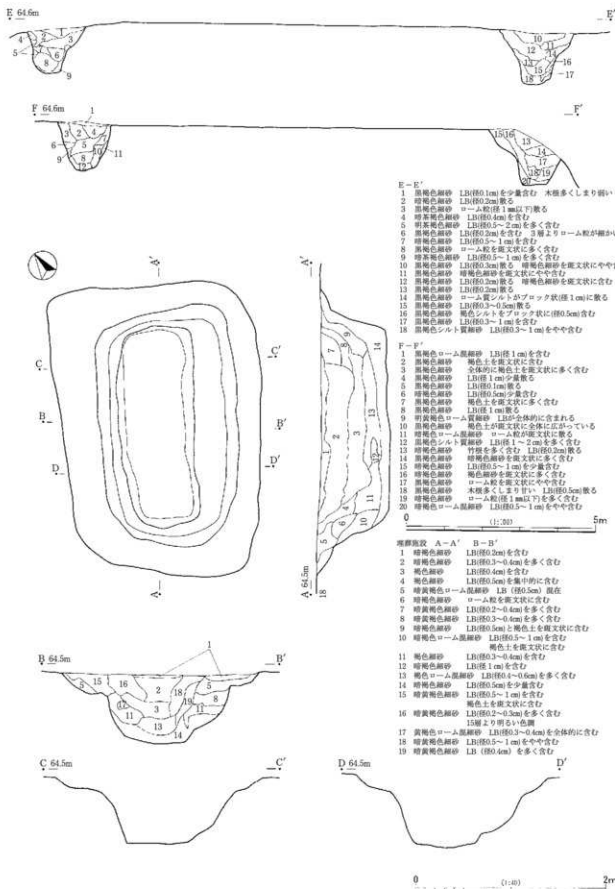
埋葬施設は方台部中央東寄りから2段掘りの土坑1基を検出した(第194図)。上面を検出した時点で、掘り方と棺痕跡のおおよその範囲が識別できた。掘り方は隅丸の長方形で上端が長軸3.21m、幅2.10mで、下端が長軸2.40m、幅1.22mである。深さは73cmであり、断面形は長軸が逆台形で上端が逆「ハ」の字状



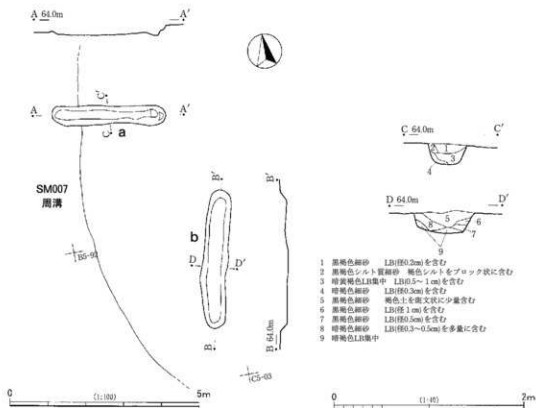
第192図 SS052



第193図 SS053 (1)



第194図 SS053 (2)・SS053埋葬施設



第195図 SS054

に開く形状であり、短軸も逆台形で東側に段差を有する。底面付近の層は全体に同一層であり、暗褐色細砂のなかにロームブロックを少量含む層である。棺痕跡は掘り方の中央にあり、長方形で長軸は2.13m、幅が0.82mであり、底面は掘り方の底面よりも10cm高い位置にある。覆土は中央部が落ち込んだ状態を示している。主軸方位は $N-30^{\circ}-E$ であり、周溝の方位と一致する。遺物は棺痕跡及び掘り方内からは検出できなかったが、西溝の覆土中層から壺(第199図29~31)を検出した。

SS054 (第195図, 図版94)

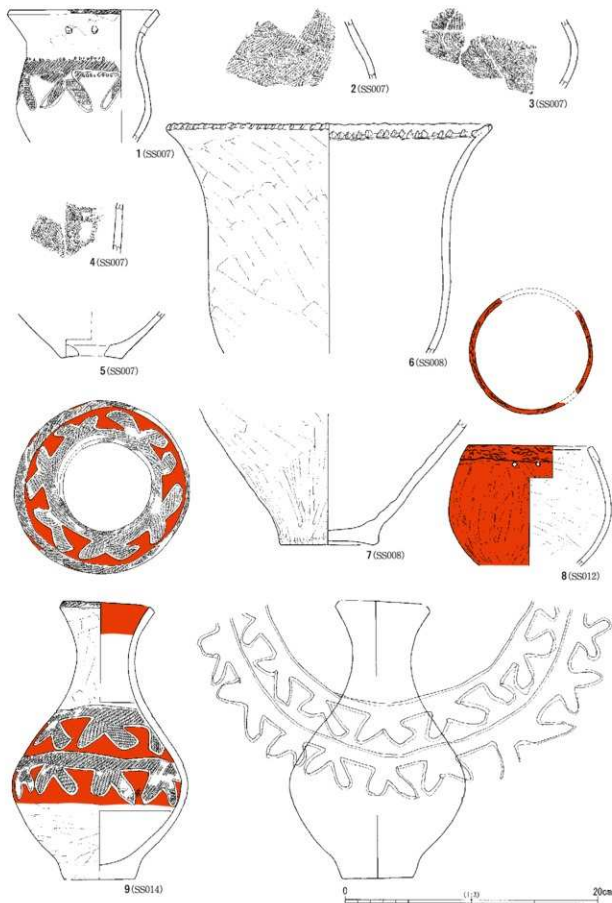
SS053の西にあり、遺構の中心グリッドはB5-82グリッドである。円墳SM007と重複し、古墳周溝によって本遺構の南溝と西溝は削平されたものと考えられ、北溝(a)と東溝(b)のみの残存である。北溝の西端は周溝によって切れ、東端には段差があり、先端部が深くなっている。東溝の底面には凹凸がある。

墳丘規模は不明であり、軸方位は $N-13^{\circ}-E$ である。周溝の断面は丸味を有する逆台形の形状であり、周溝の深さは60cmであり、SS053と比較すると浅い。

埋葬施設及び遺物は検出できなかった。

方形周溝墓出土土器

ここでは方形周溝墓から出土した遺物のうち方形周溝墓の設営時期を示す土器を報告する。方形周溝墓の設営時期を示さない遺物、すなわち縄文時代の土器や石器類については、前節の縄文時代で扱っている。



第196图 方形网沟墓出土土器(1)

この場合においては、図示した遺物については方形周溝墓の遺構名を記載している。なお図示をせずに集計のため一覧表で扱った遺物については方形周溝墓が所属する大グリッド名で示した。

事実記載に際して、各個体の基本的な属性（器種名・計測値・胎土・色調等）については観察表（第33表）で記載し、ここでは、観察表に盛り込むことのできない要素を中心に記載を行っている。

SS007（第196図、図版142・144）

1は縄文の原体はLRで、頸部縄文帯の上部には竹管状工具による右方向からの連続刺突が施される。連続刺突の押捺前に部分的に横位の沈線が施されていた可能性があるが、器表面の摩滅が進行しており、判然としない。縄文帯下の一部には上部と同一の工具による正面からの連続刺突が施される。縄文施文後に刺突が施される。同様に縄文施文後に沈線もしくは沈線のナゾリが施される。2個の穿孔は、焼成後の器面の柔らかい段階で、内面から器表面にむけて穿たれている。器表面の摩耗と内面の剥離が進行している。2は縄文の原体はLRで、無文部に赤彩が認められる。拓影図下端中央に沈線が認められる。3は縄文の原体はLRで、無文部を主体に赤彩が認められる。器表面の摩耗が進行しているが、沈線と充填縄文により意匠が描出される。4は、縄文の原体はLRで、無文部に赤彩が認められる。5は底部の穿孔は焼成後の段階によるものである。

SS008（第196図、図版142）

6は口縁部外面端部と、内面の折返し端部に終条体の押捺による刻みが施される。器表面の頸部以下での煤の付着が多い。7は胴部最大径部以下の個体である。底部から概ね同レベルの部位で破損しており、破損面は二次的に調整され平滑化していることから擬似口縁と考えられる。内面の剥落が著しく進行している。

SS012（第196図、図版142）

8は折返し口縁部と、口唇部に結節文が施される。二個一対の孔は焼成前に器表面から内面にむけて穿たれる。対向する部位にも焼成前の孔がひとつ穿たれるが、周辺が欠損しており二個一対であるか否かは不明である。

SS014（第196図、図版142）

9は縄文の原体はLRで、胴部最大径部周辺以上の無文部に赤彩が認められる。沈線は器面の比較的柔らかい段階で施されているため、沈線の施文によりはみでた粘土が沈線の両脇に認められる部分がある。

SS015（第197図、図版142）

10は頸部～胴部最大径部分の破片と、胴部最大径直下～底部の破片からの復元実測個体である。無文である。

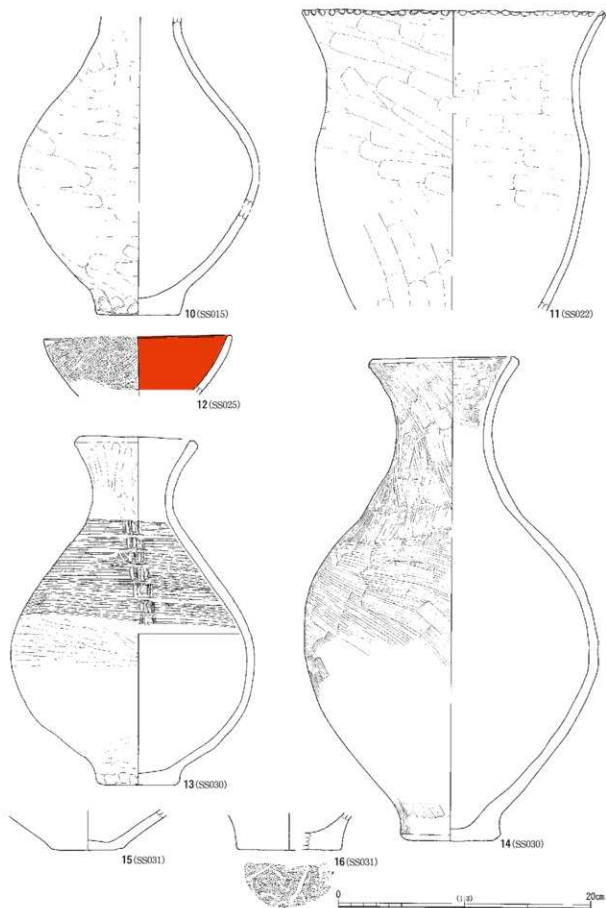
SS022（第197図、図版142）

11は口縁端部に表裏からの交互押捺が施される。右手親指腹を器表面に、人差指側面を内面に当て、口縁端部をこするようにして交互に歪ませており、器表面には押捺した際の爪形が残っている。胴部最大径部位以上での煤の付着が顕著である。

SS025（第197図、図版142）

12の縄文の原体は、口縁部（拓影図上）より、RL、LR+R 2本の附加条第1種、RL、結節、である。結節は拓影図下端の両脇に認められる。

SS030（第197図、図版142）



第197图 方形周溝墓出土土器(2)

13は横位の集合沈線の施文後に、4単位の縦位の意匠を施す個体である。単位部の縦位の意匠は、3本単位の条線の細い櫛状工具、条線の太い半截(多截)竹管、条線の細い半截(多截)竹管、単沈線、という4種類の施文の組合せを原則とする。横位の集合沈線についても同様の施文の組み合わせによるものと考えられるが、ともに規則性は認められない。単位部の縦位の意匠は、縦方向に7段の箇所が2か所、6段の箇所が2か所、対向する部位に同数のものが配置されるのではなく、隣接する部位に配される。14は調整のみの個体である。口唇面には調整痕跡は認められない。胴部最大径部位から底部にかけて、1か所のみ縦方向の凸部とその剥落の痕跡が認められる。個体整形段階での貼付けの可能性と、焼成段階での膨張の可能性の、両者の可能性がある。凸部ではハケによる調整痕跡は認められない。

SS031 (第197図、図版144)

15は底部成形時に、円盤状の底面を製作しその上に粘土紐を巻き上げた痕跡がうかがえる。16は木葉痕が残る底部で、胎土中に炭化した藁すさ状の混和材が認められる。

SS032 (第198図、図版142・143)

17は頸部下端・胴部上半・胴部最大径部位に横位の刺突列が施される。半截竹管を用いた左方向から右方向への押しきによるものである。刺突列間には横位の沈線が充填されるが、これについても半截竹管によるものである。胴部最大径部以下には「ハ」字状の意匠が施されるが、これについても半截竹管による平行沈線を隣接して2回施すものである。胴部上半の押し文と赤彩無文部間には沈線が認められるが、原体が半截竹管であるか否かは判断できない。この沈線内には明瞭に赤彩が残っていることから、沈線施文後に赤彩が施されたことがうかがえる。無文部以外への沈線充填施文→無文部の荒いナデ調整→赤彩塗布、という施文順序を確認することができる。実測図では「ハ」字状意匠下端が隣接する部位には縦位に縄文が施される。同一個体の拓影図では、「ハ」字状意匠頂部内側にも縄文が施文される。器面の乾燥した段階でのRLによるものである。18は底面基部付近にへらの痕跡がよく残る。

SS033 (第198図、図版143)

19はケズリの痕跡がよく残る。

SS037 (第198図、図版143)

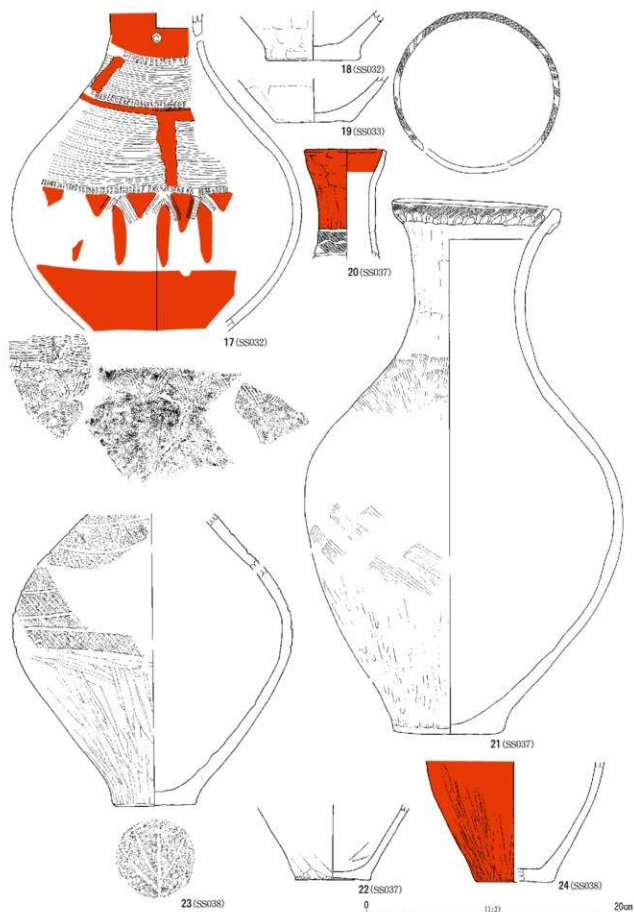
20は口縁端部から口唇面が僅かに残存する。口唇面には赤彩塗布が確認できる。また、縄文が施された可能性がうかがえる痕跡もあるが確定できない。横位の帯縄文間には波状の単沈線が施される。帯縄文下は無文で赤彩が認められる。21は口唇部及び口縁端部に縄文LRが施される。縄文下の押捺は指頭によるものではなく丸先棒状工具によるものである。縄文施文の際の圧による粘土が押捺上にかぶる部分が認められることから、押捺の後に縄文が施される。押捺下のみに横位のハケ調整がめぐる。22は底部の基部にハケ状の縦位の調整痕が認められる。工具の詳細は不明であるが、一部には細い棒状工具の痕跡も認められる。

SS038 (第198図、図版143)

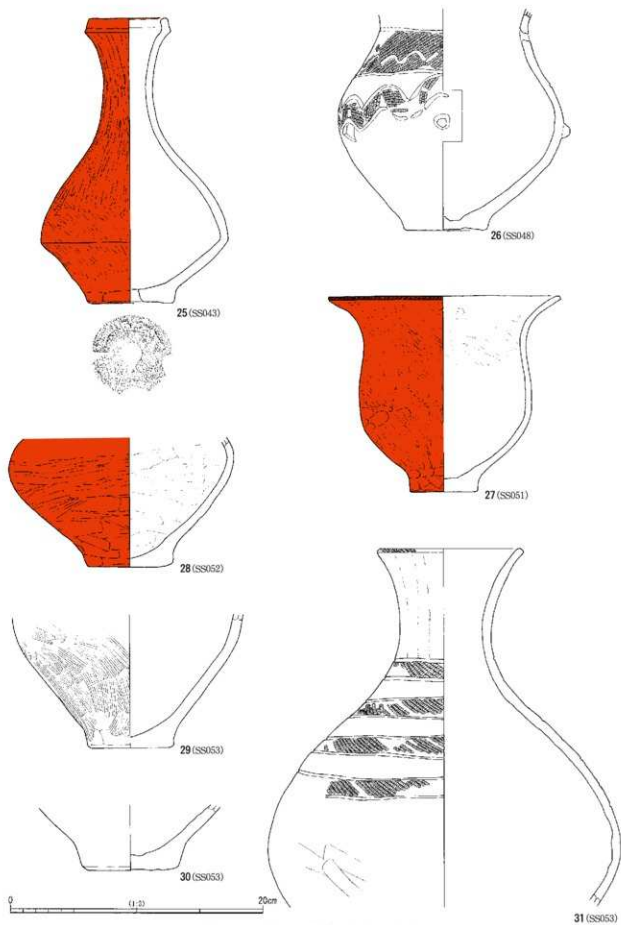
23は無文部を挟んで横位の縄文帯が交互に並行するように施される。縄文はRLである。無文帯と縄文帯の幅が均等ではない部分がある。器表面全面に赤彩塗布が認められる。24は器表面全体への赤彩塗布の痕跡が認められる。

SS043 (第199図、図版143)

25は焼成後の底部穿孔が認められる。内面は口縁端部のみに赤彩塗布が認められる。



第198图 方形周溝墓出土土器(3)



第199图 方形周溝墓出土土器(4)

SS048 (第199図、図版143)

26は胴部最大径部位に6単位の瘤状の突起を有する。胴部上半の縄文LRの施文域には波状沈線が施される。胴部最大径部位には波状の帯縄文が施される。縄文はLRである。器表面の摩耗が著しく進行しており、胴部最大径部位の波状文部位に赤彩塗布が認められる。頸部（縄文带上端の沈線部位）には焼成後の穿孔が認められる。内面から器表面にむけて穿たれている。残存する部位では1か所のみの穿孔が認められる。対向する部位及び隣接する部位は欠損しており、穿孔の有無は確認できない。個体上端部は欠損していると捉えられるが、口縁端部が残存している可能性もあり、さらに口縁端部（口唇部）には縄文が施されていた可能性のある痕跡も認められる。摩滅が著しく進行していることから確定できない。

SS051 (第199図、図版143)

27は頸部及び胴部最大径部位に赤彩塗布の痕跡が残る個体であるが、本来は器表面全体に赤彩が塗布されていたと考えられる。内面は頸部以下から底部にかけて赤彩塗布の痕跡が僅かに残っているようにも捉えられるが判然としない。口唇部には縄文LRが施される。

SS052 (第199図、図版143)

28は胴部最大径部位に赤彩塗布の痕跡が認められる。

SS053 (第199図、図版143)

29は赤彩塗布の痕跡が残る。30は底面外縁部の全周にわたって面取りが認められる。個体破損後に研磨などの再利用行為により生じた可能性がある。31は胴部上半の帯縄文と口唇部に縄文を施す個体で、原形は縄文RLである。

(2) 竪穴住居跡

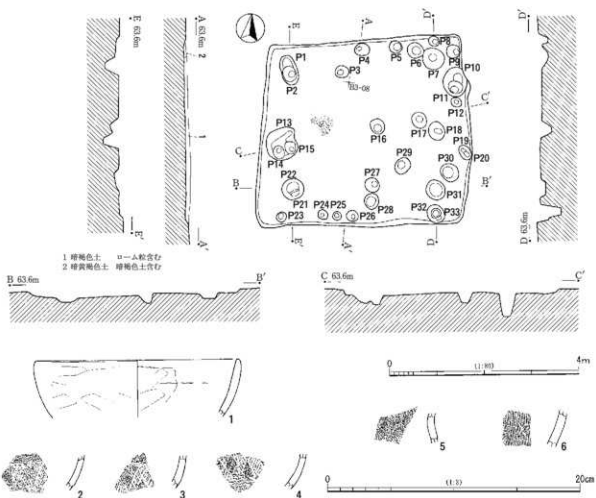
ここでは弥生時代後期から古墳時代中期の住居跡（SI002～SI021・SI023）、及びそこから出土した遺物を報告する。

住居跡の事実記載において、長軸長・短軸長については、それぞれ主軸長・副軸長とは一致しない。あくまで計測値の長い方を長軸長、短い方を短軸長としている。長短が一瞥して判明しない場合は文中に“長軸（NW-SE）長約4.3m”等と記している。

炉微細図中のスクリーントーンは焼土の分布範囲を示しており、受熱による赤化・硬化した範囲ではない。なお、焼土分布範囲の記録においては、例えば、土層断面においては純粋（プライマリー）な焼土層のみをスクリーントーンで示したが、平面的な分布範囲においては、暗褐色土・黒褐色土を混じる焼土の分布範囲をも記録しているため、平面の範囲と断面の範囲には齟齬が生じている部分がある。

柱穴の深度については事実記載の後に一括して掲載した（第28表）。柱穴の番号については発掘調査時点で番号を付与したものについてはそれを踏襲し、それ以外のものは整理作業段階で任意に付している。深さの記入のないものは、整理作業段階で深度を計測できなかったものである。なお、柱穴の番号の付与については、掘り込みの上場を単位とせず、下場の掘り込みを単位としている。

住居跡出土土器の事実記載において、例えば厳密には古墳時代に設営された住居跡から出土した弥生時代後期の土器については当該遺構に伴わないものであるが、便宜的に一括して図示して扱うことにする。ただしこの場合においては、当該遺構に伴うものであるか、当該遺構設営以前のものであるか否かについて、判別できるものについては事実記載中で示しておく。



第201図 SI002、SI002出土土器

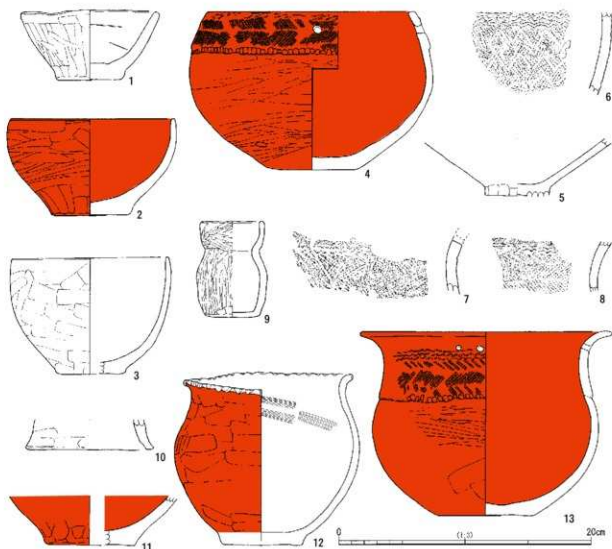
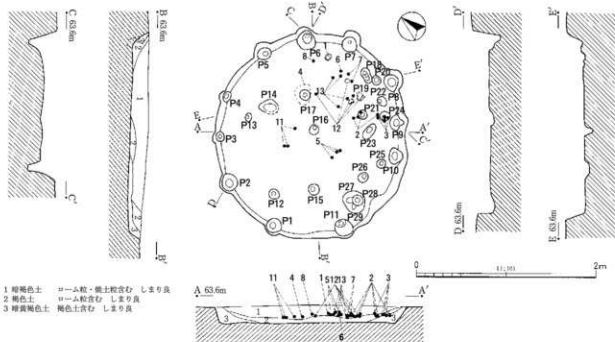
なお住居跡から出土した縄文時代の土器や石器類については、前節の縄文時代で扱っている。この場合においては、図示した遺物については住居跡の遺構名を記載している。なお図示をせずに集計のため一覧表で処理した遺物については住居跡が所属する大グリッド名で示した。

事実記載に際して、各個体の基本的な属性（器種名・計測値・胎土・色調等）については観察表（第33表）で記載し、ここでは観察表に盛り込むことのできない要素を中心に事実記載を行っている。

SI002（第201図、図版95・148・149）

A3-97・B3-08で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約4.5m、短軸長約4.0m、確認面からの深さは約10cmである。プラン西側には床面から若干浮いた状態で焼土が検出されている。炉は検出されず、床面直上での焼土の分布も認められなかった。硬化面も認められなかった。柱穴は33本が検出された。配置からP2、7、21・22、31が主柱穴と考えられるが、これらの柱穴の深度が卓越するわけではない。

出土土器について、1は内面の剥離が進行している。2～4は平行沈線や単沈線で囲まれた山形文・三角文内部に、短沈線を充填するもので、無文部は原則として赤彩塗布が認められる。山形文・三角文は二



第202図 SI003、SI003出土土器

段構成の文様であり、段の間には結節縄文が施される。山形文内には縄文LRが施される。5は頸部から肩部の破片で、無文部に赤彩塗布が認められる。

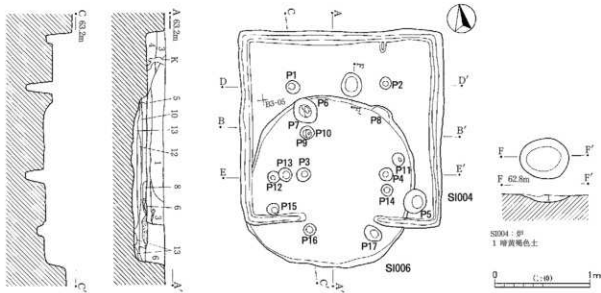
SI003 (第202図、図版95・96・144・149)

B3-06・B3-17で検出をした円形を呈する住居跡である。長軸長約4.4m、短軸長約4.0m、確認面からの深さは約30cmである。壁際にほぼ等間隔で柱穴が巡る。炉は検出されず、硬化面も認められなかった。遺物は1層下面から出土したものが多く、本跡中央北西にはSK022(縄文時代陥穴)が設置されており、柱穴の掘り方の一部を確認できなかった部分がある。また、SK022範囲内においては柱穴自体を確認できなかった可能性もあろう。また、焼土の堆積が少なく受熱による掘り方の赤化が顕著でない炉の存在を想定した場合、やはりSK022の存在によって炉を認識できなかった可能性もあろう。柱穴の配置や深度からは主柱穴を抽出できない。

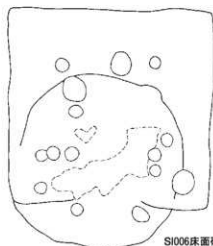
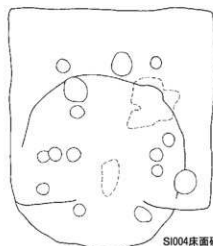
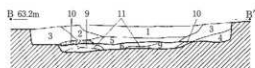
出土土器について、1は小型の鉢形土器であるが、ミニチュア土器の部類に分類できるのかも知れない。3はへら状工具の木口による調整で底面から胴部にかけて直に立ち上がる部分とそうでない部分がある。4の口縁部は、上端から、結節文、縄文RL、縄文LR、押捺文の順に施されることを原則とする。押捺文内にも羽状縄文下半の縄文LRが施されるが、部分的に押捺文直上の部位に縄文RLが施される。縄文施文後の焼成前の穿孔が認められる。器表面から内面にむけて穿たれる。対向する部位は欠損しているため穿孔の有無は不明である。胴下半には焼成後の穿孔が認められる。内外面双方向からの穿孔である。底面及び底部縁辺部の摩耗が進行している。6は破片上端より、結節文、鋸歯文内の縄文RL、縄文LR後の磨消し、鋸歯文内縄文RL・LR、結節文が施される。破片下端の鋸歯文と結節文間は無文ではなく縄文LRが施される。破片上端は口縁部が残存している可能性もあるが、摩擦・剥落が進行しており判然としない。7・8は破片上端より、結節文、縄文RL、縄文LR、縄文RLが施される。内外面ともに赤彩塗布が認められ、縄文施文後に擦痕風の縦横の調整が認められる部分がある。7の拓影図上端中央部には穿孔が認められる。穿孔が焼成前であるか後であるかは判断できない。12の底面縁辺部は被熱等により剥落が進行している。13の頸部は上端から、結節文、縄文RL、縄文LR、縄文RLが施される。頸部下の押捺文内には縄文RLが施されるが、一部、LRの可能性のある部分が認められる。内外面の全面に赤彩塗布が認められる。頸部上半に二個一対の穿孔が認められる。焼成前の器表面側からの穿孔である。穿孔間にはひび割れ等は認められないことから、焼成前及び乾燥段階での補修孔ではない。対向する部位での穿孔の有無については、当該部位が欠損しているため不明である。

SI004・006 (第203～206図、図版96・144・145)

A3-94・B3-04・B3-05で検出した2軒の住居跡である。検出面での精査により、北側の方形の住居跡と南側の円形の住居跡の重複を予想した。サブレンチによる土層断面の観察により方形の住居跡(SI004)については古墳時代前期の設置、円形の住居跡(SI006)については弥生時代後期の設置であるとの重複関係を把握した。調査においてはSI004の貼床や硬化面が限られた範囲のみでしか認められず、SI004・SI006共に焼失住居跡であることから覆土の区別が容易ではなかった。結果的にSI004住居跡のみを単独で完掘することはできなかった。しかしながら遺物についてはSI004の範囲内においていくつかのまとまりをもって出土したことからほぼSI004からの出土であると判断できた。また炭化材や焼土につい

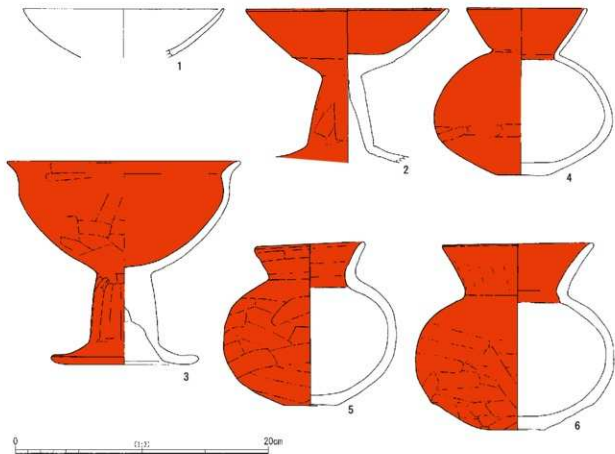
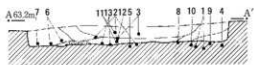
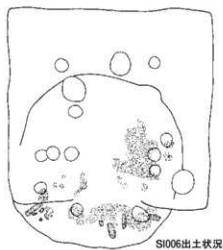
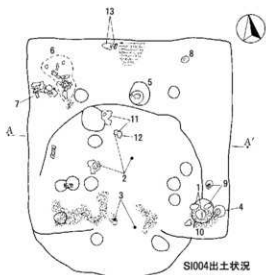


- 1 黒褐色土 暗褐色土含む
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土 黒色土含む
- 4 暗褐色土
- 5 暗黄褐色土
- 6 暗黄褐色土 コーム粒含む
- 7 暗黄褐色土 6+少量の焼土粒・炭化粒含む
- 8 暗黄褐色土 硬化した6 (局部)
- 9 暗褐色土 炭化粒含む
- 10 暗黄褐色土 粘質
- 11 黄褐色土 褐色土含む
- 12 暗黄褐色土 炭化粒・焼土粒を多く含む
- 13 黄褐色土 LB主体

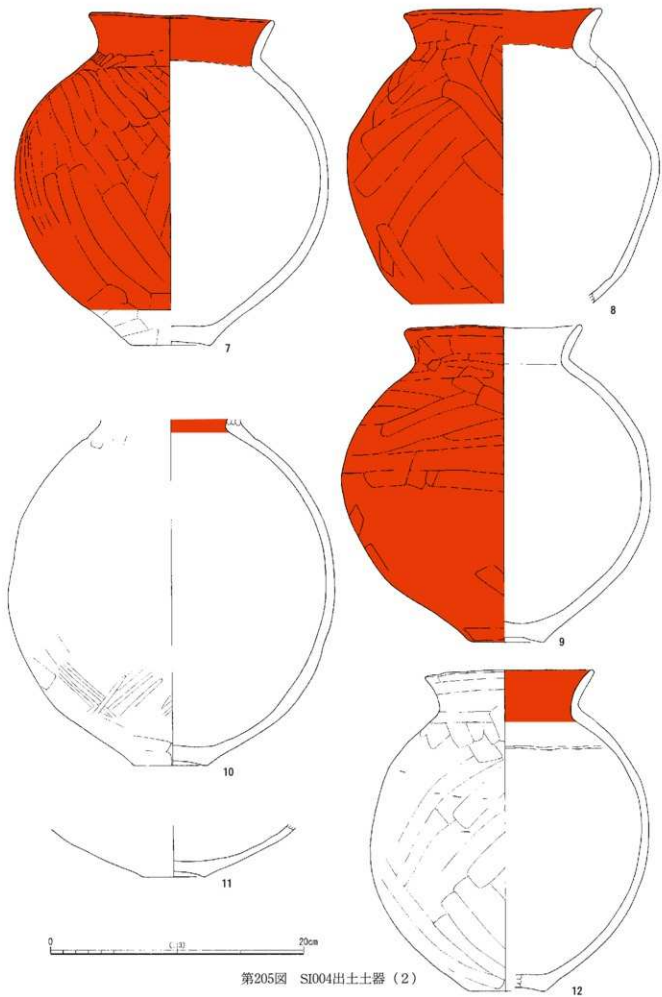


0 (1:80) 4m

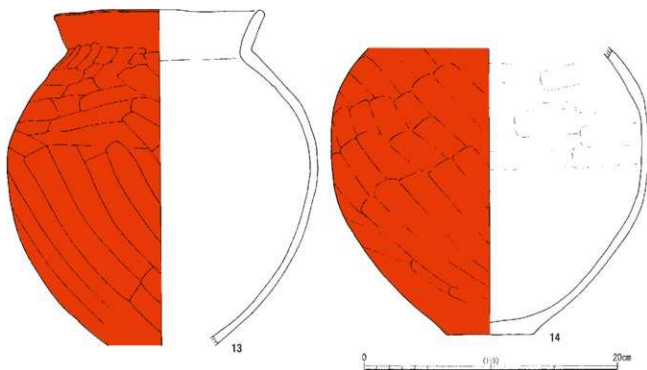
第203図 SI004・SI006 (1)



第204图 SI004・SI006 (2)、SI004出土土器 (1)



第205図 SI004出土土器(2)



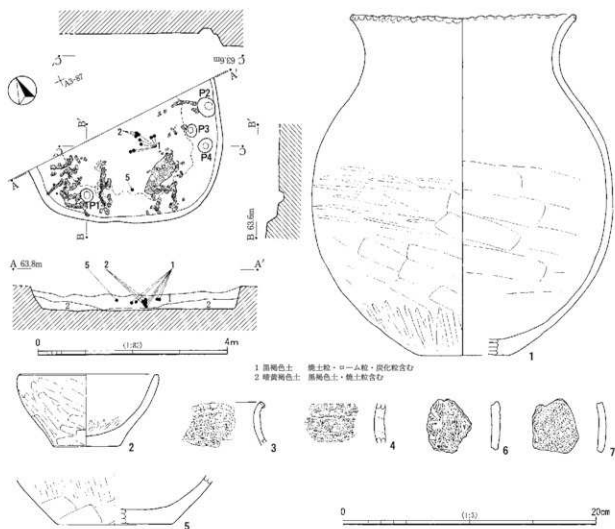
第206図 SI004出土土器（3）

ても分布や出土レベルからSI004とSI006のものに分けることができた。

SI004はA3-94・B3-05で検出をした方形を呈する住居跡で焼失したものと考えられる。主軸長約4.1m、副軸長約4.2m、確認面からの深さは約30cmである。壁は垂直に立ち上がる。SI006上に設置され、南側の壁の一部はSI006との重複のため明確に検出できなかった。深さ約10cm前後の壁溝がめぐり、壁の下端は壁溝の下端でもある。北東部に間仕切り状の短い溝が付属する。壁溝の深さは10cm前後である。入り口部および炉の南東に硬化面が認められる。柱穴の深さはSI004床面の標高に近い標高62.7mからの深さを算出した。SI004・006の柱穴については調査段階では明確にどちらの住居跡に伴うものか区別ができなかったための措置である。深度の卓越するP1・2・3・4がSI004の主柱穴であり、P5もSI004に伴うものであろう。P6・7はSI004の床面の精査時点で検出されていることからSI004に伴うものである。炉や覆土中の焼土の混入は顕著ではない。遺物は床面付近のレベルから出土したものが多く、プラン中央部から出土したものは床面より上部から出土したことが多い。

出土土器について、1は内外面共に摩滅が進行しており赤彩塗布の有無は不明である。2は内外面共に摩滅が進行している。3は口縁端部から杯部上半での煤の付着が顕著である。4は胴部の摩滅が進行している。6は器表面の胴部付近の剥落が顕著である。9は胴部最大径部位付近で煤の付着が目立つ。10は頸部輪積痕部で欠損している。成形・整形は轆で、ヘラ状工具による頸部の整形痕跡がよく残る。頸部内面に赤彩塗布が認められる。器表面にも赤彩塗布が僅かに残るが、範囲を明確にできるほどではない。11は内面に丁寧なナデ調整が及んでいる。甕であろう。

SI006はB3-04・B3-05で検出をした円形を呈する住居跡で焼失したものと考えられる。径約3.6m、確認面からの深さは約50cmである。壁は垂直に立ち上がる。SI004との床面レベルの差は約15cmである。床面



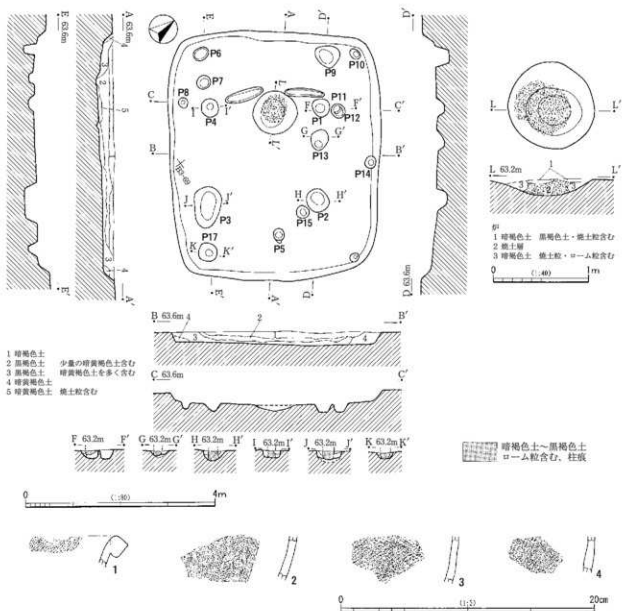
第207図 SI005、SI005出土土器

中央部に硬化面が認められる。炉は検出できなかった。柱穴については深度や配置から主柱穴を抽出できなかった。遺物は覆土中部から土器片が1点出土しているが、接合の結果、SI004出土土器（第205図12）と接合したことから、混入と考えられる。

SI005（第207図、図版97・145・146・149）

A3-86・A3-87で検出をした隅丸方形を呈すると考えられる住居跡で焼失したものと考えられる。プランの半分程度は調査区外にある。推定長軸（NW-SE）長約4.3mで確認面からの深さは約30cmである。床面は壁際を除く範囲が硬化面になっている。柱穴は浅い。炉は検出されなかった。炭化材は垂木を思わせる棒状のものが多く、全体としては住居跡中央部に向かって放射状に出土している。出土レベルは壁際では遺構検出レベルに近く、住居跡中央部では床面レベルに近い。P4の東側には不整形の板状の炭化材（残存最大長約105cm、同最大幅約40cm、同厚さ約3cm）が確認された。径約10cmの穴が2～3か所に穿たれていた可能性がある。遺物はプラン中央付近の覆土下層・中層から出土している。

出土土器について、1の口縁端部は指頭ではなく工具による左下がりの押捺である。個体上半は内外面

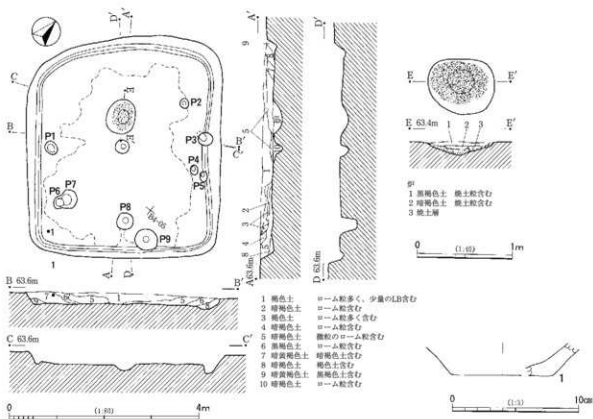


第208図 SI007, SI007出土土器

共にナデ調整がなされる。3の口縁端部は指頭ではなく工具による押捺である。4は甕の頸部破片で輪積痕がよく残る。6は壺の胴部最大径部位の破片を用いた土器片製円盤である。沈線・縄文LR・結節文が施される。破片上端には土器片錘にみられる刻みのようなものが認められるが、判然としない。破片縁辺部は研磨されていない。7は縄文RLが施された壺の破片を用いた土器片製円盤で、破片上下端には土器片錘にみられる刻みのようなものが認められるが、判然としない。破片縁辺部の一部は輕易に研磨されている。

SI007 (第208図、図版97・149)

B3-48・B3-69で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約5.3m、短軸長約4.5m、確認面からの深さは約30cmである。炉は粘土の堆積が顕著で掘り込みはしっかりとしている。床面の硬化範囲は認めら



第209図 SI008、SI008出土土器

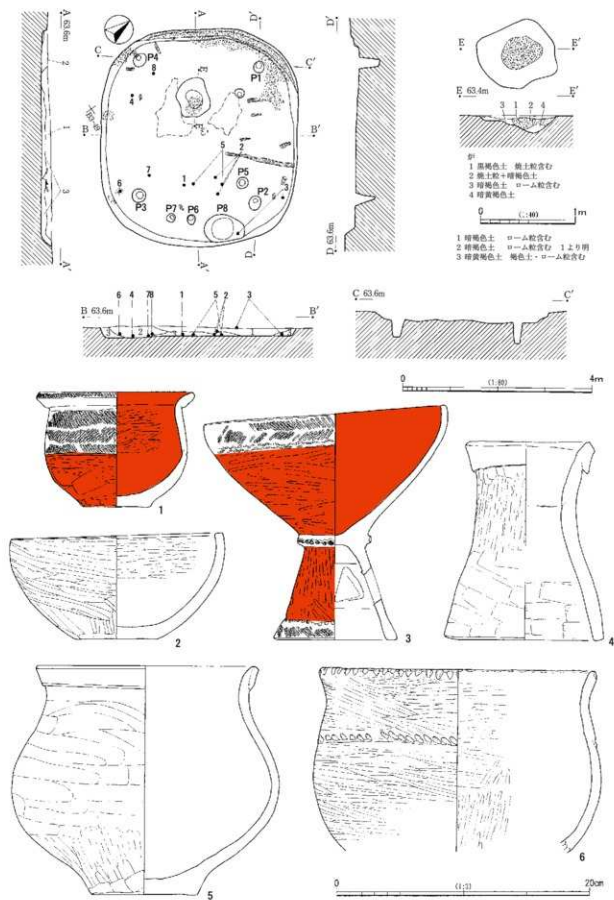
れない。主柱穴は柱穴配置からP1～4と考えられ、P5は入口の梯子穴であろう。プランの四隅にも柱穴が認められる。P1～4、13・17の土層断面から柱痕が確認できた。炉の奥壁側の両脇には長さ約90cm、深さ10cm前後の溝状の施設が認められるが、機能は判然としない。

出土土器について、1は壺の口縁で、縄文LRが施される。縄文施文部・口縁肥厚部以外は内面も含め全面に赤彩塗布が認められる。肥厚部下面にも赤彩塗布が認められる。2は木口による調整が認められる。3は破片中央部と下端に若干の無文部を挟み縄文無節Lが施される。破片右上端は縄文無節Rの原体押捺かもしれない。4は縄文LRが施され、破片右下には結節文が認められる。

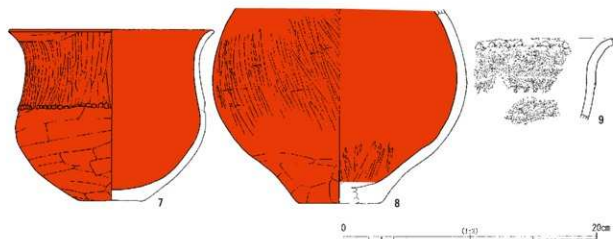
SI008 (第209図、図版97・149)

A4-94・B4-05で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約4.7m、短軸長約4.2m、確認面からの深さは約20cmである。深さ約5cmに満たない程度の浅い壁溝がめぐり、壁の下端は壁溝の下端でもある。炉は多くの焼土が堆積している。床面縁辺部を除き硬化面が確認されるが、南半においては壁際まで硬化面が確認できる。柱穴は深度が比較深いものが多いが、深度や配置から主柱穴は抽出できない。P8は入口の梯子穴であろう。覆土は全体的にしまり良好で人為的な埋戻しを彷彿とさせる。床面から約5～10cm程度の褐色土(rome粒を多く含む)を除去した段階で掘り方が確認できる。

出土土器について、1の器表面はケズリの後、縦位のナデ調整がなされる。



第210图 SI009、SI009出土土器(1)



第211図 SI009出土土器(2)

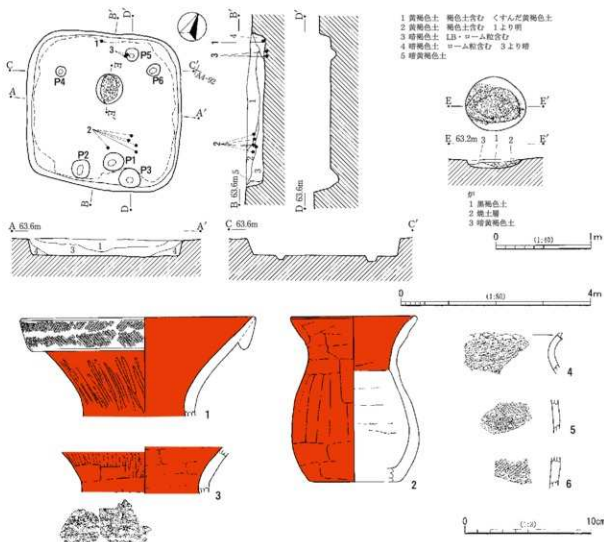
SI009 (第210・211図、図版98・146・149)

B3-38・B3-49で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。壁は垂直に立ち上がる。長軸長約4.6m、短軸長約4.1m、確認面からの深さは約20cmである。奥壁側の壁際には覆土中から床面にかけて焼土が堆積しており、焼土を除去したところ、当該部分の壁にテラス状の段が検出された。また壁際に散発的に炭化材が検出された。炉は焼土の堆積が多く認められ、炉の周辺部には硬化面が認められた。柱穴はP1～4が深度が40cm前後であり配置からも主柱穴と考えられる。P6は入口の梯子穴、P8は貯蔵穴であろう。遺物は遺存状況の良好な個体が床面直上付近を中心に出土している。

出土土器について、1は口縁端部が縄文RL、胴部は上からRL、LR、RLである。2は口唇部(口縁上面)は調整により凹線風に若干くぼんでいる。内外面の底面付近は帯状(幅約2cm弱)に煤の付着が一周している。厚手で重量感のある個体である。3の口縁部には上から縄文RL、LR、結節文である。体部と台部の間の突帯上には押捺後に縄文LRが施される。台部下端の折返し部上端には竹管による円形刺突が施され、以下に縄文RLが施される。三角形の透孔が3個施される。4は厚手で粗雑なつくりの器台である。調整も概して粗雑であるが、個体上半のミガキと口縁端部の丁寧なナデは例外である。6は押捺内にハケ目の押捺が認められる。棒状工具の木口による押捺かもしれない。7の押捺は円形棒状工具によるものであるが、工具の木口は平坦ではなく段差がある。9は内外面共に脆弱化が進行した破片で、口縁端部と頸部下に押捺がめぐる。

SI010 (第212図、図版98・146・149)

A4-81・A4-92で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。長軸長約3.3m、短軸長約3.2m、確認面からの深さは約30cmである。壁は垂直に立ち上がる。炉は多くの焼土が堆積していた。床面の壁際を除くほとんどの部分に硬化面が認められた。6本の柱穴のうちP3のみが硬化範囲外のものである。柱穴の深度や配置から主柱穴は抽出できない。遺物は壁際の床面直上、およびプラン南半の覆土中位からまともに出て出土している。覆土は全体的に硬質でブロック状を呈していることから人為的な埋戻しの可能性もあろう。



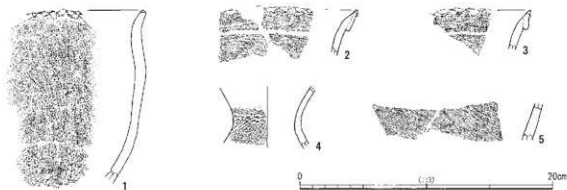
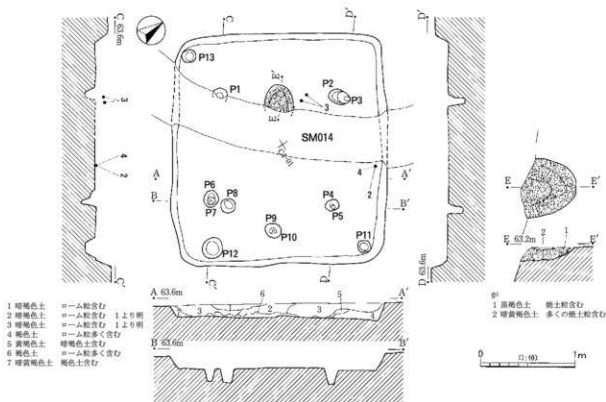
第212図 SI10, SI1010出土土器

出土土器について、1の口縁部には上から縄文LR、RLが施される。3は壺の頭部下半の破片で、破片下端に横位の結節文が施される。器表面は全面に赤彩塗布が認められる。5は縄文RLが施される。6は縄文LRと結節文が施される。

SI011 (第213図、図版99・146・149)

B4-90・C4-01で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約4.9m、短軸長約4.5m、確認面からの深さは約30cmである。SM014によって横断するように壊されており、柱穴の一部と炉の半分程度が確認できない。炉は比較的多くの焼土が堆積している。床面の硬化範囲は認められなかった。柱穴の配置からP1、2・3、4・5、6・7が主柱穴と考えられ、P9・10が入口の梯子穴と考えられる。P1をのぞきそれぞれが二個一對の掘り込みを有していることから、建替えの可能性がある。

出土土器について、1は小形の甕で、外面には幅狭の板状工具による縦位の粗い調整と、破片右側ではハケ状工具による粗いナゲ調整が認められる。破片下端は底部に近い部位である。破片上端では煤の付着が多い。2は内面にハケ状の調整が認められる。4は上から結節文、縄文LR、縄文RLが施される。外面



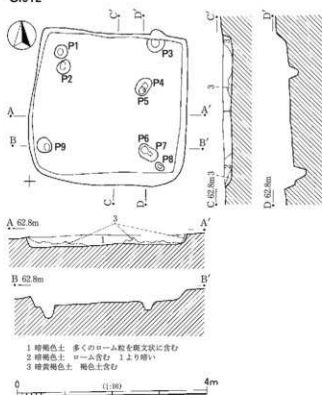
第213図 SI011、SI011出土土器

は全面に赤彩塗布が認められ、内面は括れ部位上に赤彩塗布が認められる。5は内外面共にハケ状のナデ調整が認められる。

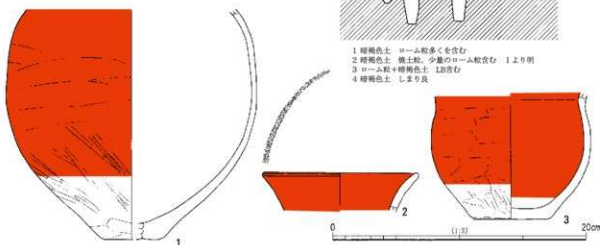
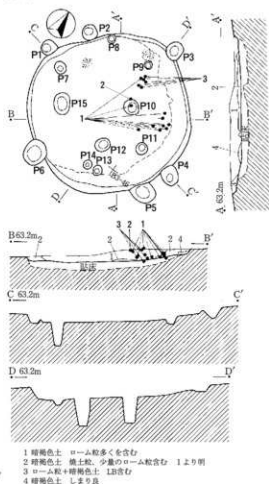
SI012 (第214図、図版99)

B3-44・B3-54で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸(E-W)長約3.3m、短軸長約3.2m、確認面からの深さは約25cmである。炉は検出されず、床面での焼土の分布等も確認できなかった。床面の硬化範囲は確認できなかった。柱穴は配置から、P2、4・5、6・7、9が主柱穴の可能性があろう。P3の掘り込みは壁をまたいでいる。出土遺物はない。

SI012



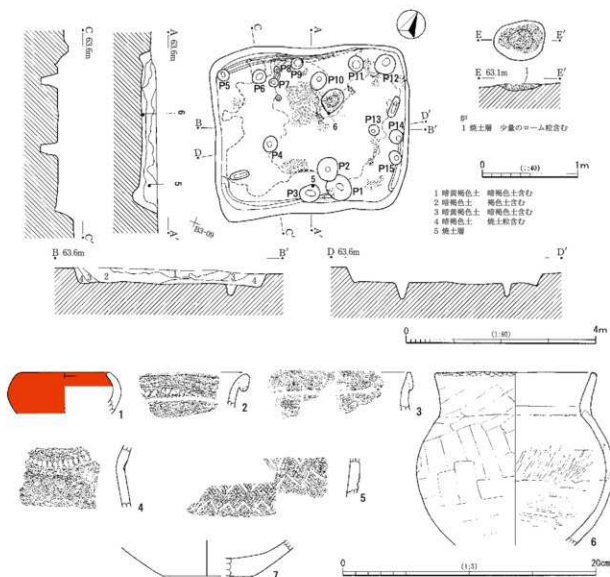
SI013



第214図 SI012・SI013、SI013出土土器

SI013 (第214図、図版99・146・149)

B3-35・B3-46で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。長軸 (NE-SW) 長約3.4m、短軸長約3.3m、確認面からの深さは約40cmである。炉は検出されなかった。実測図中の焼土の範囲は共に床面から約10cm程度浮いた状態で検出されたものである。床面は北東部と南東部の壁際を除いた部分が硬化面である。床面は壁際付近で皿状に緩やかに立ち上がり斜めに掘り込まれた壁に連なる。柱穴は壁外に6本が検出された。床面に掘り込まれた柱穴は配置・深度等から主柱穴を抽出できない。床面の柱穴は全て床面の硬化範囲内に穿たれている。遺物はプラン西側の床面直上から覆土上位にかけてからまとまって出土している。床面から約10cm程度の暗褐色土・黄褐色土 (ローム粒を多く含む) を除去した段階で掘り方が確



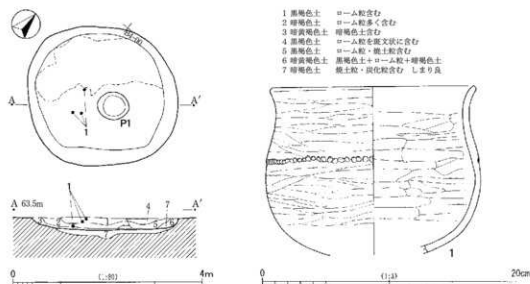
第215図 SI014, SI014A出土土器

認できる。

出土土器について、2は口縁端部（口唇部）に縄文RLが施される。内外面共に全面に赤彩塗布が認められる。

SI014（第215図、図版100・147～149）

A3-88・A3-99で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約4.1m、短軸長約3.5m、確認面からの深さは約30cmである。プラン北辺と南東端の一部に壁溝が認められる。深さは共に約5cmである。このほか柱穴とは考えられない短い間仕切り状の溝が3か所認められる。深さはいずれもやはり約5cmである。炉は多くの焼土が堆積している。硬化面は壁際を除くほとんどの部分に認められ、さらにそのなかで硬化が顕著な範囲も認めることができる。前述の間仕切り状の溝のうち壁東辺のものは、この硬化面が掘り込みの上部に被さっている。硬化面の差異は、機能の差異の可能性があると同時に、住居自体を西側に



第216図 SI015、SI015出土土器

拡張した結果の可能性もあろう。柱穴は深度や配置から主柱穴を抽出できない。床面直上付近には焼土や炭化材の堆積が認められ、P1の覆土上面にも焼土が堆積している。住居跡全体の覆土はしまり良好である。遺物は床面直上や覆土中から出土している。

出土土器について、1は内外面共に全面に赤彩塗布が認められる。器台であろう。2は折返し口縁下端部の押捺は破片右半のみに認められる。3は折返し口縁下端部に押捺は施されない。5は破片右上の鋸歯文内の縄文はRL、中断の鋸歯文下の縄文は上からRL、LRの順で、破片下端の鋸歯文下は結節文とLRが施される。6の口縁端部は、浅い押捺が施される部分とそうでない部分がある。そうでない部分においては、断面が口唇面が平坦になる部分と丸先状になる部分がある。

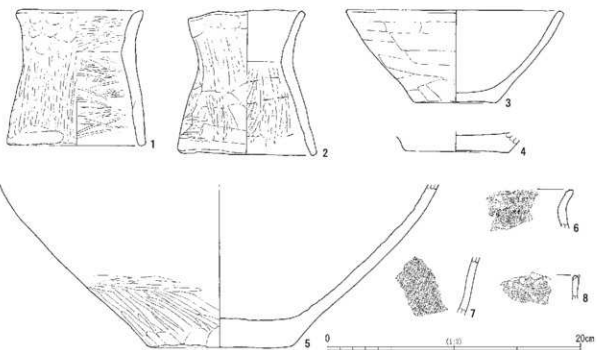
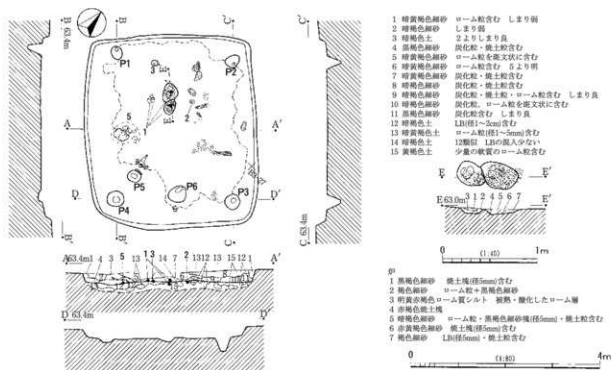
SI015 (第216図、図版147)

B3-09・B4-00で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。長軸長約3.1m、短軸長約2.9m、確認面からの深さは約30cmである。床面は平坦ではなく皿状を呈し、壁も斜めに立ち上がる。炉は確認できなかった。硬化面はプラン北半で確認された。プラン南半には深さ約15cm程度の土坑が認められる。覆土はローム粒を含む暗黄褐色土の単一土層で、焼土の堆積はなく、坑底面や壁面に受熱の痕跡が認められないことから炉ではない。住居跡の調査後、硬化面の認められない部分を精査したところ、土坑(SK037:第88図)が検出された。土層断面を精査したところ、SI015よりも古い設営であることが判明した。遺物は床面からやや浮いた部位と覆土上層から出土している。床面から約10cm程度の暗褐色土・暗黄褐色土(13層)を除去した段階で掘り方が確認できる。

出土土器について、1は棒状工具による刺突が施される。

SI016 (第217図、図版100・147・150)

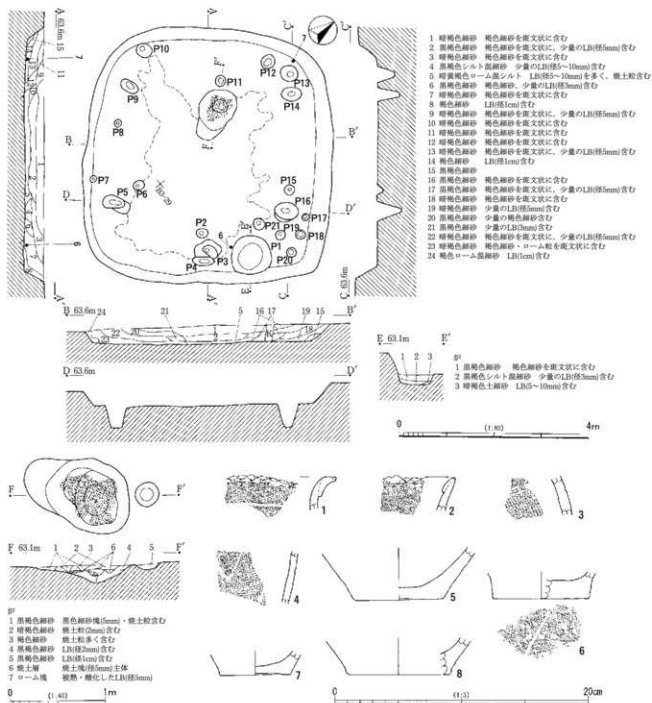
B3-16・B3-27で検出をした方形を呈する住居跡である。長軸長約4.1m、短軸長約3.6m、確認面からの深さは約20cmである。炉は2基の掘り込みからなり、新旧関係があるか否かは不明である。ともに焼土の



第217図 SI016、SI016出土土器

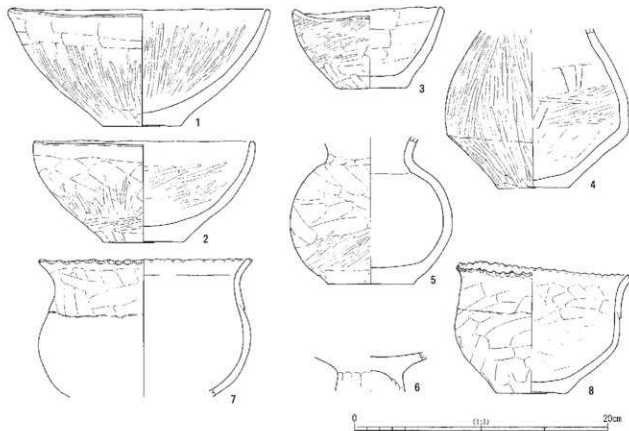
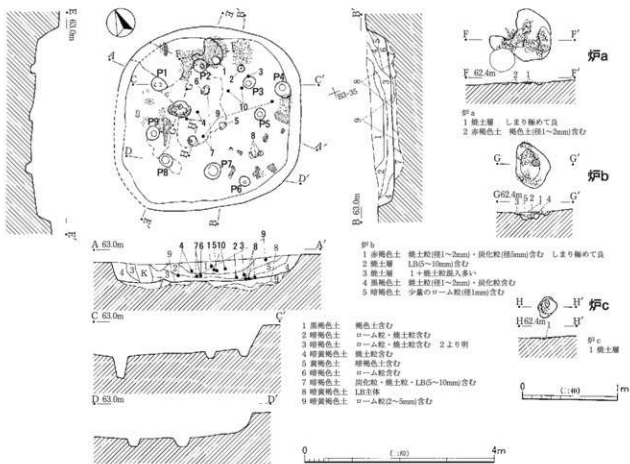
堆積は多くないが比較的よく焼けている。プラン南隅や南東辺を除去範囲に硬化面が確認できる。P1~4が支柱穴で、P6が入口の梯子穴であろう。床面からやや浮いた状態で焼土や炭化材が出土した。炉の両脇の対称的な位置の床面直上から器台が出土している。床面から約20cm程度の暗褐色土・黄褐色土（ローム粒を多く含む）を除去した段階で掘り方が確認できる。

出土土器について、1の器表面は、個体上半では指頭による押さえと粗いヘラケズリの後にヘラミガキ

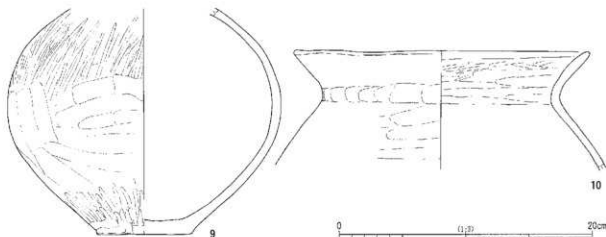


第218図 SI017、SI017出土土器

がなされる。押さえにより器表面の凹凸が目立つ。2の器表面上端は輕易な指頭による押さえが認められる。内面下半は焼成の段階で黒色化しており、ヘラミガキにより光沢化している。1・2共にやや雑なつくりである。3の個体下半は二次的な受熱により灰色化し、使用による擦痕により表面が摩耗している。口縁の上面観からは正円ではなくやや縦長に歪んだ船形を呈する可能性もあるが、口縁の遺存状態が全体の二分の一強なので断定はできない。5は大形の壺で、内面のほとんどの部分は剥落している。6は雑なつくりの甕の口縁である。口縁端部には拓影図に表れないほどの浅い押捺が認められる。8の破片上端の



第219図 SI018、SI018出土土器(1)



第220図 SI018出土土器 (2)

押捺は口縁端部内面側に施され、その圧が器表面端部の外面におよぶ。

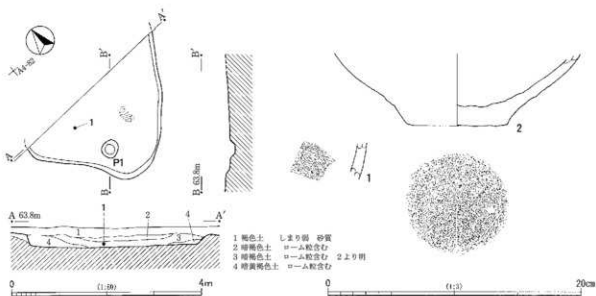
SI017 (第218図、図版101・147・150)

B3-08・B3-29で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。長軸長約5.4m、短軸長約5.3m、確認面からの深さは約50cmである。炉は南側からなだらかに落ち込む掘り込みで北側の深い掘り込みに焼土が多く堆積している。炉の北側のピットには焼土は認められない。床面中央部から東南辺にかけて硬化面が認められる。柱穴配置からP5・9・14・16が主柱穴で、P2～4のいずれかが入口の梯子穴、P1は貯蔵穴であろう。覆土下半はローム塊を含む土層である。住居跡の規模に比して遺物の出土量は多くない。

出土土器について、1・2は折返し口縁の口縁上端に押捺文が施される。3は結節文と縄文RLが施される。4は三角文内に、縄文LRとRLによる羽状縄文が施される。6は底面に木葉痕が認められる。8は胴下端から底部付近の調整が底面縁辺ではなされないことから、底面縁辺に粘土がはみ出るように突出している。

SI018 (第219・220図、図版101・147・148)

B3-23・B3-34で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。推定長軸(NW-SE)長約4.0m、短軸長約3.9m、確認面からの深さは約60cmである。北西隅の床面・壁は攪乱によって壊されている。また壁の西辺のほとんどの部分は調査区外に延びる部分と樹木によって上場を確認できなかった。炉はa・b・cの3基が確認された。いずれの炉も掘り込みや掘り込み周辺がよく焼けている。炉aはP2によって壊されていることから、住居の設営時にすべての炉が機能していたわけではない。このように考えると主軸方向の変更を伴うような建替えがあったのかも知れない。なお、詳細に観察すると炉a・cは覆土最上層が焼土層であるのに対し、炉bのみは最上層は焼土層ではない。床面は3基の炉の周辺と南西側に硬化面が認められた。柱穴は配置や深度から主柱穴を抽出できない。床面の縁辺部を中心に床面からやや浮いた状態で焼土や炭化材が検出された。遺物は床面直上や覆土中位から比較的多くの個体が出土している。床面



第221図 SI019、SI019出土土器

から約15～30cm程度の暗褐色土・暗黄褐色土（ローム粒を多く含む）を除去した段階で掘り方が確認できる。

出土土器について、1の口縁端部は調整の際により断面形態が丸先を呈する部分とやや平坦になっている部分がある。2の内面のミガキは雑である。3は小形の鉢であるが調整は雑であり精製品ではない。4は成形が丁寧ではなく上面観は楕円形に歪んでいる。5は内面の剥離が進行している。7は胴部最大径部位以上での煤の付着が多い。8は小形の甕で、他の個体に比して調整が雑である。口縁端部の刻みは棒状工具を上から口唇面に押し当てることを原則とするが、一部、口縁端部正面から押し当てている部分がある。

SI019（第221図、図版102・148・150）

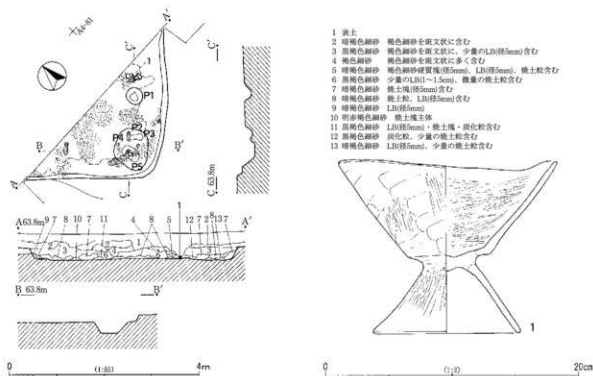
A4-81・A4-82で検出をした方形を呈すると考えられる住居跡である。確認面からの深さは約20cmである。炉や床面の硬化範囲は確認できなかった。柱穴は1本のみ確認できた。床面から5cm程度浮いた状態で焼土の分布が認められた。

出土土器について、1は破片の上から、縄文LR、結節文、赤彩塗布が施される。縄文施文後のナデ調整により縄文はほとんど消されている。2は底面に木葉痕が認められる。

SI020（第222図、図版102・148）

A4-80・A4-81で検出をした方形を呈すると考えられる住居跡で、大半の部分が調査区外に延びている。確認面からの深さは約20cmである。炉は確認できなかった。壁際を除く部分に硬化範囲が確認できた。柱穴は20cm前後の掘り込みを有する5本を確認することができる。床面直上から多くの焼土・炭化材を検出した。同じく床面直上から高杯が出土している。

出土土器について、1は成形が丁寧ではなく歪んでいる。上面観も楕円形に歪んでいる。



第222図 SI020、SI020出土土器

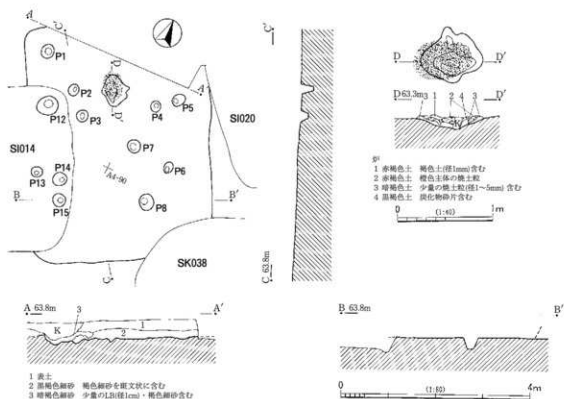
SI021 (第223図、図版103)

A3・89・A4・90で検出をした長方形を呈すると考えられる住居跡である。ブラン北西端は調査区外に延び、SI014・SI020・SK038と重複している。また本来から浅い掘り込みの住居であったと考えられ、周辺の重複する遺構の検出レベルにおいて既にSI020の壁は削平されている。長方形ブラン炉や柱穴の配置、さらには床面の状態から推定したものである。推定長軸長約5.0m、推定短軸長約3.9m、掘り込みの深さは土層断面から判断する限りにおいて約30cmである。炉の焼土の堆積は多くはない。床面の硬化範囲は確認できなかった。柱穴は配置や深度から主柱穴を抽出できない。重複するSI014のP12・13・14・15は位置からSI021の柱穴である可能性もあるが、その前提に立った場合これらの柱穴はSI014の床面硬化範囲を壊していることから、SI014(古)、SI021(新)という新旧関係を推定できるが、SI014の土層断面からそのような状況を確定できない。また柱穴の深度においてもSI014に属する柱穴(P12~15)の深度はSI021の柱穴の深度よりも明らかに深いことから、SI014の柱穴の一部がSI021に伴う可能性は低いであろう。

出土遺物はない。

SI023 (第224図、図版103・148・150)

B3・03・B3・04で検出をした隅丸方形を呈する住居跡である。長軸長・短軸長共に約3.3m、確認面からの深さは約50cmである。炉はよく焼けており焼土の堆積は北側に偏在する。また覆土内に炭化材片を多く含む。床面の中央部に硬化範囲が認められる。柱穴の配置から主柱穴は抽出できない。多くの炭化材と焼土が床面直上付近のレベルから検出されているが、床面中央部からは検出されていない。遺物は床面縁辺



第223図 SI021

の床面直上付近から多くの個体が出土している。

出土土器について、2は口唇面は調整により凹線風の凹部が作出されている部分とそうでない部分がある。3は口縁端部が僅かに内屈しており1・2・4とは異なる。4は1・2・3に比べて薄手のつくりである。5は雑な調整の個体である。6は胴部最大径の上位の段に縄文の原体押捺が施される。7は胴部最大径の上位の段をまたぐように刻みが施される。8は折返し口縁部に斜め方向の刻みが施されるが、破片左端の2列の刻みのみ斜めではなく縦位に施される。器表面の頸部と内面全面に赤彩塗布が認められる。

(3) 土坑 (第225図～227図、図版104・150)

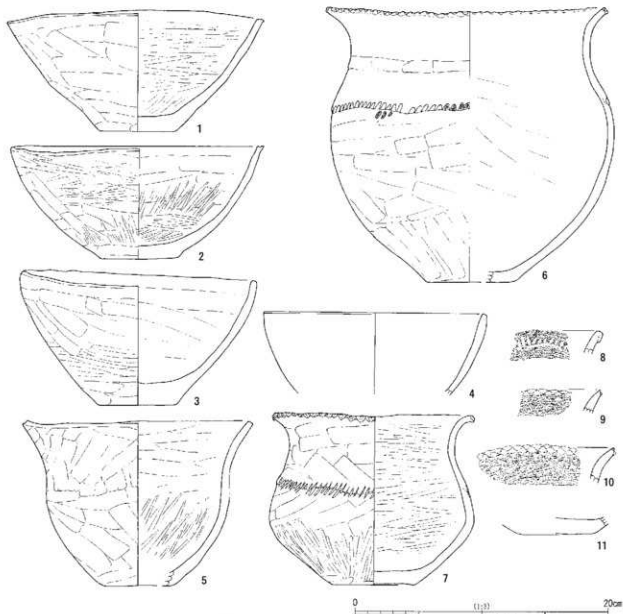
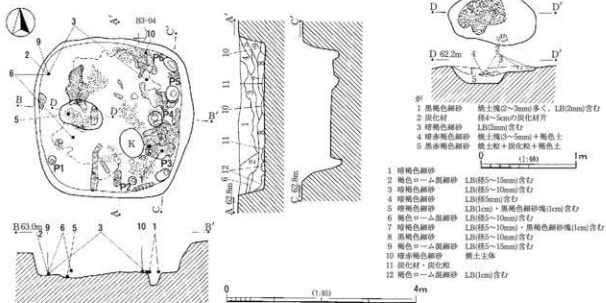
弥生時代後期～古墳時代前期の土坑を11基検出した。これらの時期の遺構は時期的に分離するのが難しい点もあるので、ここでは竪穴住居跡と同様に一括して扱うことにする。土坑の分布は調査区北西部に集中しており、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡の分布域とほぼ重なる。竪穴住居跡と重複する土坑はSK038のみである。

SK007 (第225図、図版104)

B5-03グリッドで検出した長楕円形の土坑である。円墳SM012の北側にある。規模は長軸2.55m、幅1.03m、深さ36cmである。覆土は上層が黒褐色細砂と黒褐色シルト混細砂で、下層が暗褐色シルト混細砂である。覆土は自然堆積と考えられる。軸方位はN-73°-Eである。

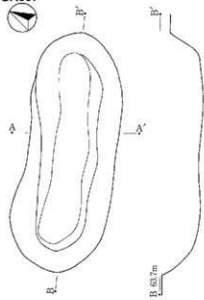
SK012・SK013 (第225図、図版104・150)

調査区北西のA3-85グリッドにある長楕円形の土坑であり、SK013がSK012を切っている。SK012の規模は長軸2.18m、幅1.12m以上、深さ6cmであり、SK013は小型で長軸1.33m、幅0.60m、深さ11cmである。



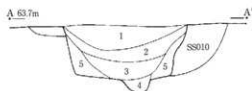
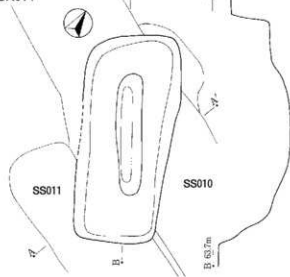
第224図 SI023、SI023出土土器

SK007



- 1 黒褐色細砂 褐色土を微文状 (径0.5cm) にやや含む
- 2 黒褐色シルト混細砂 褐色土を微文状 (径0.5~1cm) に含む
- 3 暗褐色シルト混細砂 LH (径0.2cm) やや含む
- 4 暗褐色シルト混細砂 LH (径0.5~1cm) 含む
- 5 暗褐色シルト混細砂 LH (径0.2~1cm) 多く含む

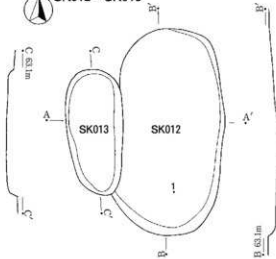
SK014



- 1 黒褐色土 褐色土粒・ロームを含む
- 2 暗褐色土 ローム (径5cm) 含む 褐色土・ロームを含む
- 3 黒褐色土 ローム粒 (径1cm) 含む ローム微粒少し含む
- 4 暗褐色土 ローム粒に含む やや粘質
- 5 暗褐色土 ローム微粒やや多い

0 (1:40) 2m

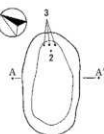
SK012・SK013



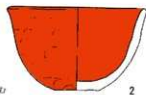
- SK012
- 1 暗黄褐色細砂 暗褐色土を含む
- SK013
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む



SK015



- 1 暗褐色土 褐色土を含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土を含む
- 3 暗黄褐色土 黒褐色土粒少し含む



0 (1:30) 20cm

第225図 SK007・SK012・SK014・SK015出土土器

両者とも底面は平坦である。覆土はSK012が暗黄褐色土で暗褐色土を含む。SK013は暗褐色土でローム粒がみられる。軸方位は前者が $N-1^{\circ}-E$ で、後者は $N-2^{\circ}-W$ である。

SK012からは弥生時代後期の土器片が出土している。第225図1は胴部最大径部位が屈曲する壺形土器の屈曲部位の破片で、拓影図上半には付加条の縄文が施され、拓影図下半は無文である。内外面に軽易なナデ調整の後に器表面下半に軽易なミガキがなされるようである。内面の下半は、上半と同様のナデ調整が認められることから、壺形土器ではなく広口の個体の可能性もあろう。

SK014 (第225図)

B4-21グリッドで検出した長方形の土坑であり、方形周溝墓SS011・SS014の周溝を切る。規模は長軸2.23m、幅1.02m、深さ56cmであり、中央に溝状の落ち込みがみられ、深さは確認面から70cmである。覆土は黒褐色土と暗褐色土を主体とし、下層は暗黄褐色である。軸方位は $N-24^{\circ}-W$ である。

SK015 (第225図、図版104・150)

調査区北壁沿いのA4-82グリッドで検出した楕円形の土坑であり、時期は弥生時代末～古墳時代前期と考えられる。縄文時代の土坑SK016・SK021を切っている。規模は長軸1.10m、幅0.61m、深さ17cmである。覆土は暗褐色土と暗黄褐色土であり、覆土上層からは土師器小型鉢、覆土上層及び底面付近からは土師器破片が出土した。主軸方位は $N-63^{\circ}-E$ である。

第225図2は土師器小型鉢であり、内外面はかなり摩耗している。底部～底部下端には手持ちヘラケズリがなされ、胴部外面にはヘラナデが施される。内外面に赤色塗彩が施される。3は頸部に輪積痕を、胴部にはハケ調整を残す甕で、内面の胴部最大径部位以下は調整が粗い。

SK019 (第226図、図版104)

調査区北のA4-94グリッドで検出した隅丸長方形の土坑であり、規模は長軸2.54m、幅1.18m、深さ32cmである。底面は多少の凹凸はあるがほぼ平坦であり、覆土は黒褐色土を主体とし、下層はしまりのない土であった。形状等から埋葬施設の可能性が考えられる。軸方位は $N-5^{\circ}-W$ である。

SK025 (第226図、図版104)

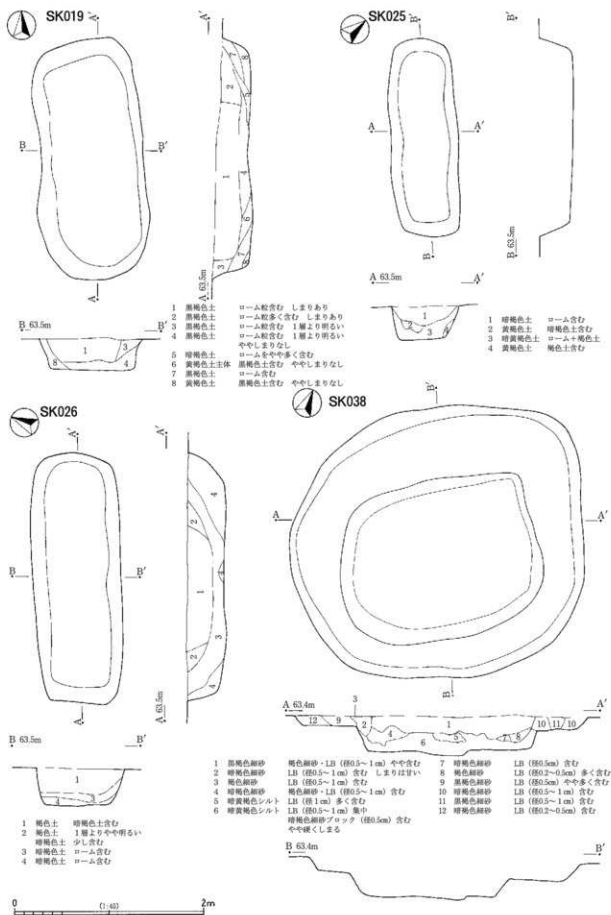
B3-37グリッドで検出した長方形の土坑であり、規模は長軸2.10m、幅0.71m、深さ36cmである。底面は平坦であり、壁は直線的に立ち上がる。覆土は上層が暗褐色で、下層が暗黄褐色土でロームと暗褐色土の混合の土が主体である。軸方位は $N-41^{\circ}-W$ である。

SK026 (第226図、図版104)

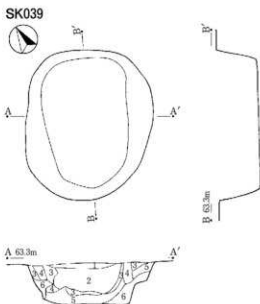
B3-28グリッドで検出した長方形の土坑であり、SK025の北東に所在する。規模は長軸2.67m、幅1.00m、深さ41cmである。底面は平坦であり、壁は直線的に立ち上がる。埋葬施設と考えられる。覆土は上層が褐色土で、下層が暗褐色土でロームを含む。軸方位は $N-67^{\circ}-E$ である。

SK038 (第226図、図版104)

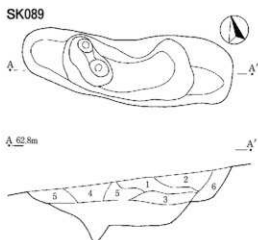
A4-90グリッドで検出した隅丸方形の土坑であり、竪穴住居跡SI021と重複する。方形の掘り込みが遺



第226図 SK019・SK025・SK026・SK038



- 1 黒色土 掘りりのほとんどない土
- 2 黒色土 ローム (厚0.1~1.3m) の掘りりあり
- 3 黒褐色土 1・2層より多少明るい 細かなロームの掘りりあり
- 4 黒褐色土 木炭の残片
- 5 暗褐色土 ロームの掘りりが細かく、重点のようにある
- 6 褐色土 ロームの中に暗褐色土の掘りりを含む



- 1 黒褐色細砂 LB (厚0.5m) やや含む
- 2 暗褐色細砂 LB (厚0.5m) 含む
- 3 黒褐色細砂 LB (厚0.4m) やや含む
- 4 黒褐色細砂 ロームを数文状 (厚0.5m) 含む
- 5 暗褐色細砂 LB (厚0.5m) 含む
- 6 褐色ローム混細砂 LB (厚0.5~1m) 多く含む

0 (1:40) 2m

第227図 SK039・SK089

構の中央にみられる。規模は長軸3.12m、幅2.88mであり、深さは15cmである。掘り込みの規模は長軸2.12m、幅1.69mであり、土坑底面からさらに22cm深い。底面には段差がみられる。覆土は上層は黒褐色細砂が主体で、掘り込みは暗黄褐色シルトが主体でロームブロックが集中する。人為的埋め戻しの層であると考えられる。軸方位はN-57°-Eである。

SK039 (第227図、図版104)

B3-68グリッドで検出した楕円形の土坑であり、規模は長軸1.58m、幅1.33m、深さ45cmで、底面はほぼ平坦である。覆土は上層が黒色土で、下層は暗褐色土と褐色土である。軸方位はN-59°-Wである。

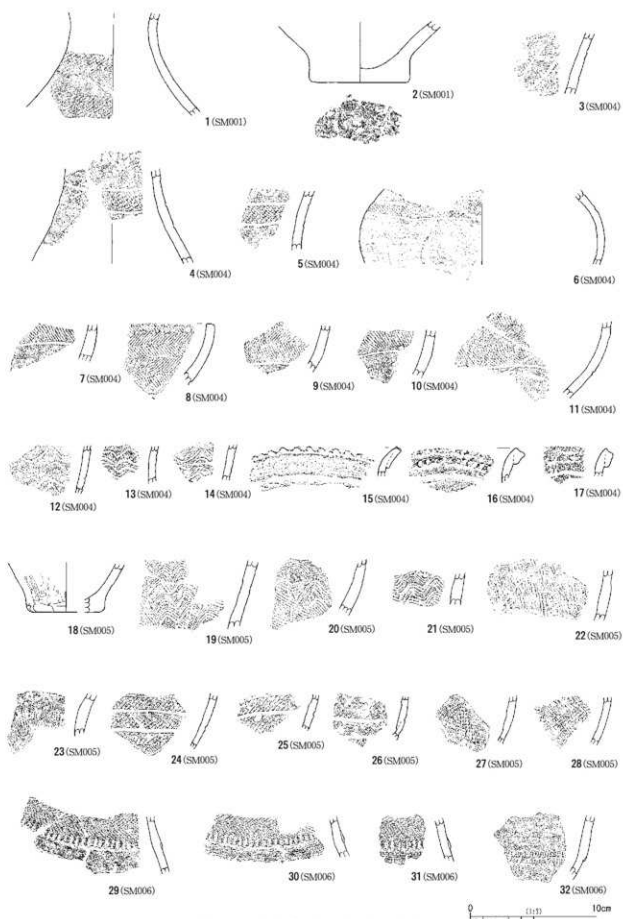
SK089 (第227図)

B3-13グリッドで検出した土坑であり、斜面際に立地する。長楕円形の形状で、規模は長軸2.23m、幅0.76mで、深さは30cmである。覆土は黒褐色細砂と暗褐色細砂の層であり、ロームブロックを含む。軸方位はN-67°-Wである。中央に掘り込みがあり、ピットが2基存在する。この掘り込みについては時期の古い土坑が重複している可能性があるが判然としない。

(4) 古墳内出土の弥生土器 (第228・229図、図版152~154)

ここでは古墳の築造や埋葬の時期を示すとは考えがたい遺物、すなわち弥生時代の遺物等について報告する。なお、古墳盛土等から出土した縄文時代の土器や石器類については、前々節の縄文時代で扱っている。この場合においては、図示した遺物は古墳の遺構名を記載している。図示をせず集計のため一覧表で扱った遺物については古墳が所属する大グリッド名で示した。

事実記載に際して、各個体の基本的な属性 (器種名・計測値・胎土・色調等) については観察表 (第33



第228図 古墳内出土の弥生土器（1）

表)に記載し、ここでは観察表に盛り込むことのできない要素を中心に事実記載を行っている。遺物の掲載順序は時期ごとではなく、古墳(SM)の番号順に配列している。

第228図1・2はSM001出土である。1は無文部を挟んで縄文LRが施される。縄文帯は沈線等によって区画されることはないが、各縄文帯の上部は原体端部を強めに押捺している。赤彩塗布は確認できない。2は底面に木葉痕の認められる壺の底部である。赤彩塗布は認められない。

3~17はSM004出土である。3は摩滅が進行している破片で区画内に縄文LRが施される。4は区画内に縄文LRが施される。摩滅が進行しているが破片左下端では縄文や沈線は認められない。3・4共に赤彩塗布は確認できない。5は破片上端に沈線が認められる。縄文LRである。6は壺の胴部最大径部位の破片で、破片左側からの上部の区画沈線は一周するのではなく、途中で上方にせりあがる。縄文LRで煤の付着が認められる。赤彩塗布の痕跡を確認できる。7は無節縄文Rが施される。沈線以下の無文部と内面に赤彩塗布が認められる。8は口唇面に無節縄文Rが、器表面は口縁端部から無節縄文L、R、L、Rの順に施され、破片下端は無文部と沈線が認められる。内面全面に赤彩塗布が認められる。9は破片上部から無節縄文R、L、Rの順に施される。破片上端の無文部には赤彩塗布が認められる。内面全面に赤彩塗布が認められる。10は無節縄文Rが施され、無文部には赤彩塗布が認められる。内面全面に赤彩塗布が認められる。11は破片上部より無節縄文R、L、Rの順に施され、以下は沈線、赤彩塗布になる。内面全面に赤彩塗布が認められる。7・9~11は同一個体であろう。12は波状沈線間が交互に赤彩塗布される。内面に赤彩塗布は認められない。13・14は同一個体で、破片上端部と直下の沈線との間のみ赤彩塗布が認められる。内面に赤彩塗布は認められない。15は径1mm未満の黒色から灰色の鉱物粒を多く含む異質な胎土の甕である。折返口縁端部の内面側から棒状工具による押捺文が施される。16・17は壺の折返口縁の内外面両端部に押捺が施される。16の器表面の口縁端部以下には赤彩塗布が認められ、内面全面にも赤彩塗布が認められる。

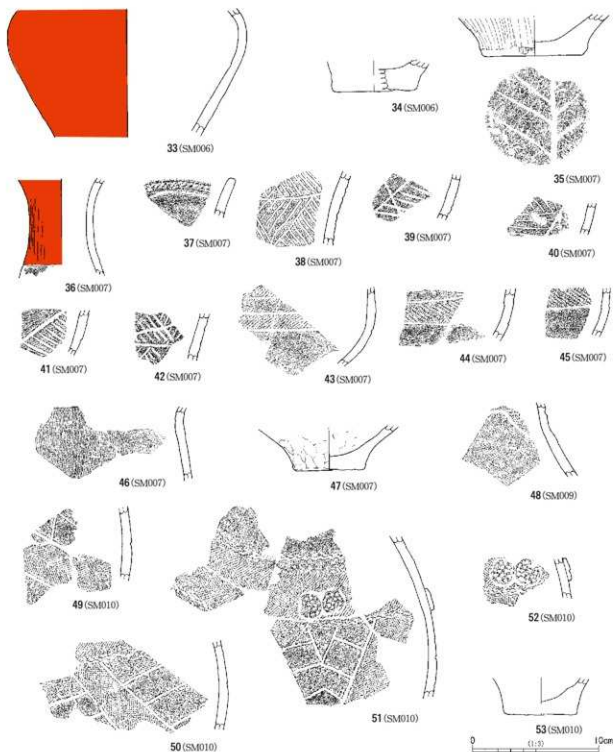
18~28はSM005出土である。18は内外面共に風化が進行している。19~21は単位が丸先状を呈する櫛状工具による波状文が施される壺で、赤彩塗布は認められない。22はハケ状工具の残る甕、23はハケ状工具の残る壺の頸部から胴部上半の破片である。24~26は縄文と沈線が施される破片で無文部が認められない。縄文LRを基本とする。27・28は縄文LRの施文のみで意匠を施す破片である。24~28は赤彩塗布は認められない。

第228図29~32、第229図33・34はSM006出土である。29~32は破片上半から縄文LR、RL、押捺文内の縄文LRが施される。破片下半の無文部には赤彩塗布が認められる。内面に赤彩塗布は認められない。32の破片下半には縦位の単沈線が施される。33は縄文原体の連続押捺が施される。

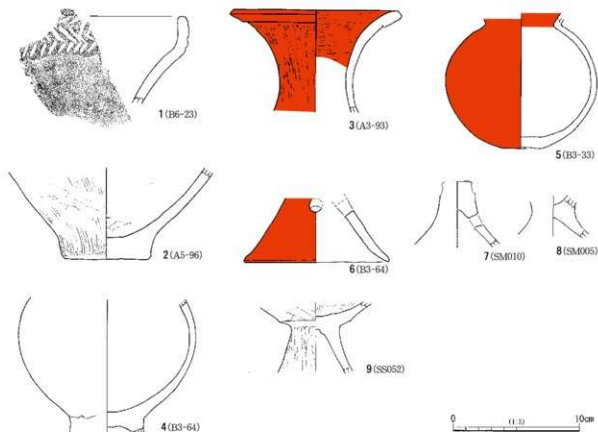
35~47はSM007出土である。36は縄文LRが施され、内面上半に部分的に赤彩塗布の痕跡が認められる。37は口唇面に縄文LRが施される。39~42はハケ状の調整の後に集合沈線が施される破片で、赤彩塗布は認められない。38の施文順序は横位区画文、左下がりの沈線、右下がりの沈線である。39の拓影図中央の右下がりの線は沈線ではなく割れ口である。43は縄文LR、44・45はRLが施される。

48はSM009出土である。ハケ状の調整の後に沈線内に縄文LRが施される。壺の頸部下半の破片で内面の剥落が顕著である。

49~53はSM010出土である。49~51は同一個体で、上下を結節文で区画された縄文帯に、刺突を有する円形浮文が貼付され、以下は三角文が施される。縄文LRとRLが用いられ、三角文の小区画内は結節文のみが充填される部分もある。無文部分には赤彩塗布が認められる。



第229図 古墳内出土の弥生土器（2）

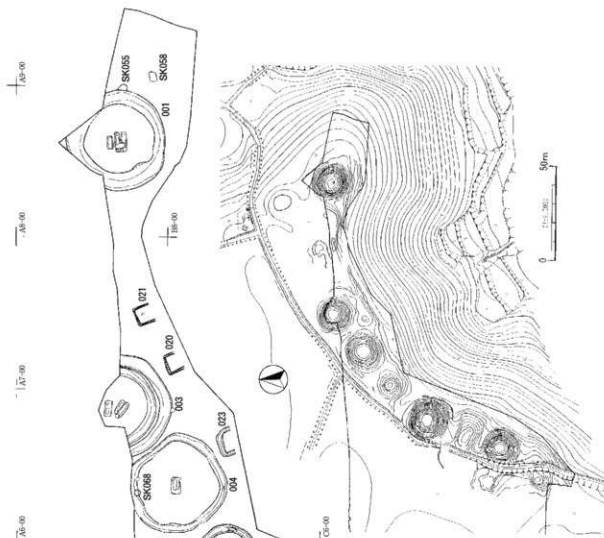


第230図 グリッド出土土器

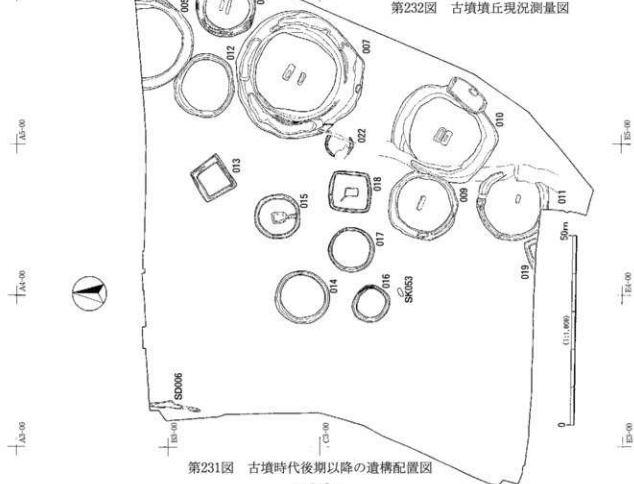
(5) グリッド等出土土器 (第230図、図版154)

ここでは遺構外から出土した弥生時代～古墳時代中期の遺物について報告する。事実記載に際して、各個体の基本的な属性(器種名・計測値・胎土・色調等)については観察表(第33表)で記載をし、ここでは観察表に盛り込むことのできない要素を中心に事実記載を行っている。

1は大形の壺の口縁部で、口唇面には縄文LRが施される。口縁部には太い沈線による矢羽根状の意匠が3段施される。胎土中に砂粒を多く含み、焼成はやや甘い。赤彩塗布は確認できない。2は甕の底部で、底面付近でのハケ調整が顕著である。底面の内面側ではヘラケズリがよく残る。焼成がやや甘く胎土に砂粒を多く含む個体である。3は壺の頸部以上の部位で折返し口縁である。外面全面と内面の頸部上半以上に赤彩塗布が認められる。4は台付きの甕もしくは鉢で、口縁部と脚部が欠損している。内外面共に軽易なミガキ調整で、体部と脚部の接点では整形時の粘土の処理が甘く、段差が残っている。5は球状胴部を有する小形の壺で、外面全面と僅かに残存する頸部内面に赤彩塗布が認められる。内面の剥落が進行している。6は脚部の破片で焼成前の孔が1箇所残る。外面全面に赤彩塗布が認められ、外面下半には刷毛状の調整痕が残る。内面上半は軽易なナデ、下半は軽易なミガキ調整である。7は古墳時代前期に属する高杯脚部で、破片全面に赤彩塗布が認められる。円形の透孔は3箇所穿たれる。8は内外面共に赤彩塗布が認められる古墳時代前期の高杯脚部の破片である。9は高杯の脚部から杯部下半の破片で、杯部内面以外は全面(脚部内面も含む)が灰黒褐色化しているが、これは黒色処理によるものではなく火燻状のものである。



第232図 古墳墳丘現況測量図



第231図 古墳時代後期以降の遺構配置図

第5節 古墳時代後期～歴史時代

1 概要

当該期の遺構は古墳、土坑、溝を検出している。古墳は古墳時代後期から奈良時代にかかるものと考えられる。

2 遺構と出土遺物

(1) 古墳 (第231図～310図、図版105～141・150～152・155～160)

遺構としては、古墳は21基を検出しており、内訳は円墳が15基、方墳6基である(第231図)。古墳は後期のものを主体とする。古墳群は小瀬川を望む台地東縁部に連続してみられる。墳丘径は4.2m～23.9mである。古墳自体も重複がみられる。

墳丘の盛土が現地地形で確認できるものは9基あり、地形測量を実施した(第232図)。これらはいずれも南斜面際に存在し、斜面際であるため削平を免れたと考えられる。調査が進むにつれ、そのうち1基(SM008と呼称)は方形周溝墓の盛土であることが判明したため方形周溝墓SS048に改称し、SM008は欠番とした。また、古墳の並びの西側の台地平坦面にも、削平された古墳が検出された。弥生時代の方形周溝墓の墳丘を取り込むように墳丘を築造している古墳もみられ、興味深い。

SM001 (第233～241図、図版105～109・150・155)

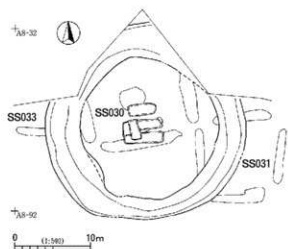
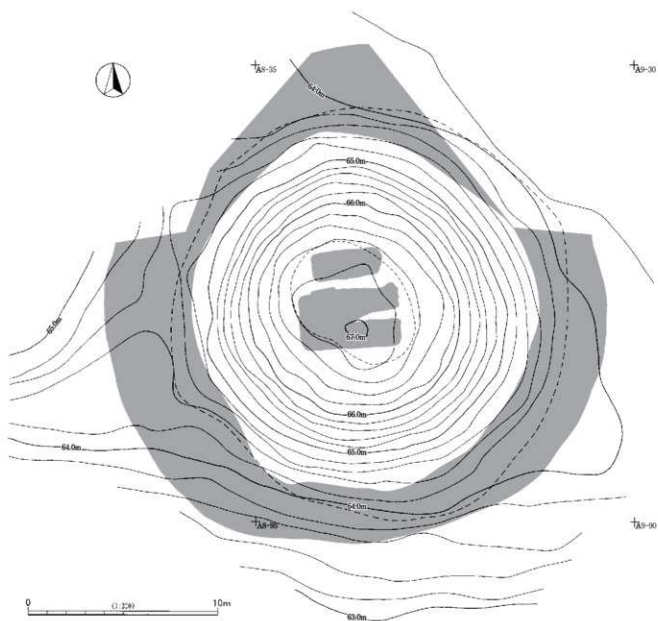
調査区東端部のA 8-11グリッドを中心とした区域に所在する円墳である。台地の突端部に位置する。弥生時代の方形周溝墓SS030・SS031・SS033(第233図)を切り、縄文時代のSI022を切る。東側の周溝の上部は、近世の道跡によって一部が切られる。墳丘部はほぼ調査範囲内に収まるが、周溝の一部は調査区外に延びる。

見かけの墳丘(第233図)は径20.5mで、墳丘高は3.0m(墳頂部標高67.0m)である。墳丘の形状は西側がやや歪になっているものの、ほぼ円形を保っていた。周溝は全周すると考えられる。

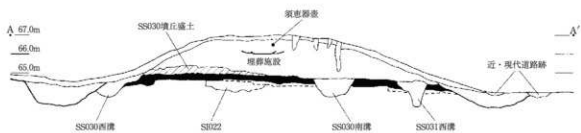
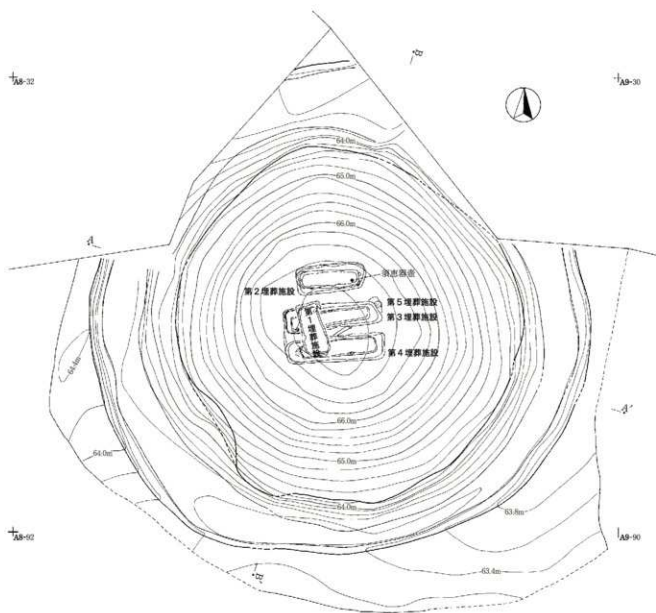
墳丘盛土下には標高64.7m付近に厚さ50cm～60cmでほぼ水平に整地された層がある(第234図)。ほぼ水平に整地されており、部分的に鋤溝が残る部分も存在する。この層は古墳築造のための整地層ではなく、弥生時代の方形周溝墓SS030・SS031に伴う整地層と認識される。第235図の上段断面図で示したように、SM001はSS030の墳丘盛土を取り込んで墳丘が構築されており、SS030の盛土は整地層の上に造られ、SS030・SS031の周溝は整地層を切っている。なお、整地層の下には縄文時代の堅穴住居跡 SI022が存在する。

墳丘の盛土は第235図中段の墳丘構築工程概念図で図示したように、整地層の上に最初にロームブロックを含む暗褐色砂をドーナツ状に盛土して盛土範囲を区画し、周溝に盛土が流れないように配慮している。さらにその中に黒色細砂ブロックを含む暗褐色細砂を投入し、その後褐色～明褐色細砂を比較的水平坦にならして構築している。

調査によって判明した墳丘の径は、周溝の内側下端間で21.6mであり、現状の周溝掘り込み上端間の径は18.0mである。周溝内には黒褐色細砂を多く含む層が堆積していた。なお、周溝の幅については、上端幅が2.5m～4.5m、下端幅は0.85m～2.9mと差異が著しい。

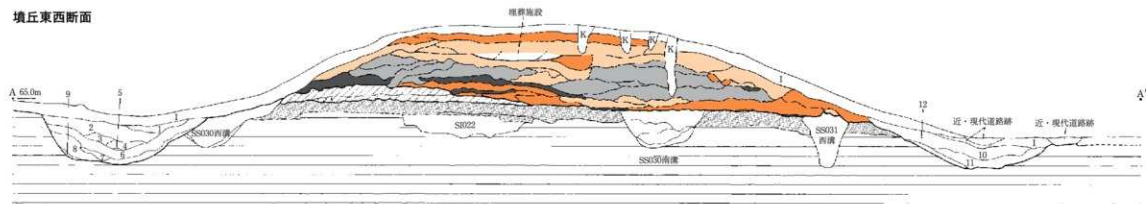


第233图 SM001現況測量図・方形周溝墓重複図

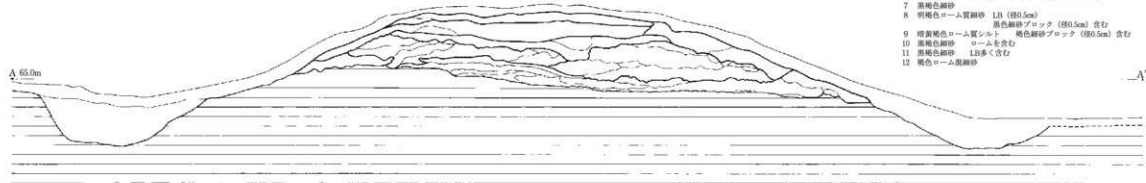


第234図 SM001等高線図・東西断面図

墳丘東西断面

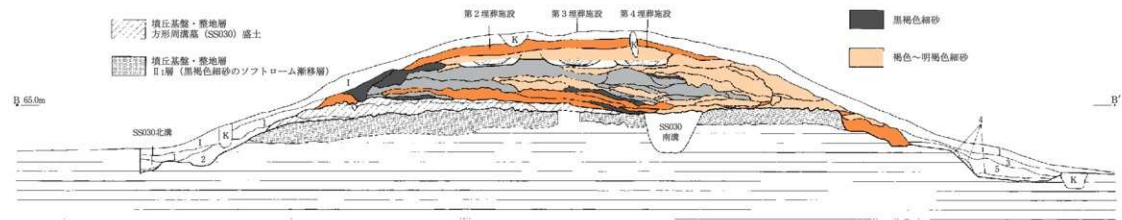


墳丘構築工程概念図



- A-A'
- 1 暗褐色細砂 L.B (厚0.5cm) 中々含む
 - 2 黒褐色細砂 褐色細砂を斑文状 (厚5mm) に含む
 - 3 暗褐色細砂 L.B (厚0.5cm) 中々含む
 - 4 暗褐色細砂 L.B (厚0.3~0.5cm) 含む
 - 5 黒色ローム混細砂
 - 6 暗褐色細砂 L.B (厚0.3cm) 数層 褐色細砂を斑文状
 - 7 暗褐色細砂
 - 8 明褐色ローム質細砂 L.B (厚0.5cm)
 - 9 暗褐色ローム質シート 黒色細砂ブロック (厚0.5cm) 含む
 - 10 暗褐色細砂 ロームを中々含む
 - 11 暗褐色細砂 L.B多く含む
 - 12 褐色ローム混細砂

墳丘南北断面



SM001 墳丘土層凡例

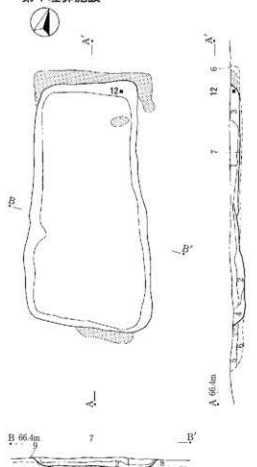
- L.Bを含む 暗褐色細砂
- 黒色細砂ブロックを含む 暗褐色細砂
- 黒褐色細砂
- 褐色~明褐色細砂



- B-B'
- 1 暗褐色ローム混細砂
 - 2 暗褐色細砂
 - 3 褐色細砂
 - 4 褐色細砂 L.B (厚0.5cm) 多く含む
 - 5 暗褐色細砂

第235図 SM001墳丘断面・墳丘構築工程概念図

第1埋葬施設

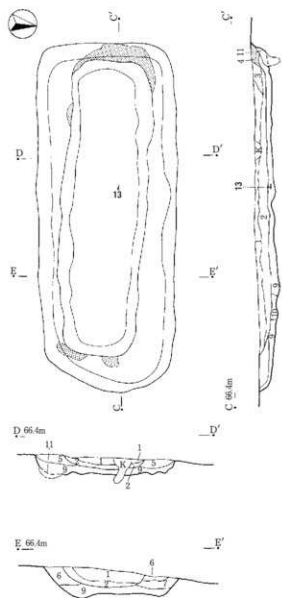


- 1 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) やや含む しまりは甘い
- 2 暗褐色細砂 褐色細砂を斑文状 (径5mm) にやや含む しまりは甘い
- 3 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) やや含む しまりは甘い
- 4 暗褐色細砂 LB (径0.3cm) やや含む しまりは甘い
- 5 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) やや含む しまりは甘い
- 6 暗褐色細砂 LB (径0.3cm) 含む
- 7 明褐色ローム質細砂 硬くしまる
- 8 暗褐色細砂 ローム殻を含む しまりは甘い
- 9 暗褐色細砂 ロームを斑文状 (径5mm) に含む 硬くしまる



0 (1:3) 10cm

第2埋葬施設



- 1 暗褐色細砂 褐色細砂を斑文状 (径5mm) にやや含む
- 2 暗褐色細砂 白灰色粘土粒が散る しまりは甘い
- 3 褐色細砂 LB (径1cm) やや含む 白灰色粘土粒が散る
- 4 暗褐色細砂 白灰色粘土粒を含む
- 5 暗褐色細砂 ローム・暗褐色細砂をブロック状 (径0.5cm) に含む
- 6 暗褐色細砂 LB (径0.3cm) やや含む
- 7 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 含む 白灰色粘土ブロック (径0.3cm) やや散る
- 8 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 含む 白灰色粘土ブロック (径0.3cm) やや散る
- 9 暗褐色シット質細砂 LB (径0.5cm) 含む 硬化
- 10 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) やや含む
- 11 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) やや含む

0 (1:3) 2m

第236図 SM001第1・第2埋葬施設・出土土器

埋葬施設（第236図～238図）

埋葬施設（主体部）は5基が検出された。墳丘の中心付近（墳頂部）にあり（第234図）、第2埋葬施設以外は重複している。いずれも木棺直葬であり、非常に判別しにくい堆積状況であった。これらの施設は墳丘下1.0m～1.1mの深さに底面がみられ、ほぼ同様な高さで埋葬されていたことがわかる。なお、底面付近の墳丘盛土は埋葬施設を設置するのに適した平坦面となっている。

第1埋葬施設（第236図）は棺小口と考えられる粘土ラインが明瞭にみられたため、埋葬施設と判断できた。この埋葬施設のみ主軸方位がN-13°-Wと南北方向の位置に構築されていた。切り合い関係から考えて本古墳の中で最も新しい埋葬施設である。平面形はやや歪んだ長方形であり、規模は主軸長が2.53mで、短軸が1.33m、深さは14cmである。北壁と南壁の外側に白灰色シルト質粘土があり、南壁沿いは硬くしまっていた。覆土の上層はしまりが甘い層であった。底面近くには硬くしまっていた層がある。遺物は北東隅から錫製耳環が1点出土している。

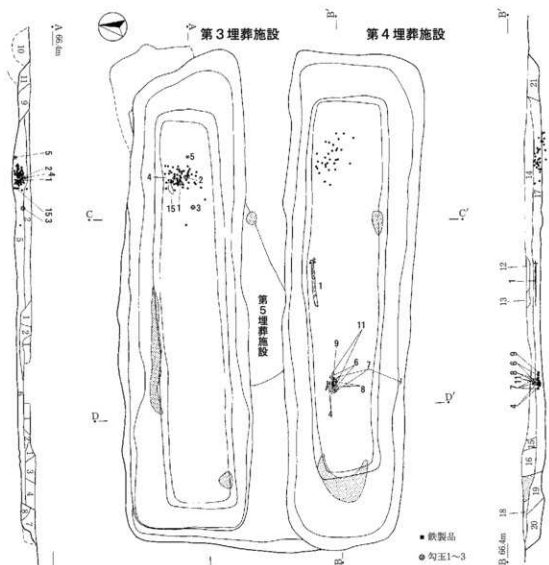
第2埋葬施設（第236図）は1基単独で配置されていた。白灰色粘土の散布範囲がみつかったため、掘り下げを実施し、棺痕跡を検出することができた。平面形は長方形で、隅部にやや丸味を帯びる形状である。壁は0.5cm～1.0cmのロームブロック混ざりの盛土で、硬くしまり、比較的明瞭であった。長軸の両端にともに白灰色粘土が集中していた。平面形は長方形で、規模は長軸長3.12m、幅0.94mで、確認面からの深さは13cmである。主軸方位はN-88°-Eである。棺痕跡内からは遺物を検出することはできなかった。

第2埋葬施設の掘り方の平面形は長方形で、東壁が丸味を有する。規模は長軸長4.61mで、幅は1.49mで、確認面から底面までの深さは20cmである。覆土は硬化している部分が多い。軸方位はN-83°-Eであり、棺痕跡と5°の差異が認められる。掘り方の中央部からは鉄製の茎（第239図13）が出土している。なお、第2埋葬施設の東方で0.35m離れたところから須恵器壺（第236図1）が出土した。埋葬施設の確認面よりも30cmほど高い盛土内からの出土であり、第2埋葬施設を構築した際に置かれたものと考えることができる。

第3・第4埋葬施設は同軸方向で並列してみられ、第5埋葬施設を切って存在する。プラン確認時では、第3・第4埋葬施設の掘り方が同一として認識され、大きな長方形のプランを想定した。しかし、精査を行った結果、第3・第4埋葬施設の掘り方は別々に掘られた可能性が高いことが明らかとなった。なお、第3・第4埋葬施設の新旧関係は不明である。

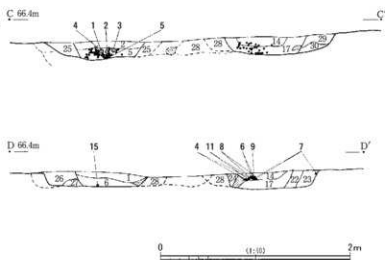
第3埋葬施設（第237図）の掘り方は、平面形が長方形で最大長5.07m、幅は推定で1.40mである。棺痕跡の形状も長方形で、主軸方位がN-83°-Eであり、規模は長軸長4.23m、幅0.75m、確認面からの深さは16cmである。棺痕跡の縁に沿った北側と、棺痕跡内の南西隅には白灰色粘土塊がみられた。棺痕跡からは多量の玉類が集中して出土した。水晶の勾玉1点、瑪瑙の勾玉2点、埋れ木の甕玉2点、ガラス小玉54点を検出しており、棺痕跡東部で集中し、遺体は東を頭にして埋葬されていたと考えられる。なお、小玉と共に鉄製刀子1点が出土した。

第4埋葬施設（第237図）の掘り方は、平面形が隅丸の長方形で最大長5.22m、幅は推定で1.35mである。棺痕跡は長方形で規模は長軸長4.03m、幅は0.88m、確認面からの深さは17cmである。主軸方位はN-81°-Eである。棺痕跡の西部と南部の一部に白灰色粘土塊がみられた。棺痕跡内からは東部からガラス小玉がまとまって35点が出土し、中央の北寄りに直刀1振が切先を西に向けて出土した。さらに西部からは

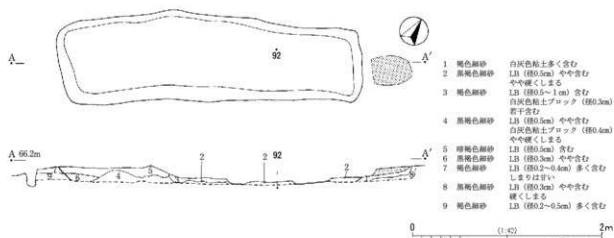


- 第3・4埋葬施設
- 1 黒褐色細砂 LH (径0.3cm) やや含む しまりは甘い
 - 2 褐色細砂 LH (径0.5cm) 含む やや硬くしまる
 - 3 黒褐色細砂 しまり甘い (竹筒類と混われる)
 - 4 暗褐色細砂 LH・白灰色粘土ブロック (径0.5cm) やや含む しまり甘い
 - 5 明褐色細砂 ローム質 硬くしまる (樹皮圧痕か?)
 - 6 暗褐色細砂 黒色細砂ブロック (径0.5cm) 多く含む 硬くしまる
 - 7 暗褐色ローム質細砂 LH (径0.5cm) 含む
 - 8 暗褐色ローム質細砂 ローム・黒色細砂ブロック (径0.5cm) 混在
 - 9 暗色ローム質細砂 LH (径0.5~2cm) 含む 白灰色粘土散る
 - 10 暗褐色細砂 LH (径0.5~1cm) 含む
 - 11 暗褐色細砂 LH (径0.5~1cm) 多く含む
 - 12 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) 含む やや硬くしまる
 - 13 暗褐色細砂 LH (径0.3cm) やや含む やや硬くしまる
 - 14 暗褐色細砂 ローム・黒色細砂ブロック (径0.5cm) 含む
 - 15 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) やや含む しまりは甘い (木筒類)
 - 16 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) やや含む
 - 17 明褐色ローム質細砂 ロームに散らした細砂 硬化 (玉粒出土)
 - 18 暗褐色細砂 LH (径0.5~1cm) 含む やや硬くしまる
 - 19 暗褐色ローム質細砂 LH (径0.3cm) 含む
 - 20 暗褐色細砂 LH (径0.2cm) 多く含む
 - 21 暗褐色ローム質細砂 LH (径0.5cm) 含む
 - 22 白灰色粘土・黒褐色細砂 LH (径0.3cm) 含む
 - 23 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) やや含む
 - 24 暗褐色ローム質細砂
 - 25 暗褐色細砂 LH (径0.3~1cm) やや含む
 - 26 暗褐色細砂 LH (径0.3cm) やや含む
 - 27 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) 散る 硬化
 - 28 暗褐色細砂 LH (径0.3~0.5cm) 白灰色粘土含む
 - 29 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) 含む
 - 30 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) やや含む 白灰色粘土散る
 - 31 暗褐色細砂 LH (径0.5cm) ・白灰色粘土散る

- 鉄製品
- 勾玉1~3
- 南玉
- ガラス玉



第237図 SM001第3・第4埋葬施設・出土土器



第238図 SM001第5埋葬施設

鉄鏃が10点が出土した。鉄鏃は掘り方部分の縁から検出されたものがあり、棺等の腐食による崩落で副葬された位置から動いている遺物もあるが、出土状況としては基本的には原位置を保っているものと考えられる。おそらく遺体は東を頭にして埋葬されていたのであろう。副葬品の内容から考えて、第3埋葬施設の被葬者は女性、第4埋葬施設の被葬者が男性である可能性が高い。

なお、第4埋葬施設の下にはSS030の周溝がある。

第5埋葬施設(第238図)は第3・4埋葬施設の掘り方の下から検出された。当初は白灰色粘土が散るシミと認識され、埋葬施設の可能性は低いと判断した。しかし後に南長辺沿いに並ぶ白灰色粘土塊の列を検出したことにより、埋葬施設とすることになった。ただし、他の埋葬施設と異なり、覆土に柔らかい部分が存在せず、遺物も検出することができなかったため、不明な点が多い遺構である。形状は長方形であり、長軸長は3.24m、幅0.96m、確認面からの深さは14cmである。主軸方位はN-60°-Eである。

遺物(第236・239~241図、巻頭図版7、図版150・155・156)

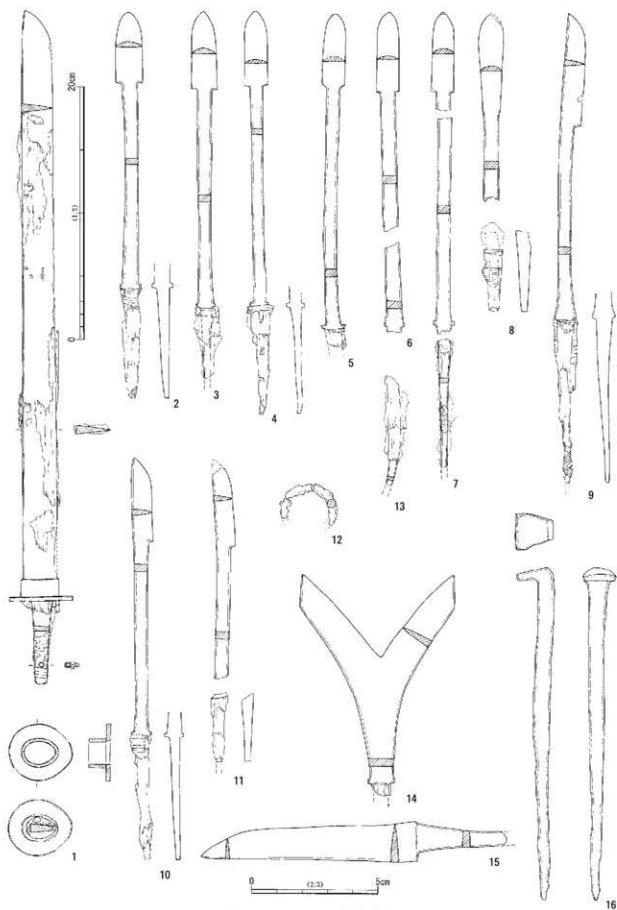
土器は第2埋葬施設の東上方から出土した須恵器壺(第236図1)のみである。小型の壺で、口径は6.4cm、器高9.4cm、肩部は復元の数値で11.1cmであり、底部外面及び下端部に回転ヘラケズリが施されている。ロクロの回転方向は反時計廻りである。

金属製品は、第3埋葬施設から刀子1点、第4埋葬施設から直刀1振、鉄鏃10点が出土したほか、第1埋葬施設から銅製耳環1点が出土した。また、墳丘表土から雁股鏃、銭貨、溝内から釘が出土している。

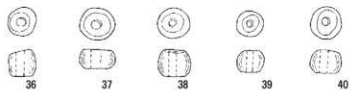
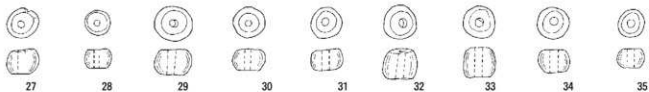
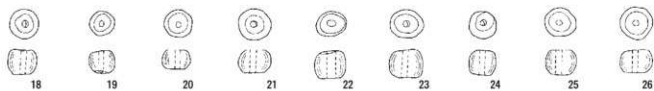
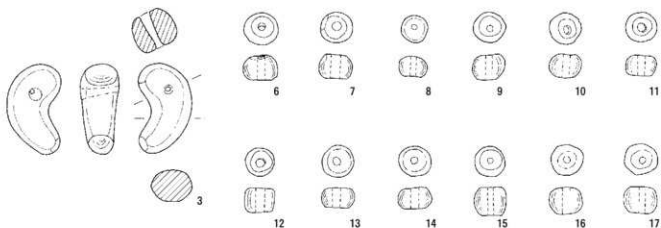
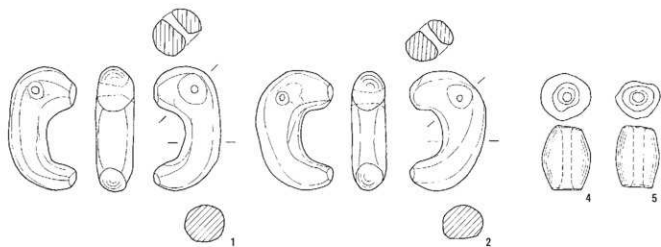
第239図1は第4埋葬施設から出土した直刀であり、完形で木製鞘の一部が付着し、目釘も残存する。第4埋葬施設から出土した鉄鏃はすべて長頭鏃で剣身形が7点、片刃形が3点である。2~8は剣身形の長頭鏃及びその棒状部~茎と思われるものである。なお、7の一部は掘り方から出土している。9~11は片刃の長頭鏃及び棒状部~茎と思われるものである。11は背側の先端部が丸味を帯びており、一般的な片刃形式鉄鏃と異なるようである。8は他に比べて鏃身部の長い剣身形である。

14は墳丘表土から出土した雁股鏃である。V字状の鏃身は長さ8.15cmであり、頭部は短く、茎は遺存していない。板状に剝離し、古墳出土の鉄鏃とは質感が異なることから、中・近世の鉄鏃であろう。

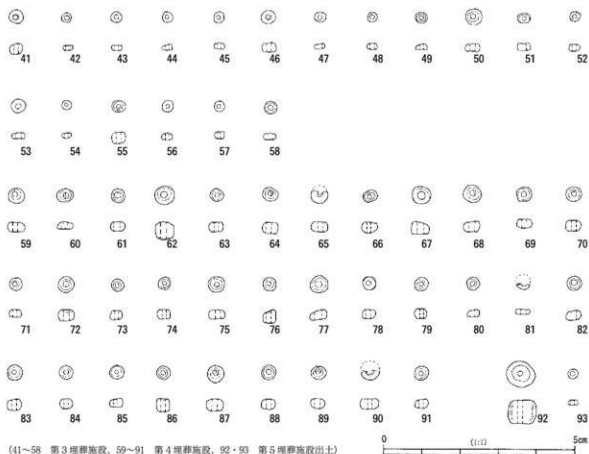
15は墳丘表土から出土した鉄釘である。断面方形を呈し、端部を逆台形状に潰して折り返し釘頭とした、



第239図 SM001出土金属製品



第240图 SM001出土玉類(1)



第241図 SM001出土玉類(2)

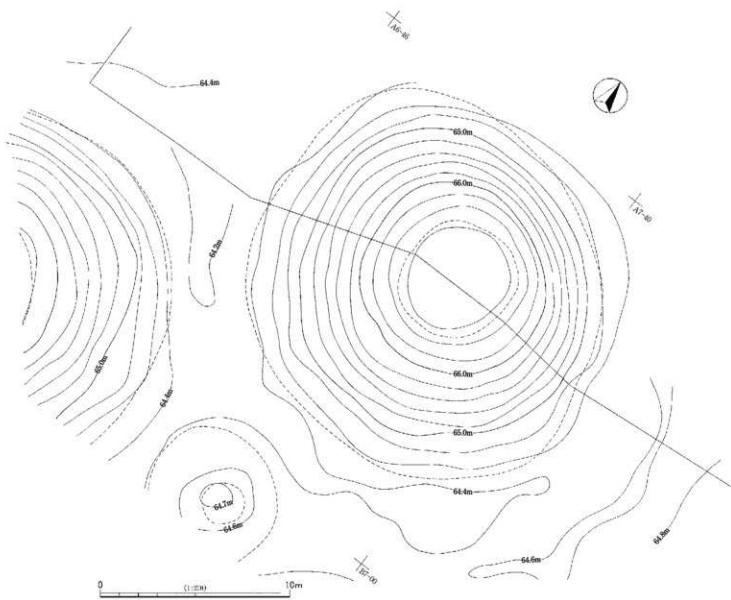
いわゆる犬釘の形態を呈する。錆による劣化のため四方の側面が板状に剥離し、旧形より細くなっているものと思われる。14と同様、中・近世の可能性が高い。12は第1埋葬施設から出土した錫製耳環である。3片に割れており、腐食が著しい。

玉類は第3・4・5埋葬施設から出土している。第3埋葬施設から勾玉が3個体出土し、第240図1・2は瑪瑙製で大きさは差異が少なく、重量は両者とも7.39gであり、形状及び数値とも近似している。色調は茶～黄茶色である。3は水晶の勾玉で、色調は透明である。

4・5は第3埋葬施設出土の埋れ木を使用した棗玉であり、4が僅かに大きい。色調は4が黒色であるのに対して5は茶灰・砂色である。

第3埋葬施設からはガラス小玉が54個体出土(第45表)し、細片を除いた53個体(第240図6~40・第241図41~58)を実測した。色調は藍色が37個体で全体の2/3を占めている。次に多い色調は暗い青色が10個体であり、にぶ青緑5個体、青色と青み緑色が各1個体存在する。にぶ青緑色の遺物は透明度が高いものが多い。大きさは2.66mm~8.92mmのものがあり、ばらつきがある。平均で6.54mmであり、粒の大きいものに藍色の色調のものが多い。

第4埋葬施設ではガラス小玉が35個体出土(第45表)し、細片を除いた33個体を実測した(第241図59~91)。色調は、にぶ青緑色が13個体で最も多く、藍色が10個体、暗い青色が6個体、青緑3個体、そのほかが3個体である。大きさは3.21mm~5.07mm、平均で3.86mmであり、第3埋葬施設よりも小粒のもの



第242図 SM003現況測量図

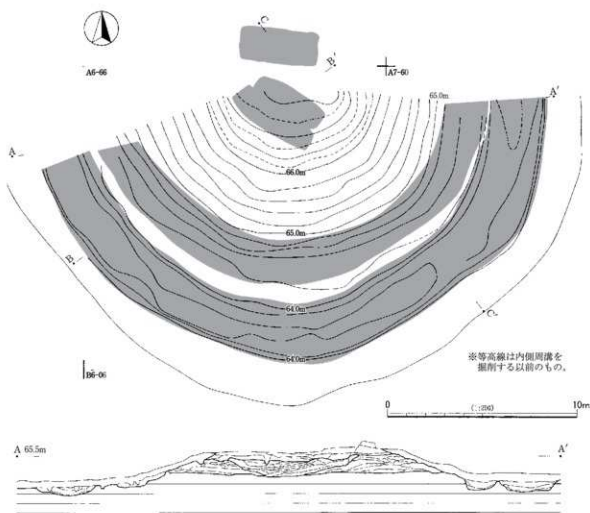
多く、粒のばらつきも少ない。

第5埋葬施設では藍色のガラス小玉が2個体(第241図92・93)出土している。大きさは2.5mmと8.5mmである。

SM003 (第242～247図、図版110～113・150・155・157)

SM002は欠番である。SM003は調査区北東部に位置し、A6-68を中心とするグリッドに所在する二重周溝を有する円墳である。南側は斜面部である。調査区外に墳丘が延びており、約半分が調査区内に存在する。埋葬施設を検出したため、北部を部分的に拡張して調査を行った。

弥生時代の方形周溝墓SS039・042を切り、縄文時代の土坑SK064を切る。外側周溝はSM004の周溝と接するようにみられるが、同古墳との新旧関係は不明である。外周溝の一部が道路跡によって切られる。なお、本遺構の南西には直径8m前後の円墳状の高まりがあった(第242図左下)が、これは地影れであり、



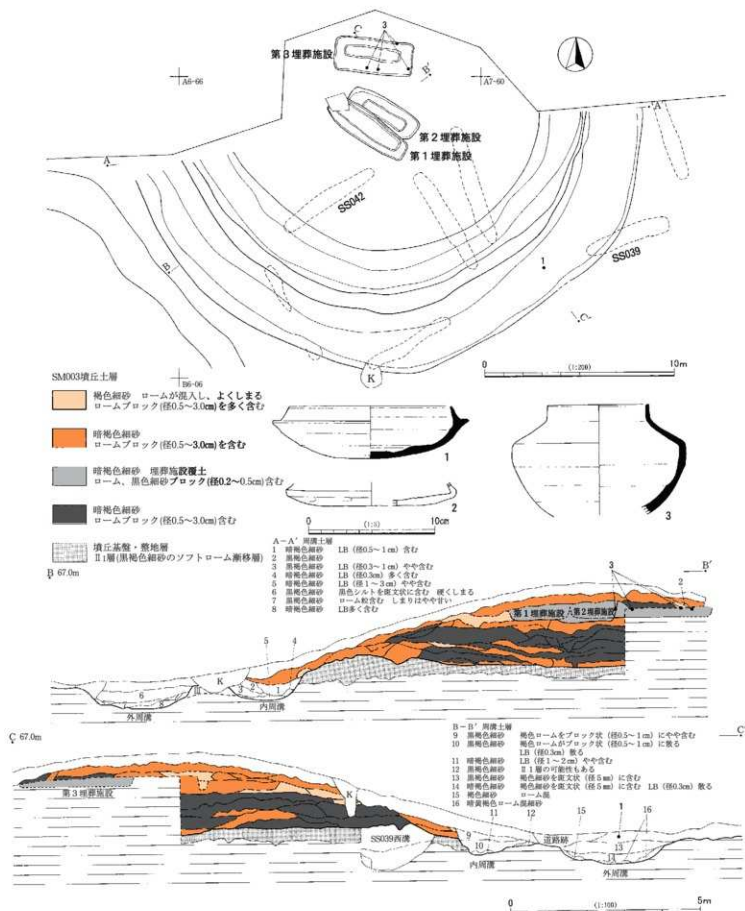
第243図 SM003等高線・墳丘構築工程概念図

遺構ではなかった。

本墳の見かけの墳丘（第242図）は径19.0mで、墳丘高は2.2m（墳頂部標高66.6m）である。墳丘の形状はほぼ円形を保っていた。

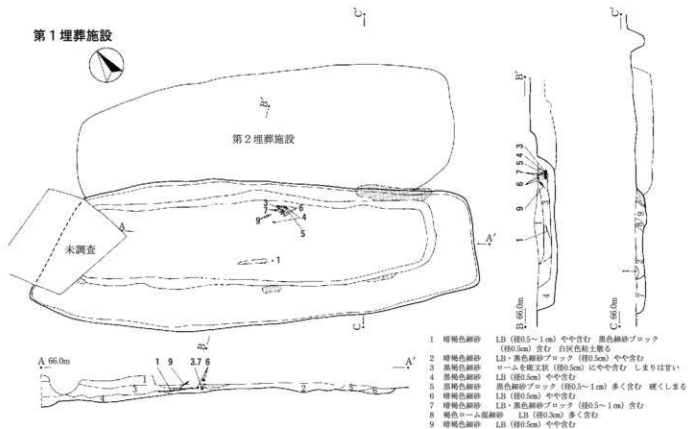
墳丘盛土は、黒褐色細砂のソフトローム漸移層を整地し、東西に最初に高まりを作り、その高まりの間を埋めている。埋めた後にさらに周囲に土を被せ、円形としている（第243図の墳丘構築想定図参照）。埋葬施設底面の墳丘の層は平坦となっている。半分弱の発掘調査であり、墳丘の規模は推定となるが、墳丘径は、内周溝の内側下端間で17.5mである。外周溝の内側下端間は推定で21.8mである。周溝覆土は黒褐色細砂で、ロームブロック等の混入は上層においてのみ部分的にみられた。内周溝の幅は、上端幅が1.7m～2.4m、下端幅は0.7m～1.6mである。外周溝は上端幅が2.7m～3.8m、下端幅は0.8m～2.3mであり、外周溝のほうが幅がかなり広い。断面形は底面が皿状であり、残存の深さは50cm～60cmである。なお、墳丘断面下にはSS039の周溝がみられた。

墳丘盛土からは第244図で示したように第3埋葬施設の上面から須恵器壺が出土し、外周溝から須恵器杯身が出土した。

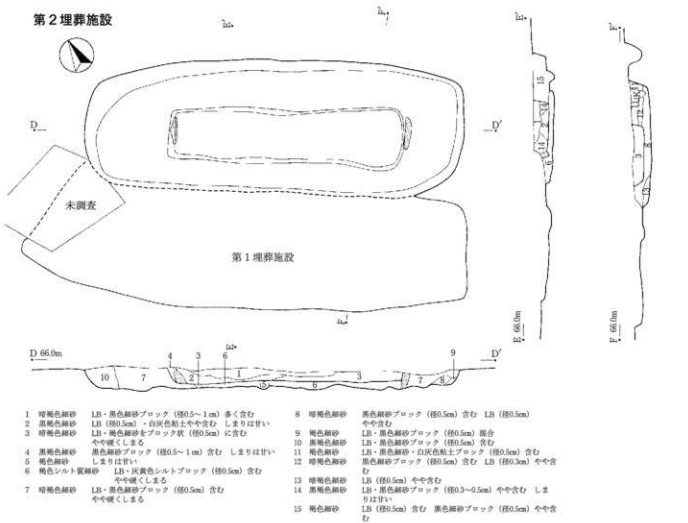


第244図 SM003全体・墳丘断面図・出土土器

第1埋葬施設

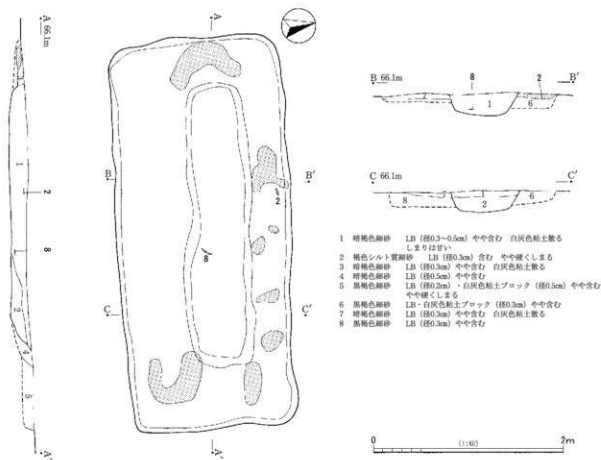


第2埋葬施設



0 2m

第245図 SM003第1・第2埋葬施設



第246図 SM003第3埋葬施設

埋葬施設 (第245・246図)

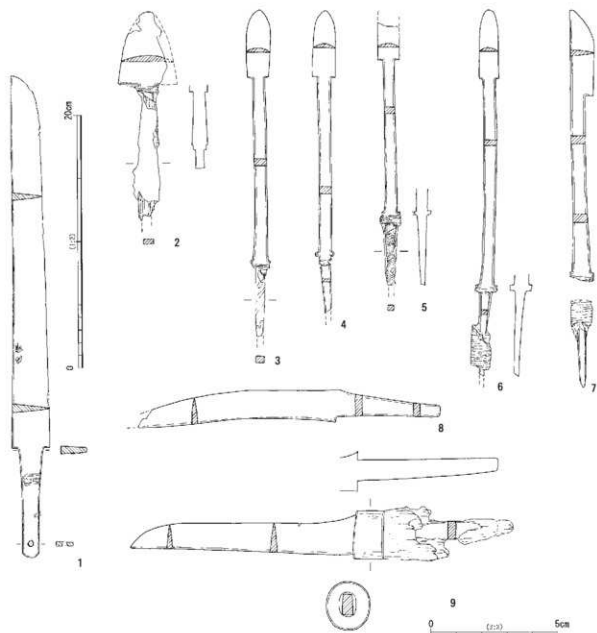
埋葬施設 (主体部) は3基が検出された。いずれも墳頂部にあり墳丘残存面から25cm下で検出され、木棺を直葬したと考えられる土坑である。第1埋葬施設と第2埋葬施設 (第245図) は重複しており、第3埋葬施設は第2埋葬施設の北に存在する。埋葬施設上面の盛土は1層であり、暗褐色の細砂でロームが混入し根が入り、しまりの弱い層であった。墳頂部はかなり墳丘土が流失している可能性がある。

第1埋葬施設は第2埋葬施設を切っており、掘り方は長方形で西南端部が突出する形状である。なお、西部の一部は路線の幅杭があったため、調査を行っていない。掘り方の規模は最大長4.76m、幅1.60m、深さ18cmである。掘り方の層は黒褐色細砂で、ロームをブロック状に含む層を主体とし、棺痕跡の周囲には白灰色粘土が点在する。

棺痕跡は掘り方内のやや北寄りにあり、平面形は長方形であり、上端は長軸が推定で3.75m前後で、幅1.0mである。下端は推定長軸3.55m、幅0.83mである。棺痕跡の深さは16cmである。主軸方位はN-54°-Wである。棺痕跡内の覆土にはしまりが甘い部分があった。

遺物は棺痕跡中央部の北寄りから鉄鏝が出土し、南寄りから直刀が1振出土した。直刀の切先は西向きである。

第2埋葬施設は掘り方の南側壁を第1埋葬施設によって切られている。掘り方は隅丸の長方形で、規模は長軸4.01m、幅は推定で1.4m前後と考えられる。深さは20cmであるが、底面は凹凸がある。掘り方の土



第247図 SM003出土金属製品

は黒褐色細砂、暗褐色細砂、褐色細砂の部分があり、掘り方の底面の形状はわかりにくかったが、やや硬くしまる部分が多くみられた。棺痕跡の東西両端の境には白灰色粘土を含む部分があった。

棺痕跡は掘り方の中央部にあり、平面形は長方形で規模は長軸2.49m、幅0.67mであり、第1埋葬施設の棺痕跡と比較して小型である。主軸方位はN-60°-Wである。深さは15cmで、底面は平坦であり、覆土内にはしまりが緩い層があった。遺物は検出できなかった。

第3埋葬施設（第246図）は非常に判別しにくい検出状況であり、掘り方の断面は点線で表している。掘り方は長方形であり、規模は長軸4.14m、幅1.86mで、深さは15cm前後と推定される。主軸方位はN-85°-Wで、掘り方内には白灰色粘土ブロックが棺痕跡の南側面を除く三面に取り巻くように分布していた。おそらく木棺を固定するために使用された粘土と考えられる。

棺痕跡は掘り方のやや北寄りにあり、平面形は若干形状が崩れた長方形であり、上端は長軸3.0m、幅0.72mで、下端は長軸2.85m、幅0.57mである。深さは23cmで、底面は平坦である。埋葬施設の覆土は、大半の部分がしまりが甘く、白灰色粘土が散っていた。

遺物（第244・247図、図版150・155・157）

土器は3個体の検出である。第244図1は外周溝から出土したほぼ完形の須恵器杯身で、口縁部の径は12.8cmであり、外面は受け部付近まで回転ヘラケズリがなされる。内面には回転ナデがみられるが、底部中央付近にはナデが入る。胎土には白色小石が含まれ、黒色の吹き出し軸が認められる。2はSM003内表採の須恵器模倣の土師器杯で、底部のみの残存である。3は第3埋葬施設の上面から出土の須恵器短頸壺であり、肩部に最大径を有し、胴部上半まで回転ヘラケズリが施される。肩部外面に自然軸が付着する。胎土に白色粒を多く含む。

鉄製品は、第1埋葬施設棺痕跡内から、直刀1振、刀子1点、鉄鏝5点、第3埋葬施設棺痕跡内から刀子1点、第3埋葬施設の掘り方から鉄鏝1点が出土している。

第247図1は第1埋葬施設出土の直刀で、ほぼ完形である。佩表・佩裏の刀身部には、図中に示した範囲以外に木質部は遺存していない。茎には巻きの痕跡がみられ、茎の佩裏に柄木と判断される木質が遺存する。2は第3埋葬施設掘り方出土であり、丸味を帯びた広身の三角形鏝である。3～7は第1埋葬施設から出土した細身の長頸鏝である。3～6は剣身形で、6は特に細身に長い鏝身を有し、棒状部も長い。7は片刃形の長頸鏝で、幅広の鏝身に短めの棒状部を有している。8は第3埋葬施設棺痕跡出土の刀子である。9は第1埋葬施設棺痕跡出土の刀子である。鏝が遺存する。

SM004（第248～257図、巻頭図版8・図版114～117・150・156）

調査区のほぼ中央にあり、北側の周溝が調査区外に延びる円墳である。中心のグリッドはB6-03である。SM003の西側にあり、同古墳の外周溝と接するが、遺構自体の新旧関係は不明である。

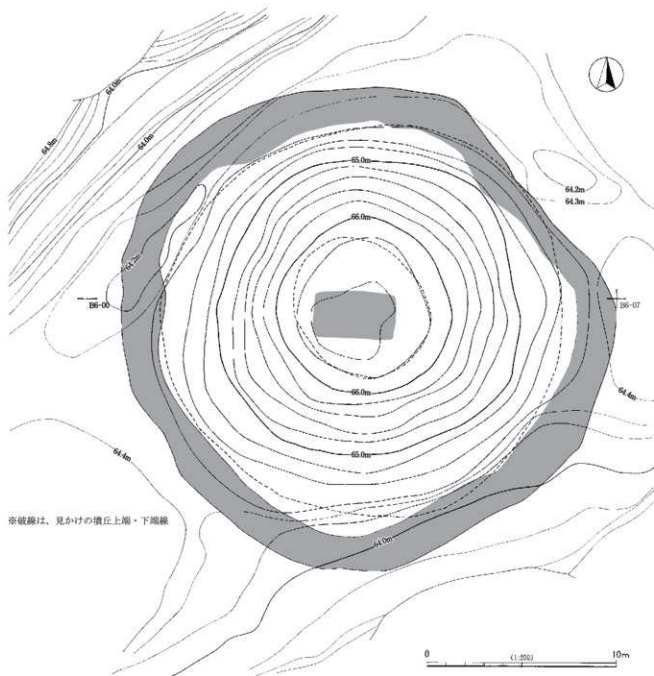
墳丘内（第249図）にはSS038とSS037の一部があり、方形周溝墓の墳丘盛土を取り込んで古墳が構築されている。このほかには墳丘域内に縄文時代の陥穴SK121、周溝及び墳丘裾部にSS047と縄文時代の土坑SK122がある。

見かけの墳丘（第248図）は径21.0mで、墳丘高は1.9m（墳頂部標高66.3m）である。墳丘の形状はほぼ円形を保っていたが、墳頂部は平坦となっていた。周溝は全周し、SM003と接する北東部分は内側に歪んでいる。なお、北側の周溝の一部は調査区域外に僅かに延びており、下端と上端が不明の箇所がある。

墳丘の構築方法は、墳丘裾部付近及び周溝部分の旧表土を削り、2基の方形周溝墓の残存盛土の上に土を積み、さらに周囲に盛土していると考えられ、方形周溝墓の盛土の直上には地山層と同じ黒褐色細砂の土が盛られていた。裾部は一度地山を削った後に盛土を貼り付けてテラスとしている。

調査によって判明した墳丘長（第249・250図）は、周溝の内側下端間で南北が23.2mであり、東西が22.8mである。周溝内には黒褐色細砂を多く含む層が堆積していた。なお、周溝の幅については、上端幅が2.5m～4.5m、下端幅は0.85m～2.9mと差異が著しい。

なお、墳丘上面及び周溝内からは須恵器大型壺の破片が大量に検出された。また、墳丘表土から銕鉄と思われる棒状の鉄製品1点と煙管の火壺1点が出土している。

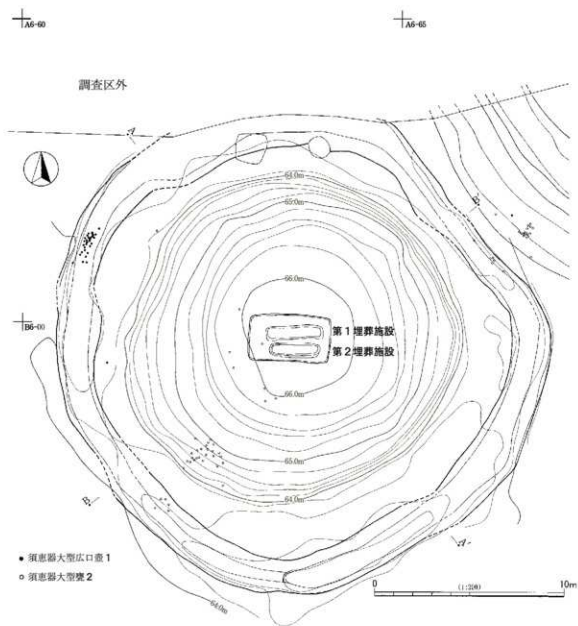


第248図 SM004現況測量図

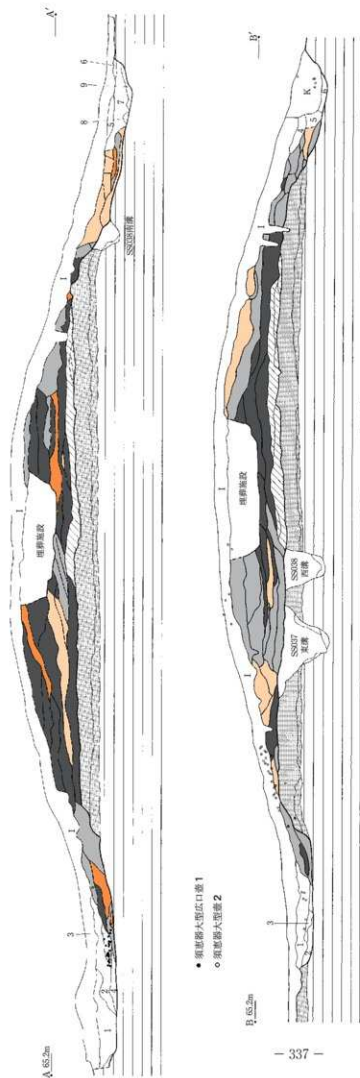
埋葬施設（第251～253図）

埋葬施設は墳頂部で2基が検出された。古墳の表土を剥ぐとすぐに埋葬施設の上面となっており、墳頂部の盛土はかなり流出しているものと考えられる。

長方形で長軸4.37m、短軸2.52mの埋葬施設の掘り方上面を10cm程度掘り下げたところ、2基の棺痕跡が並んで検出された。第1埋葬施設（第251図）の棺痕跡は掘り方のほぼ中央にあり、長方形で両端の南側がやや膨らむ形状で、規模は長軸3.05m、短軸0.69mである。検出面からの深さは33cmで、底面は平坦である。主軸方位はN-91°-Wである。北東隅と西端中央に白灰色粘土が分布する。覆土は黒褐色細砂の中に白灰色粘土とロームブロックが混入した層で、底面の層は硬くしまっていた。掘り方の土層横断面



第249図 SM004全体・遺物出土状況・方形周溝墓重複図



- 須恵郡大里広口遺1
- 須恵郡大里遺2

0 65.2m

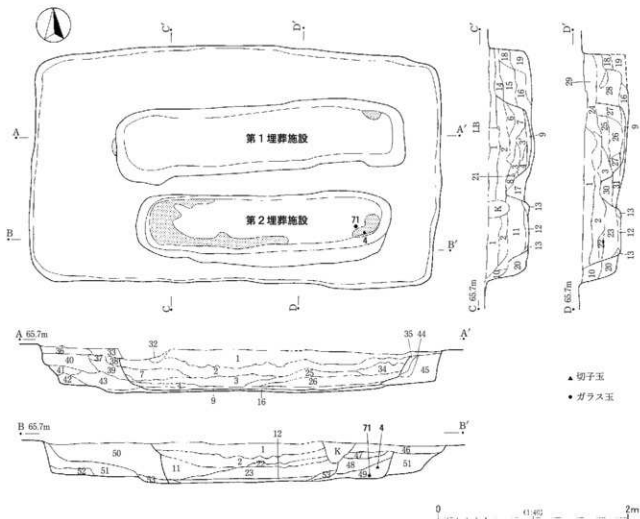
- 褐色ローム層細砂、埋岸色ローム質細砂
L15(埋0.5~2.0m)を多く含む
- 暗赤褐色細砂、埋岸色ローム
L16(埋0.5~2.0m)多量に含む
- 埋岸色細砂、黒色シルトブロック(φ1.0cm)少量含む
L18(埋0.3~2.0m)を含む
- 黒褐色細砂、黒色細砂ブロック(φ1.0cm)含む
L19(埋0.3~1.5cm)を含む

- 埋岸築造層
Ⅱ.1、Ⅱ.2層(埋岸色細砂のソフトローム築造層)
- SSG08盛土、およびその築造層

- A-A' 埋岸上層
- 1 埋岸色細砂
 - 2 埋岸色細砂
 - 3 埋岸色細砂
 - 4 埋岸色細砂
 - 5 埋岸色細砂
 - 6 埋岸色細砂
 - 7 埋岸色細砂
 - 8 埋岸色細砂
 - 9 埋岸色シルト
- 埋岸色細砂の埋置状況(埋5.0m)に含む
L15(埋1~2.0m)を多く含む 層くまあり
L16(埋0.3~1.0m)を多く含む 層くまあり
埋岸色細砂の埋置状況(埋5.0m)に含む
L15(埋0.3~2.0m)を多く含む
L16(埋0.3~1.0m)を多く含む
埋岸色シルト
- B-B' 埋岸上層
- 1 埋岸色細砂
 - 2 埋岸色細砂
 - 3 埋岸色細砂
 - 4 埋岸色細砂
 - 5 埋岸色細砂
 - 6 埋岸色シルト
- 埋岸色細砂の埋置状況(埋5.0m)に含む
L15(埋0.3~2.0m)を多く含む
L16(埋0.3~1.0m)を多く含む
埋岸色シルト

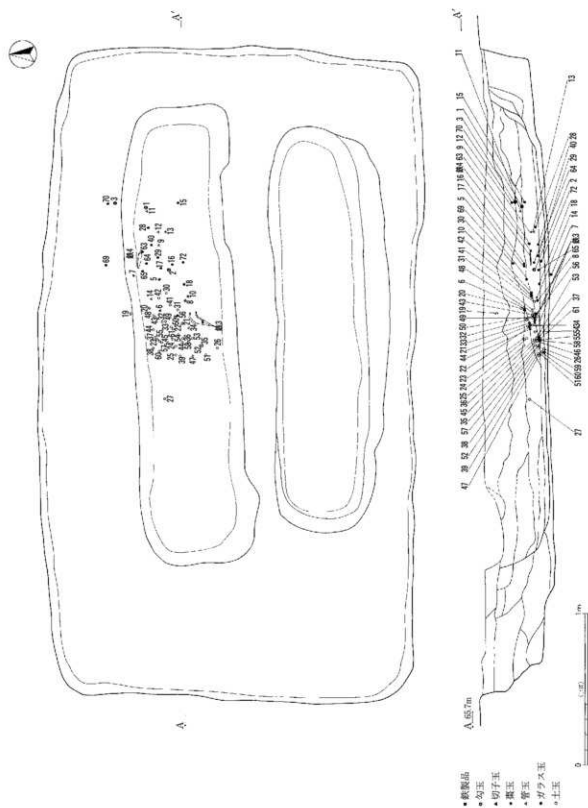
0 5m

第250図 SM004埋岸断面図

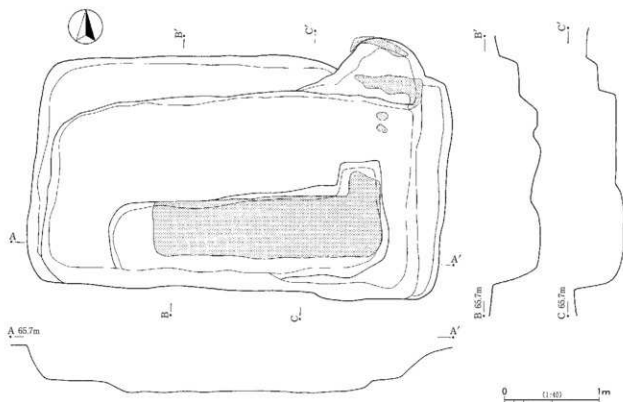


- 1 暗褐色細砂 LB (H0.2~0.5cm) やや含む しまりは甘い
- 2 黒褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む 白灰色粘土ブロック (H0.4cm) 散る
- 3 黒褐色細砂 LB (H0.5cm) に若干含む
- 4 黒褐色細砂 LB (H0.2~0.4cm) やや含む
- 5 明褐色シルト 白灰色粘土を含む? (ルームと粘土混合か?)
- 6 暗褐色細砂 LB・白灰色粘土ブロック (H0.3cm) やや含む
- 7 黒褐色細砂 LB・白灰色粘土ブロック (H0.4cm) 散る
- 8 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) やや含む
- 9 黒褐色シルト質細砂 やや硬くしまる (階段?)
- 10 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) 含む
- 11 黒褐色細砂 褐色ルーム質シルトブロック (H0.5cm)・白灰色粘土 (H0.2cm) 散る
- 12 暗褐色シルト ローム質? 硬くしまる (雨床?)
- 13 暗褐色シルト 白灰色粘土多く含む
- 14 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) 含む
- 15 暗褐色細砂 暗褐色シルトブロック (H0.5~1cm) 含む
- 16 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む
- 17 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) やや含む 硬くしまる
- 18 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) 含む
- 19 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) 散る
- 20 暗褐色細砂 LB (H0.2~0.5cm) やや含む 白灰色粘土 (H0.2cm) 散る
- 21 褐色L.F. (0.5cm) 集中
- 22 暗褐色細砂 LB・白灰色粘土ブロック (H0.2~0.4cm) やや含む
- 23 暗褐色細砂 褐色ルーム質シルトブロック (H0.5cm)・白灰色粘土 (H0.2cm) 散る
- 24 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) 含む
- 25 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む 白灰色粘土 (H0.2cm) 散る
- 26 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) やや含む
- 27 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) 散る
- 28 暗褐色細砂 LB (H0.3cm)・白灰色粘土 (H0.2cm) 散る
- 29 白灰色粘土ブロック
- 30 黒褐色細砂 LB (H0.5cm) 含む 硬くしまる
- 31 暗褐色細砂
- 32 暗褐色細砂 白灰色粘土ブロック (H0.5~1cm) 含む
- 33 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) 含む やや硬くしまる
- 34 暗褐色細砂 LB (H0.5~1cm) 含む しまりは甘い
- 35 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) 若干含む しまりは甘い
- 36 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) 散る しまりは甘い
- 37 暗褐色細砂 LB (H0.2cm) 散る
- 38 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) 含む しまりは甘い
- 39 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) 散る 白灰色粘土ブロック (H0.5cm) やや含む やや硬くしまる
- 40 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) 含む
- 41 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) やや含む
- 42 黒褐色シルト質細砂 やや硬くしまる
- 43 黒褐色細砂 白灰色粘土ブロック (H0.5cm)・LB (H0.5cm) 散る
- 44 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) 含む
- 45 黒褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む
- 46 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) やや含む 黒褐色細砂ブロック (H0.5cm) 含む
- 47 暗褐色細砂 LB (H0.4cm)・褐色細砂ブロック (H0.5cm) やや含む 褐色細砂 (ルーム質) をブロック状 (H0.5~1cm) に含む
- 48 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) やや含む
- 49 暗褐色細砂 LB (H0.3cm) 散る しまりは甘い
- 50 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む
- 51 暗褐色細砂 LB (H0.4cm) やや含む
- 52 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む
- 53 暗褐色細砂 LB (H0.5cm) やや含む

第251図 SM004第1・第2埋葬施設



第252図 SM004第1・第2埋葬施設遺物出土状況図



第253図 SM004第1・第2埋葬施設掘り方

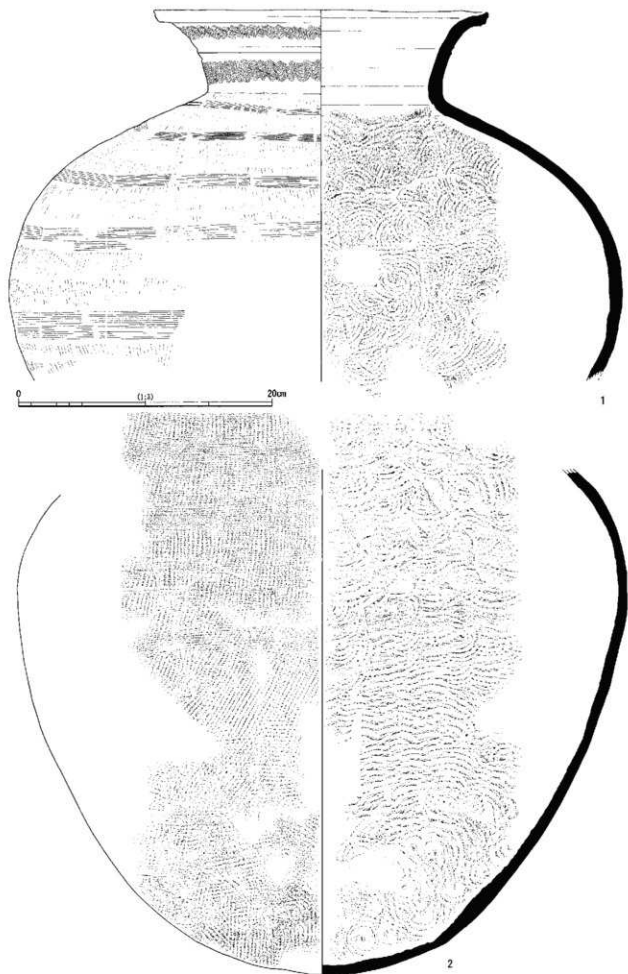
の状況から判断すると第1埋葬施設が古く、第2埋葬施設は後から掘り込まれた可能性がある。

第2埋葬施設(第251図)は掘り方内の南側に片寄り、第1埋葬施設とほぼ軸を揃えている。隅丸の長方形で南側に段差を有する。規模は長軸2.70m、短軸0.73mであり、第1埋葬施設よりも小型である。検出面からの深さは28cmで、底面は平坦である。主軸方位はN-90°-Wである。底面には西端～中央南側付にかけて白灰色粘土が分布し、東南隅にも部分的にみられる。覆土は平坦の層であり、黒褐色細砂の中に白灰色粘土と褐色ローム質シルトブロックが混入した層で、底面の層は硬くしまっていた。

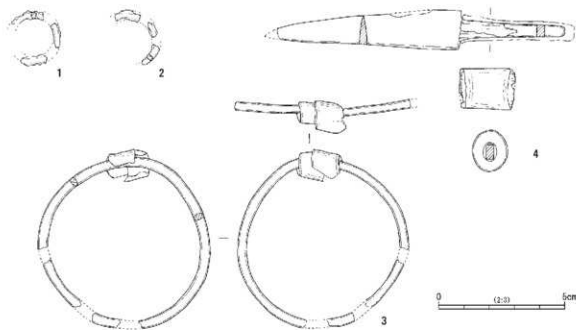
遺物は第1埋葬施設の棺痕跡から耳環2点、鉄釧1点、刀子1点、瑪瑙の勾玉2点、琥珀の勾玉1点、埋れ木の甕玉3点、琥珀の甕玉3点、碧玉の管玉1点、蛇紋岩の管玉2点、緑色凝灰岩の管玉1点、ガラス小玉21点、土製小玉46点が出土した。これらの遺物は棺痕跡の中央部からまともに出土しているが、第252図をみてわかるとおり、やや浮いた状態で出土した遺物も存在し、棺痕跡外から検出された小玉も存在する。これは棺が腐食し、崩落によって遺物が散乱した状態を示すものと認識される。なお、ガラス小玉は棺痕跡の中央部でも東寄りに分布し、土製小玉は中央部に集中してみられる。

第2埋葬施設からは水晶の切子玉1点、ガラス小玉19点、土製小玉17点が出土したが、切子玉1点とガラス小玉1点以外は一括出土であり、遺物の分布は不明な点が多い。なお、出土位置が明確な2点は、南東隅(第251図)の覆土下層からの出土である。

埋葬施設の掘り方(第253図)は、棺痕跡を取り巻くように深さが15cm前後の段差がみられた。段差には凹凸がある部分も存在する。また、第2埋葬施設の木棺直下には白灰粘土及び明黄褐色シルト質粘土、



第254图 SM004出土土器



第255図 SM004出土金属製品

明褐色シルトを貼っており、それらを除去すると棺痕跡よりもやや大きな規模の掘り方が現れた。深さは10cm前後である。なお、全体の掘り方の北東隅付近に性格不明の張り出し部を検出した。深さは11cm前後であり、白灰色粘土が分布していた。

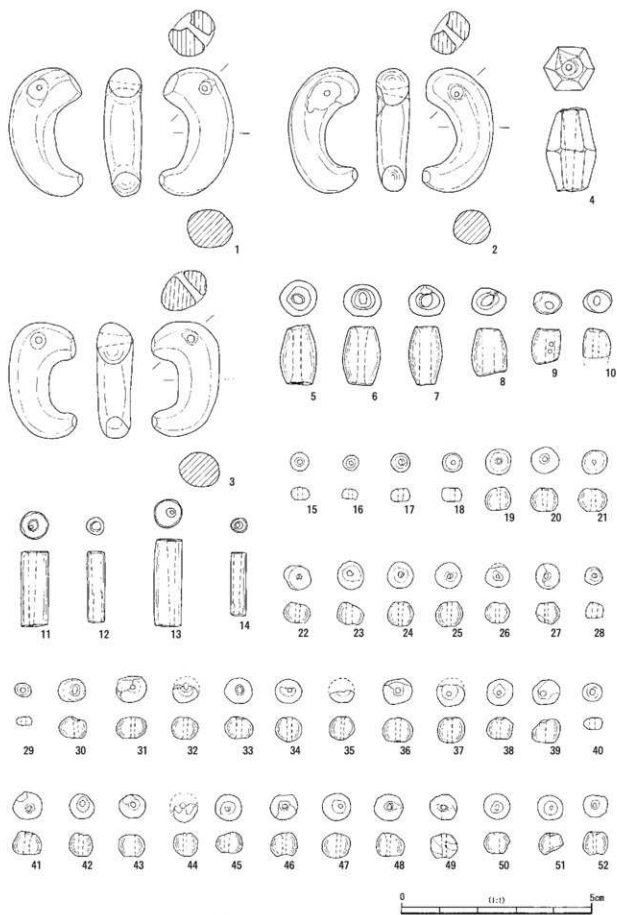
遺物 (第254～257図、巻頭図版8・図版150・156)

土器は2個体出土している。第254図1は主に北西部の周溝内から出土した須恵器の大型広口壺であり、外面には頭部上段に9条、下段に12条の波状文が入り、肩部～胴部は平行タタキ後にカキ目が部分的に施されている。内面には同心円文当て具痕が顕著にみられる。2は墳丘上面及び南西部の周溝、さらにSM003の周溝にも混入する須恵器大型壺又は甕である。底部は丸底で、外面全体に平行タタキを行った後に胴部下半までカキ目を施している。平行タタキ痕はやや右に傾いており、カキ目の単位は重ねて施しているため不明瞭であるが、幅2cmで12条若しくは13条の工具であると考えられる。内面には同心円文当て具痕が密に入っている。胴部上半部に降灰軸がみられる。

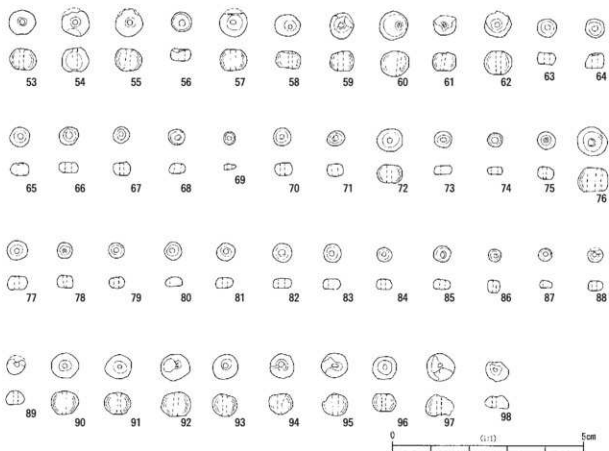
金属製品は第1埋葬施設から4点が出土した。なお、墳丘表土から棒状の鉄製品1点と煙管の火壺1点が出土しているが、時代が異なるのでこれらについては後に触れることにしたい。

第255図1・2は一括で取り上げた錫製の耳環であり、腐食が著しい。3は埋葬施設の中央東寄りから出土した鉄釧である。環の3/4程度が接合し、他に2点の破片が出土している。環の1か所に筒状に鉄板を巻いた金具が2点みられる。この金具は鉄釧本体の太さに比べ大きく、その用途としては総やりボン状の布などを通した装飾や結合装置の可能性が考えられよう。4は鉄製刀子であり、柄の木質部が僅かに残存する。刃部の先端と柄に近い刃部は使い減りをしている。

玉類は多数出土した。第256図(4を除く)及び第257図56～70・72～75は第1埋葬施設から出土した玉類である。第256図1・2は茶色～黄茶色の瑪瑙の勾玉、3は琥珀の勾玉である。5～7は埋れ木の甗玉、8～10は琥珀の甗玉である。11～14は管玉、11の材質は暗い緑色の碧玉、12・13は蛇紋岩、14は緑色凝灰



第256图 SM004出土玉類 (1)



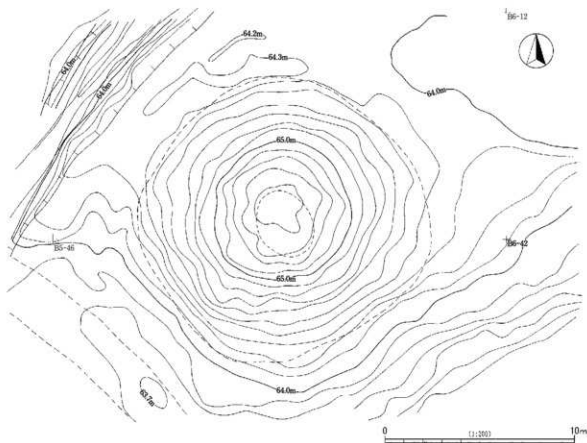
第257図 SM004出土玉類 (2)

岩である。第1埋葬施設からはガラス小玉21個体、土製小玉46個体を検出(第45表)しており、そのうちガラス小玉は20個体、土製小玉は40個体を実測することができた。

ガラス小玉は第256図15~18、28・29・40・56・63~70・72~75である。土製小玉は第256図19~27・30~39・41~52、第257図53~55・57~62である。ガラス小玉の大きさは3.14mm~6.60mmで、平均は4.74mmであり、4mm~5mmのものが多い。色調はにぶ黄緑色8個体、灰味黄緑色4個体、緑色2個体、藍色2個体、にぶ青緑色・うす青緑色・うす黄茶色・うす緑青色・暗青色が各1個体である。

土製丸玉の色調は暗黄茶色であり、大きさは5.84mm~7.88mmまでのものがある。平均の大きさは6.97mmで、6.5mm~7.5mmまでのものが多く、ガラス小玉よりも1まわり大きい。

第2埋葬施設からは水晶の切子玉1個体、ガラス小玉19個体、土製小玉17個体を検出(第45表)しており、小玉はそれぞれ15個体、9個体を実測することができた。切子玉は第256図4、ガラス小玉は第257図71・76~89、土製小玉は90~98である。ガラス小玉の大きさは、3.49mm~7.97mmであり、平均は4.64mmで、4mm程度のものが多い。色調は藍色8個体、緑色4個体、灰味黄緑色4個体、うす緑青色・暗青色・にぶ青緑色が各1個体であり、差異が大きい。土製小玉の色調は暗黄茶色であり、大きさは5.28mm~7.81mmであり、平均で6.53mmである。6mm前後のものが多い。



第259図 SM006現況測量図

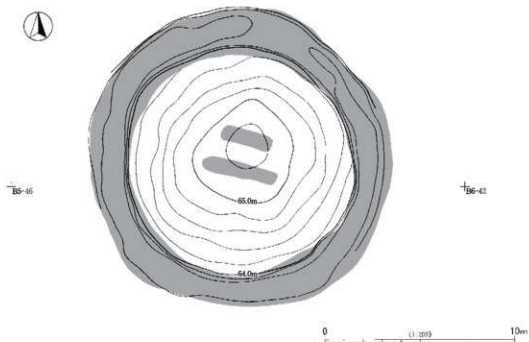
SM005 (第258図、図版118)

調査区の中央部にあり、全体の4割程度が調査区外に延びる円墳であり、中心のグリッドはA5-86である。方形周溝墓SS008とSS009、円墳SM012の周溝を切っており、南東部は覆土に宝永火山灰層が入る近世の道跡に切られて存在する。調査前から墳丘盛土は削平され平坦となっていたので、西側は重機により表土除去を行ったが、東側の一部については旧表土上に盛土と考えられる層（黒色部分）が僅かに残存していた。

墳丘径は、周溝の内側下端間で東西方向は20.2mであり、南北は不明である。なお、周溝の幅については、上端幅が2.5m～4.5m、下端幅は2.3m～2.9mである。周溝の東側に一段深い溝があるが、周溝に沿って掘られているので、本遺構に伴うものと判断される。埋葬施設及び同時代の遺物は検出されなかった。

SM006 (第259～264図、図版119～121・151・157)

SM005の南東にある円墳である。中心のグリッドはB5-39である。遺構の南東は斜面となっており、本遺構よりも大型の円墳SM004・SM005・SM007に三方を挟まれて存在する。方形周溝墓SS015の全域を墳丘域の中に取り込み、SS037の西周溝を切っている。また、縄文時代の土坑SK032・SK033を切る。墳丘は残存し、見かけの墳丘（第259図）は東西が15.4m、南北が15.0mであり、残存の墳丘高は1.1m（墳頂部標高65.4m）である。墳丘の形状はやや東西に長く壺になっているものの、ほぼ円形を保っていた。



第260図 SM006等高線図

周溝は全周する。

古墳墳丘（第260図）は方形周溝墓SS015の墳丘上に造られたと考えられる。土層断面（第261図）の第4・9・11層の部分が周溝墓の盛土と認識され、50cm程度の盛土を利用してさらに古墳の盛土が盛られていた。盛土は方形周溝墓盛土の裾部に土を入れ、平面の規模を大きくしてから上に積んでいったと考えられる。暗褐色細砂と黒褐色細砂でロームブロックが混入する土で構築されており、上層はしまりが甘くなり、表土化していた。

調査によって判明した墳丘（第260図）の規模は、周溝の内側下端間で南北が13.0m、東西が12.5mである。周溝内には黒褐色細砂を多く含む層が堆積していた。周溝の断面形は皿状であり、幅については上端幅が1.55m～3.1m、下端幅は0.5m～1.63mである。周溝内には8か所で掘り込みがみられ、その内の1か所については周溝内の埋葬施設と認識できた。

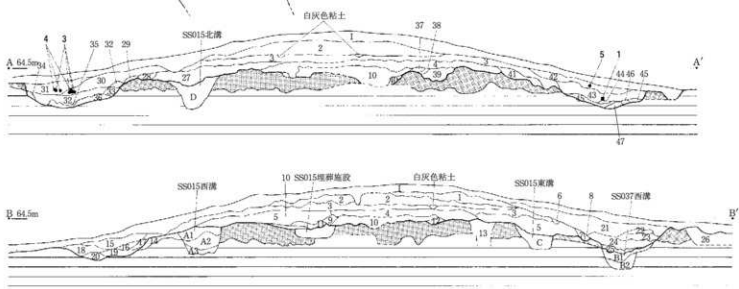
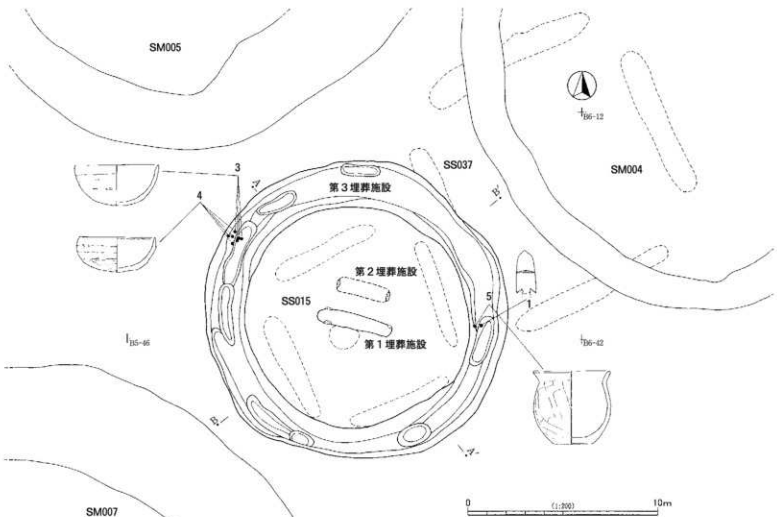
遺物は北西部周溝内から土師器椀2個体、東部の周溝内からは小型甕及び鉄鏝が覆土上層から出土した。周溝外縁から鉄製鉸具が出土している。

埋葬施設（第262・263図）

埋葬施設は2基が墳頂部から、1基が周溝の北部で検出された。第1・2埋葬施設ともに基底面の一部のみの残存であった。検出面は黒褐色細砂の面であり、一見すると旧表土に見えるが、古墳盛土の最下層の部分（方形周溝墓盛土直上）にあたる。

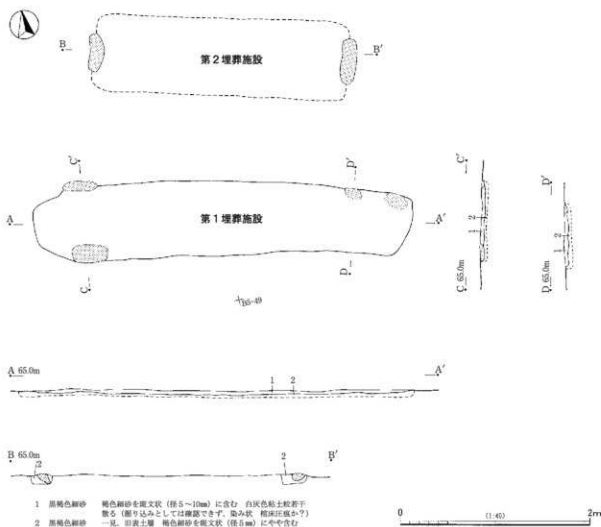
第1埋葬施設（第262図）は黒褐色細砂の中に褐色細砂が含まれ、白灰色粘土粒が混入する部分が長方形形状に残存していたので、埋葬施設とした遺構である。部分的に白灰色粘土が多く認められる部分がある。規模は長軸4.0m、幅0.79mである。主軸方位はN-78°-W前後である。

第2埋葬施設は第1埋葬施設の北側に1m程度離れてほぼ並行して存在する。これは、木棺の小口固定



- | | | | | | |
|--------------|-------------------------------|--------------|--------------------------|--------------|----------------------|
| 1 暗褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5~10mm) 含む しまりは甘い | 21 暗褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) にやや含む | 41 黒褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む |
| 2 黒褐色細砂 | LB (径0.5mm) にやや含む しまりはやや甘い | 22 黒褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) にやや含む | 42 黒褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む |
| 3 黒褐色細砂 | ローム質褐色細砂を縦文状 (径5mm) にやや含む | 23 黒褐色細砂 | LB (径0.5mm) やや含む | 43 黒褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) にやや含む |
| 4 黒褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) にやや含む | 24 黒褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む | 44 黒褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) にやや含む |
| 5 暗褐色細砂 | LB (径0.5~1mm) 含む | 25 黒褐色細砂 | LB (径0.5~1mm) 含む | 45 暗褐色細砂 | LB (径0.3cm) 含む |
| 6 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む | 26 暗褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) にやや含む | 46 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) 含む |
| 7 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) 含む | 27 暗褐色細砂 | 黒色細砂を縦文状 (径0.5cm) 多く含む | 47 暗褐色細砂 | LB (径0.3~0.5cm) 含む |
| 8 褐色ローム混細砂 | LB (径0.5cm) 含む | 28 暗褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5~10mm) に含む | | |
| 9 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) 含む | 29 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む | | |
| 10 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む | 30 暗褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5~10mm) にやや含む | | |
| 11 暗褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) にやや含む | 31 黒褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5~10mm) にやや含む | A1 黒褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む |
| 12 暗褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5mm) に含む | 32 黒褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5~10mm) に含む | A2 暗褐色細砂 | LB (径0.3cm) 含む |
| 13 暗褐色細砂 | 褐色細砂を縦文状 (径5mm) にやや含む (未確認か?) | 33 黒褐色シルト質細砂 | | A3 黒褐色シルト質細砂 | LB (径0.2~0.5cm) やや含む |
| 14 黒褐色細砂 | LB (径0.5cm) にやや含む | 34 褐色ローム混細砂 | LB (径0.5~2cm) 含む | B1 黒褐色細砂 | LB (径0.2cm) 含む |
| 15 暗褐色細砂 | ロームを縦文状 (径5~10mm) に多く含む | 35 暗褐色シルト質細砂 | LB (径0.5~1cm) 含む | B2 暗褐色細砂 | LB (径0.2~0.5cm) やや含む |
| 16 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む | 36 暗褐色シルト質細砂 | LB (径0.5cm) 含む | C 黒褐色細砂 | LB (径0.5cm) 含む |
| 17 暗褐色ローム混細砂 | LB (径0.5~2cm) 含む | 37 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) 含む | D 暗褐色細砂 | LB (径0.2cm) 含む |
| 18 暗褐色細砂 | LB (径0.5cm) やや含む | 38 暗褐色細砂 | LB (径0.5~1cm) 含む | | |
| 19 褐色ローム混細砂 | LB (径0.5~2cm) 含む | 39 暗褐色細砂 | LB (径0.5~1cm) 含む | | |
| 20 褐色細砂 | LB (径0.5~2cm) 含む | 40 褐色シルト質細砂 | LB (径0.5~1cm) 含む | | |

第261図 SM006全体・墳丘断面図



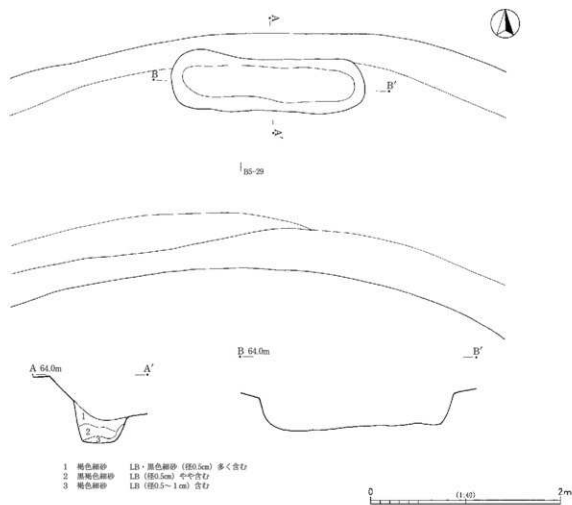
第262図 SM006第1・第2埋葬施設

用と考えられる白灰色粘土ブロックが両端に残存していたことから埋葬施設と判断した遺構であり、断面は粘土ブロックが斜めに打ち込まれたような状態であった。検出面は第1埋葬施設と同一面である。両端の粘土ブロックを含めた長軸の長さは2.83mである。主軸方位は第1埋葬施設と同じと考えられる。両遺構とも遺物は検出することができなかった。

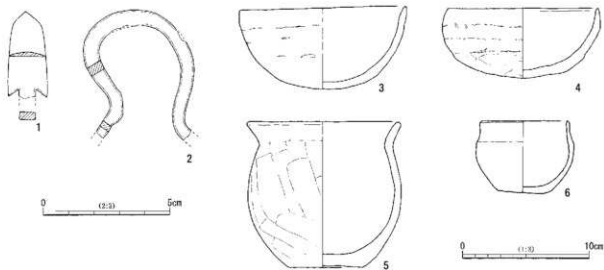
第3埋葬施設(第263図)は北部の周溝内にあり、周溝外壁に沿っていることからSM006の付属土坑墓と考えられる。形状は長楕円形で、規模は長軸2.06m、幅0.63mで、深さは32cmである。主軸方位はN-88°-Wで土層は3層に分かれるが、いずれもロームブロックを含んでおり、人為的な堆積状況を示している。遺物は検出することができなかった。

遺物 (第264図、図版151・157)

鉄製品は2点出土しており、第264図1は東部周溝内から出土した鉄鏃であり、長三角形形式の長頭鏃とみられる。2は周溝外縁から出土した帯金具の鉸具1点であり、変形している。時期は古墳よりも新し



第263図 SM006第3埋葬施設



第264図 SM006出土遺物

い可能性が高い。

土器は4個体を実測することができた。第264図3～6は土師器であり、3・4は碗で両者とも北西部周溝内の覆土上層から出土している。3・4は粗雑な作りであり、外面に粘土紐接合痕が顕著にみられ、部分的に粗い削りが施される。5は東部の周溝内から出土した小型甕であり、外面にはヘラケズリがなされる。6は周溝一括出土の短頸の小型壺であり、外面に横方向のミガキが施される。内面は摩耗しており判別できにくいですが、ミガキがなされているものと考えられる。

SM007 (第265図～273図、巻頭図版8・図版122～125・151・155・157・158)

SM006の南西に所在する墳地である。中心となるグリッドはB5-84である。SM007は本遺跡で墳長が最大の古墳である。本古墳は南西にある方形周溝墓SS048を切っているが、この方形周溝墓も本遺跡の方形周溝墓の中では最大である。立地的に斜面際で最も目立つ箇所が存在するので、この一角は本調査区の中で最も墳丘が映える場所であったのであろう。

方形周溝墓SS053の全域を墳丘の中に取り込み、SS052・SS054及びSS048の北溝を切り、墳丘域の下には縄文時代の陥穴SK153・SK156、土坑SK154・SK155が存在する。古墳の西部は近世の道跡により部分的に切られる。

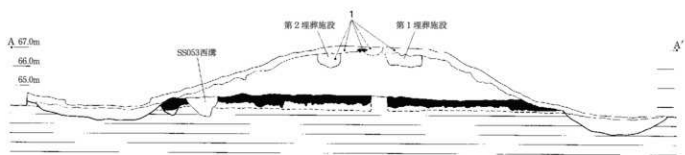
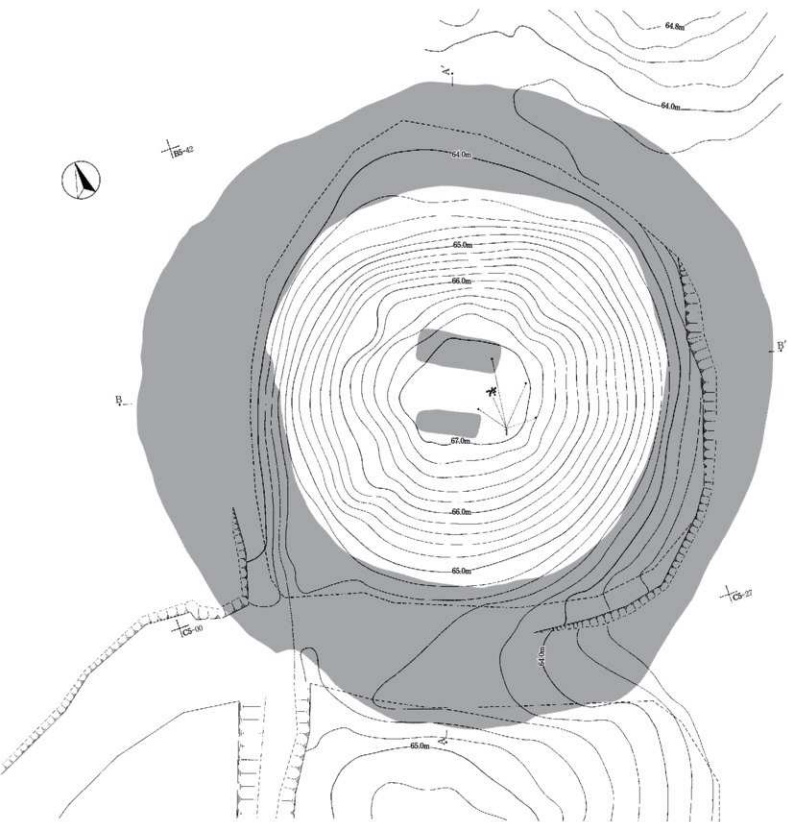
見かけの墳丘(第265図)は南北25.0m、東西23.8mで、墳丘高は3.5m(墳頂部標高66.88m)である。墳丘の形状は墳丘西部は近世の道跡により一部が削平され、東部も部分的な削平により変形しており、やや不整形となっていた。

SM007は平坦に整地してから古墳の墳丘を構築しており、ほかの古墳の構築方法と異なり、周溝墓の盛土はほとんど墳丘に利用されていなかった。また、本遺構で特筆すべきことは、古墳の西半分の墳丘下、旧表土近くで墳丘裾に沿ってロームを充填した溝(第266図スクリーントーン部)を検出したことである。この溝は弧状を呈しており、古墳の墳丘裾の計画線と考えられる。溝の幅は20cm～30cmの部分が多い。

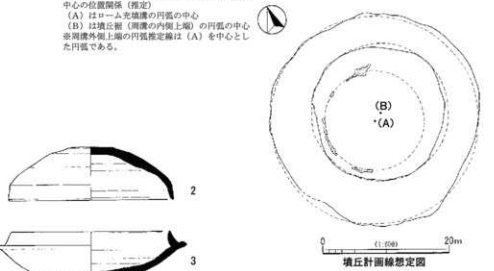
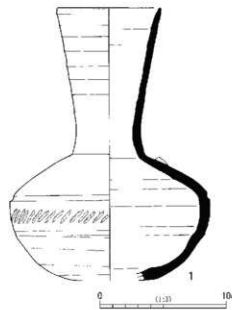
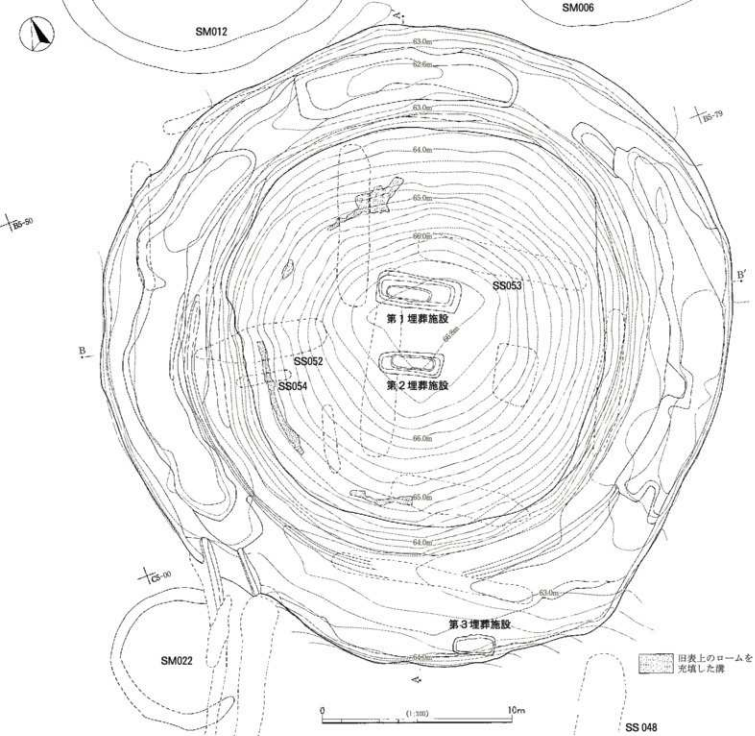
第266図右下の図は旧表土上のローム充填溝を基にした墳丘計画線想定図である。(A)とした点はローム充填溝の円弧の中心であり、(B)は墳丘裾(周溝の内側上端部)の円弧の中心を表している。三重の破線は外側が(A)を中心とした周溝外側上端の円弧推定線であり、中間の破線は(B)点を中心とする裾部の円弧の線、内側がローム充填溝の円弧推定線である。実線で表したものは周溝の内側上端部と外側上端部の線である。この図からは、ローム充填溝の中心(A)を中心とした円弧の部分に調査した周溝外側上端部の線がほぼ重なっており、周溝外側の割付けは、墳丘のローム充填溝の中心を基に計画され、掘られたことが想定できる。

墳丘の盛土は第267図下段の墳丘構築工程概念図で図示したように、平坦にした整地層の上の中央付近(やや北東寄り)に高まりを造り、中央の高まりを覆うように土を被せていく方法をとっている。土層の色調は大まかに4層に分かれる。

調査によって判明した墳丘の径は、周溝の内側下端間で23.9mである。周溝内の底面近くには黒褐色細砂を多く含む層や褐色ローム混細砂の層が堆積しており、墳丘から流出した層が堆積していた。周溝の幅については、上端幅が4.8m～7.7mであり、差異がある。底面には内縁に沿って溝を有する部分があり、断面は皿状で段差が著しい部分もみられる。深さは最深部で1.23mである。西側の周溝は一部が近世の道跡によって切られている。



第265図 SM007現況測量図



第266図 SM007等高線・墳丘計画線想定図・出土土器

埋葬施設（第268・269・270図）

古墳墳頂部から2基、周溝内から土坑墓1基を検出した（第266図）。墳頂部の埋葬施設はほぼ平行して配置されており、表土を除去するとすぐに埋葬施設の上層が検出された。

第1埋葬施設（第268図）は墳頂部の中央にある。掘り方は長方形で、長軸4.49m、幅1.80mであり、深さは45cmである。掘り方内には白灰色粘土が両端部にみられ、西側にある白灰色粘土については棺痕跡と密着しているため、棺を固定するために使用された粘土と考えられる。土層は底面近くの層が硬くしまっていた。棺痕跡は掘り方の西南に偏って存在し、形状は長方形である。規模は長軸2.34m、幅0.69mで、中央に細長く硬化面がみられた。主軸方位はN-118°-Eである。なお、棺痕跡は判別しにくかったため、断面から形状を確認して調査を行っている。底面は平坦であり、確認面からの深さは35cmである。覆土は暗褐色細砂を主体として、ロームブロックを含む土であり、しまりが甘い部分が多い。遺物は棺痕跡北西の覆土下層から鉄鏝が出土したのみであった（第271図2）。

第2埋葬施設（第269・270図）は第1埋葬施設の南東2.5mの距離にある。掘り方は長方形であり、主軸長は3.36m、幅1.21m、確認面からの深さは50cmである。第1埋葬施設よりも小振りである。掘り方の土層は暗褐色細砂のなかにロームブロックが混入する層で、白灰色粘土が入る層や褐色細砂でロームブロックがみられる層があり、しまりが甘い層もあった。掘り方の南東部には白灰色粘土が分布する（スクリーン部）。掘り方底面は墳丘盛土と判別が難しかった。

棺痕跡は掘り方の中央やや北寄りにあり、形状は長方形で規模は、長軸2.35m、幅0.69mで、深さは掘り方よりも13cm程度浅い。主軸方位はN-115°-Eであり、第1埋葬施設と3°の差異がある。底面には明褐色の色調で硬化した面があり、ほぼ平坦である。

覆土は暗褐色細砂でロームブロックが入る層と、黒褐色細砂でロームブロックがあり、その下層の褐色シルト質細砂と暗褐色シルト質細砂でロームブロックが混入する層から多量の遺物が出土した。鉄製品は直刀1振、刀子7点、鉄鏝約16点が出土し、玉類は12点を検出した。

玉類は東部に集中し、中央やや西寄りから出土した直刀は切先を西に向けているので、被葬者は頭を東向きにして埋葬されていたと考えられる。鉄鏝は2か所に分かれて検出され、東部から7本がまとまった形で出土し、直刀の脇からも9本が出土した。これらの鏝の刃先は東部の一群は東向きに置かれ、直刀脇の一群には東向きと西向きのものがあつた。このほかにも鉄鏝破片が玉類の周囲に少量みられるが、これについては棺の腐食等に伴って動いたものと考えられる。刀子は直刀の脇から2点が出土し、玉類の周囲から5点が出土した。

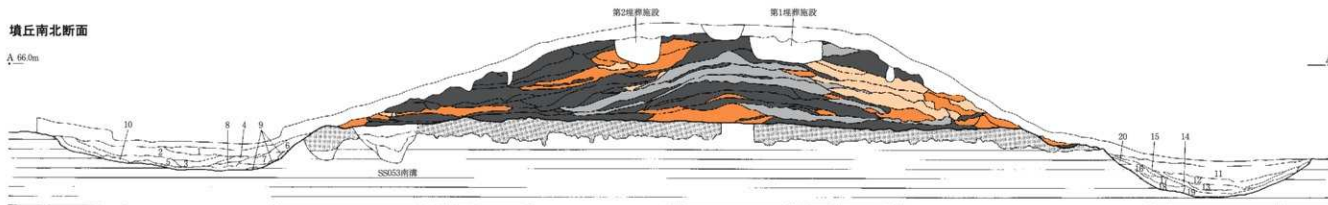
南側の周溝内から検出された第3埋葬施設（土坑墓）は隅丸長方形の形状（第269図）で、長軸2.24m、幅1.05mであり、深さは20cmである。主軸方位はN-70°-Wである。周溝壁側の土坑壁は直に掘り込まれており、底面はほぼ平坦である。覆土の主体は上層が黒褐色細砂に褐色細砂を含む層で、下層は黒褐色シルト質細砂でロームをブロック状に含む層であり、人為的に埋め戻された層であると考えられる。底面近くから土師器の須恵器模倣杯が出土した。

遺物（第266・269・271～273図、巻頭図版8・図版151・155・157・158）

土器は4個体を実測することができた。第266図1は墳頂部から出土した須恵器壺であり、底部外面には回転ヘラケズリが施され、頸部内面にはシボリ目がみられる。肩部と胴部上半に沈線が廻り、その中に縄文が施される。肩部外面と口縁部から頸部内面に自然釉が付着する。2は南東部の周溝内から出土し

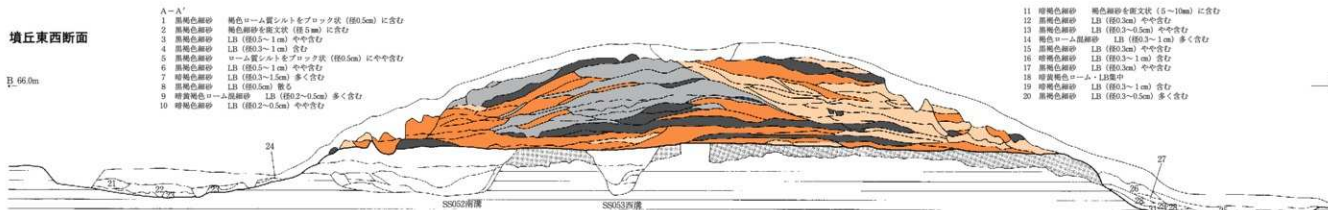
墳丘南北断面

A 66.0m



墳丘東西断面

B 66.0m



- A-A'
- 1 黒褐色細砂 褐色ローム質シルトをブロック状 (厚0.5cm) に含む
 - 2 黒褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (厚0.5m) に含む
 - 3 黒褐色細砂 LB (厚0.5~1m) 中々含む
 - 4 黒褐色細砂 LB (厚0.3~1m) 含む
 - 5 黒褐色細砂 ローム質シルトを縦文状 (厚0.5cm) に中々含む
 - 6 黒褐色細砂 LB (厚0.5~1m) 中々含む
 - 7 黒褐色細砂 LB (厚0.3~1.5m) 多く含む
 - 8 黒褐色細砂 LB (厚0.5cm) 散ら
 - 9 暗黄褐色ローム混細砂 LB (厚0.2~0.5m) 多く含む
 - 10 暗褐色細砂 LB (厚0.2~0.5cm) 中々含む

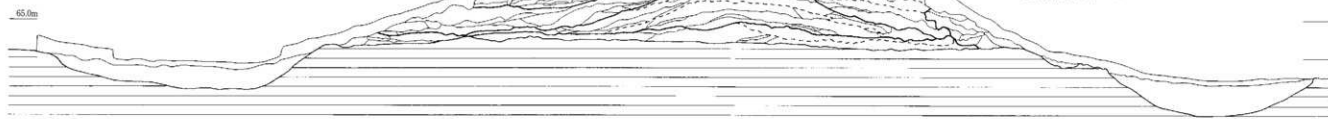
- 11 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (5~10cm) に含む
- 12 黒褐色細砂 LB (厚0.3cm) 中々含む
- 13 黒褐色細砂 LB (厚0.3~0.5cm) 中々含む
- 14 褐色ローム混細砂 LB (厚0.3~1m) 多く含む
- 15 黒褐色細砂 LB (厚0.5cm) 中々含む
- 16 暗褐色細砂 LB (厚0.3~1m) 含む
- 17 黒褐色細砂 LB (厚0.3cm) 中々含む
- 18 暗黄褐色ローム・LB混中
- 19 暗褐色細砂 LB (厚0.3~1m) 含む
- 20 黒褐色細砂 LB (厚0.3~0.5cm) 多く含む

- B-B'
- 21 黒褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (厚0.5m) に含む
 - 22 暗褐色細砂 LB (厚0.3cm) 含む 褐色細砂を縦文状 (5m) に中々含む
 - 23 褐色ローム混細砂 LB (厚0.5~1m) 多く含む
 - 24 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 中々含む

- 25 暗褐色細砂 LB (厚0.3cm) 含む 暗褐色ローム質シルトを縦文状 (厚0.5m) に多く含む
- 26 暗黄褐色ローム混細砂 LB (厚0.3~2cm) 多く含む
- 27 褐色ローム混細砂 LB (厚0.3~1.5cm) 多く含む 黒色細砂ブロック (厚1cm) 含む
- 28 暗褐色ローム混細砂 LB (厚0.3~2cm) 多く含む 黒色細砂ブロック (厚0.5cm) 散ら
- 29 黒褐色細砂 LB (厚0.2cm) 中々含む
- 30 褐色細砂 LB (厚0.3~1m) 多く含む
- 31 暗黄褐色土混中 (厚0.3~1.5m)
- 32 暗褐色細砂 ソフトローム

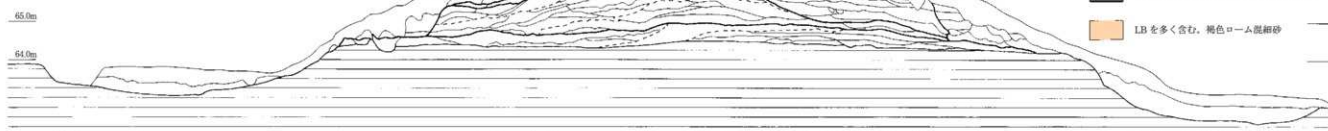
墳丘構築工程概念図 (南北断面)

A 66.0m



墳丘構築概念図 (東西断面)

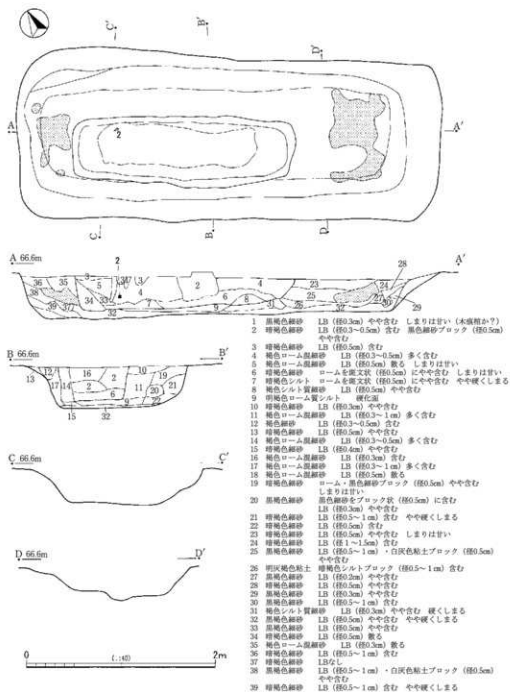
B 66.0m



- SM007 凡例
- LB, 黒色細砂ブロックを含む褐色~暗褐色細砂
 - LB, 黒色細砂ブロックを含む、暗褐色~黒褐色細砂
 - LB, 黒色細砂ブロックを含む、黒褐色細砂
 - LBを多く含む、褐色ローム混細砂

第267図 SM007墳丘断面・墳丘構築工程概念図



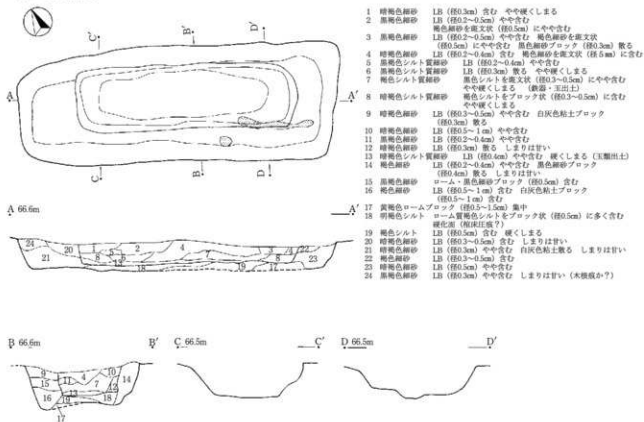


第268図 SM007第1埋葬施設

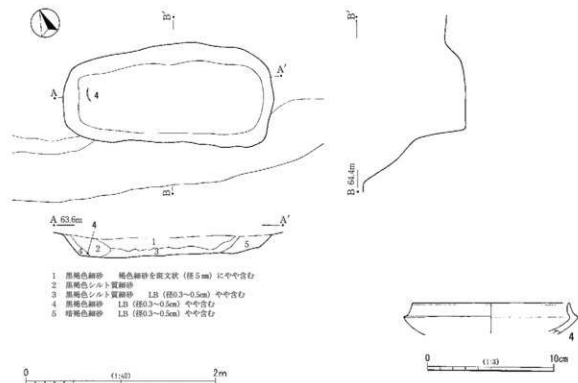
た須恵器杯蓋であり、天井部外面に回転ヘラケズリが施される。胎土に白色小石を多く含む。3は墳丘内の上層から出土した須恵器杯身であり、底部外面に回転ヘラケズリが施される。白色小石を含む。第269図4は周溝内の土坑墓から出土した土師器の須恵器模倣杯である。

鉄製品は第1埋葬施設から鉄鏝1点、第2埋葬施設から直刀1振、刀子7点、鉄鏝約16点が出土(第271・272図)している。第271図2以外はすべて第2埋葬施設の出土遺物である。第271図1は直刀であり、錆膨れのため折損面を合わせると歪むので、図上復元を行っているが、全長は73.1cmで本道跡中最も全長が長い直刀である。刀身の風裏のごく一部に木質部が付着し、茎の広範囲に柄木痕が遺存する。茎にある

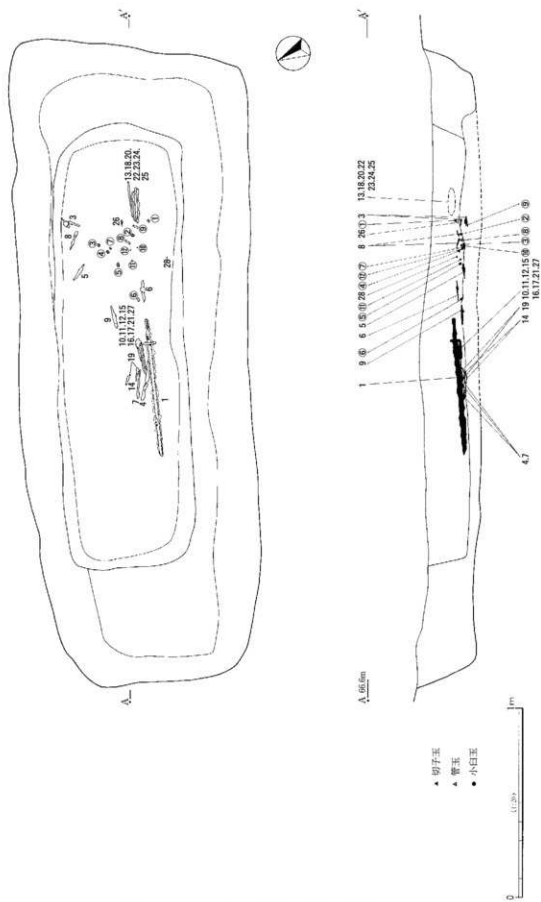
第2埋葬施設



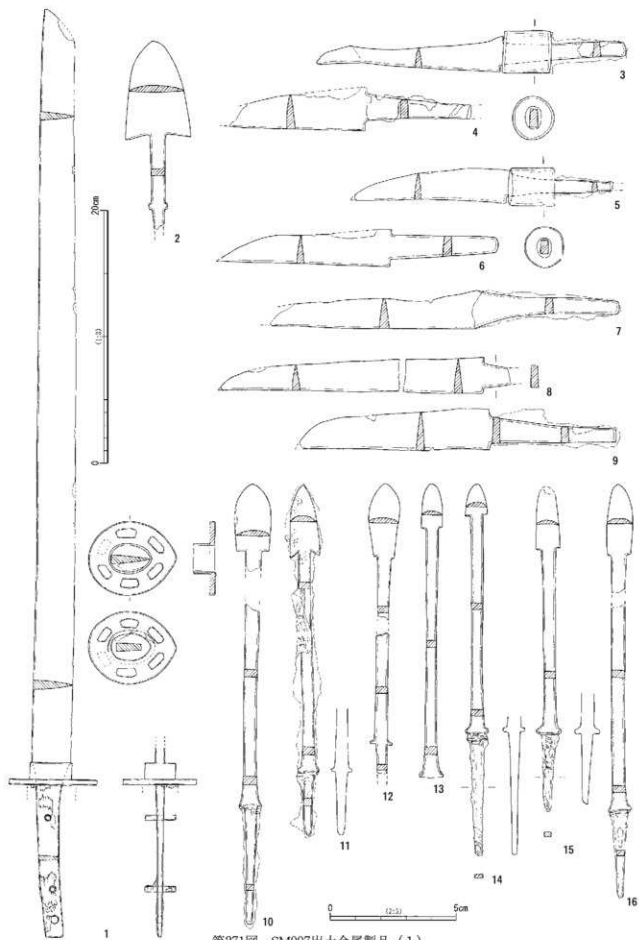
第3埋葬施設



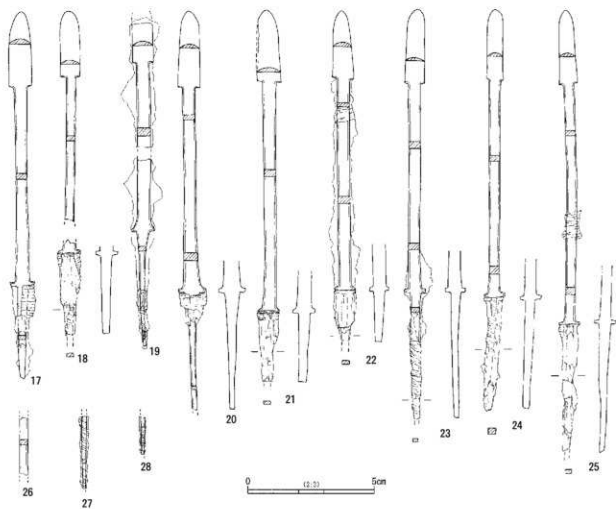
第269図 SM007第2・第3埋葬施設・出土土器



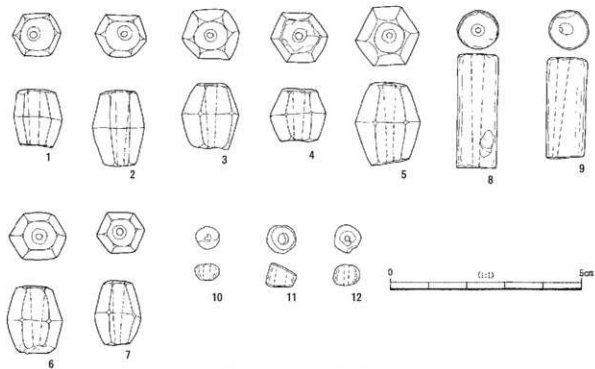
第270图 SM007第2埋葬施設遺物出土状況図



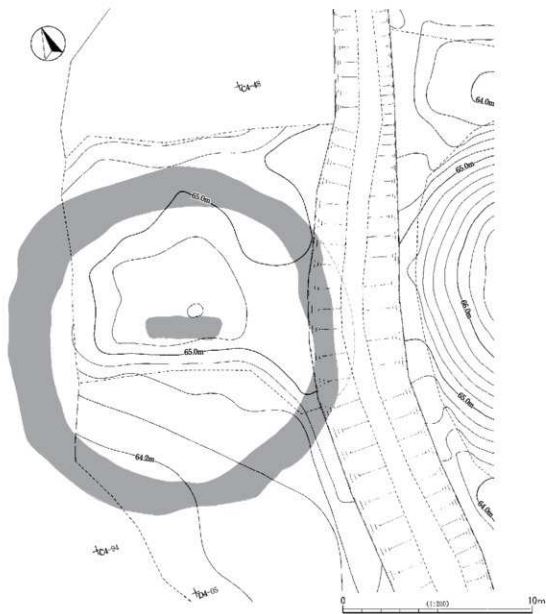
第271图 SM007出土金属制品(1)



第272図 SM007出土金属製品（2）



第273図 SM007出土玉類

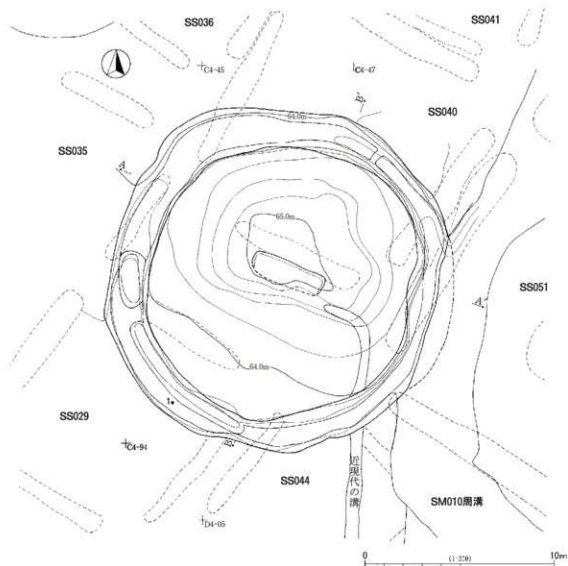


第274図 SM009現況測量図

3孔のうち、目釘は2孔で遺存するが、茎尻の孔には目釘がみられない。この孔の径は5.6mm×5.2mmであり、懸通孔として機能していた可能性が考えられる。鍔・鏢ともに刀身に鏢着しており、鍔は一部が欠損する。鏢は有窓鏢で、現状では透し窓が貫通しているのは1か所のみであり、X線透過画像により5か所に透し窓を確認した。鏢の形状から窓の配置を考えると6窓に復元できる。

2は第1埋葬施設出土の丸味を帯びた広身の三角形鉄鏢で、短い棒状部をもつ短頭鏢である。茎の先端は欠損している。

第271図3～9は鉄製刀子であり、3と5には柄頭金具が装着されている。3には研ぎ減りがみられる。第271図10～16、第272図17～28の鉄鏢はいずれも長頭鉄鏢である。鏢身が広身のものと、細身のものがあり、10・11は形状の異なる長三角形の鏢身で、11は逆縁が顕著であり、鏢身部分に布目痕がみられる。12・15～25は剣身形の鏢身をもつが、15のようにふくらのあるものや23～25のように極めて細身のものま



第275図 SM009全体図

で形態は多様である。13は小型の長三角形、14はさらに小型の三角形竈である。

玉類は、すべて第2埋葬施設からの出土であり、12個体中7個体（第45表）が水晶の切子玉である。第273図1～7は無色透明の色調の切子玉であり、最大長13.6mm～21.2mmで、最小径11.0mm～14.6mmである。孔は片側から開けられている。8・9は碧玉の管玉であり、8は最大長30.3mm、最小径11.0mmである。9は最大長26.7mm、最小径10.7mmである。両者とも孔は片側から開けられており、入り口部と出口部の孔径の差は倍以上である。10・12は土製丸玉であり、11は滑石の白玉である。

SM009（第274～276図、図版126・151）

調査区の南西部に所在する円墳である。中心となるグリッドはC4-65グリッドである。方形周溝墓SS029・SS035・SS040・SS044・SS051と縄文時代の土坑SK093・SK095～SK097・SK099・SK103・SK104、炉跡SK098を切る。古墳の東部周溝は近世の道跡に切られる。円墳SM010の周溝と重複する。中間に近世の道跡が入るため、新旧関係の判別が難しいが、出土遺物から考えるとSM010よりも本遺構のほうが古い



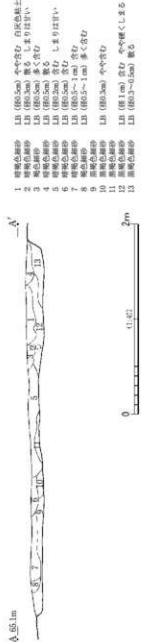
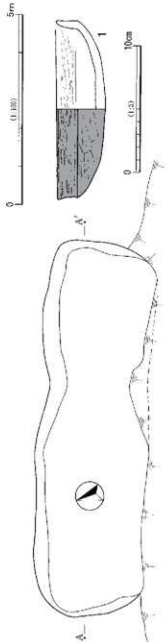
- 11 黄土 細い中砂質
- 12 黄土 中砂質
- B 黒褐色シルト質細砂 LB (60.5m) 礫る
- C 黒褐色細砂 LB (60.3m) 礫る
- D 黒褐色シルト質細砂 LB (60.3m) 礫る



- A'-A'' B'-B'' 埋土中砂質
- 1 黄土 細い中砂質
- 2 黄土 中砂質
- 3 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 4 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 5 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 6 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 7 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 8 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 9 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 10 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 11 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 12 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 13 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 14 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 15 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 16 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 17 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 18 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 19 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 20 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 21 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 22 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る

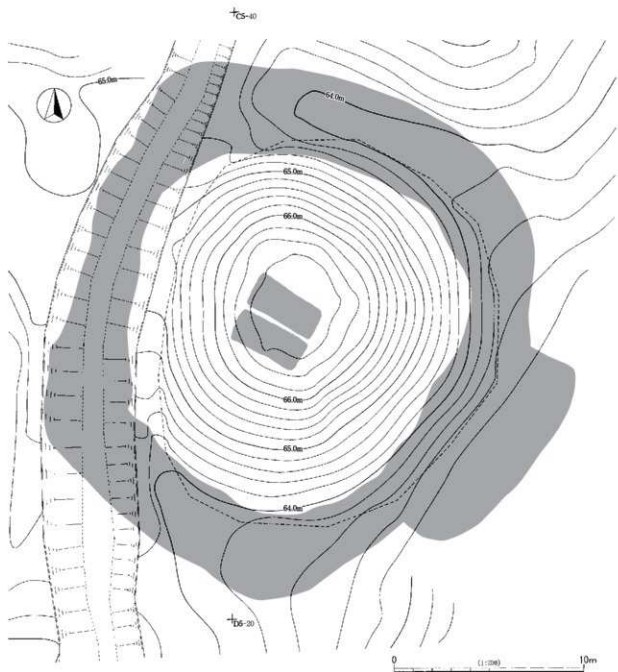
- A'-A'' B'-B'' 埋土中砂質
- 1 黄土 細い中砂質
- 2 黄土 中砂質
- 3 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 4 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 5 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 6 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 7 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 8 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 9 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 10 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 11 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 12 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 13 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 14 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 15 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 16 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 17 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 18 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 19 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 20 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 21 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 22 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る

- 23 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 24 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 25 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 26 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 27 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 28 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 29 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 30 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 31 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 32 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 33 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 34 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 35 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 36 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 37 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 38 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 39 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 40 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 41 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 42 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 43 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 44 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る



- 1 埋土中砂質
- 2 黄土 細い中砂質
- 3 黄土 中砂質
- 4 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 5 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 6 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 7 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 8 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 9 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 10 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 11 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 12 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る
- 13 黒褐色細砂 LB (60.5m) 礫る

第276図 SM009墳丘断面図・埋葬施設・出土土器



第277図 SM010現況測量図

と認識される。

墳丘盛土の大半は近世に削平されたと考えられ、とくに南半分は削平が著しい(第274図)。東側の一部も近世の道跡により破壊されており、残存形状についても至なものとなっている。見かけの残存墳丘高は0.8m(墳頂部標高65.4m)である。

調査によって判明した墳丘径(第275・276図)は、周溝の内側下端間で南北が15.0mであり、東西が14.9mである。古墳の築造は断面をみる限り、方形周溝墓の墳丘盛土を削平した上に盛土したと考えられるが、旧表土(スクリーントーン部分)上には凹凸が目立っている。残存の盛土の厚さは0.7mであり、中央部分に最初に盛土を積んでいる。地山と同様な色調の黒褐色色細砂にロームブロックが入る土を入れ、

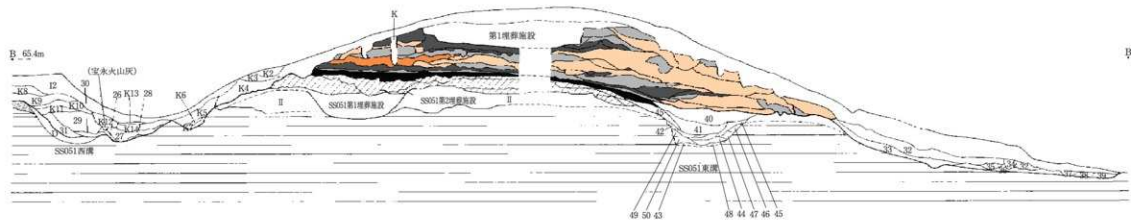
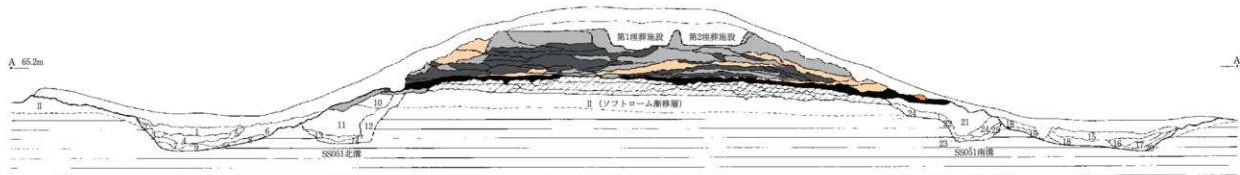


第278図 SM010全体図

その上に暗褐色細砂を主体とするローム混入土を積んでいる。

周溝の断面形は皿状であり、幅は上端幅が1.25m～2.60m、下端幅は0.60m～1.70mである。周溝の覆土の主体は黒褐色細砂にロームブロックが入る層である。周溝の底面には掘り込みがみられ、段差がある部分も存在する。西部の周溝底面には形状が楕円形で、長軸3.0m、幅1.26mの規模で深さ13cmの掘り込みがあるが、遺物は出土しておらず、埋葬施設の可能性は低い。

周溝の南西部の覆土中層から土師器杯が1個体出土した。



墳丘部凡例

- 褐色ローム混細砂, 明褐色ローム混細砂
LB(径0.5~4.0cm)を多く含む
- 暗黄褐色ローム混細砂, 暗黄褐色ローム
LB(径1.0~4.0cm)が集中する
- 暗褐色細砂
LB(径0.2~1.5cm)を含む
- 黒褐色細砂
LB(径0.2~1.0cm), 黒色砂or土ブロック(径0.5)を含む
- SS01の墳丘盛土

黒い部

- 黒褐色細砂 ロームブロック(径0.2m)や含む
- 褐色細砂を縦文状(径0.5cm)を含む(田表層)

A-A' 埋土層

- SM010 A' 側埋溝
- 1 黒褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む
 - 2 黒褐色細砂 LB (径0.5cm) に含まれる
 - 3 褐色ローム混細砂 LB (径0.3~0.5cm) 多く含む
 - 4 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 散在
 - 5 黒褐色細砂 LB (径0.2cm) 散在
 - 6 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 7 暗褐色細砂 LB (径0.2~1cm) 多く含む
 - 8 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 9 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む

SS01 A' 側埋溝

- 10 黒褐色ローム混細砂 LB (径0.3~0.5cm) 若干散在
- 11 黒褐色ローム混細砂 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む
- 12 黒褐色シルト LB (径0.3~0.5cm) 含む
- 13 黒褐色シルト LB (径0.2cm) や含む
- 14 黒褐色シルト LB (径0.2~0.5cm) や含む

SM010 A' 側埋溝

- 15 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径0.5mm) に含む
- 16 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 若干含む
- 17 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) や含む
- 18 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) や含む
- 19 暗褐色ローム混細砂 LB (径0.2~1cm) や多く含む
- 20 褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 多く含む

SS01 A' 側埋溝

- 21 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 散在
- 22 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) や含む
- 23 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
- 24 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 散在
- 25 暗褐色細砂 LB (径0.2~1cm) や含む

B-B' 埋土層

- SM1010 B' 側埋溝
- 26 暗褐色細砂 しまりはよい (定本テララ宮)
 - 27 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径5~10mm) に含む
 - 28 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む

SS010 側埋溝

- 29 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 含む
- 30 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) や含む
- 31 暗褐色細砂 LB (径0.5~1cm) 含む

SS01 B' 側埋溝

- 32 黒褐色シルト質細砂 LB (径0.2cm) 散在

近江川河床の埋土

- K1 赤土
- K2 暗褐色細砂 定本テララ含む
- K3 暗褐色ローム混細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
- K4 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 含む
- K5 暗褐色細砂 褐色土を縦文状 (径0.5cm) 含む
- K6 黒色火山灰
- K7 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 含む
- K8 暗褐色細砂-中砂 しまりはよい
- K9 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) や含む (近江普通層)
- K10 暗褐色細砂 褐色細砂をブロック状 (径0.5~1cm) に含む
- K11 暗褐色細砂 (近江普通層)
- K12 暗褐色細砂 定本テララ
- K13 暗褐色シルト 埋込層
- K14 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 含む



- SM010 B' 側埋溝
- 33 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径10mm) に含む LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 34 暗褐色細砂 ロームを縦文状 (径0.5cm) に含む
 - 35 暗褐色ローム混細砂
 - 36 暗褐色ローム混細砂
 - 37 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状 (径5mm) に含む
 - 38 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 含む
 - 39 暗黄褐色ローム混細砂
- SS01 B' 側埋溝
- 40 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 41 暗褐色ローム混細砂を縦文状 (径5~10mm) に含む
 - 42 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 43 暗褐色細砂 LB (径0.2~1cm) 多く含む
 - 44 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 45 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) や含む
 - 46 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.5cm) 含む
 - 47 暗褐色ローム混細砂 褐色細砂を縦文状 (径0.5~1cm) 含む
 - 48 暗褐色細砂 LB (径0.2cm) 含む
 - 49 暗褐色細砂 LB (径0.2~1cm) 多く含む
 - 50 暗褐色ローム混細砂 LB (径0.2~0.5cm) 多く含む

第279図 SM1010墳丘断面図

埋葬施設 (第276図)

墳頂部から1基が検出されたが、南側は削平のため不明となっており、ほかの部分も削平が著しく、掘り方の基底面のみを検出である。形状は長方形と考えられ、長軸3.97m、残存の幅は1.21m、深さは20cmである。主軸方位はN-68°-Wである。掘り方の土層は、上層部分は暗褐色細砂でロームブロックを含む層が主体であり、一部に白灰色粘土が含まれる層が認められた。下層は黒褐色細砂でロームブロックを含む層と含まない層がみられた。遺物は検出できなかった。

遺物 (第276図、図版151)

第276図1は周溝出土の須恵器模倣の土師器杯であり、内外面にミガキが施され、外面に黒色処理がなされる。

SM010 (第277～286図、巻頭図版8・図版127～130・155・159)

円墳SM009の東に位置し、斜面際に立地する。中心となるグリッドはC5-70である。SM009の周溝と本遺構の周溝が重複するが、近世の道跡とも重複しており、新旧関係は明確にできなかった。墳丘が残存する方形周溝墓SS048を切り、SS051の大半が墳丘下に入り、SS040・SS044・SS049を切る。また、縄文時代の陥穴SK141を切り、墳丘城内には縄文時代の炉跡SK142・SK150、土坑SK143～SK149・SK151が存在する。

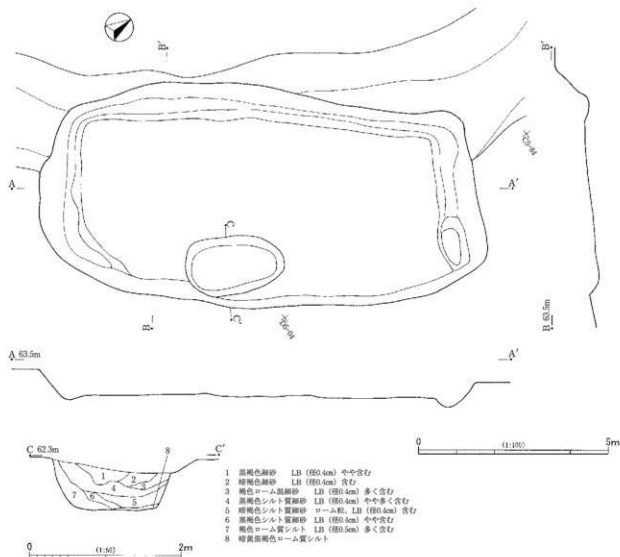
見かけの墳丘は全長20.0mで、墳丘高は2.9m(墳頂部標高66.4m)である(第278図)。墳丘の西側が覆土の下層に宝永火山灰層が入る近世の道跡によって削られたため、墳丘の形状は変形している。周溝の全体的な形状は若干南北に長い楕円気味に復元できる。

墳丘盛土下には弥生時代の方形周溝墓SS051の墳丘盛土(第279図の斜線のスクリーントーン部)がみられ、さらに下には同方形周溝墓の埋葬施設が存在していた。

墳丘は方形周溝墓の盛土上に堆積していた旧表土を整地してから盛土を行っており(第279図)、大部分は平坦としているが、南東側はSS0051の墳丘外であるため整地層自体も下がっている。盛土は大まかに4つの色調に大別され、暗褐色細砂や基盤層の土である黒褐色細砂を最初に入れている箇所が多い。墳丘の南西側は層がとくに細かく分かれ、念入りに積んでいたことがわかる。南西から順次積んでいったと考えられる。埋葬施設の底面の層は平坦に積まれていた。調査によって判明した墳丘の径は、周溝の内側下端間で20.8mである。

周溝は近世の道跡によりかなり削平されており、不明な部分も多い。周溝内には黒褐色細砂を多く含む層や暗褐色細砂の層が堆積しており、墳丘から流出した層が堆積していた。周溝の幅については、上端幅が3.10m～4.50mであり、下端幅は1.35m～3.05mで差異が著しい。

周溝の南東部にはテラス状の堅穴が存在する。平面形(第280図)は長方形で、規模は長軸11.50m、幅は5.56mであり、東壁を除く壁沿いに周溝を有する。底面は東壁に向かって低く傾斜しており、西壁際と東壁際の底面の比高差は36cmに達しており、一般の堅穴とは様相が異なる。北壁の東隅には長楕円形の掘り込みがあり、規模は長軸1.43m、幅0.74m、深さは28cmである。東壁際の中央には楕円形の土坑がある。規模は長軸2.60m、幅1.53m、深さ55cmである。この堅穴状の遺構については、調査時にはSM010のテラスと位置づけられていたが、遺物は出土しておらず本遺構に伴うものかどうかは判然としない。性格不明な遺構である。周溝等からは実測可能な遺物は検出できなかった。



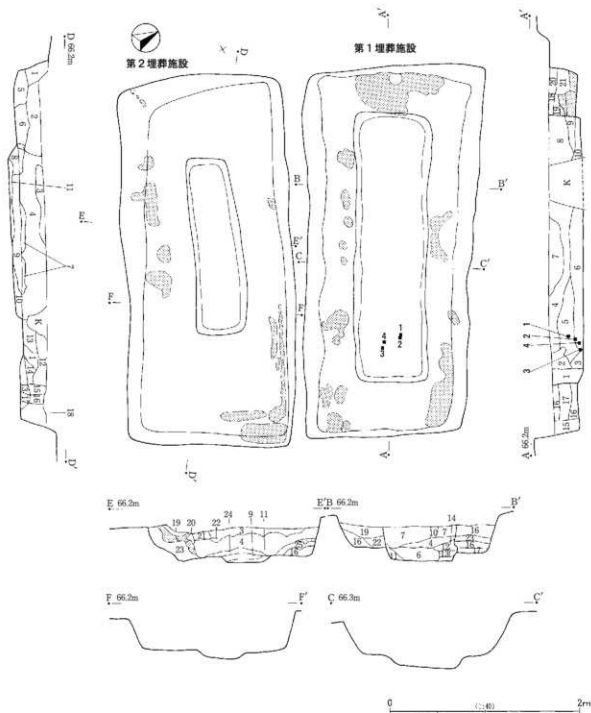
第280図 SM010テラス状遺構

埋葬施設 (第281・282図)

埋葬施設は、ほぼ墳頂部の中心から2基が並んで検出された。両者の形状は長方形で、同規模の掘り方を有しており、軸線もほぼ同様である。表土を除去し、すぐに埋葬施設の掘り方を検出したが、墳丘の盛土と識別が難しく、棺痕跡の検出は苦労した。

第1埋葬施設の掘り方の規模は長軸3.91m、幅1.90mで、深さは44cmである。掘り方内には白灰色粘土ブロックが分布しており、位置を捉えることができた。土層は暗褐色を主体とする層である。棺痕跡は掘り方の中央にあり、平面形は長方形で、ほぼ掘り方の軸と揃っていた。規模は、長軸2.78m、幅0.77mであり、底面は掘り方底面よりも10cmほど深い。主軸方位はN-119°-Eである。覆土は暗褐色土を主体とするが、底面に近い層のみ明褐色の層であった。遺物はこの明褐色の層から銅製の耳環が4点(破片)出土した。おそらく1対分とみられ、これによって頭位は南側と推定できる。

第2埋葬施設は第1埋葬施設の西側にあり、掘り方の規模は長軸3.90m、幅1.78m、確認面から底面までの深さは38cmである。土層は暗褐色土のなかにロームを含む層が多く、白灰色粘土がみられる。掘り方



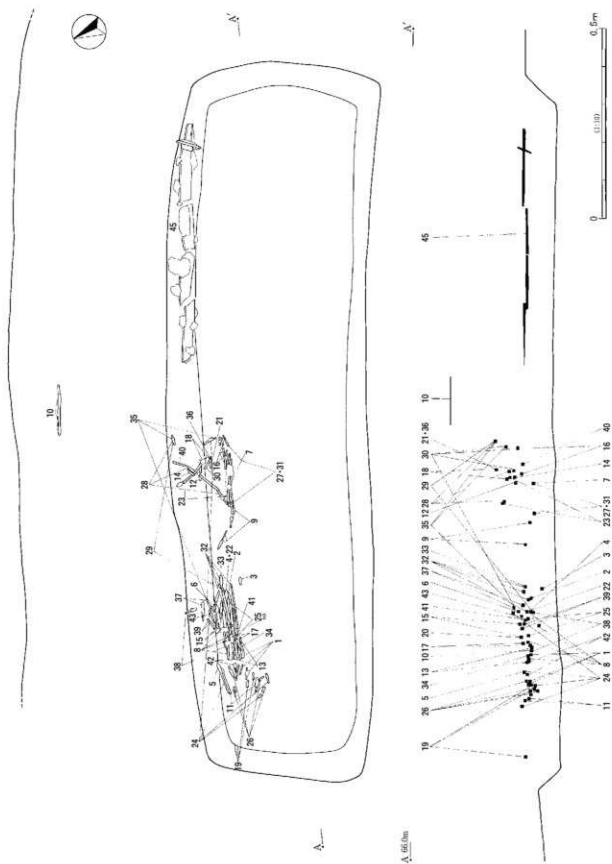
第2埋葬施設D-D'・E-E'

- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 黒褐色土
 - 11 黒褐色土
 - 12 暗褐色土
 - 13 暗褐色土
 - 14 暗褐色土
 - 15 暗褐色土
 - 16 暗褐色土
 - 17 暗褐色土
 - 18 暗褐色土
 - 19 暗褐色土
 - 20 暗褐色土
 - 21 暗褐色土
 - 22 暗褐色土
 - 23 暗褐色土
 - 24 暗褐色土
 - 25 暗褐色土
- ①-ム砂 (厚3~5cm) を含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) を多く含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をやや多く含む
 LB (厚1cm) 少量含む
 ①-ム砂 (厚5cm) を少量含む
 中にLB (厚0.3cm) が若干混じる
 ①-ム砂をほとんど含まない
 9層より厚い、黒色砂層を含む。しまりよし
 ①-ム (厚0.5~2cm) を若干含む。しまりよし
 ①-ム砂・LB (厚0.5~1cm) をやや多く含む
 LB (厚0.5~3cm) をやや多く含む
 ①-ム砂 (厚5cm) をやや多く含む
 中にLB (厚3~5cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚5cm) を多く含む
 ①-ム砂 (厚5cm) を少量含む
 中にLB (厚4cm) が若干混じる
 LB (厚1~4cm) 多く含む
 ①-ム砂・黒色砂層ブロック (厚0.5cm) をやや多く含む
 ①-ム砂・LB (厚0.5~1cm) をやや多く含む
 LB (厚1~5cm) 多く含む
 LB (厚0.5~1cm) を含む。しまりは甘い
 暗褐色土

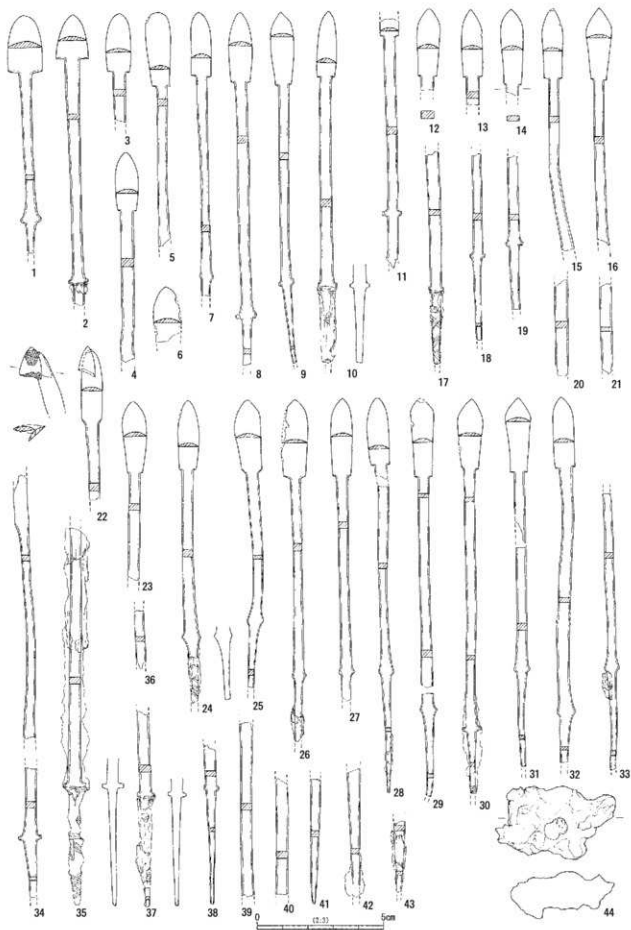
第1埋葬施設A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 暗褐色土
 - 11 暗褐色土
 - 12 暗褐色土
 - 13 暗褐色土
 - 14 暗褐色土
 - 15 暗褐色土
 - 16 暗褐色土
 - 17 暗褐色土
 - 18 暗褐色土
 - 19 暗褐色土
 - 20 暗褐色土
 - 21 暗褐色土
 - 22 暗褐色土
 - 23 暗褐色土
 - 24 暗褐色土
 - 25 暗褐色土
- ①-ム砂 (厚1~3cm) をまばらに含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をやや多く含む
 ①-ム砂 (厚5~10cm) を極少含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をやや多く含む
 中にLB (厚1~2cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚3~10cm) をやや多く含む
 LB (厚2cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をまばらに含む。しまりよし。粘性あり
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をまばらに含む
 中にLB (厚1cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をやや多く含む
 中にLB、白灰色粘土ブロック (厚1~4cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をまばらに含む
 中にLB (厚2~4cm) を含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をやや多く含む
 中にLB、白灰色粘土ブロック (厚0.3~0.5cm) が若干混じる
 ①-ム砂 (厚1cm) をまばらに含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) を極少含む
 ①-ム砂 (厚1~3cm) をまばらに含む
 LB (厚2~4cm) を含む
 ①-ム砂をほとんど含まない
 ①-ム砂 (厚5~10cm) を極少含む
 ①-ム砂 (厚5cm) をやや多く含む
 中に①-ム砂 (厚5~10cm) をまばらに含む
 ①-ム砂 (厚1cm) をやや多く含む
 LB (厚1~2cm) を極少含む
 ①-ム砂 (厚1cm) を極少含む
 ①-ム砂 (厚5cm) をまばらに含む
 暗褐色土

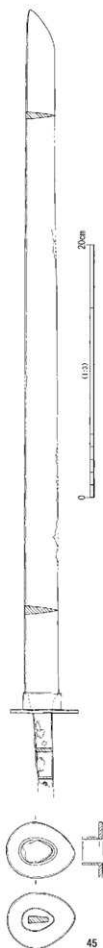
第281図 SM010第1・第2埋葬施設



第282図 SM010第2埋葬施設遺物出土状況図



第283图 SM010 出土金属製品 (1)



第284図 SM010
出土金属製品(2)

内の北壁中央付近(第282図)から鉄鏃が1点出土した。棺痕跡は掘り方の中央にあり、長方形で規模は長軸1.87m、幅0.52mであり、第1埋葬施設の棺痕跡と比較すると小型である。深さは掘り方の底面よりも7cm深い。第1埋葬施設では土層断面でも明確に棺痕跡が確認できたが、本遺構の場合は棺の腐食によって周辺の層が崩落したためか、不明瞭となっている。覆土は明褐色と黒褐色土の部分があった。棺痕跡の主軸方位はN-114°-Eである。

遺物は棺痕跡の北壁沿いからまとまって出土した(第282図)。大部分が底面から8cm程度浮いた状態で出土し、明褐色の土層からの出土が多い。第2埋葬施設からは直刀1振、鉄鏃は破片を含め43点(個数は26点程度)、ガラス小玉28点が出土した。直刀は北壁沿いの東部から切先を西に向けて出土した。鉄鏃は二群に分かれ、西側の一群は東方向に刃先を西に向けて出土し、中央群は多少動いているためか、西側と東側両方に刃先がみられた。ガラス小玉については残念ながらすべて篩いで土をふるって検出したものであり、出土位置は不明である。

遺物(第283~286図、巻頭図版8、図版155・159)

金属製品が多く出土している。第285図1~4は第1埋葬施設出土の錫製耳環片である。腐食が進行しており、非常に脆くなっている。第283図1~43は第2埋葬施設から出土した鉄鏃である。棒状部に長短の差がみられるが、いずれも長頭鏃である。鏃身には広身の三角形(1・2)、細身の長三角形(3・4)、剣身形(5~16、22~32)があり、34も極めて細身であるが剣身形とみられる。剣身形には鏃身先端が丸味を帯びる5のような例もあるが、大部分は鏃身が細長く、先端部が鋭い形状のものである。20には先端部に布目痕がある。44は埴丘内から出土した碗形鍛造滓であり、特殊金属探知機により金属反応検査を行ったが、メタルはみられなかった。第284図45は直刀であり、茎尻は欠損し、全体も5片に折損しており図上復元した。鏃は刀身茎と鏃着し、鏃は分離しているので両者を復元的に図化している。全長は61.1cmで、刀身長は53.5cmである。刀身には鞘の痕跡は確認できず、裏面には鏃を吸い込んだ繊維の一部と思われるものが付着する。柄には木片が付着する。刀身にはところどころ刃こぼれ状の欠損がある。鏃の平面形は左右非対称である。

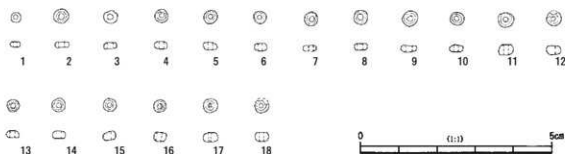
玉類はガラス玉が出土しており、第286図1~18は第2埋葬施設出土の小玉である。総計で28点出土(第45表)したが、10点は破損のため実測不可能であった。大きさは2.92mm~4.07mmまでのものがあり、平均は3.44mmである。色調は暗青色が最も多い12点で、以下、にぶ青緑色7点、藍色5点、青色2点、緑色1点、明青緑色1点である。

SM011(第287~289図、図版131・132・151)

SM010の南西にあり、調査区の南端に位置し(第287図)、一部調査区外に遺構がかかる。斜面際に立地する。中心のグリッドはD4-26である。近世の道跡に埴丘の一部と東側周溝が切られる。縄文時代の土坑SK108~SK120、弥生時代の方形周溝



第285図 SM010出土金属製品（3）



第286図 SM010出土玉類

墓SS024・SS043・SS044・SS049を切っている。

墳丘は残存（第287図）し、見かけの墳丘は、南北17.1mであり、東西は近世の道跡に削られているため15.5m前後である。墳丘高は1.6m（標高65.0m）である。墳丘の形状はほぼ円形であり、やや西側の墳丘盛土の土が流れ、低くなっている。周溝は全周すると考えられる。

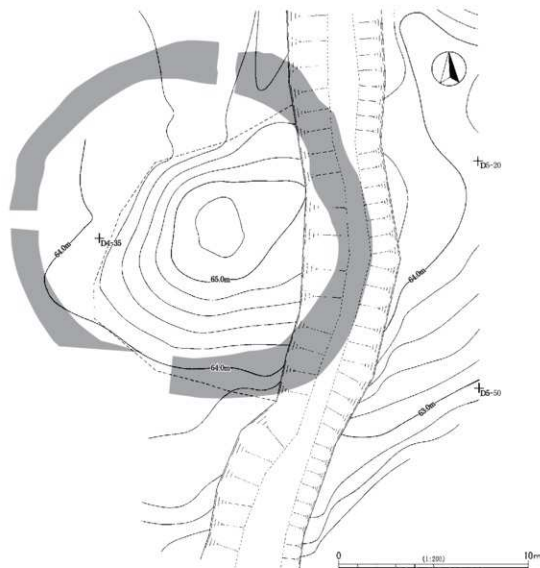
古墳墳丘は方形周溝墓SS043の墳丘上に造られており、第289図の土層断面内の斜線部が周溝墓の盛土と認識され、15cm程度の盛土を利用してさらに古墳の盛土が盛られていた。盛土は周溝墓盛土の中心部分に土を積み上げていったと考えられ、最初に黒褐色細砂で褐色ローム質細砂をブロック状に含む土を積み、その上に暗褐色細砂でロームブロックや褐色ロームブロック、黒色細砂が混入する土が積まれていた。積み方は比較的平坦である。墳丘は近世の段階でかなり破壊を受けたと考えられる。

調査によって判明した墳丘（第288図）の径は、周溝の内側下端間で南北が15.1mである。周溝内には黒褐色細砂と暗褐色細砂を主体とする層があり、墳丘の盛土が流れ込んでいた。周溝の断面形は皿状の部分とU字状の部分があり、幅については上端幅が1.38m～2.70m、下端幅が0.60m～1.10mである。周溝内には段差がみられたが、周溝内の埋葬施設は検出できなかった。

遺物は西部周溝内から須恵器杯蓋と土師器杯が並んで出土し、南東部の周溝内からは土師器杯、墳丘盛土内から土師器甕が出土した。

埋葬施設（第288図）

埋葬施設は1基を墳頂部の南東寄りから検出したが、削平のため埋葬施設の掘り方の基底面のみの検出である。形状は不整の長方形で、規模は長軸2.04m、幅1.04m、深さは14cmである。検出面は暗褐色細砂が分布し、ロームブロックを含み、白灰色粘土が散っていた。また、北東部には白灰色粘土が集中してみられた。主軸方位はN-78°-W前後と考えられる。遺物は検出することができなかった。



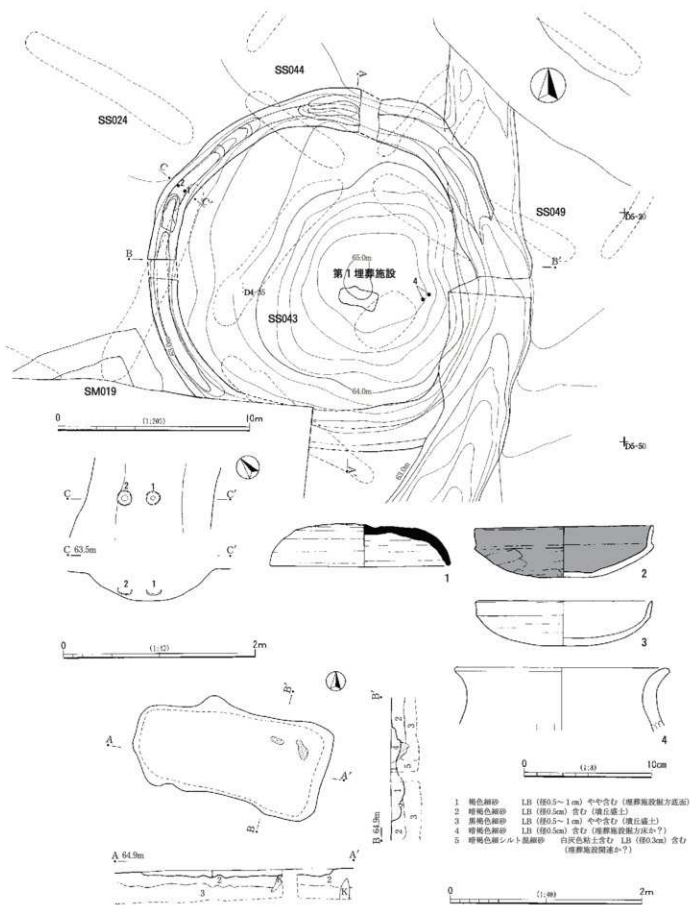
第287図 SM011現況測量図

遺物 (第288図、図版151)

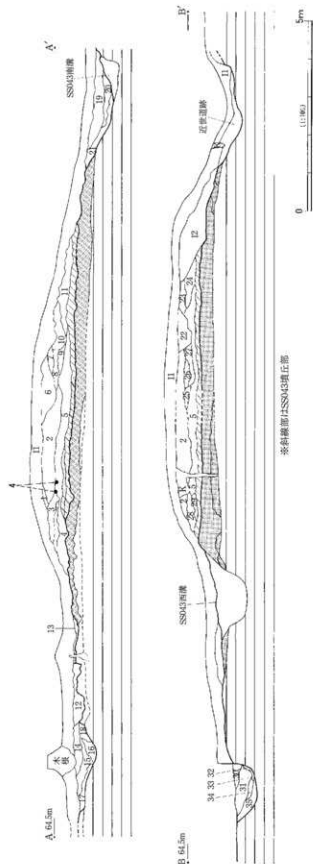
土器が4個体出土している。第288図1・2は西部周溝内から出土しており、1はほぼ完形の須恵器杯蓋であり、天井部は平坦で、回転ヘラケズリがなされ、中央部にヘラ切りの痕跡が僅かに残存する。2も残存率が良い土師器の須恵器模倣杯であり、内外面の一部に黒色処理の痕跡がみられる。3は周溝内から出土した土師器杯であり、胎土は緻密である。4は墳丘内から出土した土師器甕であり、胴部外面上半に縦方向のヘラケズリがなされる。

SM012 (第290図、図版133・151)

SM012は調査区中央部の北側にあり、大型の円墳SM005・SM007に挟まれて存在する円墳である。中心のグリッドはB5-23である。縄文時代の土坑SK002、方形周溝墓SS007を切り、SM005の周溝に本遺構の周



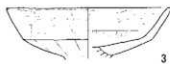
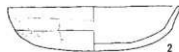
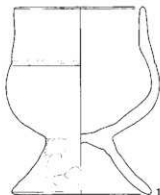
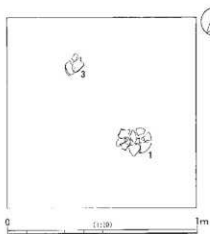
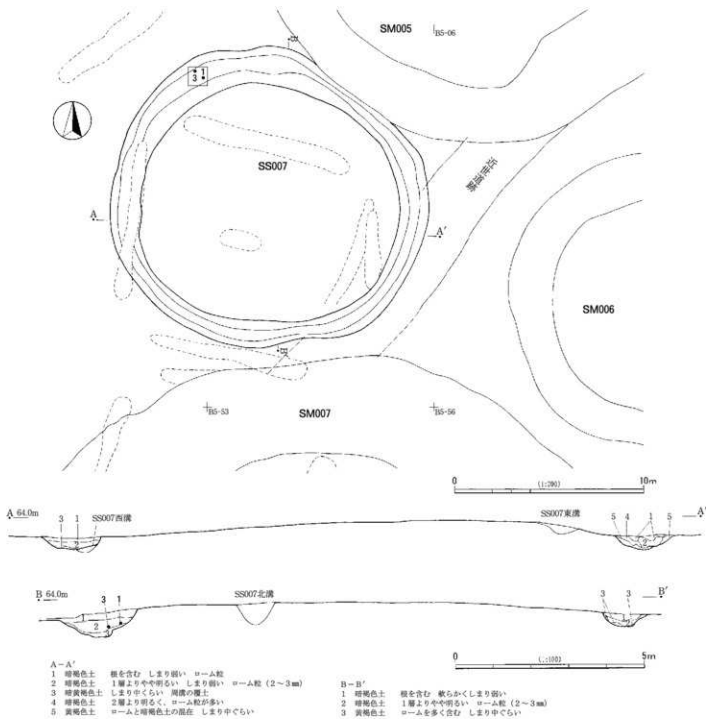
第288図 SM011全体図・埋葬施設・出土土器



※材料層部はSS043填土部

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 1 埋設地層部 | LB (R0.5m) 礫心、しまりはばばい | 17 褐色ローム地層部 | LB (R0.5m) に多く含む |
| 2 埋設地層部 | 埋設地層部をアロック状 (R0.5~1m) 含む、やや硬くしまる | 18 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8~10mm) に含む |
| 3 埋設地層部 | 埋設地層部 | 19 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8~10mm) に含む |
| 4 埋設地層部 | 褐色ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.5m) に含む | 20 埋設地層部 | LB (R0.5m) 礫心 |
| 5 埋設地層部 | 褐色ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.5m) に含む | 21 埋設地層部 | 褐色ロームを塊状 (R0.5m) に含む |
| 6 埋設地層部 | ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.3~0.5m) 含む | 22 埋設地層部 | LB (R0.5m) 全含む、しまりはばばい (本図無?) |
| 7 埋設地層部 | ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.3~0.5m) 含む | 23 埋設地層部 | LB (R0.5~1m) 全含む |
| 8 埋設地層部 | ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.3~0.5m) 含む | 24 埋設地層部 | LB (R0.5m) 含む |
| 9 埋設地層部 | ローム、褐色細砂をアロック状 (R0.3~0.5m) 含む | 25 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| 10 埋設地層部 | 褐色ロームをアロック状 (R0.5~1m) に含む | 26 埋設地層部 | LB (R0.5~1m) 全含む |
| 11 埋設地層部 | しまりはばばい (本図無?) | 27 埋設地層部 | LB (R0.5m) 含む |
| 12 埋設地層部 | 埋設地層部をアロック状 (R0.5~1m) に含む、しまりはばばい | 28 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| 13 埋設地層部 | (区部の無?) | 29 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| 14 埋設地層部 | 埋設地層部をアロック状 (R0.5m) に含む | 30 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| 15 埋設地層部 | LB (R0.5m) に含む | 31 埋設地層部 | LB (R0.5m) 全含む |
| 16 埋設地層部 | LB (R0.5m) 含む | 32 埋設地層部 | LB (R0.5m) 含む |
| | | 33 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| | | 34 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
| | | 35 埋設地層部 | 埋設地層部を塊状 (径8mm) に含む |
- ※埋設地層部はSS043填土部
(方向同埋設地層部上の可能性あり)

第289図 SM011填丘断面図



0 10cm (1:10)

第290図 SM012全体図・出土土器

溝が切られる。

墳丘は削平されており、周溝のみの検出であり、周溝はほぼ円形に廻る。墳丘の規模は、周溝の内側下端間で南北が13.7mで、東西は14.6mである。周溝内には暗褐色土を主体とする層が上層にあり、下層は黄褐色土でロームを多く含む層がみられた。周溝の断面形は皿状の部分が多い。幅については上端幅が0.90m～2.10m、下端幅は0.3m～1.0mである。

遺物は周溝覆土から3個体の土師器を検出した。覆土中層から台付鉢と高杯が出土し、周溝内一括で土師器の杯が出土した。埋葬施設は削平のため検出できなかった。

遺物 (第290図)

土器が3個体出土している。第290図1・3は周溝北部から検出した遺物であり、1は土師器台付鉢で脚部外面にヘラナデがなされ、鉢部にはミガキがみられるが摩耗により不鮮明なものとなっている。3は土師器高杯の杯部であり、内外面にミガキが施される。2は周溝一括取り上げの土師器杯であり、口径は13.0cm～13.5cmで歪みがみられる。

SM013 (第291・292図、図版134・151)

調査区の北西部に所在する方墳であり、中心となるグリッドはB4-37である。方形周溝墓SS002・SS004・SS005と縄文時代の竪穴住居跡SI001を切る。墳丘は削平により残存せず(第291図)、周溝の下半部のみ遺存していた。周溝は方形に廻るが、周溝内には二段溝となる部分がある。底面はソフトロームであり、とくに硬化面は認められなかった。なお、遺構の東部分には確認トレンチが入る。

墳丘の長さは、周溝の内側下端間で南北が7.1mで、東西は7.3mである。周溝内には黒褐色土を主体とする層が上層・中層にあり、下層は黄褐色土でロームブロックを多く含む層である。周溝の断面形は逆台形やU字形的部分がある。周溝の幅は上端幅が1.05m～1.63m、下端幅は0.3m～1.25mである。周溝の軸方位はN-30°-Wである。

遺物は東側周溝の覆土最上層のほぼ同一面から敷かれたような状態で須恵器大型壺の破片が出土した。

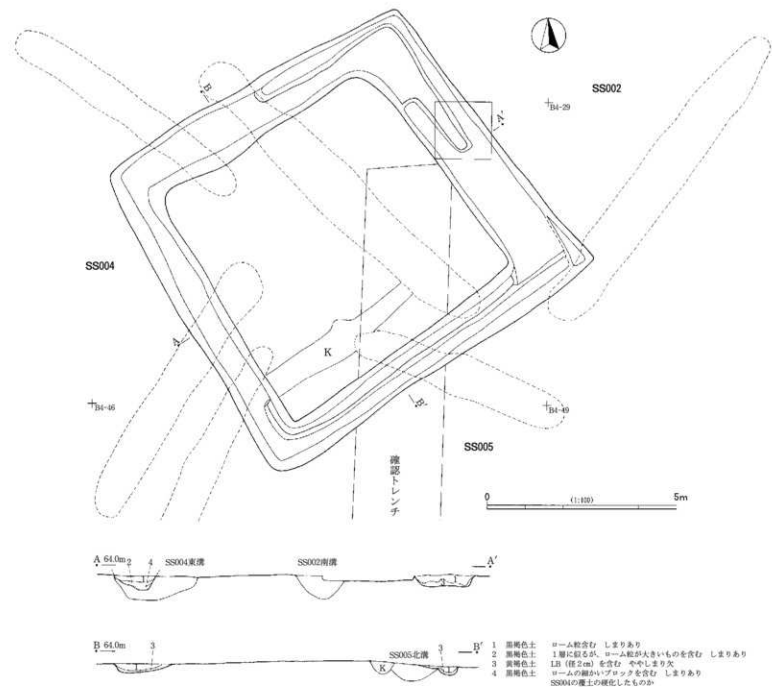
遺物 (第292図・図版151)

第292図1は須恵器大型壺であり、胴部の最大径は復元の数値で51.6cmである。頭部外面にはヘラ又は刀子状の工具による縦位のスリット文が入り、胴部外面には平行タタキ後にカキ目を施しているが、カキ目の当たりが弱く、平行タタキの痕跡が明瞭に残る。胴部内面には同心円の当て具痕が全体に残り、ナデの調整はみられない。焼成は均一に還元しており、極めて良好である。肩部外面と口縁部から頭部内面に浅黄色の降灰釉がかかる。

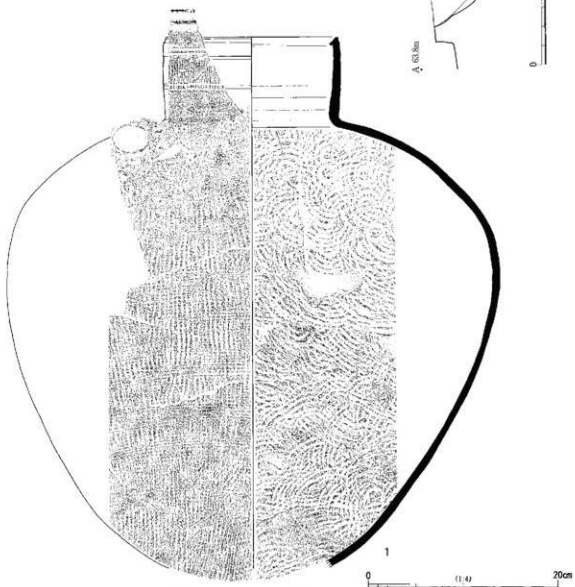
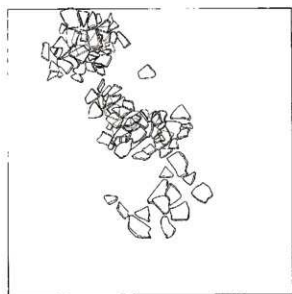
SM014 (第293図、図版134・152)

調査区の西部にあり、中心のグリッドはB3-89である。古墳群中で最も西に位置する円墳であり、SS016を切り、古墳時代前期の竪穴住居跡SI011を切る。本調査区内で古墳が弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡を切る例はこの1例のみである。

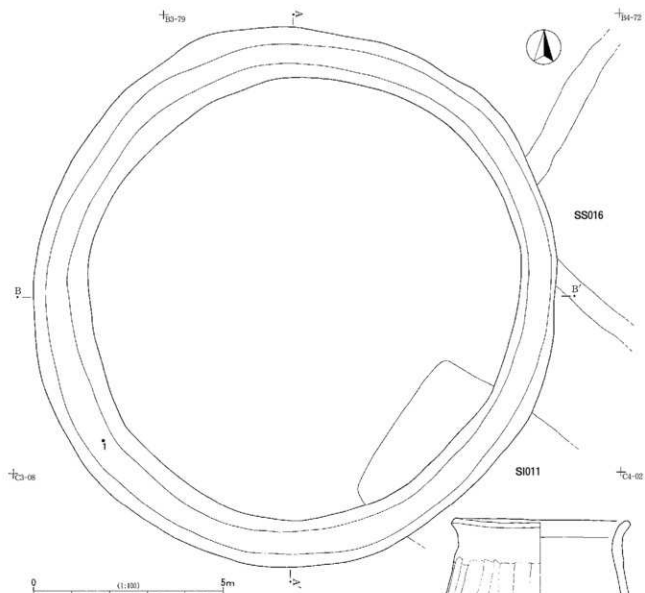
墳丘は削平されており、周溝のみの検出である。周溝はきれいな円形に廻り、均質な掘り方で深さもほぼ同様であり、規格性が強い。墳丘の径は、周溝の内側下端間で南北が12.4mで、東西は12.1mである。周溝の土層はレンズ状の堆積であり、自然堆積と考えられる。上層は暗褐色土、中層が黒褐色土を主体と



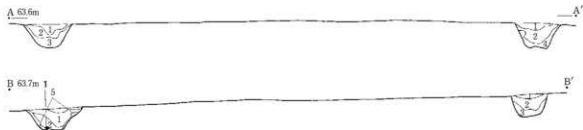
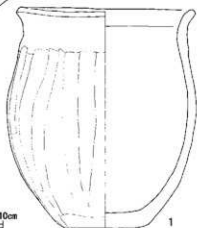
第291図 SM013全体図



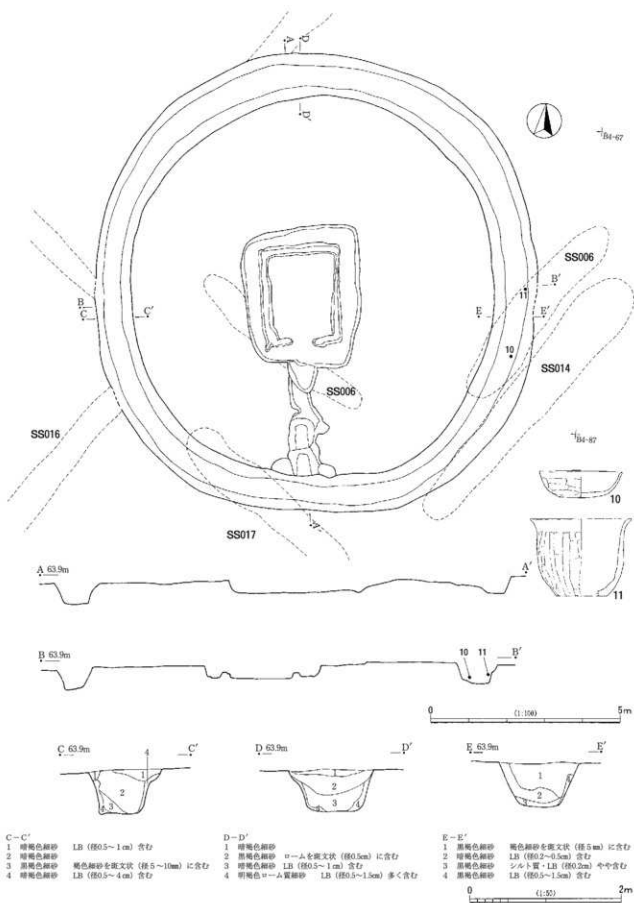
第292图 SM013出土土器



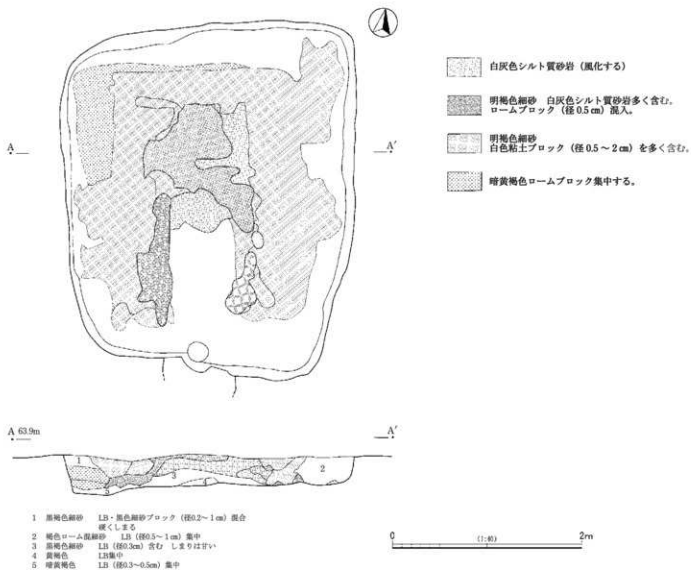
- 1 埴輪色土 コーム含む
- 2 埴輪色土 コーム粒含む
- 3 コーム+埴輪色土 コーム粒多い ややしまりなし
- 4 埴輪色土 コーム粒やや多い
- 5 埴輪褐色土 埴輪色土含む



第293図 SM014全体図・出土土器



第294図 SM015全体図



第295図 SM015埋葬施設上面

する層であり、下層は暗黄褐色土若しくは暗褐色土でロームをやや多く含む層である。周溝の断面形は丸味を有する逆台形である。周溝の幅は上端幅が1.4m前後、下端幅は0.65m前後である。

遺物は周溝南西部の底面から土師器の小型甕が出土した。

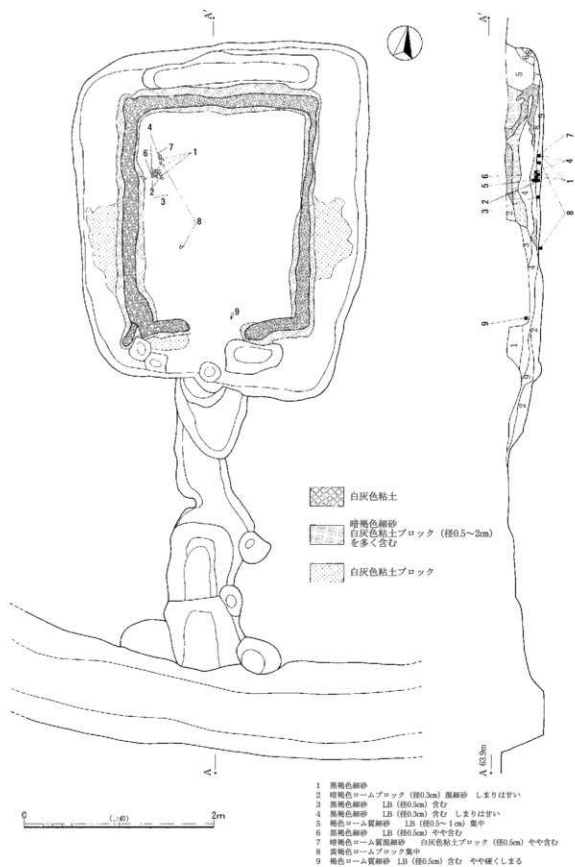
遺物 (第293図・図版152)

第293図1は土師器小型甕であり、口縁部の一部が僅かに欠損するほかはほぼ完形である。胴部外面には縦方向のヘラケズリがなされるが、厚手で重量感がある。胎土に小石が多く含まれる。

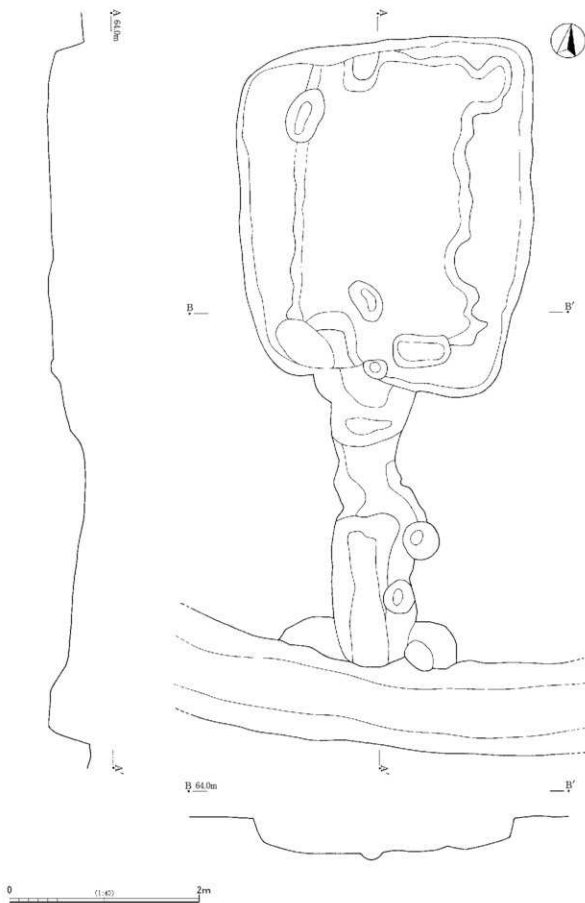
SM015 (第294~298図、図版135・136・152・158)

調査区西部のB 4-75グリッドを中心として存在する円墳であり、墳丘盛土は削平されており、周溝と埋葬施設のみの検出である。方形周溝墓SS006・SS014・SS016・SS017を切る。

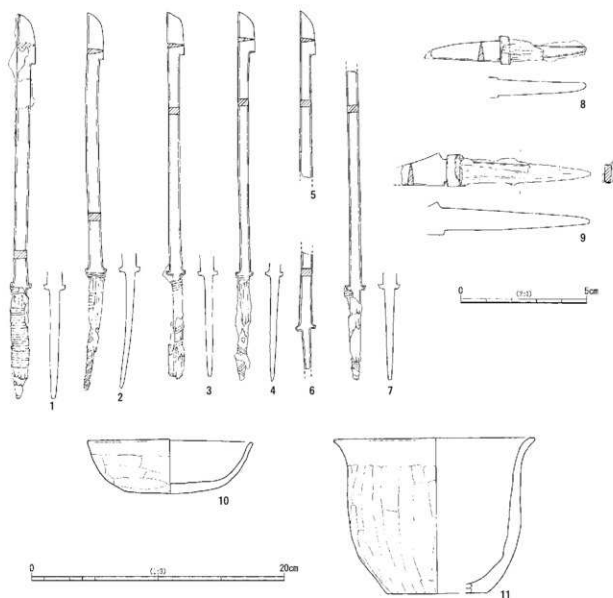
周溝 (第294図) はこの古墳も整っており、円形に廻り、均質な掘り方である。ただし、周溝の深さについては、部分的に15cm程度の高低がある。墳丘の径は、周溝の内側下端間で南北が10.4mで、東西は



第296図 SM015埋葬施設下面



第297図 SM015埋葬施設掘り方



第298図 SM015出土遺物

10.2mである。周溝の土層はレンズ状の堆積の箇所が多く、基本的に自然堆積と考えられる。周溝の断面形は逆台形である。周溝の幅は上端幅が0.9m～1.32m、下端幅は0.5m～0.7mである。

埋葬施設（第295図～297図）

埋葬施設は中央に存在し、長方形の掘り方の中に厚さ6cm～8cmの白灰色粘土で長方形に囲った壁（第296図）を立てて玄室としている。粘土壁は高さ15cmの残存であるが、玄室内部に東西の壁が倒れ込んだ状態で検出されており（第295図）、本来は0.7m～0.8m以上の高さがあったものと考えられる。なお、粘土の検出状況から類推すると、粘土そのものが壁面をなしていたものではなく、木板等を組み立てた壁の裏込めとして粘土が貼られている可能性が高い。天井部の構造は明らかではないが、これも板等を渡していたと考えられ、遺構としては横穴式木室の範疇に入ると考えられる。ただし、木板やそれを支える杭・柱等の明確な痕跡は確認することができなかった。

粘土壁（玄室）の範囲は長軸2.76m、幅2.10mであり、底面は平坦である。主軸方位はN-8°-Wである。玄室北側には北壁に並行して深さ8cm前後の窪みがみられた。確認面から床面までの深さは35cmである。掘り方（第297図）は長軸3.85m、幅3.08mであり、玄室の直下には高さ4cm前後の緩やかな段差がみられる。確認面から底面までの深さは32cmである。

西壁際（第296図）で鉄鏝が出土していることから、壁に沿って2基の木棺が東西に並んで納められていた可能性も考えられる。なお、南壁中央部には粘土壁は認められず、玄室から南に向かって周溝までの間に踏み固められた通路状の落ち込み（羨道）を検出しており、玄室から周溝への出入り口があったと認識できる。通路状の落ち込みは段差が著しく、玄室と周溝の中間が若干高くなっている。

遺物は周溝東部（第294図）の覆土中・下層から土師器杯と土師器小型甕が出土し、玄室内からは鉄鏝が6点と鉄製刀子2点が出土した。玄室内の遺物分布は北西部に集中し、南部（入り口部）に刀子が1点みられた。いずれも底面付近からの出土である。

遺物（第298図、図版152・158）

土器は土師器2個体の検出であり、第298図10はほぼ完形の丸底の杯で、外面には手持ちヘラケズリがなされる。11は小型甕であり、厚手で、胴部外面に縦方向のヘラケズリが施され、底部外面には手持ちヘラケズリがなされる。内面には粗いヘラナデがみられる。

鉄製品は9個体の検出である。第298図1～7は玄室内出土の鉄鏝である。1～6は片刃の長頭鏝で、いずれも刃部が短くふくらをもたない形態である。8・9は玄室内出土の刀子であり、8は小型品である。

SM016（第299図、図版137）

調査区西部に位置し、検出した古墳群の西端にある小型の円墳である。中心のグリッドはC3-39であり、重複する遺構はない。墳丘は残存せず、埋葬施設も削平により失われたものと考えられる。

周溝の平面形はやや歪な円形である。周溝の北東部に一段低い掘り込みがみられるが深さは5cm程度である。

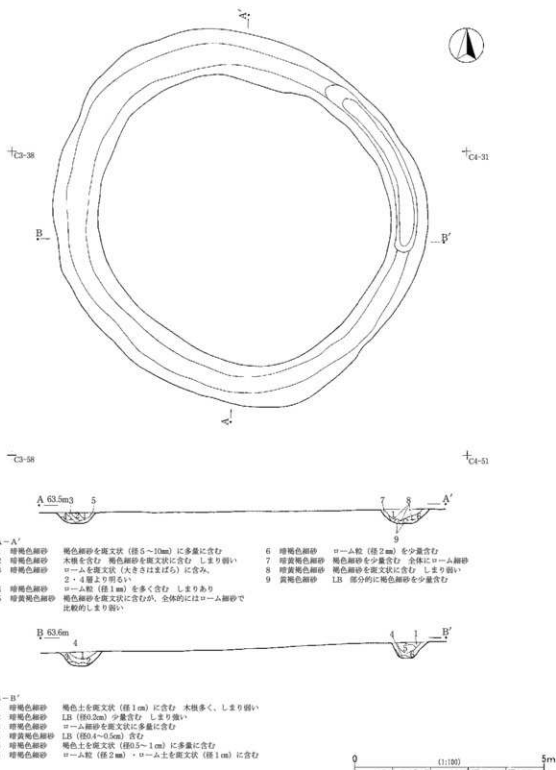
墳丘の径は、周溝の内側下端間で南北が8.3mで、東西は8.2mである。周溝の断面形は皿状の部分が大半である。周溝の幅は上端幅が0.84～1.32m、下端幅は0.30m～0.73mである。実測できる遺物は検出することができなかった。

SM017（第300図、図版137・138・152）

SM016の北東に所在する円墳であり、中心のグリッドはC4-23である。方形周溝墓SS036を切っている。墳丘は残存せず、埋葬施設も削平により失われたものと考えられる。周溝の平面形はほぼ円形であり、北部の底面には段差が3段あり、北東から北西にかけて底面が下がっており、高低差は最も高い東部と低い西部とでは50cm程度の差がみられる。

墳丘の径は、周溝の内側下端間で南北が10.6mで、東西は10.4mである。周溝の断面形は丸味を有する逆台形である。周溝の幅はあまり変化がなく整っており、上端幅が1.0m前後、下端幅は0.4m前後である。

遺物は周溝内の西部から須恵器杯身と北東部から杯蓋が出土した。両者とも底面付近からの出土で、完形である。



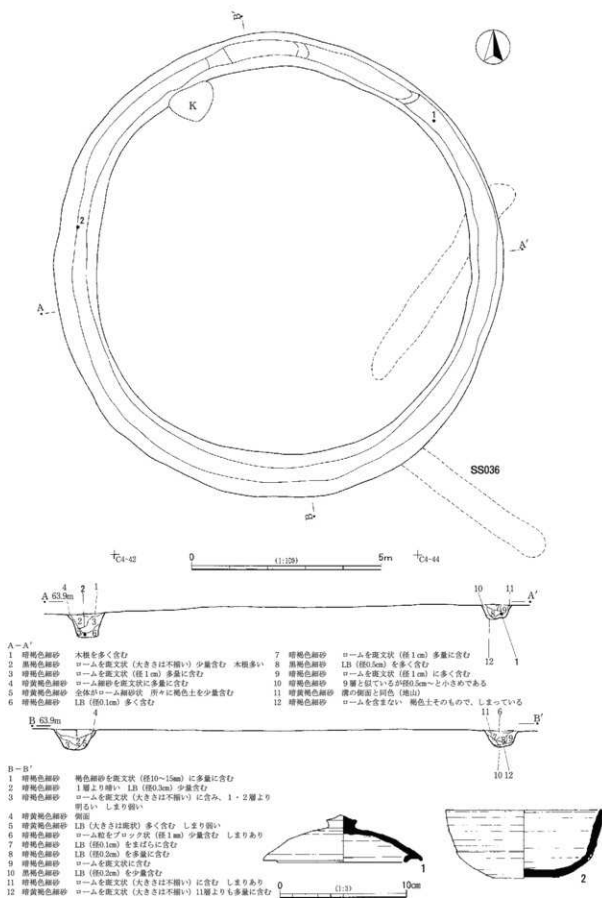
A-A'

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色細砂 褐色細砂を混文状 (径5~10m) に多量に含む 2 暗褐色細砂 木根を含む。褐色細砂を混文状に含む。しまり強い 3 暗褐色細砂 ロームを混文状 (大きさはばら) に含む。2・4層より明るい 4 暗褐色細砂 ローム粒 (径1mm) を多く含む。しまりあり 5 暗褐色細砂 褐色細砂を混文状に含むが、全体的にはローム細砂で比較的しまり強い | <ol style="list-style-type: none"> 6 暗褐色細砂 ローム粒 (径2mm) を少量含む 7 暗褐色細砂 褐色細砂を少量含む。全体にローム細砂 8 暗褐色細砂 褐色細砂を混文状に含む。しまり強い 9 暗褐色細砂 LB 部分的に褐色細砂を少量含む |
|--|--|

B-B'

- 1 暗褐色細砂 褐色土を混文状 (径1m) に含む。木根多く、しまり強い
- 2 暗褐色細砂 LB (径0.2m) 少量含む。しまり強い
- 3 暗褐色細砂 ローム細砂を混文状に多量に含む
- 4 暗褐色細砂 LB (径0.4~0.5m) を含む
- 5 暗褐色細砂 褐色土を混文状 (径0.5~1m) に多量に含む
- 6 暗褐色細砂 ローム粒 (径2mm) ・ローム土を混文状 (径1m) に含む

第299図 SM016全体図



第300図 SM017全体図・出土土器

遺物 (第300図・図版152)

第300図1はカエリを有する須恵器杯蓋であり、天井部に回転ヘラケズリを施した後には紐を貼り付けている。2は須恵器杯身であり、底部外面及び底部下端に回転ヘラケズリを施した後には、底部外面にヘラナデがなされており、底部は平底化している。1・2は胎土・焼成等が同様であり、口径も重ねると合うので、対になると考えられる。

SM018 (第301～306図、巻頭図版7・図版137～140・152・160)

SM017の東側4mの距離に存在する方墳である。中心となるグリッドはC4-27である。縄文時代の炉跡SK128と弥生時代の方形周溝墓SS036・SS040・SS041・SS045を切る。

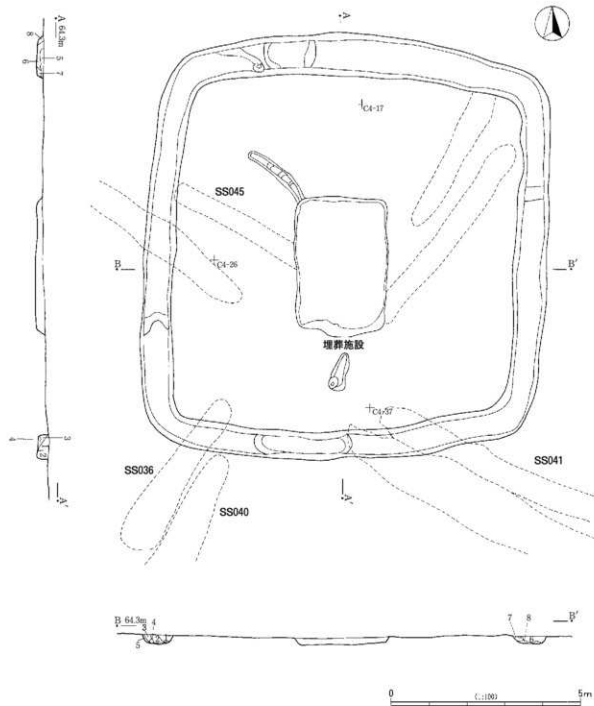
墳丘は削平されており、周溝と埋葬施設のみを検出である(第301図)。墳丘の長さは、周溝の内側下端間で南北が9.6mで、東西は9.3mである。周溝の断面形は逆台形であり、底面は平坦の部分が多い。周溝の幅は上端幅が0.78m～1.12m、下端幅は0.50m～0.83mである。周溝は5か所で段差がみられ、東側周溝の中央付近には長軸2.58mで深さ17cmの掘り込みがある。

埋葬施設 (第302図～304図)

埋葬施設は墳丘中央にあり、長方形の掘り方の中にSM015と同様に厚さ6cm～8cmの白灰色粘土とロームブロックを含む暗褐色ロームシルトで長方形に囲った壁を作り、玄室としている(第302図)。粘土の壁は高さ13cm前後の残存である。粘土壁(玄室)の範囲は長軸2.58m、幅1.94mであり、底面は中央部がやや窪んでいる。確認面から床面までの深さは21cmである。南壁中央部分は粘土がみられず、この部分が羨門となっていたと考えられる。同所には略円形で長軸0.24m、短軸0.21m、深さ30cmのビットがある。また、北西隅にも深さ11cmのビットがみられる。玄室の主軸方位はN-2°-Eである。遺構の南側1m付近には深さ2cm～3cmの不整形円形の浅い窪みがあるが、これについては羨道の残存部分の可能性が認められる。

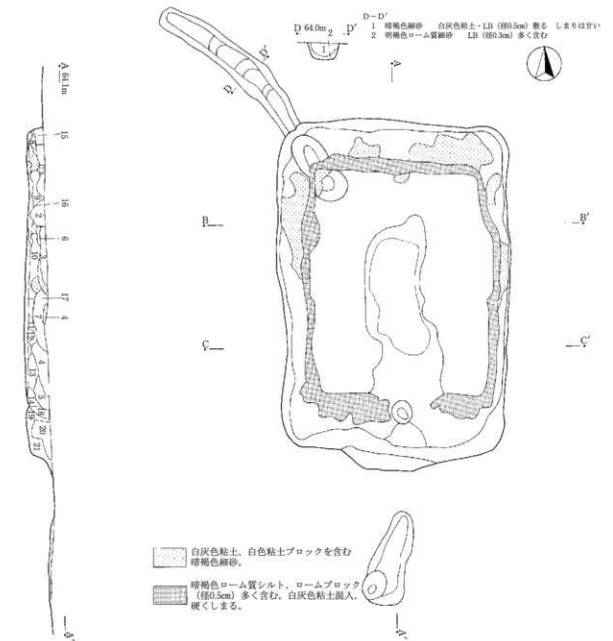
掘り方(第304図)は長方形で長軸3.71m、幅2.45mであり、底面については中央部が玄室の底面の深さとほとんど変わらず、西側壁・東側壁・南側壁際に3cm前後の僅かな窪みを検出した。ビットは西側壁に沿って2基、北東に2基を検出した。木室を支える柱痕跡であろうか。西壁際北のビットは円形で長軸0.3m、深さ10cm、南のビットは楕円形で長軸0.46m、短軸0.34mで深さ19cmである。北東のビットで北側に存在するものは楕円形で長軸0.23m、短軸0.15m、深さ11cmである。南側のビットは略円形で、長軸0.24mで深さは5cmであり、窪み状である。また、北西隅と北東隅に掘り込みを検出し、北西隅の掘り込みは、掘り方外に延びる煙出し状の溝と接続する。掘り込みの規模は長軸0.82m、短軸0.45mで深さは18cmである。煙出し状の溝は埋葬施設掘り方と接続する部分が深く、北西に行くにしたがって浅くなっており、3段の浅い段差がみられる。掘り方北東部の掘り込みは不整形であり、最深部で6cmの浅い掘り込みである。

周溝内からは実測可能な遺物は検出できなかったが、玄室内部(第303図)からは須恵器平瓶1個体、鉄製刀子1点と鉄鏝2点、ガラス小玉209点を検出した。これらはいずれも床面直上からの出土であり、分布は須恵器平瓶と鉄製刀子が南西隅にみられ、鉄鏝2本は北壁際の中央から刃先を西に向けた状態で検出した。ガラス小玉は玄室中央からまとまって出土した。



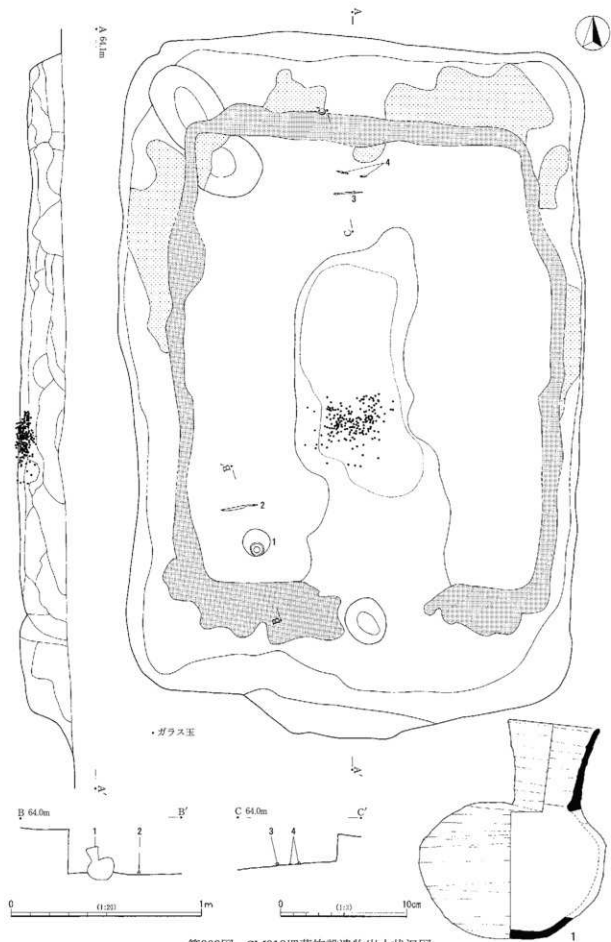
- A-A'
- 1 黒褐色細砂 褐色土を縦文状 (径0.7m) に含む
 - 2 暗褐色細砂 木炭による塊瓦、ローム粒 (径2mm) 多く含む
 - 3 黒褐色細砂 褐色土を縦文状 (径0.5m) に含む 1層よりさらに暗い
 - 4 暗褐色細砂 LB (大きさはばば5) 多く含む
 - 5 暗褐色細砂 ローム粒 (径1~2mm) をまばらに含む
 - 6 暗褐色細砂 LB (径0.3~0.4m) 多く含む
 - 7 黒褐色細砂 LB (径0.2m) 含む 全体に一層輝い土色
 - 8 暗褐色細砂 6層と同色だがロームを含まず 木炭あり
- B-B'
- 1 暗褐色細砂 LB (径0.2m) 含む
 - 2 暗褐色細砂 LB (径0.2m) やや含む
 - 3 暗褐色細砂 LB (径0.2~0.4m) 含む
 - 4 褐色ローム質細砂 LB (径0.5m) 多く含む
 - 5 褐色細砂 LB (径0.2m) ・ローム粒含む
 - 6 黒褐色細砂
 - 7 暗褐色細砂 LB (径0.3m) 含む
 - 8 褐色ローム質細砂

第301図 SM018全体図

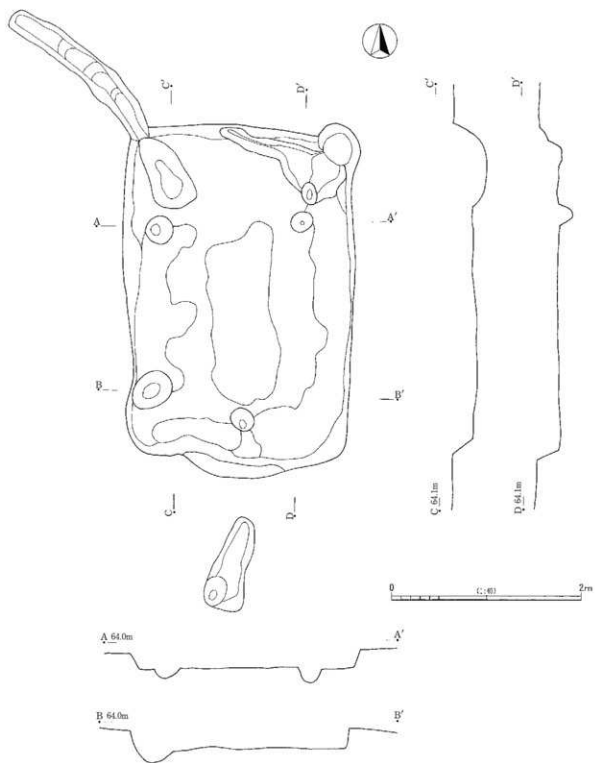


- 埋葬施設A-A'・B-B'・C-C'
- 1 暗褐色シルト質細砂
 - 2 暗褐色細砂 白灰色粘土含む しまりは甘い(木根痕か?)
 - 3 暗褐色ローム質細砂 LB (厚0.5cm) 多く含む
 - 4 褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む
 - 5 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む 白灰色粘土ブロック (厚0.3cm) 散る
 - 6 明褐色ローム質細砂 白灰色粘土ブロック (厚0.3cm) 散る
 - 7 暗褐色細砂 LB (厚0.3cm) やや含む
 - 8 暗褐色細砂 LB (厚1~1.5cm) 含む
 - 9 褐色細砂
 - 10 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む
 - 11 暗褐色ローム質細砂 LB (厚0.3cm) 多く含む
 - 12 暗褐色ローム
 - 13 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 散る
 - 14 暗褐色細砂 LB (厚0.3cm) やや含む
 - 15 暗褐色シルト質細砂 硬くしまる
 - 16 暗褐色ローム質細砂 LB (厚0.5cm) 含む しまりは甘い
 - 17 暗褐色ローム質シルト LB (厚0.5cm) 含む
 - 18 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む
 - 19 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 白灰色粘土散る しまりは甘い
 - 20 暗褐色細砂
 - 21 褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む しまりは甘い
 - 22 暗褐色シルト質細砂 白灰色粘土ブロック (厚0.5cm) 散る
 - 23 暗褐色細砂 LB (厚0.3cm) 白灰色粘土散る
 - 24 褐色細砂 LB (厚0.5cm以下) 多く含む
 - 25 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm以下) 含む
 - 26 暗褐色ローム質シルト LB (厚0.5cm) 多く含む 硬くしまる
 - 27 暗褐色細砂 LB (厚0.5~1cm) 散る
 - 28 暗褐色細砂 LB (厚0.5~1cm) やや含む
 - 29 暗褐色粘土混入細砂 しまりは甘い

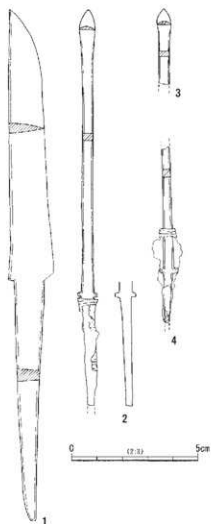
第302図 SM018埋葬施設



第303図 SM018埋葬施設遺物出土状況図



第304図 SM018埋葬施設掘り方



第305図 SM018出土金属製品

遺物 (第303・305・306図, 巻頭図版7、図版152・160)

土器は1個体出土した。第303図1は完形の須恵器平瓶であり、底部外面はヘラ切り後に回転ヘラケズリがなされ、回転ヘラケズリは胴部下半まで施されている。口縁部内面と肩部外面から胴部上半部に自然軸がみられる。東海地域産と考えられる。

鉄製品は4点出土し、第305図1は刃部長さが10.6cmを超える大型の刀子で、茎を含めた全長は20.0cmに及ぶ。2・3は刃部の小さい両刃の長頭鏃で、棒状部も細く華著なつくりである。4はさらに細身の長頭鏃の棒状部～茎である。

玉類は多数出土しており、第306図1～202はガラス小玉であり、このほかに破片により図示不能のガラス小玉が7点出土 (第45表) している。大きさは2.90mm～4.52mmまでのものがあるが、3mm後半台の数値のものも多く、平均の大きさは3.78mmである。色調は7色に大別でき、最も数量が多いのが暗い青色で132点、順に藍色43点、緑味青色13点、にぶ青緑色11点、濃い緑味青色5点、明るい青緑色4点、薄緑色1点である。

SM019 (第307図, 図版141)

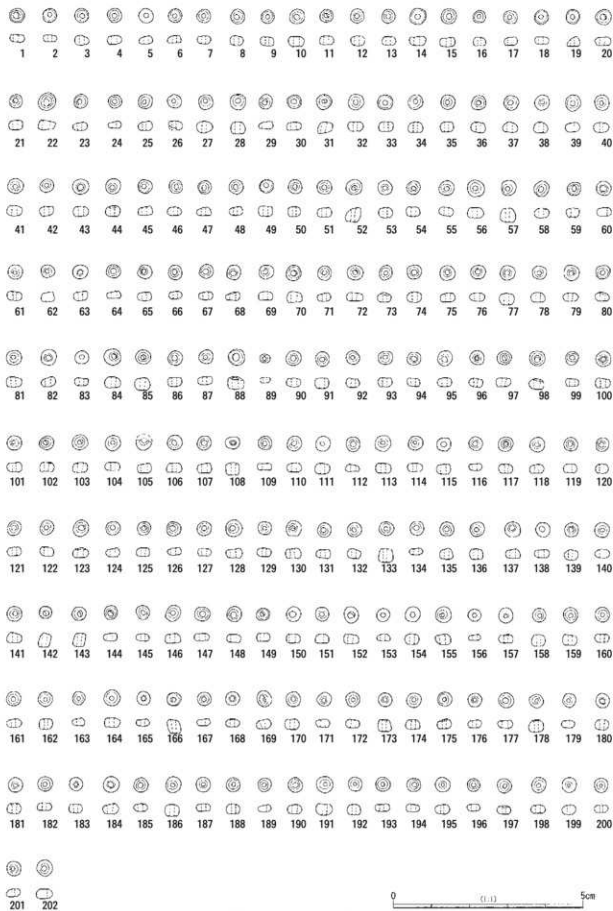
調査区南端に所在する方墳であり、中心のグリッドはD4-42である。北東の隣りには大型の円墳SM011がある。方形周溝墓SS024を切ってみられるが、本遺構の大半は調査区外に延びる。北東隅の周溝を検出しており、遺構の主軸方位はN-21°-Wである。墳丘の規模等は不明である。周溝の断面形は底面付近はしっかりとした逆台形であるが、上場に段差がみられる部分がある。

覆土は上層が暗褐色細砂で、中層が黒褐色細砂、下層が暗褐色～黄褐色細砂でロームブロックを含む土であり、自然堆積と考えられる。残存の周溝の上端幅は差異が著しいが、下端幅は0.7m前後である。当該期の遺物は検出できなかった。

SM020 (第307図, 図版141)

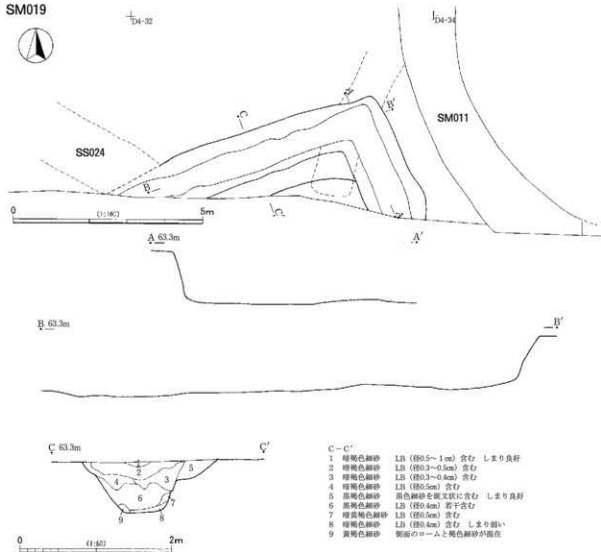
調査区東部のB7-01グリッドの周辺にみられる小型の方墳であり、南斜面に立地するため、遺構の南側は崩落しており検出することはできず、墳丘についても残存していなかった。墳丘域内に縄文時代の土坑SK069・SK078がある。

墳丘の長さは、周溝の内側下端間で東西が4.6mで、南北は不明である。周溝の断面形は皿状及び逆台形であり、周溝の幅は上端幅が0.43m～0.71m、下端幅は0.29m～0.53mである。底面は南側に向かって低くなっており、北周溝の高い部分と西側周溝の南部とでは、標高差が50cm程度存在する。おそらく、斜面を意識して南側の溝は深く掘られたものと考えられる。遺構の主軸方位はN-25°-Wである。実測できる遺物は出土しなかった。



第306图 SM018出土玉類

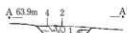
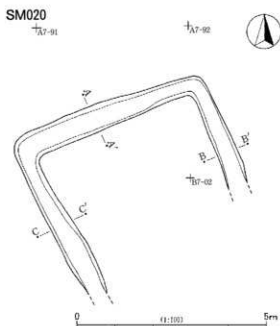
SM019



C-C'

- 1 暗褐色細砂 LB (厚0.5~1cm) 含む しまり良好
- 2 暗褐色細砂 LB (厚0.3~0.5cm) 含む
- 3 暗褐色細砂 LB (厚0.3~0.4cm) 含む
- 4 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む
- 5 暗褐色細砂 褐色細砂を縦文状に含む しまり良好
- 6 黒褐色細砂 LB (厚0.6cm) 若干含む
- 7 暗褐色細砂 LB (厚0.5cm) 含む
- 8 暗褐色細砂 LB (厚0.4cm) 含む しまり悪い
- 9 黄褐色細砂 断面のロームと褐色細砂が混在

SM020



A-A'

- 1 黒褐色細砂 LB (厚0.3cm) 若干含む
- 2 暗褐色細砂 1層と3層の間で密つく、5層と似ている
- 3 黒褐色細砂 褐色土が縦文状 (厚1cm) に若干含む
- 4 暗褐色細砂 LB (厚0.2cm) 若干含む
- 5 褐色細砂 全体に断面のローム砂を含む
- 6 褐色細砂 5層より明るい、ロームを縦文状 (厚1cm) に少量含む

B-B'

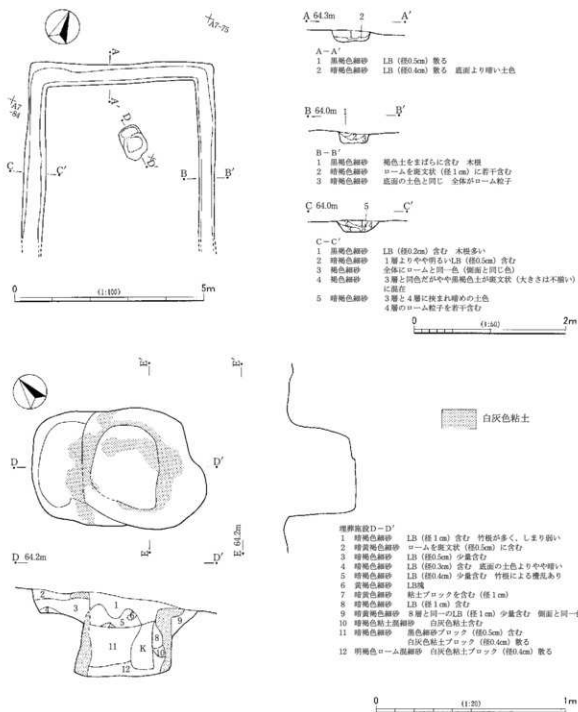
- 1 黒褐色細砂 竹根を多く含む 根による塊状ひどい、しまり悪い
- 2 暗褐色細砂 断面のローム砂がほとんど 褐色土が少量散る
- 3 暗褐色細砂 竹根による塊状と褐色土 (ローム砂) の混在



C-C'

- 1 黒褐色細砂 LB (厚0.3cm) 少量含む 竹根多く、塊状を含む
- 2 暗褐色細砂 断面のローム砂がほとんど 褐色土が少量散る
- 3 黒褐色細砂 ロームを縦文状 (大きさは不明い) に含む 断面より暗い

第307図 SM019・SM020全体図

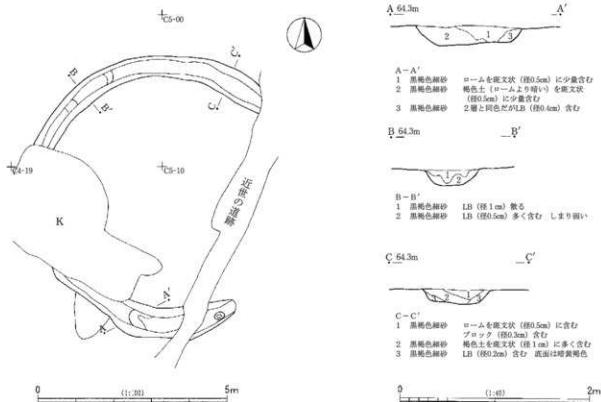


第308図 SM021全体図・埋葬施設

SM021 (第308図、図版141)

本遺構も小型の方墳であり、SM020の9m北東にあり南斜面部に存在する。中心のグリッドはA7-84である。墳丘及び南側周溝は削平・崩落により、消滅している。

墳丘の長さは、周溝の内側下端間で東西が4.20mで、南北は不明である。ただし、南北方向の周溝の長さは現存する東西方向(北側溝)とほぼ同様な長さを有することから、本遺構の周溝は南北に長いことがわかる。周溝の断面形は逆台形であり、覆土は上層が黒褐色細砂で下層が暗褐色細砂であり、自然堆積と



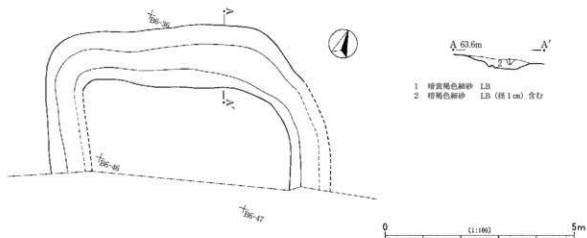
第309図 SM022全体図

考えられる。周溝の幅は上端幅が0.38m～0.54m、下端幅は0.29m～0.37mである。SM021と同様に周溝の底面は南側に向かって低くなっており、北側周溝の高い部分と西側周溝の最も低い部分では63cmの高低差がある。

埋葬施設は墳丘域のやや北東寄りから検出した。方形の埋葬施設であり、壁には白灰色粘土が貼られていた。規模は長軸0.67m、短軸0.62mであり、確認面からの深さは43cmである。西部には掘り方と考えられる掘り込みがあるが、埋葬施設よりも浅く、深さは16cmである。竹根が入り込んでおり、遺存状態はあまり良くない。埋葬施設の主軸方位はN-50°-Wである。周溝の方位とは26°の差異がある。周溝及び埋葬施設ともに実測できる遺物は検出することができなかった。

SM022 (第309図、図版141)

調査区の中央西寄りに所在し、大型の円墳SM007の南西に位置する小型の円墳である。中心のグリッドはC5-10である。削平されており、周溝のみの検出である。東側周溝は近世の道跡に削られ不明となっており、西側周溝についても大きな攪乱が入る。縄文時代の土坑SK079及び方形周溝墓SS041・SS046を切っており、墳丘域には縄文時代の土坑SK129～SK133がある。周溝はほぼ円形であり、墳丘の径は、周溝の内側下端間で6.4mで、本遺跡のなかで最も小型の円墳である。周溝の幅は上端幅が0.56m～0.90m、下端幅は0.20m～0.43mである。周溝の断面形は皿状であり、底面には段差が3か所で見られた。覆土は自然堆積と考えられる。実測できる遺物は検出できなかった。



第310図 SM023全体図

SM023 (第310図、図版141)

調査区中央の南斜面に立地する小型の方墳であり、すぐ北には大型の円墳SM004がある。中心のグリッドはB6-36である。当初は溝跡と考えていたが、方形に廻る可能性が高いことから方墳とした。重複する遺構はない。墳丘はみられず、周溝も南側は崩落等で消滅している。周溝の平面形は西側部分は方形に近い形状であるが、東側は丸味を帯び、崩れている。

墳丘の長さは、周溝の内側下端間で東西は5.7m前後と考えられる。軸方位は $N-21^{\circ}-W$ である。周溝の断面形は凹凸のある皿状であり、覆土は暗褐色細砂でロームブロックを含む層である。周溝の幅は上端幅が1.03m～1.66m、下端幅は0.52m～0.84mである。SM020・SM021と同様に周溝の底面は南側に向かって低くなっており、北側周溝の高い部分と東側周溝の最も低い部分では61cmの高低差がある。遺物は出土しなかった。

(2) 土坑・溝跡

古墳時代後期の遺構は2基の土坑と溝跡1条を検出し、中・近世の土坑と考えられる遺構を2基検出した。本遺跡では調査時に6条の溝跡を検出したが、後に方形周溝墓の周溝や古墳の周溝と判明したものが多く、全調査区で溝跡の検出例は1条のみとなった。

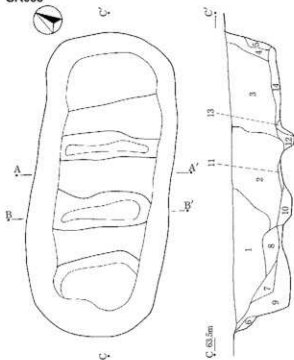
SK053 (第311図、図版104)

C4-50グリッドから検出した長方形の大型土坑墓であり、時期は古墳時代後期と考えられる。すぐ北側にはSM016がある。規模は長軸3.22m、幅1.43m、深さは52cmであり、底面は平坦である。底面には中央に主軸と直行して、深さ10cmと15cmの2本の溝があり、西隅には深さ13cmの掘り込みがある。覆土は中央部分が黒褐色細砂で、ほかは暗褐色細砂や暗黄褐色細砂の部分が多く、ロームを含む。軸方位は $N-65^{\circ}-E$ である。

SK068 (第311図)

A6-72グリッドにあり、円墳SM004の周溝にかかって検出された。略方形で規模長軸1.61m、幅1.59m、深さは10cmである。覆土は上層が黒褐色細砂でロームを含み、下層は暗褐色細砂でロームブロックを含む土である。覆土から古墳時代後期の土師器破片が出土している。軸方位は $N-10^{\circ}-E$ である。

SK053



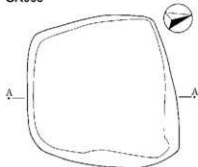
A 63.5m



B 63.5m



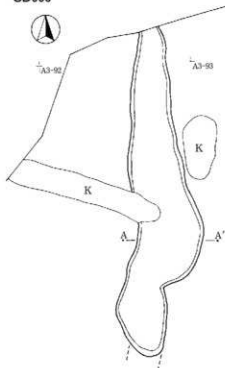
SK068



A 63.8m



SD006



- 1 暗褐色細砂 木根多く含む LB (径0.2m) 少量含む しまり弱い
- 2 黒褐色細砂 コームを斑文状 (大きさは不明) に多量に含む 木根の入り込む LB (径0.2m) やや多い
- 3 暗褐色細砂 LB (径0.2m) 多量に含む
- 4 暗褐色細砂 コームを斑文状 (径1cm) に少量含む
- 5 暗黄褐色細砂 断面と同色だが、所々に褐色土が混ざる しまりは弱い
- 6 暗黄褐色細砂 やや暗い 断面と似ている しまり良い
- 7 暗褐色細砂 コームを斑文状 (大きさはまばら)
- 8 暗褐色細砂 9層より少なめ木根を含む しまりは弱い コームを斑文状 (大きさはまばら)
- 9 暗褐色細砂 7層より少なめ 木根を含む しまりは弱い コームを斑文状 (大きさはまばら) に多量に含む しまり良好
- 10 暗褐色細砂 LB (径0.4cm) 少量含む
- 11 暗黄褐色細砂 褐色土が斑文状にコームと一緒に混ざる LB (径1cm) 位
- 12 暗褐色細砂 コームを斑文状 (大きさは不明) に含む しまり弱い
- 13 明黄褐色細砂 LB (横山)
- 14 暗褐色細砂 コームを斑文状 (径1cm) 多く含む しまり強い

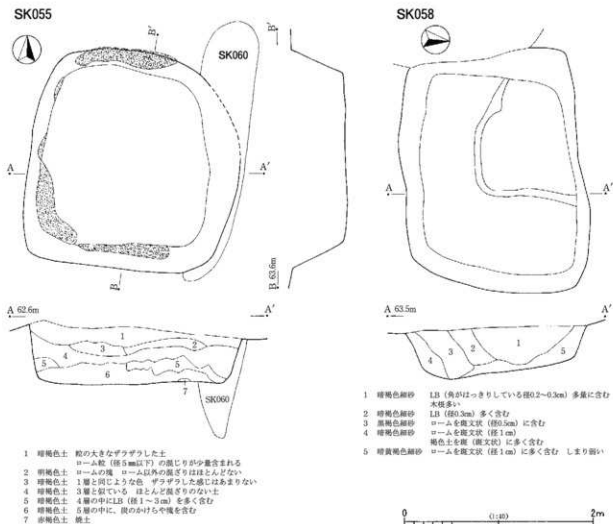
A 62.6m



- 1 暗褐色細砂 LB (径0.5cm) 少量含むが、4層より褐色土が多い
- 2 明褐色 LB
- 3 暗褐色細砂 LB (径1cm) 少量含む
- 4 暗茶褐色細砂 LB (径1cm) 含む 底面の増山の色と似ている 3層より明るい

0 (1:40) 2m

第311図 SK053・SK068, SD006



第312図 SK055・SK058

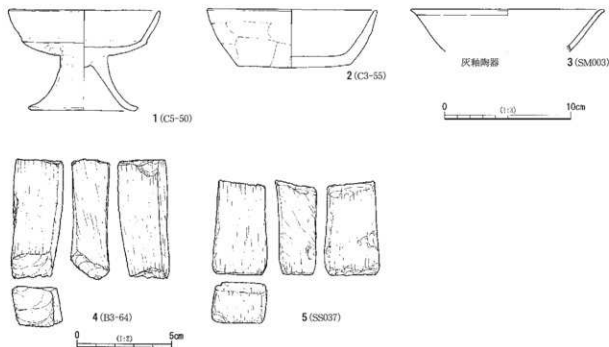
SD006（第311図、図版104）

調査区の北西隅のB3-02を中心とするグリッドから検出した。北側は調査区外に延びる。斜面際からの検出であり、崩落のためか溝跡は途中で途切れている。残存の長さは13.60m、最大幅は1.57mで、深さは10cm~23cmである。軸方位はN-5°-Eである。底面は西斜面側に傾斜しており、性格不明の溝跡である。覆土は暗褐色細砂を主体とし、ロームをブロック状に含む土であり、覆土からは古墳時代後期の土師器甕の細片が出土した。

SK055（第312図）

A8-69グリッドから検出した焼土土坑であり、円墳SM001の周溝と縄文時代の陥穴SK060を切り、中・近世の遺構と考えられる。平面形は方形で長軸2.33m、幅2.21m、深さは63cmである。底面は平坦である。底面及び壁面に焼土がみられた。覆土は暗褐色土が主体で、下層には炭片が含まれる。軸方位はN-7°-Eである。

SK058（第312図）



第313図 グリッド等出土土器・砥石

B4-57グリッドから検出した長方形の土坑であり、方形周溝墓SS005の周溝と縄文時代の土坑SK031を切る中・近世の土坑である。規模は長軸2.59m、幅1.96m、深さ67cmである。底面に段差を有する。覆土は暗褐色細砂と黒褐色細砂を主体とし、上層はロームブロックを含む。下層は暗黄褐色細砂の層である。軸方位はN-95°-Wである。

なお、本遺跡からは近世の道跡2条を検出した（第6図の全測図参照）。この2条については覆土下層に宝永火山灰と考えられる火山灰が随所でみられるので、宝永年間以前から道として機能していたと認識される。1条は調査区西部を南北に延びる道跡であり、土坑状の掘り込みが入る。別の1条は調査区中央を古墳群の墳丘を避けながら約N-23°-Eの角度で北に延びる道跡であり、土層断面については、SM009・SM010・SM011の墳丘土層断面を参照されたい。

(3) グリッド等出土遺物

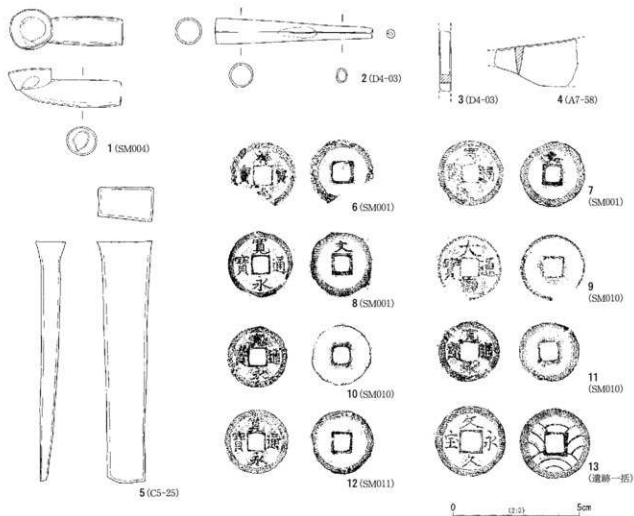
i 土器・砥石（第313図・図版154）

第313図1はC5-50グリッド出土の古墳時代後期の土師器高杯であり、脚部外面に縦へラケズリ、杯部外面に横方向のへラケズリがなされる。2はC3-55グリッド出土の奈良時代の土師器杯で、底部外面には一定方向の手持ちへラケズリ、口縁部外面には横方向の手持ちへラケズリがなされる。3はSM003の周溝から出土した遺物である。灰軸陶器碗の口縁部と考えられ、流れ込みの遺物である。内面に灰軸が施される。

4と5は凝灰岩製の砥石であり、4はB3-64グリッド出土で、上下が欠損し四面に研ぎ面が顕著に残る。5はSS037出土であり、上部が欠損し、四面に研ぎ面が顕著にみられる。両者ともに古墳時代後期以降の砥石と考えられる。

ii 金属製品・古銭（第314図・図版160）

第314図1はSM004の表土出土の菅製の雁首であり、破損している。銅製で表面には緑青がみられ、管

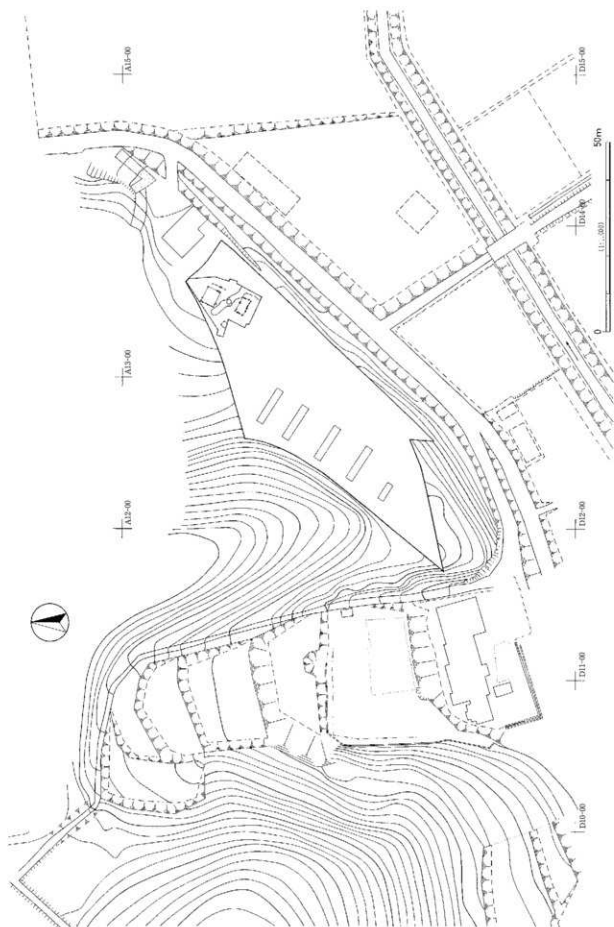


第314図 グリッド等出土金属製品・銭貨

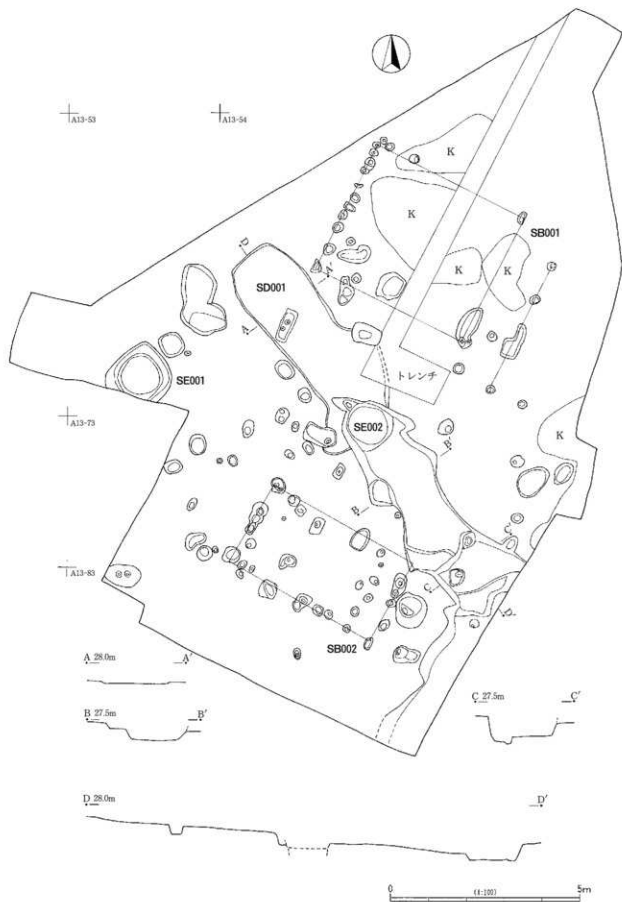
内には羅字の一部と考えられる木質部が残存する。2はD4-03グリッド出土の煙管の吸い口であり、銅製で表面に緑青がみられる。

3～5は鉄製品であり、3はD4-03グリッド出土の小破片で棒状の製品である。4はA7-58グリッド出土の刃部を有する小破片である。5はC5-25グリッド出土の鑿である。錆化が著しいが、重量感があり、79.91gを計る。

6～13は古銭であり、北宋銭の祥符通寶(6)と大観通寶(9)、寛永通寶(7・8・10～12)、文久永宝(13)が出土した。寛永通寶はいずれも新寛永で7と8は文銭である。文久永宝は裏面に十一波文がみられる。これらの古銭は13を除いて古墳の墳丘から出土したものであり、近世に墳丘が信仰の対象になっていた可能性をうかがわせる遺物である。



第315図 重三台遺跡周辺地形及びトレンチ配置図



第316図 遺構配置図及びSD001実測図

第3章 重三台遺跡

第1節 概要

確認調査は、平坦面を中心として調査を実施し、6本のトレンチを入れた（第315図）。並行に5本のトレンチを入れた部分は、病院として昭和30年ぐらゐまで使用されていた区域であり、攪乱が著しいため、遺構は検出できなかった。北東部分では、井戸跡2基、溝跡1条、ピット群等（第316図、図版162）を検出したので、その範囲を拡張して精査を行い、確認調査の範囲内で調査を終了した。

第2節 遺構と出土遺物

1 掘立柱建物跡

本遺跡には、多くの柱掘り方が存在するが、掘立柱建物跡として認識できたものは2棟のみである。

SB001（第317図、図版162）

A13-55グリッドに所在する。規模は、桁行4.30m、梁行3.70mであり、東西棟の側柱建物と考えられる。軸方位はN-27°-Eである。柱穴の規模は20cm～30cmのものが主体であり、規模が小さいものが多い。柱間は不規則である。検出面は東側に行くにしたがって傾斜しており、東側の浅い柱穴は削平等により消滅している可能性が高い。西柱列は、全部で11本の柱穴があるが、深さは13.5cm～26.5cmであり、浅いものが多い。北東隅柱穴及び南東隅柱穴は深いため残存しており、それぞれ確認面から27.9cm、21.2cmである。遺物は検出することができなかった。

SB002（第317図、図版162）

A13-74グリッドに所在し、SD001と重複する。桁行は4.27m、梁行は2.32mと考えられるが、北東隅の柱穴はSD001との重複により、不明となっている。東西棟の側柱建物で、軸方位はN-28°-Eである。柱穴の規模はSB001と同様に20cm～30cmのものが主体であり、規模が小さいものが多い。柱間は不規則である。深さは10cm～75.2cmであり、20cm～40cmの深さのものが多い。遺物は検出することはできなかった。

2 井戸跡

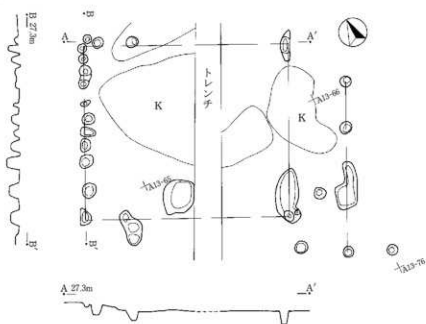
2基の井戸跡を検出したが、危険防止のため底面までは掘り下げず、途中までの調査となっている。

SE001（第318図、図版161・166）

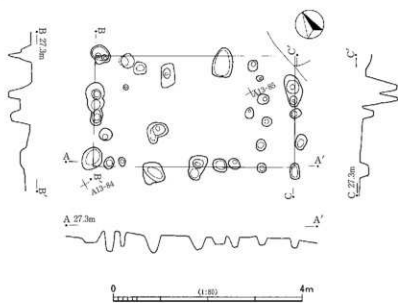
A13-63グリッドに所在する。形状は上面が隅丸方形で、下面が円形である。規模は1.52mであり、下面の径は1.13mである。深さ1.15mの部分まで調査をした。覆土は赤褐色砂質土であり、崩れやすい層である。実測できる遺物は上層から3点が出土し、覆土中から5点が出土した。

第318図1は瀬戸・美濃の香炉であり、口縁部外面全面に灰釉が施される。底部外面及び端部には回転ヘラケズリがなされ、高台部には回転ナデが施される。2は瀬戸・美濃の外面に鉄釉を施した徳利であり、底部外面～胴部中位まで回転ヘラケズリがなされる。3は瀬戸・美濃の大鉢であり、底部外面と高台部を除く面に灰釉が施される。高台は削り出し高台であり、内面にはトチン痕が残存する。4は瀬戸・美濃の

SB001



SB002



第317図 SB001・SB002

徳利の口縁部である。内外面に灰軸が施されている。

5～7は遺構一括出土の肥前磁器であり、5は広東碗で、外面には四単位松葉状の文様があり、底部外面には「太明年製」の文字がある。内面の見込みにも文様が描かれている。6・7は筒型碗で、6の外面には菊花文が描かれ、内面の見込みには五弁の花文様がコンニャク印判で押されている。7は外面に呉須の縦縞と三単位の梅花が描かれ、底部外面に2単位の変形S字文がみられ、口縁部内面には変形した四方禰文が入り、見込みには五弁の花文様が描かれている。

8は遺構一括出土の和鉄の刃部であり、先端部が欠損する。現在長は12.9cmで、身幅は2.5cm、背厚は0.3cm～0.5cmで、重量は31.9gである。

SE002 (第318図、図版161)

A13-75グリッドに所在する。形状はほぼ円形で、長軸1.33m、短軸1.23mである。遺物は検出できなかった。

3 溝跡

SD001 (第316図、図版162)

A13-64・75グリッド周辺に位置する。L字の曲がる溝跡である。北西部は削平により非常に浅くなっており、おそらく溝は北西の調査区外に延びているものと考えられる。確認できた範囲の最大長は11.60mであり、最大幅は2.13mである。軸方位はN-32°-Wで、北東に曲がる部分はN-30°-Eである。溝は、南東に延びるにしたがって深くなり、SE002と重複する付近に段差があり、さらに深くなっている。溝の最深部は60.3cmである。また、南東隅付近にも1段低くなっている箇所がみられる。なお、溝の南東部は崖状となっており、危険防止のため調査することはできなかった。

4 トレンチ出土遺物 (第319図～第322図、図版162～167)

遺構の検出は少なかったが、遺物については多く出土した。主として奈良時代から平安時代と中・近世の遺物であるが、縄文時代・弥生時代の遺物も僅かに出土している。

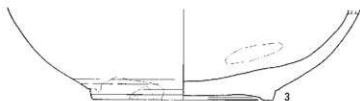
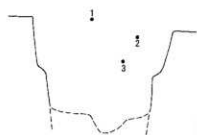
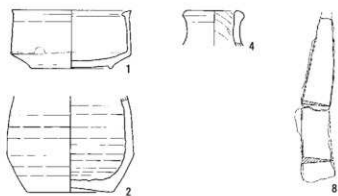
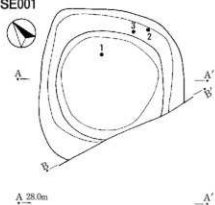
第319図1は縄文時代早期の燃糸文系土器である。内外面共に風化による摩滅が進行しており、施文・調整等の詳細は不明である。断面形態から井草2式土器であると考えられる。焼成後に内外面からの補修孔が認められる。

2は弥生土器の壺の小破片であり、拓影図上半ではRLを横方向に、下半ではLRを横方向に施している。拓影図内では結節等は認められない。

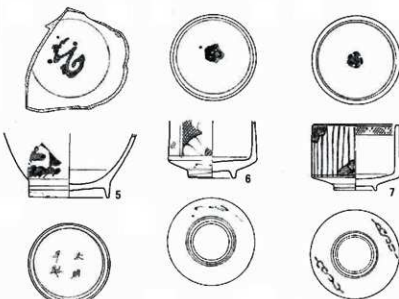
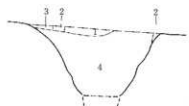
第319図3～9は奈良時代の杯類であり、3・4は須恵器杯である。3は丸底気味の底部を有し、復元口径は10.1cmで小型であり、奈良時代でも古い可能性が認められる。底部外面には回転ヘラケズリが施される。胎土に白色針状物質を含む。軟質の焼成で産地は不明である。4の復元口径は13.2cmである。硬質の焼きである。

5は須恵器高台付杯で、復元の高台径は6.7cmである。底部外面に回転ヘラケズリを施した後に高台を貼り付けている。胎土に白色小石と雲母が多く含まれており、技法・形状から常陸地域産の須恵器と考えられる。転用硯として利用されており、1/2程度残存する底部の内面全面が擦られており、僅かに朱墨の

SE001

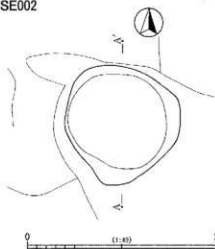


B 28.0m



- 1 赤褐色砂質土 白色粘土ブロックを含む
 2 暗褐色粘質土 灰褐色の粘土ブロックを含む
 3 明褐色粘質土 灰褐色の粘土ブロックを含む
 4 赤褐色砂質土

SE002



0 (1:10) 10cm

第318図 SE001・SE002

痕跡が残存する。

6～9は土師器杯であり、6～8は灯明皿として使用されている。6は復元口径が9.4cmと小振りで、口縁部内面にタール状に油煙が付着し、外面の口縁端部にも少量が付着する。7と8は手捏ねの杯であり、胎土・焼成が類似している土器である。両者は組み合わせて使用されていたと考えられ、8は口縁部内外面に油煙痕がみられ、7の底部内面には帯状に油煙痕が残っているため、7の中に8を入れて灯明を灯していたと類推される。なお、7の口縁部部分の割れ口には油煙が付着しており、口縁部を打ち欠いた後に使用している。9は上総地域の杯である。胎土が脆く、内外面ともに摩耗が著しい。

10～14は平安時代の杯・蓋類である。10・11は緑釉陶器であり、10は高台付皿の口縁部で外面には回転ヘラケズリがなされる。11は高台付碗であり、高台は細長い角高台である。12・13は灰釉陶器の高台付碗の底部である。高台は三日月状の形状であり、底部内面には灰釉の施釉はなされていない。11は高台が貼付けられた後に回転ナデがなされている。内面は擦られており、転用硯として使用されたと考えられる。12の外面には回転ヘラケズリがなされる。

14はクロロ土師器の香炉蓋である。天井部の残存が1/4程度の破片であるが、天井部の2か所に直径8mmの孔があり、おそらくは鈕を中心として4か所に孔が開けられていたものと考えられる。回転ヘラケズリ後に鈕と突帯部を貼付けている。

15はクロロ土師器碗であり、復元口径は17.2cmと大振りである。調整は摩耗のため不明である。16～27はクロロ土師器杯である。16～20は口径が12.8cm～13.2cmの一群の土器であり、16は底部外面及び下端に回転ヘラケズリが施され、17・20は底部外面及び下端に手持ちヘラケズリがなされる。21は底部外面回転糸切り離し無調整の杯で、内面の大部分と外面の一部に油煙が付着する。22は復元口径が9.1cmの小型の杯で、内外面の口縁部に油煙が付着する。25も復元口径が10.5cmの小型の杯であり、復元底径は4.4cm、器高2.9cmで、ほかの杯よりも器高が浅く、底径が小さい。底部の調整技法は摩耗のため不明である。内面に油煙の付着が帯状にみられ、外面の一部にも僅かに付着する。

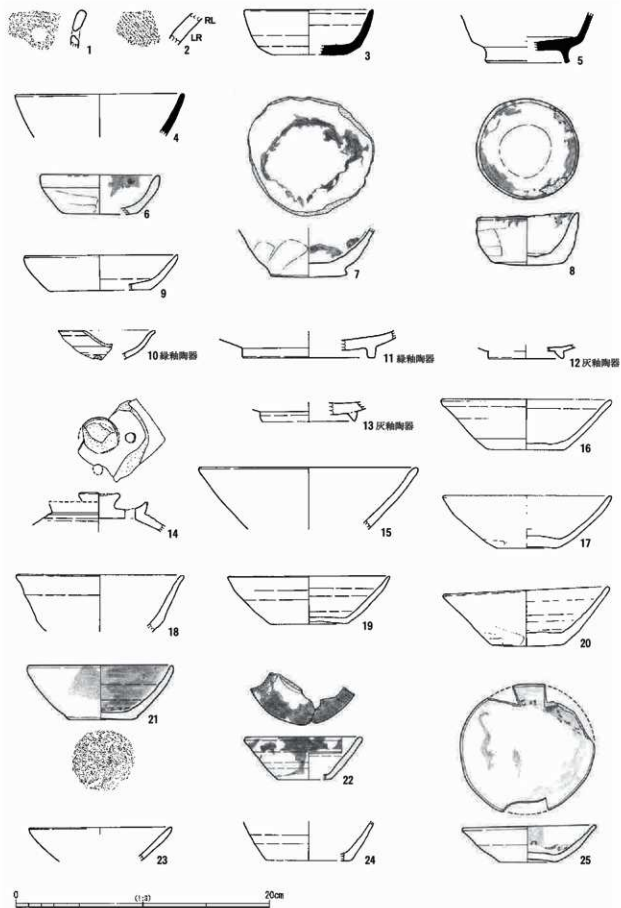
第320図26の底部は回転糸切り離し無調整で端部に手持ちヘラケズリが施される。27は底部回転糸切り離し無調整である。

28・29はクロロ土師器高台付杯であり、28の高台は逆「ハ」の字状に開く。29は断面三角形の高台を有し、内面に炭素吸着による黒色処理が施されている。30はクロロ土師器皿であり、復元口径は16.0cmである。31はクロロ土師器小皿であり、底部外面には静止糸切り痕が残存する。

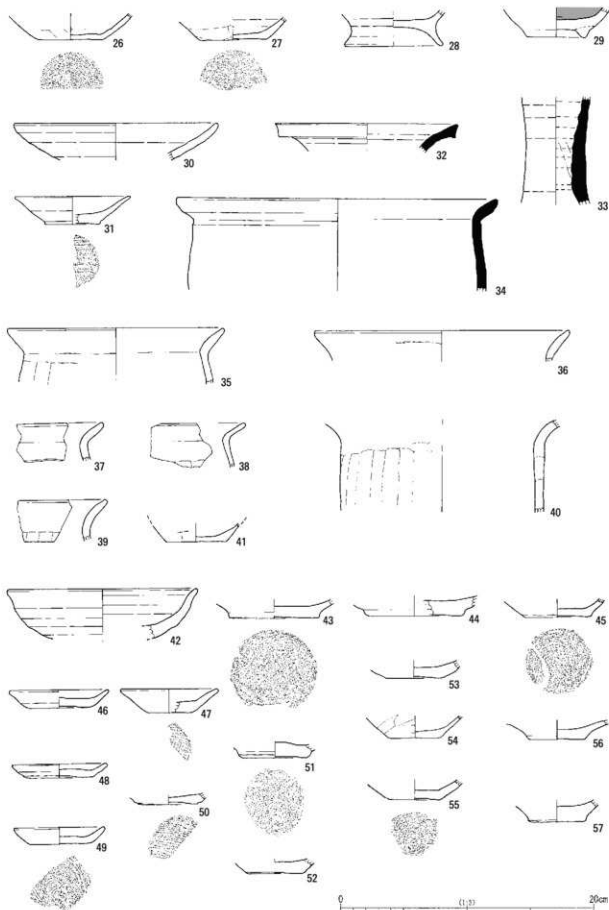
32～34は須志器であり、32は長頸壺の口縁部である。内面には透明に近い自然釉が付着する。33は長頸壺の頸部で、内面には絞目がある。32・33は東海地域産と考えられる。34は下総地域産の甕であり、胴部外面には平行タキが施されるが、内外面の摩耗が著しい。

35～41は土師器甕である。35は復元口径は17.2cmで、胴部外面には縦方向のヘラケズリがなされる。36の口縁部外面には粘土紐接合痕がある。41は武蔵型甕の底部と考えられる。

42～52はクロロを使用した土師質土器の杯・小皿である。時期的には11世紀～13世紀代のものと考えられ、古代末から鎌倉時代前半の遺物の可能性が高い。42は復元口径14.8cmで比較的大型の遺物である。45・48・49の底部は回転糸切り離し無調整であり、55の底部は回転糸切り離し後に一部手持ちヘラケズリがなされている。47・50・51の底部は静止糸切り離し無調整である。46・53・56・57の底部の切り離し技法は摩耗のため不明である。



第319図 トレンチ出土遺物 (1)



第320図 トレンチ出土遺物(2)

第321図58～65は肥前産の磁器である。58は青磁の花瓶であり、肥前波佐見産の可能性が高い。砂目高台で、肩部に耳型押の耳葉が2か所に貼付されている。時期は波佐見V期と考えられる。59～62は丸形碗であり、59の内面の見込みには五弁花文が手描きされている。62は外面に呉須で扇が描かれ、その下に花が描かれている。63は広東碗であり、呉須により三単位の「仙芝文」が描かれている。64は飯碗で外面に呉須による山水画が描かれている。65は皿で内面に植物の呉須絵がみられる。

66は肥前陶器の鉢で、内外面に灰釉が施され、内面には長石釉で四条の平行線と型押し5弁の花文がある。

67～77は瀬戸・美濃の陶器であり、67は灰釉の折縁皿で削り出し高台を有する。見込みの釉を拭き取った後に輪トチンによる重ね焼きがなされている。時期は大窯IV期で、16世紀末の製品と考えられる。

68は灰釉の小皿であり、底部外面及び端部に回転ヘラケズリが施される。69は腰折碗で内外面に灰釉が施されている。70は小型の香炉であり、灰釉が施されている。71は灰釉の紅猪口であり、内面に紅がしみ込んでいる。72は灰釉の小皿であり、外面は底部～口縁部中位まで回転ヘラケズリがなされる。73は灰釉の碗である。74は灰釉の仏花瓶である。75は灰釉の徳利であり、高台は削り出し高台である。76は甕であり、内外面に柿釉が施されている。77は灰釉の徳利の口縁部である。

78～81は京焼系陶器であり、78は灰釉の皿、79は灰釉の碗で、両者とも内面の見込みに線画がみられる。80は壺の蓋と考えられ、外面には緑色の釉葉が施され、さらに白化粧土を使ったイッチン描きで「紅葉」をかたどっている。81は土瓶の口縁部で、内外面に鉄釉が施されている。

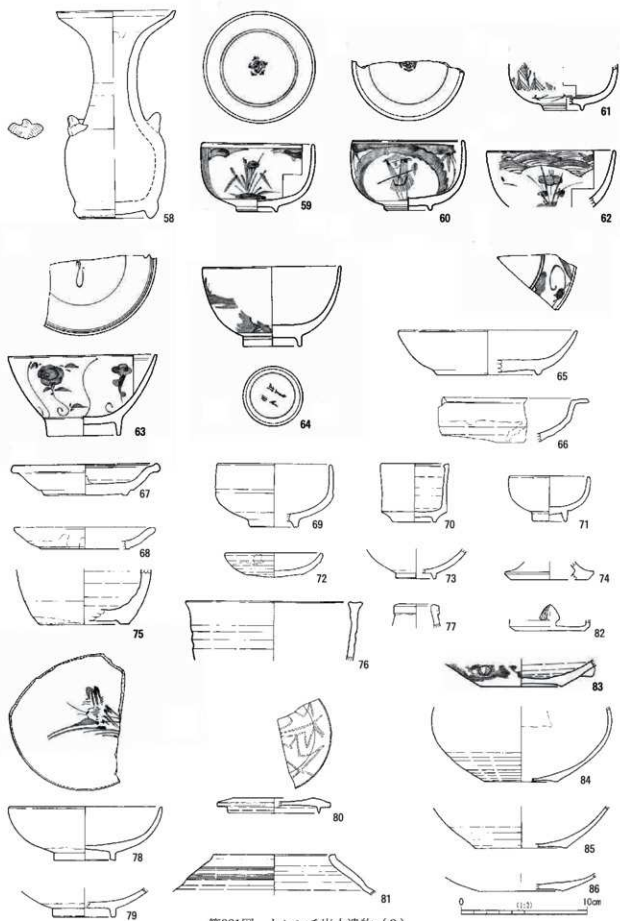
82～86は京焼・信楽系の陶器である。82は土瓶の蓋であり、内面に灰釉が施されている。83～86は土瓶で、83は内面に灰釉が施されている。外面には3か所に突起があり、直火にかけられた痕跡が残る。内面にはトチンの痕跡が残る。84・85は内面及び外面の上半部に灰釉が施され、85の内面にはトチンの痕跡がある。86の内面には灰釉が施される。

第322図の87～90は瀬戸・美濃の鉄釉の油受皿であり、底部外面及び下端に回転ヘラケズリが施される。88の外面には重ね焼き痕がみられる。91は志戸呂の油皿で、底部外面に回転ヘラケズリが施される。口縁部内外面に油煙が付着する。92～94・96～98は瀬戸・美濃の鉄釉油皿で、92は底部外面及び下端に回転ヘラケズリがなされ、底部内面に重ね焼き痕が残る。93は底部外面に回転ヘラケズリが施され、内面に重ね焼き痕がある。94は底部外面～口縁部中位まで回転ヘラケズリがなされ、底部内面には重ね焼き痕がある。96の底部内面には油煙が付着する。95は瀬戸・美濃の柿釉油皿で、底部外面に回転ヘラケズリが施され、底部内面に重ね焼き痕が残る。

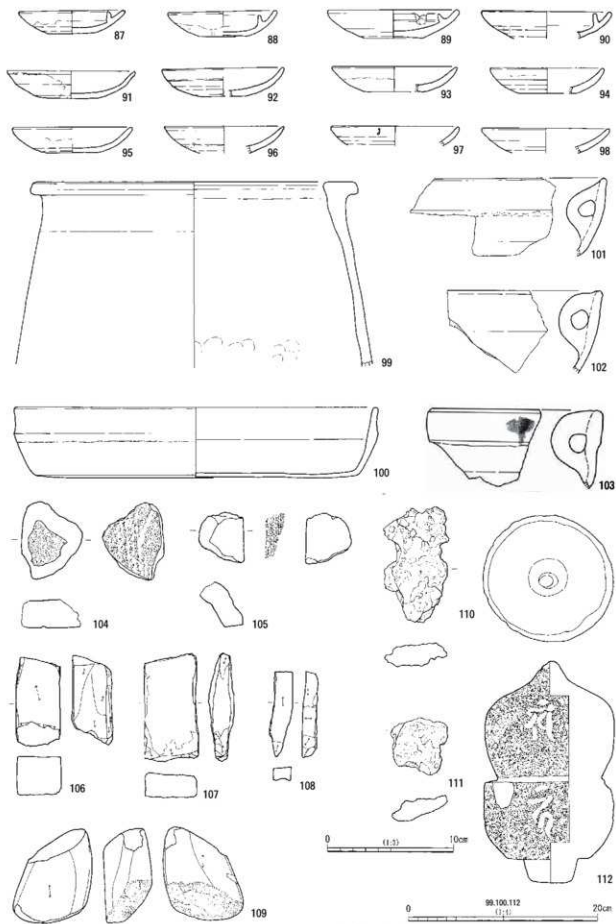
99は鉄釉陶器の甕であり、復元口径は34.0cmの大型の遺物である。100は土師質の焙烙であり、外面に煤が付着する。101～103は土師質の内耳鍋の口縁部破片であり、いずれも外面に煤が付着する。

104は平瓦片であり、凸面に縄叩き痕と凹面に僅かに布目痕が残る。105は丸瓦片であり、側面には面取りがなされ、凹面には僅かに布目痕が残る。両者は平安時代の所産と考えられる。

106～109は砥石である。106の断面形は四角形であり、四面には全体にスリ面がみられる。残存の最大長は7.1cmで、最大幅3.6cmであり、重量は124.0gである。107の断面形は長方形であり、ほぼ全面を砥石として利用していると考えられるが、風化により研面が残存している部分は僅かである。残存の最大長は8.5cm、最大幅4.3cm、重量は95.9gである。108は破片資料であり、全体の形状は不明であるが、上面に非常に平滑な面があり、右側面のほぼ全面にも研面が存在する。残存の最大長は6.8cm、最大幅は1.8cm、重



第321図 トレンチ出土遺物 (3)



第322図 トレンチ出土遺物(4)

量は16.6gである。109はタタキ面と研面を有する。重量は199.9gである。

110・111は薄手の碗形鍛冶滓である。両者とも磁着度は弱く、特殊金属探知機でメタル度を検査したが、反応はなかった。110の裏面には砂粒はみられないが、凹凸が著しい部分がある。重量は120.6gである。111には内外面に銹化がみられる。重量は42.2gである。

112は五輪塔の空・風輪である。空輪の上端及び風輪の側面部を僅かに欠損する。空輪と風輪にはそれぞれ1字の梵字が刻まれており、空輪は「ケン」、風輪は「カーン」の文字と考えられる。「西方」の文字と認識できる。空・風輪の形状は円形を呈しており、15世紀を中心とする時期が想定できる。最大長は23.4cm、最大幅13.8cm、重量は4,730gである。

第4章 まとめ

第1節 根岸古墳群・根岸小妻遺跡

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物は総計823点出土した。第1文化層は3か所のブロックから137点、第2文化層は5か所のブロックから683点出土した。単独出土として、3点出土している。本項では、各文化層の特徴を記載するとともに、周辺遺跡の石器群と比較しながら、石器群の位置付けを行うことにする。

(1) 第1文化層(第7・9・323・324図、第3表)

IX c層に生活面を持つと考えられる石器群である。第1～第3ブロックの3か所から137点出土した。ブロック間の接合資料はみられないので、厳密な意味では、同一時期の所産のものではない。ただし、出土層位がIX c層に集中し、調査区の東側にまとまって出土することから、同一文化層の石器群としてとらえた。

器種組成においては、定型的な石器がみられず、二次加工のある剥片が12点(8.76%)で高い割合を示し、この段階の石器群にみられる台形様石器や局部磨製石斧は出土していない。1～6は二次加工のある剥片である。1～4は、縦長剥片(石刃と識別可能)を素材とし、器体の中間部、あるいは末端部を折断後に、折断面に調整加工が施されている。本文化層において、数少ない製品のうち、4点とも共通した製作技術によるものであり、企画的に製作されたであろう。5・6は縦長剥片を素材とし、素材末端部から中間部に調整加工が施されている。使用痕のある剥片(7～9)は、打面幅が狭い縦長剥片が用いられている。7・8などの背面には、主要剥離面とは反対方向の剥離面が残されており、両設打面の石核から剥離されたことが観察される。10・11の剥片は、石刃と識別可能な縦長剥片である。単独の母岩で搬入されていることが注目される。石核(12～16)や接合資料(17～26)の特徴は、22～26において端的に現れている。各ブロックに、約10cm大の楕円形の円礫を持ち込み、石器製作をしたことがうかがえる。嶺岡産珪質頁岩においては、22～24はやや粗悪な石質を用いており、節理面に沿って剥片が剥離されている。14・17・19～21はやや良質な石質を用いており、17・19のように縦長剥片を剥離しようとした痕跡がうかがえ、20・21のように打面転移を頻りに繰り返しながら、打面幅の狭い剥片が剥離されている。残核の形状は、14・20のようなサイコロ状を形態を呈する。18は良質の石材を用いており、両設打面の石核から石刃と識別可能な縦長剥片が連続的に剥離されていることがうかがえる。流紋岩・ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルスにおいては、25・26の接合資料にみられるように、楕円形礫を分割し、分割面を打面として、打面転移を繰り返しながら、縦長剥片を剥離しようとしたことがうかがえる。残核の形状は、12・13・15・16などのように、多様な形状を呈する。石質の違いにより、剥離された形状は異なる。おそらく良質な石材が用いられた18は、石刃と識別可能な縦長剥片が連続的に剥離されており、単独で搬入された10・11も同様の形状を呈している。本文化層は、石刃状の縦長片を刃器として用いた可能性が高く、これらの刃部が機能しなくなったか破損した場合、1～4のような二次加工のある剥片が製作されたものと思われる。

周辺の遺跡では、市原市南青野遺跡石器集中地点¹⁾がもっとも類似しており、ほかに袖ヶ浦市関畑遺跡第1a文化層²⁾、成田市天神峰奥之台遺跡第1文化層³⁾、富里市薮子穴Ⅱ遺跡⁴⁾が類似する。印旛編年⁵⁾Ⅱ期、相模野台地諏訪間編年⁶⁾段階Ⅱに位置付けられる。

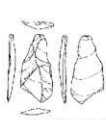
二次加工のある剥片



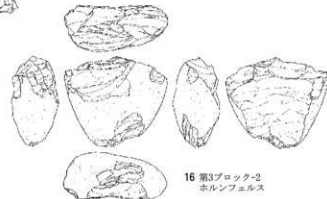
使用痕のある剥片



剥片



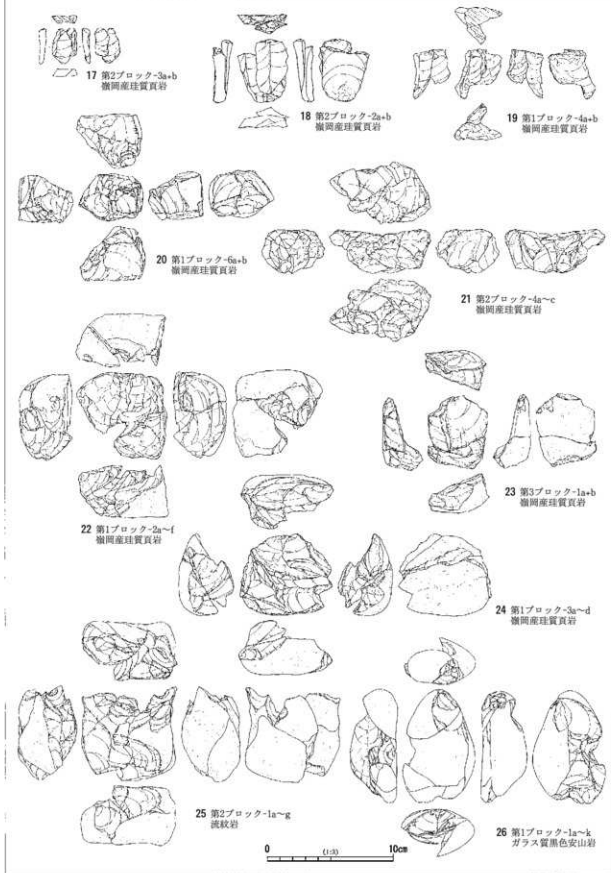
石核



0 (1:30) 10cm

第323図 第1文化層主要器種組成図(1)

接合資料



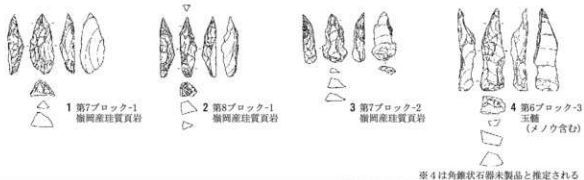
第324図 第1文化層主要器種組成図(2)

(2) 第2文化層(第7・27・325~328図、第7表)

V層~IV層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。第4~第8ブロックの5か所から683点出土した。第1文化層と同様にブロック間の接合資料はみられなかった。出土層位がV層~IV層下部に集中し、調査区の西側にまとまって分布することから、同一文化層の石器群としてとらえた。角錐状石器とナイフ形石器が本文化層をもっとも特徴付ける器種である。ほかに、搔器・敲石・磨石・礮器が主要な器種である。礫・礫片は第7ブロックに散漫に分布しており、礫群を伴うブロックとして、識別することも可能である。

1~3は角錐状石器である。4は角錐状石器の未製品と思われることから、本項では角錐状石器のなかに図示した。1~3は良質の嶺岡産珪質頁岩が用いられており、各ブロックにおいて製作された痕跡がみられる。4は単独母岩で搬入されている。5~7は黒曜石、8は良質のチャートを用いたナイフ形石器である。9はナイフ形石器の未製品と考えられることから、本節では、ナイフ形石器のなかに図示した。5~9はいずれも、同一母岩の剥片などが含まれており、各ブロックで製作された痕跡がうかがえる。10~13は搔器である。10・11は単独で搬入されたもので、全周に調整加工が施され、円形の形態を呈する。12・13は同一母岩の剥片などが含まれており各ブロックで製作された痕跡がうかがえる。縦長剥片を素材とし、素材の末端部、あるいは打面部に調整加工が施されており、10・11とは形態的に異なり、不定形な形態を呈する。14~16は楔形石器である。17~21のような細長い縦長剥片を剥離した石核である可能性もある。17~19は細長の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。20・21は良質な嶺岡産珪質頁岩が用いられた細長の剥片である。22~46は二次加工のある剥片である。このうち、22~24は鋸歯状の調整加工が施され、角錐状石器の未製品と考えられる資料である。第5・第7ブロックにおいて、角錐状石器(1・3)や角錐状石器の未製品と考えられる資料(22~24)と同一母岩の資料が出土していることから、角錐状石器が製作された可能性が高い。25・27・28・29はプランティング加工が施されており、ナイフ形石器の未製品の可能性が高い。26・41は端部を尖らせるような抉状の調整加工が施され、石錐として機能した可能性がある。30~33は素材の側縁部に連続する調整加工が施されており、ナイフ形石器の未製品である可能性がある。34~37は素材の末端部に急角度の調整が施され、12・13の搔器の形状と類似する。38~40・42~46は、いずれも打面幅の狭い剥片を素材としており、40・43~46は石刃と識別可能な素材を用いている。47~61は石核・接合資料である。47・48は良質な黒曜石を用いており、小型の直方体をした両設打面の石核である。47は上部付近で破損しており、48の裏面左側縁には、石核を転用して二次加工した痕跡がみられる。良質な黒曜石は、究極まで剥片剥離が行われたことが推察される。49は細粒の緑色凝灰岩を用いた石核である。単独で搬入されており、打面部の上部は敲打による潰れ痕が連続してみられることから、石核を礮器として転用した可能性もある。50・52は厚みのある剥片を素材とし、打面転移を頻繁に繰り返してサイコロ状の形態を呈する。51・52・54~56は大型の分割礫を素材とし、分割面を打面として剥片が剥離されている。57は細長い楕円形礫を素材とし、端部に数回の剥離が行われている。58は良質な嶺岡産珪質頁岩から、頭部調整と打面調整が施された縦長剥片を連続的に剥離したことがうかがえる接合資料である。59~61は大型の分割礫を素材とし、分割面を打面として幅広の剥片が剥離された接合資料である。石核は残存していないが、51・52・54~56と同様の剥片剥離によるものと思われる。62は多孔質のホルンフェルス素材とした磨石である。63は礮器である。左下部の鋭利な縁辺に、連続する剥離がみられる。64~67は細粒の砂岩を用いた敲石である。サイズや形状は多様であるが、細粒の砂岩製の楕円形礫を

角錐状石器



ナイフ形石器



搔器



楔形石器



使用痕のある剥片



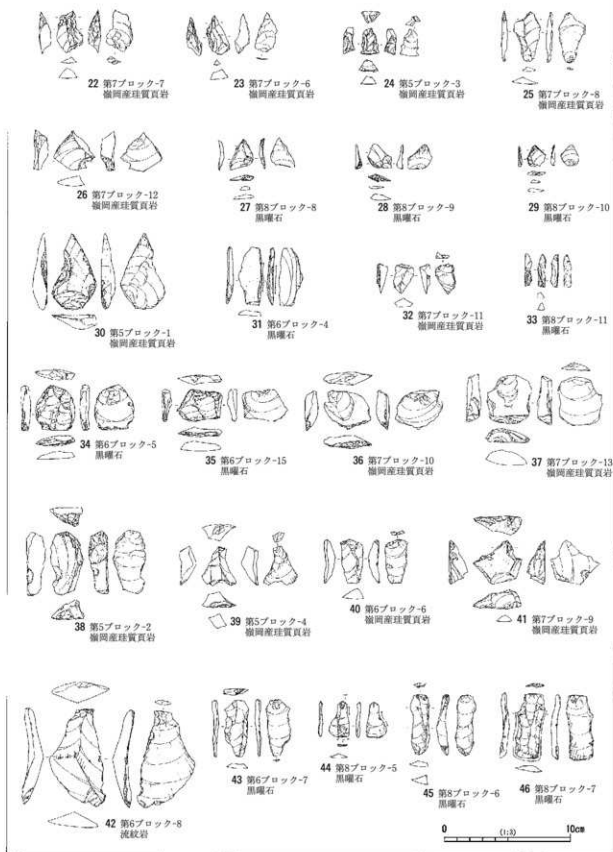
剥片



0 (1:3) 10cm

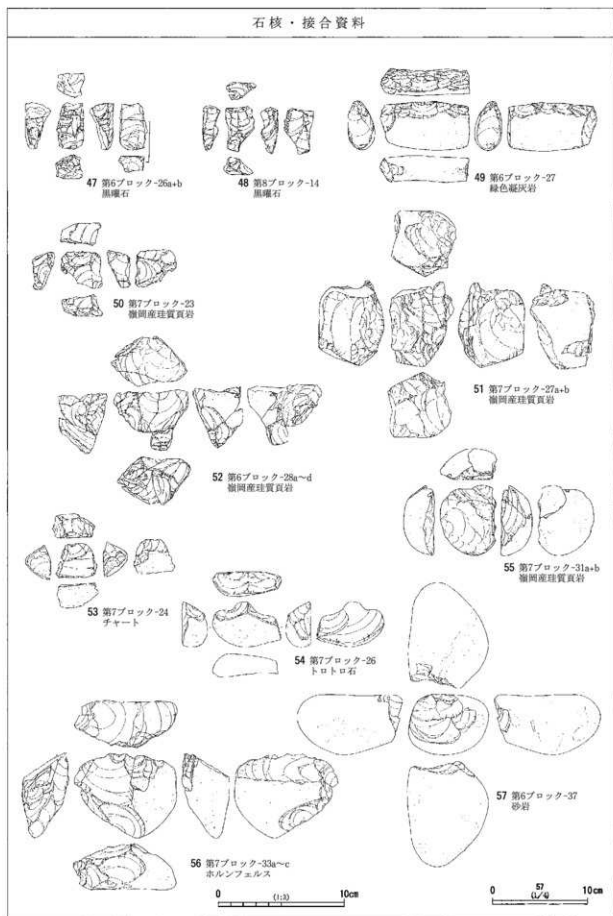
第325図 第2文化層主要器種組成図(1)

二次加工のある剥片



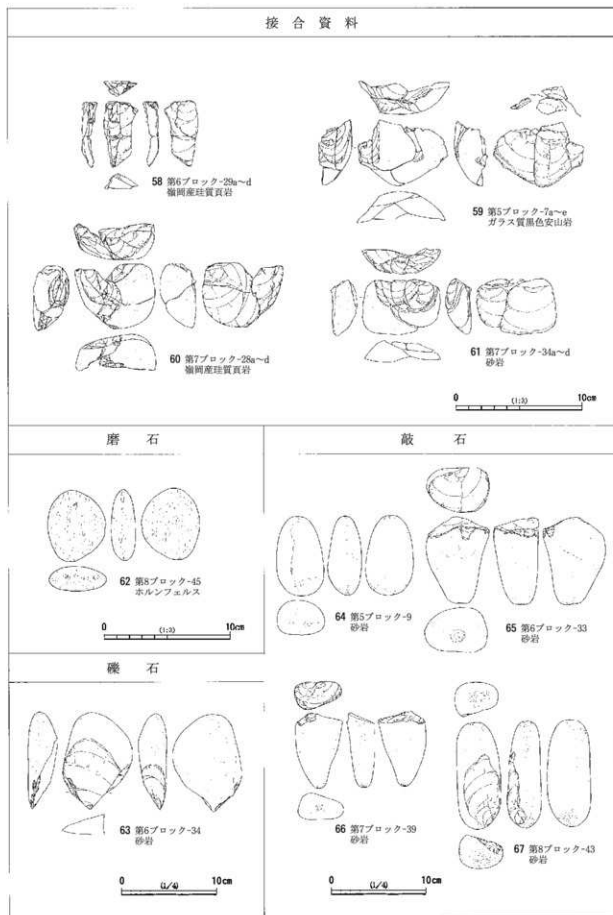
第326図 第2文化層主要器種組成図(2)

石核・接合資料



第327図 第2文化層主要器種組成図(3)

接合資料



第328図 第2文化層主要器種組成図(4)

選択して用いたことがうかがえ、第4ブロック以外のブロックに数点ずつ持ち込まれている。これらの敲石には強い敲打の痕跡がみられ、65・66のように、器体の中央部から破損した後も、破損面の縁辺部に敲打痕がみられる。また、67のように、下端部から器体の中央部まで及ぶ剥離面がみられる。おそらく、大型の楕円形礫を母岩として持ち込み、分割する際に用いられたものと思われる。さらに、石核・接合資料(51・52・54～56や59～61など)でみられたように、分割面を打面とした剥離の際にも用いられたものと思われる。石材においては、黒曜石が第6・第8ブロックで多用され、ナイフ形石器やナイフ形石器の未製品と推定される石器が多く出土しており、両ブロックにおいて、ナイフ形石器が製作されたことがうかがえる。これに対して、良質な嶺岡産珪質頁岩は、第5・第7ブロックで多用され、角錐状石器や角錐状石器の未製品と推定される石器が多く出土しており、両ブロックにおいて、角錐状石器が製作されたことがうかがえる。このように、第2文化層では、黒曜石-ナイフ形石器、嶺岡産珪質頁岩-角錐状石器の製作に強い関連がみられる。しかしながら、第7・第8ブロックにおいては、角錐状石器とナイフ形石器とが伴っている。これらの要因は、集団の移動ルートや石材の供給ルートの違いと石材の消費サイクルによるものと推察される。おそらく、遠隔地の石材である黒曜石を多く保有している時期はナイフ形石器を製作し、黒曜石が枯渇した時期に、近隣地の石材である嶺岡産珪質頁岩を用いて角錐状石器を製作したと推察される。

周辺の遺跡では、市原市今富新山遺跡⁷⁾の石器群がもっとも類似する。ほかに市原市武士遺跡第5文化層⁸⁾、茂原市神田山第Ⅱ遺跡⁹⁾、芝山町岩山中袋遺跡(空港No.2遺跡)第Ⅰ文化層¹⁰⁾の石器群が類似する。編年的には、印旛編年⁵⁾Ⅵ期、相模野台地諏訪編年⁶⁾段階Ⅳ、角錐状石器形態変遷龜岡編年11)Ⅱ期にそれぞれ位置付けられる。

2 縄文時代

根岸小妻遺跡の縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡2軒、炉跡8基、集石土坑9基、陥穴15基、土坑3基を検出した。これらの設置時期については遺跡全体から出土した縄文土器の量的主体が早期熱系文化後半、条痕文化期、早期末から前期初頭、前期後半のものであることから、概ねその時期における設置と判断できる。しかしながら弥生時代以降の方形同溝墓・竪穴住居跡・古墳等の設置により数多くの縄文時代の遺構が失われていると考えられることから、今回は集落論的な分析を実施することはできない。

出土土器に目を転じると、早期のⅠ群14類 大浦山式土器(第95図、図版43・44、巻頭図版2)、同じくⅠ群15類 胎土が「けいしょう」な土器(第95図、図版44、巻頭図版3)が目立つ。これらは東京湾西岸域に主体的に分布するものであるが、東京湾東岸域においても散発的に検出されているものである。今後、東京湾東岸域のより東方域への分布の広がりや注意する意味から、資料提供者への注意喚起のためにもカラー図版等で資料提示を行った。

また、早期終末から前期初頭のⅣ群6類 東海系の薄手土器(第103図、図版48・51、巻頭図版3)についても、東京湾西岸域までの分布が、今後、東京湾東岸域への広がりを注意する意味から、やはり、資料提供者への注意喚起のためにもカラー図版等で資料提示を行った。

一方、今回の発掘調査で検出した156基の土坑については若干の課題が残ることになった。事実記載で示したとおり、整理作業の段階で156基の土坑から炉跡や陥穴と判断できるものについて分離し、弥生時代以降の設置と判断できるものを分離した。この分離した結果の残りの109基の土坑については、

- i 客観的かつ確実に縄文時代に設置されたと考えられる土坑 3基
- ii 縄文土器が出土している土坑 42基
(土器と共に石器や礫が出土している土坑を含む)
- iii 縄文時代の所産であると考えられる石器・礫のみが出土している土坑 20基
(土器は出土せず、石器や礫のみが出土している土坑)
- iv 遺物が出土していない土坑 44基

となる。

これら4種類の土坑のうち「i」の3基を除いた106基の土坑については、発掘調査段階の所見ではほとんどが縄文時代の設置であるものと判断され、その認識は整理作業当初でも追認され、当財団の年報等を含めた一連の刊行物にその旨を記してきた。これらの経緯を踏まえ、今回、報告の方法として縄文時代の範囲でとりあげてきた。

縄文時代早期から前期の遺跡の調査においては、遺構に伴うことが確認できない多数の土器群と共に、数多くの炉跡(炉穴)や、掘り込みの浅い土坑を数多く検出する例が多い。また上総地域においてはこれらに加え夥しい量の礫が出土する例が多い。炉跡はその機能において土器の利用が想定される場合があることから土器片が出土する例が多いが、土坑については土器片の出土する例は多くはない。このことから、早期・前期の遺跡で検出される土坑については、時期不明であるとの判断や、遺構であるか否かが疑わしいという評価をうける機会が多い。

ここでは、このような経緯をふまえたうえで、本遺跡を含めた上総地域の早・前期の土坑について基礎資料を提示して、まとめとしておきたい。

第329図には、根岸小妻遺跡で検出した上記ii・iii・ivの3種の土坑の長さ・幅・深さをグラフに示した。比較資料として、

※袖ヶ浦市正源戸B遺跡 早・前期 土坑75基¹²⁾

※袖ヶ浦市上用瀬遺跡 早期 土坑27基¹³⁾

※袖ヶ浦市中六遺跡 早期 土坑42基¹⁴⁾

※袖ヶ浦市堂庭山B遺跡 早期 土坑46基¹⁵⁾

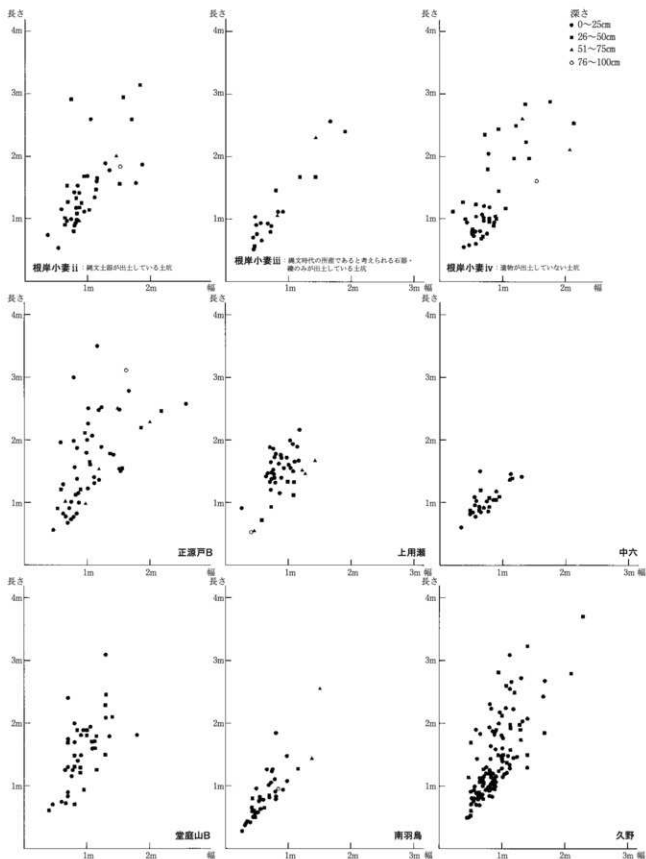
※木更津市南羽鳥遺跡 早期 土坑41基¹⁶⁾

※木更津市久野遺跡 早・前期 土坑145基¹⁷⁾

についても、併せて土坑の長さ・幅・深さをグラフに示した。

発掘調査から整理作業のなかで、土坑等の遺構の客観的かつ確実な時期決定を行うことは困難である。しかし、規模(長さ・幅・深さ)に一定のまとまりがあり、周辺の同時期の遺跡においても類例がある場合においては、これらの時期を類推することはできよう。

このような視点から根岸小妻遺跡の3種を瞥見すると、iiにおいては、長さ1m弱から2m弱、幅1m前後、深さ50cm以下にまとまる。長さが卓越することから楕円形のプランが主体である。iiiにおいては、長さ・幅ともに0.5m～1m弱であり、深さは25cm以下のものが主体である。長さが幅に比べやや卓越することから、楕円形気味のプランである。ivにおいては、長さ・幅ともに0.5m～1m強であり、深さは50cm以下のものが主体で、長さが幅に比べやや卓越することから、楕円形気味のプランである。このように、ii・iii・ivに属するすべての土坑の規模が一定の範囲内におさまるわけではないが、過半数以上の



第329図 上総地方における縄文時代早期の土坑の規模

ものが一定のまとまりのなかに分布する状況を認めることができよう。

一方、目を周辺の遺跡に転じると、上用瀬遺跡・中六遺跡・南羽鳥遺跡・久野遺跡においても、すべての土坑の規模が一定の範囲内に納まるわけではないが、過半数以上のものが一定のまとまりのなかに分布する状況、したがって根岸小妻遺跡例と同様の傾向を認めることができよう。したがって今回の報告において縄文時代の可能性があると発掘調査段階で判断された土坑については、やはり縄文時代に属する可能性が高いと判断されよう。しかしこのことは「これらの土坑群は概ね縄文時代（早・前期）に属する」と捉えるに至ったに過ぎない。

縄文時代早・前期の集落論は、いまだ竪穴住居跡・炉穴・土坑の設置場所・数量比等から類型化を模索している段階にあるといわざるを得ない。

例えば早期の類型を示すならば、

- ※住居跡群と炉穴群が分布域をやや異にしながら隣接する
 - ※多数の炉穴が検出されているものの住居跡は検出されない
 - ※環状の炉穴の分布に大形住居跡が伴う
- などであり、前期の類型を示すならば、
- ※住居跡群と土坑群が分布域をやや異にしながら隣接する
 - ※土坑の基数に比べ住居跡の件数が卓越する
 - ※住居跡分布域の内側が遺構の空白地帯となる
 - 住居跡群の内側に土坑群の分布域が形成される
- などである¹⁵⁾。

このように、今なお縄文時代早・前期集落の研究は、個別具体的な1基の土坑の時期や性格を明らかにするレベルの操作ではなく、1遺跡のなかでの土坑が概ねどのような時期に相当し、どのような範囲に分布しているのかするという雑駁な把握が必要な段階にある。そのような意味から、今回、根岸小妻遺跡及び周辺の遺跡の土坑の規模の比較を試み、これらが縄文時代に属する可能性を指摘することができた。しかしながら冒頭でも触れたとおり、弥生時代以降の方形周溝墓・竪穴住居跡・古墳等の設置により数多くの縄文時代の遺構が失われていると考えられることから、今回は集落論的な分析を実施することはできない。あくまで基礎資料の提示にとどまらざるを得ない。

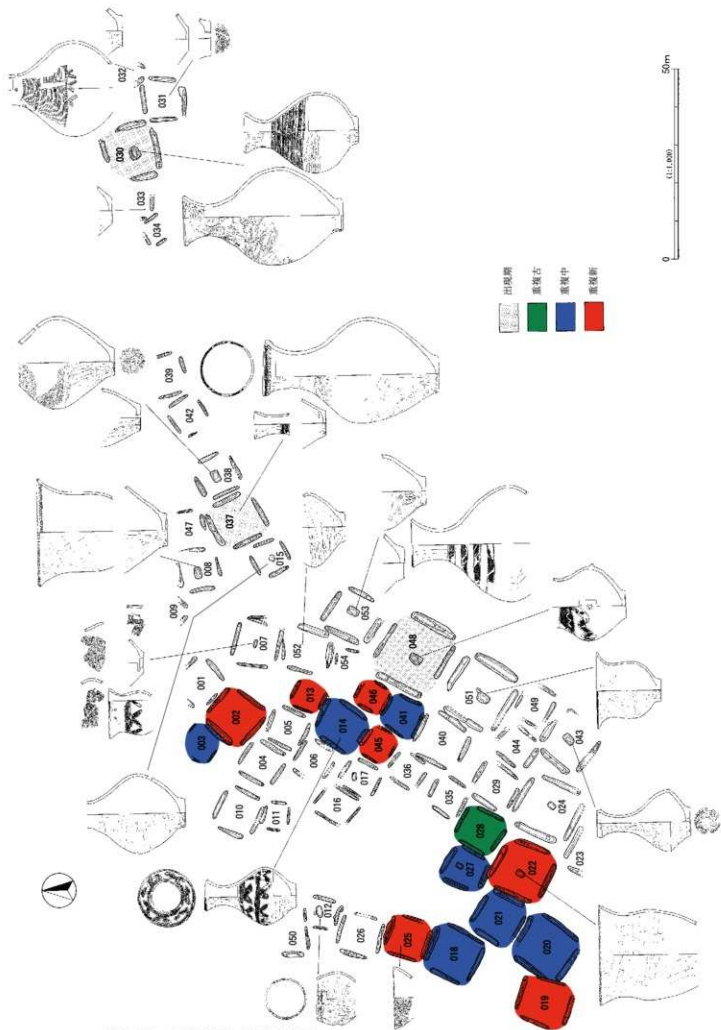
なお、今回のii・iii・ivという分類においては、「iv 遺物が出土していない土坑」については、規模にまとまりが認められず縄文時代の可能性を指摘できないのではという予測があったが、この予測は外れることになった。

3 弥生時代～古墳時代中期

(1) 方形周溝墓

方形周溝墓は中期の典型的な形状である四隅が切れるもののみで構成されている。出土した土器は僅かであるが、いずれも宮ノ台式土器である。宮ノ台式の中葉～後葉にかけての土器と考えられる。副葬品については土器のみであり、千葉県内の中期の方形周溝墓と同様に質・量共に乏しい状況である。

遺構については、墳丘自体が部分的に残存していた遺構や古墳の墳丘に方形周溝墓の墳丘及び周溝が覆われていたものがあり、良好な遺存状況の方形周溝墓も存在した。方台部の規模は42.2㎡～276.8㎡のもの



第330圖 方形周溝墓・遺物分布圖

があり、平均は111.2㎡である。数値的には100㎡前後のものが多く、

方形周溝墓は3群に分かれて分布し、東群は4基、中央群は8基の分布で、西群は42基の分布である(第330図)。西群についてはさらに2群ないし3群に分かれる可能性があるが、重複により峻別ができない。

最大の群である西群のなかで最も古いと考えられるのはSS048である。出土した壺は胴部最大径部位に6単位の瘤状の突起を有し、胴部上半の波状沈線及び胴部最大径部位の波状の帯縄文に伴う沈線が太く、古式の様相を示している。中央群ではSS037出土の壺20が、頸部が細く口縁部が「く」の字状に外反する古手の形態であり、壺21についても形状等が古式であるので、SS037が古い遺構であると判断される。

東群はSS030が最も古いと考えられ、出土した壺13は横位の集合沈線の施文後に、4単位の縦位の意匠を施す個体で、縦位の意匠については愛知県弥生時代中期の貝田町式土器の影響を受けていると考えられる。この土器は形態及び胎土的にも本地域周辺で作られたものと認識される。文様についても横方向の付加沈線の研磨は櫛描き直線によって帯で分離させるもののはずが集合となっており、さらには縦の意匠の描き方が1回ではなく、縦方向に7段若しくは6段の箇所に分けて描かれており、技法的には貝田町式土器とは明らかな差異があるものの、貝田町式土器並行¹⁰⁾として捉えられる。なお、貝田町式土器の影響を受けている土器は、君津市常代遺跡²⁰⁾からも出土しており、関係が注目される。

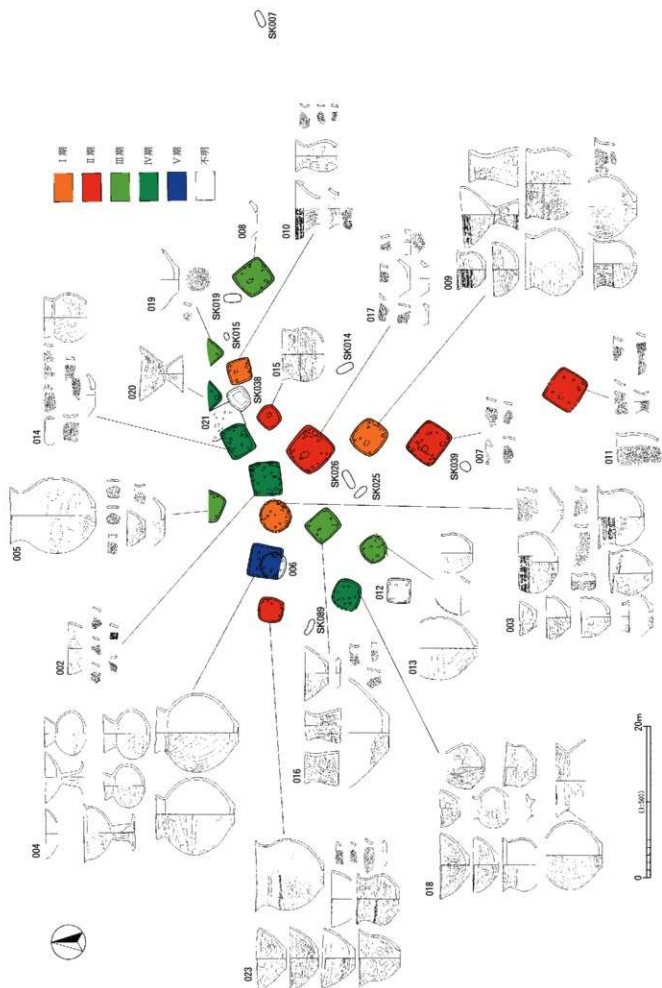
SS048・SS037・SS030は本遺跡の方形周溝墓の規模順ではそれぞれ、1位、6位、9位の順であり、大型の方形周溝墓である。おそらく、この3基が核となって周溝墓が配列されていったのであろう。わけてもSS048は南北が16m、東西が17.3mと群を抜く大きさであり、円墳に挟まれながら墳丘が残存していたことから類推できるように、古墳時代においても相当に存在感があった方形周溝墓として認識される。西群42基の中心的存在であったと認識される。

3群のうち、どの群が最初に造営されたかは不明であるが、平野からの見晴らしの点を考慮すると、最も高い位置に所在する東群のSS030若しくは最大規模のSS048のいずれかの可能性が高いと考えられる。方形周溝墓の配列は当初、南側の斜面際に沿って並び、やがて台地の内側に造られたと考えられ、主軸方向には規則性がみられる。その後の構築順序については出土土器が少ない上に、時期的にも短い時間幅の土器群であるので、残念ながら変遷を明確にすることはできないが、15基の方形周溝墓で切り合いが認められる。3時期の重複があり、赤色で表した方形周溝墓が青色の方形周溝墓を切り、さらに青色が緑色を切っている。これから判明することは、ほぼ同軸で隣り合わせの状況で切り合いを重ねていたことである。あいている空間にモザイク状に方形周溝墓を割り込ませており、4時期程度の時期幅はあったと考えられる。

なお、西群のSS012は本遺跡出土の宮ノ台式土器でも新しい様相の遺物が出土しており、遺構が小規模で配列も乱れたものとなっている。これから類推するならば、周辺の遺構の主軸とやや異なった軸で小型の遺構が、最後の時期に近い遺構であると認識できる。

また、本遺跡の方形周溝墓構築の特徴としては、周溝は4か所ともきれいに掘削して構築し、近隣の軸が同様な方形周溝墓の周溝があってもそれを利用していないことが挙げられる。

遺物については、SS032からは縄文施文の代わりにオオバコを利用して擬縄文とした壺が出土し、注目される。ちなみに植物の茎を回転圧痕して擬縄文とした例は東北地域に多く、本地域では少量が認められる。なお、この技法の西端の地域は静岡県三島市まで達しており、長伏六反田遺跡²¹⁾からはカナムグラ茎で回転圧痕された鉢が出土している。



第331図 弥生時代後期後葉～古墳時代中期の竪穴住居跡変遷図

(2) 弥生時代後期～古墳時代中期の集落の変遷

本遺跡では当該時期の竪穴住居跡を21軒検出した。これらの住居は調査区の北西部に集中しており、弥生時代中期の方形周溝墓と重複するものは1軒のみであり、方形周溝墓を避けて集落が営まれたと考えられる。住居の重複例はSI004とSI006、SI014とSI021、SI020とSI021の3か所でみられるが、新旧関係が明瞭なのはSI004とSI006のみである。

弥生時代の後期後葉～古墳時代前期の遺構が主体であり、どちらの時代に区分してよいか迷う遺構が多いが、5期に区分(第331図)することができる。

I期 SI003・SI009・SI010

II期 SI007・SI011・SI015・SI017・SI023

III期 SI005・SI008・SI013・SI016・SI019

IV期 SI002・SI014・SI018・SI020

V期 SI004

I期は甕の最大径が口縁部から胴部に移行する段階の遺物群であり、甕は下膨れの形状のものが多い時期である。また、SI003には鉢の口縁部外面にくずれた羽状縄文がみられ、SI009出土の高杯に杯部と脚部の境に刻み目が入るものがみられ、弥生時代後期後葉の時期に比定される。

II期は甕の胴部が下膨れから球形化する時期であり、鉢は無文のものがみられる。III期は炉器台の括れ部の屈曲が強くなり、受け部が退化して逆「ハ」の字状に開くものがみられる。II期～III期にかけては、弥生時代末～古墳時代初頭の時期と考えられる。

IV期には従来からの甕がみられるものの、胴部中央の刻み目はみられなくなる。新たに頸部が「く」の字状に屈曲する甕が出現し、高杯は杯部が逆「ハ」の字状に開く形状のものがみられる時期である。古墳時代前期に比定される。V期は甕にナデ整形で頸部の屈曲が緩やかなものがみられる。丸底壇があり、高杯は杯部と継ぎ目に中実部分があるものが存在し、古墳時代中期でも前半の遺物と認識される。

竪穴住居跡の並びとしては、検出した集落の中央部分にI期がみられ、II期ではやや南方にもみられるようになり、III・IV期は逆に北方に展開すると考えられる。V期は1軒のみでなんとも言えないが、おそらくこれも北側に分布があるものと考えられる。

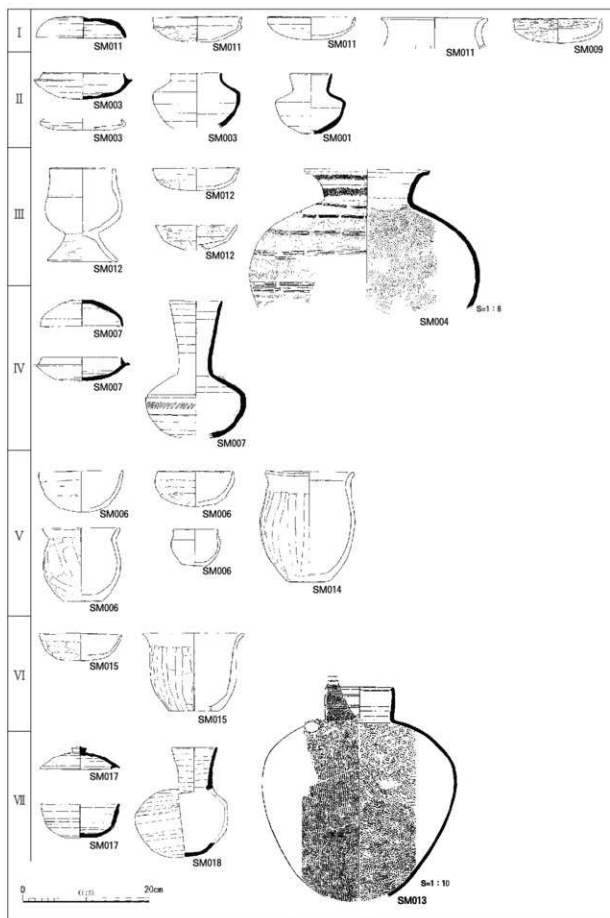
なお、根岸古墳群・根岸小妻遺跡の方形周溝墓を造営した人々の集落は本調査区内では検出していない。方形周溝墓の場合、周溝墓群に隣接して集落が営まれる場合が多いので、台地の北東部(重三台遺跡の北側)に集落が存在した可能性がある。

4 古墳時代後期～歴史時代

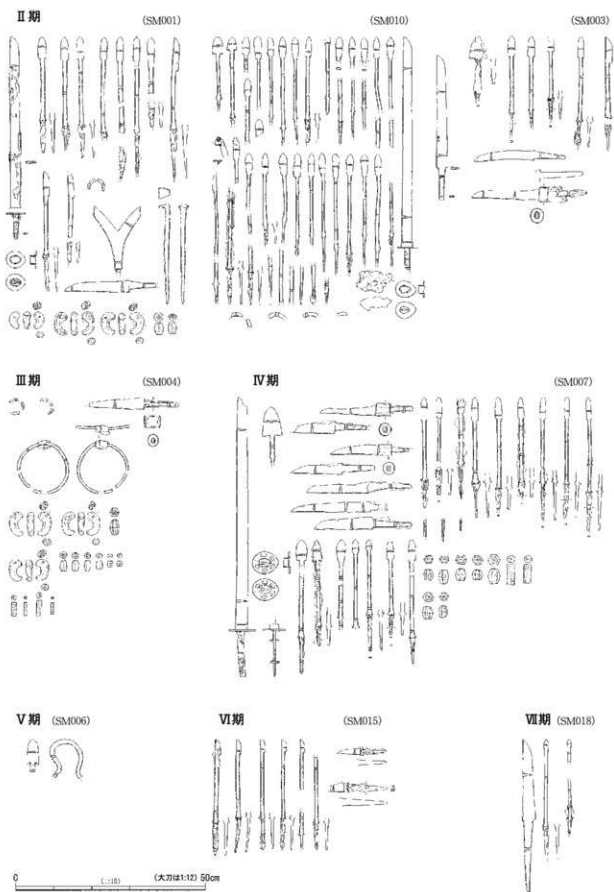
(1) 古墳の変遷(第332図～第334図)

分布調査では根岸古墳群の遺跡全体で16基の円墳が確認²²⁾されていた。そのうち1基は全壊、1基は部分的に削平された状態であった。今回の調査区内には8基の古墳と考えられる高まりが認められたが、そのなかで実際に古墳であったものは6基であり、1基が方形周溝墓で1か所が地膨れであった。

調査区内では削平された古墳を検出した結果、円墳15基、方墳6基を調査した。ちなみに、墳丘の盛土が僅かでも残存した古墳は8基(SM001・SM003・SM004・SM006・SM007・SM009・SM010・SM011)であった。



第332图 古墳出土土器変遷図



第333図 古墳出土金属製品・玉類変遷図

本古墳群の墳丘径は約4.2m～23.9mであり、差異が著しいが、これは6世紀後半から終末期にかけての古墳が混在しているからにほかならない。円墳は二重周溝を持つ古墳やテラスを有する古墳が認められた。注目すべき点としては、SM007で墳丘計画線と考えられる地割り線を検出したこと、弥生時代の方形周溝墓の墳丘を取り込んで古墳の墳丘を構築していること、横穴式木室と考えられる遺構を有する古墳2基（SM015・SM018）が存在することが挙げられる。

古墳同士が重複する遺構は、SM005とSM012、SM009とSM010がある。SM005がSM012を切っていることが判明しているが、SM009とSM010の関係については不明瞭である。また、SM004の周溝はSM003の周溝を避けて構築されており、SM004のほうが新しい遺構であると認識される。以上の点に留意しながら、出土遺物及び古墳規模・配置等を検討した結果、8時期に区分できた。

I期 SM009・SM011

II期 SM001・SM003・SM010

III期 SM004・SM012

IV期 SM007・(SM005)

V期 SM006・SM014

VI期 SM015

VII期 SM017・SM018・(SM013)・(SM016)・(SM019)・(SM022)

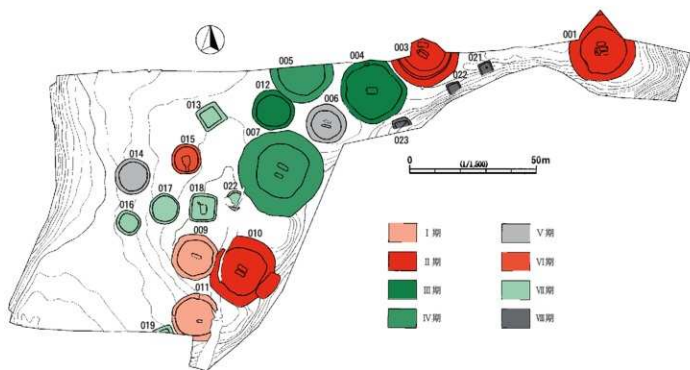
VIII期 SM020・SM021・SM023

括弧付きの遺構は根柢薄弱のものである。I期は調査区南部に2基が並んでみられる。墳丘規模は15m程度の中型の円墳であり、遺物はSM011からは須恵器杯身模倣の土師器杯で、口縁部の立ち上がりが直線的で、内外面に黒色処理がなされているものが出土し、共存する須恵器杯蓋は陶邑窯跡群編年のTK43式並行の時期のものが出土している。SM009は周溝からの検出であるが、類似した須恵器杯身模倣の土師器杯が出土している。

II期は墳丘がI期よりも大型化となる。SM003に陶邑窯跡群編年のTK209の古段階に並行する須恵器杯身があり、時期の定点となる。SM001の墳丘盛土内出土の須恵器短頭壺は一見するとともに時期が下がるようにも見受けられるが、おそらくSM003の須恵器杯身に近い時期のものと考えられる。金属製品はSM001の直刀の鐔が古式の様相を示し、SM001とSM003の片刃形長頭鎌の鎌身が大きくしっかりした形状である。SM010については、SM009との重複関係は土層断面からは不明であるが、SM009の周溝が円形であるのに対して、SM010の周溝は歪んでおり、SM009の墳丘部分を避けて造られた可能性を考慮し、さらにSM010出土の直刀の鐔がSM001出土の鐔と類似したものであることから、II期に含めて考えた。

III期はSM012にII期よりもやや退化した土師器杯が出土している。SM004については、II期のSM003の周溝を避けて造られているためこの時期としたが、II期のSM001出土の勾玉と同様な形状の勾玉が出土しており、時期的な差は僅かである可能性が認められる。

IV期はSM007からII期よりも小振りとなった須恵器杯身・杯蓋が出土している。杯身は口縁部がやや内反りになっている。金属製品はSM007出土の直刀の鐔に6窓の透し窓があり、II期の直刀の鐔よりも新しいものが入る。古墳の大きさはII期よりも大きくなり、本遺跡の古墳では最大となる。SM005については、III期のSM012の周溝を切っているため、III期よりも新しくなる古墳である。次の時期以降、古墳の規模が縮小していくので、確証はないものの規模からSM005をIV期に含めた。



第334図 古墳変遷図

V期はSM006から土師器の丸底の碗が出土し、SM014からは土師器の小型甕が出土している。この甕は次のVI期まで下る可能性も認められるが、古墳の大きさ等を勘案してこの期に含めた。

VI期はSM015のみであり、平底気味の土師器杯が出土し、金属製品は片刃形長頸織の織身がII期のものと比較してかなり貧弱である。古墳の規模はV期よりもやや小振りとなっており、中央部に横穴式木室を有する。

VII期はSM017から須恵器の蓋と身が逆転し、鈕を有する蓋と底部が平坦となった杯が出土し、SM018からは須恵器平瓶が出土している。SM018は方墳で、横穴式木室を有する。方墳SM013・SM019と円墳SM016・SM022については確証はないが、古墳規模を考えてVII期とした。

VIII期については時期を決定できうる遺物の出土がないが、極端に古墳規模が小型になる時期の遺構としてSM020・SM021・SM023を挙げておきたい。

以上、7時期に区分したが、古墳の占地としては、比較的古い段階（I～IV期）の古墳が台地稜線上の景勝地を取り、V期から台地の奥を使用するようになり、最終段階には斜面部にかかる部分を利用するようになると考えられる。

古墳の時期についてはI期が6世紀後半、II期が6世紀第4半世紀中心、III期が6世紀末～7世紀初頭を中心とする極めて短い時期の可能性が高い。IV期は7世紀の早い段階で、V期が7世紀前半、VI期は7世紀中葉、VII期は7世紀後半と考えられ、VIII期は遺物がみられないので不明な点が多いが、一部が奈良時代まで下る可能性が考えられる。

遺物については、武器類と玉類が多く出土した。ガラス小玉については、古墳時代前期の例ではあるが

木更津市鶴ヶ岡1号墳²⁰からガラス小玉の銜型が検出されており、本遺跡周辺で作られた可能性も十分に考えられる。

今回の調査では、古墳群を造営した人々の集落については検出することができなかった。古墳は小櫃川を望む台地の東縁に並んでいることから、台地下の現水田が広がる低地から仰ぎ見られることを意識してこの場所に造られていたと考えられ、集落跡についてはおそらく小櫃川沿いの現在の集落と重なるところあたりに存在すると推察される。

(2) 横穴式木室について

円墳SM015と方墳SM018から近畿地方及び静岡県に多くみられる形態の横穴式木室と類似した遺構を検出した。この「横穴式木室」²¹については、上記の地域のみならず近年に至り各地からの類例が増加し、注目される。それらの多くは木の杭を立て、それを粘土で塗り固めて壁を造っており、粘土の壁のなかに木の芯が通っていることから、「木芯粘土室」や「横穴式木室」と呼称されている。本遺跡の2例の粘土壁には木の芯が立てられていた痕跡には認められなかったが、粘土のみでは自立できないので、おそらく木板等を組み立てた壁の裏込めとして粘土が貼られていた可能性が高く、「横穴式木室」の範疇に入ると考えられる。両遺構共に小ピットを検出しており、これが木芯部になるかもしれない。なお、この類の遺構は「窯形木芯粘土塚」・「横穴式塚室」等の言葉も用いられており、用語的に確立していない状況である。

近畿地方での横穴式木室の出現時期は6世紀であり、横穴式石室と同時期と捉えられている。最初に横穴式木室に注目したのは森 浩一氏であり、1959年に「窯塚を主体施設とした火葬古墳の新例」で横穴式木室を取り上げている。構造は丸太材を合掌形にして、粘土でかためて焼成したものであり、須恵器窯と類似した構造であるとし、「窯塚」という用語を用いて説明している（後に窯形木芯粘土塚に名称を変更）。森氏は火化されていることから、火葬及び仏教の受容との関わりを指摘している。

これに対して水野正好氏は仏教の火葬が荼毘、拾骨、そして納骨という一連の行為がないので、否定的見解を提示している。この横穴式木室については、被葬者が「渡来人」という説や、須恵器工人説、仏教の影響を受けて成立したとの説があるが、未だはっきりとした定説がないのが現状である。

関東圏での出土例は比較的少ないが、千葉県では千葉市端山越遺跡²²の方形周溝状遺構の埋葬施設で類似した遺構が検出されている。また、同じく千葉市の五十石遺跡²³からも方形周溝状遺構の埋葬施設に横穴式構造で粘土が検出された遺構が認められる。出土した遺物の時期は8世紀後半と8世紀中葉と考えられ、本遺跡の時期よりもかなり新しい時期の遺構である。今後、県内でも類似の遺構が増加すると予想され、注目される資料である。

第2節 重三台遺跡

重三台遺跡は遺構としては近世を中心とする時期と考えられる井戸跡2基、溝跡1条、掘立柱建物跡2棟を検出したのみであり、確認調査の範囲内で調査を実施した遺跡である。遺構については貧弱であったが、遺物はグリッド出土ではあるが比較的豊富に出土した。近世の遺物に混入して室町時代の五輪塔の空・風輪や戦国時代末の陶器も含まれていた。近世の陶磁器は、日常雑器が主体であったが、香炉や仏花瓶が含まれていた。香炉や仏花瓶は周辺に墓や仏堂等が存在する可能性と個人の屋敷で使用されていた可能性が考えられたが、寺は周辺の文書を検索してもそれらしいものは認められなかった。香炉・仏花瓶は

掘立柱建物跡や井戸跡を検出しているの、それらに伴うものであると考えるのが順当ではあるが、中世の五輪塔の出土が気になる点として残される。周辺に墓地がある可能性も視野に入れておきたい。

さらに注目されるのは、奈良・平安時代の遺物についてもロクロ土師器の香炉蓋がみられ、仏教関連遺物が出土したことである。灯明に使用されたと考えられる土師器杯とロクロ土師器が各3個体出土し、破片資料ではあるが緑釉陶器碗・皿、灰釉陶器碗も出土し、狭い面積の調査であったにもかかわらず良好な資料を検出した。これらは付近に仏堂等が存在する可能性も考えられる内容の遺物である。

また、ロクロ土師器の小皿や、土師質土器の小皿・杯も検出しており、今回の調査区の上方に地域拠点となる遺構群が存在することを予見させる。

注1 永塚俊司 1994『市原市南青野遺跡』(財)千葉県文化財センター

2 新田浩三 2004「袖ヶ浦市関畑遺跡」『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書13』(財)千葉県文化財センター

3 矢本節朗 1998「天神峰奥之台遺跡(空港No65遺跡)」『新東京東国際空港埋蔵文化財調査報告書X』(財)千葉県文化財センター

4 篠原 正 1988『獅子穴Ⅱ遺跡』(財)印旛郡市文化財センター

5 酒井弘志・宇井義典 2004『印旛の原始・古代-旧石器時代編-』(財)印旛郡市文化財センター

6 諏訪間 順 1989「相模野台地における石器群の変遷について」『神奈川考古』第24号 神奈川考古同人会

7 新田浩三 1999「市原市今富新山遺跡・古市場(2)遺跡、千葉市古市場(1)遺跡」『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書4』(財)千葉県文化財センター

8 田村 隆 1996「市原市武士遺跡Ⅰ」(財)千葉県文化財センター

9 道澤 明 1990「神田山Ⅱ遺跡・内野Ⅱ遺跡」『千葉県茨原市桂遺跡群発掘調査報告書』(財)長生郡市文化財センター

10 矢本節朗 1997「成田市三里塚御料牧場遺跡・芝山町岩山中袋遺跡(空港No2遺跡)」『土木保守管理センター等埋蔵文化財調査報告書』(財)千葉県文化財センター

11 亀田直美 1996「角錐状石器」『石器文化研究5 AT降灰以降のナイフ形石器文化』石器文化研究会

12 西原崇浩 2000「正源戸B遺跡・子者清水遺跡」(財)君津郡市文化財センター

13 安藤道由ほか 2001「上用瀬遺跡Ⅲ」(財)君津郡市文化財センター

14 桐村修司 1993「中六遺跡Ⅱ」(財)君津郡市文化財センター

15 加藤正信ほか 1996「袖ヶ浦市堂庭山B遺跡」(財)千葉県文化財センター

16 土屋治雄ほか 2004「東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書2」(財)千葉県文化財センター

17 小林清隆ほか 1999「矢那川ダム埋蔵文化財調査報告書2」(財)千葉県文化財センター

18 安納 実 2001「千葉県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会

19 永井幸幸 2009「3 編年表」『朝日遺跡Ⅶ総集編』(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

20 甲斐博幸ほか 1996「千葉県君津市常代遺跡群」君津郡市考古資料刊行会

21 芦川忠利 1999「静岡県三島市長伏六反田遺跡」三島市教育委員会

22 千葉県教育委員会 1990「千葉県所在古墳群詳細分布調査報告書」

23 酒巻忠史 1995「桜ヶ丘遺跡群発掘調査報告書」木更津市教育委員会

- 酒巻忠史 1998「東国における古墳時代の鋳造技術について—鶴ヶ岡1号墳出土のガラス小玉鍔型を中心に—」『君津郡市文化財センター研究紀要』Ⅶ (財) 君津郡市文化財センター
- 24 森 浩一 1959「窯槨を主体施設とした火葬古墳の新例」『日本考古学協会第23回総会研究発表要旨』
- 水野正好 1966『蒲生郡日野町小御門古墳群調査概要』滋賀県教育委員会
- 柴田 稔 1983「横穴式木芯粘土室の基礎的研究」『考古学雑誌』第68巻4号
- 鈴木敏則 1991「横穴式木室雑考」『三河考古』第4号 三河考古刊行会
- 風間榮一 1993「横穴式木室研究の現状と課題」『遡航 早稲田大学文研考古誌』第11号 早稲田大学大学院文学研究科考古談話会編
- 伊藤久嗣 2002「横穴式木芯研究ノオト(2)」『藤澤一夫先生卒寿記念論文集』藤澤一夫先生卒寿記念論文集刊行会 帝塚山大学考古学研究所
- 25 長原 亘 2007「端山越遺跡」『—千葉市—下泉町遺跡群 白池台遺跡 新堤遺跡 明神台遺跡 端山越遺跡 大草台古墳群 上谷津第1遺跡 上谷津第2遺跡 井戸作南遺跡』(財) 千葉市教育振興財団
- 26 塚原勇人 2009「五十石遺跡」『千葉市土気東遺跡群調査概報 黒ハギ遺跡 奥房台遺跡 五十石西遺跡五十石遺跡 北河原坂第1遺跡 長塚遺跡 上塚遺跡 文六西第1遺跡 文六西第2遺跡 文祿東第1遺跡 文六東第2遺跡 宮台遺跡』(財) 千葉市教育振興財団

第24表 縄文時代土器 時期別組成表

遺構	遺構番号	燃糸文	沈線文	茅山(子母口・野島)	早期末(前期初頭)	黒浜	諸磯・浮島・興津	前期末(中期初頭)	中 期	無 文	不明・小片	總 計
壑穴住居跡	ST001	51		158	16						178	406
	ST022	173		266	16		3,259		204		70	3,993
集石土坑	SX001	289									82	371
	SX002	52									4	56
	SX003	92		32								124
	SX004	56		18								74
	SX005	60			32							92
	SX006	46		43	112							201
	SX007	26										26
炉跡	SK083										7	7
	SK134	102			678						28	808
	SK140										2	2
	SK142	20			25							45
土坑	SK008				25							26
	SK051					259					14	273
	SK085						319					319
窟穴	SK018			28								28
	SK121	31		364							31	426
	SK141	11		20								31
	SK156				17							17
遺構合計	1,017	0	929	922	259	3,578	0	204	0	416	7,325	
大グリッド												
A3						13	6	111	21		58	209
A4	17		69			158	24	118	130		52	368
A5	822		1,852						186		718	3,578
A6	2,561	5	4,021	86			50		224	438	1,503	8,888
A7	1,936	31	2,271	180			5		276		650	5,349
A8	4,969		6,443	390		37	4,990	5,191	1,340	51	3,749	27,160
A9	58		76				32	42	44		55	307
B3	84		219	44	150	49	458	1,070			48	2,122
B4	48		913	176	25	23	69	576			124	1,954
B5	2,061		5,135	375			494	154			1,213	9,432
B6	3,913	19	5,971	224			129	74	382	656	2,967	14,335
B7	24											24
C3	537	8	281	446	7	28	85	809			348	2,549
C4	829		1,782	5,326	26			180	91		947	9,481
C5	2,729		607	7,750	5			11	49		1,885	13,036
D2									160			160
D3	275	299	45	236					140		142	1,137
D4	506	392	1,393	10,840	20			2	48		1,134	14,335
D5	67		6	260	1			2				336
グリッド合計	21,436	754	31,084	26,333	442	5,830	6,643	3,700	1,145	15,393	114,960	
總 計		22,453	754	32,013	27,255	701	9,408	6,643	5,904	1,145	16,009	122,285

[単位: g]

第26表 縄文時代石器 石材組成表

遺 構		種 類													計							
遺 構 種 別	種 類	黒 石	成 石	安 山 岩	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	ト ロ トロ 岩	珪 質 頁 岩	凝 灰 質 頁 岩	ホ ル ン ド	チ ャ ー ク	玉 砂 梨 (ヘ マ ノ ク 含 有)	砂 岩	凝 灰 岩	石 灰 岩	滑 石	閃 石	鉄 質 頁 岩	水 晶 岩	緑 泥 岩	不 明	他	
豊 穴 住 居 跡	S001	10	3							4											108	
	S002	2	707							11											1,314	
		2	867							27											934	
	SX001	1	90	4						545	5,144										5,679	
	SX002	1	11,993	292						8	76	9,620	1,202								694	2,207
	SX003	1	10,420	811						788	762	6,821	1,772								232	34,472
	SX004	1	6,043	95							377	1,154	5,170	1,838						181	596	13,704
	SX005	1	3,746	73							39	2,588	2,631	150							4	3,521
	SX006	1	4,497								2,094		1,643								74	7,214
	SX007	1	58	6							5	157	136								16	279
SX008	1	3,392	480							8	1,527	4,424	111							866	41,173	
SX009	1	1,424	2							227	1,176	19								10	3,147	
SX010	1	1,571									1,372	2,145								102	5,416	
伊 島	SK083	1	57							8	101										182	
	SK134	2	2,085	60	15		112			214	1,165	3,020	121							30	8,593	
	SK140	1	13																		48	
	SK141	1	200							8	44	174	14								206	
	SK142	1	6																		42	
土 坑	SK208	1	151																		185	
	SK085	1	407																		493	
輪 穴	SK010	1	106				115														266	
	SK063	1																			1	
	SK121	1		117							6										4	
	SK111	1	41							2	23										26	
	SK150	1	3,352	84						24	634	1,060	166								278	
	SK151	1	35	367						3	41										20	
遺 構 合 計		332	587	20	3	0	111	0	1	37	372	8	383	3	0	0	0	0	0	67	10,239	
	261	86,277	1,863	15	3	1,063	0	1	2,527	26,474	9	39,246	3,848	33	0	0	0	36	181	9	630,188	
大 グリッド																						
A3	3	15	34							10											48	
A4	3	1,019	29							173	372										566	
A5	10	1,415	16							26	588	250									844	
A6	42	34,545	1,020							129	1	4,721	20,252	661	36,873	196					365	
A7	28	174,586	4,867							1	13,512	30,357	309	139,556	322						27	
A8	18	66,234	81								24,295										47	
A9	48	270	34								6,322										182	
B0	51	41,741	1,206							69	172	39	17	3,292	14,579	30,227	424				122	
B1	11	1,424	91								2	28									41	
B2	16	9,430	1,647								19	708									103	
B3	76	26,321	421								10	1,139	8,175	120	6,000	470					14	
B4	146	1,482	29								163	1,456	11	2,009							2	
B5	410	134,787	1,820								83	1,027	11,785	160	11,744						18	
B6	20	1,198	150									140	2,119	16	1,739						3	
B7	61	150,826	3,032								14	15,298	85,274	229	147,456						197	
B8	4	1,123	3									182	6	97	18						2	
B9	67	14,825	243									373	5,400		9,505	567					2	
C0	189	176,133	1,943								14	165	181	4	2,561						2	
C1	84	1,482	29									639	89,486	63	107,889						1	
C2	184	199,847	1,835									87	2,456	11	2,009						2	
D0	1	1,891										126	107		2,333						1	
D1	1	48										6	31		27						1	
D2	22	1,772	31									181	2,755	8	1,320						3	
D3	152	99,631	1,943									2,791	61,253	63	71,099						72	
D4	13	24,292	205									27	216	28	24						87	
D5	13	1,482	29									8	856		15						17	
D6	25	471,041	88,359									30,921	188,414	411	375,855						3,001	
大グリッド 合計	640	21,883	222	146	69	63	0	89	1,764	21,730	88	21,393	29	8	2	1	6	1	2	3	36	
	181	1,428,428	176,618	1,696	4,463	14,974	270	879	114,013	742,018	12,839	1,252,469	4,665	1,148	2	14	61	4	113	2,393	5,099	
総 計	974	22,120	352	149	83	74	9	90	1,741	23,560	88	22,189	67	8	2	1	3	6	76	76	76	
	261	6,698,436	173,921	1,681	4,463	14,974	270	871	114,620	768,407	12,810	1,251,589	4,663	1,148	2	14	33	103	2	115	7,685	

[上段: 点検、下段: 重量(kg)]

第28表 聖穴住居跡（弥生時代後期～古墳時代）柱穴深度一覧表

SI002 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20
2	26	9	23	12	11	13	12	?	7	30	12	16	17	31	31	51	22	6	12
P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33							
5	11	13	12	8	11	30	22	30	16	11	44	17							

SI003 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20
15	6	3	5	8	28	15	8	32	17	19	25	5	11	15	12	17	5	5	9
P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29											
4	4	12	33	9	14	12	23	13											

SI004・006 標高62.7m (SI004床面レベル付近) からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17
59	59	60	59	37	26	21	7	27	41	32	31	28	24	33	35	29

SI005 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4
11	15	19	14

SI007 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17
19	12	27	17	6	26	10	13	31	17	17	13	14	7	14	5	20

SI008 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
9	46	20	23	23	11	11	34	20

SI009 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
44	43	41	39	27	27	28	35

SI010 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6
26	20	23	10	11	11

SI011 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13
20	7	37	21	33	9	20	28	22	27	13	30	28

SI012 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
18	24	14	20	17	20	18	6	28

SI013 P 1～6：遺構検出面からの深度。P 7～15：床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
20	17	14	21	31	22	48	10	22	35	11	60	15	10	26

SI014 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
25	29	17	34	19	32	12	9	26	20	12	16	31	43	28

SI016 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6
28	29	33	11	57	30

SI017 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20
24	13	11	15	46	9	7	8	13	16	6	12	36	45	9	49	5	7	26	6
P21																			
14																			

SI018 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
49	9	16	14	17	25	21	16	13

SI019 床面からの深度 単位：cm

P1
11

SI020 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5
15	17	20	22	23

SI021 標高63.2m (SI021床面レベル付近) からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	SI014-P12	SI014-P13	SI014-P14	SI014-P15
35	24	15	22	14	20	23	12	35	40	59	44

SI023 床面からの深度 単位：cm

P1	P2	P3	P4	P5	P6
11	28	22	25	28	12

第29表 遺構一覧表

種別	番号	グリッド1	グリッド2	平面形態	時期	遺構種別	主軸方位	長軸 (m)	幅 (m)	深さ (cm)
SI	001	B4-28	B4-49	不整形長方形	縄文時代 早期終末～前期初頭	竪穴住居	N-2°-W	5.10	3.40	25
SI	002	A3-97	B3-08	方形	古墳時代前期	竪穴住居	N-7°-W	4.50	4.00	10
SI	003	B3-06	B3-17	円形	弥生時代後期	竪穴住居	-	4.40	4.00	30
SI	004	A3-94	B3-05	方形	古墳時代中期	竪穴住居	N-8°-E	4.10	4.20	30
SI	005	A3-86	A3-87	隅丸方形	弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居	N-27°-E	4.30	-	30
SI	006	B3-04	B3-05	円形	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居	-	3.60	3.60	50
SI	007	B3-48	B3-69	方形	弥生時代末	竪穴住居	N-55°-W	5.30	4.50	30
SI	008	A4-94	B4-05	方形	弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居	N-36°-W	4.70	4.20	20
SI	009	B3-38	B3-49	隅丸方形	弥生時代後期	竪穴住居	N-50°-W	4.60	4.10	20
SI	010	A4-81	A4-92	隅丸方形	弥生時代後期	竪穴住居	N-19°-W	3.30	3.20	30
SI	011	B4-90	C4-01	方形	弥生時代末	竪穴住居	N-57°-W	4.90	4.50	30
SI	012	B3-44	B3-54	方形	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居	N-4°-E	3.30	3.20	-
SI	013	B3-35	B3-46	隅丸方形	弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居	-	3.40	3.30	40
SI	014	A3-88	A3-99	方形	古墳時代前期	竪穴住居	N-26°-W	4.10	3.50	30
SI	015	B3-09	B4-00	隅丸方形	弥生時代末	竪穴住居	-	3.10	2.90	30
SI	016	B3-16	B3-27	方形	弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居	N-56°-E	4.10	3.60	20
SI	017	B3-08	B3-29	隅丸方形	弥生時代末	竪穴住居	N-46°-W	5.40	5.30	50
SI	018	B3-23	B3-34	隅丸方形	古墳時代前期	竪穴住居	N-72°-W	4.00	3.90	60
SI	019	A4-81	A4-82	方形	弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居	-	-	-	20
SI	020	A4-80	A4-81	方形	古墳時代前期	竪穴住居	-	-	-	20
SI	021	A3-89	A4-90	長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居	N-25°-W	5.00	3.90	30
SI	022	A8-55	A8-66	円形	縄文時代 縄磯 a	竪穴住居	-	3.00	2.80	20
SI	023	B3-03	B3-04	隅丸方形	弥生時代末	竪穴住居	N-86°-W	3.30	3.30	50
SK	001	B5-23	B5-23	楕円形	縄文時代	土坑iii	N-35°-W	2.40	1.90	49
SK	002	B5-23	B5-23	楕円形	縄文時代	土坑iii	N-11°-W	1.06	0.82	61
SK	003	B4-77	B4-78	卵形	縄文時代 桑原文	土坑ii	N-6°-E	1.89	1.28	18
SK	004	B4-58	-	長方形	縄文時代	土坑iv	N-40°-E	2.61	1.32	51
SK	007	A5-92	B5-03	長楕円形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-73°-E	2.55	1.03	45
SK	008	B4-29	-	卵形	縄文時代 早期終末～前期初頭	土坑i	N-20°-E	1.32	1.03	29
SK	009	A3-98	-	円形	縄文時代	土坑iv	N-22°-E	0.77	0.75	25
SK	010	A3-97	A3-98	楕円形	縄文時代	土坑iv	N-9°-W	1.25	0.57	33
SK	011	A3-87	A3-88	卵形	縄文時代	土坑iv	N-4°-E	0.80	0.64	19
SK	012	A3-94	A3-95	楕円形	弥生時代後期	土坑	N-2°-E	2.19	1.21	12
SK	013	A3-04	-	楕円形	弥生時代後期	土坑	N-7°-W	1.34	0.60	14
SK	014	B4-21	B4-31	長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-24°-W	2.22	1.05	78
SK	015	A4-82	A4-92	楕円形	弥生時代末～古墳時代前期	土坑	N-64°-E	1.09	0.60	22
SK	016	A4-82	A4-92	長楕円形	縄文時代	土坑iv	N-3°-E	2.50	1.21	43
SK	017	B4-33	B4-44	隅丸長方形	縄文時代	土坑iv	N-72°-W	2.84	1.36	28
SK	018	B4-43	B4-53	隅丸方形	縄文時代 茅山	陥穴	N-33°-E	1.99	1.83	252
SK	019	A4-83	A4-93	長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑iii	N-2°-W	2.54	1.19	42
SK	020	B4-43	B4-44	楕円形	縄文時代	土坑iv	N-83°-E	2.35	0.92	44
SK	021	A4-82	-	卵形	縄文時代	土坑iv	N-65°-E	0.79	0.53	47
SK	022	B3-06	-	長方形	縄文時代	陥穴	N-48°-E	1.95	0.85	78
SK	024	B3-96	-	隅丸長方形	縄文時代	土坑iii	N-74°-W	1.69	1.18	41
SK	025	B3-37	-	長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-51°-W	2.10	0.72	38
SK	026	B3-27	B3-38	長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑iii	N-67°-E	2.67	1.10	43
SK	027	B5-27	B5-28	長楕円形	縄文時代	土坑iv	N-44°-W	2.06	0.77	12
SK	028	B5-27	-	卵形	縄文時代	土坑iv	N-70°-W	1.46	0.94	32
SK	029	B5-17	-	卵形	縄文時代 桑原文	土坑ii	N-53°-W	1.12	0.94	21
SK	030	B4-97	-	長楕円形	縄文時代 桑原文	土坑ii	N-31°-W	2.92	0.74	26
SK	031	B4-56	B4-57	卵形	縄文時代	土坑iv	N-75°-W	2.11	2.07	61
SK	032	B5-18	-	隅丸方形?	縄文時代 桑原文	土坑ii	N-70°-E	1.78	1.34	16
SK	033	B5-18	B5-19	隅丸長方形	縄文時代 桑原文	土坑ii	N-83°-E	3.15	1.84	37
SK	034	B3-46	-	円形	縄文時代	土坑iv	N-13°-W	1.00	0.89	27
SK	035	B3-46	-	楕円形	縄文時代	土坑iv	N-30°-E	1.19	0.79	25
SK	036	B3-46	B3-56	卵形	縄文時代	土坑iv	N-30°-E	1.18	1.05	29
SK	037	B3-09	B4-00	隅丸長方形	縄文時代	土坑iv	N-46°-E	2.89	1.75	41
SK	038	A4-80	A4-91	隅丸方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-57°-E	3.14	2.91	46
SK	039	B3-68	-	隅丸長方形	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-30°-E	1.59	1.38	52
SK	040	B3-85	-	円形	縄文時代	土坑iv	N-70°-W	0.72	0.68	38
SK	041	B3-85	-	卵形	縄文時代	土坑iv	N-22°-E	0.71	0.67	42
SK	042	B3-74	-	不整形長方形	縄文時代	土坑iv	N-12°-W	2.54	2.13	44

種別	番号	グリッド1	グリッド2	平面形態	時 期	遺構種別	主軸方位	長軸 (m)	幅 (m)	深さ (cm)
SK 044	D3-30	—	—	—	縄文時代	土坑iv	N-82°-W	1.00	0.42	49
SK 045	D3-36	D3-46	—	—	縄文時代	土坑ii	N-8°-E	1.57	1.76	20
SK 046	D3-18	D3-19	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-70°-E	1.43	0.79	26
SK 049	C3-34	C3-35	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-79°-W	1.97	1.42	47
SK 050	B6-08	—	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑ii	N-1°-E	2.59	1.68	18
SK 051	C3-55	C3-65	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑i	N-40°-W	2.41	1.75	44
SK 053	C3-59	C4-50	楕丸長方形	—	縄文時代後期	土坑墓	N-64°-E	3.22	1.51	74
SK 054	A9-62	A9-72	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑田	N-24°-E	2.90	1.43	56
SK 055	A8-69	A9-70	楕丸長方形	—	中・近世	横土土坑	N-6°-E	2.33	2.21	63
SK 056	A9-51	A9-62	卵形	—	縄文時代	土坑ii	N-16°-W	1.26	0.90	37
SK 057	A9-52	A9-62	卵形	—	縄文時代	土坑田	N-24°-E	1.68	1.16	34
SK 058	A8-89	A9-90	楕丸長方形	—	中・近世	土坑	N-95°-E	2.59	1.96	67
SK 059	A8-61	A8-72	卵形	—	縄文時代	土坑ii	N-89°-E	2.01	1.45	59
SK 060	A8-69	A9-70	長楕円形	—	縄文時代	陥穴	N-12°-E	2.79	0.53	118
SK 061	A7-63	A7-73	長楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-47°-E	1.70	1.00	39
SK 062	A7-62	A7-73	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-49°-W	1.60	1.14	17
SK 063	A7-63	A7-64	楕丸長方形	—	縄文時代	陥穴	N-71°-E	1.55	1.06	101
SK 064	A6-78	A6-88	不整形	—	縄文時代	土坑ii	N-74°-E	1.88	1.86	25
SK 065	A8-50	A8-60	楕丸長方形	—	縄文時代	陥穴	N-38°-E	0.81	0.67	50
SK 066	A8-65	—	楕円形	—	中期	土坑ii	N-89°-E	1.54	0.67	26
SK 067	A7-72	A7-73	長楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-75°-E	2.36	0.73	36
SK 068	A6-72	A6-73	方形	—	縄文時代後期	土坑	N-14°-E	1.63	1.61	17
SK 069	A7-91	B7-02	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑ii	N-9°-W	1.84	1.52	80
SK 070	B4-23	—	円形	—	縄文時代	土坑iv	N-3°-W	0.90	0.86	35
SK 071	A4-90	B4-00	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-10°-E	0.74	0.54	11
SK 072	B4-00	B4-10	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-5°-E	0.94	0.43	16
SK 073	B3-29	—	楕円形	—	縄文時代	陥穴	N-30°-E	1.31	1.00	53
SK 074	B4-11	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-52°-E	1.15	0.58	23
SK 075	B4-95	B4-96	円形	—	縄文時代	陥穴	N-10°-E	1.56	1.40	194
SK 076	B4-97	—	楕丸長方形	—	縄文時代	陥穴	N-89°-E	1.48	1.28	120
SK 077	C4-08	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-37°-W	1.66	1.15	39
SK 078	A7-91	B7-01	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑iv	N-29°-W	1.61	1.54	75
SK 079	C4-19	C4-29	卵形?	—	縄文時代	土坑ii	N-20°-E	1.15	1.02	34
SK 080	C4-29	C4-39	不整形	—	縄文時代	土坑田	N-31°-E	2.56	1.67	40
SK 081	C4-38	C4-39	不整形	—	縄文時代	土坑ii	N-15°-E	1.47	0.72	44
SK 082	C4-38	C4-48	不整形	—	縄文時代	炉跡	N-4°-E	1.28	1.23	23
SK 083	C4-38	C4-48	不整形	—	縄文時代	炉跡	N-47°-W	1.31	0.56	26
SK 084	B3-33	B3-43	楕丸長方形	—	縄文時代	陥穴	N-26°-E	2.38	1.05	57
SK 085	B3-23	B3-33	卵形	—	縄文時代	土坑i	N-3°-E	1.25	1.02	38
SK 086	B3-23	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-36°-W	1.27	0.69	34
SK 087	B3-23	—	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-47°-E	0.78	0.54	18
SK 088	B3-13	B3-23	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-62°-E	0.81	0.52	33
SK 089	B3-12	B3-13	長楕円形	—	弥生時代後期～古墳時代前期	土坑	N-67°-W	2.23	0.79	49
SK 090	B3-43	B3-53	卵形	—	縄文時代	土坑iv	N-38°-W	0.95	0.79	33
SK 091	B3-43	—	卵形	—	縄文時代	土坑iv	N-8°-W	0.87	0.71	19
SK 092	B3-12	B3-13	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-79°-E	1.28	0.30	34
SK 093	C4-64	—	卵形	—	縄文時代	土坑田	N-64°-W	1.12	0.81	15
SK 094	C4-64	—	楕円形	—	縄文時代	土坑田	N-55°-W	0.76	0.49	17
SK 095	C4-64	—	楕円形	—	縄文時代	土坑田	N-43°-E	0.89	0.74	18
SK 096	C4-64	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-9°-W	0.99	0.72	21
SK 097	C4-54	C4-55	卵形	—	縄文時代	土坑ii	N-8°-E	0.98	0.82	22
SK 098	C4-55	—	不整形楕円形	—	縄文時代	炉跡	N-63°-W	1.12	0.62	36
SK 099	C4-64	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-85°-E	0.74	0.36	17
SK 100	C4-56	—	卵形	—	縄文時代	土坑田	N-90°-E	0.93	0.68	17
SK 101	C4-55	—	円形	—	縄文時代	土坑田	N-88°-E	0.66	0.58	9
SK 102	C4-56	—	楕円形	—	縄文時代	土坑田	N-28°-W	0.78	0.71	13
SK 103	C4-67	—	楕丸長方形	—	縄文時代	土坑ii	N-64°-W	0.90	0.78	14
SK 104	C4-86	C4-87	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-42°-E	1.02	0.69	21
SK 106	C3-23	C3-33	楕円形	—	縄文時代	土坑iv	N-83°-W	2.44	1.37	39
SK 108	D4-15	—	楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-19°-W	1.18	0.81	11
SK 109	D4-24	D4-25	楕円形	—	縄文時代	土坑田	N-88°-W	1.04	0.48	14
SK 110	D4-25	D4-26	長楕円形	—	縄文時代	土坑ii	N-22°-E	1.67	0.94	27
SK 111	D4-26	—	卵形	—	縄文時代	土坑ii	N-68°-E	0.97	0.68	21

種別	番号	グラフィッド	グリッド	平面形態	時 期	遺構種別	主軸方位	長軸 (m)	幅 (m)	深さ (cm)	
SK	112	D4-25	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-31°-W	0.89	0.50	9	
SK	113	D4-25	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅲ	N-29°-E	0.71	0.44	12	
SK	114	D4-26	D4-27	長楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-41°-W	2.59	1.04	24	
SK	115	D4-26	D4-36	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-42°-W	1.53	0.83	23	
SK	116	D4-36	D4-46	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-16°-W	1.01	0.63	49	
SK	117	D4-37	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅲ	N-22°-W	0.53	0.44	17	
SK	118	D4-37	—	卵形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-63°-E	0.93	0.81	24	
SK	119	D4-35	D4-46	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-38°-W	0.90	0.64	28	
SK	120	D4-36	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅲ	N-27°-W	0.93	0.54	18	
SK	121	A6-94	B6-04	隅丸長方形	縄文時代	子母口	陥穴	N-60°-E	1.51	0.90	120
SK	122	A6-95	B6-05	卵形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-1°-W	1.18	0.88	27	
SK	123	D2-09	D2-19	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-62°-W	1.98	1.19	39	
SK	124	D2-28	—	—	縄文時代	土坑Ⅳ	N-8°-W	1.80	0.77	35	
SK	125	B5-19	—	楕円形?	縄文時代	陥穴	N-27°-E	1.12	0.68	111	
SK	126	C4-36	C4-46	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-3°-W	1.47	1.13	32	
SK	127	C4-48	C4-49	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-85°-E	1.03	0.89	31	
SK	128	C4-27	C4-28	不整形	縄文時代	伊跡	N-13°-E	1.08	1.07	15	
SK	129	C4-19	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅲ	N-20°-W	1.47	0.79	32	
SK	130	C4-09	C5-00	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-73°-W	1.42	0.86	16	
SK	131	C5-00	—	卵形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-43°-E	1.12	0.91	24	
SK	132	C5-10	—	円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-65°-W	0.53	0.53	18	
SK	133	C5-10	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-35°-E	0.55	0.39	16	
SK	134	C5-31	C5-41	不整形	縄文時代	伊跡	N-10°-W	2.13	2.08	29	
SK	135	C5-33	C5-43	不整形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-65°-E	0.96	0.87	41	
SK	136	C5-33	C5-43	不整形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-28°-E	1.35	1.10	23	
SK	137	C5-21	C5-32	不整形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-77°-E	1.56	1.50	35	
SK	138	C5-21	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-67°-E	1.33	0.81	31	
SK	139	C5-11	C5-21	楕円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-27°-W	1.09	0.82	26	
SK	140	C5-32	—	不整形	縄文時代	伊跡	N-34°-W	1.36	1.00	23	
SK	141	C5-40	C5-41	不整形	縄文時代	陥穴	N-71°-W	2.64	1.59	120	
SK	142	C5-60	—	卵形	縄文時代	伊跡	N-45°-W	1.69	1.04	11	
SK	143	C4-69	C4-79	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-44°-W	0.59	0.47	20	
SK	144	C5-60	—	円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-68°-W	0.62	0.57	18	
SK	145	C5-70	C5-71	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-6°-W	0.56	0.46	26	
SK	146	C5-80	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-55°-E	1.00	0.78	33	
SK	147	C4-89	C5-80	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-47°-W	1.21	0.71	17	
SK	148	C5-70	—	円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-86°-W	0.95	0.86	16	
SK	149	C4-79	—	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-26°-W	0.79	0.55	23	
SK	150	C5-90	—	不整形	縄文時代	伊跡	N-8°-E	1.81	0.97	28	
SK	151	C4-79	—	円形	縄文時代	土坑Ⅱ	N-8°-W	0.79	0.78	23	
SK	152	C5-35	C5-45	隅丸長方形	縄文時代	陥穴	N-59°-E	2.64	1.43	56	
SK	153	B5-65	B5-75	隅丸長方形	縄文時代	陥穴	N-56°-W	1.50	1.48	113	
SK	154	B5-65	B5-66	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-65°-W	1.05	0.58	21	
SK	155	B5-65	B5-75	楕円形	縄文時代	土坑Ⅳ	N-45°-W	1.08	0.67	17	
SK	156	C5-03	C5-13	楕円形?	縄文時代	陥穴	N-49°-E	2.53	1.57	122	
SD	006	A3-82	B3-22	—	古墳時代後期	溝	N-5°-E	13.60	1.57	23	
SX	001	A7-66	A7-76	卵形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	002	A7-76	—	卵形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	003	A7-65	A7-75	卵形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	004	A7-74	A7-75	楕円形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	005	A7-62	A7-63	卵形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	006	A8-60	—	卵形	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	007	A8-71	—	卵形?	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	008	B6-04	—	—	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	
SX	009	B3-73	B3-74	卵形?	縄文時代	礫系土	—	—	—	—	

※ 一覧表「遺構種別」中の土坑の後に付されたⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳはそれぞれ、

Ⅰ 客観的かつ確実に縄文時代に設置されたと考えられる土坑（第74図～第76図）

Ⅱ 縄文土器が出土している土坑（縄文土器出土土坑 第77図～第82図）

Ⅲ 縄文時代の所産であると考えられる石器・礫のみが出土している土坑（縄文時代礫等出土土坑 第83図～第85図）

Ⅳ 遺物が出土していない土坑（土坑—その他— 第86図～第91図）

をさしている。

第30表 方形周溝墓因溝計測表

遺構番号	溝番号	グランド1	グランド2	形状	新旧関係	方位	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(cm)
SS001	a	A5-81	A5-82 (長楕円形)			N-40°-E	[1.38]	1.02	56.0
SS001	b	A5-91	B5-02 長楕円形			N-48°-W	[3.26]	1.16	34.8
SS001	c	A4-99	B5-00 長楕円形			N-49°-E	7.26	1.25	44.8
SS001	d	A4-89	- 長楕円形			N-42°-W	4.38	0.68	15.7
SS002	a	A4-98	B5-10 長楕円形		SS003-2<	N-41°-W	8.71	1.20	76.0
SS002	b	B4-19	B4-39 長楕円形			N-36°-E	9.18	1.28	74.4
SS002	c	B4-16	B4-38 長楕円形			N-47°-W	9.56	1.40	61.7
SS002	d	A4-88	B4-17 長楕円形			N-46°-E	9.26	1.68	49.1
SS003	a	A4-87	A4-88 (長楕円形)			N-46°-W	[1.94]	0.46	23.3
SS003	b	A4-97	B4-07 長楕円形		<SS002-1	N-45°-E	[5.2]	1.20	56.1
SS003	c	A4-95	B4-06 長楕円形			N-54°-W	3.94	0.56	15.3
SS003	d	A4-85	A4-95 (長楕円形)			N-38°-E	[1.58]	0.50	15.6
SS004	a	B4-14	B4-34 長楕円形		<SM013	N-55°-W	7.56	1.22	83.6
SS004	b	B4-15	B4-26 長楕円形			N-54°-W	7.00	0.96	64.0
SS004	c	B4-36	B4-46 長楕円形			N-30°-E	7.62	1.00	71.8
SS004	d	B4-34	B4-45 長楕円形			N-52°-W	6.48	1.08	60.2
SS005	a	B4-37	B4-49 長楕円形		<SD001, <SM013	N-68°-W	6.50	1.15	70.4
SS005	b	B4-49	B4-68 長楕円形			N-28°-E	6.88	1.06	55.2
SS005	c	B4-56	B4-68 長楕円形			N-60°-W	6.74	0.96	63.3
SS005	d	B4-36	B4-56 長楕円形			N-27°-E	6.92	0.98	60.9
SS006	a	B4-55	B4-66 長楕円形		<SM015	N-36°-E	6.30	0.95	52.4
SS006	b	B4-66	B4-76 長楕円形			N-40°-E	[5.64]	0.94	38.5
SS006	c	B4-74	B4-75 長楕円形			N-56°-W	5.26	0.72	26.0
SS006	d	B4-45	B4-55 (長楕円形)			N-37°-E	[2.94]	0.82	25.4
SS007	a	B5-12	B5-14 長楕円形			N-74°-W	9.04	1.08	66.7
SS007	b	B5-25	B5-34 長楕円形			N-19°-E	[5.80]	0.76	15.8
SS007	c	B5-42	B5-44 長楕円形			N-79°-W	[8.44]	1.05	35.7
SS007	d	B5-12	B5-32 長楕円形			N-9°-E	[8.48]	1.00	32.2
SS008	a	A5-77	A5-78 長楕円形			N-82°-E	6.50	[1.44]	45.1
SS008	b	A5-89	A5-99 (長楕円形)			N-4°-W	[4.38]	0.98	37.2
SS008	c	B5-07	B5-09 長楕円形			N-76°-E	5.24	0.92	73.0
SS008	d	A5-86	B5-07 長楕円形			N-9°-W	6.68	0.94	59.8
SS009	c	A5-76	A5-86 (長楕円形)			N-47°-E	[2.88]	0.95	65.8
SS009	d	A5-75	A5-85 (長楕円形)			N-47°-W	[1.74]	1.14	43.2
SS010	a	A4-91	B4-03 長楕円形			N-64°-W	8.34	1.28	65.7
SS010	b	B4-13	B4-23 長楕円形			N-29°-E	7.48	1.10	62.0
SS010	c	B4-20	B4-32 長楕円形			N-63°-W	7.96	1.10	54.5
SS010	d	B3-09	B4-11 長楕円形			N-23°-E	7.14	1.24	56.5
SS011	a	B4-21	B4-32 長楕円形			N-71°-W	4.90	0.80	23.0
SS011	b	B4-32	B4-42 長楕円形			N-8°-E	4.20	0.68	32.5
SS011	c	B4-41	B4-42 長楕円形			N-82°-W	4.78	0.56	28.4
SS011	d	B4-31	B4-41 長楕円形			N-8°-E	3.84	0.60	33.5
SS012	a	B3-55	B3-56 長楕円形			N-87°-E	3.80	0.62	36.0
SS012	b	B3-66	B3-76 長楕円形			N-17°-E	6.14	0.98	55.3
SS012	c	B3-74	B3-85 長楕円形			N-73°-W	4.70	0.84	60.3
SS012	d	B3-55	B3-65 長楕円形			N-8°-E	4.18	0.64	37.3
SS013	a	B4-59	B4-60 長楕円形		<SM007	N-61°-W	5.60	1.08	61.8
SS013	c	B4-69	B5-70 長楕円形			N-59°-W	4.80	0.90	49.0
SS013	d	B4-58	B5-69 長楕円形			N-21°-E	5.46	0.66	47.2
SS014	a	B4-66	B4-79 長楕円形			N-62°-W	8.20	1.50	58.4
SS014	b	B4-89	B4-99 長楕円形			N-38°-E	8.95	1.35	48.3
SS014	c	B4-96	C4-07 楕円形			N-52°-W	4.14	[1.50]	63.0
SS014	d	B4-67	B4-86 長楕円形			N-36°-E	6.04	1.48	54.8
SS015	a	B5-28	B5-38 長楕円形		<SM006	N-64°-E	5.80	1.00	71.5
SS015	b	B5-29	B6-30 長楕円形			N-20°-W	5.86	0.80	44.0
SS015	c	B5-49	B5-59 長楕円形			N-65°-E	5.64	0.86	52.2
SS015	d	B5-47	B5-58 長楕円形			N-27°-W	5.82	1.20	59.0

道橋番号	溝番号	グリッド1	グリッド2	形状	新旧関係	方位	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(cm)
SS016	a	B4-62	B4-73	長楕円形	<SM014・015	N-50°-W	[5.04]	0.82	36.0
SS016	b	B4-73	B4-93	長楕円形		N-33°-E	[7.18]	0.86	47.4
SS016	c	B4-81	B4-92	長楕円形		N-47°-W	[5.18]	0.55	24.5
SS016	d	B4-62	B4-81	長楕円形		N-32°-E	[7.04]	0.72	38.8
SS017	a	C3-84	C3-95	長楕円形	<SM015	N-52°-W	5.58	1.04	30.0
SS017	b	C3-95	C4-05	長楕円形		N-28°-E	5.92	0.98	41.0
SS017	c	C4-03	C4-14	長楕円形		N-60°-W	5.74	0.74	48.6
SS017	d	C3-83	C3-93	長楕円形		N-34°-E	5.60	0.60	31.1
SS018	a	C3-42	C3-44	長楕円形	<SS025, <近世道路	N-68°-W	9.66	[1.98]	105.8
SS018	b	C3-54	C3-73	長楕円形		N-29°-E	11.20	1.18	103.0
SS018	c	C3-61	C3-73	長楕円形		N-62°-W	9.92	1.34	90.0
SS018	d	C3-41	C3-51	長楕円形		N-29°-E	8.60	1.30	67.8
SS019	a	C2-99	D3-01	長楕円形	SS020<, <近世道路	N-72°-W	8.98	1.32	78.7
SS019	b	D3-10	D3-21	長楕円形		N-18°-E	7.60	0.74	31.1
SS019	c	D2-28	D3-29	長楕円形		N-72°-W	8.06	1.20	49.0
SS019	d	D2-08	D2-18	長楕円形		N-24°-E	8.00	1.00	50.8
SS020	a	C3-93	D3-05	長楕円形	<SS019	N-58°-W	[7.16]	1.56	83.6
SS020	b	D3-14	D3-34	長楕円形		N-38°-E	11.54	1.40	77.7
SS020	c	D3-20	D3-33	長楕円形		N-54°-W	[10.60]	1.74	57.0
SS020	d	C3-92	D3-11	長楕円形		N-37°-E	[10.58]	1.58	83.5
SS021	a	C3-64	C3-76	長楕円形	<SS022	N-57°-W	8.15	1.52	78.2
SS021	b	C3-86	D3-06	長楕円形		N-28°-E	[8.38]	[1.86]	57.4
SS021	c	C3-93	D3-05	長楕円形		N-60°-W	[6.20]	0.95	41.4
SS021	d	C3-73	C3-84	長楕円形		N-33°-E	7.48	1.50	46.3
SS022	a	C3-77	C3-99	長楕円形	SS021<	N-60°-W	9.70	1.70	63.8
SS022	b	C4-90	D3-29	長楕円形		N-19°-E	9.86	1.50	81.2
SS022	c	D3-16	D3-28	長楕円形		N-64°-W	9.84	1.72	84.4
SS022	d	C3-86	D3-06	長楕円形		N-22°-E	10.58	1.34	69.9
SS023	a	D3-39	D4-31	長楕円形		N-61°-W	[9.60]	1.40	108.6
SS023	d	D3-37	D3-48	(長楕円形)		N-27°-E	[3.68]	1.28	92.0
SS024	a	C4-92	D4-14	長楕円形	<SM011・019	N-58°-W	10.14	1.46	77.9
SS024	b	D4-14	D4-43	長楕円形		N-25°-E	10.90	1.56	56.0
SS024	c	D4-30	D4-42	長楕円形		N-63°-W	[10.65]	1.55	63.7
SS024	d	C4-91	D4-20	長楕円形		N-25°-E	11.92	1.94	68.3
SS025	a	C3-13	C3-15	長楕円形	SS018<	N-70°-W	7.90	1.74	73.0
SS025	b	C3-25	C3-35	長楕円形		N-18°-E	[6.10]	0.98	54.2
SS025	c	C3-32	C3-44	長楕円形		N-70°-W	7.75	[1.32]	95.4
SS025	d	C3-12	C3-32	長楕円形		N-18°-E	8.00	0.85	70.6
SS026	a	B3-73	B3-85	長楕円形		N-72°-W	7.84	0.96	67.8
SS026	b	B3-95	C3-05	長楕円形		N-16°-E	6.50	0.66	24.4
SS026	c	C3-02	C3-14	長楕円形		N-75°-W	8.10	1.06	44.4
SS026	d	B3-82	B3-92	長楕円形		N-17°-E	7.50	1.24	83.6
SS027	a	C3-48	C3-59	長楕円形	<SS022, >SS028	N-57°-W	7.80	1.40	72.7
SS027	b	C4-60	C3-79	長楕円形		N-33°-E	7.08	1.34	103.0
SS027	c	C3-77	C3-88	長楕円形		N-66°-W	6.60	1.75	82.9
SS027	d	C3-57	C3-67	長楕円形		N-25°-E	7.24	1.42	85.4
SS028	a	C4-50	C4-62	長楕円形		N-61°-W	7.52	1.00	60.7
SS028	b	C4-72	C4-91	長楕円形		N-28°-E	7.90	1.05	70.6
SS028	c	C3-89	C4-90	長楕円形		N-54°-W	6.88	1.24	56.6
SS028	d	C3-69	C3-79	長楕円形		N-36°-E	7.70	0.95	74.0
SS029	a	C4-74	C4-75	(長楕円形)		N-58°-W	[6.34]	1.42	90.1
SS029	b	C4-94	D4-04	(長楕円形)		N-41°-E	[5.80]	0.92	31.0
SS029	c	C4-92	D4-03	長楕円形		N-59°-W	5.76	1.00	47.0
SS029	d	C4-72	C4-82	長楕円形		N-36°-E	7.74	1.50	39.1
SS030	a	A8-35	A8-36	(長楕円形)		N-70°-E	[5.60]	1.28	17.9
SS030	b	A8-47	A8-67	長楕円形		N-15°-W	8.42	2.25	120.5
SS030	c	A8-64	A8-67	長楕円形		N-78°-E	10.82	1.54	111.2
SS030	d	A8-44	A8-64	長楕円形		N-12°-W	7.45	1.76	119.0

遺構番号	溝番号	グッド1	グッド2	形状	新旧関係	方位	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)
SS031	a	A8-58	A9-50	長楕円形		N-84°-E	7.72	1.34	93.5
SS031	b	A9-60	A9-80	長楕円形		N-7°-E	7.24	1.18	76.2
SS031	c	A8-88	A9-80	長楕円形		N-90°-E	[7.54]	1.94	64.4
SS031	d	A8-67	A8-88	長楕円形		N-3°-W	7.40	1.15	127.8
SS032	b	A9-51	A9-61	(長楕円形)		N-41°-E	[1.65]	[0.74]	61.0
SS032	c	A9-60	-	(長楕円形)		N-49°-W	[2.74]	1.28	63.8
SS033	e	A8-62	A8-63	長楕円形		N-87°-W	[4.20]	1.10	55.8
SS033	d	A8-51	A8-61	長楕円形		N-10°-W	[1.45]	0.70	44.5
SS034	a	A8-50	A8-60	(長楕円形)		N-64°-E	[3.00]	0.84	37.3
SS034	b	A8-51	A8-61	長楕円形		N-35°-W	4.38	0.86	34.5
SS034	d	A7-69	A8-70	長楕円形		N-31°-W	3.26	0.78	47.9
SS035	a	C4-43	C4-44	長楕円形		N-63°-W	5.40	1.10	52.4
SS035	b	C4-54	C4-64	長楕円形		N-35°-E	5.38	[0.9]	37.9
SS035	c	C4-51	C4-63	長楕円形		N-62°-W	5.98	0.80	48.7
SS035	d	C4-42	C4-52	長楕円形		N-37°-E	5.70	0.94	59.3
SS036	a	C4-15	C4-26	長楕円形	<SM016・017	N-61°-W	5.60	0.84	41.8
SS036	b	C4-25	C4-36	長楕円形		N-35°-E	4.60	1.14	60.4
SS036	c	C4-33	C4-44	(長楕円形)		N-52°-W	[4.50]	0.85	47.8
SS036	d	C4-14	C4-24	長楕円形		N-37°-E	5.96	0.88	45.5
SS037	a	A6-90	B6-01	長楕円形	<SM006・011	N-61°-E	9.48	1.46	83.5
SS037	b	B6-02	B6-13	長楕円形		N-24°-W	8.00	1.36	83.1
SS037	c	B6-22	B6-32	長楕円形		N-62°-E	8.94	1.20	66.9
SS037	d	B5-19	B6-30	長楕円形		N-26°-W	8.44	1.18	95.9
SS038	a	A6-84	A6-94	長楕円形	<SM004	N-62°-E	6.08	1.50	50.2
SS038	b	A6-95	B6-06	長楕円形		N-27°-W	5.88	1.05	46.7
SS038	c	B6-14	B6-24	長楕円形		N-65°-E	7.20	1.00	47.1
SS038	d	B6-03	B6-13	長楕円形		N-23°-W	7.74	1.06	64.3
SS039	b	A7-62	A7-72	(長楕円形)		N-16°-W	[4.12]	0.85	36.9
SS039	c	A7-81	A7-82	長楕円形		N-75°-E	4.56	0.94	46.2
SS039	d	A6-69	A7-80	長楕円形		N-15°-W	6.46	0.84	57.6
SS040	a	C4-36	C4-48	長楕円形	<SM009・018	N-61°-W	[8.10]	1.38	65.5
SS040	b	C4-48	C4-68	長楕円形		N-36°-E	8.70	1.18	54.8
SS040	c	C4-65	C4-67	長楕円形		N-62°-W	7.12	1.20	57.5
SS040	d	C4-35	C4-55	長楕円形		N-28°-E	8.90	1.34	84.0
SS041	a	C4-18	C4-19	長楕円形	<SM018	N-55°-W	5.82	0.98	51.6
SS041	b	C4-29	C4-39	長楕円形		N-30°-E	6.44	1.00	57.4
SS041	c	C4-37	C4-38	長楕円形		N-63°-W	[7.16]	0.88	25.0
SS041	d	C4-17	C4-27	長楕円形		N-38°-E	5.80	0.66	35.4
SS042	a	A6-77	A6-87	長楕円形	<SM003	N-56°-E	5.62	0.84	57.3
SS042	b	A6-79	A6-89	長楕円形		N-32°-W	5.85	0.88	56.8
SS042	e	A6-98	A6-99	長楕円形		N-58°-E	[4.94]	[0.66]	15.5
SS042	d	A6-96	A6-97	(長楕円形)		N-28°-W	6.08	[0.56]	33.3
SS043	a	D4-16	D4-28	(長楕円形)	<SM011、<近世道路	N-56°-W	[7.00]	1.34	86.5
SS043	b	D4-38	-	不明	<近世道路	N-34°-E	[1.33]	[1.22]	60.0
SS043	c	D4-34	D4-56	長楕円形		N-50°-W	10.04	1.50	73.0
SS043	d	D4-15	D4-35	長楕円形		N-43°-E	9.76	1.70	125.5
SS044	a	C4-87	C4-97	長楕円形	<SM009・010・011	N-46°-W	[2.95]	0.80	46.0
SS044	b	D4-06	D4-17	長楕円形		N-41°-E	[6.55]	0.94	38.5
SS044	c	D4-05	D4-16	長楕円形		N-55°-W	6.08	1.30	71.5
SS044	d	C4-85	C4-95	長楕円形		N-35°-E	6.35	0.90	65.5
SS045	a	B4-96	C4-07	長楕円形	<SM018	N-53°-W	5.06	[1.16]	52.4
SS045	b	C4-17	C4-17	長楕円形		N-30°-E	[4.00]	0.72	23.3
SS045	c	C4-15	C4-26	長楕円形		N-60°-W	[3.60]	0.50	29.0
SS045	d	B4-95	C4-05	長楕円形		N-31°-E	4.52	0.55	33.8
SS046	a	B4-99	B5-90	長楕円形	<近世道路	N-62°-W	[3.95]	1.04	42.1
SS046	b	C5-01	C5-10	長楕円形		N-35°-E	3.90	[1.00]	51.7
SS046	c	C4-08	C4-19	長楕円形		N-60°-W	5.80	0.60	45.5
SS046	d	B4-98	C4-08	長楕円形		N-28°-E	4.60	0.86	47.7

遺構番号	溝番号	グリッド1	グリッド2	形状	新旧関係	方位	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)
SS047	b	A6-72	A6-82	長楕円形	<SM004	N-8°-W	4.30	0.70	28.4
SS047	c	A6-90	A6-92	長楕円形		N-73°-E	4.42	1.06	50.7
SS048	a	C5-02	C5-24	長楕円形	<SM007・010, 墳丘有	N-57°-W	5.30	0.60	20.3
SS048	b	C5-34	C5-54	長楕円形		N-30°-E	6.58	1.25	138.5
SS048	c	C5-40	C5-53	長楕円形		N-58°-W	4.98	0.76	104.5
SS048	d	C5-01	C4-39	長楕円形		N-29°-E	6.60	0.90	90.5
SS049	a	C4-99	D4-09 (長楕円形)		<SM010・011	N-58°-W	[3.70]	[0.85]	20.5
SS049	b	D5-10	D5-20 (長楕円形)			N-33°-E	[4.32]	0.90	34.7
SS049	c	D4-18	D4-29 (長楕円形)			N-59°-W	[5.50]	1.26	42.3
SS049	d	D4-07	D4-17 (長楕円形)			N-30°-E	[2.84]	0.80	18.3
SS050	c	B3-53	B3-64 (長楕円形)			N-85°-E	6.26	0.80	20.5
SS050	d	B3-42	B3-53 (長楕円形)			N-1°-E	5.95	1.50	96.8
SS051	a	C5-50	C5-62 (長楕円形)		<SM010	N-58°-W	[5.00]	1.00	105.2
SS051	b	C5-71	D6-01 (長楕円形)			N-34°-E	6.45	1.30	119.0
SS051	c	C4-87	D6-00 (長楕円形)			N-57°-W	6.34	0.88	99.2
SS051	d	C4-58	C4-78 (長楕円形)			N-32°-E	5.98	0.85	80.3
SS052	a	B5-42	B5-43 (長楕円形)		<SM007	N-85°-W	[6.00]	0.75	35.6
SS052	b	B5-63	B5-74 (長楕円形)			N-20°-E	[8.50]	1.70	109.0
SS052	c	B5-71	B5-73 (長楕円形)			N-80°-W	[7.00]	1.86	130.5
SS052	d	B5-41	B5-61 (長楕円形)			N-17°-E	6.76	1.00	66.7
SS053	a	B5-74	B5-86 (長楕円形)		<SM007	N-54°-W	9.12	1.50	146.5
SS053	b	B5-86	C5-06 (長楕円形)			N-29°-E	[7.64]	1.26	152.5
SS053	c	C5-03	C5-14 (長楕円形)			N-54°-W	[7.30]	1.80	106.5
SS053	d	B5-74	B5-93 (長楕円形)			N-27°-E	10.00	1.78	123.5
SS054	a	B5-82	- (長楕円形)		<SM007	N-79°-W	3.04	0.52	39.0
SS054	b	B5-82	B5-93 (長楕円形)			N-13°-E	3.70	0.66	21.1

第31表 方形周溝墓埋葬施設計測表

遺構	番号等	グリッド1	グリッド2	平面形態	時期	主軸方位	長軸(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
SS005	SK006	B5-23	-	長楕円形	弥生時代中期	N-79°-W	2.19	0.91	17	
SS008	SK005	A5-87	A5-98	長方形	弥生時代中期	N-80°-E	3.11	1.92	76	
SS012	SK023	B3-65	B3-75	隅丸長方形	弥生時代中期	N-84°-E	2.94	1.73	39	
SS015	埋葬施設	B5-38	B5-49	隅丸方形	弥生時代中期	N-64°-E	(1.85)	1.57	41	
SS017	SK043	B4-94	-	長方形	弥生時代中期	N-87°-E	2.36	1.10	26	
SS022	SK047	C3-97	D3-08	隅丸長方形	弥生時代中期	N-35°-E	2.57	1.45	32	
SS024	SK048	D4-12	D4-22	長方形	弥生時代中期	N-35°-E	2.30	1.38	7	
SS027	SK052	C3-58	C3-68	隅丸長方形	弥生時代中期	N-31°-E	2.10	1.18	16	
SS030	埋葬施設	A8-55	A8-65	隅丸方形	弥生時代中期	N-66°-E	2.29	1.15	79	
SS038	埋葬施設	B6-04	-	隅丸長方形	弥生時代中期	N-65°-E	2.12	0.79	78	
SS043	埋葬施設	D4-36	D4-37	隅丸長方形	弥生時代中期	N-39°-E	1.82	0.73	62	
SS048	埋葬施設	C5-32	C5-31	隅丸長方形	弥生時代中期	N-42°-E	1.75	0.61	69	
SS051	第1埋葬施設	C4-79	C4-89	隅丸長方形	弥生時代中期	N-34°-E	2.30	0.94	76	
SS051	第2埋葬施設	C5-69	C5-70	隅丸長方形	弥生時代中期	N-55°-E	1.95	0.94	30	
SS053	埋葬施設	B5-96	B5-86	隅丸長方形	弥生時代中期	N-30°-E	2.13	0.82	63	

第32表 古墳計劃表

古墳	時期	墳形	墳口規模(m)	埋葬施設	種別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	主軸方位
SM001	古墳時代後期	円墳	18.0	第1埋葬施設	木棺直葬	2.53	1.33	14	N-13°-W
				第2埋葬施設	木棺直葬	3.12	0.94	13	N-88°-E
				第3埋葬施設	木棺直葬	4.23	0.75	16	N-83°-E
				第4埋葬施設	木棺直葬	4.03	0.88	17	N-81°-E
				第5埋葬施設	木棺直葬	3.24	0.96	14	N-60°-E
SM003	古墳時代後期	円墳	17.5	第1埋葬施設	木棺直葬	3.55	0.83	16	N-54°-W
				第2埋葬施設	木棺直葬	2.49	0.67	15	N-60°-W
				第3埋葬施設	木棺直葬	3.00	0.72	23	N-85°-W
SM004	古墳時代後期	円墳	23.2	第1埋葬施設	木棺直葬	3.05	0.69	33	N-91°-W
				第2埋葬施設	木棺直葬	2.70	0.73	28	N-90°-W
SM005	古墳時代後期	円墳	20.2	埋葬施設	木棺直葬	-	-	-	-
SM006	古墳時代後期	円墳	13.0	第1埋葬施設	木棺直葬	4.00	0.79	-	N-78°-W
				第2埋葬施設	木棺直葬	2.83	-	-	N-78°-W
				第3埋葬施設	周溝内土坑	2.06	0.63	32	N-88°-W
SM007	古墳時代後期	円墳	23.9	第1埋葬施設	木棺直葬	2.34	0.69	35	N-118°-E
				第2埋葬施設	木棺直葬	2.35	0.69	13	N-115°-E
				第3埋葬施設	周溝内土坑	2.24	1.05	20	N-70°-W
SM009	古墳時代後期	円墳	15.0	埋葬施設	木棺直葬	3.97	1.21	20	N-68°-W
SM010	古墳時代後期	円墳	20.8	第1埋葬施設	木棺直葬	2.78	0.77	54	N-119°-E
				第2埋葬施設	木棺直葬	1.87	0.52	45	N-114°-E
SM011	古墳時代後期	円墳	15.1	埋葬施設	木棺直葬	2.04	1.04	14	N-78°-E
SM012	古墳時代後期	円墳	14.6	-	-	-	-	-	-
SM013	古墳時代後期	方墳	7.1×7.3	-	-	-	-	-	-
SM014	古墳時代後期	円墳	12.4	-	-	-	-	-	-
SM015	古墳時代後期	円墳	10.4	埋葬施設	横穴式木室	2.76	2.10	35	N-8°-W
SM016	古墳時代後期	円墳	8.3	-	-	-	-	-	-
SM017	古墳時代後期	円墳	10.6	-	-	-	-	-	-
SM018	古墳時代後期	方墳	9.6×9.3	埋葬施設	横穴式木室	2.58	1.94	21	N-2°-E
SM019	古墳時代後期	方墳	不明	-	-	-	-	-	-
SM020	古墳時代後期～奈良時代	方墳	4.6	-	-	-	-	-	-
SM021	古墳時代後期～奈良時代	方墳	4.2	埋葬施設	土坑	0.67	0.62	43	N-50°-W
SM022	古墳時代後期	円墳	6.4	-	-	-	-	-	-
SM023	古墳時代後期～奈良時代	方墳	5.7	-	-	-	-	-	-

第33表 土質観察表

調査番号	出土位置	層番号	層名	土質		土質		土質		土質		土質		備考	
				層高	層厚	層高	層厚	層高	層厚	層高	層厚				
RT190001	5	9	粘土層	11.6	-	10.6	10.5	○	黒白土	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	二種類の赤土あり
RT190002	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190003	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190004	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190005	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190006	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190007	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190008	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190009	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190010	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190011	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190012	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190013	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190014	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190015	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190016	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190017	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190018	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190019	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190020	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190021	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190022	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190023	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190024	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	
RT190025	5	10	粘土層	-	-	-	-	○	赤砂	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	2.0X35.0	褐色	

種別番号	出上り種別	種別	種別高	11月1日現在(馬場)		種別		種別高		種別		種別高		種別	種別高
				口数	馬場	種別	種別高	種別	種別高	種別	種別高				
RT190017	SR048	学生上組	競馬→競馬	-	6.0	17.2	17.3	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬
RT190027	SR051	学生上組	競馬→競馬	13.0	3.2	13.6	13.5	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬
RT190028	SR052	学生上組	競馬→競馬	-	6.8	17.8	19.2	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬
RT190029	SR053	学生上組	競馬→競馬	-	6.5	18.0	18.0	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬
RT190031	SR053	学生上組	競馬	17.0	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20101	SR002	学生上組	競馬→競馬	11.0	-	7.3	27.6	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬	競馬→競馬
RT20102	SR002	学生上組	競馬	19.0	-	-	(4.5)	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20103	SR002	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20104	SR002	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20105	SR002	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20106	SR002	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20201	SR003	学生上組	競馬	10.0	3.2	-	5.5	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20202	SR003	学生上組	競馬	13.0	4.2	-	7.6	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20203	SR003	学生上組	競馬	12.3	5.5	-	8.3	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20204	SR003	学生上組	競馬	16.3	7.0	-	12.5	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20205	SR003	学生上組	競馬	-	3.2	-	(4.6)	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20207	SR003	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20208	SR003	学生上組	競馬	-	-	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20209	SR003	学生上組	競馬	4.8	4.2	4.2	5.7	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20210	SR003	学生上組	競馬	-	10.0	-	-	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20211	SR003	学生上組	競馬	-	7.2	-	13.9	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20212	SR003	学生上組	競馬	13.0	6.4	-	14.6	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬
RT20213	SR003	学生上組	競馬	10.0	7.3	-	17.8	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬	競馬

棟号	用途	種別	種別	11年度(平成23年度)		12年度(平成24年度)		13年度(平成25年度)		内 面	外 面	色 調	外 面	内 面	備 考
				日数	面積	日数	面積	日数	面積						
20200101	3004	1・31	土庫	住	10	13.0	0.0	0.0	△	▲	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200102	3004	10	土庫	住居系	155	155	155	155	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200103	3004	20・26・28	土庫	住居系	182	117	182	182	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200104	3004	23	土庫	住居系	40	52	14.0	13.1	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200105	3004	13	土庫	住居系	90	42	6.8	13.6	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200106	3004	1・25	土庫	住居系	117	43	8.1	15.6	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200107	3004	3・11・17・28・24・25	土庫	住居系	50	146	64	127	24.7	26.0	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200108	3004	20・31	土庫	住居系	152	13.6	24.6	23.4	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200109	3004	9	土庫	住居系	138	64	12.1	24.3	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200110	3004	24	土庫	住居系	58	11.0	26.8	22.0	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200111	3004	6・7	土庫	住居系	48	—	14.0	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200112	3004	1・4・25・26	土庫	住居系	130	60.0	10.9	22.6	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200113	3004	11・12	土庫	住居系	162	14.4	24.1	26.1	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200114	3004	15	土庫	住居系	70	—	26.4	22.1	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200115	3005	1・9・10・15	土庫	住居系	178	17.2	14.1	23.7	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200116	3005	1	土庫	住居系	54	10.2	—	3.7	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200117	3005	1	土庫	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200118	3005	1	住居系	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200119	3005	13	土庫	住居系	89	—	13.9	—	△	△	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200120	3005	1	住居系	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200121	3007	1	住居系	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200122	3007	2	住居系	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系
20200123	3007	8	土庫	住居系	—	—	—	—	◎	◎	203061	203061	203061	住居系	住居系

種別番号	出上位置	種別番号	種別	種群	11月25日現在		11月25日現在		種		色	名	備		
					口首	口首	口首	口首	口首	口首				口首	口首
0202002 4	5007	3	上組	雄	口首	-	-	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03925	尻尾色	尻尾色	
0202001 1	5008	6	養生上組	雄	口首	-	6.0	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03925	尻尾色	尻尾色	
0221001 1	5000	14	養生上組	雄	交配の90%	12.0	5.1	11.3	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221002 2	5000	3	養生上組	雌	口首	16.2	6.2	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221003 3	5000	2・13	養生上組	雌	交配の70%	19.6	9.6	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221004 4	5000	10・20	養生上組	雌	口首	9.3	12.6	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221005 5	5000	3・8	養生上組	雄	交配の60%	17.0	8.1	21.1	種文	→ 7才	5Y341	2.03925	尻尾色	尻尾色	
0221006 6	5000	9・10	養生上組	雄	口首	10.4	10.4	10.4	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221101 7	5000	11	養生上組	雄	交配の90%	16.0	5.0	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221102 8	5000	12・19	養生上組	雄	口首	15.4	15.4	20.0	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221103 9	5000	10	養生上組	雄	口首	10.6	10.6	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222101 1	5000	21	養生上組	雄	口首	10.6	10.6	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222102 2	5010	9・11・13・14・20・21	養生上組	雄	交配の80%	10.0	17.9	6.9	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222103 3	5010	6・7	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222104 4	5010	24	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222105 5	5010	27	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0222106 6	5010	25	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0223101 1	5011	4	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0223102 2	5011	8・11	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0223103 3	5011	4	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0223104 4	5011	1・2	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0223105 5	5011	6・8	養生上組	雄	口首	10.3	10.3	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221101 1	5013	22・23・24・25・26	養生上組	雄	口首	14.8	14.8	14.8	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221102 2	5013	3・5・6	養生上組	雄	口首	12.4	12.4	-	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	
0221103 3	5013	3・7・19・21・25	養生上組	雄	口首	16.0	16.0	16.0	種文	→ 7才	5Y341	2.03944	尻尾色	尻尾色	

棟号	用途	種別	構造	11月25日現在、12月現在		状況		竣工		色調		色名		備考		
				日付	面積	外	内	材料	仕上げ	外	内	外	内			
R221001 2	30108	住居上層	鉄	2階	17.4	6.3	-	8.3	1階部分ナシ、2階部分ナシ 5.7ガ、5階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 3	30108	住居上層	鉄	3階	11.0	6.5	-	6.3	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 4	30108	住居上層	鉄	4階	12.4	12.4	-	14.4	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 5	30108	住居上層	鉄	5階	12.8	11.3	-	6.9	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 6	30108	住居上層	鉄	6階	13.1	-	-	13.1	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 7	30108	住居上層	鉄	7階	10.8	-	-	10.8	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 8	30108	住居上層	鉄	8階	13.6	3.4	-	13.0	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 9	30108	住居上層	鉄	9階	17.5	17.5	-	17.5	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 10	30108	住居上層	鉄	10階	18.6	-	-	18.6	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 11	30108	住居上層	鉄	11階	-	-	-	-	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 12	30108	住居上層	鉄	12階	7.6	-	-	7.6	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 13	30108	住居上層	鉄	13階	17.1	11.6	11.6	13.2	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 14	30108	住居上層	鉄	14階	19.7	6.0	-	9.5	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 15	30108	住居上層	鉄	15階	18.1	6.0	-	10.5	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 16	30108	住居上層	鉄	16階	17.0	-	-	16.1	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 17	30108	住居上層	鉄	17階	17.5	15.4	-	13.0	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 18	30108	住居上層	鉄	18階	21.7	6.9	-	22.3	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 19	30108	住居上層	鉄	19階	15.4	6.6	-	16.1	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 20	30108	住居上層	鉄	20階	-	-	-	-	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 21	30108	住居上層	鉄	21階	-	-	-	-	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 22	30108	住居上層	鉄	22階	6.2	-	-	11.3	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 23	30108	住居上層	鉄	23階	-	-	-	14.8	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	
R221001 24	30108	住居上層	鉄	24階	10.6	3.4	-	6.5	1階部分ナシ、2階部分ナシ 1.1ガ、2階部分ナシ	→ナシ	○	黒目△	3Y360 3Y362 3Y354 2Y354	3Y362 3Y362	灰色系～灰色系 灰色系～灰色系	

棟号	用途	種別	種別	11年度(平成22年度)台帳		12年度(平成23年度)台帳		13年度(平成24年度)台帳		14年度(平成25年度)台帳		15年度(平成26年度)台帳		色	内面	備考		
				用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積				用途	面積
R225013	SK015	1・2・3	上層部	敷設 20%	-	-	21.1	15.3	1・2・3	上層部	敷設	20%	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色		
R225014	SK001	101・102	地下1層	壁	壁紙	-	-	6.0	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225015	SK001	65	地下1層	壁	壁紙	-	7.8	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225016	SK004	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03864	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225017	SK004	10・103	地下1層	壁	壁紙	-	(7.7)	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225018	SK004	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225019	SK004	10・117・200	地下1層	壁	壁紙	-	(10.5)	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225020	SK004	14	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225021	SK004	121	地下1層	柱	11層部	-	-	-	-	地下1層	柱	11層部	-	7.03864	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225022	SK004	275	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03864	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225023	SK004	274	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225024	SK004	275・299・300	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	5.03854	7.03855	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225025	SK004	1	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	5.03854	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225026	SK004	253	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225027	SK004	251	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225028	SK004	260	地下1層	壁	11層部	-	-	-	-	地下1層	壁	11層部	-	7.03865	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225029	SK004	10	地下1層	壁	11層部	-	-	-	-	地下1層	壁	11層部	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225030	SK004	5	地下1層	壁	11層部	-	-	-	-	地下1層	壁	11層部	-	7.03864	5.03854	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225031	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	5.0	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03864	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225032	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03864	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225033	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03862	7.03863	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225034	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03864	7.03865	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225035	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03862	7.03863	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225036	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03862	7.03863	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225037	SK005	10	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03862	7.03863	12.01・緑色	12.01・緑色	
R225038	SK005	3	地下1層	壁	壁紙	-	-	-	-	地下1層	壁	壁紙	-	7.03865	7.03864	12.01・緑色	12.01・緑色	

棟号	用途	種別	構造	11年度以前		12年度以降		築年		築年		築年		備考
				日付	面積	日付	面積	日付	面積	日付	面積	日付	面積	
02250125	SA005	壁	耐火付	-	-	-	-	竣工	0	0	0	0	0	12.01.14
02250130	SA005	壁	耐火付	-	-	-	-	竣工	0	0	0	0	0	12.01.14
02250132	SA005	壁	耐火付	-	-	-	-	竣工	0	0	0	0	0	12.01.14
02250136	SA005	壁	耐火付	-	-	-	-	竣工	0	0	0	0	0	12.01.14
02250120	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250130	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250131	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250132	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250133	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250134	SA006	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250135	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250136	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250137	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250138	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250139	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250140	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250141	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250142	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250143	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250144	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250145	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250146	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250147	SA007	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250148	SA009	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14
02250149	SA010	壁	耐火付	-	-	-	-	一部 1.1.14	0	0	0	0	0	12.01.14

第34表 鉄軌計測表

桿形番号	遺構番号	遺物番号	計測部位 全长(mm)	身 部(mm)			軌 枕(mm)			基 部(mm)		備 考			
				長	深	厚	長	幅	厚	長	幅		重		
第229回2	SM000第4埋設階段	929	151.2	27.4	2.4	30.3	2.0	80.9	4.9	1.3	2.5	42.9	5.0	11.25	
第229回3	SM000第4埋設階段	929	145.0	30.6	2.0	9.6	2.1	85.2	4.9	1.4	2.9	27.8	4.4	11.47	
第229回4	SM000第4埋設階段	907, 99, 150, 151	158.5	28.8	1.7	8.7	1.4	86.0	4.4	1.6	2.2	42.1	3.8	10.67	
第229回5	SM000第4埋設階段	929, C	129.9	26.6	1.7	8.1	1.5	94.7	4.6	1.4	3.4	7.2	-	10.34	
第229回6	SM000第4埋設階段	85, 80	121.3	31.0	1.4	8.3	1.8	88.4	6.1	3.0	1.9	6.4	10.77		
第229回7	SM000第4埋設階段	78, 79, 929, 929, 82	172.2	30.1	1.3	8.2	2.1	88.6	5.0	1.2	3.5	52.3	5.9	13.15	
第229回8	SM000第4埋設階段	929, 81, 96	105.3	37.6	-	8.6	2.0	35.9	6.0	-	3.1	31.8	4.9	9.57	
第229回9	SM000第4埋設階段	92A, D, F	片月184.1	44.0	2.5	8.2	2.4	75.4	4.7	-	3.0	64.7	6.0	13.94	
第229回10	SM000第4埋設階段	929, F	片月158.3	33.2	1.5	7.9	2.3	76.6	4.9	1.1	3.2	48.5	3.7	11.37	
第229回11	SM000第4埋設階段	90C	片月 82.6-27.6	30.8	1.4	7.4	2.1	51.8	5.2	-	3.5	27.6	4.2	7.44	2分列
第229回13	SM000第4埋設階段	138	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43.1	2.7	5.28	
第229回14	SM000第4埋設階段	11	92.3	32.0	-	12.7	2.5	5.4	9.3	1.4	3.5	-	-	28.75	摩又溝
第247回2	SM000第3埋設階段	61	61.9	28.5	8.3	17.6	2.1	25.3	6.0	1.3	-	7.0	3.5	6.78	三角形溝
第247回3	SM000第3埋設階段	58	127.4	26.5	1.2	9.1	2.0	73.5	4.7	1.1	3.2	27.4	3.5	11.88	
第247回4	SM000第3埋設階段	51, 57	118.7	36.2	1.4	8.5	1.9	70.1	4.7	0.9	2.5	22.4	3.6	8.91	
第247回5	SM000第3埋設階段	56	103.1	14.5	1.9	7.7	2.0	61.3	4.0	1.5	2.2	27.3	3.4	5.66	
第247回6	SM000第3埋設階段	52, 53, 59	142.8	36.9	1.0	7.2	1.6	82.8	4.9	2.0	2.0	33.1	2.5	9.37	
第247回7	SM000第3埋設階段	54, 55, 56	片月140.3	33.6	2.8	8.9	2.1	71.7	5.5	2.4	3.2	34.8	3.0	11.94	
第264回1	SM000第2埋設階段	19	33.3	30.9	4.4	13.4	1.8	2.4	6.5	-	2.4	-	-	4.42	
第271回2	SM000第2埋設階段	49	74.3	36.6	1.6	21.3	2.0	30.1	5.4	3.2	2.8	7.8	4.3	8.46	三角形溝
第271回10	SM000第2埋設階段	23	111.4(31.5+79.9)	36.0	2.4	13.7	2.0	85.2	6.5	-	4.6	45.7	3.5	16.95	
第271回11	SM000第2埋設階段	23	138.4	36.3	3.0	11.8	2.3	86.4	5.7	1.2	3.5	25.7	3.9	11.38	
第271回12	SM000第2埋設階段	22	107.2	36.7	1.3	11.9	1.8	88.8	5.3	1.6	2.6	11.7	4.3	7.66	
第271回13	SM000第2埋設階段	12	113.2	36.8	1.4	8.2	1.6	98.1	5.4	-	3.2	-	-	7.28	
第271回14	SM000第2埋設階段	22	146.4	12.4	1.4	7.8	2.2	85.5	5.0	1.6	2.7	48.5	3.2	9.41	
第271回15	SM000第2埋設階段	23	123.0	22.9	1.5	8.6	2.0	73.1	4.0	1.5	2.9	27.0	2.7	11.90	
第271回16	SM000第2埋設階段	23	158.0	36.9	1.7	10.4	1.9	96.5	6.0	1.9	2.9	34.6	3.5	9.66	
第271回17	SM000第2埋設階段	23	143.1	29.6	1.5	8.8	2.2	78.0	5.2	1.3	2.7	35.5	3.0	10.52	
第271回18	SM000第2埋設階段	12	118.4	36.2	1.5	7.5	1.8	60.8	3.3	1.2	2.0	31.4	2.7	8.16	
第271回19	SM000第2埋設階段	20, 21	121.7	15.0	1.4	7.8	1.7	61.1	4.9	1.6	2.9	45.6	2.9	9.97	
第271回20	SM000第2埋設階段	12	154.2	30.5	1.7	7.5	1.6	79.7	5.5	1.2	2.8	44.0	1.4	11.29	
第271回21	SM000第2埋設階段	12	144.8	28.2	1.6	9.6	1.8	90.2	4.5	1.5	2.5	26.4	2.9	12.83	
第271回22	SM000第2埋設階段	12	128.9	27.1	1.4	6.9	2.0	82.9	4.6	1.3	2.6	18.9	2.6	9.36	
第271回23	SM000第2埋設階段	12	160.0	29.2	1.5	7.0	1.7	81.4	4.5	0.9	2.6	40.4	2.2	10.57	
第271回24	SM000第2埋設階段	12	156.8	28.0	0.8	6.0	1.7	85.6	4.1	1.6	3.2	43.2	3.3	11.14	
第271回25	SM000第2埋設階段	12	172.8	28.8	1.9	6.0	1.7	94.2	3.9	1.7	2.0	49.8	2.2	13.10	
第271回26	SM000第2埋設階段	13	22.4	-	-	-	-	22.4	3.2	-	2.0	-	-	1.00	
第271回27	SM000第2埋設階段	23	33.6	-	-	-	-	-	-	-	-	33.6	1.4	1.46	
第271回28	SM000第2埋設階段	17	14.8	-	-	-	-	-	-	-	-	14.8	1.2	0.19	
第283回1	SM010第2埋設階段	36, 38, 55	91.2	21.7	3.7	13.2	2.1	58.7	3.4	2.1	1.9	10.8	3.6	6.02	
第283回2	SM010第2埋設階段	68	113.5	17.2	3.4	11.0	1.8	87.2	4.7	1.4	2.1	9.1	4.0	6.01	
第283回3	SM010第2埋設階段	3	42.1	22.7	1.3	9.5	1.8	19.4	4.9	-	2.5	-	-	2.33	
第283回4	SM010第2埋設階段	67	81.6	22.8	1.0	8.6	1.9	58.8	4.8	-	3.1	-	-	8.04	
第283回5	SM010第2埋設階段	43	91.2	38.5	1.2	7.9	1.6	62.7	3.7	-	2.9	-	-	6.25	
第283回6	SM010第2埋設階段	13	21.3	21.5	-	10.7	1.7	-	-	-	-	-	-	0.79	
第283回7	SM010第2埋設階段	73	110.6	28.3	1.2	7.5	1.9	78.3	3.2	1.0	2.3	7.0	3.3	5.39	
第283回8	SM010第2埋設階段	57, 60, 67, 75	138.4	27.5	1.1	9.6	1.8	92.4	4.2	2.1	2.3	18.5	2.8	8.93	
第283回9	SM010第2埋設階段	25, 71	136.9	37.6	1.0	9.1	1.7	78.3	3.5	2.0	2.5	31.0	1.4	7.24	
第283回10	SM010第2埋設階段	74	137.4	25.8	1.3	7.5	2.0	82.7	4.6	2.1	3.2	28.9	4.1	10.06	
第283回11	SM010第2埋設階段	34, 42	92.3	5.7	1.4	7.2	1.7	65.6	3.9	1.9	2.9	21.0	4.0	6.16	
第283回12	SM010第2埋設階段	24	31.9	26.1	1.5	8.3	1.7	5.8	5.1	-	2.8	-	-	3.17	
第283回13	SM010第2埋設階段	58, 69	37.3	26.1	1.5	8.2	1.7	11.2	4.8	-	2.3	-	-	1.75	
第283回14	SM010第2埋設階段	22	33.8	29.5	1.4	8.1	1.7	4.3	4.9	-	2.2	-	-	3.97	
第283回15	SM010第2埋設階段	14, 15	93.7	27.1	1.4	7.2	1.7	66.6	3.7	-	2.3	-	-	4.92	
第283回16	SM010第2埋設階段	27, 28	95.6	27.9	1.0	9.5	1.7	64.7	3.6	-	2.7	-	-	5.61	
第283回17	SM010第2埋設階段	59, 70	82.6	-	-	-	-	54.0	4.5	1.1	2.1	28.6	3.4	4.36	
第283回18	SM010第2埋設階段	35, 10	75.9	-	-	-	-	40.7	3.7	1.3	2.5	32.2	1.6	3.31	
第283回19	SM010第2埋設階段	18, 35, 37	60.2	-	-	-	-	34.8	4.2	1.7	2.2	25.4	4.0	2.72	
第283回20	SM010第2埋設階段	15, 65	37.7	-	-	-	-	37.7	5.2	-	2.4	-	-	1.51	
第283回21	SM010第2埋設階段	5	52.1	-	-	-	-	52.1	4.3	-	1.8	-	-	1.23	
第283回22	SM010第2埋設階段	67	57.9	26.7	1.2	8.0	1.8	31.2	4.0	-	2.4	-	-	3.62	泰目あり
第283回23	SM010第2埋設階段	4, 11	69.8	27.7	0.9	9.0	1.9	42.1	4.0	-	2.7	-	-	3.90	
第283回24	SM010第2埋設階段	18, 32, 43, 45	117.1	27.1	1.0	8.3	1.8	65.9	4.1	-	2.6	24.1	4.0	8.24	
第283回25	SM010第2埋設階段	61, 66	112.7	28.2	1.5	9.7	1.8	58.4	3.7	-	1.7	26.1	2.2	8.89	
第283回26	SM010第2埋設階段	33, 41, 44, 46	133.0	29.6	1.9	7.9	1.6	78.4	3.2	-	2.6	25.0	3.0	6.84	
第283回27	SM010第2埋設階段	72, 73	118.3	30.3	1.2	8.5	1.8	77.9	3.6	-	2.4	10.1	3.9	6.42	
第283回28	SM010第2埋設階段	8, 9, 21	151.2	25.9	1.2	7.6	1.9	78.5	2.5	-	2.1	46.8	1.7	7.08	
第283回29	SM010第2埋設階段	18, 67	146.7	30.3	1.4	7.7	1.5	82.9	4.1	-	2.6	34.3	4.8	6.39	
第283回30	SM010第2埋設階段	7, 12, 23, 27	165.1	27.1	1.3	8.8	1.6	107.6	3.3	1.5	1.9	30.1	3.2	7.74	
第283回31	SM010第2埋設階段	72, 73	142.2	38.1	1.5	9.9	1.7	75.1	3.7	1.1	2.5	38.0	3.1	5.73	
第283回32	SM010第2埋設階段	32, 62, 63, 64	142.2	27.0	1.4	8.0	1.7	95.9	4.4	-	2.0	19.3	2.9	5.25	
第283回33	SM010第2埋設階段	62	108.1	-	-	-	-	68.4	3.8	-	2.2	30.7	2.9	5.18	
第283回34	SM010第2埋設階段	56	159.3	19.3	-	-	-	117.6	3.2	1.3	2.2	22.5	4.0	5.97	
第283回35	SM010第2埋設階段	7, 8, 12	148.2	-	-	-	-	102.1	4.5	1.9	2.6	46.1	3.1	9.73	
第283回36	SM010第2埋設階段	5	20.0	-	-	-	-	20.0	3.5	-	2.1	-	-	0.64	

押固番号	遺構番号	遺物番号	計測部位 全長(mm)	身 部(mm)			端状部(mm)			突起部(mm)		重量 (g)	備 考	
				長	深埋部	最大幅	長	幅	突起部	厚	長			幅
第283図37	SM010第2埋葬施設	12, 17	75.9	-	-	-	-	33.6	4.8	1.4	2.6	42.3	3.4	3.47
第283図38	SM010第2埋葬施設	31, 47	62.0	-	-	-	-	17.9	4.3	1.5	2.9	44.0	3.7	1.81
第283図39	SM010第2埋葬施設	16, 49	67.9	-	-	-	-	67.9	4.3	-	2.3	-	-	3.53
第283図40	SM010第2埋葬施設	6	43.9	-	-	-	-	43.9	4.3	-	2.3	-	-	2.78
第283図41	SM010第2埋葬施設	52	48.5	-	-	-	-	-	-	-	-	48.5	3.3	1.50
第283図42	SM010第2埋葬施設	40, 54	45.7	-	-	-	-	-	-	-	-	45.7	3.1	2.18
第283図43	SM010第2埋葬施設	48	22.5	-	-	-	-	-	-	-	-	22.5	4.3	0.70
第298図1	SM015支室内	7, 8, 10	片月150.4	19.5	1.6	6.8	2.2	88.2	5.0	1.9	3.3	42.7	3.7	13.35
第298図2	SM015支室内	6, 11	147.7	18.0	1.6	6.1	2.0	84.0	4.6	1.8	2.9	45.7	3.1	11.22
第298図3	SM015支室内	3	片月143.0	16.7	1.9	6.3	1.9	86.0	4.2	1.5	2.4	40.3	3.0	9.02
第298図4	SM015支室内	7, 10	片月144.4	15.8	2.0	6.6	1.9	87.6	4.1	1.8	2.5	41.0	3.4	7.71
第298図5	SM015支室内	4	片月66.3	17.8	2.0	5.8	1.7	48.5	4.2	-	2.4	-	-	3.56
第298図6	SM015支室内	5	45.7	-	-	-	-	29.9	4.4	1.6	3.7	15.8	3.1	3.74
第298図7	SM015支室内	10	122.1	-	-	-	-	87.2	4.7	1.6	2.3	34.9	3.8	7.24
第305図2	SM018支室内	214	156.2	9.8	-	6.2	1.1	102.9	4.6	1.6	2.9	42.5	3.8	9.39
第305図3	SM018支室内	215	28.2	8.3	-	5.6	1.2	19.9	4.0	-	2.1	-	-	1.22
第305図4	SM018支室内	215	68.5	-	-	-	-	49.6	3.0	2.7	2.8	18.9	3.4	3.92

第35表 耳環計測表

押固番号	遺構番号	遺物番号	外径 (mm)	内径 (mm)	長(mm)			幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備 考
					大	中	小				
第239図12	SM001第1埋葬施設	68	22.5	16.0	17.0	11.4	7.9	3.6	3.6	0.93	3片
第255図1	SM004第1埋葬施設	一括	-	-	12.9	10.3	9.7	3.8	3.1	0.66	3片
第255図2	SM004第1埋葬施設	一括	-	-	10.1	9.7	6.4	3.1	2.0	0.39	3片
第285図1	SM010第1埋葬施設	2	-	-	12.2	10.9	-	4.9	3.6	1.42	2片
第285図2	SM010第1埋葬施設	1	-	-	20.5	-	-	5.0	3.9	1.73	
第285図3	SM010第2埋葬施設	4	-	-	19.5	-	-	4.9	3.9	1.23	
第285図4	SM010第1埋葬施設	5	-	-	10.4	-	-	4.5	3.6	0.32	

第36表 鉄釘計測表

押固番号	遺構番号	遺物番号	外径 (mm)	内径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
第255図3	SM004第1埋葬施設	191,202,222	67.8	60.5	3.5	2.3	8.52

第37表 鉄釘計測表

押固番号	遺構番号	遺物番号	全長 (mm)	釘部 (mm)	頭 部(mm)			重量 (g)
					長	幅	厚	
第239図16	SM001	31	131.2	124.7	5.9	13.9	14.9	32.55

第38表 大刀・小刀計測表

押込番号	遺構番号	遺物番号	本体 (mm)	刀 身 (mm)			茎 部 (mm)			鞘 (mm)			目釘孔径 (mm)	
				長	短	厚	長	短	厚	外径	内径	厚	外径	長
第239図1	SM001 第4埋葬施設	大刀	188	330.5 大265 小240	447.0 大68 小65	83.5 大125 小100	大42~28 小27~20	49.8 × 44.5	23.8 × 17.5	3.5	29.8 × 22.8	14.0	3.5 × 3.5	35.0
第247図1	SM003 第1埋葬施設	小刀	49	379.5 大290 小232	293.7 大70 小60	85.8 大20.0 小13.5	大6.0~3.5 小3.5~2.8	—	—	—	—	—	—	—
第271図1	SM007 第2埋葬施設	大刀	25	726.0 大30.8 小28.4	380.0 大7.4 小6.6	137.0 大17.8 小17.8	4.3~2.0	68.9 × 58.2	30.5 × 21.0	4.2	33.0 × 24.0	12.5	5.6 × 3.2 4.8 3.0 × 4.0	34.3
第284図45	SM010 第2埋葬施設	大刀	29	611.0 大35.4 小22.5	335.4 大7.4 小6.5	58.0 大14.0 小14.0	3.6~2.3	54.0 × 43.6	25.2 × 18.0	2.9	31.2 × 21.5	13.2	3.2	—

第39表 刀子計測表

押込番号	遺構番号	遺物番号	計測部位 全長(mm)	刃 部 (mm)			茎 部 (mm)			重量 (g)	備 考
				長	幅	厚	長	幅	厚		
第239図15	SM001 第3埋葬施設	157	120.1	85.3	A 7.7 B14.5	1.8 3.7	34.8	6.3	3.4	19.72	
第247図8	SM003 第3埋葬施設	60	120.7	79.5	A10.3	2.8	40.0	B8.3 C5.6	2.8~2.4 2.7~2.6	11.35	
第247図9	SM003 第1埋葬施設	50	150.5	89.7	A 9.4 B11.5	2.2 2.5	54.4	6.7	2.7	24.77	
第255図4	SM004 第1埋葬施設	239	143.8	102.7	11.0	2.5	71.6	5.1	2.4	19.49	
第271図3	SM007 第2埋葬施設	12-2, 14,14-2	122.0	72.5	7.4	2.5	49.5	5.8	3.2~2.5	21.82	
第271図4	SM007 第2埋葬施設	24	95.5	53.5	13.0	3.5	41.3	7.1	3.3~2.5	13.36	
第271図5	SM007 第2埋葬施設	16	100.6	59.7	9.9	2.6	40.3	3.7	2.1~1.7	15.33	
第271図6	SM007 第2埋葬施設	26	106.5	64.3	11.0	3.5	40.1	7.5	3.6~2.5	12.31	
第271図7	SM007 第2埋葬施設	24	136.9	88.7	12.1	3.6	48.0	6.3	3.5~2.5	17.29	
第271図8	SM007 第2埋葬施設	15	114.4	103.7	A 9.8 B13.6	3.1 3.3	9.8	9.3	3.1~1.9	14.45	
第271図9	SM007 第2埋葬施設	19	124.4	75.2	14.9	3.3	48.8	A10.0 B6.0	3.2~2.5 3.6~2.7	17.25	
第298図8	SM015 玄室内	2,10	60.3	26.2	7.4	2.1	34.1	—	—	4.42	
第298図9	SM015 玄室内	1	74.5	17.0	8.5	2.3	37.5	6.7	2.4	7.48	
第305図1	SM018 玄室内	213	200.3	106.6	13.5	3.9	93.7	8.5	5.3~3.7	40.41	

第40表 帯金具計測表

押込番号	遺構番号	遺物番号	長 (mm)		幅 (mm)		厚 (mm)		重量 (g)
			長	短	最大	最小	大	小	
第264図2	SM006	21	49.8	43.2	5.7	3.8	3.5	2.8	12.60

第41表 その他の鉄製品計測表

押込番号	遺構番号	遺物番号	種 別	長 (mm)	最大幅 (mm)	最小幅 (mm)	最大厚 (mm)	最小厚 (mm)	重量 (g)
第314図3	D4-03	3	棒状鉄製品	23.5	4.4	—	3.7	—	1.88
第314図4	A2-58	3	不明鉄製品	32.7	19.3	7.5	3.1	—	5.88
第314図5	C5-25	2	釵	94.3	22.0	14.6	11.3	3.4	72.91

第42表 鉄滓観察表

押固番号	造構番号	遺物番号	種別	遺存度	計測値(mm)			色調		色名		備考
					長さ	幅	厚み	外面	内面	外面	内面	
第283図44	SM010	5	碗形鍛冶滓	小破片	[28.8]	[46.9]	16.0	7.5YR4/1	7.5YR4/1	桃灰色	桃灰色	薄手の碗形滓

第43表 煙管計測表

押固番号	造構番号	遺物番号	計測部位 全長(mm)	円頭部(mm)		棒状部(mm)		重量(g)
				長	幅	長	幅	
第314図1	SM004	17	44.6	16.7	15.7	27.9	11.1	8.47
第314図2	D4-G3	3	全長	最大幅	最大厚	最小幅	最小厚	重量
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	
			62.1	10.0	9.6	4.5	3.9	4.85

第44表 鏡貨計測表

押固番号	造構名等	出土地区	遺物番号	鏡種	外縁外形 (mm)	外縁内径 (mm)	内部外形 (mm)	内部内径 (mm)	外縁厚 (mm)	内面厚 (mm)	量目 (g)	備考
第314図6	SM001	2区表土	037	祥符元寶	24.81	19.29	7.66	6.55	0.95	0.7	1.8	1/4欠損
第314図7	SM001		034	寛永通寶	24.75	20.27	7.45	5.66	1.45	0.85	3.3	背面に「文」字
第314図8	SM001		054	寛永通寶	25.21	19.84	7.32	5.57	1.25	0.78	3.32	背面に「文」字
第314図9	SM010		007	大観通寶	24.39	21.47	7.86	6.52	1.15	0.46	1.9	1/8欠損
第314図10	SM010		007	寛永通寶	23.02	18.69	7.31	6.39	0.89	0.75	1.9	
第314図11	SM010		023	寛永通寶	(22.65)	18.05	7.82	6.84	0.96	0.78	1.65	全体に摩滅
第314図12	SM011	2区	003	寛永通寶	24.45	19.29	7.1	6.18	1.31	0.82	3.33	
第314図13	遺跡一括		遺跡一括	文久永立	26.65	20.67	8.85	7.25	1.02	0.59	3.08	背面に十一波文

玉類計測表凡例

(1) 色調

材質	色調	備考	マンセル記号
ガラス	藍色 ディープブルー		3.5PB2.5/5.0
ガラス	暗い青 ダークブルー		1.5PB3.5/3.5
ガラス	緑味青 グリーニッシュブルー	透明度高い	6.0PB4.0/5.0
ガラス	青 ブルー		2.5PB4.0/8.0
ガラス	濃い緑味青 マリンブルー		7.5B3.0/4.0
ガラス	青緑 ヒーコックグリーン	透明度高い	6.5BG4.5/8.5
ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い	10.0BG5.5/5.5
ガラス	にぶ青緑 ウォーターフォール	透明度高い	1.5B5.0/4.0
ガラス	緑 マカライトグリーン		2.0G5.0/6.0
ガラス	青み緑 ビリジアン	マカライトに近い	10.0G5.0/6.0
ガラス	明るい青緑 ヴェニスグリーン	透明度高い	10.0BG6.0/6.0
ガラス	うす青緑 ターコイズグリーン		5.0BG7.5/3.5
ガラス	うす緑青		10.0BG7.0/5.0
ガラス	灰色黄緑 松葉色		7.5GY5.0/4.0
ガラス	にぶ黄緑 ヒーグリーン		6.5GY6.0/5.0
ガラス	うす緑 ベイルグリーン		7.5GY7.5/3.5
ガラス	緑 グリーン		4.0G5.0/10.0
ガラス	うす黄茶 ストロウ		5.0Y7.5/5.5
碧玉	暗い緑 ジャングルグリーン		5.0G3.0/2.5
滑石	明るい茶灰		1.0Y6.5/2.0
蛇紋岩	黒		N1.0
瑪瑙	茶～黄茶		5.0YR4.5/5.5~ 2.5Y6.5/4.0
緑色凝灰岩	明るい緑味灰 アッシュグレー		2.0G7.0/1.0
水晶	無色透明		-
琥珀	赤茶 くり皮色		5.0R2.5/7.5
埋れ木	茶灰 砂色		7.5YR2.5/0.5
土	暗い黄色 セビア		7.5YR3.0/1.0

(2) 計測値が同じ値の場合は空欄とする

(3) 破損、欠損が著しく計測できない場合は—で表示

第45表 玉附計測表

種回番号	遺構名	遺構番号	枝番号	種別	最大値 (mm)	最小値 (mm)	孔径 最大値 (mm)	孔径 最小値 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	色調	備考
第240回2	SMF01 第3埋跡段	122		均玉	32.17	18.01	3.26	1.40	10.24	7.29	銅器	茶～黄茶	
第240回3	SMF01 第3埋跡段	121		均玉	31.62	20.03	3.30	1.35	9.28	7.31	銅器	茶～黄茶	
第240回4	SMF01 第3埋跡段	069		均玉	25.34	13.92	3.50	2.40	9.92	4.30	水磨	黒色透明	
第240回5	SMF01 第3埋跡段	073		均玉	16.91	11.91	2.50	2.10	13.10	1.69	埋木	黒色	
第240回6	SMF01 第3埋跡段	105		均玉	15.71	11.48	2.49	1.97	9.72	1.26	埋木	茶灰 褐色	
第240回7	SMF01 第3埋跡段	071		小玉	8.93	7.98	2.17	1.90	6.41	0.70	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回8	SMF01 第3埋跡段	072		小玉	8.56	8.34	2.88	2.30	6.16	0.38	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回9	SMF01 第3埋跡段	065		小玉	7.60	7.02	1.25	—	3.59	0.45	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回10	SMF01 第3埋跡段	067		小玉	8.50	7.80	1.65	1.40	6.18	0.62	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回11	SMF01 第3埋跡段	098		小玉	8.29	7.67	2.29	2.10	3.60	0.30	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回12	SMF01 第3埋跡段	099		小玉	7.95	7.56	2.44	1.93	6.14	0.54	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回13	SMF01 第3埋跡段	100		小玉	8.78	8.48	1.92	1.84	3.04	0.33	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回14	SMF01 第3埋跡段	101		小玉	8.71	8.29	1.94	1.54	3.06	0.34	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回15	SMF01 第3埋跡段	102		小玉	8.29	7.83	1.38	1.26	2.21	0.72	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回16	SMF01 第3埋跡段	104		小玉	8.63	7.81	1.51	1.32	2.05	0.69	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回17	SMF01 第3埋跡段	108		小玉	9.52	7.29	1.47	—	6.73	0.70	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回18	SMF01 第3埋跡段	109		小玉	8.52	7.53	1.47	—	6.66	0.60	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回19	SMF01 第3埋跡段	110		小玉	6.52	6.24	1.44	—	6.17	0.38	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回20	SMF01 第3埋跡段	111		小玉	7.60	7.23	1.94	1.63	5.47	0.41	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回21	SMF01 第3埋跡段	112		小玉	8.68	8.01	1.14	—	5.88	0.60	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回22	SMF01 第3埋跡段	118		小玉	8.91	7.40	2.58	1.59	2.21	0.94	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回23	SMF01 第3埋跡段	119		小玉	8.70	7.96	1.70	1.42	4.22	0.72	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回24	SMF01 第3埋跡段	120		小玉	7.11	6.90	1.73	1.47	6.52	0.30	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回25	SMF01 第3埋跡段	127		小玉	8.25	7.49	1.76	1.52	6.62	0.40	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回26	SMF01 第3埋跡段	124		小玉	8.50	8.24	1.70	1.56	5.66	0.50	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回27	SMF01 第3埋跡段	124		小玉	9.04	8.14	2.10	1.56	6.79	0.70	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回28	SMF01 第3埋跡段	126		小玉	6.90	6.57	1.68	1.41	4.73	0.72	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回29	SMF01 第3埋跡段	130		小玉	9.87	9.07	1.97	1.84	6.93	0.94	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回30	SMF01 第3埋跡段	133		小玉	8.41	7.90	1.67	1.62	5.22	0.53	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回31	SMF01 第3埋跡段	134		小玉	8.34	8.04	1.90	1.82	5.84	0.61	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回32	SMF01 第3埋跡段	136		小玉	8.93	8.78	2.41	2.06	2.91	0.82	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回33	SMF01 第3埋跡段	138		小玉	8.67	8.17	2.69	1.70	2.56	0.76	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回34	SMF01 第3埋跡段	152		小玉	8.49	8.03	1.92	1.66	6.50	0.63	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回35	SMF01 第3埋跡段	152		小玉	7.34	7.26	1.84	—	4.78	0.37	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回36	SMF01 第3埋跡段	155		小玉	7.60	7.42	2.10	1.60	6.96	0.51	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回37	SMF01 第3埋跡段	156		小玉	9.10	8.55	2.40	1.76	3.01	0.60	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回38	SMF01 第3埋跡段	160		小玉	8.68	7.53	1.40	1.33	6.86	0.69	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回39	SMF01 第3埋跡段	181		小玉	7.08	6.44	1.90	1.65	3.40	0.38	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第240回40	SMF01 第3埋跡段	086		小玉	8.30	8.12	1.78	1.49	5.74	0.40	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第241回41	SMF01 第3埋跡段	093		小玉	3.86	3.67	1.11	1.11	2.76	0.40	ガラス	青み緑 ヒリジアン	マカイトに混い
第241回42	SMF01 第3埋跡段	113		小玉	2.66	2.56	1.21	0.94	1.59	0.01	ガラス	暗い青 カークブル	
第241回43	SMF01 第3埋跡段	114		小玉	2.76	2.60	1.35	0.98	1.19	0.01	ガラス	暗い青 カークブル	
第241回44	SMF01 第3埋跡段	115		小玉	2.83	2.70	1.10	0.90	1.87	0.02	ガラス	黒色 テーブルガラス	
第241回45	SMF01 第3埋跡段	116		小玉	2.77	2.70	1.20	0.95	1.87	0.03	ガラス	暗い青 カークブル	
第241回46	SMF01 第3埋跡段	117		小玉	3.75	3.57	1.40	1.21	2.30	0.04	ガラス	に赤黄緑 シーグリーン	透明度高い

種別番号	遺構名	柱番号	種別	径 最大値 最小値	厚 (mm)	質量 (kg)	材質	色調	備考
第241図47	第3埋納施設	125	小玉	286 —	0.94	1.27	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図48	第3埋納施設	126	小玉	280 2.62	0.87	1.66	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図49	第3埋納施設	129	小玉	3.07 —	0.71	1.64	ガラス	にぶ青緑 ターナブル	透明度高い
第241図50	第3埋納施設	131	小玉	4.31 4.16	1.32	2.20	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	117より緑味が強い
第241図51	第3埋納施設	132	小玉	3.49 2.90	1.06	0.90	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図52	第3埋納施設	135	小玉	2.89 —	0.79	2.02	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図53	第3埋納施設	136	小玉	3.70 3.51	1.07	1.78	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図54	第3埋納施設	154	小玉	2.60 2.50	0.79	1.53	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図55	第3埋納施設	170	小玉	3.55 3.17	0.77	2.80	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図56	第3埋納施設	171	小玉	2.88 —	0.77	1.89	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図57	第3埋納施設	182	小玉	2.80 2.66	0.96	1.75	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図58	第3埋納施設	176	小玉	3.30 —	0.99	1.42	ガラス	にぶ青緑 ターナブル	透明度高い
第241図59	第3埋納施設	074	小玉	4.69 4.44	0.95	2.43	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図60	第3埋納施設	075	小玉	4.24 3.59	1.23	2.06	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図61	第3埋納施設	076	小玉	3.82 3.80	0.98	2.52	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図62	第3埋納施設	077	小玉	5.07 4.96	1.58	4.20	ガラス	藍色 ターナブル	やや明るい
第241図63	第3埋納施設	083	小玉	3.77 —	0.94	2.44	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図64	第3埋納施設	084	小玉	4.12 3.88	1.29	2.79	ガラス	青緑 ビーコックグリーン	透明度高い
第241図65	第3埋納施設	087	小玉	4.19 —	1.20	2.91	ガラス	暗い青 ターナブル	
第241図66	第3埋納施設	141	小玉	3.88 3.37	1.28	2.88	ガラス	青緑 ビーコックグリーン	透明度高い
第241図67	第3埋納施設	142	小玉	4.78 4.56	2.01	3.21	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図68	第3埋納施設	143	小玉	4.75 4.52	1.41	3.04	ガラス	青緑 ビーコックグリーン	透明度高い
第241図69	第3埋納施設	144	小玉	4.16 3.96	1.40	2.46	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図70	第3埋納施設	145	小玉	4.20 3.92	1.25	2.95	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図71	第3埋納施設	146	小玉	3.23 —	1.11	2.08	ガラス	緑 ヲカイトグリーン	透明度高い
第241図72	第3埋納施設	147	小玉	4.26 4.10	1.32	2.89	ガラス	青み緑 ヒリシヤ	マカイトに近い
第241図73	第3埋納施設	149	小玉	3.31 —	0.96	2.34	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図74	第3埋納施設	158	小玉	4.27 4.19	1.25	2.58	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図75	第3埋納施設	158	小玉	4.27 4.19	1.25	2.58	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図76	第3埋納施設	159	小玉	3.65 3.53	1.09	3.36	ガラス	明るい青緑 ヲカイトグリーン	透明度高い
第241図77	第3埋納施設	161	小玉	4.75 4.52	1.27	2.84	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図78	第3埋納施設	162	小玉	3.64 —	1.25	2.43	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図79	第3埋納施設	163	小玉	3.30 —	0.97	2.64	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図80	第3埋納施設	164	小玉	3.21 —	1.21	2.04	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図81	第3埋納施設	164	小玉	3.89 —	(1.41)	(1.41)	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図82	第3埋納施設	172	小玉	3.77 3.57	1.35	1.04	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図83	第3埋納施設	172	小玉	3.97 —	1.33	2.89	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図84	第3埋納施設	174	小玉	3.71 3.58	1.22	2.43	ガラス	暗い青 ターナブル	透明度高い
第241図85	第3埋納施設	175	小玉	3.74 —	0.94	2.34	ガラス	暗い青 ターナブル	透明度高い
第241図86	第3埋納施設	176	小玉	3.72 —	1.21	3.60	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図87	第3埋納施設	178	小玉	4.50 4.29	1.51	3.14	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図88	第3埋納施設	179	小玉	3.85 —	1.23	2.87	ガラス	にぶ青緑 シーグリーン	透明度高い
第241図89	第3埋納施設	180	小玉	3.89 3.48	1.22	2.44	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図90	第3埋納施設	186	小玉	(4.50) 2.30	(0.91)	(2.50)	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図91	第3埋納施設	186	小玉	3.60 —	1.21	2.30	ガラス	藍色 ターナブル	透明度高い
第241図92	第3埋納施設	187	小玉	8.50 6.82	1.50	6.00	ガラス	藍色 ターナブル	
第241図93	第3埋納施設	188	小玉	2.50 1.99	0.98	1.70	ガラス	藍色 ターナブル	一括出土品

種別番号	遺構名	遺物番号	枝番号	種別	径	孔径	厚	重量	材質	色調	備考
第256区1	第3埋納施設	070		小玉	—	—	—	0.35	ガラス	藍色	ガラス・透明・柱間不可
第256区2	第4埋納施設	177		小玉	—	—	—	—	ガラス	暗い青	0.01g以下 表面不規
第256区3	第1埋納施設	160		小玉	3(3.5)	1(1.76)	—	(0.10)	瑪瑙	にぶ黄緑	透明度高い 表面不規
第256区4	第1埋納施設	237		小玉	33.52	19.10	2.82	10.26	7.88	瑪瑙	
第256区5	第1埋納施設	238		小玉	32.36	18.43	3.18	8.78	6.47	瑪瑙	
第256区6	第2埋納施設	253		小玉	30.47	17.75	3.13	9.31	6.51	瑪瑙	
第256区7	第1埋納施設	176		切子玉	21.27	11.17	3.41	12.88	3.92	水晶	
第256区8	第1埋納施設	186		黄玉	15.58	9.58	3.26	9.19	0.94	瑪瑙	
第256区9	第1埋納施設	198		黄玉	15.42	8.86	3.97	2.76	10.05	瑪瑙	
第256区10	第1埋納施設	243		黄玉	15.36	8.97	3.28	2.29	8.02	瑪瑙	
第256区11	第1埋納施設	211		黄玉	12.75	9.28	3.29	2.15	2.27	瑪瑙	
第256区12	第1埋納施設	175		黄玉	9.48	7.77	1.93	1.45	5.75	瑪瑙	
第256区13	第1埋納施設	178		黄玉	8.15	7.56	2.41	1.60	7.47	瑪瑙	
第256区14	第1埋納施設	169		黄玉	19.65	7.15	3.05	7.32	1.26	瑪瑙	
第256区15	第1埋納施設	171		黄玉	18.77	4.72	2.08	1.71	4.82	瑪瑙	
第256区16	第1埋納施設	194		黄玉	16.77	4.01	1.68	1.18	4.06	瑪瑙	
第256区17	第1埋納施設	170		小玉	4.80	—	1.01	—	3.22	瑪瑙	
第256区18	第1埋納施設	174		小玉	4.08	3.79	1.07	—	2.80	瑪瑙	
第256区19	第1埋納施設	175		小玉	5.07	4.98	1.53	1.36	3.56	瑪瑙	
第256区20	第1埋納施設	177		小玉	5.16	4.94	1.13	—	3.52	瑪瑙	
第256区21	第1埋納施設	179		小玉	6.54	6.43	1.00	0.72	5.96	瑪瑙	
第256区22	第1埋納施設	180		小玉	7.14	5.80	1.16	0.74	6.08	瑪瑙	
第256区23	第1埋納施設	182		小玉	7.21	6.41	0.59	—	5.33	瑪瑙	
第256区24	第1埋納施設	183		小玉	7.21	6.84	0.99	—	5.82	瑪瑙	
第256区25	第1埋納施設	185		小玉	6.95	6.83	1.06	—	6.41	瑪瑙	
第256区26	第1埋納施設	186		小玉	6.63	5.37	0.81	—	5.44	瑪瑙	
第256区27	第1埋納施設	188		小玉	6.83	6.23	1.06	0.77	5.57	瑪瑙	
第256区28	第1埋納施設	192		小玉	4.83	4.57	1.39	—	2.28	瑪瑙	
第256区29	第1埋納施設	193		小玉	4.21	3.97	1.08	—	4.08	瑪瑙	
第256区30	第1埋納施設	195		小玉	7.05	5.98	1.17	—	5.89	瑪瑙	
第256区31	第1埋納施設	197		小玉	6.69	6.91	1.19	—	5.63	瑪瑙	
第256区32	第1埋納施設	199		小玉	7.38	6.85	1.28	—	4.59	瑪瑙	
第256区33	第1埋納施設	200		小玉	6.71	6.33	0.99	—	6.28	瑪瑙	
第256区34	第1埋納施設	201		小玉	6.89	6.25	0.79	—	5.73	瑪瑙	
第256区35	第1埋納施設	203		小玉	7.32	6.68	1.26	0.98	6.41	瑪瑙	
第256区36	第1埋納施設	204		小玉	7.76	6.68	1.26	0.98	6.41	瑪瑙	
第256区37	第1埋納施設	207		小玉	6.97	—	1.06	—	5.60	瑪瑙	
第256区38	第1埋納施設	208		小玉	7.48	6.78	1.28	—	6.11	瑪瑙	
第256区39	第1埋納施設	209		小玉	5.06	4.84	1.36	—	3.06	瑪瑙	
第256区40	第1埋納施設	210		小玉	7.61	7.37	1.55	1.05	(5.60)	瑪瑙	
第256区41	第1埋納施設	212		小玉	6.41	6.24	0.85	—	5.73	瑪瑙	
第256区42	第1埋納施設	213		小玉	6.82	6.24	1.08	—	5.85	瑪瑙	
第256区43	第1埋納施設	214		小玉	6.81	4.07	0.98	—	(5.90)	瑪瑙	
第256区44	第1埋納施設	215		小玉	6.81	4.07	0.98	—	(5.90)	瑪瑙	

種別番号	遺構名	遺構番号	枝番号	種別	径 最大値 最小値 平均値	孔 径 最大値 最小値 平均値	厚 (mm)	重量	材質	色	調	備考
第256図45	SMF04 第1埋納施設	216		小玉	7.00	6.71	1.46	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図46	SMF04 第1埋納施設	217		小玉	7.17	6.79	1.30	0.85	土	暗い黄茶	セピア	
第256図47	SMF04 第1埋納施設	218		小玉	7.48	7.26	1.01	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図48	SMF04 第1埋納施設	219		小玉	7.35	7.17	1.17	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図49	SMF04 第1埋納施設	220		小玉	7.40	6.78	1.04	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図50	SMF04 第1埋納施設	221		小玉	6.96	6.79	1.26	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図51	SMF04 第1埋納施設	222		小玉	6.89	6.69	0.96	—	土	暗い黄茶	セピア	
第256図52	SMF04 第1埋納施設	223		小玉	6.67	5.69	0.74	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図53	SMF04 第1埋納施設	225		小玉	6.72	6.40	0.88	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図54	SMF04 第1埋納施設	226		小玉	7.36	—	1.17	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図55	SMF04 第1埋納施設	227		小玉	7.39	—	1.28	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図56	SMF04 第1埋納施設	229		小玉	5.26	5.08	1.46	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図57	SMF04 第1埋納施設	230		小玉	7.15	6.03	1.21	1.08	土	暗い黄茶	セピア	
第257図58	SMF04 第1埋納施設	231		小玉	6.43	5.52	1.41	0.91	土	暗い黄茶	セピア	
第257図59	SMF04 第1埋納施設	232		小玉	6.73	6.36	1.17	1.06	土	暗い黄茶	セピア	
第257図60	SMF04 第1埋納施設	233		小玉	7.77	7.44	1.02	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図61	SMF04 第1埋納施設	234		小玉	6.01	4.97	0.73	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図62	SMF04 第1埋納施設	235		小玉	7.05	6.60	1.05	0.71	土	暗い黄茶	セピア	
第257図63	SMF04 第1埋納施設	240		小玉	5.14	4.76	1.26	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図64	SMF04 第1埋納施設	241		小玉	4.87	4.71	1.08	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図65	SMF04 第1埋納施設	242		小玉	5.24	5.16	1.44	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図66	SMF04 第1埋納施設	244		小玉	4.79	4.59	1.90	1.60	土	暗い黄茶	セピア	
第257図67	SMF04 第1埋納施設	245	1	小玉	4.36	4.23	1.30	1.28	土	暗い黄茶	セピア	
第257図68	SMF04 第1埋納施設	245	2	小玉	4.41	3.82	1.80	1.69	土	暗い黄茶	セピア	
第257図69	SMF04 第1埋納施設	252		小玉	3.14	—	1.31	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図70	SMF04 第1埋納施設	254		小玉	4.61	—	1.29	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図71	SMF04 第2埋納施設	255		小玉	4.56	4.00	1.63	1.52	土	暗い黄茶	セピア	
第257図72	SMF04 第2埋納施設	256		小玉	6.60	5.75	1.30	1.20	土	暗い黄茶	セピア	
第257図73	SMF04 第1埋納施設	—	1	小玉	4.56	4.32	1.44	0.99	土	暗い黄茶	セピア	
第257図74	SMF04 第1埋納施設	—	1	小玉	4.02	3.71	1.40	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図75	SMF04 第1埋納施設	—	1	小玉	4.60	—	0.82	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図76	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	7.97	7.38	1.31	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図77	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	5.24	5.08	1.07	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図78	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.04	—	1.01	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図79	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.14	4.08	0.98	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図80	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.57	—	0.99	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図81	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.77	—	1.11	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図82	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	5.01	—	1.37	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図83	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.76	—	0.95	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図84	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.02	3.85	0.93	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図85	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.74	4.18	1.17	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図86	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	3.59	3.29	0.53	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図87	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	3.49	3.24	1.23	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図88	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	3.92	3.28	1.02	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図89	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	4.90	3.45	0.67	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図90	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	7.22	6.22	1.57	1.15	土	暗い黄茶	セピア	
第257図91	SMF04 第2埋納施設	—	2	小玉	7.03	6.11	1.11	—	土	暗い黄茶	セピア	

種別番号	遺構名	遺物番号	枝番	種別	径	厚	重量	材質	色	調	備考	
第257図82	SMF04 第2埋納施設	一括2	20	小玉	7.81	6.81	1.31	1.07	土	暗い黄茶	セピア	
第257図83	SMF04 第2埋納施設	一括2	21	小玉	6.54	6.25	1.46	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図84	SMF04 第2埋納施設	一括2	22	小玉	6.26	6.02	1.25	0.95	土	暗い黄茶	セピア	
第257図85	SMF04 第2埋納施設	一括2	23	小玉	6.41	6.19	1.13	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図86	SMF04 第2埋納施設	一括2	24	小玉	6.41	6.19	1.41	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図87	SMF04 第2埋納施設	一括2	25	小玉	7.28	7.04	0.90	—	土	暗い黄茶	セピア	
第257図88	SMF04 第2埋納施設	一括2	32	小玉	6.39	6.14	0.98	89.00	土	暗い黄茶	セピア	
	SMF04 第1埋納施設	181	—	小玉	(5.17)	(3.02)	—	(4.96)	0.10	—	実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	190	—	小玉	—	—	—	—	0.12	ガラス	3月に剥れる 実測不能	
	SMF04 第1埋納施設	196	—	小玉	—	—	—	—	0.16	ガラス	6月に剥れる 実測不能	
	SMF04 第1埋納施設	205	—	小玉	—	—	—	—	0.05	土	4月に剥れる 実測不能	
	SMF04 第1埋納施設	206	—	小玉	—	—	—	—	0.12	土	4月に剥れる 実測不能	
	SMF04 第1埋納施設	228	—	小玉	(6.36)	(3.86)	(0.95)	(5.83)	(0.09)	土	半欠 実測不能	
	SMF04 第1埋納施設	236	—	小玉	(5.84)	(3.21)	—	(6.05)	(0.10)	ガラス	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	4	小玉	—	—	—	—	0.10	ガラス	5月に剥れる 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	11	小玉	4.46	(3.20)	—	3.52	(0.06)	ガラス	藍色 チェーンズブルーム	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	16	小玉	(4.69)	(3.01)	0.83	—	3.04	(0.04)	ガラス	藍色 チェーンズブルーム
	SMF04 第2埋納施設	一括2	17	小玉	—	—	—	—	—	—	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	26	小玉	6.91	(5.11)	1.04	—	6.40	(0.13)	土	実測不能
	SMF04 第2埋納施設	一括2	27	小玉	6.84	(4.07)	—	(5.57)	(0.10)	土	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	28	小玉	(5.43)	(3.12)	—	(4.89)	(0.08)	土	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	29	小玉	(6.55)	(2.60)	—	5.15	(0.08)	土	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	30	小玉	(6.46)	(2.60)	—	(6.17)	(0.10)	土	半欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	31	小玉	(5.42)	(2.97)	—	(5.36)	(0.08)	土	23欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	33	小玉	(5.28)	(2.89)	—	(4.74)	(0.06)	土	23欠 実測不能	
	SMF04 第2埋納施設	一括2	34	小玉	—	—	—	—	—	—	4月に剥れる 実測不能	
第273図1	SMF07 第2埋納施設	001	1	切子玉	14.94	11.03	3.80	1.56	12.86	3.11	水皿	
第273図2	SMF07 第2埋納施設	002	2	切子玉	19.06	11.64	3.97	1.57	13.65	4.52	水皿	
第273図3	SMF07 第2埋納施設	006	3	切子玉	16.86	13.37	3.38	1.37	15.18	4.53	水皿	
第273図4	SMF07 第2埋納施設	007	4	切子玉	13.62	13.15	3.88	1.72	14.78	3.69	水皿	
第273図5	SMF07 第2埋納施設	008	5	切子玉	21.17	14.59	3.18	1.40	16.41	6.69	水皿	
第273図6	SMF07 第2埋納施設	009	6	切子玉	17.20	12.61	4.14	1.42	14.77	4.41	水皿	
第273図7	SMF07 第2埋納施設	011	7	切子玉	16.82	11.31	3.61	1.44	12.47	2.99	水皿	
第273図8	SMF07 第2埋納施設	003	8	管玉	30.34	10.97	3.30	1.28	10.47	6.78	朝玉	
第273図9	SMF07 第2埋納施設	018	9	管玉	26.71	10.86	3.20	1.09	10.29	5.73	朝玉	
第273図10	SMF07 第2埋納施設	004	10	管玉	6.13	5.98	1.45	—	3.85	0.09	土	
第273図11	SMF07 第2埋納施設	005	11	白玉	7.78	7.21	2.60	1.40	6.07	0.53	滑石	
第273図12	SMF07 第2埋納施設	010	12	小玉	7.05	6.80	1.26	1.10	5.03	0.18	土	
第286図1	SMF10 第2埋納施設	フル1	1	小玉	2.92	2.79	1.05	—	1.35	0.01	ガラス	
第286図2	SMF10 第2埋納施設	フル1	2	小玉	3.93	3.53	1.40	—	1.50	0.01	ガラス	
第286図3	SMF10 第2埋納施設	フル1	3	小玉	3.50	3.21	1.49	—	1.51	0.02	ガラス	
第286図4	SMF10 第2埋納施設	フル1	4	小玉	3.60	3.21	1.28	—	1.60	0.03	ガラス	
第286図5	SMF10 第2埋納施設	フル1	5	小玉	3.45	3.28	1.30	—	1.99	0.03	ガラス	
第286図6	SMF10 第2埋納施設	フル1	6	小玉	3.59	3.45	1.20	0.95	1.90	0.04	ガラス	
第286図7	SMF10 第2埋納施設	フル1	7	小玉	3.64	3.52	1.40	1.35	1.69	0.04	ガラス	
第286図8	SMF10 第2埋納施設	フル1	8	小玉	3.69	3.55	1.71	1.55	1.70	0.04	ガラス	
第286図9	SMF10 第2埋納施設	フル1	9	小玉	4.07	3.96	1.61	1.40	1.90	0.05	ガラス	

種別番号	遺構名	遺物番号	枝番分	種別	径	厚	質量	材質	色	調	備考		
				最大径 (mm)	最大径 (mm)	最大径 (mm)	(g)						
第296図10	第2埋葬施設	フルイ	10	小玉	3.70	3.69	1.80	ガラス	暗い青	タークナブル			
第296図11	第2埋葬施設	フルイ	11	小玉	4.00	3.90	2.45	ガラス	暗い青	タークナブル			
第296図12	第2埋葬施設	フルイ	12	小玉	3.80	3.90	2.40	ガラス	暗い青	タークナブル			
第296図13	第2埋葬施設	フルイ	13	小玉	3.15	3.00	1.80	ガラス	黒色	タークナブル			
第296図14	第2埋葬施設	フルイ	14	小玉	3.45	3.30	1.10	1.05	2.00	0.03	ガラス	黒色	タークナブル
第296図15	第2埋葬施設	フルイ	15	小玉	3.49	3.45	1.31	1.25	2.28	0.05	ガラス	黒色	タークナブル
第296図16	第2埋葬施設	フルイ	16	小玉	3.30	3.18	1.21	1.10	2.51	0.04	ガラス	黒色	タークナブル
第296図17	第2埋葬施設	フルイ	17	小玉	3.91	3.91	1.20	1.10	2.35	0.06	ガラス	黒色	タークナブル
第296図18	第2埋葬施設	フルイ	18	小玉	3.59	—	(1.11)	—	1.91	0.03	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図19	第2埋葬施設	フルイ	19	小玉	3.75	—	(1.20)	—	2.30	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図20	第2埋葬施設	フルイ	20	小玉	3.75	—	—	—	2.30	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図21	第2埋葬施設	フルイ	21	小玉	3.65	—	—	—	2.51	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図22	第2埋葬施設	フルイ	22	小玉	3.55	—	(1.10)	—	1.70	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図23	第2埋葬施設	フルイ	23	小玉	3.30	—	—	—	2.20	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図24	第2埋葬施設	フルイ	24	小玉	2.80	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図25	第2埋葬施設	フルイ	25	小玉	2.51	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図26	第2埋葬施設	フルイ	26	小玉	2.65	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図27	第2埋葬施設	フルイ	27	小玉	3.00	—	—	—	1.71	0.01	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図28	第2埋葬施設	フルイ	28	小玉	1.90	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図1	埋葬施設	001		小玉	3.84	—	1.22	—	2.29	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図2	埋葬施設	002		小玉	3.41	—	1.13	—	1.65	0.02	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図3	埋葬施設	003		小玉	3.68	—	1.24	—	2.52	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図4	埋葬施設	004		小玉	3.29	—	1.25	—	1.06	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図5	埋葬施設	005		小玉	3.68	—	1.24	—	2.13	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図6	埋葬施設	006		小玉	3.60	—	1.13	—	1.99	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図7	埋葬施設	007		小玉	3.63	—	1.34	—	2.02	0.03	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図8	埋葬施設	008		小玉	3.69	—	1.30	—	2.43	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図9	埋葬施設	009		小玉	3.72	—	1.30	—	2.34	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図10	埋葬施設	010		小玉	4.07	—	1.33	—	2.40	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図11	埋葬施設	011		小玉	3.59	—	1.06	—	2.38	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図12	埋葬施設	012		小玉	3.71	—	1.48	1.20	2.54	0.03	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図13	埋葬施設	013		小玉	3.57	—	1.26	—	2.19	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図14	埋葬施設	014		小玉	4.22	4.07	1.40	—	2.26	0.06	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図15	埋葬施設	015		小玉	4.14	3.85	1.45	1.39	2.49	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図16	埋葬施設	016		小玉	3.27	—	0.91	—	2.34	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図17	埋葬施設	017		小玉	3.38	—	1.04	—	1.95	0.03	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図18	埋葬施設	018		小玉	3.59	—	1.05	—	1.99	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図19	埋葬施設	019		小玉	3.50	—	1.12	—	2.46	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図20	埋葬施設	020		小玉	4.24	3.85	1.23	—	2.27	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図21	埋葬施設	021		小玉	3.57	—	1.07	—	2.54	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図22	埋葬施設	022		小玉	4.52	4.39	2.10	1.96	2.29	0.06	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図23	埋葬施設	023		小玉	3.89	—	1.40	1.07	2.19	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図24	埋葬施設	024		小玉	3.49	3.26	1.36	—	1.82	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図25	埋葬施設	025		小玉	3.85	3.76	0.98	—	2.47	0.04	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図26	埋葬施設	026		小玉	3.46	—	0.89	—	(2.07)	0.03	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図27	埋葬施設	027		小玉	3.92	—	1.30	—	2.70	0.05	ガラス	暗い青	タークナブル
第296図28	埋葬施設	028		小玉	4.09	—	1.35	1.06	2.91	0.07	ガラス	暗い青	タークナブル

種別番号	遺構名	遺物番号	枝番号	種別	最大値 (mm)	最小値 (mm)	孔径 (mm)	最大値 (mm)	最小値 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	色調	備考
第306図29	SM018	埋跡施設	031	小玉	3.78	3.67	0.63	—	2.05	0.04	0.04	ガラス	緑味青 グリニッケル—	透明度高い
第306図30	SM018	埋跡施設	032	小玉	3.78	—	1.48	—	2.17	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図31	SM018	埋跡施設	033	小玉	3.96	3.74	1.07	—	2.96	0.07	0.07	ガラス	黒色 グラ—	—
第306図32	SM018	埋跡施設	034	小玉	3.88	—	1.61	—	2.16	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図33	SM018	埋跡施設	035	小玉	3.88	—	1.12	—	2.38	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図34	SM018	埋跡施設	036	小玉	3.91	—	1.25	—	2.62	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図35	SM018	埋跡施設	037	小玉	3.79	—	1.23	—	2.44	0.05	0.05	ガラス	黒色 グラ—	—
第306図36	SM018	埋跡施設	038	小玉	3.68	—	1.28	—	2.58	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図37	SM018	埋跡施設	039	小玉	3.80	3.69	1.51	—	2.62	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図38	SM018	埋跡施設	040	小玉	3.88	—	0.92	—	2.93	0.06	0.06	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図39	SM018	埋跡施設	041	小玉	4.12	—	1.41	—	2.34	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図40	SM018	埋跡施設	042	小玉	3.87	—	0.97	—	2.56	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図41	SM018	埋跡施設	043	小玉	4.01	—	1.13	—	2.74	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図42	SM018	埋跡施設	044	小玉	3.53	—	1.03	—	2.90	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図43	SM018	埋跡施設	045	小玉	4.17	—	1.87	1.65	2.55	0.06	0.06	ガラス	黒色 グラ—	—
第306図46	SM018	埋跡施設	046	小玉	3.98	—	1.40	—	2.85	0.06	0.06	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図48	SM018	埋跡施設	048	小玉	3.68	—	1.19	—	2.37	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図45	SM018	埋跡施設	049	小玉	3.56	—	1.35	—	2.01	0.03	0.03	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図47	SM018	埋跡施設	050	小玉	3.80	—	1.60	—	2.09	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図49	SM018	埋跡施設	051	小玉	3.48	—	1.40	—	2.81	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図50	SM018	埋跡施設	052	小玉	3.38	—	1.25	—	2.51	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図51	SM018	埋跡施設	053	小玉	3.77	—	1.11	—	2.10	0.05	0.05	ガラス	淡い緑味青 ヲリン—	透明度高い
第306図52	SM018	埋跡施設	054	小玉	3.70	—	1.08	—	3.75	0.06	0.06	ガラス	明るい青緑 ヲニスグリ—	—
第306図53	SM018	埋跡施設	055	小玉	3.81	—	1.24	—	2.72	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図54	SM018	埋跡施設	056	小玉	3.34	—	1.18	—	2.46	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図55	SM018	埋跡施設	057	小玉	3.74	3.55	1.35	—	1.87	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図56	SM018	埋跡施設	058	小玉	4.18	—	1.45	—	3.58	0.07	0.07	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図57	SM018	埋跡施設	059	小玉	3.94	3.80	1.25	—	2.42	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図58	SM018	埋跡施設	060	小玉	3.75	—	1.22	—	2.29	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図59	SM018	埋跡施設	061	小玉	3.80	—	1.61	—	2.04	0.03	0.03	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図60	SM018	埋跡施設	062	小玉	4.02	—	0.93	—	2.64	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図61	SM018	埋跡施設	063	小玉	3.66	3.52	1.31	—	2.83	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図62	SM018	埋跡施設	064	小玉	3.72	—	1.25	—	2.24	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図63	SM018	埋跡施設	065	小玉	3.83	—	1.45	—	1.92	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図64	SM018	埋跡施設	066	小玉	3.58	—	1.17	—	2.19	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図65	SM018	埋跡施設	067	小玉	3.77	—	1.28	—	2.02	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図66	SM018	埋跡施設	068	小玉	3.58	—	1.16	—	2.25	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図68	SM018	埋跡施設	070	小玉	3.81	—	1.35	—	2.42	0.03	0.03	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図69	SM018	埋跡施設	071	小玉	4.01	—	1.50	—	2.33	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図70	SM018	埋跡施設	072	小玉	3.96	—	1.17	—	2.91	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図71	SM018	埋跡施設	073	小玉	3.53	—	1.26	—	2.20	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図72	SM018	埋跡施設	074	小玉	4.14	3.71	1.18	—	2.04	0.03	0.03	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図73	SM018	埋跡施設	075	小玉	3.77	—	1.45	—	2.24	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図74	SM018	埋跡施設	076	小玉	3.71	—	1.15	—	2.33	0.04	0.04	ガラス	暗い青 グラ—	—
第306図75	SM018	埋跡施設	077	小玉	3.90	—	1.36	—	2.11	0.05	0.05	ガラス	暗い青 グラ—	—

種別番号	遺構名	遺構番号	支部分	種別	最大径 (mm)	最小径 (mm)	孔径 最大径 (mm)	孔径 最小径 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	色調	備考
第306図75	埋跡施設	SM018	078	小正	3.81	—	1.51	—	2.01	0.03	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図76	埋跡施設	SM018	079	小正	3.90	—	1.41	—	2.84	0.06	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図77	埋跡施設	SM018	080	小正	3.51	—	1.22	—	2.64	0.05	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図78	埋跡施設	SM018	081	小正	4.17	—	1.28	—	2.31	0.06	ガラス	緑褐色 グリニッシュ・エポキシ	透明度高い
第306図79	埋跡施設	SM018	082	小正	3.69	—	1.23	—	2.08	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図80	埋跡施設	SM018	083	小正	3.94	—	1.29	—	2.81	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図81	埋跡施設	SM018	084	小正	3.90	—	1.27	—	3.01	0.06	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図82	埋跡施設	SM018	085	小正	3.50	3.48	1.59	—	1.96	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図83	埋跡施設	SM018	086	小正	4.15	—	1.52	—	2.65	0.06	ガラス	緑褐色 グリニッシュ・エポキシ	透明度高い
第306図84	埋跡施設	SM018	087	小正	3.93	—	1.34	—	3.28	0.07	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図85	埋跡施設	SM018	088	小正	3.88	—	1.63	—	2.06	0.04	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図86	埋跡施設	SM018	089	小正	3.54	—	1.16	—	1.94	0.04	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図87	埋跡施設	SM018	090	小正	4.33	—	1.80	—	1.48	0.07	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図88	埋跡施設	SM018	092	小正	2.90	2.56	1.04	—	1.42	0.01	ガラス	明い青緑 グリニッシュ・エポキシ	透明度高い
第306図89	埋跡施設	SM018	093	小正	3.77	—	1.27	—	2.20	0.05	ガラス	明い青緑 シェーグリーン	透明度高い
第306図90	埋跡施設	SM018	095	小正	3.64	—	1.24	—	2.91	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図91	埋跡施設	SM018	094	小正	3.57	—	1.11	—	2.66	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図92	埋跡施設	SM018	095	小正	3.64	—	1.11	—	2.16	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図93	埋跡施設	SM018	096	小正	3.57	—	1.43	—	2.30	0.04	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図94	埋跡施設	SM018	098	小正	3.42	—	1.35	—	2.36	0.03	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図95	埋跡施設	SM018	098	小正	3.92	3.84	1.62	—	2.10	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図96	埋跡施設	SM018	099	小正	3.74	—	1.24	—	2.21	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図97	埋跡施設	SM018	100	小正	3.80	—	1.26	—	2.40	0.04	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図98	埋跡施設	SM018	102	小正	4.07	—	1.41	—	2.40	0.04	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図99	埋跡施設	SM018	103	小正	3.35	—	1.03	—	1.73	0.02	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図100	埋跡施設	SM018	104	小正	3.96	—	1.63	—	2.51	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図101	埋跡施設	SM018	105	小正	3.84	—	1.09	—	2.53	0.05	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図102	埋跡施設	SM018	107	小正	3.67	—	1.09	—	2.60	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図103	埋跡施設	SM018	108	小正	3.93	—	1.33	—	2.57	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図104	埋跡施設	SM018	109	小正	4.05	—	1.09	—	2.53	0.02	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図105	埋跡施設	SM018	110	小正	3.98	—	0.85	—	2.20	0.02	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図106	埋跡施設	SM018	111	小正	3.85	—	1.12	—	2.71	0.06	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図107	埋跡施設	SM018	112	小正	3.72	3.59	1.47	—	2.57	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図108	埋跡施設	SM018	113	小正	3.70	—	1.11	—	3.02	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図109	埋跡施設	SM018	114	小正	3.70	—	1.23	—	1.83	0.03	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図110	埋跡施設	SM018	115	小正	3.86	—	1.18	—	2.31	0.05	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図111	埋跡施設	SM018	116	小正	3.96	0.90	0.90	—	2.83	0.06	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図112	埋跡施設	SM018	117	小正	3.78	—	1.38	—	1.90	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図113	埋跡施設	SM018	118	小正	4.09	—	1.05	—	2.57	0.06	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図114	埋跡施設	SM018	119	小正	3.92	—	0.74	—	2.21	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図115	埋跡施設	SM018	120	小正	3.71	—	1.25	—	2.50	0.05	ガラス	黒色 テラコザブルーム	
第306図116	埋跡施設	SM018	121	小正	3.50	1.09	1.09	—	1.81	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図117	埋跡施設	SM018	122	小正	3.81	—	1.14	—	2.30	0.05	ガラス	黒い緑味青 ヲリンブルーム	
第306図118	埋跡施設	SM018	123	小正	3.74	—	1.41	—	2.06	0.04	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図119	埋跡施設	SM018	124	小正	3.65	—	1.10	—	2.05	0.03	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図120	埋跡施設	SM018	125	小正	3.73	—	1.18	—	2.53	0.05	ガラス	黒い青 テラコザブルーム	
第306図121	埋跡施設	SM018	126	小正	3.75	—	0.83	—	2.13	0.04	ガラス	黒い青緑味青 ヲリンブルーム	
第306図122	埋跡施設	SM018	127	小正	3.83	—	0.82	—	2.45	0.05	ガラス	黒色 テラコザブルーム	

3片に割れる

2片に割れる

種別番号	遺構名	遺物番号	枝部分	種別	最大径 (mm)	最小径 (mm)	孔径 (mm)	最大径 (mm)	最小径 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	色調	備考
第306図123	SMO18	埋跡施設	126	小玉	4.19	—	1.45	—	2.19	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図124	SMO18	埋跡施設	128	小玉	3.66	—	1.23	—	1.94	0.04	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図125	SMO18	埋跡施設	130	小玉	3.50	—	0.83	—	2.09	0.03	ガラス	にぶ青緑	ウオーターホール	透明度高い
第306図126	SMO18	埋跡施設	131	小玉	3.72	—	1.29	—	1.92	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図127	SMO18	埋跡施設	132	小玉	3.69	—	0.92	—	1.95	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図128	SMO18	埋跡施設	133	小玉	4.27	4.12	1.11	—	2.55	0.06	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図129	SMO18	埋跡施設	134	小玉	3.64	—	1.01	—	2.07	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図130	SMO18	埋跡施設	135	小玉	4.26	4.01	1.17	—	2.64	0.06	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図131	SMO18	埋跡施設	136	小玉	3.92	—	1.40	—	2.29	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図132	SMO18	埋跡施設	137	小玉	3.80	—	1.14	—	2.07	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図133	SMO18	埋跡施設	138	小玉	3.60	3.51	0.96	—	3.28	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図134	SMO18	埋跡施設	139	小玉	3.52	—	1.40	—	1.65	0.02	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図135	SMO18	埋跡施設	140	小玉	3.78	—	1.16	—	2.75	0.06	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図136	SMO18	埋跡施設	141	小玉	3.80	—	1.42	—	2.56	0.05	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図137	SMO18	埋跡施設	142	小玉	3.92	—	1.19	—	2.41	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図138	SMO18	埋跡施設	143	小玉	3.93	3.74	1.55	—	1.92	0.03	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図139	SMO18	埋跡施設	144	小玉	3.83	—	1.34	—	2.53	0.05	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図140	SMO18	埋跡施設	145	小玉	3.92	—	1.16	—	2.16	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図141	SMO18	埋跡施設	146	小玉	3.88	—	1.30	—	2.49	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図142	SMO18	埋跡施設	147	小玉	3.33	3.20	1.16	—	3.62	0.05	ガラス	明るい青緑	ウエニスグリーン	透明度高い
第306図143	SMO18	埋跡施設	148	小玉	3.47	3.16	1.11	—	3.16	0.06	ガラス	にぶ青緑	ウオーターホール	透明度高い
第306図144	SMO18	埋跡施設	149	小玉	3.72	3.55	1.54	—	1.97	0.03	ガラス	藍色	タークツブル	—
第306図145	SMO18	埋跡施設	150	小玉	3.59	—	1.21	—	1.85	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図146	SMO18	埋跡施設	151	小玉	4.16	4.04	1.18	—	2.34	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図147	SMO18	埋跡施設	152	小玉	4.02	3.76	1.41	—	1.82	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図148	SMO18	埋跡施設	153	小玉	3.93	—	1.46	—	2.30	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図149	SMO18	埋跡施設	155	小玉	3.46	—	1.16	—	2.04	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図150	SMO18	埋跡施設	156	小玉	3.69	—	1.41	—	2.26	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図151	SMO18	埋跡施設	157	小玉	3.60	—	1.10	—	2.23	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図152	SMO18	埋跡施設	158	小玉	4.00	—	1.33	—	1.68	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図153	SMO18	埋跡施設	159	小玉	3.25	—	1.28	—	2.84	—	ガラス	にぶ青緑	ウオーターホール	—
第306図154	SMO18	埋跡施設	160	小玉	4.14	—	1.32	—	2.84	—	ガラス	にぶ青緑	ウオーターホール	—
第306図155	SMO18	埋跡施設	161	小玉	4.14	—	1.32	—	2.84	—	ガラス	にぶ青緑	ウオーターホール	—
第306図156	SMO18	埋跡施設	163	小玉	3.37	3.12	1.10	—	1.65	0.02	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図157	SMO18	埋跡施設	164	小玉	4.03	—	1.10	—	2.24	0.05	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図158	SMO18	埋跡施設	165	小玉	3.56	3.43	1.12	—	3.14	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図159	SMO18	埋跡施設	166	小玉	3.98	—	1.38	—	2.73	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図160	SMO18	埋跡施設	167	小玉	3.84	—	1.41	—	2.29	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図161	SMO18	埋跡施設	168	小玉	3.78	3.81	1.33	—	2.92	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図162	SMO18	埋跡施設	169	小玉	3.89	—	1.10	—	2.27	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図163	SMO18	埋跡施設	171	小玉	3.37	—	1.14	—	2.03	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図164	SMO18	埋跡施設	172	小玉	4.19	—	1.46	—	2.48	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図165	SMO18	埋跡施設	173	小玉	3.65	—	1.27	—	1.97	0.04	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図166	SMO18	埋跡施設	175	小玉	3.49	3.39	1.21	—	3.54	0.06	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図167	SMO18	埋跡施設	176	小玉	3.53	—	1.26	—	1.85	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図168	SMO18	埋跡施設	177	小玉	3.60	—	1.41	—	1.96	0.03	ガラス	暗い青	タークツブル	—
第306図169	SMO18	埋跡施設	178	小玉	4.19	3.94	1.02	—	2.46	0.06	ガラス	藍色	タークツブル	—

種別番号	遺構名	遺構番号	遺構名	遺構番号	枝部分	種別	最大値	最小値	孔径	厚	重量	材質	色	調	備考	
							(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)					
第306回170	埋跡施設	179	埋跡施設	179	小玉	3.93	1.21	—	2.78	0.06	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回171	埋跡施設	180	埋跡施設	180	小玉	3.51	—	1.07	—	2.12	0.03	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回172	埋跡施設	181	埋跡施設	181	小玉	3.82	1.33	—	2.41	0.05	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回173	埋跡施設	182	埋跡施設	182	小玉	3.72	3.44	—	3.10	0.05	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回174	埋跡施設	183	埋跡施設	183	小玉	3.86	3.68	—	2.47	0.04	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回175	埋跡施設	184	埋跡施設	184	小玉	3.72	—	0.98	—	2.44	0.05	ガラス	藍色	ターコイズブルー		
第306回176	埋跡施設	185	埋跡施設	185	小玉	3.64	—	0.98	—	2.10	0.04	ガラス	緑味青	グリーンニッソブルー	透明度高い	
第306回177	埋跡施設	186	埋跡施設	186	小玉	4.12	—	1.44	—	2.04	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回178	埋跡施設	187	埋跡施設	187	小玉	3.86	—	1.33	—	3.16	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回181	埋跡施設	188	埋跡施設	188	小玉	3.57	—	0.95	—	2.11	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回180	埋跡施設	189	埋跡施設	189	小玉	3.76	3.59	—	1.07	—	2.77	0.05	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	
第306回181	埋跡施設	190	埋跡施設	190	小玉	3.69	—	1.07	—	2.64	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回182	埋跡施設	191	埋跡施設	191	小玉	3.90	—	1.22	—	2.00	0.05	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回183	埋跡施設	192	埋跡施設	192	小玉	3.52	—	1.03	—	2.51	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回184	埋跡施設	193	埋跡施設	193	小玉	3.85	—	1.25	—	2.64	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回185	埋跡施設	194	埋跡施設	194	小玉	3.79	—	1.35	—	1.86	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回186	埋跡施設	195	埋跡施設	195	小玉	3.85	—	1.25	—	3.15	0.07	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回187	埋跡施設	196	埋跡施設	196	小玉	3.76	—	1.25	—	2.04	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回188	埋跡施設	197	埋跡施設	197	小玉	3.75	3.66	—	1.19	—	2.73	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	
第306回189	埋跡施設	198	埋跡施設	198	小玉	3.61	—	1.34	—	1.78	0.03	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回190	埋跡施設	199	埋跡施設	199	小玉	3.92	—	1.25	—	2.59	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回191	埋跡施設	200	埋跡施設	200	小玉	4.46	—	1.39	—	2.94	0.08	ガラス	藍色	ターコイズブルー		
第306回192	埋跡施設	201	埋跡施設	201	小玉	3.59	—	1.25	—	2.73	0.05	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回193	埋跡施設	202	埋跡施設	202	小玉	3.83	—	1.29	—	1.87	0.04	ガラス	緑味青	グリーンニッソブルー	透明度高い	
第306回194	埋跡施設	203	埋跡施設	203	小玉	3.65	—	1.23	—	1.94	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	透明度高い	
第306回195	埋跡施設	204	埋跡施設	204	小玉	3.38	—	1.12	—	2.49	0.05	ガラス	藍色	ターコイズブルー		
第306回196	埋跡施設	205	埋跡施設	205	小玉	3.82	3.71	—	1.35	—	1.76	0.02	ガラス	緑味青	グリーンニッソブルー	透明度高い
第306回197	埋跡施設	206	埋跡施設	206	小玉	2.10	—	1.24	—	2.10	0.03	ガラス	藍色	ターコイズブルー		
第306回198	埋跡施設	207	埋跡施設	207	小玉	3.92	—	1.38	—	2.54	0.04	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回199	埋跡施設	208	埋跡施設	208	小玉	3.79	—	1.01	—	2.48	0.05	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回200	埋跡施設	209	埋跡施設	209	小玉	3.79	—	0.87	—	2.16	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回201	埋跡施設	210	埋跡施設	210	小玉	3.81	—	1.15	—	2.21	0.05	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回202	埋跡施設	211	埋跡施設	211	小玉	4.13	—	1.37	—	2.64	0.06	ガラス	暗い青	ターコイズブルー		
第306回202	埋跡施設	010	埋跡施設	010	小玉	—	—	—	—	—	—	ガラス	緑味青	グリーンニッソブルー	透明度高い	
第306回202	埋跡施設	012	埋跡施設	012	小玉	3.66	—	—	—	—	—	ガラス	緑味青	グリーンニッソブルー	透明度高い	
第306回202	埋跡施設	091	埋跡施設	091	小玉	3.63	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	6月以上に割れる 実測不能	
第306回202	埋跡施設	101	埋跡施設	101	小玉	—	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	6月以上に割れる 実測不能	
第306回202	埋跡施設	162	埋跡施設	162	小玉	—	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	6月以上に割れる 実測不能	
第306回202	埋跡施設	170	埋跡施設	170	小玉	—	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	6月以上に割れる 実測不能	
第306回202	埋跡施設	174	埋跡施設	174	小玉	—	—	—	—	—	—	ガラス	暗い青	ターコイズブルー	6月以上に割れる 実測不能	

第6表 重三台遺跡遺構一覽表

種別番号	グリッド1	グリッド2	平面形態	時期	主軸方位	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備考
SD001	A13-63	—	近世	N-52°-W	1.52	1.32	—	完部せず	
SD002	A13-75	—	近世	N-9°-E	1.23	1.33	—	完部せず	
SD001	A13-64	A13-75	近世	N-32°-W	11.60	2.13	60.3		

第7表 重三台遺跡独立柱建物跡計測表

種別番号	グリッド1	グリッド2	平面形態	時期	主軸方位	桁桁 (m)	梁行 (m)	柱穴規模 (cm)	深さ (cm)	備考
SD001	A13-55	A13-65	東西棟	近世	N-27°-E	4.30	3.70	20×30	13.5～26.5	
SD002	A13-74	A13-84	東西棟	近世	N-28°-E	4.27	2.32	20×30	10～75.2	

第8表 重三台遺跡土器概算表

種別番号	遺物番号	土器分類	種別	群 種	構成率	計量情報 ^(単位)		調査	土 質	色 澤	調 子	色 澤	調 子	備 考	
						口径	高さ								口径
第319段1	SD001	胴戸・底溝	彩印	胴部の40%	9.4	6.5	—	46	黒土質	黒褐色	103363	103363	103363	黒褐色	黒褐色
第319段2	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の30%	—	6.8	—	17.0	黒土質	黒褐色	103364	103364	103364	黒褐色	黒褐色
第319段3	SD001	胴戸・底溝	4軸	胴部の30%	14.2	—	—	12.7	黒土質	黒褐色	103365	103365	103365	黒褐色	黒褐色
第319段4	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の30%	15.6	—	—	12.7	黒土質	黒褐色	103366	103366	103366	黒褐色	黒褐色
第319段5	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の40%	—	6.3	—	15.0	黒土質	黒褐色	103367	103367	103367	黒褐色	黒褐色
第319段6	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の35%	—	3.8	—	13.5	黒土質	黒褐色	103368	103368	103368	黒褐色	黒褐色
第319段7	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の35%	—	6.9	—	12.7	黒土質	黒褐色	103369	103369	103369	黒褐色	黒褐色
第319段8	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の30%	—	6.9	—	12.7	黒土質	黒褐色	103370	103370	103370	黒褐色	黒褐色
第319段9	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の20%	10.1	15.6	—	3.5	黒土質	黒褐色	103371	103371	103371	黒褐色	黒褐色
第319段10	SD001	胴戸・底溝	無彩	胴部の10%	13.2	—	—	13.1	黒土質	黒褐色	103372	103372	103372	黒褐色	黒褐色
第319段11	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の30%	—	6.7	—	13.0	黒土質	黒褐色	103373	103373	103373	黒褐色	黒褐色
第319段12	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の15%	6.0	6.2	—	3.1	黒土質	黒褐色	103374	103374	103374	黒褐色	黒褐色
第319段13	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の15%	12.8	—	—	12.0	黒土質	黒褐色	103375	103375	103375	黒褐色	黒褐色
第319段14	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の25%	12.8	8.0	—	3.0	黒土質	黒褐色	103376	103376	103376	黒褐色	黒褐色
第319段15	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の25%	—	—	—	2.3	黒土質	黒褐色	103377	103377	103377	黒褐色	黒褐色
第319段16	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の25%	—	—	—	2.1	黒土質	黒褐色	103378	103378	103378	黒褐色	黒褐色
第319段17	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の30%	—	7.2	—	13.1	黒土質	黒褐色	103379	103379	103379	黒褐色	黒褐色
第319段18	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の20%	—	—	—	13.1	黒土質	黒褐色	103380	103380	103380	黒褐色	黒褐色
第319段19	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の20%	13.2	5.6	—	5.7	黒土質	黒褐色	103381	103381	103381	黒褐色	黒褐色
第319段20	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の20%	11.6	5.3	—	4.3	黒土質	黒褐色	103382	103382	103382	黒褐色	黒褐色
第319段21	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の25%	10.1	14.2	—	3.3	黒土質	黒褐色	103383	103383	103383	黒褐色	黒褐色
第319段22	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の20%	11.2	—	—	12.1	黒土質	黒褐色	103384	103384	103384	黒褐色	黒褐色
第319段23	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の30%	—	6.7	—	12.1	黒土質	黒褐色	103385	103385	103385	黒褐色	黒褐色
第319段24	SD001	胴戸・底溝	赤行刺	胴部の11%	10.6	14.4	—	2.9	黒土質	黒褐色	103386	103386	103386	黒褐色	黒褐色

種別番号	仕上り箇所	種別	種名	割合	計測値 (mm)		厚	凸	凹	面	調	色調		色名	備考
					長	幅						外	内		
第322回27	トレンチ17	廊下・玄関	磁	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	2.0372 (46)	2.0372 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回14	トレンチ17	廊下・玄関	化境	全体の20%	—	—	—	—	—	—	—	5.971 (146)	7.0386 (2)	灰白色	灰白色
第322回25	トレンチ17	廊下・玄関	磁	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	2.0362 (146)	7.0386 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回13	トレンチ17	廊下・玄関	磁	白磁の21.0%	13.0	—	—	—	—	—	—	2.0365 (146)	6.9551	灰褐色	灰褐色
第322回17	トレンチ17	廊下・玄関	磁	白磁の25.2%	12.8	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	6.9551	灰褐色	灰褐色
第322回78	トレンチ17	玄関前廊下	磁	全体の65%	12.0	4.8	—	—	—	—	—	2.0362 (46)	2.0362 (46)	灰褐色→灰色	灰褐色
第322回29	トレンチ11・14	玄関前廊下	磁	全体の20%	—	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色→灰色	灰褐色
第322回30	トレンチ17	玄関前廊下	磁	全体の30%	17.5	—	—	—	—	—	—	5.971 (146)	5.971 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回81	トレンチ14	玄関前廊下	土瓦	白磁の20%	0.0	—	—	—	—	—	—	5.971 (146)	5.971 (146)	灰色	灰色
第322回82	トレンチ11	玄関・玄関前廊下	土瓦	全体の20%	6.3	—	—	—	—	—	—	2.0361 (146)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回83	トレンチ17	玄関・玄関前廊下	土瓦	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	2.0361 (146)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回84	トレンチ14・17	玄関・玄関前廊下	土瓦	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	1.9711 (146)	1.9711 (146)	灰白色	灰白色
第322回85	トレンチ14	玄関・玄関前廊下	土瓦	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	5.971 (146)	5.971 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回86	トレンチ17	玄関・玄関前廊下	土瓦	全体の20%	—	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回87	トレンチ13	廊下・玄関	白磁	全体の30%	8.3	13.6	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	2.0371 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回88	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の30%	14.2	13.8	—	—	—	—	—	2.0362 (46)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回89	トレンチ13・14	廊下・玄関	白磁	全体の20%	10.3	4.6	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回90	トレンチ13	廊下・玄関	白磁	全体の20%	10.3	—	—	—	—	—	—	2.0362 (46)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回91	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の20%	10.1	1.6	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回92	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の20%	6.9	13.6	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回93	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の15%	9.8	14.4	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回94	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の15%	8.3	14.9	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回95	トレンチ13・17	廊下・玄関	白磁	全体の15%	6.4	13.0	—	—	—	—	—	2.0362 (46)	2.0362 (46)	灰褐色	灰褐色
第322回96	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	全体の30%	9.3	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回97	トレンチ14	廊下・玄関	白磁	白磁の20%	10.0	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回98	トレンチ13	廊下	磁	白磁の15.5%	10.0	—	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回99	トレンチ13	廊下	磁	白磁の15.5%	10.0	—	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回100	トレンチ6・9	土階廊下	磁	全体の30%	18.3	14.2	—	—	—	—	—	1.9709 (2)	1.9709 (2)	灰褐色	灰褐色
第322回101	トレンチ13	土階廊下	磁	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回102	トレンチ8	土階廊下	磁	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色
第322回103	トレンチ13	土階廊下	磁	全体の30%	—	—	—	—	—	—	—	5.9761 (146)	5.9761 (146)	灰褐色	灰褐色

第9表 重三台遺跡瓦観察表

種別番号	遺構番号	種別	遺布状況	計測値 (cm)		厚	凸	凹	面	調	色調		色名	備考
				長	幅						外	内		
第322回104	トレンチ21	平瓦	小破片	[6.1]	[4.8]	2.2	—	—	—	—	—	5.YR6/3	5.YR5/3	に白い褐色
第322回105	トレンチ21	表瓦	丸瓦	[3.9]	[3.6]	1.7	—	—	—	—	—	7.5.YR5/2	7.5.YR5/1	灰褐色

第50表 重三台遺跡鉄製品計測表

押図番号	遺構番号	遺物番号	種 類	現在長(mm)	身幅(mm)	背幅(mm)	重量(g)	備 考
第318図8	SE001	2	布鉄	129	25	3～5	31.9	2つに割れている

第51表 重三台遺跡鉄滓観察表

押図番号	遺構番号	遺物番号	種別	遺存度	計測値(mm) []は現存値			色 調		色 名		備 考
					長さ	幅	厚み	外面	内面	外面	内面	
第322図110	トレンチ	16	椀形鍛冶滓	小破片	[9.1]	[5.1]	1.7	10YR5/1	5YR4/1	褐灰色	褐灰色	底面に僅かに砂粒が付着
第322図111	トレンチ	16	椀形鍛冶滓	小破片	[4.6]	[4.5]	1.6	7.5YR4/1	5YR4/1	褐灰色	褐灰色	表裏に錆化あり

第52表 重三台遺跡五輪塔計測表

押図番号	遺構番号	遺物番号	石材	計測値(cm)			重量(g)	備 考
				長さ	幅	厚み		
第322図112	トレンチ	12	安山岩	23.4	13.8	13.3	4730.0	空・風輪部分で、それぞれに梵字が入る

第53表 重三台遺跡磁石計測表

押図番号	遺構番号	遺物番号	種別	石材	計測値(cm) []は現存値			重量(g)	備 考
					長さ	幅	厚み		
第322図106	トレンチ	15	磁石	凝灰岩	[7.1]	3.6	3.2	124.0	
第322図107	トレンチ	15	磁石	凝灰岩	[8.5]	4.3	2.0	95.9	風化が著しい
第322図108	トレンチ	表採	磁石		[6.8]	1.8	1.2	16.6	
第322図109	トレンチ	15	磁石	砂岩	[6.9]	6.2	3.7	199.9	

報告書抄録

ふりがな	しゅとけんちゅうおううれんらくじどうしゃどうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしよ
書名	首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書
副書名	木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡
巻次	12
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第655集
編著者名	西川博孝 小林信一 新田浩三 加納 実 半澤幹雄
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043(424)4848
発行年月日	西暦2011年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
根岸古墳群・ 根岸小妻遺跡	木更津市根岸字 小妻台211-2ほか	206	290-02・04	35度 21分 26秒	140度 2分 10秒	2002.11.8～ 2003.3.28 2003.4.3～ 2004.3.19	調査対象面積 36,400㎡ 本調査面積 17,400㎡ 古墳18基	道路建設
重三台遺跡	木更津市根岸字 上根方217-1ほか	206	029-01	35度 21分 26秒	140度 2分 22秒	2002.10.1～ 2002.11.29	調査対象面積 2,500㎡ 本調査面積 0㎡	同上

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
根岸古墳群・ 根岸小妻遺跡	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点8ブ ロック	角錐状石器、ナイ フ形石器、撻器、 楔形石器、剃片、 石核、磨石、敲石 礫器	旧石器時代は文化層が異なるブ ロックを検出した。縄文時代は 早・前期の集落を検出したほか、 大浦山式土器や木島式土器が出土 した。弥生時代中期の方形周溝墓 と弥生時代後期後葉～古墳時代中 期の竪穴住居跡は重複がほとんど みられなかった。古墳時代に至っ ても方形周溝墓は墓域として認 識されていたことがわかる。古墳 の中には方形周溝墓の墳丘を取り 込んで墳丘が造られていたものが あった。埋葬施設に横穴式木室を 有する古墳が2基存在する。
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡2軒、 炉跡9基、集石土 坑9基、陥穴15基 土坑109基。	縄文土器（早期～ 中期）、石器、土 製品、石製品	
	墓域 集落跡	弥生時代～ 古墳時代中期	方形周溝墓54基、 竪穴住居跡21軒、 土坑11基	弥生土器（中期・ 後期）、土師器	
	墓域	古墳時代後 期	円墳15基、方墳6 基、溝跡1条	土師器、須恵器、 鉄製品、玉類	
重三台遺跡	包蔵地	奈良・平安 時代		土師器、須恵器、 緑釉陶器、灰釉陶 器、瓦	グリッド出土ではあるが、緑釉陶 器や香が蓋を検出し、付近に仏教 関連の施設の存在する可能性が明 らかとなった。また、五輪塔の 空・風輪が出土し、注目される。
	集落跡	中・近世	獨立柱建物跡2棟、 井戸跡2基、溝跡 1条	五輪塔、陶磁器、 土器、鉄製品	

要約	根岸古墳群・根岸小妻遺跡は調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓を避けて弥生時代後期後葉～古墳時代中期の集落が形成され、さらに古墳時代後期に至り、一部の方形周溝墓の墳丘を利用する形で古墳が築造されたことが明らかとなった。重三台遺跡は付近に奈良・平安時代の仏教関連施設が存在した可能性が認められる。
----	---

千葉県教育振興財団調査報告第655集

首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書12

－木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡－

(本文編)

平成23年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 国土交通省関東地方整備局
千葉国道事務所
千葉県稲毛区天台5丁目27番1号

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 三陽工業株式会社
市原市五井5510番地1

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書12

—木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡—
(写真図版編)

平成23年3月

国 土 交 通 省

財団法人 千葉県教育振興財団

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書12

きさらづ　ねぎし　ねぎしこづま　じゆさんだい
—木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡—
(写真図版編)



図 版 目 次

- 図版 1 遺跡周辺空中写真(1947年 約1/30,000)
図版 2 遺跡周辺空中写真(1970年 約1/10,000)
- 根岸古墳群・根岸小妻遺跡**
- 図版 3 調査前風景・調査区全景
図版 4 旧石器時代遺物出土状況(1)
図版 5 旧石器時代遺物出土状況(2)
図版 6 旧石器時代遺物出土状況(3)
図版 7 第1文化層 第1ブロック出土石器
図版 8 第1文化層 第2・第3ブロック
出土石器
図版 9 第2文化層 第4・第5ブロック
出土石器
図版 10 第2文化層 第6ブロック出土石器(1)
図版 11 第2文化層 第6ブロック出土石器(2)
図版 12 第2文化層 第7ブロック出土石器(1)
図版 13 第2文化層 第7ブロック出土石器(2)
図版 14 第2文化層 第7ブロック出土石器(3)
図版 15 第2文化層 第8ブロック出土石器
図版 16 SI001・SI022
図版 17 炉跡(1)
図版 18 炉跡(2)・集石土坑(1)
図版 19 集石土坑(2)
図版 20 集石土坑(3)
図版 21 集石土坑(4)・陥穴(1)
図版 22 陥穴(2)
図版 23 陥穴(3)
図版 24 陥穴(4)・土坑(1)
図版 25 土坑(2)・縄文土器出土土坑(1)
図版 26 縄文土器出土土坑(2)
図版 27 縄文土器出土土坑(3)
図版 28 縄文土器出土土坑(4)
図版 29 縄文土器出土土坑(5)
図版 30 縄文土器出土土坑(6)
図版 31 縄文土器出土土坑(7)
- 図版 32 縄文土器出土土坑(8)
・縄文時代礫等出土土坑(1)
図版 33 縄文時代礫等出土土坑(2)
図版 34 縄文時代礫等出土土坑(3)
・土坑 一その他一(1)
図版 35 土坑 一その他一(2)
図版 36 土坑 一その他一(3)
図版 37 土坑 一その他一(4)
図版 38 土坑 一その他一(5)
図版 39 土坑 一その他一(6)
図版 40 土坑 一その他一(7)・風景写真
図版 41 縄文時代遺構出土土器
図版 42 グリッド出土土器(1)
図版 43 グリッド出土土器(2)
図版 44 グリッド出土土器(3)
図版 45 グリッド出土土器(4)
図版 46 グリッド出土土器(5)
図版 47 グリッド出土土器(6)
図版 48 グリッド出土土器(7)
図版 49 グリッド出土土器(8)
図版 50 グリッド出土土器(9)
・グリッド出土土器製品
図版 51 グリッド出土土器接写
・縄文時代遺構出土土器
図版 52 グリッド出土土器(1)
図版 53 グリッド出土土器(2)
図版 54 グリッド出土土器(3)
図版 55 グリッド出土土器(4)
図版 56 グリッド出土土器(5)
図版 57 グリッド出土土器(6)
図版 58 グリッド出土土器(7)
図版 59 グリッド出土土器(8)
図版 60 SS001・SS002
図版 61 SS002・SS003・SS004
図版 62 SS004・SS005・SS006

図版 63	SS006・SS007・SS008・SS009・SS010	図版100	SI014・SI016
図版 64	SS011・SS012・SS013	図版101	SI017・SI018
図版 65	SS014・SS015	図版102	SI019・SI020
図版 66	SS016・SS017・SS018	図版103	SI021・SI023
図版 67	SS017・SS018・SS019	図版104	SK007・SK012・SK013・SK015 ・SK019・SK025・SK026・SK038 ・SK039・SK053・SD006
図版 68	SS019・SS020・SS021	図版105	SM001
図版 69	SS021・SS022	図版106	SM001
図版 70	SS022・SS023・SS024	図版107	SM001
図版 71	SS018・SS025・SS026	図版108	SM001
図版 72	SS022・SS027・SS028・SS029	図版109	SM001
図版 73	SS028・SS029	図版110	SM003
図版 74	SS030	図版111	SM003
図版 75	SS031・SS032	図版112	SM003
図版 76	SS033・SS034	図版113	SM003
図版 77	SS035・SS036	図版114	SM004
図版 78	SS036・SS037・SS038	図版115	SM004
図版 79	SS037・SS038	図版116	SM004
図版 80	SS038	図版117	SM004
図版 81	SS039・SS040・SS041・SS045・SS046	図版118	SM005
図版 82	SS040・SS041	図版119	SM006
図版 83	SS042・SS043・SS044・SS049	図版120	SM006
図版 84	SS043・SS044	図版121	SM006
図版 85	SS045・SS046	図版122	SM007
図版 86	SS047・SS048	図版123	SM007
図版 87	SS048	図版124	SM007
図版 88	SS048・SS049	図版125	SM007
図版 89	SS050・SS051	図版126	SM009
図版 90	SS051	図版127	SM010
図版 91	SS052	図版128	SM010
図版 92	SS052・SS053	図版129	SM010
図版 93	SS053	図版130	SM010
図版 94	SS053・SS054	図版131	SM011
図版95	SI002・SI003	図版132	SM011
図版96	SI003・SI004・SI006	図版133	SM012
図版97	SI005・SI007・SI008	図版134	SM013・SM014
図版98	SI009・SI010		
図版99	SI011・SI012・SI013		

- 図版135 SM015 弥生時代～古墳時代土坑出土土器
- 図版136 SM015 ・古墳出土土器（1）
- 図版137 SM016・SM017・SM018 図版151 古墳出土土器（2）
- 図版138 SM017・SM018 図版152 古墳出土土器（3）
- 図版139 SM018 ・古墳出土の弥生土器（1）
- 図版140 SM018 図版153 古墳出土の弥生土器（2）
- 図版141 SM019・SM020・SM021・SM022 図版154 古墳出土の弥生土器（3）
- ・SM023 ・グリッド等出土土器・砥石
- 図版142 方形周溝墓出土土器（1） 図版155 古墳出土金属製品（1）
- 図版143 方形周溝墓出土土器（2） 図版156 古墳出土金属製品（2）
- 図版144 方形周溝墓出土土器（3）・弥生時代～ 図版157 古墳出土金属製品（3）
- 古墳時代住居跡出土土器（1） 図版158 古墳出土金属製品（4）
- 図版145 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 図版159 古墳出土金属製品（5）
- 出土土器（2） 図版160 古墳出土及びグリッド等出土金属製品
- 図版146 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 出土土器（3）
- 図版147 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 出土土器（4）
- 図版148 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 出土土器（5）
- 図版149 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 出土土器（6）
- 図版150 弥生時代～古墳時代竪穴住居跡 出土土器（7）
- 重三台遺跡**
- 図版161 重三台遺跡調査前風景・SE001・SE002
- 図版162 調査区全景・グリッド遺物出土状況
- 図版163 グリッド遺物出土状況
- 図版164 出土遺物（1）
- 図版165 出土遺物（2）
- 図版166 出土遺物（3）
- 図版167 出土遺物（4）

写真図版



图版1 遺跡周辺空中写真(1947年、約1/30,000)





調査前風景



調査区全景



調査区全景



1. 第1文化層 第1ブロック 北壁A~A' (南から)



2. 第1文化層 第1ブロック 東壁(1) B~B' (西から)



3. 第1文化層 第1ブロック 東壁(2) B~B' (西から)



4. 第1文化層 第2ブロック 断面 (東から)



5. 第1文化層 第3ブロック 南壁断面A~A' (北から)



6. 第2文化層 第4ブロック 遺物出土 (南から)



7. 第2文化層 第4ブロック 北壁断面A~A' (1) (南から)



8. 第2文化層 第4ブロック 北壁断面A~A' (2) (南から)



1. 第2文化層 第5ブロック 遺物出土 (西から)



2. 第2文化層 第5ブロック 北壁断面A~A' (南から)



3. 第2文化層 第6ブロック 遺物出土(1) (南から)



4. 第2文化層 第6ブロック 遺物出土 (東から)



5. 第2文化層 第6ブロック 断面 (東から)



6. 第2文化層 第6ブロック 遺物出土(2) (南から)



7. 第2文化層 第7ブロック 西壁セクションA~A' 断面 (東から)



8. 第2文化層 第7ブロック 遺物出土 (南から)

旧石器時代遺物出土状況(2)



1. 第2文化層 第7ブロック 遺物出土 (東から)



2. 第2文化層 第7ブロック 遺物出土 (南から)



3. 第2文化層 第6ブロック 遺物出土 (東から)



4. 第2文化層 第7ブロック 遺物出土 (東から)



5. 第2文化層 第8ブロック 北壁A~A'断面 (南から)



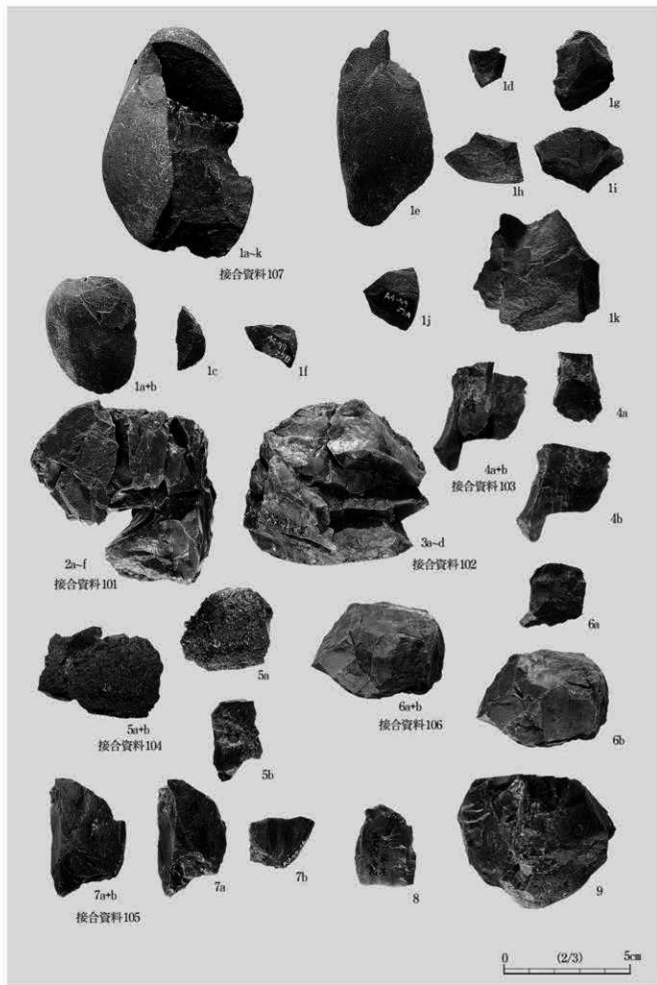
6. 第2文化層 第8ブロック 遺物出土 (東から)



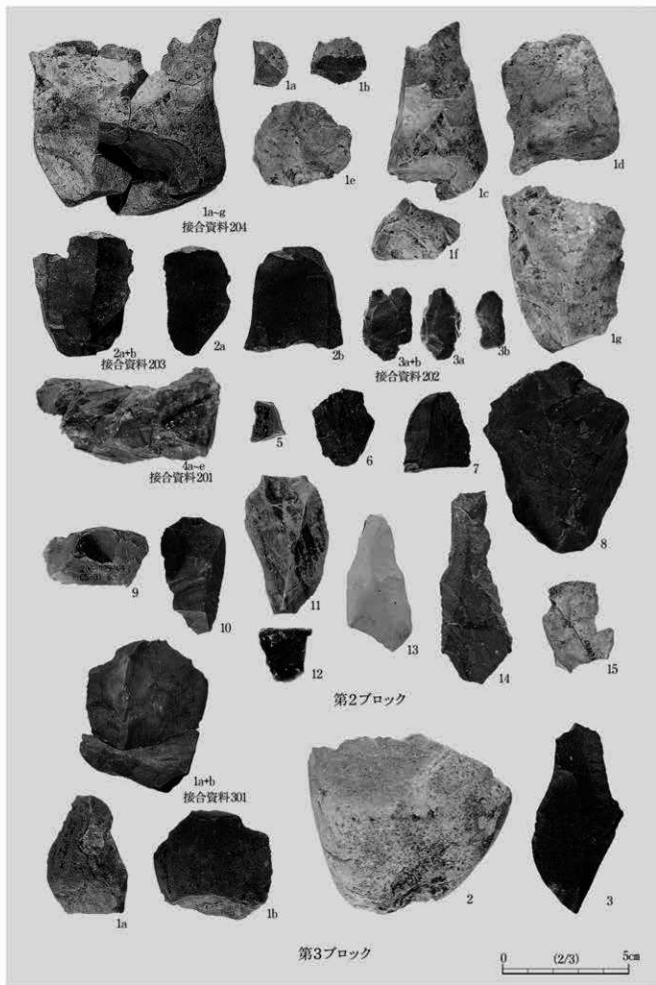
7. 第2文化層 第8ブロック 断面 (南から)



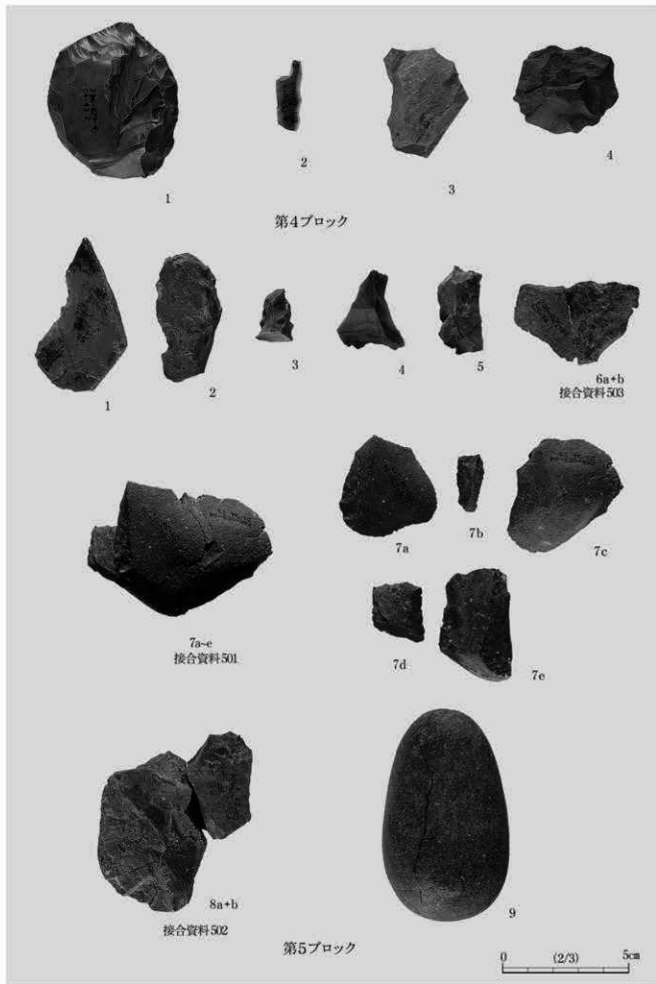
8. 第2文化層 第8ブロック 遺物出土 (西から)



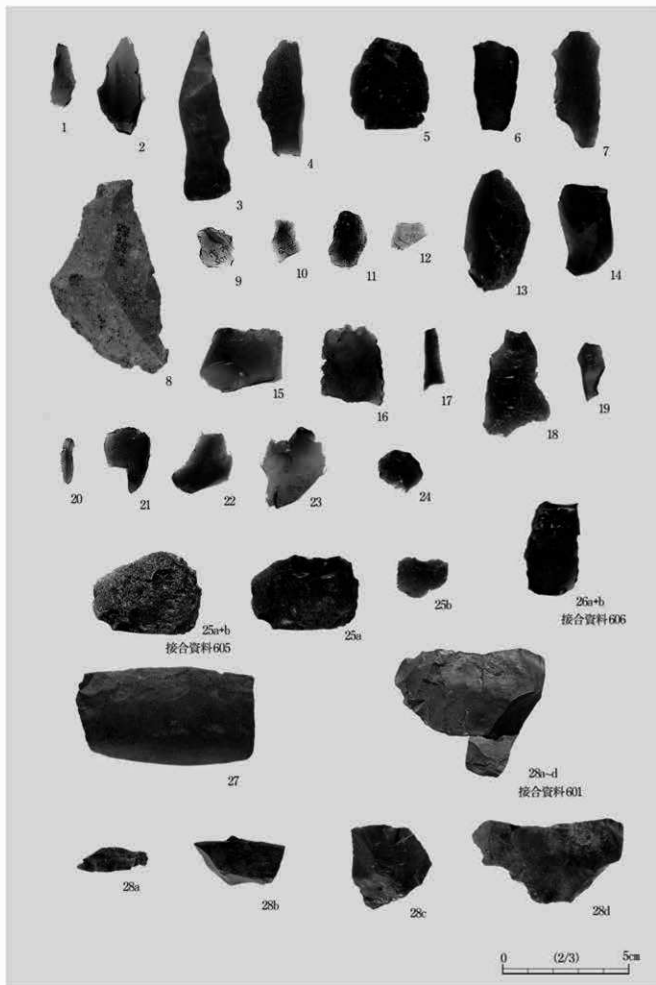
第1文化層 第1ブロック出土石器



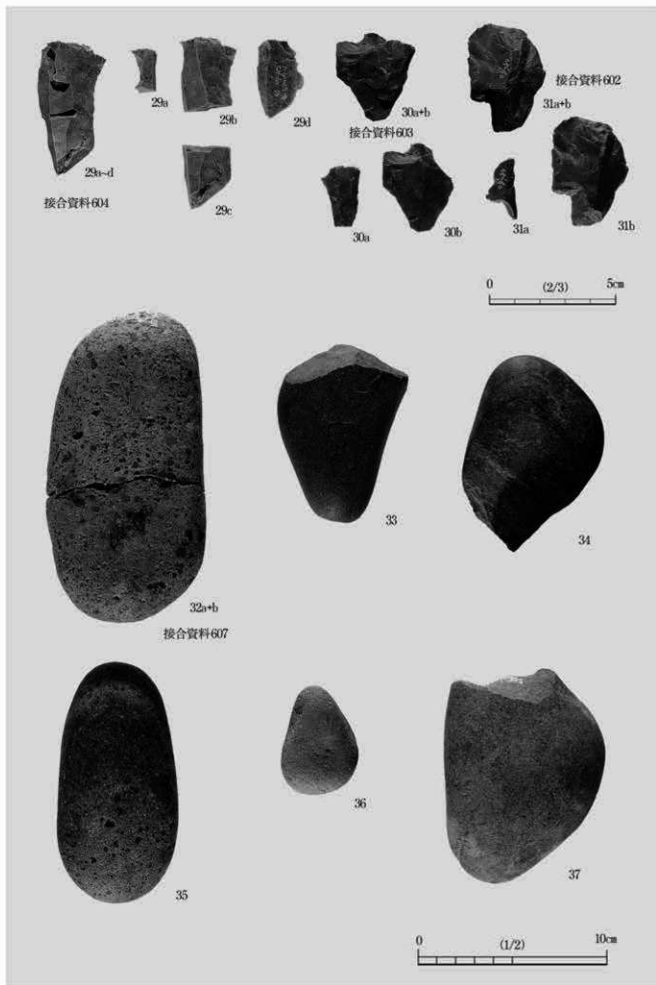
第1文化層 第2・第3ブロック出土石器



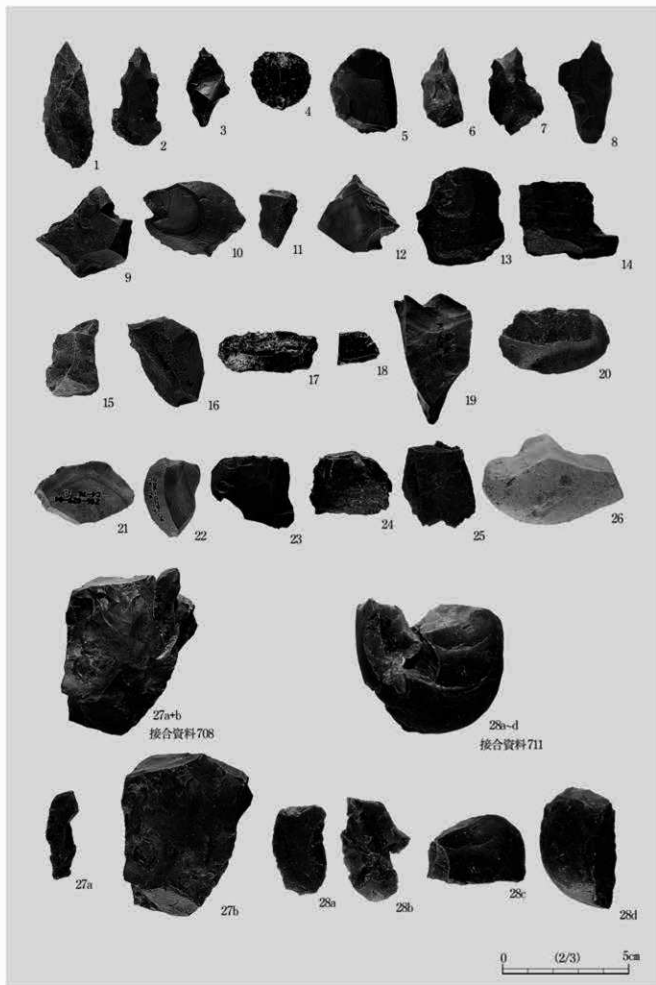
第2文化層 第4・第5ブロック出土石器



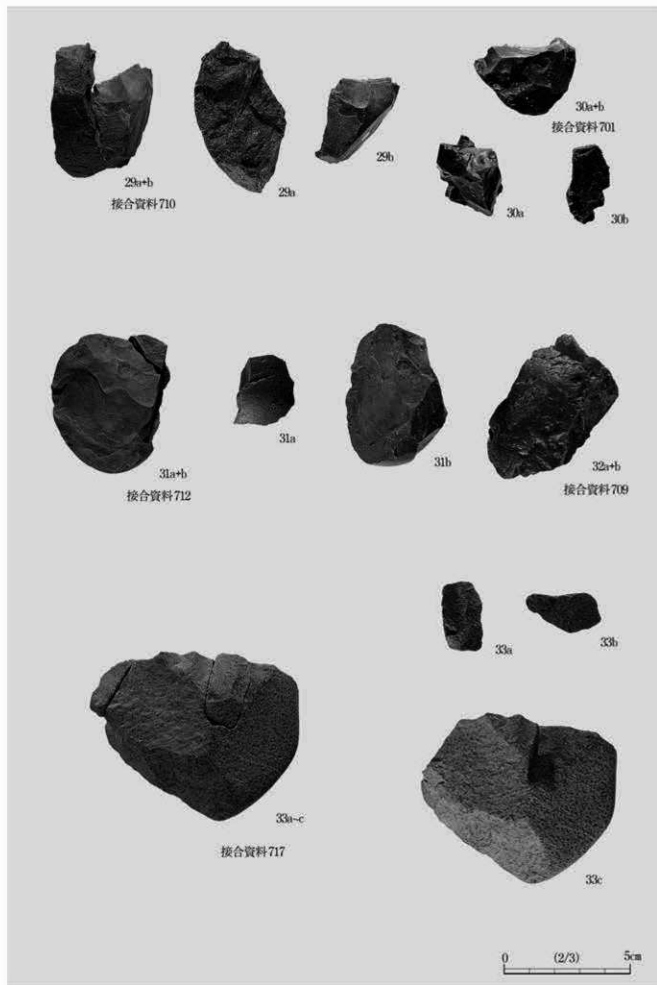
第2文化層 第6ブロック出土石器(1)



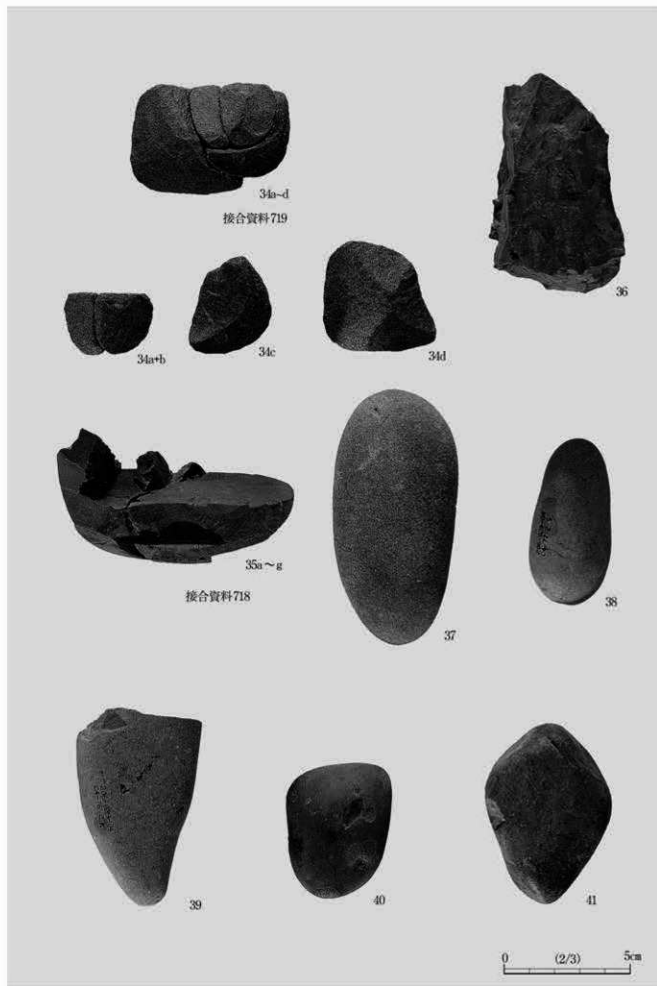
第2文化層 第6ブロック出土石器(2)



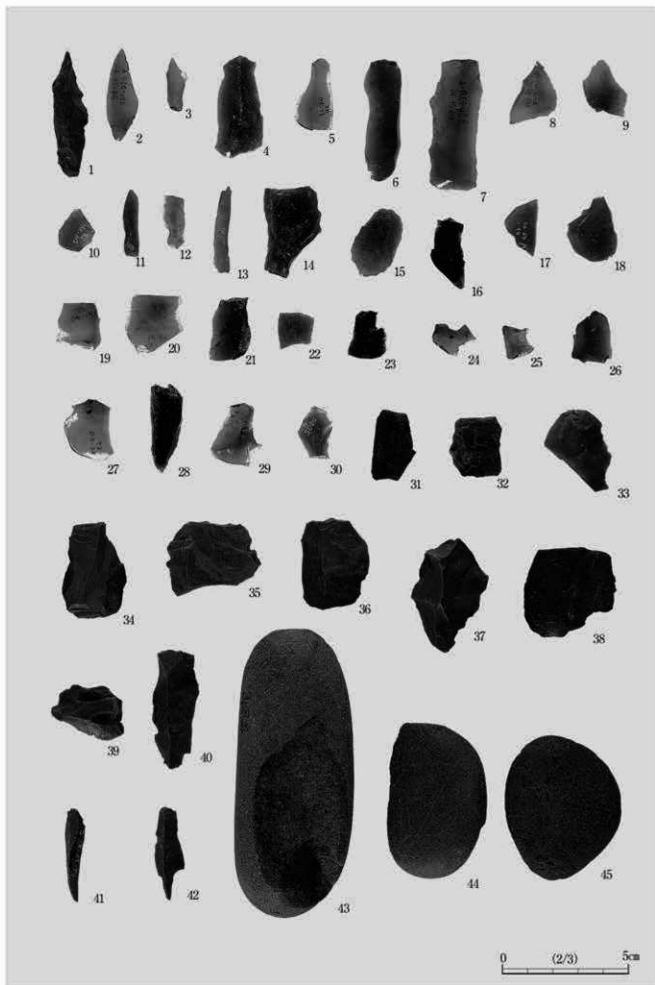
第2文化層 第7ブロック出土石器(1)



第2文化層 第7ブロック出土石器(2)



第2文化層 第7ブロック出土石器(3)



第2文化層 第8ブロック出土石器



SI001



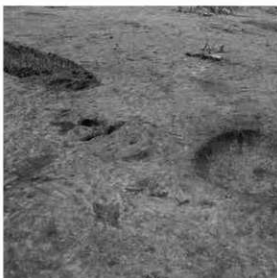
SI022



SI022 炉



左 SK082・SK083
南西から
右 SK082・SK083



左 SK098
右 SK128



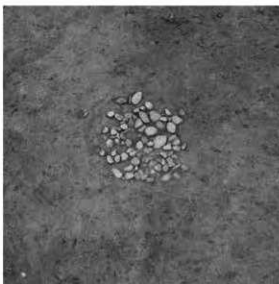
左 SK134 西から
右 SK134



左 SK140 東から
右 SK142



左 SK150 西から
右 SX001・SX002・SX003



左 SX001 検出 南から
右 SX001 2面 南から

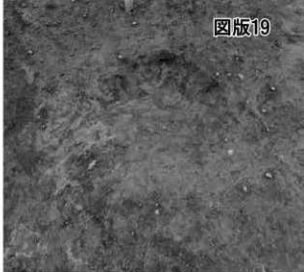


左 SX001 3面
右 SX001 4面



左 SX001 完掘
右 SX002 検出 南から

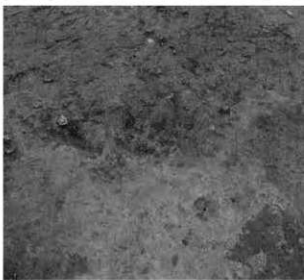
左 SX002 2面
右 SX002 完掘



左 SX003 検出 南から
右 SX003 2面



左 SX003 3面
右 SX003 完掘



左 SX004 検出 南から
右 SX004 2面

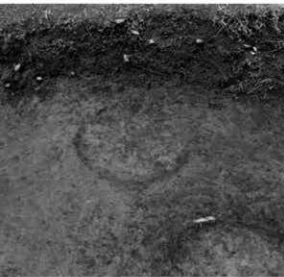




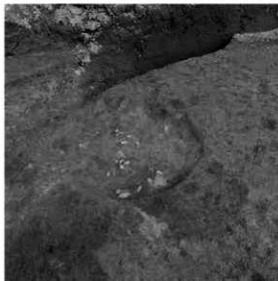
左 SX004 完掘
右 SX005 検出



左 SX005 2面
右 SX005 3面



左 SX005 完掘
右 SX006 検出



左 SX006 2面
右 SX006 3面

左 SX006 完掘
右 SX007 検出



左 SX007 完掘
右 SX008 検出 南東から

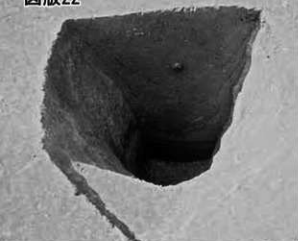


左 SX009 検出 南東から
右 SX009 2面 東から



左 SX009 完掘 北から
右 SK018





左 SK018 (セクション)
右 SK022 西から



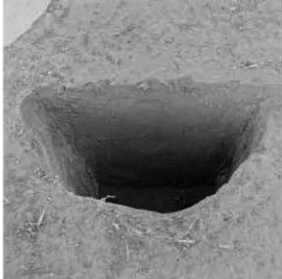
左 SK060 南から
右 SK063



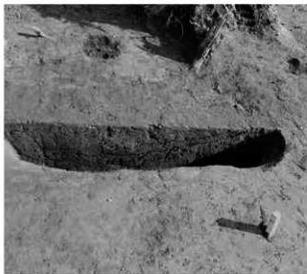
左 SK063
(セクション) 南西から
右 SK073 北から



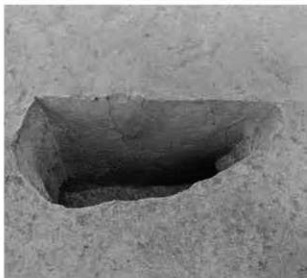
左 SK073
(セクション) 西から
右 SK075 西から



左 SK075 (セクション)
右 SK076 東から



左 SK084 西から
右 SK084
(セクション) 西から



左 SK121
右 SK121
(セクション) 南から



左 SK125 北から
右 SK125
(セクション) 北から



左 SK141 南から
右 SK152



左 SK152
(セクション) 南西から
右 SK153



左 SK156 北東から
右 SK156
(セクション) 東から



左 SK008
右 SK051

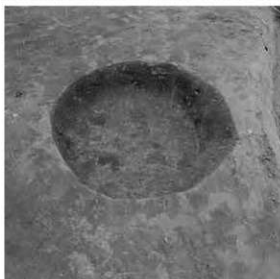
左 SK051
 (セクション) 南東から
 右 SK0085・SK086・SK087
 西から



左 SK085
 (セクション) 西から
 右 SK003



左 SK029
 右 SK030 北から



左 SK032
 右 SK033 南から





左 SK033
(セクション) 南から
右 SK045



左 SK045
(セクション) 東から
右 SK046 南西から



左 SK046
(セクション) 南西から
右 SK056



左 SK056
(セクション) 東から
右 SK059 南から



左 SK061 南から
右 SK061 (セクション)



左 SK062
右 SK062 (セクション)



左 SK064
右 SK064 (セクション)



左 SK066 西から
右 SK066
(セクション) 南から



左 SK069
(セクション) 東から
右 SK074 東から



左 SK077 西から
右 SK077 (セクション)



左 SK079
(セクション) 西から
右 SK081 東から

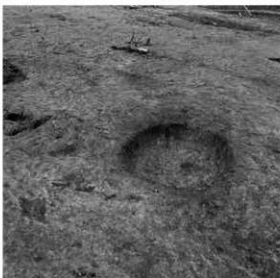


左 SK081 南から
右 SK096・SK099・SK093・
SK094・SK095

左 SK096
 (セクション) 北東から
 右 SK099
 (セクション) 北から



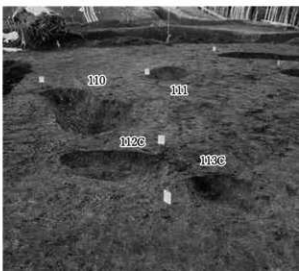
左 SK097
 右 SK097 (セクション)

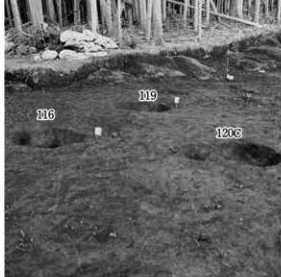


左 SK103
 右 SK103
 (セクション) 北から

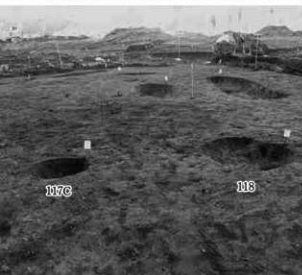


左 SK108
 右 SK110・SK111・
 SK112C・SK113C 南から





左 SK114・SK115 南から
右 SK116・SK119・SK120C



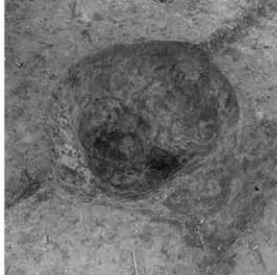
左 SK117C・SK118
右 SK122



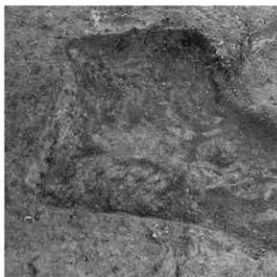
左 SK122
(セクション) 西から
右 SK126



左 SK129C・SK130・SK131C
SK132・SK133D 南から
右 SK130
(セクション) 南西から



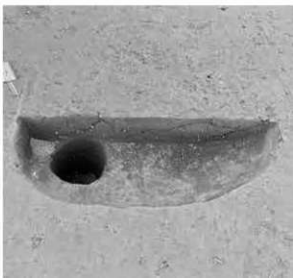
左 SK135
 右 SK135
 (セクション) 北東から



左 SK136 東から
 右 SK136
 (セクション) 東から



左 SK137 東から
 右 SK137
 (セクション) 東から



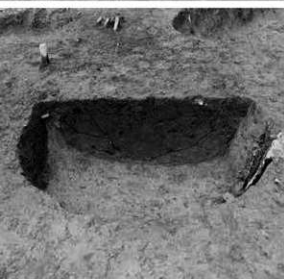
左 SK139
 右 SK139
 (セクション) 東から



左 SK138 北東から
右 SK138
(セクション) 南東から



左 SK151
右 SK050 南から

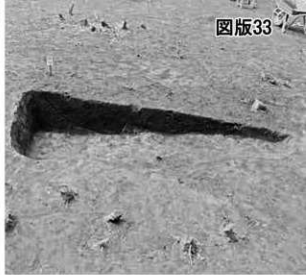


左 SK059
(セクション) 東から
右 SK001

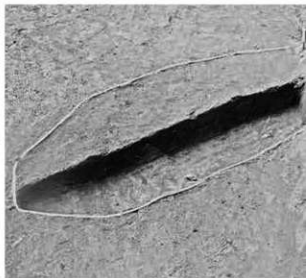


左 SK002
右 SK024 南東から

左 SK054
 右 SK054
 (セクション) 東から



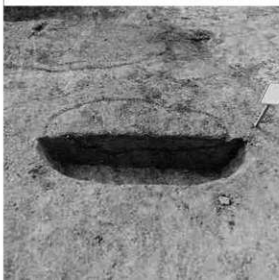
左 SK057
 右 SK057
 (セクション) 東から

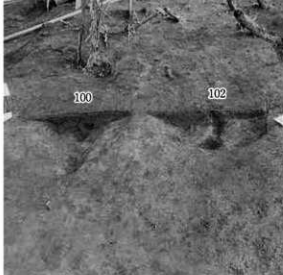


左 SK080
 (セクション) 東から
 右 SK093
 (セクション) 南から

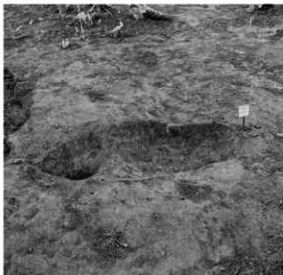


左 SK094
 (セクション) 北から
 右 SK095
 (セクション) 西から





左 SK100・SK101・SK102
右 SK100・SK102
(セクション) 西から



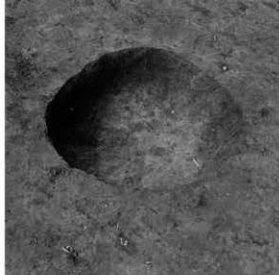
左 SK101
(セクション) 北から
右 SK109 南から



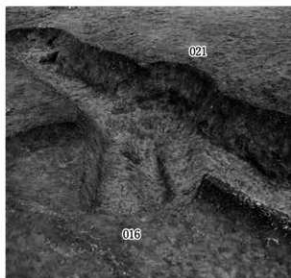
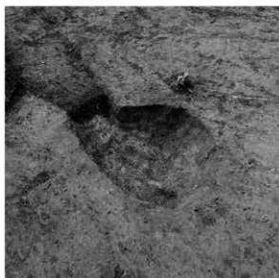
左 SK129 南西から
右 SK129
(セクション) 南西から



左 SK145
右 SK004



左 SK009
右 SK010



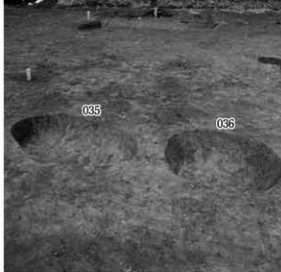
左 SK011
右 SK016・SK021 南から



左 SK017 東から
右 SK027



左 SK028
右 SK031 北から



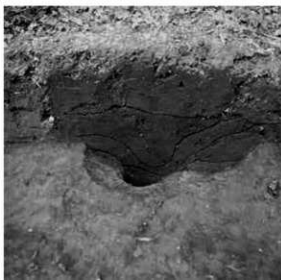
左 SK034
右 SK035・SK036



左 SK037 南西から
右 SK040 南から



左 SK041 南から
右 SK042 北東から



左 SK042 (セクション)
右 SK044
(セクション) 東から



左 SK049 東から
西 SK049
(セクション) 南から



左 SK067
西 SK067 (セクション)



左 SK070 西から
右 SK071 南から



左 SK072 北から
右 SK078
(セクション) 西から



左 SK088・SK092 西から
右 SK090・SK091 西から



左 SK090
(セクション) 西から
右 SK091
(セクション) 西から



左 SK104
右 SK104 南東から



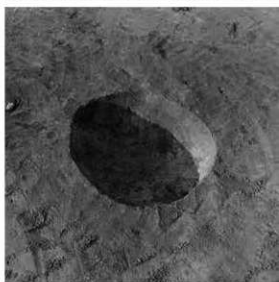
左 SK106
右 SK123



左 SK123
 (セクション) 北から
 右 SK124



左 SK124 (セクション) ①
 右 SK124 (セクション) ②



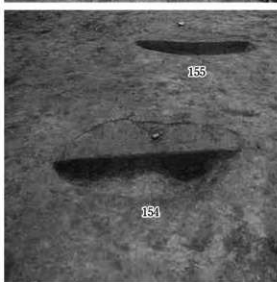
左 SK143
 右 SK144 南から



左 SK146
 右 SK147



左 SK148
右 SK149



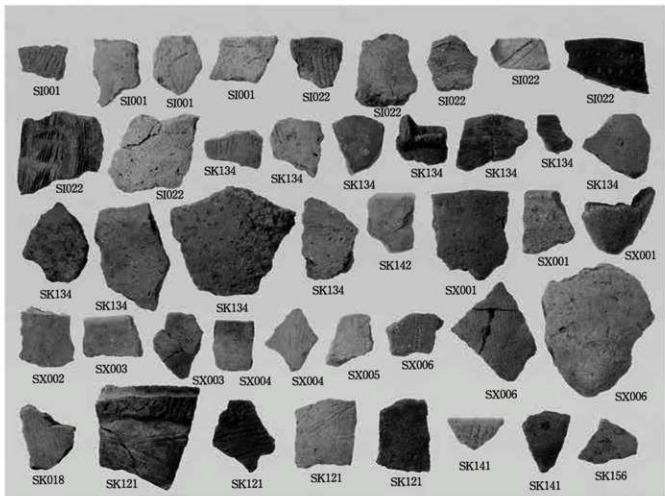
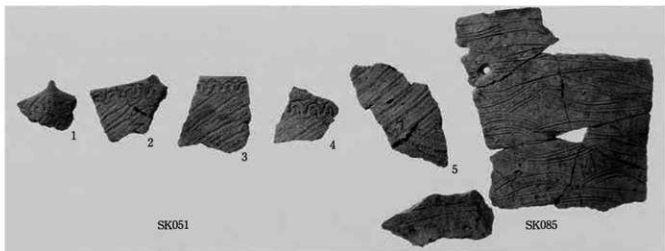
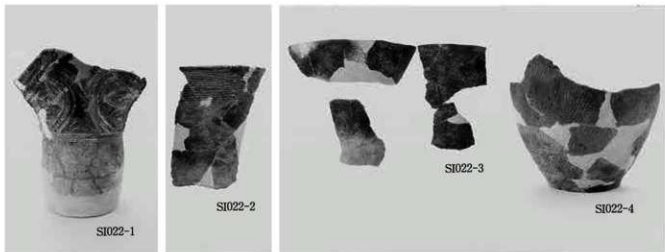
左 SK154
右 SK154
(セクション) 北東から



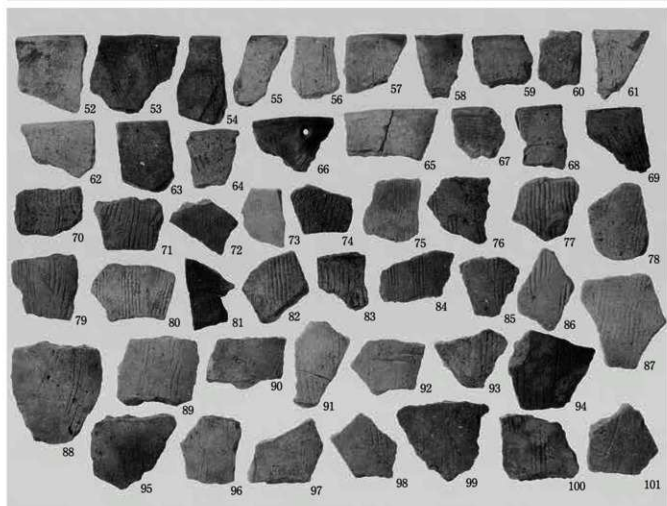
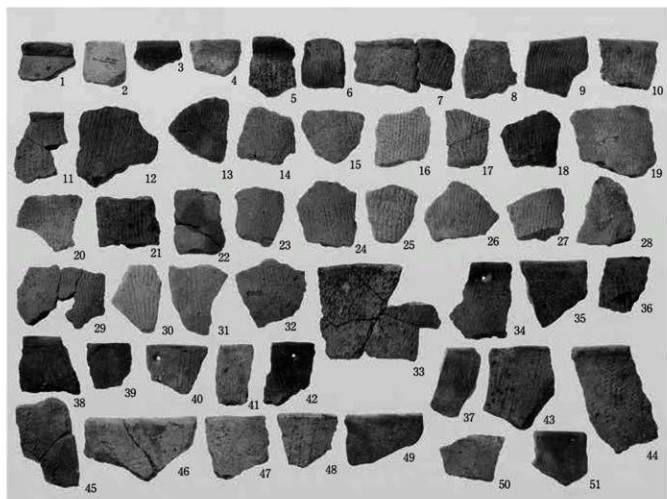
左 SK155
(セクション) 北東から
右 SK155



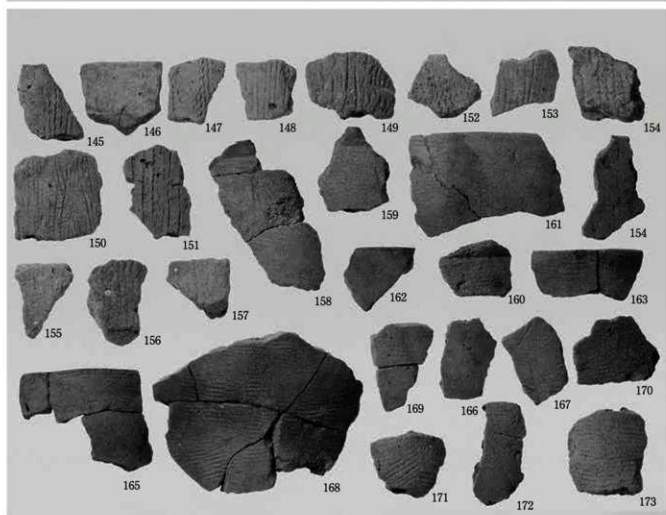
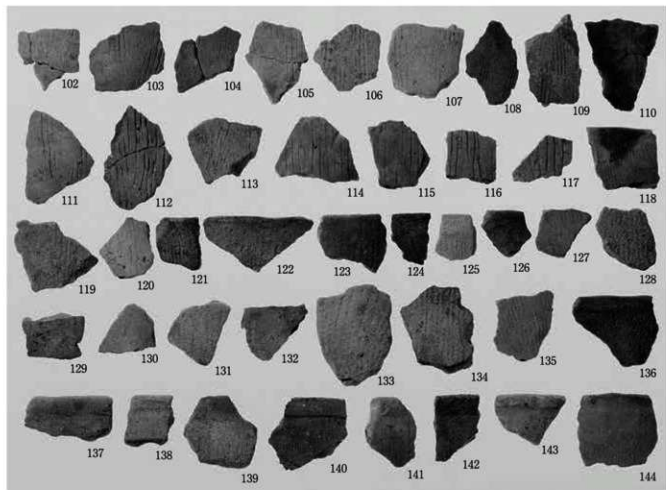
左 体験発掘風景
右 現場説明会風景



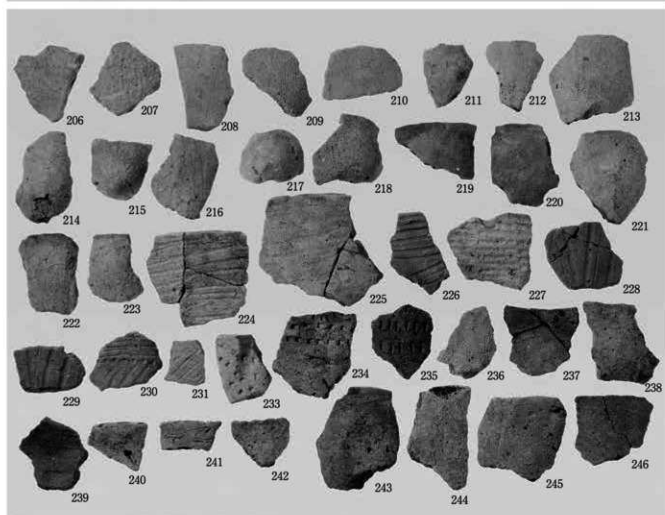
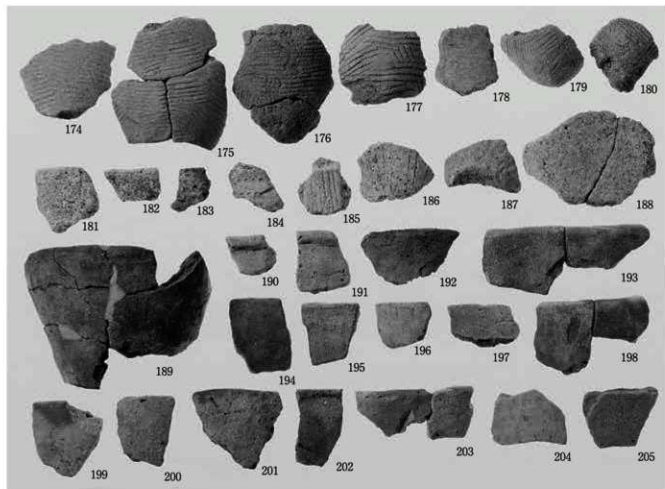
縄文時代遺構出土土器



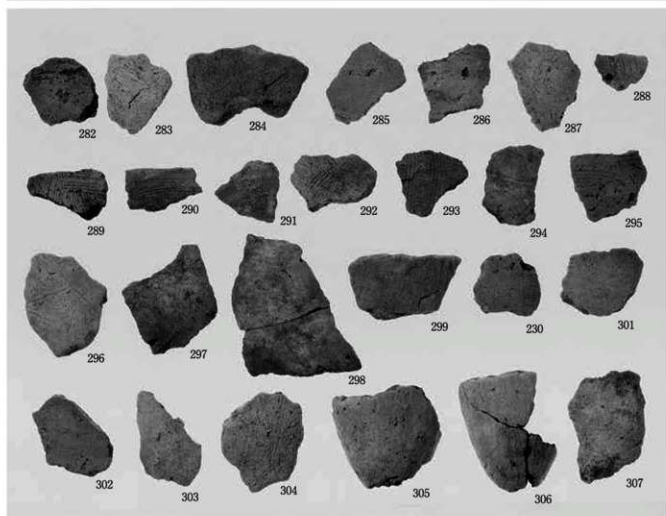
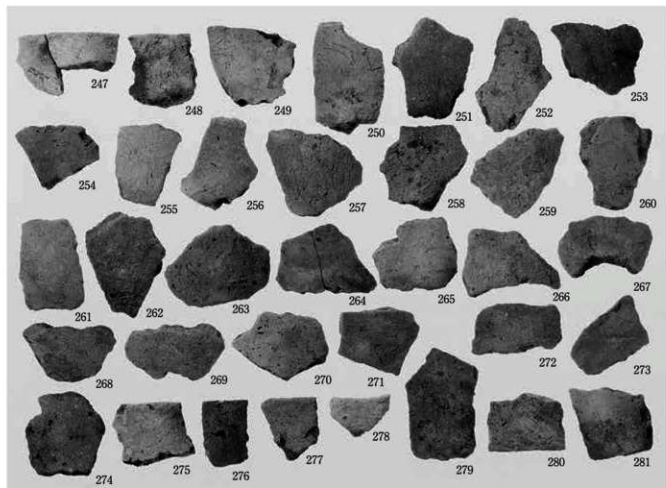
グリッド出土土器 (1)



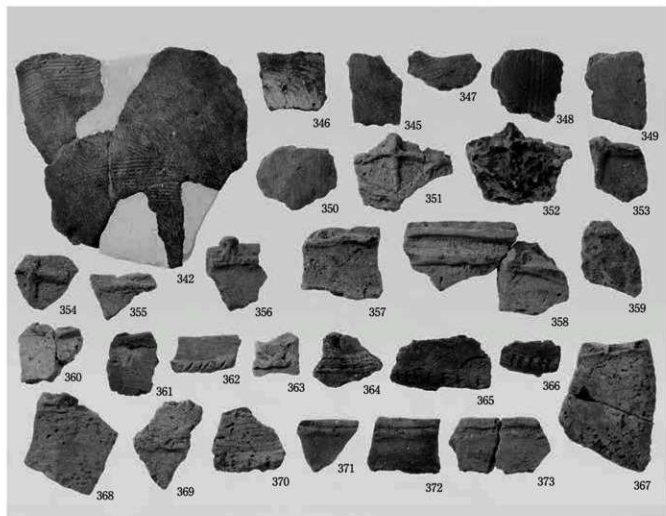
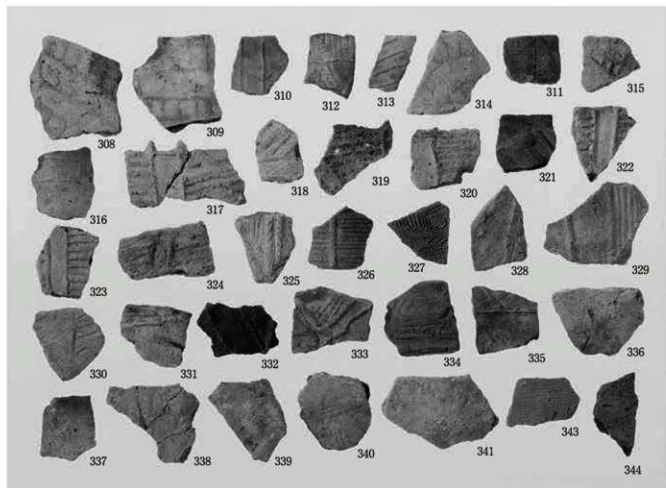
グリッド出土土器 (2)

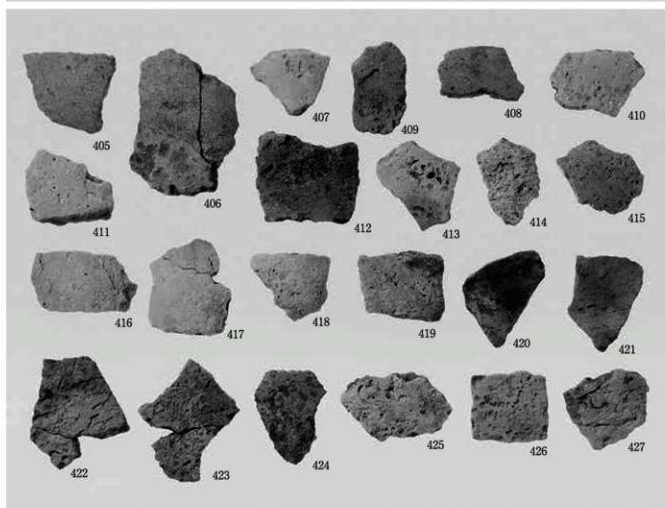
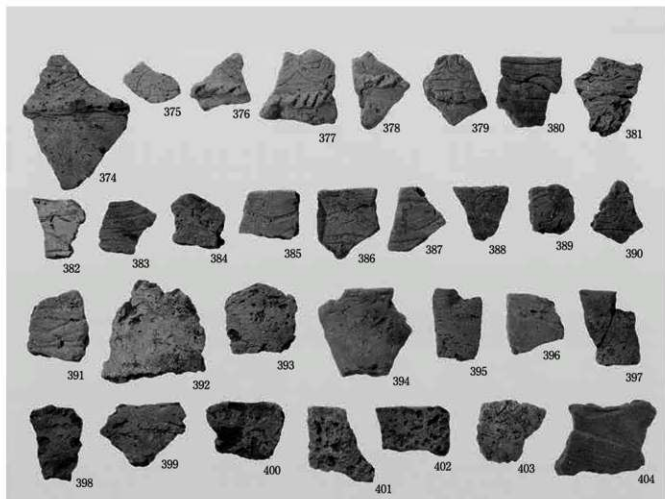


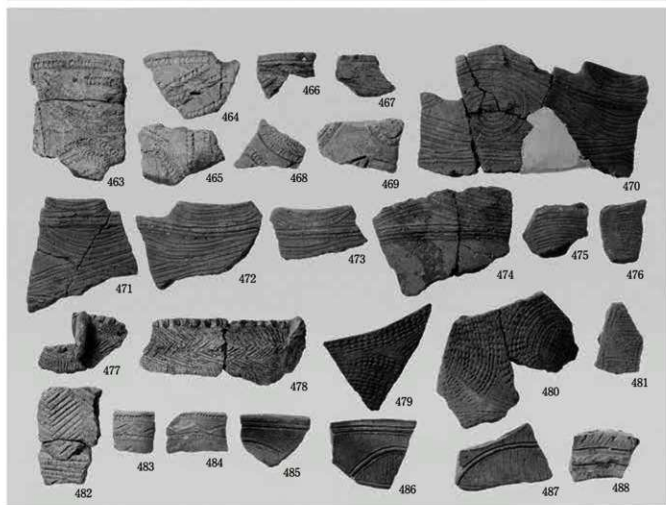
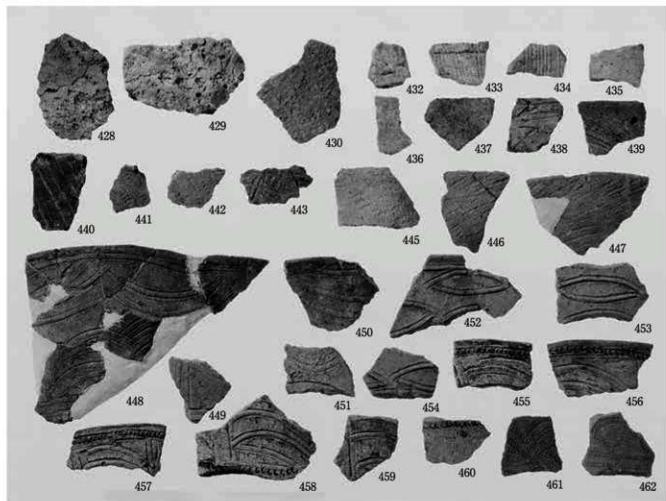
グリッド出土土器 (3)

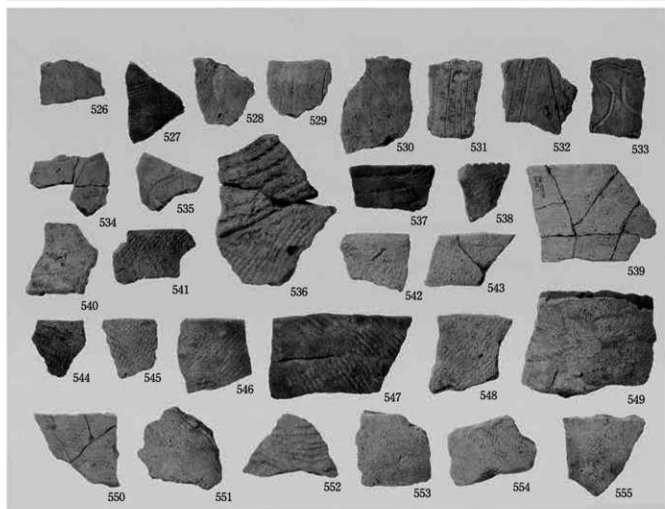
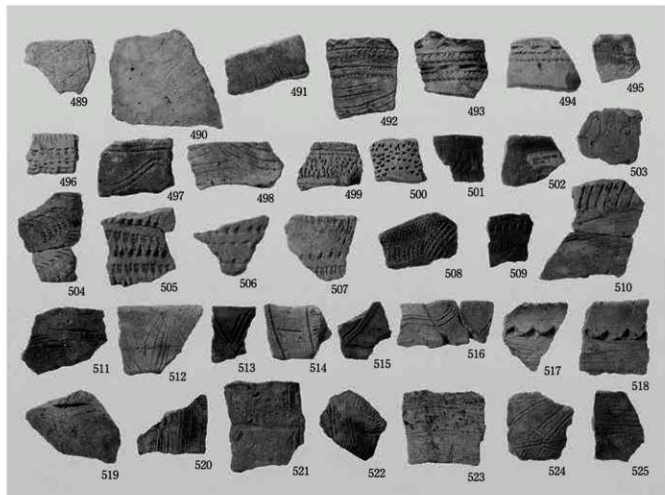


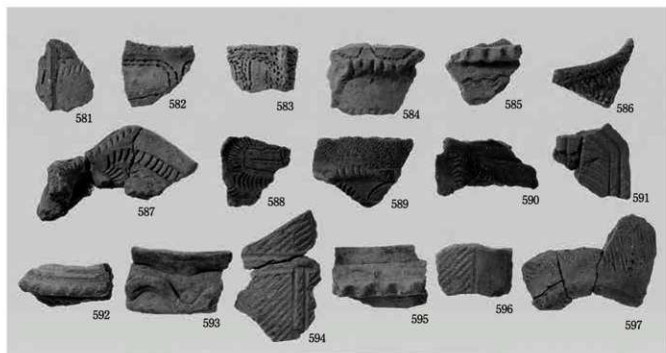
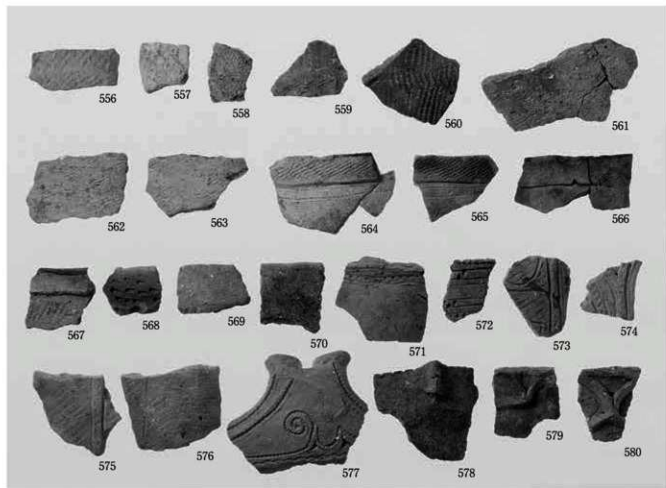
グリッド出土土器 (4)







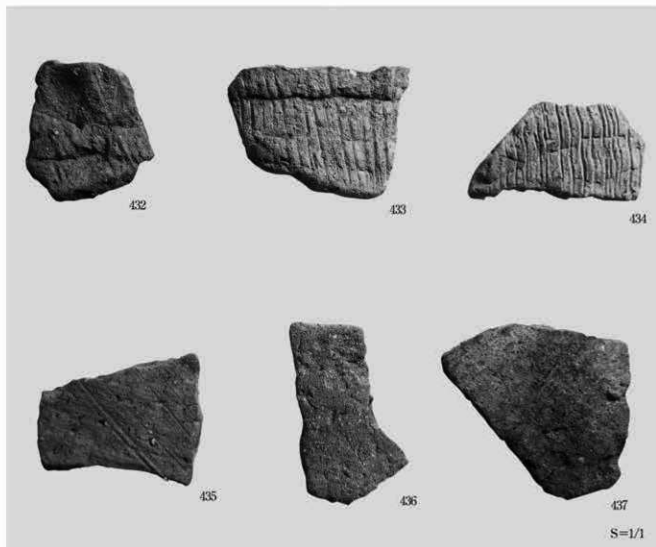




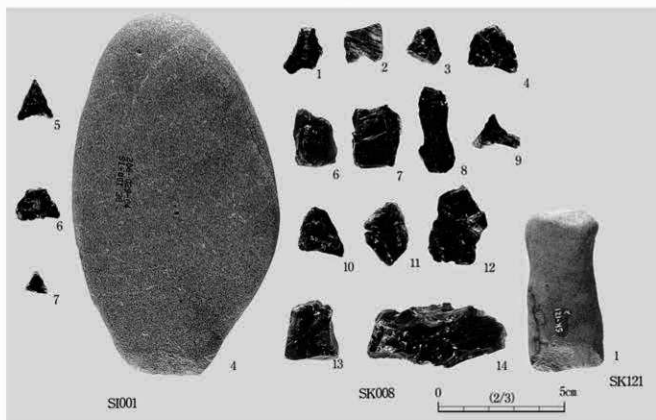
グリッド出土土器 (9)



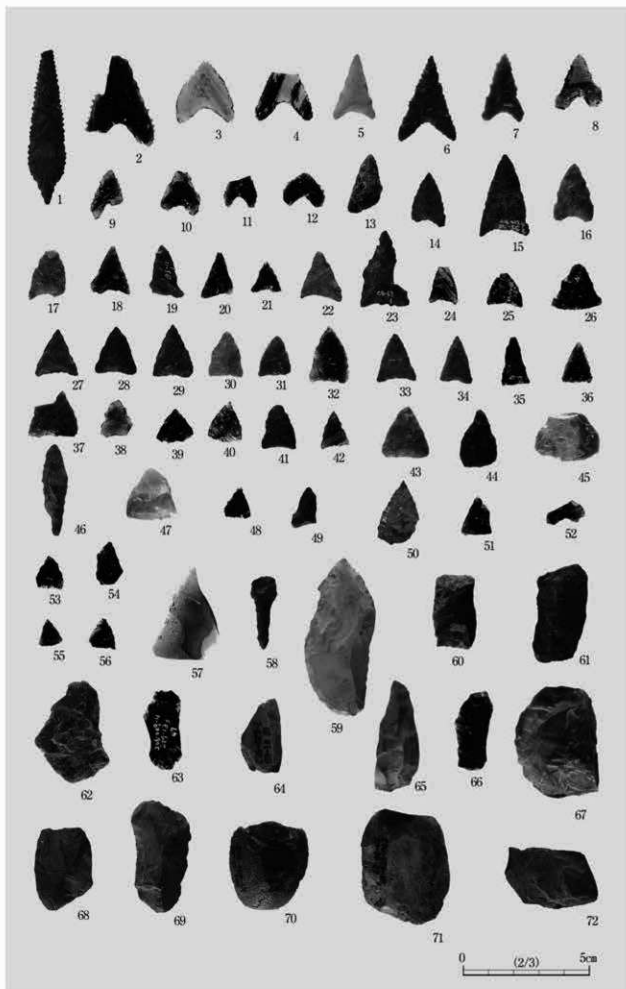
グリッド出土土製品



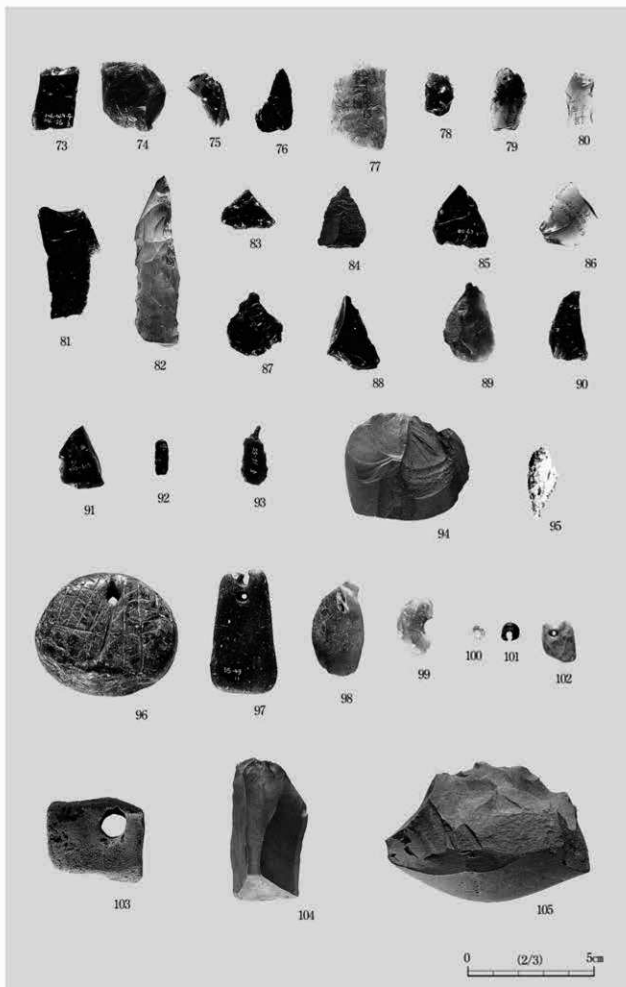
グリッド出土土器接写



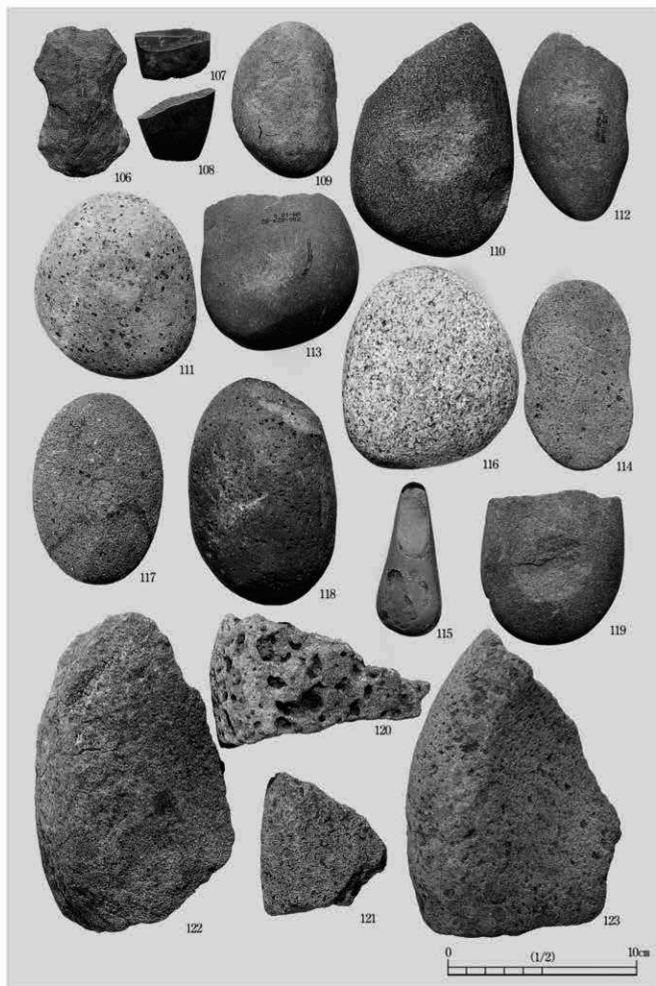
縄文時代遺構出土石器



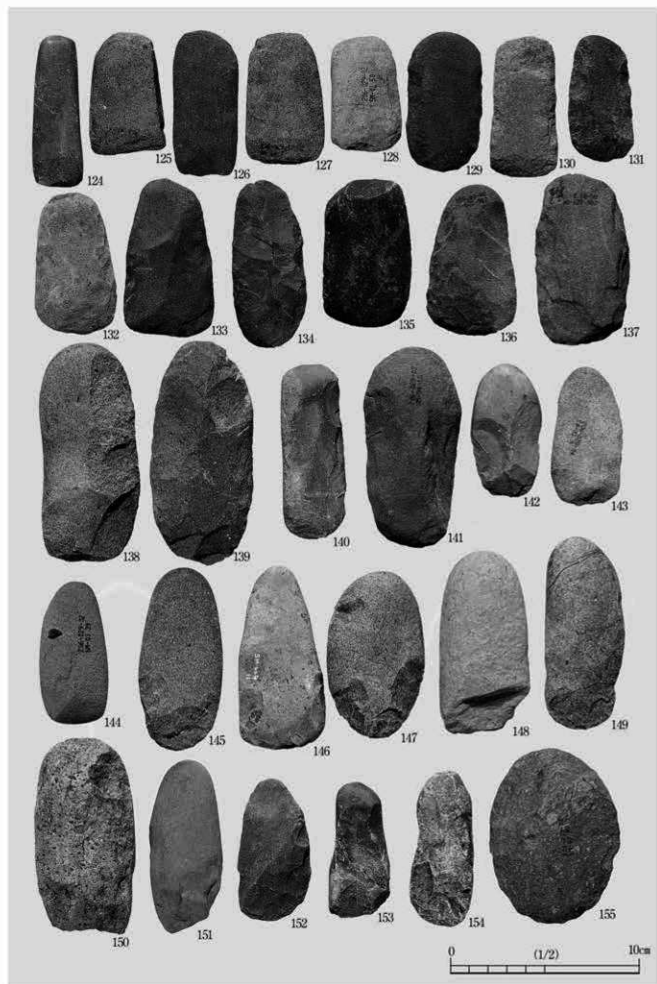
グリッド出土石器(1)



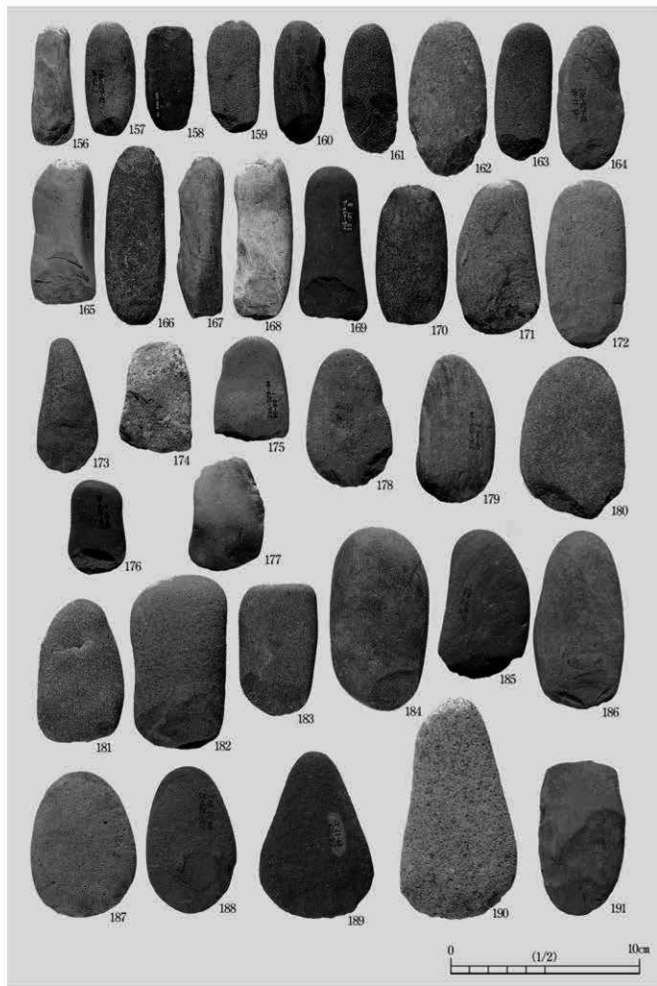
グリッド出土石器(2)



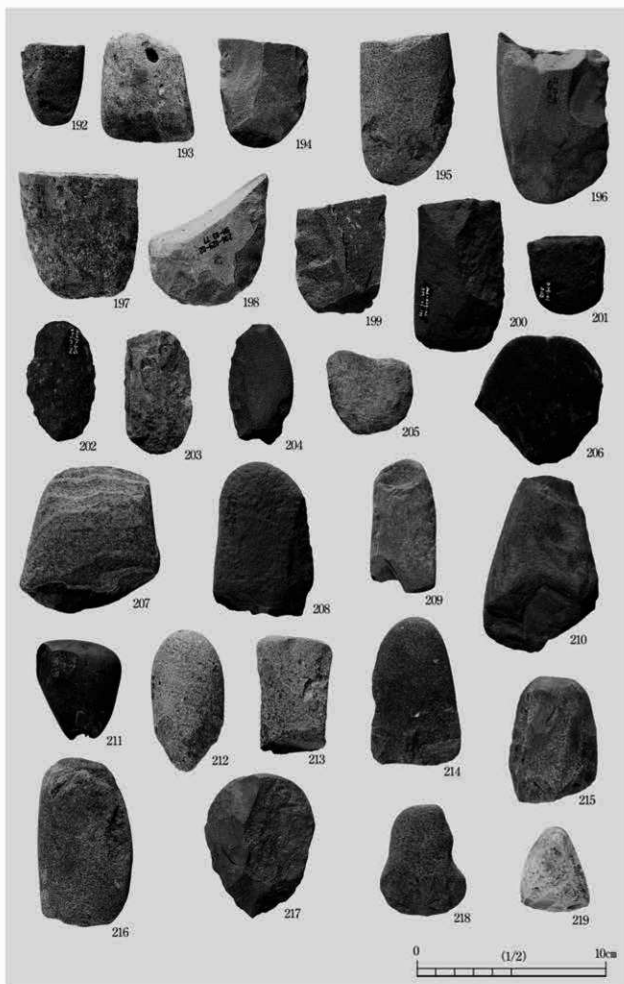
グリッド出土石器 (3)



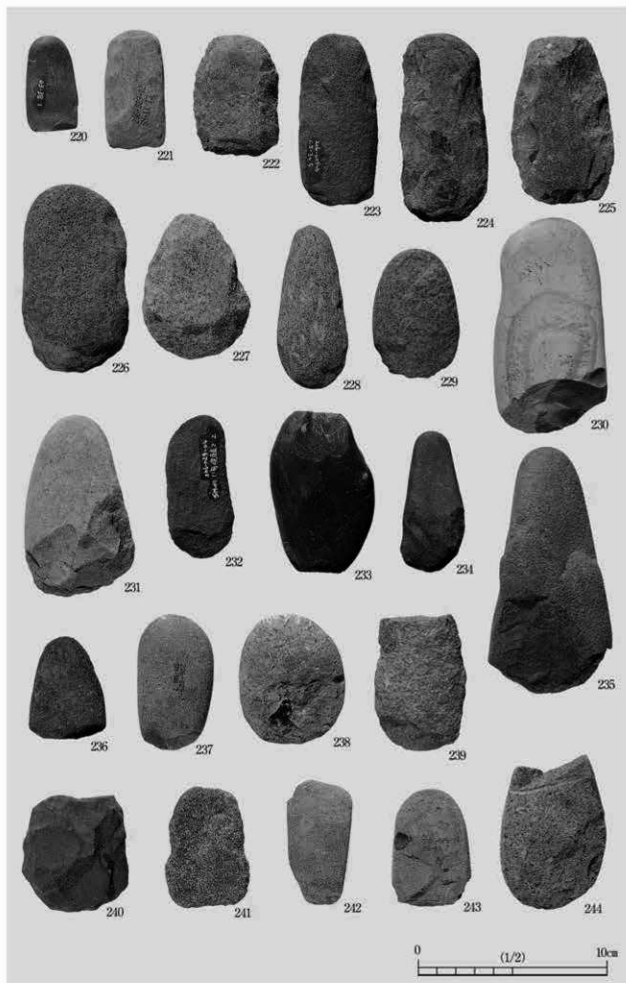
グリッド出土石器(4)



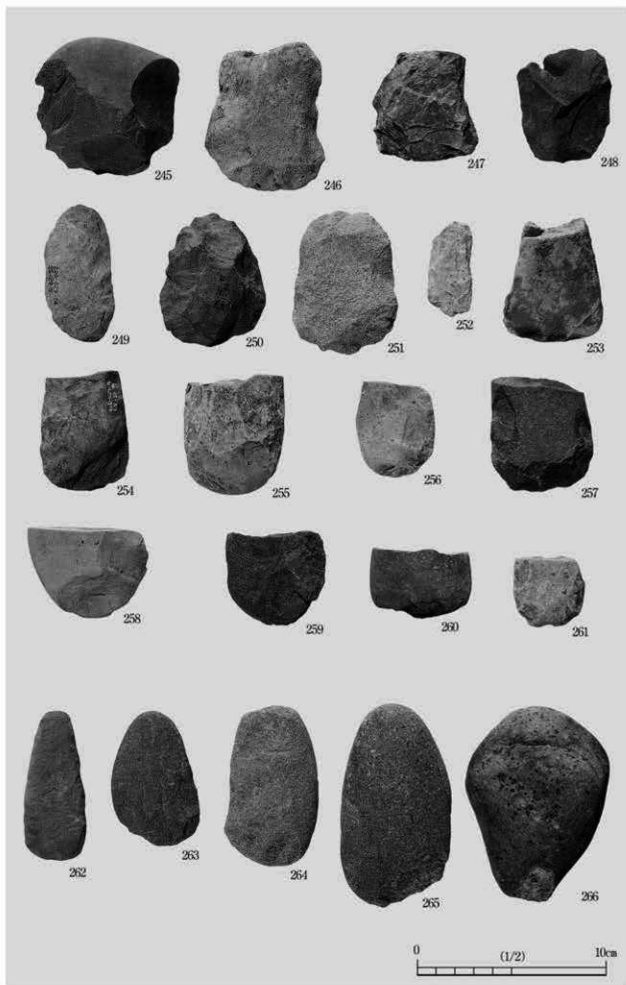
グリッド出土石器(5)



グリッド出土石器(6)



グリッド出土石器(7)



グリッド出土石器 (8)



SS001
全景 南東から



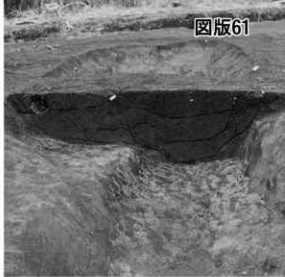
SS001
左 北溝 南から
右 東溝 南東から



SS001
左 南溝 北東から
右 西溝 南西から



SS002
全景 南西から



SS002

左 東溝 北東から

右 西溝 南西から



SS003

全景 南西から



SS004

全景 南西から



SS004

左 南溝 南東から

右 西溝 南西から



SS005

全景 南西から



SS006

全景 南西から

SS006

左 南溝 北西から
右 西溝 南西から



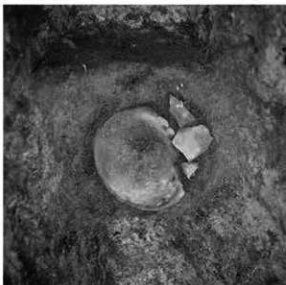
SS007

左 全景 南から
右 埋葬施設 西から



SS008

左 西溝遺物出土状況
右 南溝遺物出土状況



SS009

左 全景 南西から

SS010

右 全景 南西から





SS011
全景 南から



SS012
全景 南から



SS012
左 埋葬施設
右 埋葬施設完掘



SS013
全景 南西から



SS014
全景 南西から



SS014
左 北溝 南西から
右 南溝 東から



SS014
左 西溝 南西から
右 東溝遺物出土状況
北東から



SS015
全景 北から



SS016
全景 南東から



SS017
全景 南東から



SS018
全景 南西から



SS017
左 埋葬施設 南から
SS018
右 北溝 東から



SS018
左 東溝 南から
右 南溝 東から



SS018
左 西溝 北から
SS019
右 全景 東から



SS019
左 北溝 東から
右 東溝 南から





SS019

左 南溝 東から
右 西溝 北から



SS020

全景 北東から



SS020

左 東溝 北から
右 南溝 南西から



SS021

全景 北東から



SS021

左 北溝 南東から
右 東溝 北東から



SS021

左 南溝 南東から
右 西溝 北東から



SS022

全景 南東から



SS022

左 北溝 南東から
右 南溝 東から



SS022

左 西溝 南西から

右 埋葬施設 北東から



SS023

左 全景 西から

右 北溝 西から



SS023

左 西溝 北から

SS024

右 全景 北から



SS024

左 南溝 北西から

右 埋葬施設 北東から



SS018・SS025・SS026

全景 東から



SS025

左 北溝 東から

右 東溝 北から



SS026

左 北溝 東から

右 東溝 南から



SS026

左 南溝 東から

右 西溝 北から





SS027
全景 南西から



SS027
左 北溝 南東から
右 東溝 南西から



SS027
左 南溝 南東から
右 西溝 北東から



SS027
左 埋葬施設 南西から
SS022・SS028・SS029
右 全景 北東から



SS028

左 北溝 北西から
右 東溝 南西から



SS028

左 南溝 北西から
右 西溝 南西から



SS029

左 北溝 南東から
右 東溝 北東から



SS029

左 南溝 南東から
右 西溝 南西から



SS030
全景 南から



SS030
左 東溝 南から
右 南溝遺物出土状況 西から



SS030
左 西溝 南から
右 西溝遺物出土状況 北から



SS030
左 埋葬施設検出状況 南西から
右 棺痕跡検出状況 南西から



SS031・SS032
 全景 西から



SS031
 左 北溝 東から
 右 東溝 北から



SS031
 左 南溝 東から
 右 西溝 南から



SS032
 左 東溝 南西から
 右 南溝 南から



SS033・SS034

全景 南から



SS033

左 南溝 東から



右 南溝遺物出土状況 北から



SS033

左 西溝 南から



SS034

右 北溝 南西から



SS034

左 東溝 南東から



右 西溝 南東から



SS035・SS036
 全景 西から



SS035
 左 北溝 北西から
 右 東溝 南西から



SS035
 左 南溝 北西から
 右 西溝 南西から



SS036
 左 北溝 北西から
 右 東溝 南西から



SS036

左 南溝 南東から

右 北溝 北東から



SS037・SS038

全景 南東から



SS037

左 北溝 北東から

右 東溝 北から



SS037

左 北溝遺物出土状況 北から

右 東溝遺物出土状況 西から

SS037

左 東溝遺物出土状況
北西から
右 南溝遺物出土状況
北西から



SS037

左 南溝 北東から
右 西溝 南から



SS038

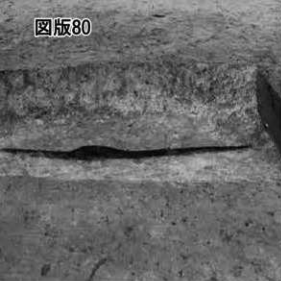
左 北溝 南西から
右 東溝 南から



SS038

左 南溝 東から
右 西溝 北西から





SS038

左 北溝焼土セクション
右 西溝遺物出土状況
東から



SS038

埋葬施設検出状況 北東から

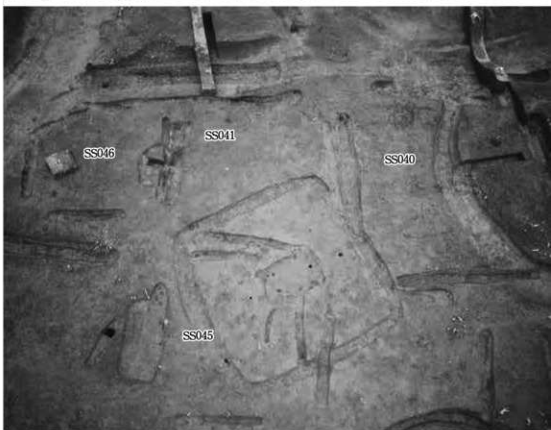


SS038

棺痕跡検出状況 北東から



SS039・SS042
全景 南から



SS040・SS041・SS045・SS046
全景 北西から



SS039
左 東溝 南から
中央 南溝 東から
右 西溝 南から



SS040

左 北溝 北西から
右 東溝 南西から



SS040

左 南溝 南西から
右 西溝 南から



SS041

左 北溝 南東から
右 東溝 南から



SS041

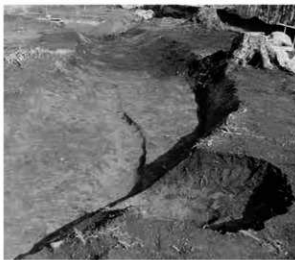
左 南溝 南東から
右 西溝 北東から



SS042

左 北溝 南西から

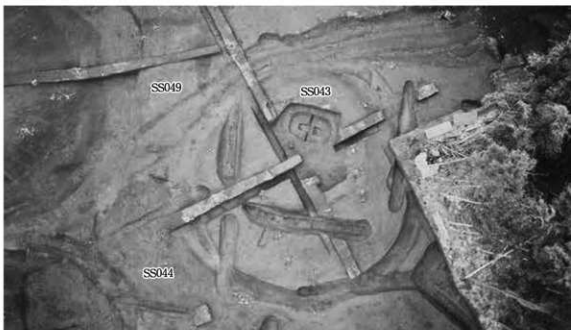
右 東溝 南東から



SS042

左 南溝 南西から

右 西溝 南東から



SS043・SS044・SS049

全景 西から



SS043

左 北溝 南東から

右 東溝 南から





SS043

左 南溝 北西から
右 西溝 南西から



SS043

左 埋葬施設検出状況
北東から
右 棺痕跡検出状況
南西から



SS044

左 北溝 北西から
右 東溝 北東から



SS044

左 南溝 南西から
右 西溝 北東から

SS045

左 北溝 北西から
右 東溝 北東から



SS045

左 南溝 南東から
右 西溝 北東から



SS046

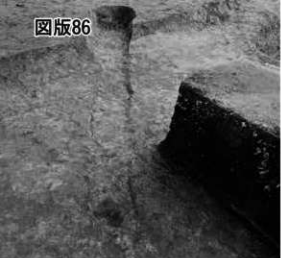
左 北溝 南東から
右 東溝 北東から



SS046

左 南溝 北西から
右 西溝 南西から





SS047

左 東溝 北から
右 南溝 西から



SS048

全景 北西から



SS048

全景 南東から

SS048

左 東溝 南西から

右 東溝セクション 南西から



SS048

左 西溝 南西から

右 西溝セクション 南西から



SS048

左 西溝遺物出土状況 西から

右 埋葬施設検出状況 西から



SS048

左 埋葬施設セクション 西から

右 棺痕跡検出状況 南西から





SS048

左 C-C' 西側墳丘セクション

右 C-C' 東側墳丘セクション



SS049

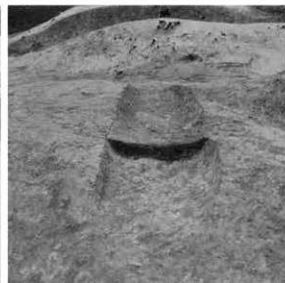
全景 北東から



SS049

左 北溝 西から

右 東溝 南西から



SS049

左 南溝セクション 南西から

右 西溝 北東から



SS050

左 南溝 東から

右 西溝 北から



SS051

全景 南西から



SS051

全景 南西から



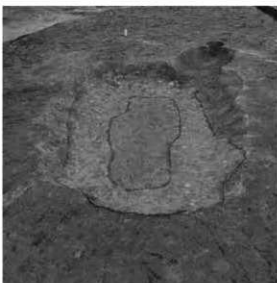
SS051

左 北溝 北西から
右 東溝 南西から



SS051

左 南溝 北西から
右 西溝 南西から



SS051

左 南溝遺物出土状況 北西から
右 埋葬施設検出状況 南西から



SS051

左 第2埋葬施設検出状況
北東から
右 第1埋葬施設棺痕跡掘り方
南西から



SS052
全景 西から



SS052
全景 西から



SS052
左 北溝 東から
右 東溝 南西から





SS052

左 東溝遺物出土状況 南西から
右 東溝遺物出土状況 北から



SS052

左 南溝 西から
右 西溝 南から



SS053

全景 北東から



SS053

全景 北東から

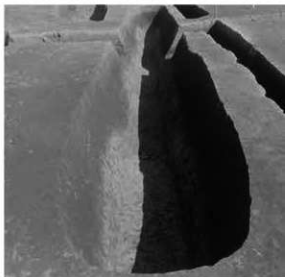
SS053

左 北溝 南東から
右 東溝 南西から



SS053

左 南溝 西から
右 西溝 南から



SS053

左・右 西溝遺物出土状況



SS053

左 埋葬施設検出状況 南西から
右 B-B' 棺痕跡セクション
南西から





SS053

左 棺痕跡検出状況 南西から

右 埋葬施設掘り方 南西から



SS054

全景 西から



SS054

左 北溝 西から

右 東溝 南から



SI002 東から



SI003 南東から



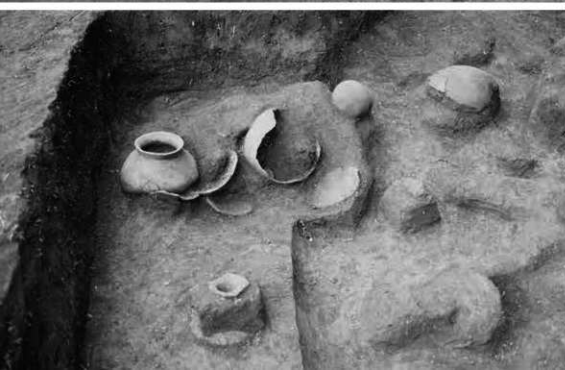
SI003 遺物出土状況 南から



SI003 遺物出土状況 西から



SI004・SI006 南から



SI004 遺物出土状況 北から



SI005 東から



SI007 南東から



SI008 南東から



SI009 南東から



SI009

左・右 遺物出土状況
西から



SI010 南から



SI011 南東から



SI012 東から



SI013 西から



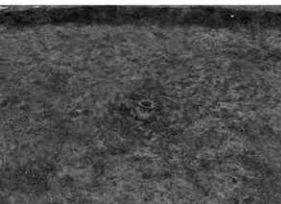
SI014 南西から



SI016 南東から



SI016 遺物出土状況 南東から



SI016
左 炉周辺支脚検出状況
右 炉跡完掘 南から



SI017 南東から



SI017
左 炉掘り方 北から



SI018
右 炉b検出状況 南東から



SI018 南東から



SI018 遺物出土状況 南から



SI019 南から



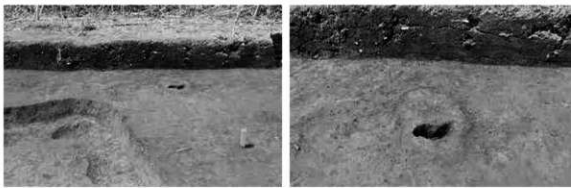
SI020 南西から



SI020 遺物出土状況 南から



SI021 南東から

SI021
左・右 炉検出状況 南から

SI023 西から



SI023 遺物出土状況 南から



左 SK007 南西から
右 SK012・SK013 南から



左 SK015 南西から
右 SK019 南から



左 SK025 南東から
右 SK026 北東から



左 SK038 北から
右 SK039 南西から



左 SK053 北東から
右 SD006 南から



SM001
調査前風景 西から



SM001
周溝検出状況 西から



SM001
全景 西から



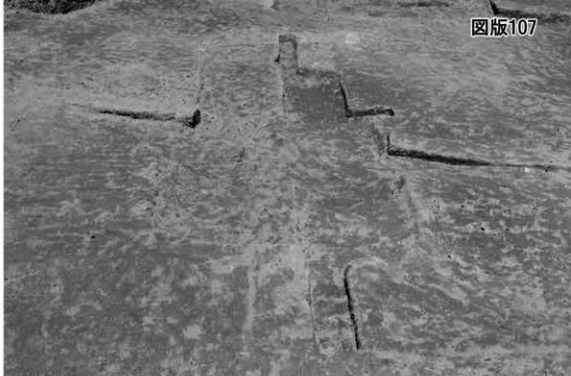
SM001 A-A' 墳丘セクション
南から



SM001 B-B' 墳丘セクション
西から



SM001 A-A' 東側周溝セクション
南から



SM001
第1埋葬施設 南から



SM001
第2埋葬施設棺痕跡 東から



SM001
第2埋葬施設掘り方 西から



SM001
第3・第4埋葬施設 西から



SM001
第5埋葬施設 南西から



SM001
墳丘盛土下筋溝痕完掘 東から

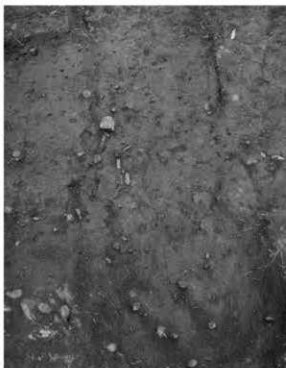


SM001

左 遺物出土状況 南から

右 第3埋葬施設

玉類出土状況 西から



SM001

左 第4埋葬施設

玉類出土状況 西から

右 第4埋葬施設

鉄鏝出土状況 西から



SM001

左 第4埋葬施設

鉄鏝出土状況 東から

右 第4埋葬施設

鉄刀出土状況 西から



SM003
調査前近景 西から



SM003
二重周溝近景 南西から



SM003
全景 東から



SM003
A-A' 墳丘セクション
南から



SM003
B-B' 内周溝セクション
南東から



SM003
C-C' 内周溝セクション
南西から



SM003
第1埋葬施設 南東から



SM003
第1埋葬施設
鉄製品出土状況 南東から



SM003
第1埋葬施設完掘 南東から



SM003
第2埋葬施設棺痕跡 南東から



SM003
第2埋葬施設掘り方 南東から



SM003
第3埋葬施設棺痕跡 東から



SM004
全景 南西から



SM004
墳丘近景 南西から



SM004
周溝近景 南西から



SM004
A-A' 南側周溝セクション
南西から



SM004
A-A' 南側墳丘セクション
南西から



SM004
A-A' 北側墳丘セクション
南西から



SM004
第1・第2埋葬施設 西から



SM004
第1埋葬施設西端
白灰色粘土セクション 南から



SM004
第1・第2埋葬施設掘り方
西から

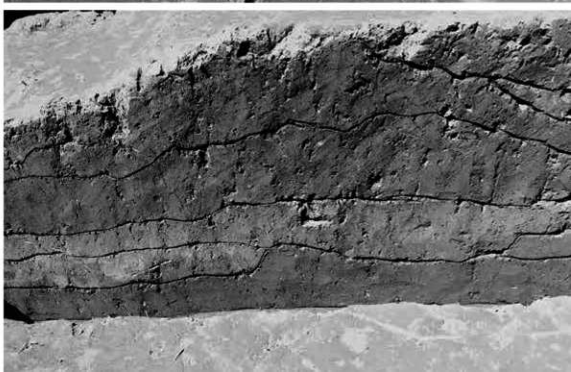
SM004
第1埋葬施設
遺物出土状況 西から



SM004
第1埋葬施設
玉類出土状況 南から



SM004
B-B' 墳丘下
SS038盛土部分セクション 南から





SM005
周溝検出状況 南から



SM005
B-B' 周溝セクション 南西から



SM005
C-C' 周溝セクション 西から



SM006

発掘前風景 西から



SM006

全景 北西から



SM006

左 第1埋葬施設 東から

右 第2埋葬施設

白灰色粘土セクション 北から





SM006
空撮 南西から



SM006
A-A' 周溝セクション 南西から



SM006
A-A' 墳丘セクション 南西から



SM006
B-B' 周溝セクション 南東から



SM006
B-B' 墳丘セクション 南東から



SM006
第3埋葬施設 西から



SM007
全景 北西から



SM007
B-B' 墳丘セクション 南から



SM007
B-B' 墳丘セクション 南から

SM007
旧表土のローム充填溝 南から



SM007
周溝 北から



SM007
周溝セクション 南西から





SM007
第1埋葬施設棺痕跡 北西から



SM007
左 第1埋葬施設
鉄鏃出土状況 南西から
右 第1埋葬施設
白灰色粘土出土状況 北東から



SM007
第1埋葬施設掘り方
白灰色粘土出土状況 北西から



SM007
第2埋葬施設
棺痕跡 北西から



SM007
第2埋葬施設
鉄製品・玉類出土状況 北西から



SM007
第2埋葬施設
鉄製品・玉類出土状況 北東から



SM009
全景 北から



SM009
左 埋葬施設痕跡 南東から
右 A-A' 墳丘セクション
南西から



SM009
B-B' 周溝セクション 南東から



SM010
調査前風景 北から



SM010
全景 北から



SM010
空撮 西から



SM010

テラス状遺構 南西から



SM010

A-A' 墳丘セクション 西から



SM010

A-A' 周溝セクション 西から



SM010
第1埋葬施設 西から



SM010
第2埋葬施設 西から



SM010
第2埋葬施設
直刀出土状況 南西から



SM010

第2埋葬施設

鉄器出土状況 南西から



SM010

第2埋葬施設

白灰色粘土検出状況 西から



SM010

第2埋葬施設

掘り方 西から



SM011
調査前風景 北西から



SM011
空撮 北から



SM011
全景 北から



SM011

A-A' 墳丘セクション 西から



SM011

B-B' 墳丘掘へSS043西溝セクション
北から

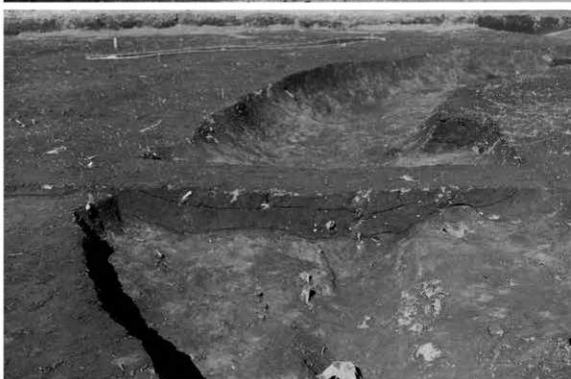


SM011

左 埋葬施設検出状況 北東から
右 遺物出土状況 西から



SM012
全景 南から



SM012
A-A' 西側周溝セクション 南から



SM012
遺物出土状況 西から



SM013
全景 南東から



SM013
左 周溝北東側 南東から
右 周溝北東側遺物出土状況
北東から



SM014
左 全景 南から
右 遺物出土状況 東から



SM015
全景 南から



SM015
埋葬施設・羨道 南から



SM015
埋葬施設 東から



SM015
粘土壁全景 南から



SM015
遺物出土状況 北から



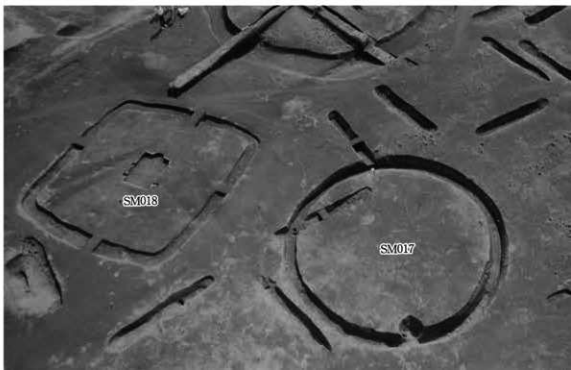
SM015
掘り方全景 南から



SM016
 全景 西から



SM016
 左 B-B' 西側周溝 南から
 右 B-B' 東側周溝 南から



SM017・SM018 全景 北から



SM017
周溝 南から



SM017
左 遺物出土状況 南東から
右 遺物出土状況 南から



SM018
埋葬施設検出状況 北から



SM018
埋葬施設 北から



SM018
左 遺物出土状況 北から
右 埋葬施設粘土壁部分 南から



SM018
粘土壁検出状況 東から



SM018
埋葬施設 南から



SM018
左 埋葬施設南壁 南から
右 煙出し状の溝 南東から



SM018
埋葬施設掘り方 南から

SM019

左 全景 西から

SM020

右 全景 北から



SM021

左 全景 西から

右 A-A' 周溝セクション

西から



SM021

左 埋葬施設

白灰色粘土出土状況

西から

SM022

右 全景 西から



SM022

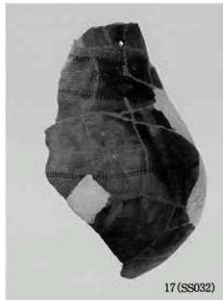
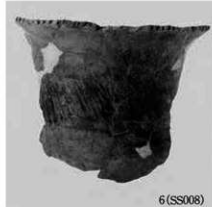
左 C-C' 周溝セクション

東から

SM023

右 全景 東から

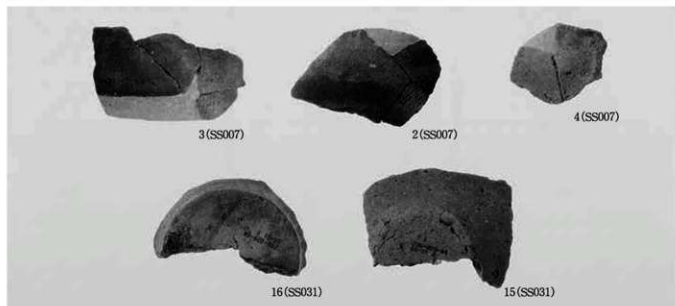




方形周溝墓出土土器 (1)



方形周溝墓出土土器 (2)



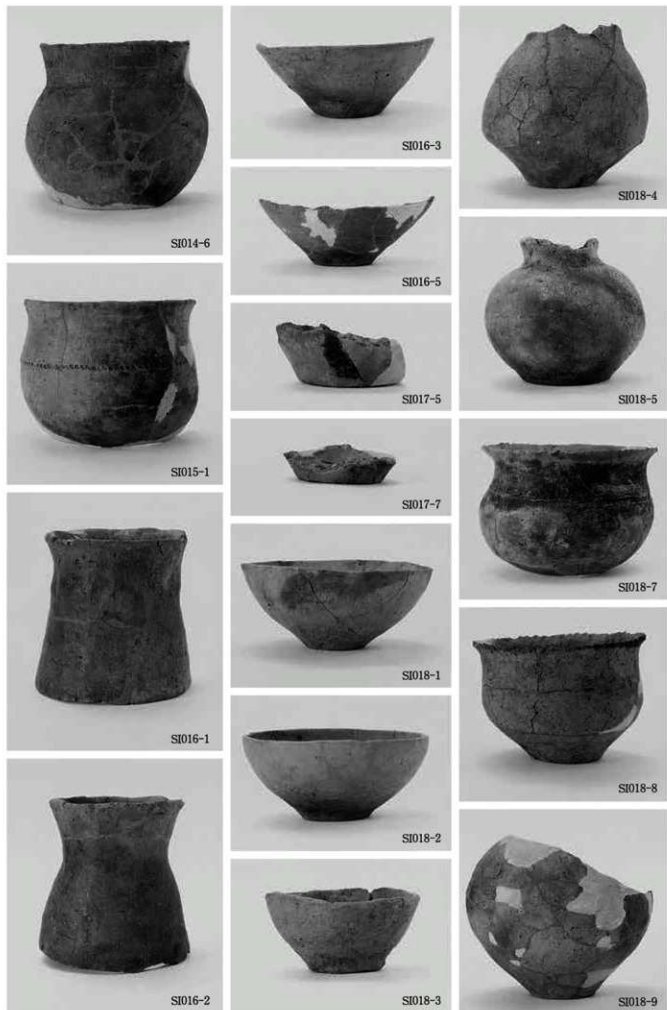
方形周溝墓出土土器 (3) · 弥生時代～古墳時代整穴住居跡出土土器 (1)



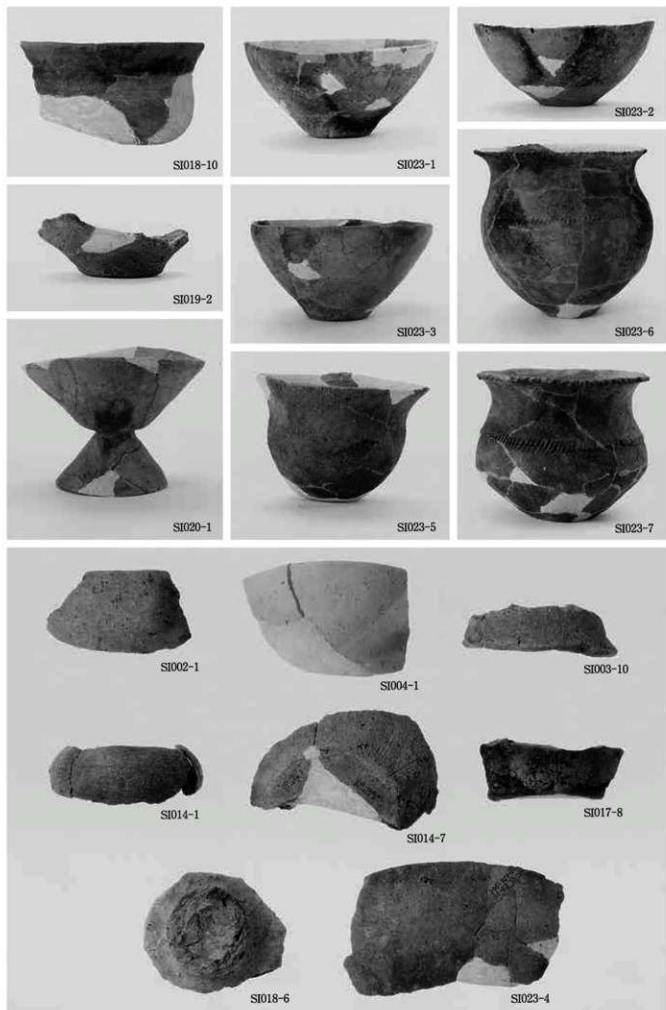
弥生時代～古墳時代竪穴住居跡出土土器 (2)



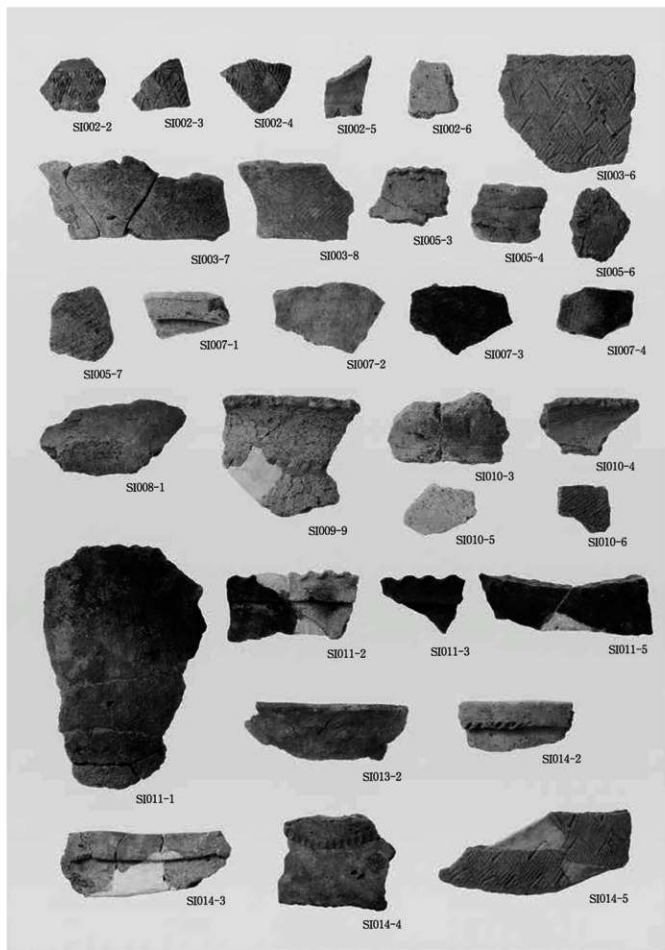
弥生時代～古墳時代竪穴住居跡出土土器 (3)

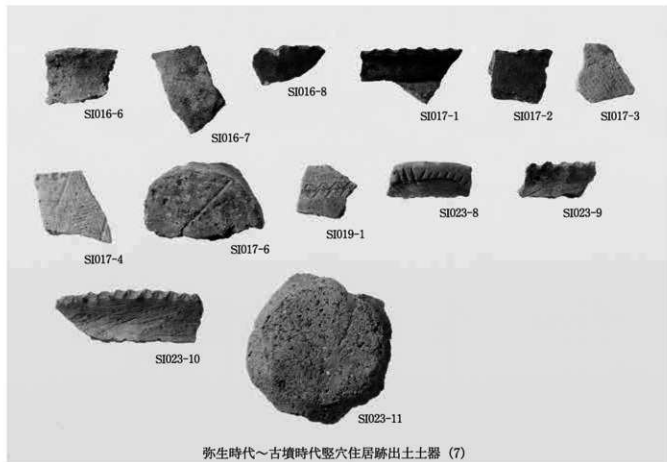


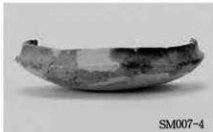
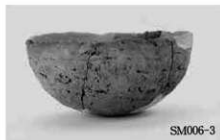
弥生時代～古墳時代竪穴住居跡出土土器 (4)



弥生時代～古墳時代竪穴住居跡出土土器 (5)

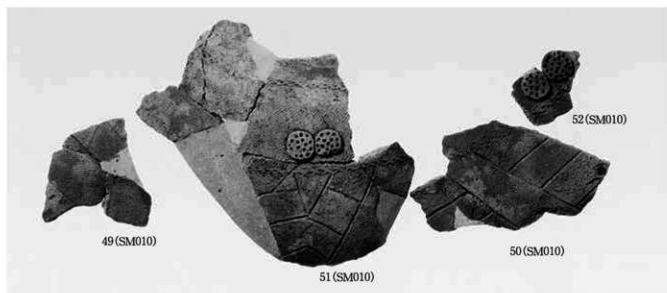




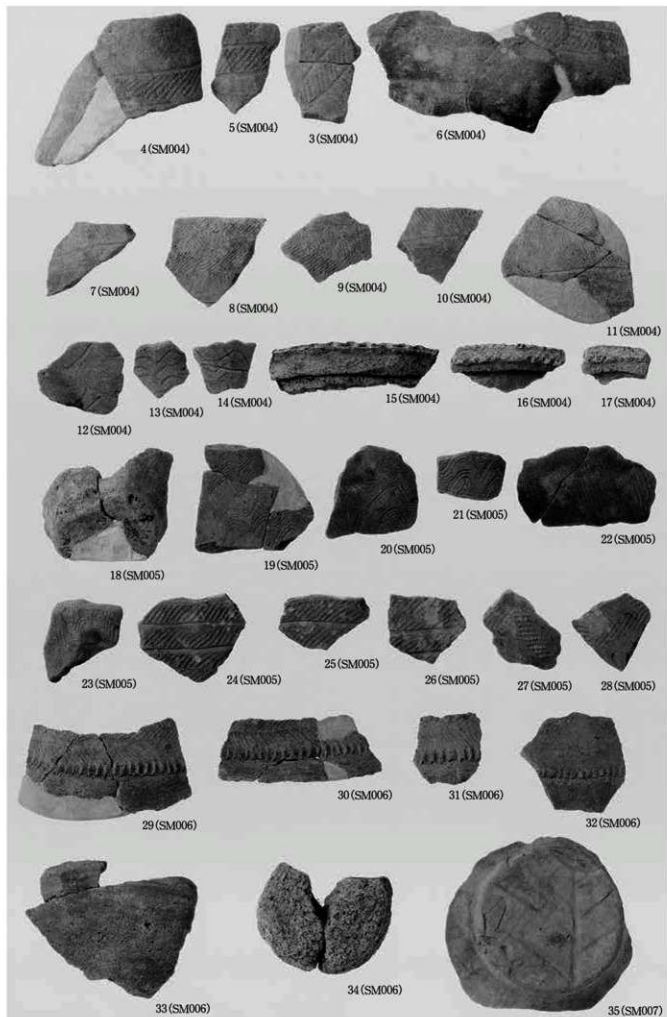




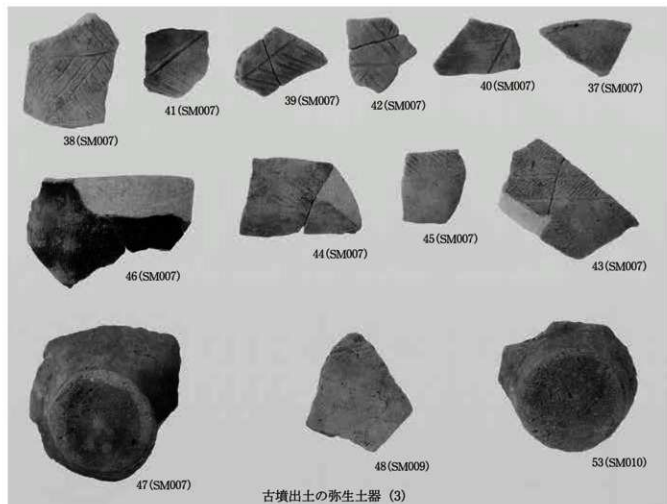
古墳出土土器 (3)



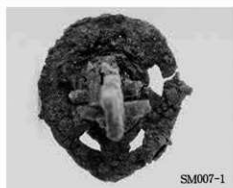
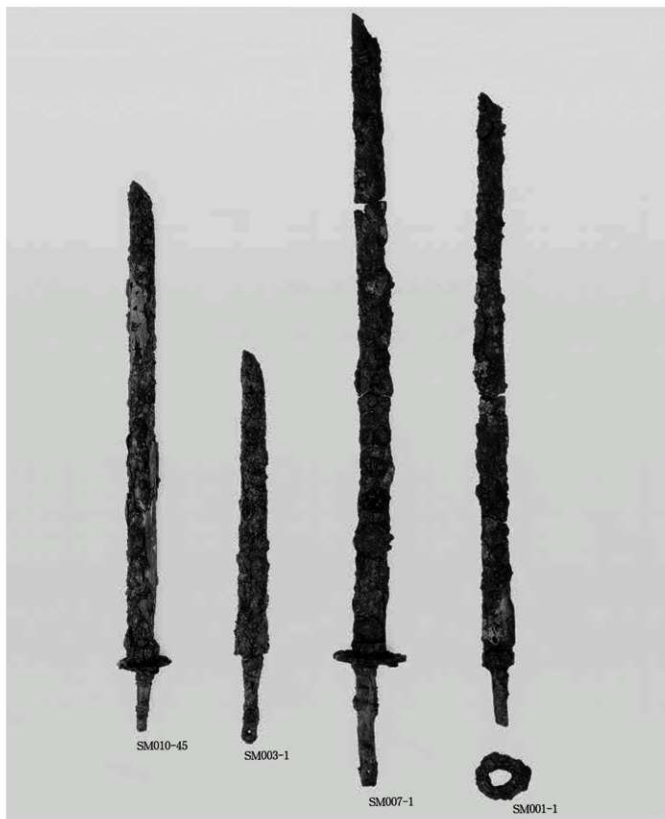
古墳出土の弥生土器 (1)



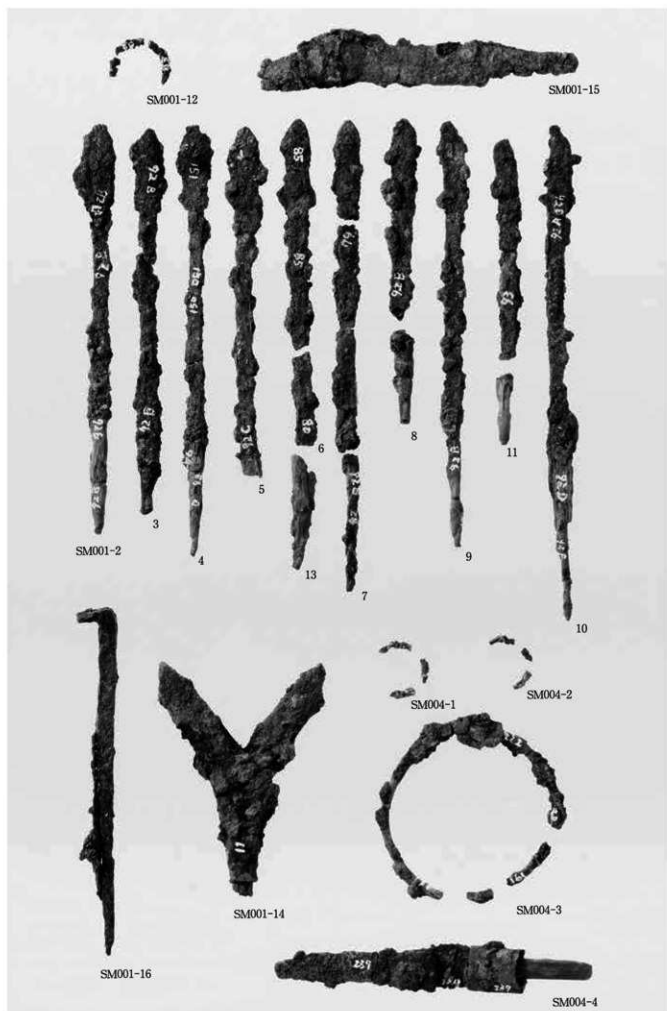
古墳出土の弥生土器 (2)



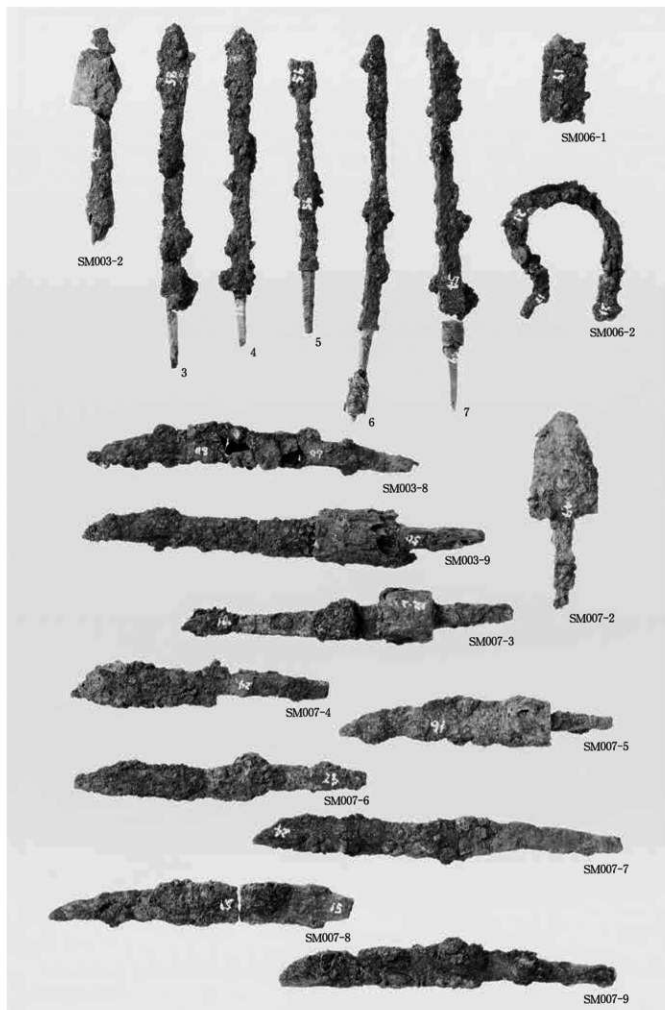
グリッド等出土土器・砥石



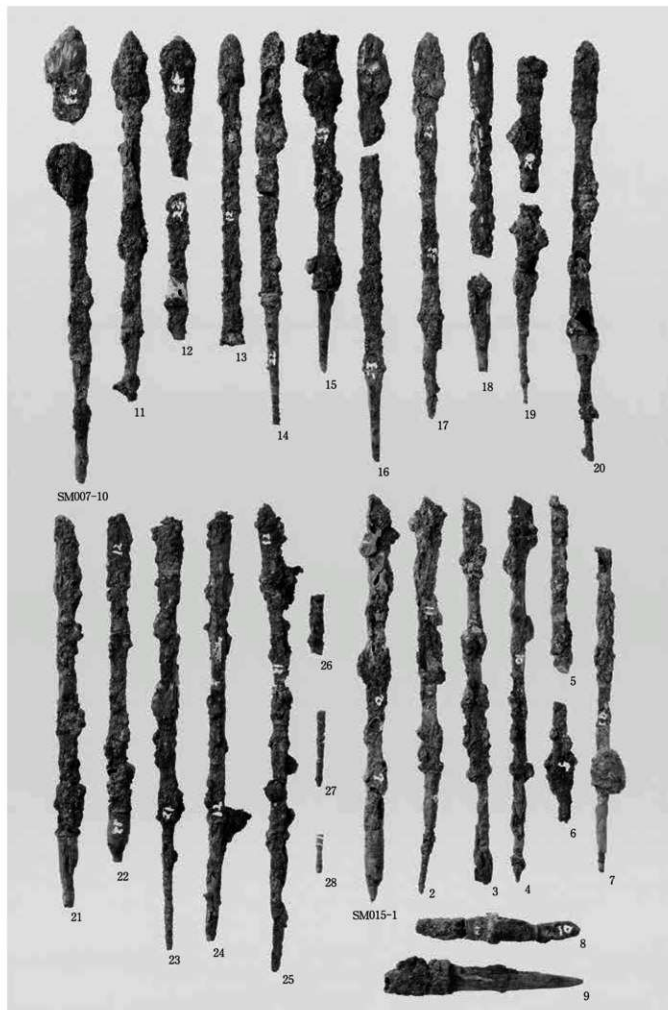
古墳出土金属製品 (1)



古墳出土金属製品 (2)

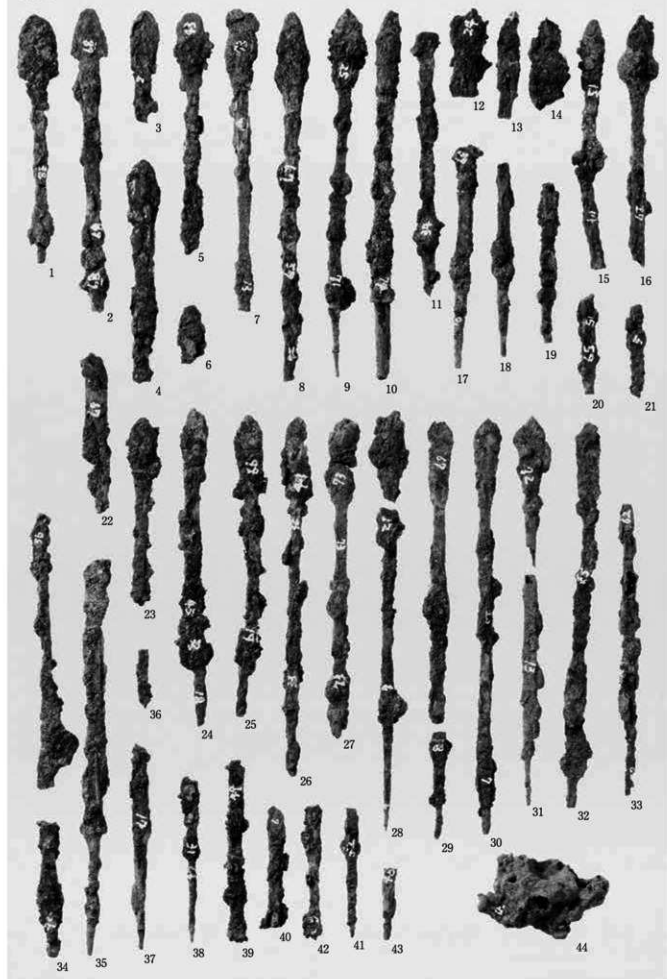


古墳出土金属製品 (3)

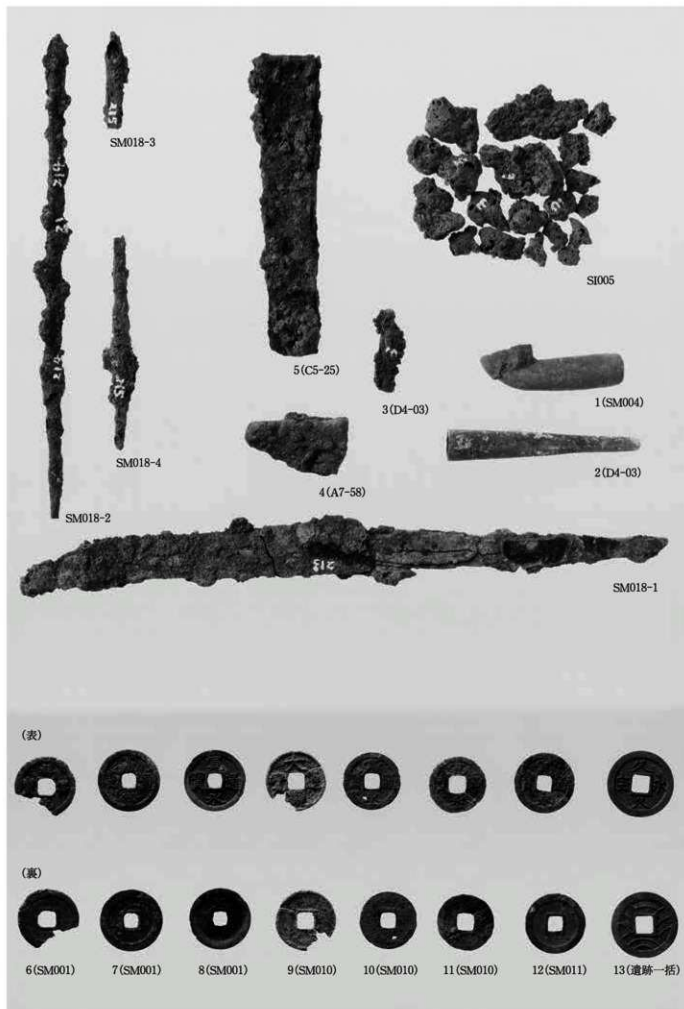


古墳出土金属製品 (4)

SM010



古墳出土金属製品 (5)



古墳出土及びグリッド等出土金属製品



調査前 東から



調査前 北東から



左 SE001 北から
右 SE002 南東から





調査区 南西から



左 遺物出土状況 北東から
右 遺物出土状況 東から



遺物出土状況 南から

左 土師器杯出土状況 東から
右 内耳鍋出土状況 北から

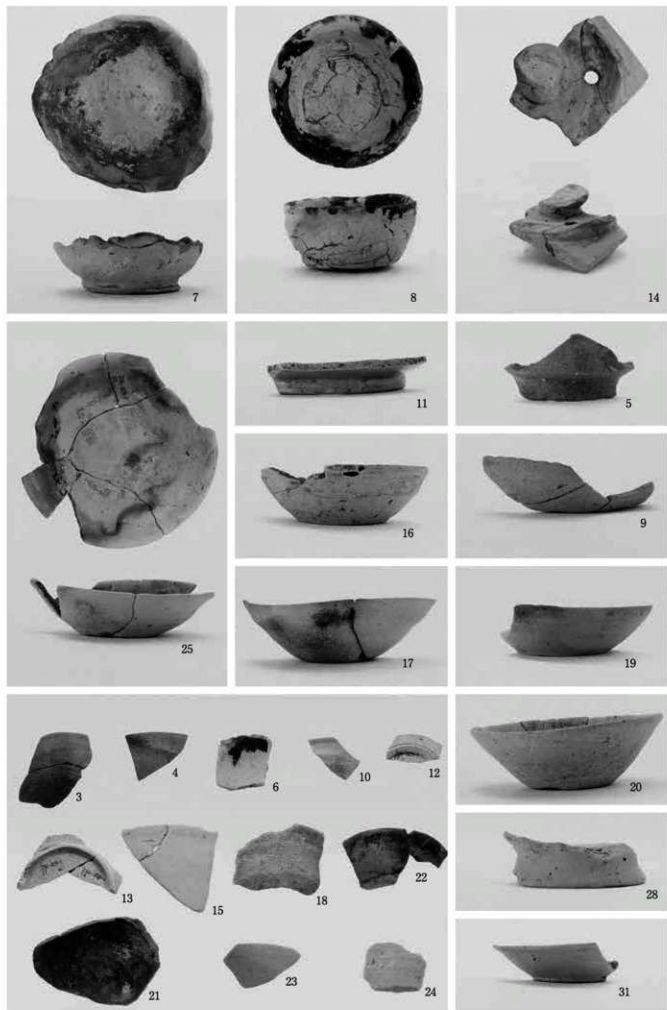


左 カワラケ出土状況 東から
右 仏花瓶出土状況 東から

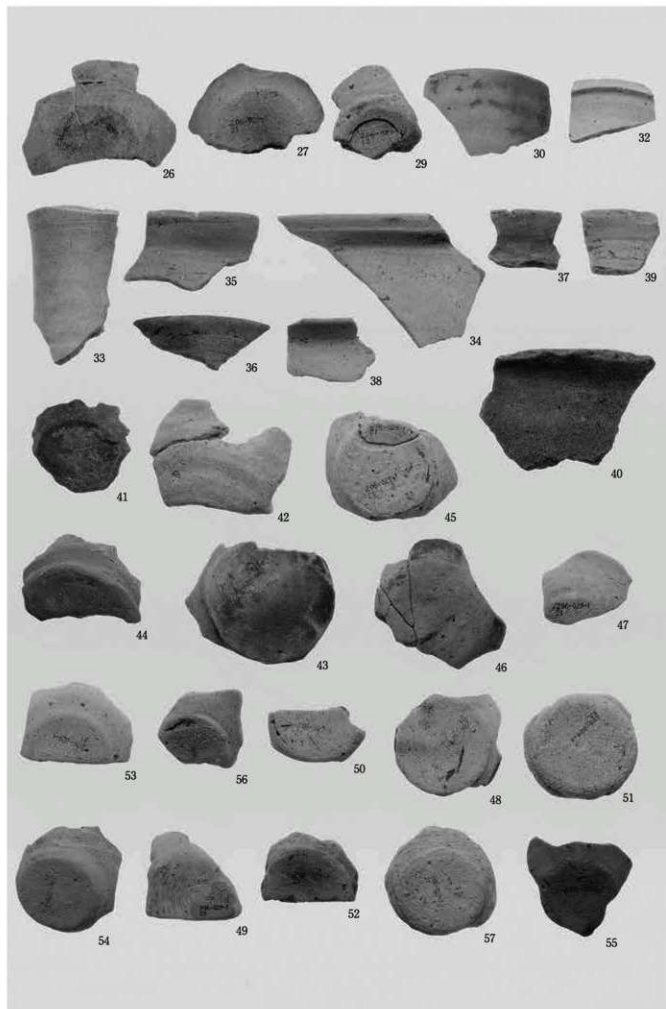


五輪塔（空・風輪）
出土状況 南から

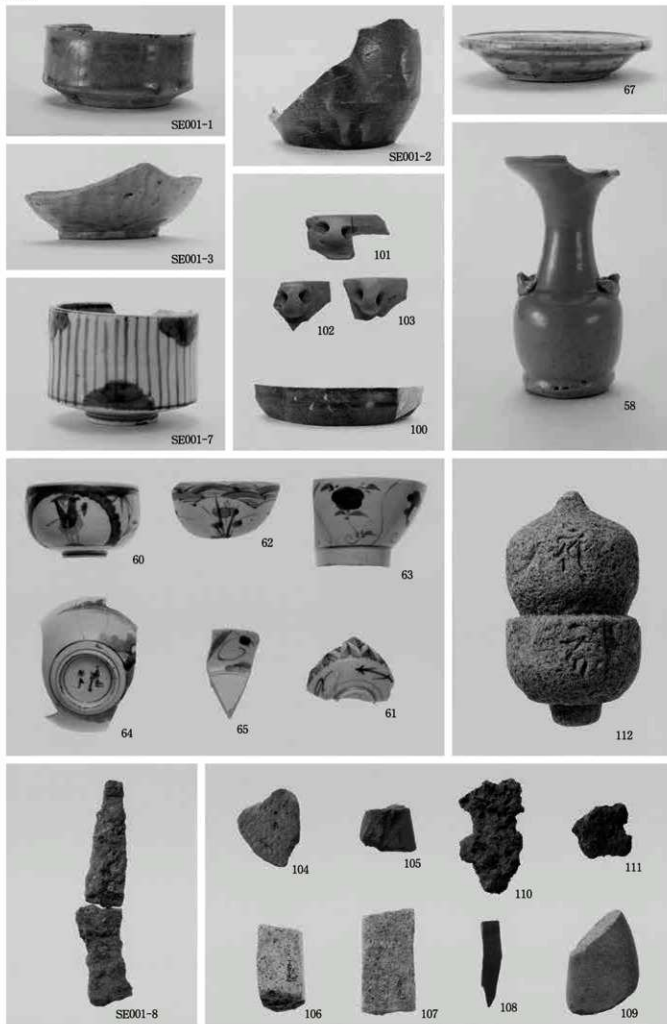


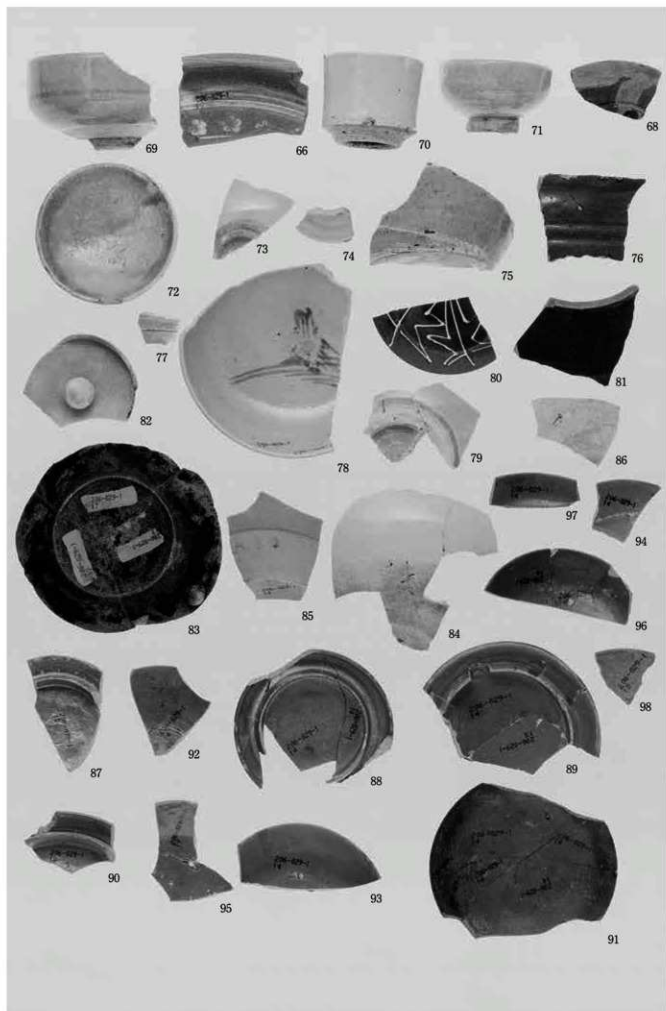


出土遺物 (1)



出土遺物 (2)





出土遺物 (4)

千葉県教育振興財団調査報告第655集

首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書12

一木更津市根岸古墳群・根岸小妻遺跡、重三台遺跡一

(写真図版編)

平成23年3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所 千葉県稲毛区天台5丁目27番1号 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	三陽工業株式会社 市原市五井5510番地1
